上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

牛頸本堂遺跡群Ⅵ

～ 第１・９・12・16・17次調査 ～

大野城市文化財調査報告書　第80集

２００８

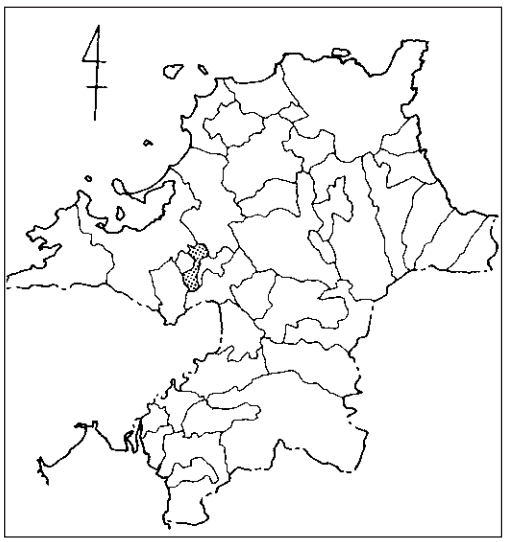
大野城市教育委員会

上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

牛頸本堂遺跡群Ⅵ

～ 第１・９・12・16・17次調査 ～

大野城市文化財調査報告書　第80集



２００８

大野城市教育委員会

1次調査谷部出土墨書土器「識」

12次調査SD01出土朱付着須恵器

序

今回報告する牛頸本堂遺跡第１・９・12・16・17次調査は、大野城市大字上大利に位置し、南ヶ丘から下大利にむかうバス通りに面しています。現在、調査地周辺は店舗や住宅・医院などが建ち並ぶ街の中ですが、元々ここは牛頸山から北へのびる丘陵部にあたります。この丘陵裾の緩やかな斜面からは、たくさんの遺構が見つかりました。中でも注目されるのは、９・12・17次調査で発見された大型建物群で、建物の構造や近接する調査地の出土遺物からここに寺があったと考えられます。上大利地区は九州最大の須恵器窯跡群である牛頸窯跡群が操業を開始した場所にあたりますが、ここで須恵器窯や製作工房以外に寺が確認された事は全く新しい発見であり、窯跡群の性格を考える上で新たな材料を得ることができました。今後さらに調査を進める事で、牛頸窯跡群の今まで知られていなかった実態を明らかにしていき、その成果を研究者だけではなく広く市民に知らせる事で地域の歴史の素晴らしさを再確認し、地域愛護につないでいきたいと思います。

土地には時代を問わずそこで起こった様々な出来事が遺跡・遺構・遺物といった形で記録されています。大野城市では、この残された埋蔵文化財に関して、慎重に発掘調査を進め、人々の生活を記録し保存しています。本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり広く活用され、文化財愛護の精神が高揚することを心より願うとともに、今後とも文化財行政に対しまして、尚一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、上大利北土地区画整理組合をはじめ㈱大成建設、工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成20年８月29日

大野城市教育委員会

教育長　古賀　宮太

例　言

1．本書は、大野城市教育委員会が上大利北土地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の本堂遺跡第１・９・12・16・17次発掘調査の報告書である。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸本堂遺跡群』とした。

2．発掘調査は、大野城市上大利北土地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。

3．各次調査の担当者は、それぞれの調査概要に記した。

4．遺構写真は、石木秀啓・林潤也・平島義孝（現㈱埋蔵文化財サポートシステム）・北川貴洋・久住愛子（旧姓井上）が撮影した。

5．遺物写真は、㈲文化財写真工房（岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員）が撮影した。

6．遺構平面実測図は、１次調査を除き全体図を㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託し、１次調査遺構平面実測図、その他の調査の個別実測図・地形測量図は石木・林・平島・北川・久住が作成した。また上大利地区旧地形図は、㈱写測エンジニアリングに委託した。なお、地形測量図のコンターは25cm間隔である。

7．遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標（第Ⅱ系）を示す。

8．遺物実測図は、久住・西堂将夫・一瀬智・北川貴洋・城門義廣・井上理香が作成した。

9．製図は、渡部美香が作成した。また、１・12次調査出土遺物はＮＰＯ法人文化財活用支援センター、16・17次調査出土遺物は㈱埋蔵文化財サポートシステムに製図を委託した。

10．拓本は、井上・西堂・一瀬・北川・城門・井上が作成した。

11．観察表は、1・12次調査はＮＰＯ法人文化財活用支援センター、16・17次調査は㈱埋蔵文化財サポートシステム、９次調査は上田龍児がそれぞれ作成し、遠藤茜が編集した。

12．本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1／25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用したものである。

13．遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。

14．本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。

15．本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。

16．本書の執筆は、文末に担当者名を記し、編集は石木がおこなった。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに
　１．平成16年度の調査経過‥ ……１～７
　２．調査体制 ……７・８
Ⅱ．調査の結果
　１．第１次調査
　　Ａ．調査概要 ……９～13
　　Ｂ．遺構と遺物 ……13～71
　　Ｃ．小結 ……71～78
　２．第９次調査
　　Ａ．調査概要 ……79
　　Ｂ．遺構と遺物 ……79～99
　　Ｃ．小結……99・100
　３．第12次調査
　　Ａ．調査概要 ……101
　　Ｂ．遺構と遺物 ……105～164
　　Ｃ．小結 ……164・165
　４．第16次調査
　　Ａ．調査概要 ……166
　　Ｂ．遺構と遺物 ……166～172
　　Ｃ．小結 ……172・173
　５．第17次調査
　　Ａ．調査概要 ……174
　　Ｂ．遺構と遺物 ……175～233
　　Ｃ．小結 ……233～235
Ⅲ．まとめ
　１．はじめに……299
　２．遺構の変遷……299～302
　３．17次調査地出土須恵器について ……302・303
　４．大型建物の性格について……303・304

図　版　目　次

図版１　（１）１次調査地調査前全景（北から）
（２）１次調査地北側調査区第１面全景（北西から）
図版２　（１）１次ＳＸ01全景（北から）
（２）１次ＳＸ03全景（南東から）
（３）１次ＳＸ03土層（東から）
図版３　（１）１次調査地北側調査区第２面全景（北西から）
（２）１次ＳＢ01全景（北から）
図版４　（１）１次ＳＢ04全景（北東から）
（２）１次ＳＣ01全景（東から）
図版５　（１）１次ＳＣ02全景（西から）
（２）１次ＳＣ02遺物出土状況（西から）
図版６　（１）１次ＳＣ02カマド全景（北から）
（２）１次ＳＣ02カマド縦断面土層（北から）
（３）１次ＳＣ02土層（北西から）
図版７　（１）１次ＳＣ03全景（東から）
（２）１次ＳＸ02全景（南東から）
図版８　（１）１次ＳＸ02粘土検出状況（北東から）
（２）１次ＳＸ02土層（南から）
（３）１次ＳＸ02粘土断ち割り状況（南東から）
図版９　（１）１次ＳＸ23全景（北から）
（２）１次ＳＰ292全景（北東から）
（３）１次ＳＰ359全景（北東から）
図版10　（１）１次調査地南側調査区全景（北から）
（２）１次ＳＣ04全景（北東から）
図版11　（１）１次ＳＣ05全景（西から）
（２）１次ＳＣ05床面粘土出土状況（北東から）
図版12　（１）１次ＳＣ05カマド縦断面土層（北西から）
（２）１次ＳＣ05土層および粘土検出状況（南東から）
（３）１次ＳＣ05貼床下土層（北西から）
図版13　（１）１次ＳＤ13全景（西から）
（２）１次ＳＤ13土層（東から）
図版14　（１）１次ＳＸ35全景（北から）
（２）１次ＳＸ35遺物出土状況（東から）
図版15　（１）１次ＳＰ438粘土出土状況（北から）

（2）１次ＳＰ438遺物出土状況（北から）

図版16　１次谷部杭列検出状況（南東から）

図版17　（1）１次谷部杭列検出状況（北東から）

（2）１次谷部内杭列検出状況（東から）

（3）１次谷部完堀状況（東から）

図版18　（1）１次谷部土層（南東から）

（2）１次谷部東側杭列（東から）

（3）１次谷部西側杭列遺物出土状況①（西から）

（4）同左②（西から）

（5）１次谷部土層サンプル採取状況（南東から）

（6）１次谷部柱状サンプル採取位置（北東から）

（7）１次北側調査区東側壁面土層（西から）

（8）１次南側調査区東壁面南側土層（西から）

図版19　（1）９次調査地遠景（北西から）

（2）９次調査地第１面全景（西から）

図版20　（1）９次ＳＸ01粘土検出状況（西から）

（2）９次ＳＸ01土層（東から）

図版21　（1）９次ＳＤ01全景（北西から）

（2）９次ＳＤ01Ａ－Ａ'間土層（北西から）

（3）９次ＳＤ01Ｄ－Ｄ'間ベルト（北西から）

図版22　（1）９次調査地第２面全景（西から）

（2）９次ＳＢ01全景（北西から）

図版23　（1）９次ＳＢ01東側柱列全景（北西から）

（2）９次ＳＢ01（ＳＰ95）円盤状土製品出土状況（南から）

図版24　（1）９次ＳＢ01（ＳＰ57）土層（東から）

（2）９次ＳＢ01（ＳＰ59）土層（北から）

（3）９次ＳＢ01（ＳＰ98）土層（北から）

図版25　（1）９次ＳＢ02全景（西から）

（2）９次ＳＣ01全景（北から）

図版26　（1）９次ＳＣ01石庖丁出土状況（南東から）

（2）９次調査区北側壁面土層①（南から）

（3）９次調査区北側壁面土層②（北西から）

図版27　（1）12次調査地遠景

（2）12次調査地１区第１面全景（北西から）

図版28　（1）12次ＳＸ01全景（南から）

（2）12次ＳＸ03全景（北西から）

図版29　（1）12次ＳＸ04・05全景（西から）
（2）12次ＳＸ06全景（北から）
図版30　（1）12次ＳＸ07全景（北から）
（2）12次ＳＸ08全景（西から）
図版31　（1）12次調査地１区第２面全景（北西から）
（2）12次調査地２区第２面全景（西から）
図版32　（1）12次ＳＢ04全景（西から）
（2）12次ＳＤ01－４・５間土層（南から）
（3）12次ＳＤ01－５・６間土層（北から）
（4）12次ＳＰ63土層（東から）
（5）12次ＳＰ65土層（東から）
図版33　（1）12次ＳＰ169土層（東から）
（2）12次ＳＰ70土層（東から）
（3）12次ＳＰ161土層（東から）
（4）12次ＳＰ172土層（南から）
（5）12次ＳＤ02全景（東から）
図版34　（1）12次ＳＤ03全景（北西から）
（2）12次ＳＤ03－１・２間土層（北から）
（3）12次ＳＤ03－２・３間土層（北から）
（4）12次ＳＤ03－３・４間土層（北から）
（5）12次ＳＤ03－４・５間土層（北から）
図版35　（1）12次ＳＸ09全景（北から）
（2）12次ＳＸ10全景（西から）
図版36　（1）12次ＳＸ12全景（西から）
（2）12次ＳＸ13全景（西から）
図版37　（1）12次ＳＰ154粘土出土状況（東から）
（2）12次ＳＤ02周辺遺物検出状況（東から）
（3）12次ＳＤ03南側遺物検出状況（東から）
図版38　（1）12次ＳＤ03南側包含層土層（南から）
（2）12次１区第２面包含層Ⅰ・Ⅱ間土層（北から）
（3）12次１区第２面包含層Ⅱ・Ⅲ間土層（北から）
（4）12次調査区東壁土層（北）（西から）
（5）12次調査区東壁土層（中）（西から）
（6）12次調査区東壁土層（南）（西から）
図版39　（1）16次調査地全景（南から）
（2）16次ＳＤ02・03全景（北東から）

図版40　（1）16次ＳＤ02Ａ－Ａ'面土層（南から）
（2）16次ＳＤ02Ｂ－Ｂ'面土層（南から）
（3）16次ＳＤ02Ｃ－Ｃ'面土層（南東から）
図版41　（1）16次ＳＤ03Ｇ－Ｇ'面土層（南西から）
（2）16次ＳＤ03Ｆ－Ｆ'面土層（北東から）
（3）16次ＳＤ02Ｄ－Ｄ'面土層①（西から）
（4）16次ＳＤ02Ｄ－Ｄ'面土層②（西から）
（5）16次ＳＤ02Ｅ－Ｅ'面土層①（西から）
（6）16次ＳＤ02Ｅ－Ｅ'面土層②（西から）
図版42　（1）16次ＳＸ04全景（南東から）
（2）16次ＳＸ04土層（南から）
図版43　（1）17次調査地全景（北西から）
（2）17次調査地第１面全景（真上から）
図版44　（1）17次ＳＢ01～06全景（真上から）
（2）17次ＳＢ01（ＳＰ121）土層（南から）
（3）17次ＳＢ01（ＳＰ143）土層（南から）
図版45　（1）17次ＳＢ02全景（真上から）
（2）17次ＳＢ02（ＳＰ187）土層（北から）
図版46　17次ＳＢ04全景（真上から）
図版47　（1）17次ＳＢ04全景（西から）
（2）17次ＳＢ04（ＳＰ104）土層（南東から）
（3）17次ＳＢ04（ＳＰ89）土層（北東から）
（4）17次ＳＢ04（ＳＰ123）土層（南東から）
（5）17次ＳＢ04（ＳＰ124）土層（南東から）
図版48　（1）17次ＳＤ01－10・11間土層（東から）
（2）17次ＳＤ02・04土層（北から）
（3）17次ＳＤ03－６・７間土層（西から）
図版49　（1）17次ＳＤ06土層（北から）
（2）17次ＳＤ06北半部（北から）
図版50　（1）17次ＳＰ200全景（北から）
（2）17次ＳＰ200遺物出土状況（南から）
図版51　（1）17次ＳＰ230全景（北から）
（2）17次ＳＰ230土層（北から）
図版52　（1）17次ＳＸ02全景（西から）
（2）17次ＳＸ02土層（南から）
図版53　（1）17次ＳＰ32全景（北から）

（2）17次ＳＰ32土層（南から）

図版54　（1）17次ＳＸ01全景（北から）

（2）17次ＳＸ01遺物出土状況（北から）

（3）17次ＳＸ01カマド状遺構土層E－E'面（東から）

（4）17次ＳＸ01土層（東から）

図版55　（1）17次ＳＸ03全景（北から）

（2）17次ＳＸ03土層（南から）

図版56　（1）17次ＳＸ04全景（南西から）

（2）17次ＳＸ04ａ－ａ'面土層（南から）

（3）17次ＳＸ04ｂ－ｂ'面土層（南から）

図版57　（1）17次調査地第２面全景（真上より）

（2）17次調査整地層土層（南から）

図版58　（1）17次ＳＸ05全景（南西から）

（2）17次ＳＸ05土層（南から）

図版59～71　１次調査出土遺物①～⑬

図版72～74　１次調査出土遺物ヘラ記号①～③

図版75～76　９次調査出土遺物①～②

図版77　９次調査出土遺物③・12次調査出土遺物①

図版78～92　12次調査出土遺物②～⑯

図版93　12次調査出土遺物⑰・12次調査出土遺物ヘラ記号①

図版94　12次調査出土遺物ヘラ記号②・16次調査出土遺物①

図版95　16次調査出土遺物②・17次調査出土遺物①

図版96～104　17次調査出土遺物②～⑩

図版105　17次調査出土遺物⑪・17次調査出土遺物ヘラ記号①

図版106　17次調査出土遺物ヘラ記号②

図版107　17次調査出土遺物ヘラ記号③

現在の12・17次調査地（北東から）

図版108　区画整理後の本堂遺跡12・17次調査地周辺（北東から）

挿　図　目　次

第１図　平成16年度上大利北土地区画整理地内調査地
　　および本堂遺跡１・９・12・16・17次調査地位置図（１／5,000）……2
第２図　上大利土地区画整理地周辺地形測量図（1948年米軍撮影）（１／5,000）……3
第３図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図……4
第４図　周辺遺跡分布図（１／50,000）……５～６
第５図　１次北側調査区壁面土層実測図（１／100）……10
第６図　１次調査地全体図（１／300）（赤は第１面遺構、黒は第２面遺構）……11～12
第７図　１次南側調査区壁面土層実測図（１／100）……13
第８図　１次ＳＢ02実測図（１／60）……15
第９図　１次ＳＢ03実測図（１／60）……16
第10図　１次ＳＸ01・03実測図（1／40）……17
第11図　１次ＳＸ13～16実測図（１／40）……18
第12図　１次ＳＢ02・ＳＸ01・03・13～16出土遺物実測図（20は１／２、他は１／３）……19
第13図　１次ＳＢ01実測図（１／60）……20
第14図　１次ＳＢ01・04・05出土遺物実測図（１／３）……20
第15図　１次ＳＢ04実測図（１／60）……21
第16図　１次ＳＢ05実測図（１／60）……22
第17図　１次ＳＣ01～03実測図（１／60）……23
第18図　１次ＳＣ01出土遺物実測図（１／３）……24
第19図　１次ＳＣ02出土遺物実測図（１／３）……25
第20図　１次ＳＣ03出土遺物実測図（１／３）……26
第21図　１次ＳＤ01・02出土遺物実測図（１／３）……27
第22図　１次ＳＤ06出土遺物実測図（１／３）……28
第23図　１次ＳＤ09・13実測図（土層は１／40、平面図は１／100）……28
第24図　１次ＳＸ02実測図（１／40）……29
第25図　１次ＳＸ02出土遺物実測図（１／３）……29
第26図　１次ＳＸ23・24実測図（１／40）……30
第27図　１次ＳＸ24出土遺物実測図（１／３）……32
第28図　１次ＳＰ292・359実測図（１／20）……33
第29図　１次ＳＰ292・359出土遺物実測図（１／３）……33
第30図　１次ＳＢ06実測図（１／60）……34
第31図　１次ＳＢ07実測図（１／60）……34
第32図　１次ＳＣ04実測図（１／60）……35
第33図　１次ＳＣ04出土遺物実測図（128は１／２、他は１／３）……36

第34図　１次ＳＣ05実測図（１／60）……37
第35図　１次ＳＣ05出土遺物実測図（１／３）……38
第36図　１次ＳＤ12出土遺物実測図（160は１／２、他は１／３）……39
第37図　１次ＳＤ13出土遺物実測図（１／３）……39
第38図　１次ＳＸ35実測図・土層実測図（１／30）……40
第39図　１次ＳＸ35出土遺物実測図①（１／３）……41
第40図　１次ＳＸ35出土遺物実測図②（１／３）……42
第41図　１次ＳＰ428・438実測図（ＳＰ428は１／40、ＳＰ438は１／20）……43
第42図　１次ＳＰ438出土遺物実測図（１／３）……43
第43図　１次谷部橋状遺構実測図①（１／60）……46
第44図　１次谷部橋状遺構②・土層実測図（１／60）……47
第45図　１次谷部上層出土遺物実測図①（１／３）……48
第46図　１次谷部上層出土遺物実測図②（225・226は１／２、他は１／３）……49
第47図　１次谷部中層出土遺物実測図①（１／３）……50
第48図　１次谷部中層出土遺物実測図②（１／３）……51
第49図　１次谷部中層出土遺物実測図③（１／３）……52
第50図　１次谷部中層出土遺物実測図④（288・289は１／２、他は１／３）……53
第51図　１次谷部下層①出土遺物実測図①（１／３）……54
第52図　１次谷部下層①出土遺物実測図②（313は１／２、他は１／３）……55
第53図　１次谷部下層②出土遺物実測図①（１／３）……56
第54図　１次谷部下層②出土遺物実測図②（１／３）……57
第55図　１次谷部下層②出土遺物実測図③（１／３）……58
第56図　１次谷部下層②出土遺物実測図④（１／３）……59
第57図　１次谷部下層②出土木製品実測図①（１／６）……60
第58図　１次谷部下層②出土木製品実測図②（357・358は１／６、他は１／３）……61
第59図　１次谷部最下層出土遺物実測図①（１／３）……62
第60図　１次谷部最下層出土遺物実測図②（１／３）……63
第61図　１次谷部最下層出土遺物実測図③（１／３）……64
第62図　１次谷部最下層出土遺物実測図④（１／３）……65
第63図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑤（１／３）……66
第64図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑥（１／３）……67
第65図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑦（１／３）……68
第66図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑧（422は１／３、他は１／６）……69
第67図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑨（１／３）……70
第68図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑩（436・473は１／２、他は１／３）……71
第69図　１次谷部最下層杭列出土遺物実測図（１／３）……72

第70図　１次谷部内その他の出土遺物実測図（452は１／２、他は１／３）……73
第71図　１次その他の遺構出土遺物実測図（北側調査区・第１面）（470は１／２、他は１／３）…74
第72図　１次その他の遺構出土遺物実測図（北側調査区・第２面）
（472・476・481は１／２、他は１／３）…75
第73図　１次その他の遺構出土遺物実測図（南側調査区Ｏ面・検出面）（１／３）……76
第74図　１次表土剥ぎ等出土遺物実測図（１／３）……77
第75図　１次表土剥ぎ等出土遺物実測図（514は１／２、他は１／３）……78
第76図　９次調査地全体図（１／200）（赤は第２面検出遺構）……80
第77図　９次調査区壁面土層図（１／60）……81
第78図　９次ＳＢ03実測図（１／60）……82
第79図　９次ＳＸ01実測図（１／40）……83
第80図　９次ＳＸ01出土遺物実測図（１／３）……83
第81図　９次ＳＰ14実測図（１／20）……84
第82図　９次ＳＰ14出土遺物実測図（１／３）……84
第83図　９次ＳＤ01土層実測図（１／40）……84
第84図　９次ＳＤ01出土遺物実測図①（523は１／６、他は１／３）……85
第85図　９次ＳＤ01出土遺物実測図②（549・550は１／２、他は１／３）……86
第86図　９次ＳＢ01実測図（１／100）……88
第87図　９次ＳＢ01（ＳＰ95）円盤状土製品出土状況実測図（１／20）……89
第88図　９次ＳＢ01出土遺物実測図①（561は１／２、他は１／３）……89
第89図　９次ＳＢ01（ＳＰ89）出土遺物実測図②（１／２）……89
第90図　９次ＳＢ01（ＳＰ95）出土遺物実測図③（１／２）……90
第91図　９次ＳＢ01（ＳＰ95）出土遺物実測図④（１／２）……91
第92図　９次ＳＢ02実測図（１／100）……92
第93図　９次ＳＢ02出土遺物実測図（１／３）……92
第94図　９次ＳＣ01出土遺物実測図①（１／３）……93
第95図　９次ＳＣ01出土遺物実測図②（１／２）……93
第96図　９次ＳＣ01実測図（１／40）……94
第97図　９次西側１・２面包含層出土遺物実測図（１／２）……95
第98図　９次ＳＤ01検出面・東側第２面包含層出土遺物実測図
（669～671・676・677は１／２、他は１／３）…96
第99図　９次ＳＸ出土遺物実測図（１／３）……97
第100図　９次ＳＰ出土遺物実測図（690～692・697は１／２、他は１／３）……98
第101図　12次調査区東側土層実測図（１／120）
１区第２面包含層土層・２区ＳＤ02西側包含層土層実測図（１／60）……102
第102図　12・17次調査地全体図（１／200）……103～104

第103図　12次ＳＸ01～03実測図（１／40）……106
第104図　12次ＳＸ01～05出土遺物実測図（708は１／２、他は１／３）……107
第105図　12次ＳＸ04～08実測図（１／40）……108
第106図　12次ＳＸ06・08出土遺物実測図（731は１／２、他は１／３）……109
第107図　12次第１面ＳＰ出土遺物実測図（736・737は１／２、他は１／３）……111
第108図　12次第１面包含層・遺構検出時出土遺物実測図（１／３）……111
第109図　12次ＳＢ01実測図（１／60）……113
第110図　12次ＳＢ01出土遺物実測図（749は１／２、他は１／３）……114
第111図　12次ＳＢ02実測図（１／60）……114
第112図　12次ＳＢ02出土遺物実測図（１／３）……115
第113図　12次ＳＢ04出土遺物実測図（758・759・766・769～772は１／２、他は１／３）…116
第114図　12・17次ＳＢ04実測図（１／100）……117～118
第115図　12・17次ＳＤ04柱穴土層実測図（１／60）……119～120
第116図　12・17次ＳＤ01土層実測図（１／60）……122
第117図　12次ＳＤ01出土遺物実測図①（１／３）……123
第118図　12次ＳＤ01出土遺物実測図②（809・810は１／２、他は１／３）……124
第119図　12次ＳＤ01出土遺物実測図③（812～820は１／２、他は１／３）……125
第120図　12次ＳＤ01・ＳＸ11検出面出土遺物実測図（836は１／２、他は１／３）……126
第121図　12次ＳＤ02・ＳＤ02土層・ＳＤ03土層実測図（１／60）……128
第122図　12次ＳＤ02出土遺物実測図（849は１／１、850は１／２、他は１／３）……129
第123図　12次ＳＤ03出土遺物実測図①（１／３）……130
第124図　12次ＳＤ03出土遺物実測図②（１／３）……131
第125図　12次ＳＤ04出土遺物実測図（１／３）……132
第126図　12次ＳＸ09・10実測図（１／40）……134
第127図　12次ＳＸ09・13出土遺物実測図（１／３）……135
第128図　12次ＳＸ11実測図（１／40）……136
第129図　12次ＳＸ12実測図（１／60）……137
第130図　12次ＳＸ13実測図（１／40）……137
第131図　12次ＳＰ154実測図（１／20）……138
第132図　12次第２面ＳＰ出土遺物実測図①（910・911は１／２、他は１／３）……139
第133図　12次第２面ＳＰ出土遺物実測図②（931・934・938は１／２、他は１／３）……140
第134図　12次第２面ＳＰ出土遺物実測図③（942は１／２、他は１／３）……142
第135図　12次ＳＤ02周辺土器群出土状況実測図（１／20）……144
第136図　12次ＳＤ02周辺出土遺物実測図（958は１／２、957は１／６、他は１／３）……145
第137図　12次ＳＤ02北側土器群出土状況実測図（１／30）……146
第138図　12次ＳＤ02北側出土遺物実測図①（977は１／６、他は１／３）……147

第139図　12次ＳＤ02北側出土遺物実測図②（１／３）……148
第140図　12次ＳＤ02北側出土遺物実測図③（１／３）……149
第141図　12次第２面包含層出土遺物実測図①（１／３）……150
第142図　12次第２面包含層出土遺物実測図②（1020は１／２、他は１／３）……151
第143図　12次第２面包含層出土遺物実測図③（１／３）……152
第144図　12次第２面包含層出土遺物実測図④（１／３）……154
第145図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑤（１／３）……155
第146図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑥（１／３）……156
第147図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑦（１／３）……157
第148図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑧（１／３）……158
第149図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑨（1116は１／２、他は１／３）……159
第150図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑩（１／３）……160
第151図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑪（１／３）……161
第152図　12次２区中央トレンチ出土遺物実測図（１／３）……162
第153図　12次表採・撹乱出土遺物実測図（1146は１／２、他は１／３）……163
第154図　12次整地層出土遺物実測図（1159は１／２、1158は１／３）……164
第155図　16次調査地全体図（１／200）……167
第156図　16次ＳＤ01～03土層実測図（１／40）……168
第157図　16次ＳＤ02・03出土遺物実測図（1165・1175は１／２、他は１／３）……169
第158図　16次ＳＸ01・05実測図（１／40）……170
第159図　16次ＳＸ04実測図（１／60）……171
第160図　16次ＳＸ04出土遺物実測図（1183は１／２、他は１／３）……171
第161図　16次ＳＰ出土遺物実測図（1190は１／２、他は１／３）……173
第162図　17次整地層実測図（１／60）……174
第163図　17次ＳＢ01実測図（１／60）……176
第164図　17次ＳＢ01出土遺物実測図（１／３）……176
第165図　17次ＳＢ02実測図（１／100）……177
第166図　17次ＳＢ02出土遺物実測図（１／３）……177
第167図　17次ＳＢ03実測図（１／60）……178
第168図　17次ＳＢ04出土遺物実測図（１／３）……180
第169図　17次ＳＢ05実測図（１／60）……181
第170図　17次ＳＢ05出土遺物実測図（１／３）……182
第171図　17次ＳＢ06実測図（１／60）……183
第172図　17次ＳＢ06出土遺物実測図（１／３）……184
第173図　17次ＳＸ04実測図（１／40）……185
第174図　17次ＳＤ01出土遺物実測図（１／３）……185

第175図　17次ＳＤ02・04土層実測図（１／40）……186
第176図　17次ＳＤ02出土遺物実測図（１／３）……186
第177図　17次ＳＤ03出土遺物実測図（１／３）……187
第178図　17次ＳＤ04出土遺物実測図（１／３）……188
第179図　17次ＳＤ05出土遺物実測図（１／３）……188
第180図　17次ＳＤ06実測図（１／60）……190
第181図　17次ＳＤ06出土遺物実測図①（１／３）……191
第182図　17次ＳＤ06出土遺物実測図②（１／３）……192
第183図　17次ＳＤ06出土遺物実測図③（1354～1356は１／２、他は１／３）……193
第184図　17次ＳＰ200・230実測図（ＳＰ200は１／20、ＳＰ230は１／40）……194
第185図　17次ＳＰ200出土遺物実測図①（１／３）……195
第186図　17次ＳＰ200出土遺物実測図②（１／３）……196
第187図　17次ＳＰ200出土遺物実測図③（１／３）……197
第188図　17次ＳＰ230出土遺物実測図（１／３）……199
第189図　17次ＳＸ02・ＳＰ32・63実測図（１／40）……200
第190図　17次ＳＰ32出土遺物実測図（１／３）……200
第191図　17次ＳＸ02出土遺物実測図（１／３）……201
第192図　17次ＳＸ01実測図（１／40）……202
第193図　17次ＳＸ01出土遺物実測図①（１／３）……203
第194図　17次ＳＸ01出土遺物実測図②（１／３）……204
第195図　17次ＳＸ01出土遺物実測図③（1479・1480は１／６、他は１／３）……205
第196図　17次ＳＸ01出土遺物実測図④（１／３）……206
第197図　17次ＳＸ03実測図（１／40）……207
第198図　17次ＳＤ07出土遺物実測図（１／３）……208
第199図　17次整地層出土遺物実測図①（１／３）……209
第200図　17次整地層出土遺物実測図②（１／３）……210
第201図　17次整地層出土遺物実測図③（１／３）……211
第202図　17次整地層出土遺物実測図④（1546・1547は１／２、他は１／３）……212
第203図　17次ＳＸ05実測図（１／60）……214
第204図　17次ＳＸ05出土遺物実測図①（１／３）……215
第205図　17次ＳＸ05出土遺物実測図②（１／３）……216
第206図　17次ＳＸ05出土遺物実測図③（１／３）……217
第207図　17次ＳＸ05出土遺物実測図④（１／３）……218
第208図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑤（１／３）……219
第209図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑥（１／３）……220
第210図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑦（1617～1620は１／６、他は１／３）……221

第211図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑧（１／３）……222
第212図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑨（１／３）……223
第213図　12・17次調査区境土堤土層実測図（１／40）……225
第214図　12・17次調査区境包含層出土遺物実測図①（１／３）……226
第215図　12・17次調査区境包含層出土遺物実測図②（1667～1670は１／２、他は１／３）…227
第216図　17次調査区東側覆土中出土遺物実測図①（１／３）……228
第217図　17次調査区東側覆土中出土遺物実測図②（１／３）……229
第218図　17次撹乱溝検出時出土遺物実測図（1719～1721は１／２、他は１／３）……230
第219図　17次ＳＰ等その他の出土遺物実測図①（１／３）……232
第220図　17次ＳＰ等その他の出土遺物実測図②（1737～1741は１／２、他は１／３）……233
第221図　１・９・12・17次調査地遺構変遷図（１／600）（６・７世紀代）……300
第222図　１・９・12・17次調査地遺構変遷図（１／600）（８世紀代）……301

表　目　次

表１～19　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表①～⑲……236～254
表20～25　本堂遺跡９次調査出土遺物観察表①～⑥……255～260
表26～42　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表①～⑰……261～277
表43～44　本堂遺跡16次調査出土遺物観察表①～②……278・279
表45～64　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表①～⑳……279～298

巻頭図版目次

巻頭図版　　１次調査谷部出土墨書土器「識」
　　12次調査ＳＤ01出土朱付着須恵器

付　　図

本堂遺跡１・９・12・17次調査遺構配置図（１／200）

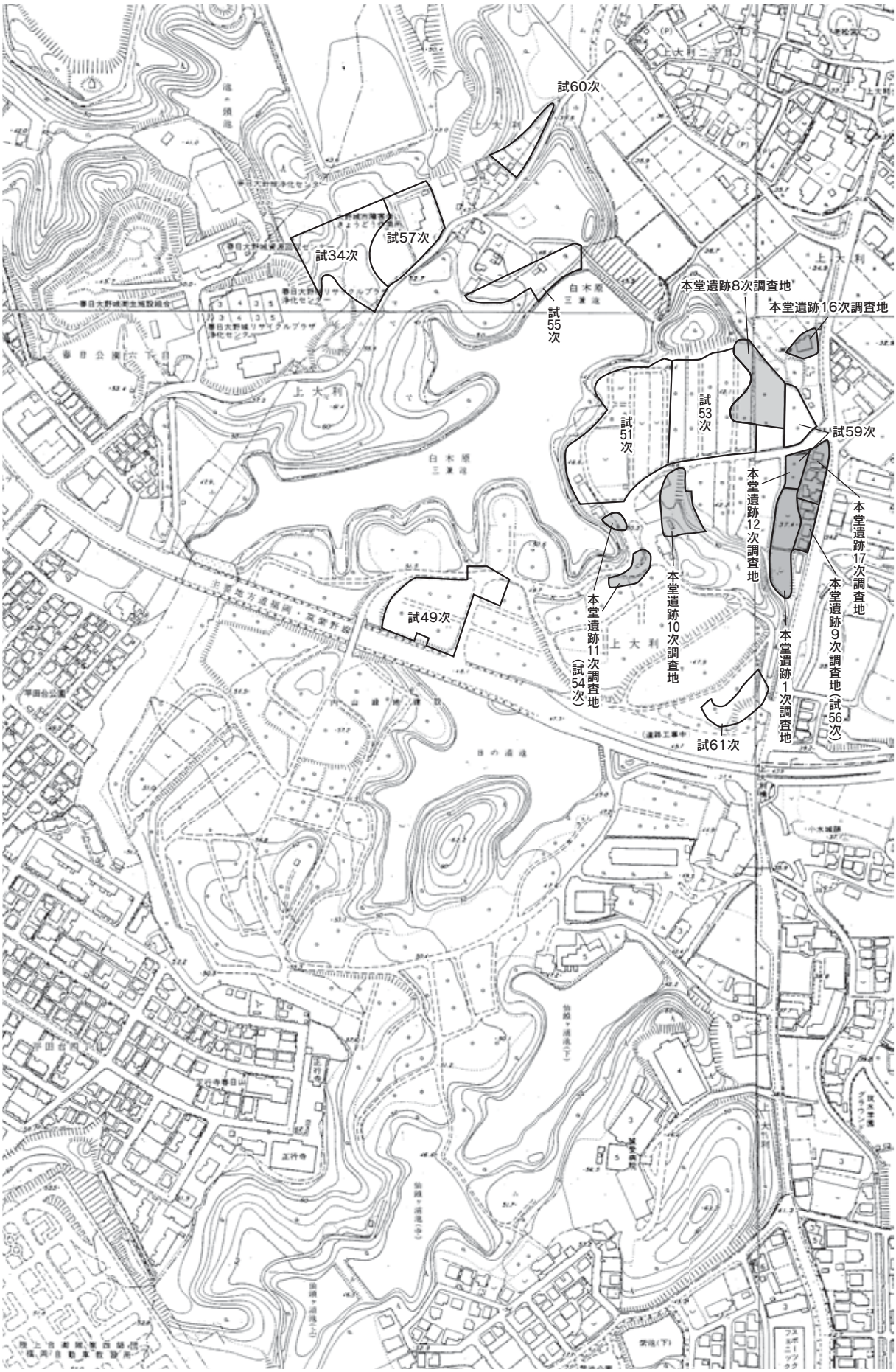
Ⅰ．はじめに

１．平成16年度の調査経過

上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査経緯については『牛頸梅頭遺跡群Ⅰ』（大野城市文化財調査報告書第60集）に詳述しているため、以下では平成16年度の埋蔵文化財調査についてまとめておきたい。

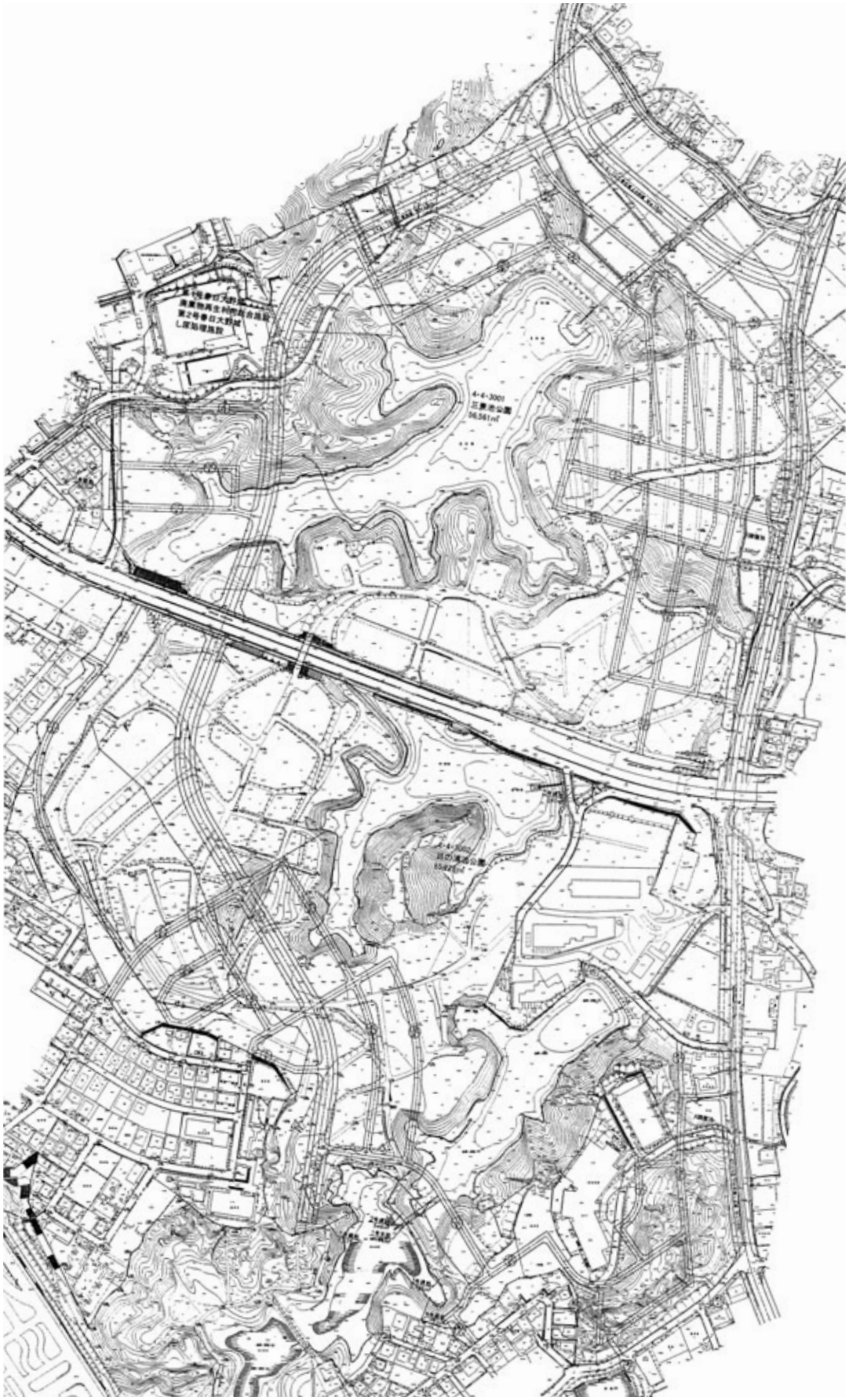
平成16年度、上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財調査としては、試掘調査を10ヶ所（34・49・51・53～57・59・60次）実施した。試掘調査の方法は、一部トレンチ調査により遺構の有無や削平状況を確認した場所もあるが、基本的には対象となった試掘調査地全体を重機により表土剥ぎを実施している。以下に、試掘調査の概要について記す。

34次試掘調査は平成15年２月１日～12日の間に一部実施した。この時には調査地の東側斜面部を表土剥ぎしており、東側へむかって下がる斜面を検出している。今回は調査地の西側斜面部を取り扱うことになり、斜面部全体の表土剥ぎを実施した。その結果、遺構・遺物はともに確認されなかった。49次試掘調査地は、県道31号線沿いに位置する。現況は細長い平坦な植林場であり、東半部は平成16年３月１・30・31日にトレンチを設定したが、遺構は確認できなかった（註１）。今回は西半部の調査を実施し、三兼池より南側にのびる小谷の先に谷部の続きが確認され、掘り下げを実施した。谷部は深さ３ｍほど掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。また、南西側の平坦面にはトレンチを設定し掘り下げをおこなったが、40～80cmで花崗岩バイラン土が確認され、大きく削平されていることが明らかになった。51次試掘調査は、内山緑地造園の事務所の北側にあたり、調査前にはすでに平らに造成されビニールハウスが建っていた。このため平坦面にはトレンチを配置し、遺構・遺物の検出に努めたが、地表下50～200cm程度で花崗岩バイラン土が検出され、大きく削平されていることが明らかになった。また三兼池に面する斜面に近い部分では、池からのびる谷部の続きが２ヶ所で確認された。谷部は掘り下げを実施したが、埋土中から自動車や記念碑などの産業廃棄物が大量に出土した他は、何らの遺構・遺物も認めることができなかった。53次試掘調査は、本堂遺跡８次調査地の西側に隣接する。植木の伐根より開始し、トレンチを設定したが、西側では大きく削平されていた。一方、北側の斜面部や東側では溝などの遺構が確認された。54次試掘調査は、三兼池に面する斜面部で、炭窯などが確認された（註１）。55次試掘調査は三兼池の北側にあたる。三兼池に面する斜面と、この斜面と尾根部を挟んで反対側に南西側へ細長くのびる谷部が確認された。三兼池側の斜面は全体を表土剥ぎした結果、遺構・遺物は認められなかった。南西側にのびる谷部は旧地形図でも確認でき、小田Ⅳ期にあたる須恵器も出土したが、工事の都合上一部の調査のみに止まり遺構は確認できなかった。56次試掘調査は下大利南ヶ丘線に面する。現況は宅地となり削平をうける部分はあったが、竪穴住居跡などの遺構が確認できた。57次試掘調査は34次試掘調査地に隣接する。先述のとおり平成15年２月におこなわれた試掘調査により東へむかって下がる斜面が確認されており、さらに掘り下げをおこなった。その結果、谷部は予想以上に広く大きい事が判明し、隣地の建物等の解体後にあらためて試掘調査を実施する事となった。59次試掘調査は本堂遺跡1次調査地の北側にあたり道路を挟んで南北の２ヶ所にあたる。いずれも全体を表土剥ぎしたが、遺構が確認されたのは南側のみで、溝・ピ

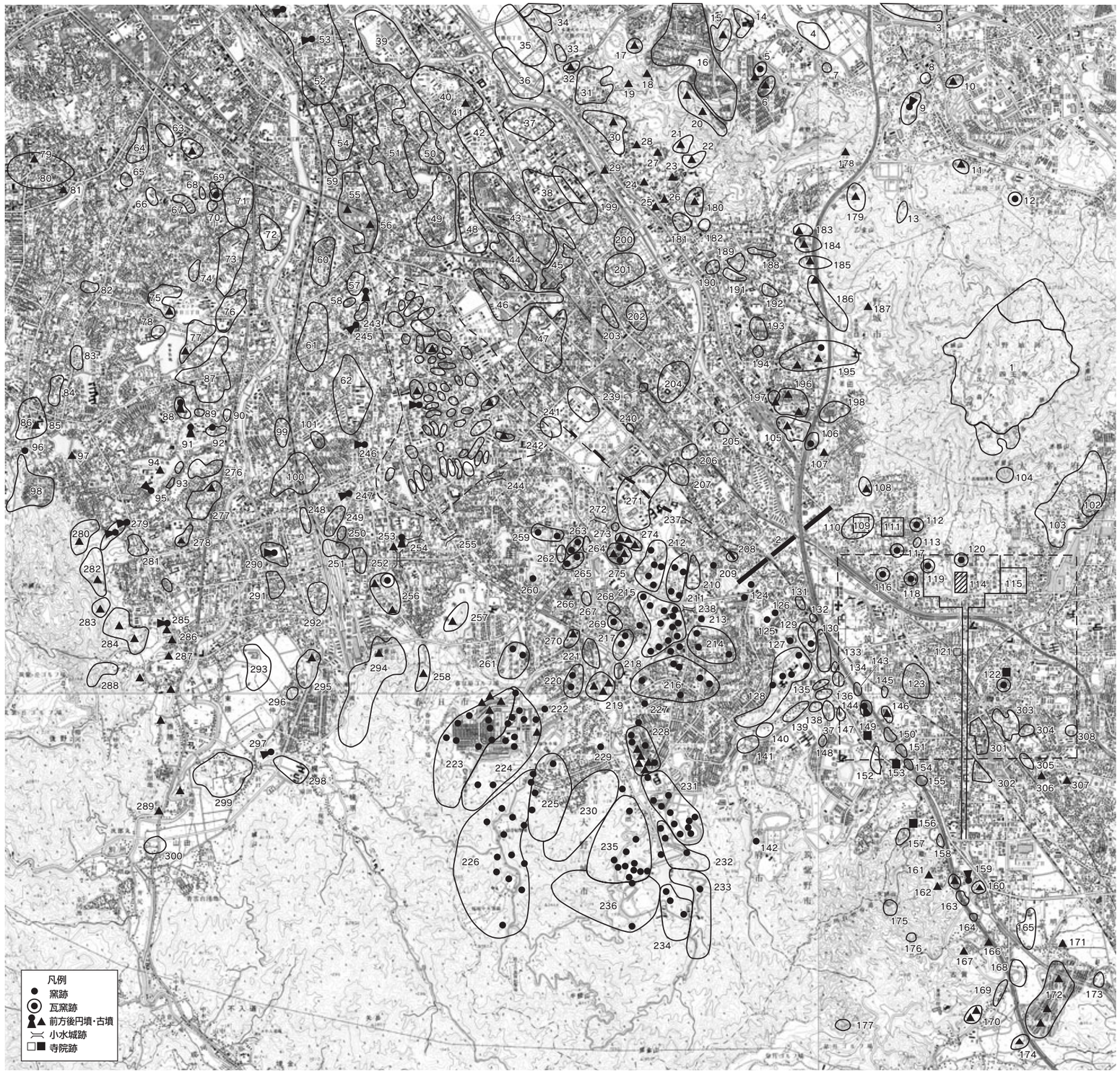


第１図　平成16年度上大利北土地区画整理地内調査地および本堂遺跡１・９・12・16・17次調査地位置図（１／5,000）

第２図　上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図（1948年米軍撮影）（1／5,000）



第３図　上大利土地区画整理事業地内計画平面図



第４図　周辺遺跡分布図（1／50,000）

1. 大野城跡
2. 水城跡

宇美町

3. 神領・浦尻古墳群
4. 川原田・供田遺跡群
5. 岩長浦古墳群
6. 観音浦古墳群
7. ウソフキ古墳
8. 宇美中学校遺跡
9. 正籠古墳群
10. 湯沸古墳群
11. 花ノ木古墳群
12. 寺浦窯跡
13. 内野谷古墳群

志免町

14. 松ヶ上・松ヶ下遺跡
15. 松ノ尾古墳群
16. 桜ヶ丘古墳群

福岡市

17. 熊野古墳群
18. 七曲古墳群
19. 金剛山古墳群
20. 持田ヶ浦古墳群Ａ群
21. 持田ヶ浦古墳群Ｂ群
22. 持田ヶ浦古墳群Ｃ群
23. 持田ヶ浦古墳群Ｄ群
24. 持田ヶ浦古墳群Ｅ群
25. 持田ヶ浦古墳群Ｆ群
26. 今里不動古墳
27. 堤ヶ浦古墳群
28. 影ヶ浦古墳群
29. 丸山古墳
30. 金隈遺跡群
31. 立花寺遺跡群
32. 文殊谷古墳群
33. 上月隈Ｂ遺跡
34. 上月隈遺跡群
35. 下月隈Ｃ遺跡群
36. 立花寺Ｂ遺跡群
37. 井相田Ｄ遺跡群
38. 井相田Ｃ遺跡
39. 那珂君休遺跡群
40. 板付遺跡
41. 板付八幡古墳
42. 高畑遺跡
43. 麦野Ａ遺跡
44. 麦野Ｂ遺跡
45. 麦野Ｃ遺跡
46. 南八幡遺跡群
47. 雑餉隈遺跡群
48. 三筑遺跡
49. 笹原遺跡群
50. 諸岡Ｂ遺跡
51. 諸岡Ａ遺跡
52. 比恵・那珂遺跡群
53. 那珂八幡古墳
54. 五十川遺跡群
55. 井尻Ｂ遺跡
56. 井尻Ｂ－１号古墳
57. 寺島遺跡
58. 笠抜遺跡
59. 井尻Ａ遺跡
60. 横手遺跡群
61. 日佐遺跡群
62. 弥永原遺跡群
63. 野間Ａ・Ｂ遺跡
64. 中村町遺跡
65. 若久Ａ遺跡
66. 若久Ｂ遺跡
67. 大橋Ｂ遺跡
68. 大橋Ｃ遺跡
69. 大橋Ｄ遺跡・三宅瓦窯跡
70. 三宅Ａ遺跡・三宅廃寺
71. 大橋Ｅ遺跡
72. 三宅Ｃ遺跡
73. 三宅Ｂ遺跡
74. 和田Ａ遺跡群
75. 和田Ｂ遺跡群
76. 野多目Ａ遺跡
77. 野多目Ｂ遺跡・古墳群
78. 野多目浦ノ池遺跡
79. 穴観音古墳
80. 寺塚Ａ古墳群
81. 寺塚Ｂ古墳群
82. 屋形原遺跡
83. 花畑Ｃ遺跡群
84. 花畑Ｂ遺跡群
85. 花畑Ａ遺跡群
86. 三十田古墳
87. 野多目Ｃ遺跡群
88. 卯内尺古墳・古墳群
89. 老司Ａ遺跡
90. 老司Ｂ遺跡
91. 老司古墳
92. 老松神社古墳群
93. 老司池Ａ・Ｂ遺跡群
94. 中尾古墳
95. 浦ノ田古墳群
96. 中島窯跡
97. 箱池古墳
98. 四十塚・大牟田古墳群
99. 警弥郷Ａ遺跡
100. 警弥郷Ｂ遺跡
101. 弥永遺跡群

太宰府市

102. 浦城跡
103. 原遺跡
104. 岩屋城跡
105. 成屋形古墳群
106. 裏ノ田遺跡
107. 裏ノ田古墳
108. 陣の尾古墳群・遺跡群
109. 筑前国分尼寺跡
110. 国分松本遺跡
111. 筑前国分寺跡
112. 国分瓦窯跡
113. 御笠団印出土地
114. 太宰府政庁跡
115. 観世音寺
116. 松倉瓦窯跡
117. 坂本瓦窯跡
118. 来木古墳群・瓦窯跡
119. 来木北瓦窯跡
120. 都府楼北瓦窯跡
121. 榎寺
122. 般若寺・瓦窯跡
123. 市ノ上遺跡
124. 神ノ前窯跡群
125. 篠振遺跡・窯跡
126. 尊田窯跡
127. 長浦窯跡
128. 宮ノ本遺跡群・窯跡群
129. 日焼遺跡群・窯跡群
130. 前田遺跡
131. 原口遺跡
132. 久郎利遺跡
133. 上川久保遺跡
134. 雛川遺跡
135. フケ遺跡
136. 尾崎遺跡
137. 脇道遺跡
138. 殿城戸遺跡
139. 京ノ尾遺跡
140. カヤノ遺跡
141. 長ヶ坪遺跡
142. 野口窯跡

筑紫野市

143. 井ノ尻遺跡・古墳
144. 剣塚遺跡・古墳群・瓦窯跡
145. 杉塚大坪遺跡
146. 埴安神社古墳
147. 和久堂城跡
148. 杉塚山の谷遺跡
149. 杉塚廃寺
150. 唐人塚遺跡・古墳群
151. 前田遺跡
152. 脇田遺跡
153. 塔原廃寺
154. 塔原遺跡
155. 樋田山遺跡
156. 武蔵寺跡
157. 武蔵寺経塚群
158. 道場山遺跡
159. 原口古墳・古墳群
160. 鷺田山遺跡・古墳群
161. 八限裏山古墳
162. 八限古墳群
163. 畑添遺跡
164. 山の口遺跡
165. 立明寺地区遺跡
166. 扇祇古墳群
167. 江永浦古墳
168. 貝元遺跡
169. トドキ遺跡
170. 古賀古墳群
171. 厳島神社古墳
172. 上の山古墳群
173. 大牟田西遺跡
174. 萩原古墳群
175. 天判山城
176. 飯盛城跡
177. 博多見城跡
301. 二日市宿跡
302. 堀池遺跡
303. 峯畑遺跡
304. 修理田遺跡
305. 通り浦遺跡
306. 五穀神古墳
307. カケ塚古墳
308. 米噌城

大野城市

178. 唐山古墳群
179. 乙金北古墳群
180. 御陵古墳群
181. 塚口遺跡
182. 御陵前の椽遺跡
183. 善一田古墳群
184. 王城山古墳群
185. 古野古墳群
186. 原口古墳群
187. 此岡古墳群
188. 松葉園遺跡
189. 森園遺跡
190. ヒケシマ遺跡
191. 中・寺尾遺跡
192. 薬師の森遺跡
193. 銀山遺跡
194. 原門遺跡
195. 雉子ヶ尾遺跡・窯跡
196. 釜蓋原古墳群
197. 金山遺跡
198. 釜蓋原遺跡
199. 仲島遺跡
200. 川原遺跡
201. 御笠の森遺跡
202. 村下遺跡
203. 雑餉隈遺跡
204. 石勺遺跡
205. 原ノ畑遺跡
206. 後原遺跡
207. 御供田遺跡
208. 谷川遺跡
209. 出口窯跡・遺跡
210. 上園遺跡
211. 本堂遺跡群
212. 梅頭遺跡群
213. 谷蟹窯跡
214. 大浦窯跡群
215. 野添遺跡群
216. 平田窯跡群
217. 華無尾遺跡群
218. 屏風田遺跡
219. 塚原遺跡群
220. 畑ヶ坂遺跡群
221. 日ノ浦遺跡群
222. 月ノ浦１号窯跡
223. 後田遺跡群
224. 小田浦遺跡群
225. 大谷窯跡群
226. 石坂窯跡群
227. 東浦窯跡
228. 中通遺跡群・古墳群
229. 城ノ山窯跡群
230. 原窯跡・原浦窯跡郡
231. ハセムシ窯跡群
232. 道ノ下窯跡群
233. 長者原窯跡群
234. 笹原窯跡群
235. 井手窯跡群
236. 足洗川窯跡群
237. 池田・池の上遺跡
238. 上大利水城跡

春日市

239. 駿河遺跡
240. 原ノ口遺跡
241. 立石遺跡
242. 須玖・岡本遺跡群
243. 御陵遺跡群・古墳
244. 小倉水城跡
245. 野藤１号墳
246. 下白水大塚古墳
247. 日拝塚古墳
248. 柏田遺跡
249. 辻田遺跡
250. 上白水西遺跡
251. 門田遺跡
252. 天神の木遺跡
253. 天神山古墳
254. 天神山水城跡
255. 大土居水城跡
256. ウトグチ遺跡群
257. 白水池古墳群
258. 西浦古墳群
259. 惣利窯跡群
260. 大牟田窯跡
261. 浦ノ原窯跡群
262. 惣利西遺跡
263. 惣利遺跡
264. 惣利北遺跡
265. 惣利東遺跡
266. 惣利古墳
267. 円入遺跡
268. 春日平田遺跡群
269. 春日平田西遺跡
270. 塚原古墳群
271. 九州大学筑紫キャンパス遺跡群
272. 春日水城跡
273. 向谷北遺跡
274. 向谷古墳群
275. 春日平田北遺跡

那珂川町

276. 野口遺跡群
277. 観音堂遺跡群
278. 井河古墳群
279. 小丸古墳群
280. 浦ノ原古墳群
281. 井河遺跡群
282. 丸ノ口古墳群
283. 白石古墳群
284. 荒平池古墳群
285. 妙法寺古墳
286. 油田古墳群
287. 大万寺前古墳
288. 国太子古墳群
289. 松尾古墳群
290. 今光宗石遺跡群・貝徳寺古墳
291. 松ノ木遺跡群
292. 中原・塔ノ元遺跡群
293. 仲遺跡群
294. 観音山古墳群・深原遺跡
295. エゲ古墳・カクチガ浦古墳群
296. 炭焼古墳群
297. 安徳大塚古墳
298. 平蔵遺跡群
299. 安徳台遺跡群
300. 山田西遺跡群

ットなどが確認された。北側は大きく削平を受け遺構は確認できなかったが、小田Ⅱ～ⅢA期にあたる須恵器が出土している。60次試掘調査は57次試掘調査地の北東側にあたる。現況は丘陵斜面下にある畑であり、北東方向へむかってゆるやかに下る。トレンチを設定し掘り下げをおこない、地表下300cmで花崗岩バイラン土を確認した。層序および掘り方を見ると削平を受けたようにも見え、相当の盛土が行われていることが明らかになった。61次調査は、本堂遺跡５次調査地東側にあたる。谷部は南東部に開口し、北へ回り込む斜面が確認された。斜面には須恵器窯跡などが検出された。以上のように、平成16年度実施した10ヵ所の試掘調査地のうち、53・54・56・59・61次調査において遺構が確認できた。

平成16年度の発掘調査は、平成15年度からの引き続きとして本堂遺跡7次調査を実施しており、調査の進行に応じて調査個所を増やしていった。45・53次試掘調査を本堂遺跡８次調査、56次試掘調査を本堂遺跡９次調査、本堂遺跡10次調査は７次調査地に隣接していたため当初より表土剥ぎを開始した。54次試掘調査は本堂遺跡11次調査、59次試掘調査を本堂遺跡12次調査とした。調査期間・面積等については下の表のとおりである。

	遺跡名	試掘調査次数	試掘調査期間	発掘調査期間	調査面積(㎡)	担当
平成16年度発掘調査	本堂遺跡７次調査	30・44次	平成15年６月24日～平成16年１月17日	平成16年２月17日～平成17年１月31日	6,500	石木
	本堂遺跡８次調査	45・53次	平成15年11月11日～平成16年８月19日	平成16年８月23日～平成17年３月28日	4,200	早瀬
	本堂遺跡９次調査	56次	平成16年10月12日～10月18日	平成16年10月21日～12月３日	400	北川
	本堂遺跡10次調査	29次	平成16年11月５日～12月13日	平成16年12月８日～平成17年１月28日	1,750	石木 井上
	本堂遺跡11次調査	54次	平成16年８月19日～９月６日	平成17年２月１日～３月25日	1,100	一瀬
	本堂遺跡12次調査	59次	平成17年１月27日～２月21日	平成17年３月２日～６月27日	500	井上

なお、平成16年度に発掘調査を実施できなかった61次試掘調査は本堂遺跡13次調査として平成17年度に調査を実施した。

２．調査体制

平成14～20年度における発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。なお、整理作業は平成20年度に完了した。

[大野城市教育委員会]

教育長　　堀内貞夫（～15年６月）　古賀宮太（15年６月～）

教育部長　鬼塚春光（14年３月～17年３月）　小嶋　健（17年４月～）

社会教育課長　秋吉正一（14年４月～17年３月）　水野邦夫（17年４月～18年３月）

ふるさと文化財課長　舟山良一（18年４月～）

文化財担当係長　舟山良一（～18年３月）　中山　宏（18年４月～）

主　　査　徳本洋一　石木秀啓　緒方一幹（16年４月～18年３月）　丸尾博恵

主任主事　大道和貴（～16年３月）

主任技師　林　潤也　早瀬　賢（16年４月～）

技　　師　上田龍児（平成19年４月～）

嘱　　託

平島義孝（～16年３月）　上田　恵（14年４月～15年４月）　島田　拓（14年４月～15年６月）　岸見泰宏（14年４月～16年３月）　一瀬　智（15年11月～17年７月）　西堂将夫（15年４月～18年３月）　井上愛子（16年４月～20年３月）　北川貴洋（16年４月～19年３月）　城門義廣（18年４月～19年８月）　岡田裕之（18年５月～19年３月）　田尻義了（19年４月～６月）　遠藤　茜（19年４月～）　石川　健（19年７月～）大里弥生（19年10月～）　甲斐康大（20年４月～）　中島　圭（20年４月～）　粟津剛史（16年４月～18年６月）　能塚由紀（18年８月～）

整理作業員　松岡信子　町井裕子　鬼塚穂子　白井典子　村山律子　井上理香　渡部美香　城真奈美　橋本悦子　渡辺直美　仲村美幸

発掘作業員

原田敬子　大海雅子　高木幸子　満富スエコ　吉嗣波津子　岩切ふえ　前田チエ子　西田幸子　那波幸子　高木冴子　藤田和子　三原ひろみ　吉田香織　岡本妙子　馬場孝子　田中照子　寺垣みゆき　中垣　親　松山洋子　日野律子　小林敏子　坂本泰子　渡辺久美子　小林久美子　西村清子　貞包由起子　広渡隆子　穴井和子　立石律子　船越桃子　樋之口浩一　深野人美　大薗英美　仲前冨美子　井口るみ子　倉富倫子　釣屋種利　飯田三治　溝口　忍　金澤好子　田浦秀子　小川ケイ子　三善公子　山下隆子　團野ハマ子　篠崎繁美　東島真弓　安里由利子　中山文子　牧野和美　川村真樹子　村岡真由美　槙坂陽子　原口美奈子　山口文代　大島五津子　大浦旗江　清成健悟　高木由佳　木村奈津子　織田　徹　松田和美　戸渡京子　野崎美智子　倉住孝枝　稲富久子　山田賢治　松尾純子　末永　勝　安達はるみ　西本福雄　田中悦子　田野和代　吉村秀子　宮原ゆかり　尾ノ口英晴　碓井ふき子　木室友希　川岸昌子

[上大利北土地区画整理組合]

理事長	伊藤雅都
副理事長	樋口敬記
	林　尚司
事務局長	平川松丸
技術職	吉次俊二（～19年３月）
	林　圭一（～18年３月）
	山下　健（16年４月～）
	濱本泰司（18年４月～20年３月）
事務職	伊藤衆子

（石木）

註1　石木秀啓2007『牛頸本堂遺跡群Ⅳ』大野城市文化財調査報告書第75集

Ⅱ．調査の結果

１．第１次調査

Ａ．調査概要（第６図・図版１）

第１次調査地は、下大利南ヶ丘線に面した田の部分にあたる。大野城市大字上大利662番地ほかにあたり、調査面積は第１・２面を合わせて2,641㎡である。調査区は、現況は田として利用されており、昭和24年の地形測量図上においても同様である。元々の地形としては丘陵裾部の緩傾斜面にあたり、丘陵斜面からの傾斜変換点直下に位置する。田は斜面下方に盛土して造成されており、斜面上方の遺構は耕作により削平を受け残存状況はあまりよくない。

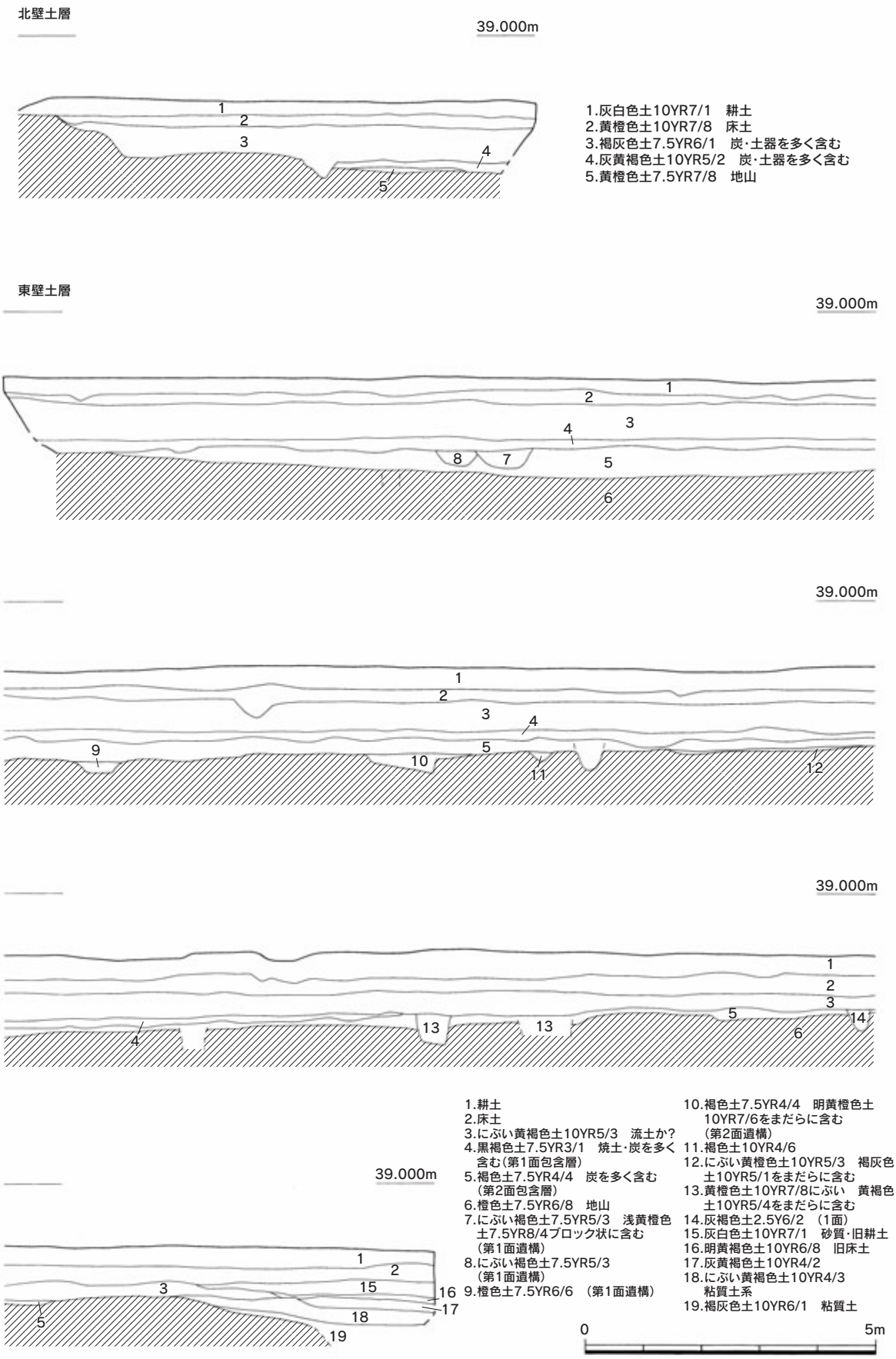
試掘調査は平成11年12月６日から22日の間におこなった。当時区画整理組合は設立前であったが、７月16日から23日の間におこなった上大利北・南土地区画整理事業地の踏査により事業地内から遺物の出土があるものの、徹底した耕地化により旧地形を完全に失っており、どのくらい遺跡が存在するか全く不明であったため、区画整理課との協議により、着手可能な部分については先行して試掘調査を実施した。なお予算は国庫補助事業として実施した。

試掘調査は対象地をＡ～Ｄ地区に分け、耕作中のものを除き各田畑にトレンチを２本以上設定し、遺構の検出と遺物の採集に努めた。その結果、Ａ・Ｂ地区に関しては若干の遺物の出土があったものの遺構は確認されず、Ｃ・Ｄ地区において遺構を検出することができた。Ｃ・Ｄ地区の遺構検出面はＡｓｏ－４火砕流堆積物に由来するローム層であり、調査時には西南学院大学磯望教授に現地で指導を頂いた。Ａ・Ｂ地区に関しては安定したローム層を確認できず、湿地状の様相を呈していた可能性がある。（Ａ～Ｄ地区の区分については『本堂遺跡群Ⅴ』（2008）を参照されたい。）

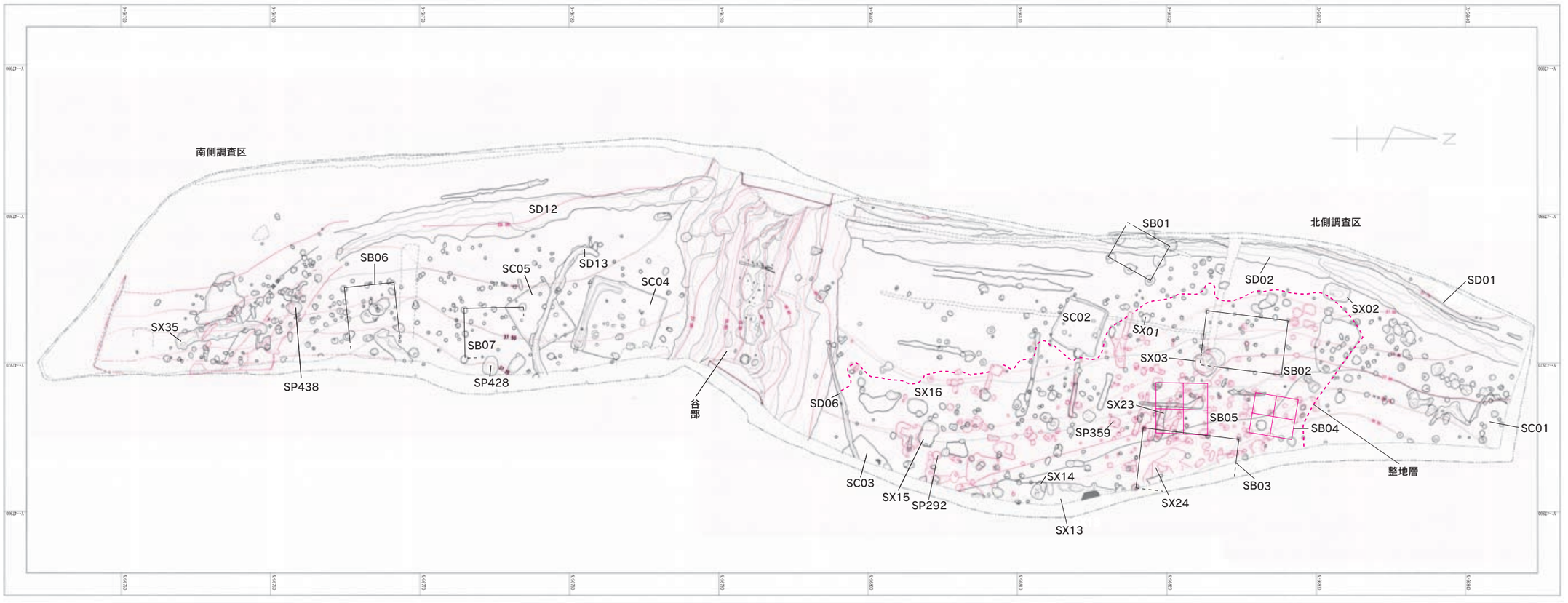
このようにＣ・Ｄの２地区で遺跡の存在が確認されたが、調査の都合上、平成13年度にＤ地区を本堂遺跡１次調査として発掘調査を実施した。発掘調査は、平成13年４月26日～平成14年３月25日の間におこない、石木が担当した。上大利北南両地区の区画整理事業地において、初めての埋蔵文化財発掘調査であった。調査前、田にはザリガニがたくさんおり、ヘビやオケラも辺りを跋扈し、内山緑地の植樹も自然林と見まがうばかりであり、とても街中の調査とは思えないような状況であった。

調査は平成13年４月26日から表土剥ぎを開始した。表土剥ぎは北側調査区の北端から開始し、終了後南側調査区、そして谷部へと調査を進めていった。表土剥ぎを開始してまもなく、北側調査区斜面下方に遺構面が２面ある事が判明した。また南側調査区においても遺構面は複数確認できた。試掘調査の際には第１面上で遺構確認をしており、整地層の存在に気づいていなかった事から、その範囲の検出および第１面・第２面遺構の掘り下げに手間取り、調査は予定よりも遅れる次第となった。おおむねの調査が終了したのは11月12日であったが、第２面下の遺構の有無を確認する調査を11月26日と平成14年３月に実施した。

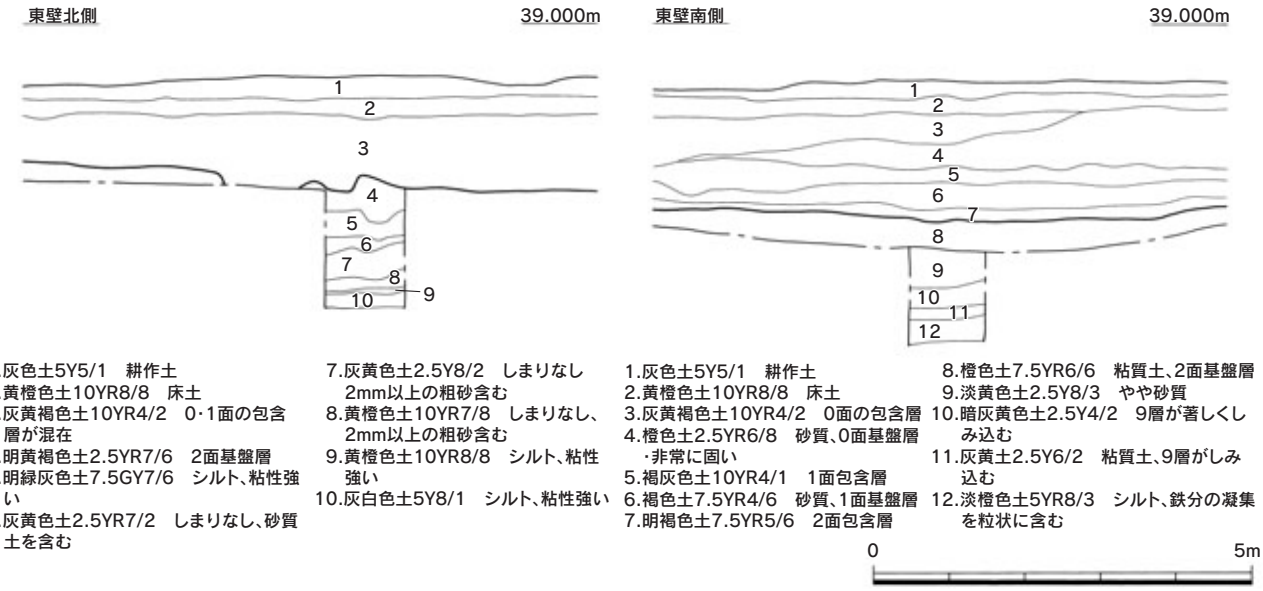
調査の結果、掘立柱建物６棟・竪穴住居跡５軒・溝２条・土坑やピットが多数確認された。遺物は須恵器が主であるが、奈良時代のものが多く、竪穴住居跡や掘立柱建物・土坑の大半がこの時期のものである。また、土師器・弥生土器・陶磁器・鉄器のほか、奈良時代の竪穴住居跡や土坑から粘土や焼成不良須恵器の出土があり、須恵器工人の集落との見解にいたった。このため、記者発表



第５図　1次北側調査区壁面土層実測図（1／100）



第６図　１次調査地全体図（1/300）（北側調査区内赤は第２面検出遺構、南側調査区内赤は０面検出遺構）



第７図　１次南側調査区壁面土層実測図（１／100）

をおこない、９月８日に現地説明会を実施した。九州最大の牛頸窯跡群において、窯跡の調査は200例以上あるが、工人集落の調査は非常に少ないことから良好な事例を提供する事となった。

（石木）

Ｂ．遺構と遺物

（１）調査区および層位（第５～７図・図版１～18）

１次調査地は南北に長く、調査前も北と南の２枚の田が作られ、南北の田の間には小道が通っていた。調査の結果、南北の田の部分に遺構が展開し、小道の部分は谷となることが判明した。南北の遺構群は谷で分けられ、時期的には同じであるが連続する遺構がないことと、層位的に若干の違いがあることから、谷を境に調査地を南北の調査区に分け、また谷部内の遺構・遺物・層序は別個に報告する。

北側調査区では、遺構面を２面検出した。上から第１面・第２面とした。第１面は耕土・床土下のにぶい黄褐色土除去後に黒褐色土の遺物包含層を確認し、包含層下の褐色土を第１面とした。第１面は調査区の東側から中央部で確認できた。第１面を除去すると橙色土を基盤とする第２面が検出できた。

南側調査区では、当初耕土・床土下に灰黄褐色土を検出し、この層下に確認された橙色土を第１面として調査を開始した。当初第１面とした面で検出された遺構にはＳＤ12があるが、埋土と出土遺物は新しく、近世・近代の水田耕作に関わるものと考えられ、他に検出された土坑も不整で掘り込みが認められないことから北側調査区における第１面上の遺構面との認識にいたった。このためこの面をＯ面と変更し除去した所、Ｏ面とした橙色土下に褐灰色土(第１面包含層)･明褐色土(第１面)･ 橙色土(第２面) を確認した。第１・２面の層序は北側調査区と同じである。しかし、南側調査区で確認された第１面の範囲は狭く、南北面作成した調査区土層図のうち北側では確認できず、

またO面の掘り下げ時に第１面も下げてしまい、南側調査区では第１・２面遺構を分別して調査することができなかった。

以上のように、１次調査地で確認された第１面は範囲が限られたものであった。このため、以下におこなう報告では、第１面上で確認された遺構を第１面の遺構、それ以外を第２面の遺構として分けて報告するが、第２面上でも第１面の遺構が展開する可能性があることをお断りしておく。

（２）北側調査区

ｉ）第１面の遺構

①掘立柱建物

ＳＢ02（第８図・図版１）

調査区の中央部付近に位置する。ＳＢ03に平行し、２×３間の規模を有する。桁行4.98ｍ、梁行3.7ｍ。建物は、南東隅の柱はＳＸ03に切られる。各柱穴からは、須恵器・土師器・黒色土器Ａ・Ｂ類が出土している。

出土遺物（第12図）

土師器（１）　小皿。小片のため、口径の復元に難がある。底部ヘラ切り、体部と底部の境は丸く仕上げられる。

ＳＢ03（第９図・図版１）

調査区の東側中央部に位置する。建物の東半部は調査区外へのびており、隣接する９次調査で柱列が確認されているので、９次調査の中で報告をおこなう。ＳＢ02とほぼ主軸方向を揃え、２間以上×３間の規模を有する。桁行6.4ｍ以上、梁行４ｍ以上。柱穴には柱痕が残るものがあり、径10～15cm程度であった。各柱穴からは須恵器・土師器・黒色土器Ａ・Ｂ類が出土しているが、小片のため図化できなかった。

②土坑

ＳＸ01（第10図・図版２）

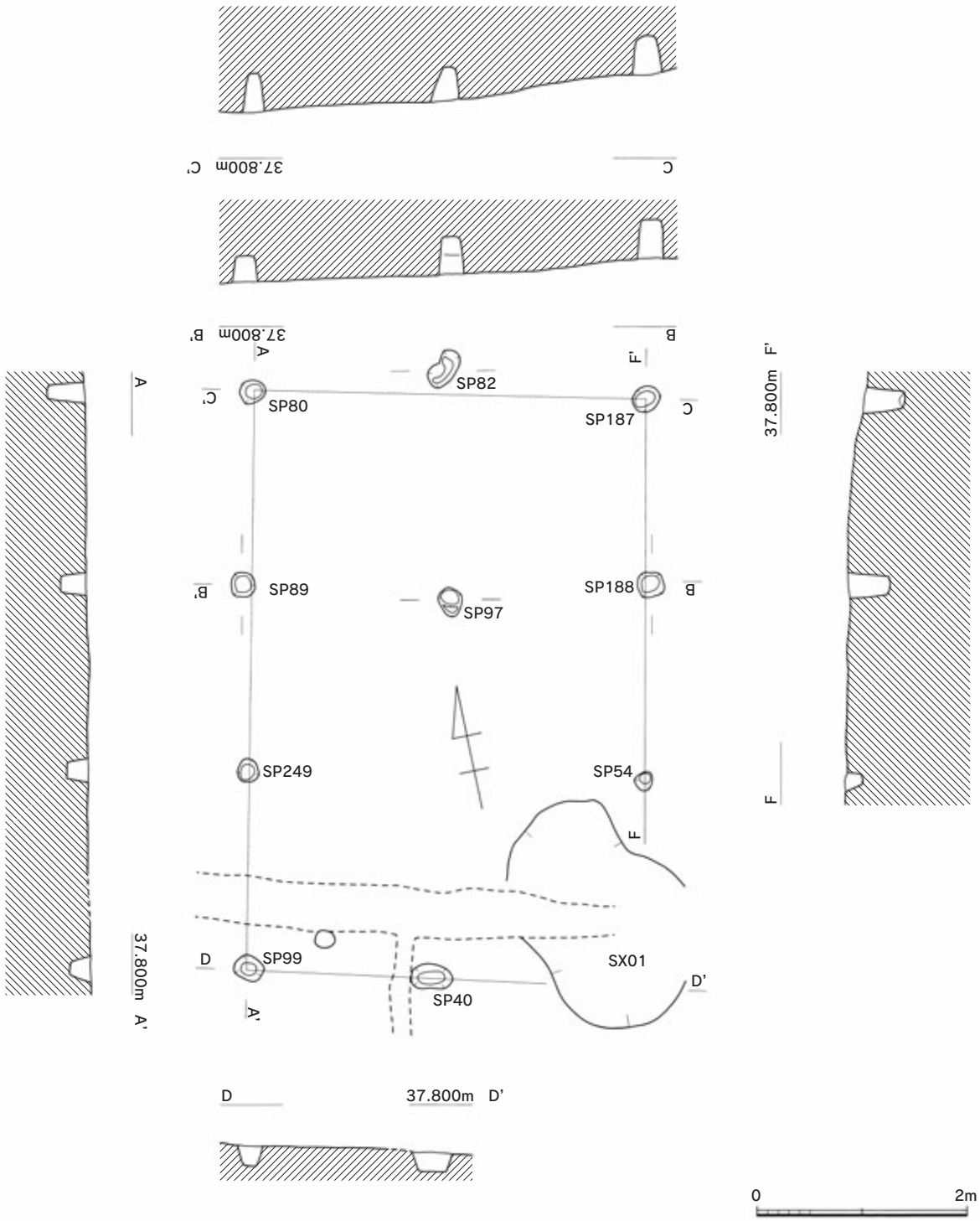
調査区のほぼ中央部に位置する。径0.61ｍ、深さ10cmの円形プランを呈し、底面は浅い鍋底状を呈する。土坑の東側は耕地整理の際に埋設された排水管により切られている。土坑の東側からは、土師器高台付小皿が伏せた状態で出土した。その他、出土遺物は須恵器・土師器・黒色土器Ａ類などがある。

出土遺物（第12図・図版59）

土師器（２・３）　２は杯。口径11.2cmに復元されるが、小片のため難がある。底部調整は不明。３は高台付小皿としたが、口径12.2cmとやや大きい。完形で出土している。

ＳＸ03（第10図・図版２）

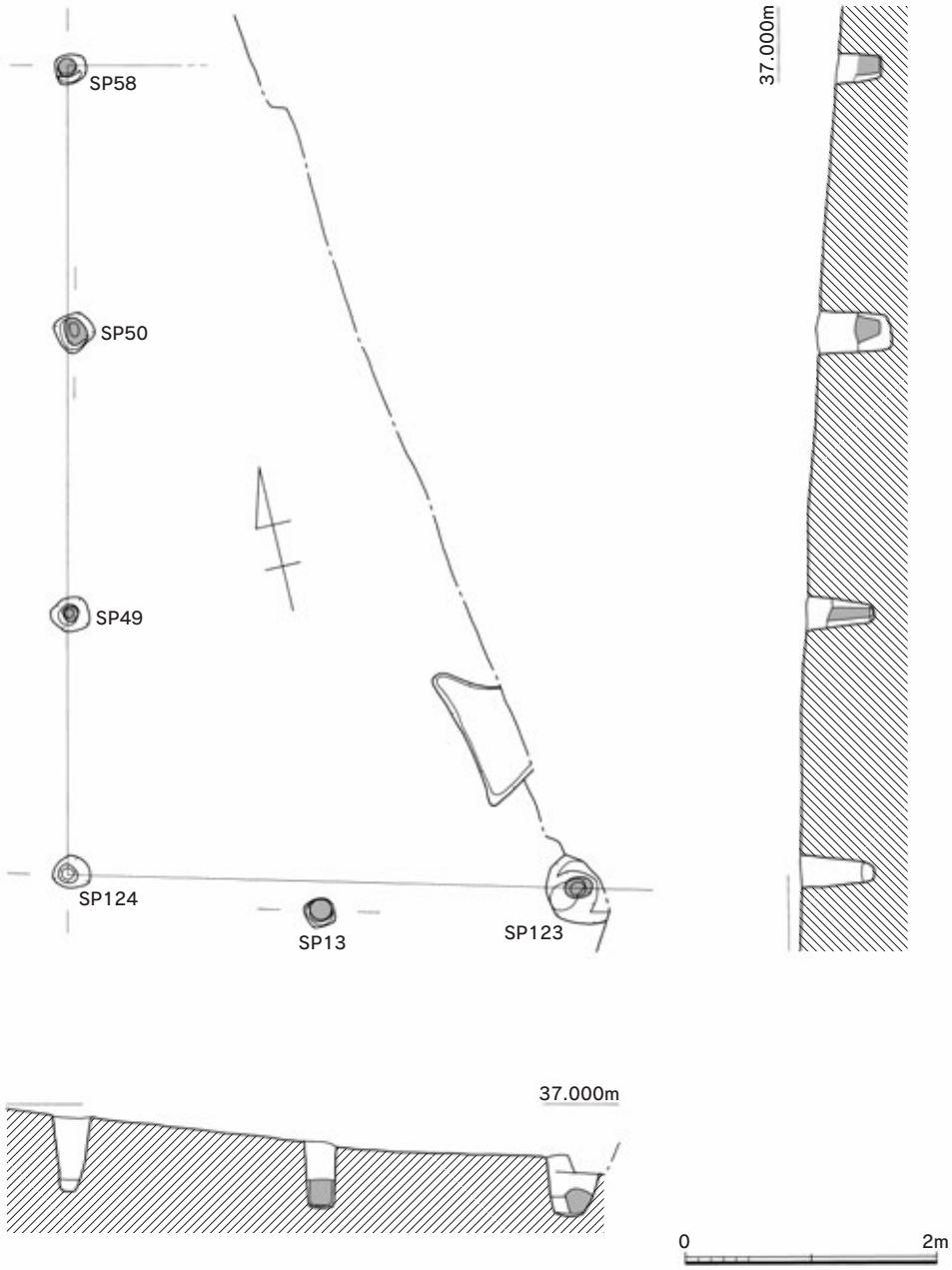
調査区のほぼ中央部に位置し、ＳＢ02の南東隅の柱を切る。長さ2.15ｍ、幅1.31ｍ、深さ0.67ｍ。不整形プランを呈するが、楕円形プランの土坑２基が切りあうようにも見える。ただし、土層上では切り合いは確認されていない。土坑は二段掘り状を呈し、中央部が深く掘り込まれ、埋土は褐灰色土～褐色土、炭・焼土を含んでいた。北側のテラス面からは、土師器・黒色土器が大量に出土した。その他、出土遺物は須恵器・鉄滓などがある。



第８図　１次ＳＢ02実測図（１／60）

出土遺物（第12図）

土師器（４～11）　４は小皿。浅く、体部と底部の境は丸い。５・６は杯。５は通常の杯と器形が異なり、体部は直立に近く、体部と底部の境は丸い。６は底部ヘラ切り。口径11.0cmに復元される。７～11は椀。７は体部は丸く、浅い。８は体部上半を失うが、７に比べて細く高い高台を有しやや大型。９～11は高台部のみ図化できた。いずれも細く、やや低い。



第９図　１次ＳＢ03実測図（1／60）

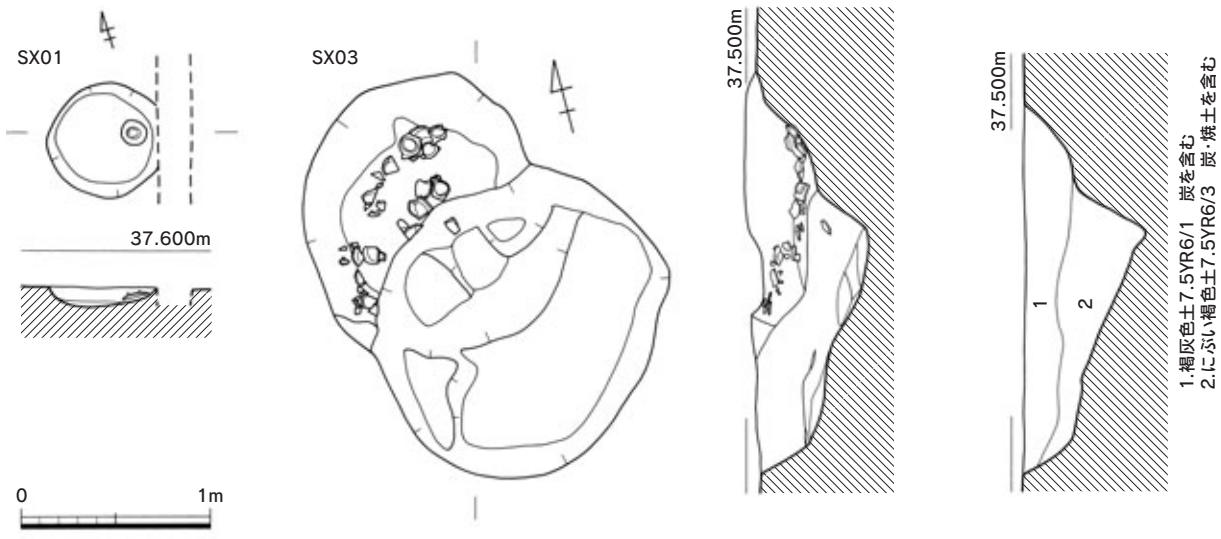
黒色土器（12～15）　12～14はＡ類の椀。12・13は体部は丸く、杯部はやや浅い。14は、細くやや高い高台を有する。15はＢ類の椀。高台は細くやや高い。

磁器（16）　白磁椀。口縁部のみの小片。細い玉縁がつく。

鉄滓（17）　径1.3～1.6cmの粒状を呈する。

ＳＸ13（第11図）

調査区の東側中央部に位置し、ＳＸ14を切る。一辺7.85ｍの方形プランの一部が確認できるが、大半は調査区外へとのび全形は明らかではない。深さは10cm前後と浅い。調査区壁際には焼土も確認された。調査時には竪穴住居の可能性も考えたが、調査区東側土層には掘り方が認められず、包含層の一部であった可能性も含めて性格不明とせざるをえない。出土遺物は、須恵器・土師器が出



第10図　１次ＳＸ01・03実測図（1／40）

土した。

出土遺物（第12図）

須恵器（18）　杯蓋。つまみは欠損する。端部の折り曲げはしっかりしており、天井部外面の回転ヘラケズリの範囲は広い。

ＳＸ14（第11図）

ＳＸ13に切られており、完掘後プランを確認し、掘り下げをおこなった。したがって、第２面の遺構である可能性もある。長さ1.25m、幅0.89m、深さ1.32m。楕円形プランを呈し、段を持って深い掘り方を有する。埋土はにぶい黄橙色土でわずかに炭を含む。出土遺物は須恵器・土師器・黒曜石チップが出土している。

出土遺物（第12図）

須恵器（19）　杯身。高台は低く、杯部底面は平らになる。

石器（20）　細石器の可能性もあるが、使用痕が認められないことから縦長剥片としておく。上下を欠損しており、全形は不明。

ＳＸ15（第11図）

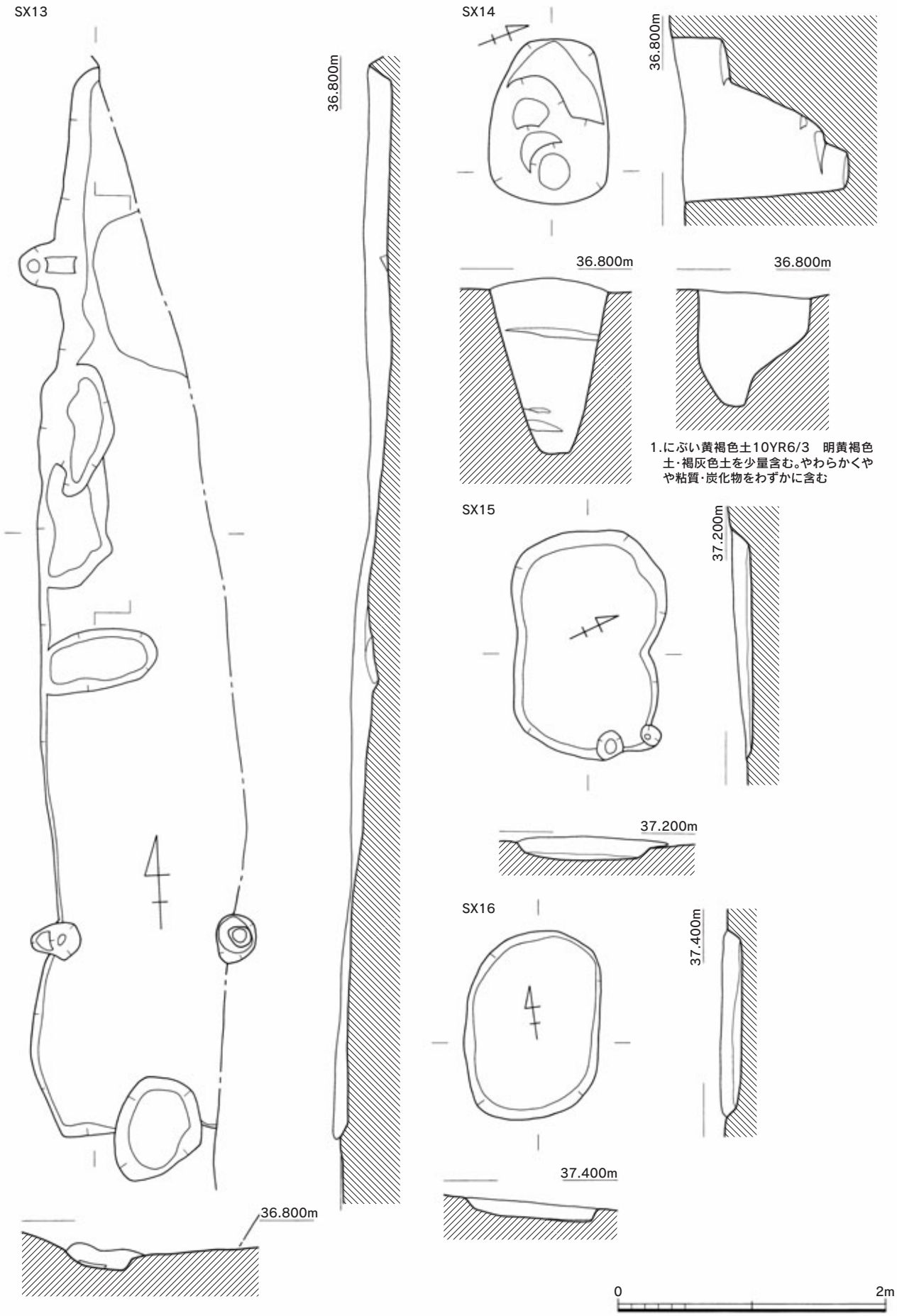
調査区南東側に位置する。長さ1.7m、幅0.98m、深さ0.15m。不整楕円形プランを呈するが、掘り方は浅い。出土遺物は、土師器が多量に出土し、その他黒色土器・瓦器・白磁などがある。

出土遺物（第12図）

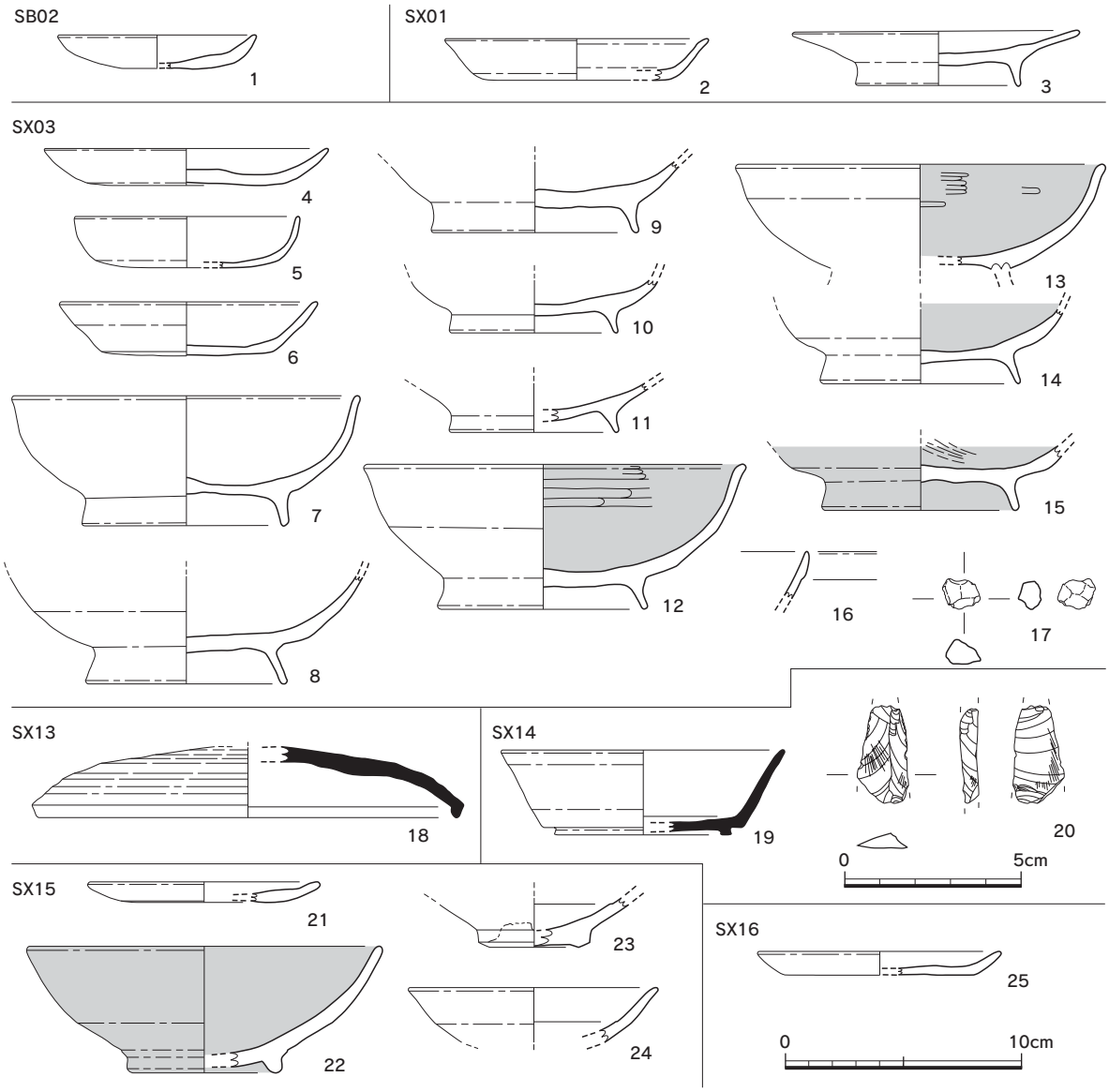
土師器（21）　小皿。小片のため口径の復元に難があるが、器高は0.9cmと低い。摩滅により糸切り・ヘラ切りの別は不明。

黒色土器（22）　Ｂ類の椀。高台は低く、丸みをもつ。

磁器（23・24）　いずれも白磁皿。23は体部上半を欠損するが、体部は外上方へのびる。太宰府分類白磁皿ＸⅠ類。24は体部のみの破片。中位は緩く屈曲する。



第11図　１次ＳＸ13～16実測図（1／40）



第12図　１次ＳＢ02・ＳＸ01・03・13～16出土遺物実測図（20は1／2、他は1／3）

ＳＸ16（第11図）

調査区の南東側に位置し、ＳＸ15の西側に位置する。長さ1.4m、幅1.0m、深さ0.15m。楕円形プランを呈し、ＳＰ228を切る。底面は浅く平らであり、出土遺物は土師器が主である。（石木）

出土遺物（第12図）

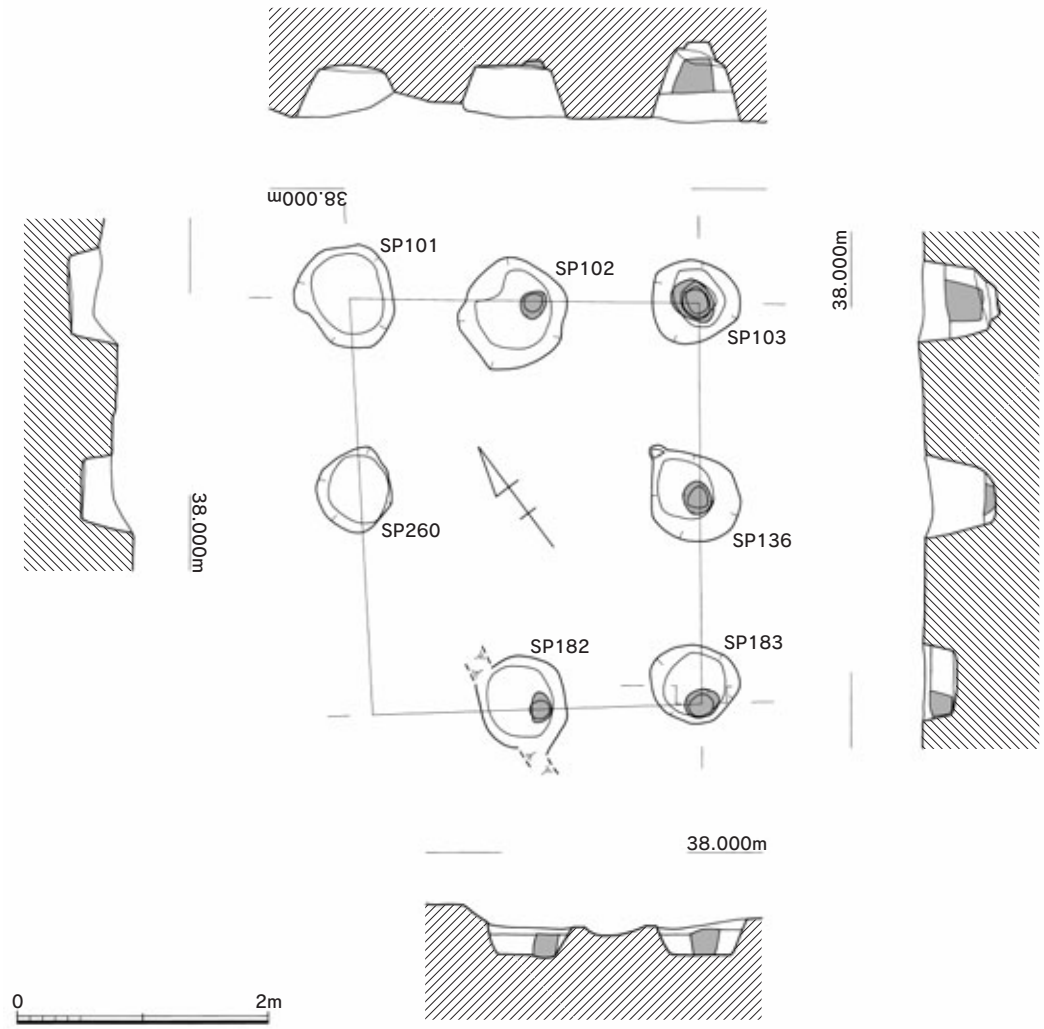
土師器（25）　小皿。底部糸切り。

ⅱ）第２面の遺構

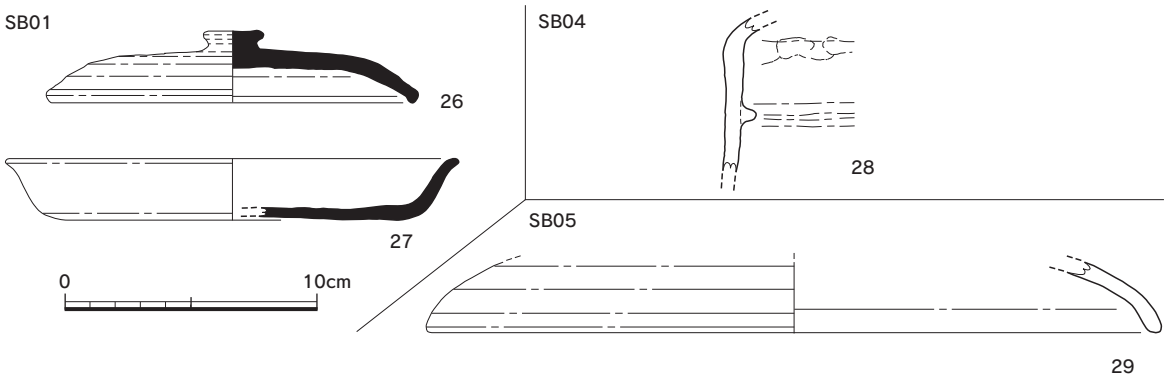
①掘立柱建物

ＳＢ01（第13図・図版３）

調査区の西側中央部に位置する。２×２間の規模を有する側柱建物である。桁行3.17m、梁行2.75m。柱穴はＳＤ01・02に切られ、建物の南西隅の柱は調査区外にのびる。柱の掘方は径0.6～0.9m、深さ0.25～0.6mの略円形プランを呈し、確認された柱痕は径20～30cm程度であった。建物は元々傾斜面にあったと思われ、斜面下方にあたるＳＰ103・136の柱穴が深く掘り込まれている。



第13図　1次 ＳＢ01実測図(1／60)



第14図　1次 ＳＢ01・04・05出土遺物実測図(1／3)

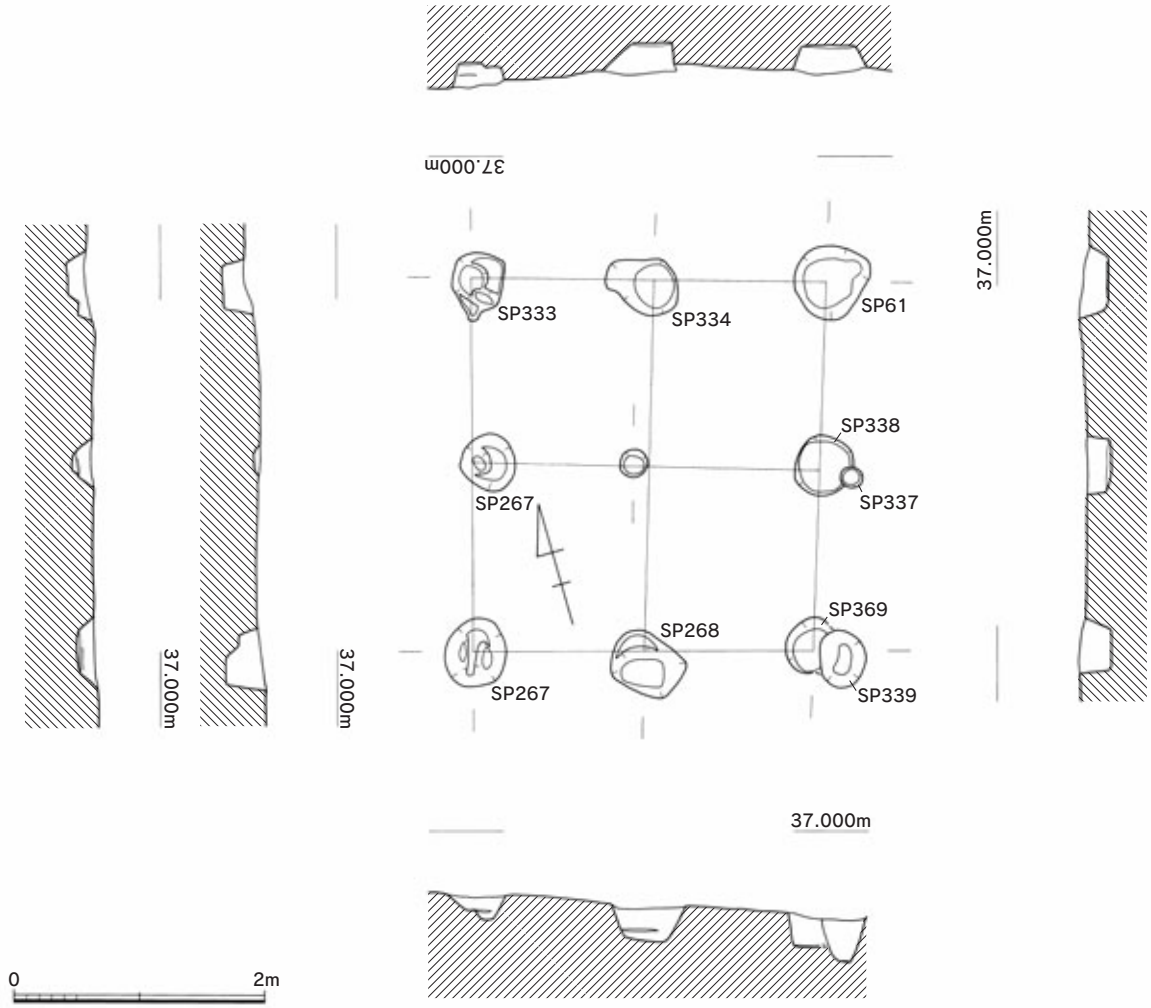
各柱穴からは、須恵器・土師器・白磁が出土している。　（石木）

出土遺物(第14図)

須恵器（26・27）　26は杯蓋。つまみは高いが、天井部は平らに近い。天井部外面はヘラ切り後ナデる。27は皿。口縁端部を外反させる。

ＳＢ04（第15図・図版４）

調査区の東側に位置する。２×２間の規模を有する総柱建物である。桁行2.95m、梁行2.7～2.84



第15図　１次 ＳＢ04実測図(1／60)

m。柱穴のうち北東隅のＳＰ61は第１面上で確認していたが、柱配置から第２面遺構にともなうものとしておく。柱の掘方は径0.45～0.6m、深さ0.2～0.3mの略円形プランを呈する。東柱は径0.2m、深さ5cmと他の柱より浅く小さい。柱痕は確認できなかった。建物は元々傾斜面にあったため、斜面下方にあたる柱の方が深く掘り込まれている。ＳＰ369とＳＰ339は切り合うが、柱通りからＳＰ369が建物に伴うと考える。各柱穴からは、須恵器・土師器・弥生土器が出土している。図化できたのは弥生土器のみであったが、その他小田編年、Ⅳ期の須恵器が出土している。

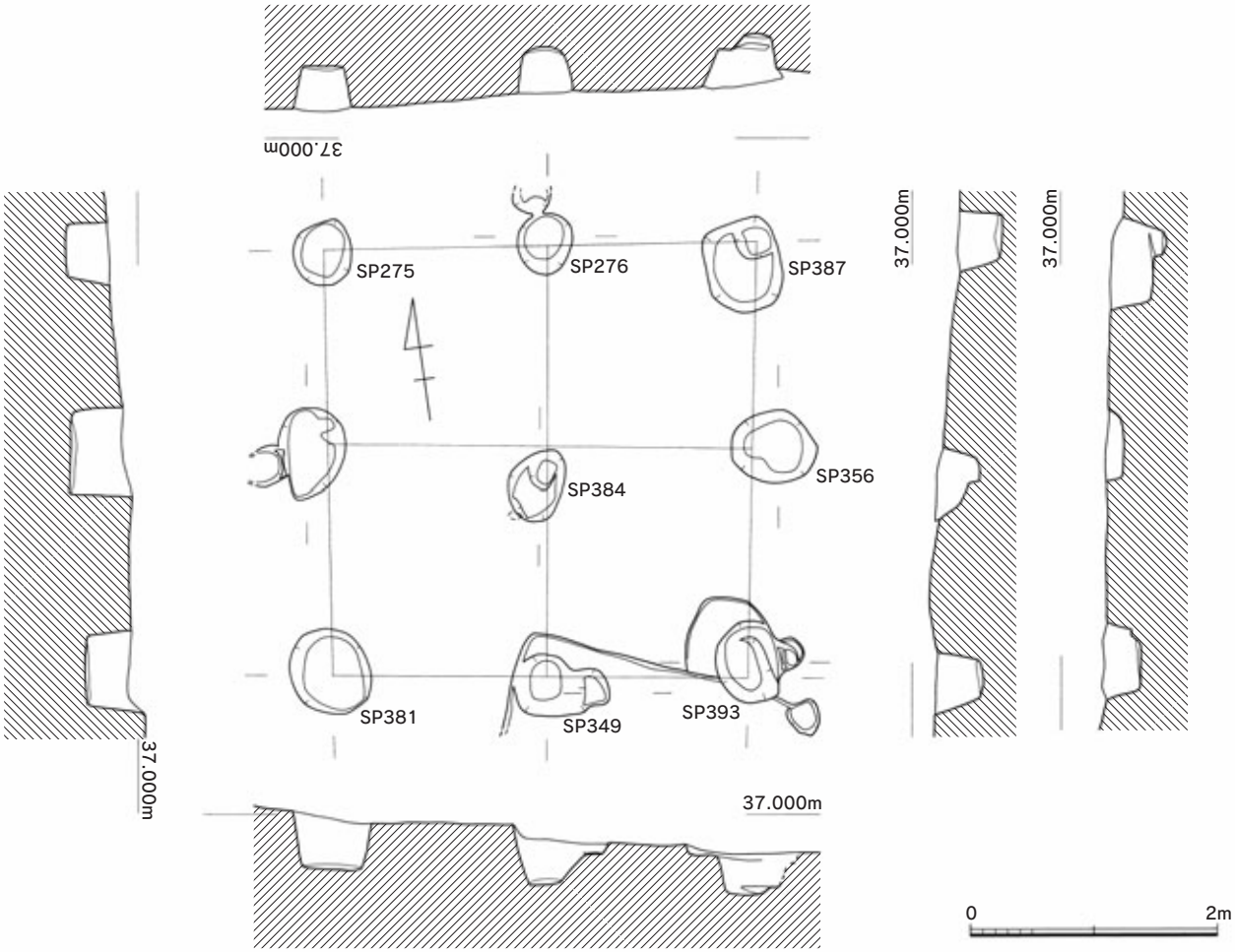
出土遺物（第14図)

弥生土器（28）　甕の体部～口縁部の小片。頸部から下がった位置に突帯を貼り付ける。

ＳＢ05（第16図）

調査区の東側に位置し、ＳＢ04の南側３mに隣接するが、主軸方位はずれている。２×２間の規模を有する総柱建物である。桁行3.38～3.43m、梁行3.38～3.8m。柱の掘方は径0.45～0.65m、深さ0.15～0.5mの略円形プランを呈する。柱痕は確認できなかった。各柱穴からは、須恵器・土師器が出土している。

出土遺物（第14図)



第16図　１次ＳＢ05実測図（1／60）

土師器（29）　蓋か？小片のため、全形不明。

②竪穴住居跡

ＳＣ01（第17図・図版４）

調査区の北側に位置し、方形プランを呈する。遺構検出時にコーナー部を確認し、掘り下げた結果壁溝が巡り、床面が水平となることから竪穴住居跡と確認したが、北側に隣接する12次調査では住居の痕跡は確認できなかった。壁溝の範囲は南壁2.95ｍ、西壁1.9ｍを確認したが、住居の北側は調査区外へのびており、また東側は掘り込みが認められなかったため規模は明らかにできない。主柱穴は２本確認され、柱穴間は1.52ｍ。４本柱の住居と考えられる。埋土は灰黄褐色土、炭を多く含んでいた。深さは最大でも15cmと非常に浅い。貼床は認められなかった。出土遺物は、須恵器・土師器・鉄滓などがある。

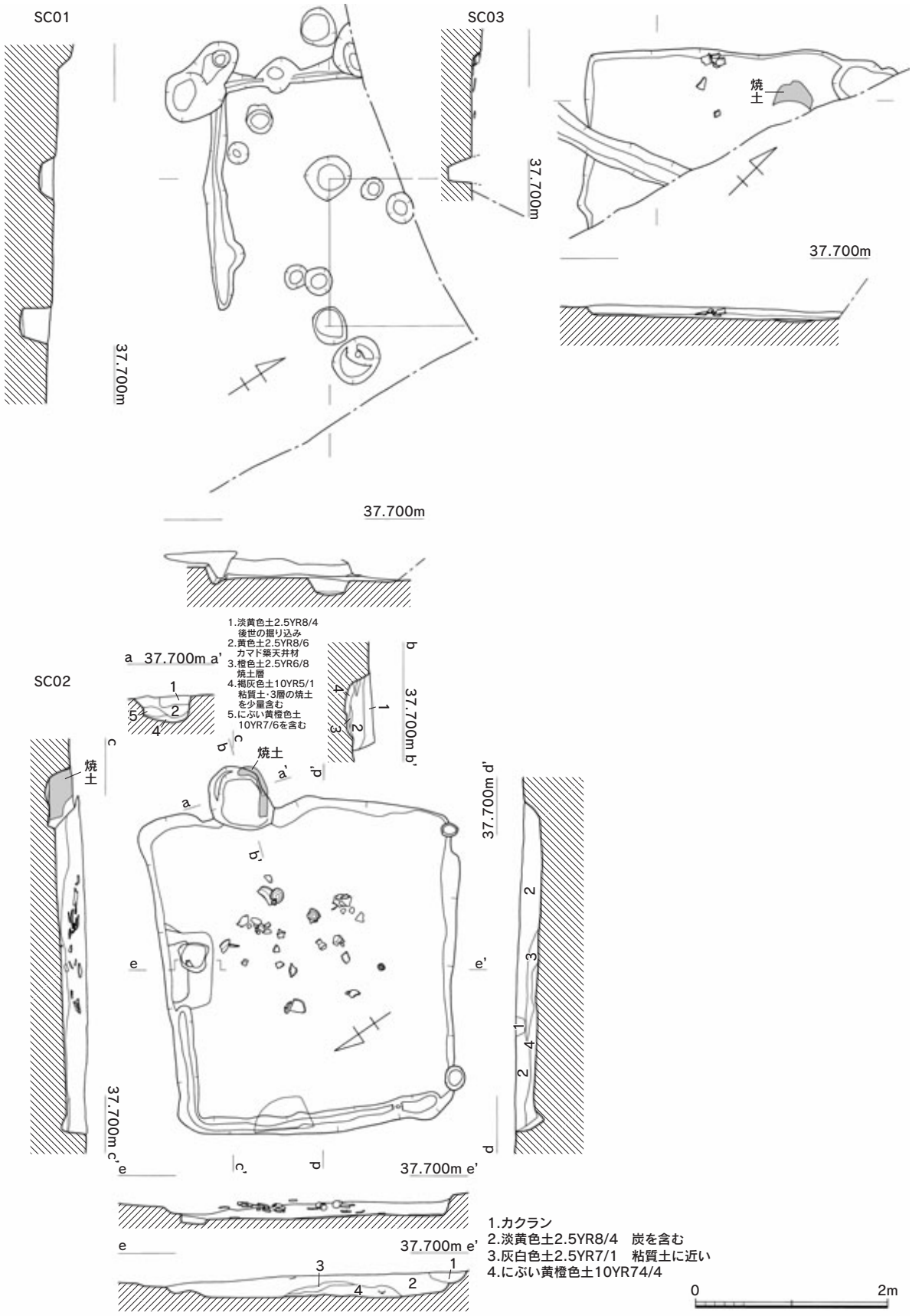
出土遺物（第18図・図版59）

須恵器（30・31）　いずれも杯蓋。30は乳頭状のつまみをもつ。31は端部の折り曲げが長い。

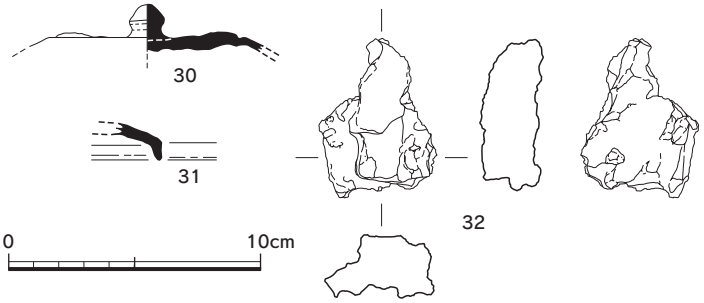
鉄滓（32）　長さ6.3cm、重さ72.1ｇ。椀形鍛冶滓片である。

ＳＣ02（第17図・図版５・６）

調査区のほぼ中央に位置し、ＳＣ01と同じ主軸方位をとる。東壁3.21ｍ、南壁3.15ｍ、西壁2.88



第17図　１次ＳＣ01～03実測図（1／60）



第18図　１次ＳＣ01出土遺物実測図（1／3）

m、北壁3.2mと西壁がやや狭い台形状のプランをとる。深さは0.15～0.23m。第１面と同じ時期のピットに切られている。東壁にはカマドが住居の掘方外に掘り込まれ、中央部よりやや北側に位置する。北壁中央部には床面から約５cm上がる段が設けられ、ここから西壁まで壁溝が巡らされる。西壁の壁溝上では炭が検出され、土層断面から見て、住居使用時に壁溝を埋めていた可能性がある。柱穴は確認されなかった。埋土は淡黄色土～灰白色土～にぶい黄橙色土。床面から浮いた状態で須恵器・窯壁などが出土した。

カマドは長さ0.65m、幅0.55m。東壁より突出し、床面は住居床面から15cmほど掘り下げている。南側壁面は被熱を受け、赤く酸化している。袖部は確認されなかった。出土遺物は須恵器・土師器・瓦・白磁などがある。

出土遺物（第19図・図版59）

須恵器（33～48）　33～37は杯蓋。いずれも杯Ｂ蓋であり、33・34はつまみが認められない。いずれも天井部外面に回転ヘラケズリを施し、口縁部の折り曲げをおこなうが、つまみは扁平なものと高いものとがある。38～40は杯身。38は杯Ｈ身。立ち上がりは細く、内傾する。39・40は杯Ｂ身。39は小型で、深い杯部を有する。40は焼きが悪く、焼け歪んでいる。41・42は皿。41はやや焼成不良。42は口縁部を平らに面取りしているが、器形は通常の皿と変わらない。43は高杯。口縁端部は直立し、杯部は直線的になる。44は鉢。口縁端部は平らに面取りされ、内傾する。体部はややふくらみをもって底部へといたる。45～47は短頸壺。45は蓋。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、精緻な作りである。46・47は小型のもの。46は体部は丸く、外面にカキメを施す。47は口縁部は外反し、肩部に屈曲をもち体部へといたる。46とは異なるタイプのものである。48は瓶。口縁部を失うが、全体に残りがいい。底部外面にヘラ記号あり。49は瓦。平瓦であり、外面は平行タタキが施される。50は窯壁。還元しており、固く焼け締まる。

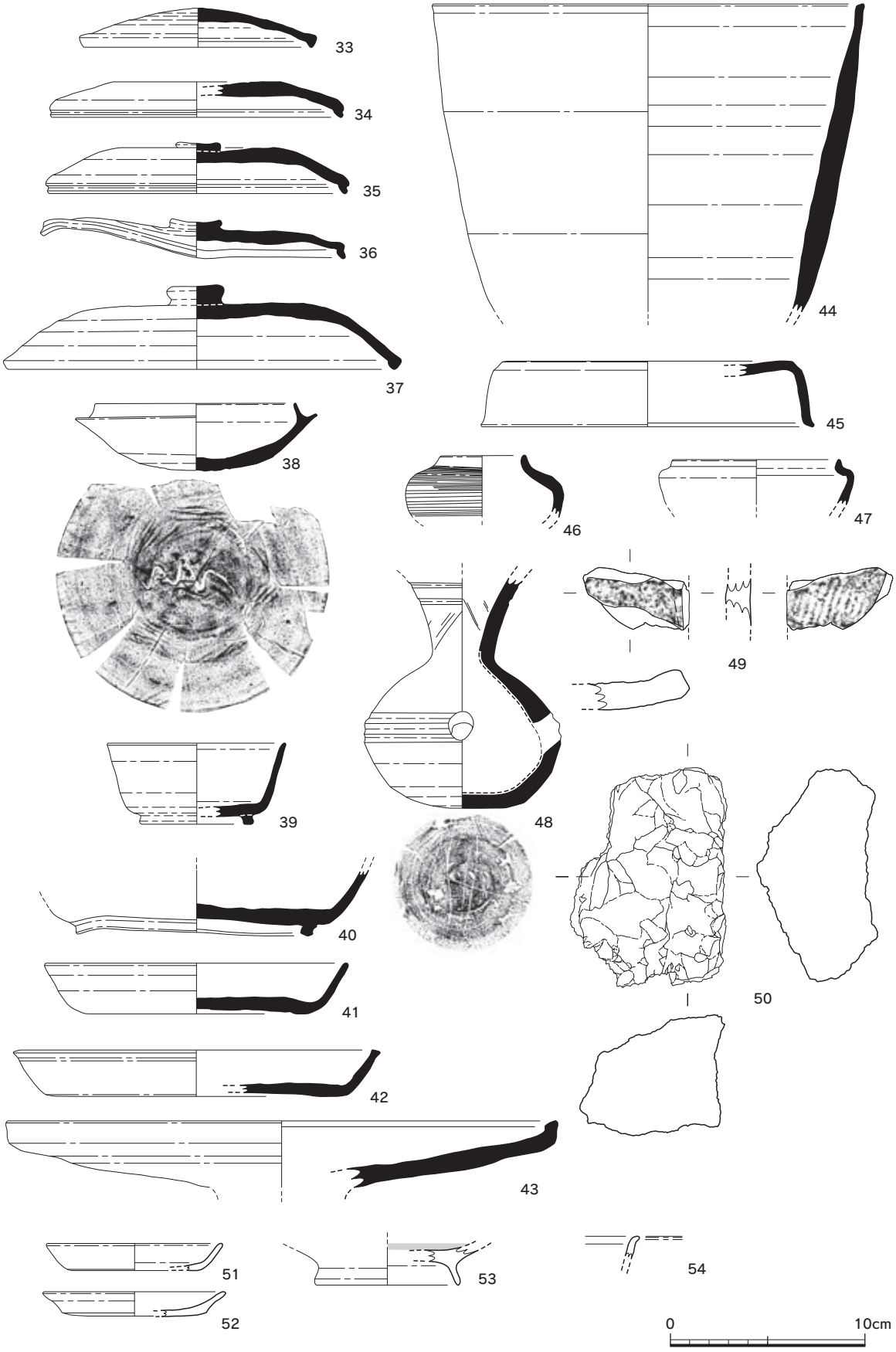
土師器（51・52）　51・52は小皿。底部調整は不明。なお、51～54はいずれも、ＳＣ02を切るピットからの出土。

黒色土器（53）　Ａ類の椀。高台部のみの小片。

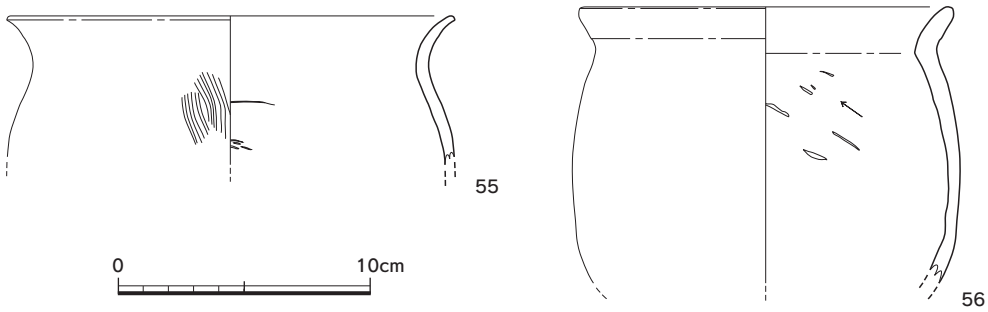
磁器（54）　白磁椀の口縁部。小片である。

ＳＣ03（第17図・図版７）

調査区の南東隅に位置し、住居の東半部は調査区外にのびる。ＳＤ09に切られ、方形の竪穴住居跡のコーナー部分のみが検出された。規模は検出部分で北壁3.2m、西壁1.8m。深さは10cm程度と浅い。北壁に接して床面上から土師器甕がまとまって出土した。また土器群の東側の床面は、壁から離れた所が三日月状に被熱しているが、袖などは確認されなかった。移動式カマドの痕跡であろうか。出土遺物は、須恵器・土師器・石器がある。



第19図　１次ＳＣ02出土遺物実測図（1／3）



第20図　１次ＳＣ03出土遺物実測図（1／3）

出土遺物（第20図）

土師器（55・56）　いずれも甕。口径15～17cmに復元される小型のものであるが、器壁を薄く仕上げるものと厚く仕上げるものがある。

③溝

ＳＤ01（第６図・図版１）

調査区の西端に位置し、田の形に合わせて緩く蛇行しながら南北にのびる。幅0.3～0.4ｍほどで、深さは0.2ｍほどである。溝はＳＤ02を切っている。埋土は浅黄橙色土～灰白色土であり、田の耕作にともなって山側に掘られた水路と考えられる。出土遺物には、須恵器・土師器・瓦器・陶器・磁器がある。

ＳＤ02（第６図・図版１）

調査区の西端に位置し、ＳＤ01と同様に緩く蛇行しながら南北にのびる。南側調査区のＳＤ12も一連の溝と考えられる。幅は0.5～2.0ｍほどであり、深さは0.16～0.4ｍ。埋土は褐灰色土～にぶい褐色土。ＳＤ01と同様の機能が考えられる。出土遺物には、須恵器・土師器・黒色土器・白磁・陶器・瓦がある。（石木）

出土遺物（第21図・図版59)

以下では、ＳＤ01・02出土遺物を併せて報告する。

須恵器（57～59）　57は杯Ｂ蓋。口縁端部は丸く仕上げられ、折り曲げられない。58は杯Ｂ身であるが、高台は雑に貼り付けられる。59は鉢の底部か？回転ヘラケズリ後、弧状のくぼみがつけられる。

土師器（60～62）　60は短く踏ん張る脚部。小皿もしくは椀につくものであろうか？61・62は甑の把手。61はやや丸い体部につくようであり、甕につくものか？

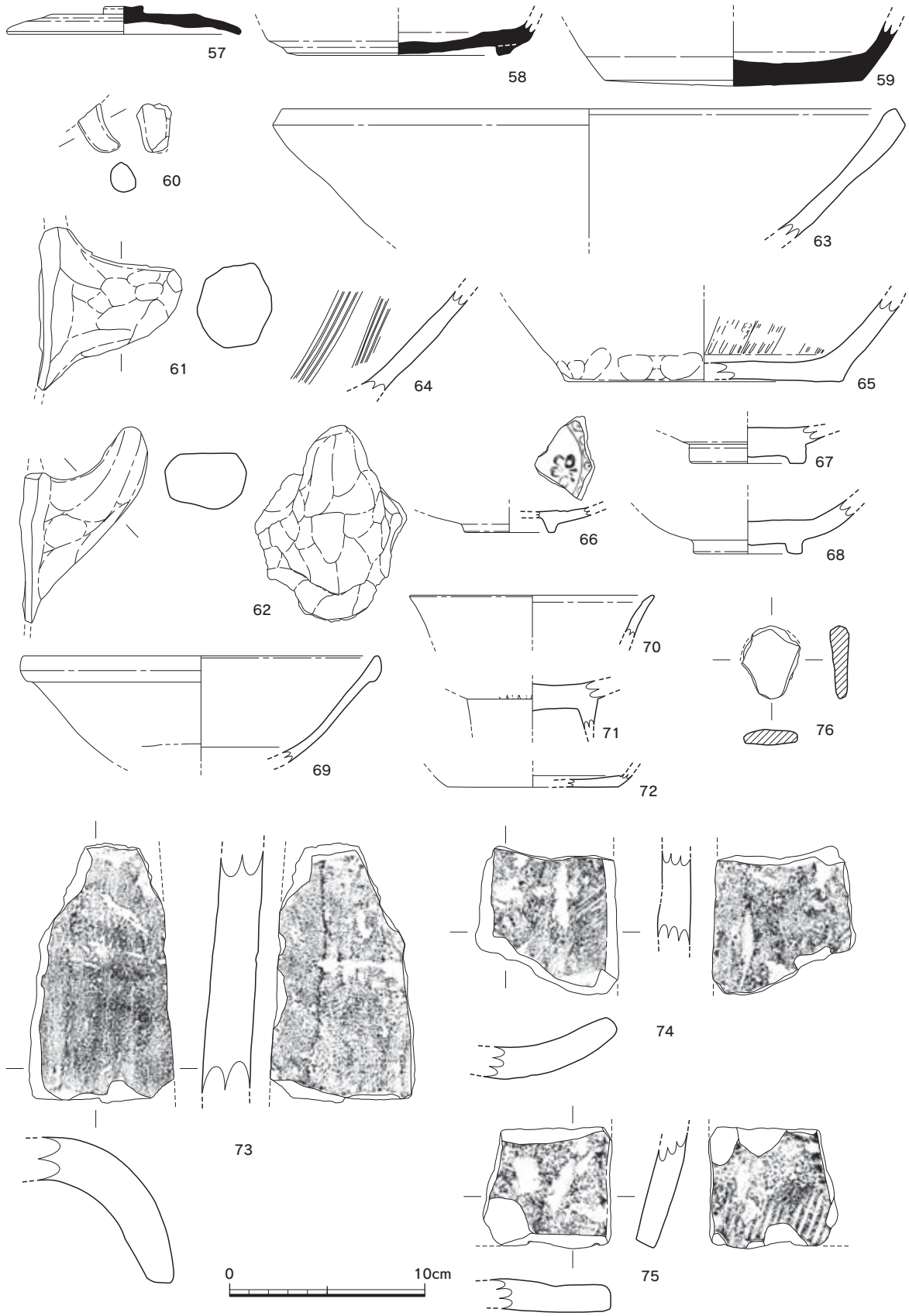
土師質土器（63）　63は鉢。体部は大きく外方へのびる。

瓦質土器（64・65）　いずれも擂鉢。65は擂目が摩滅しており、使用痕と考えられる。

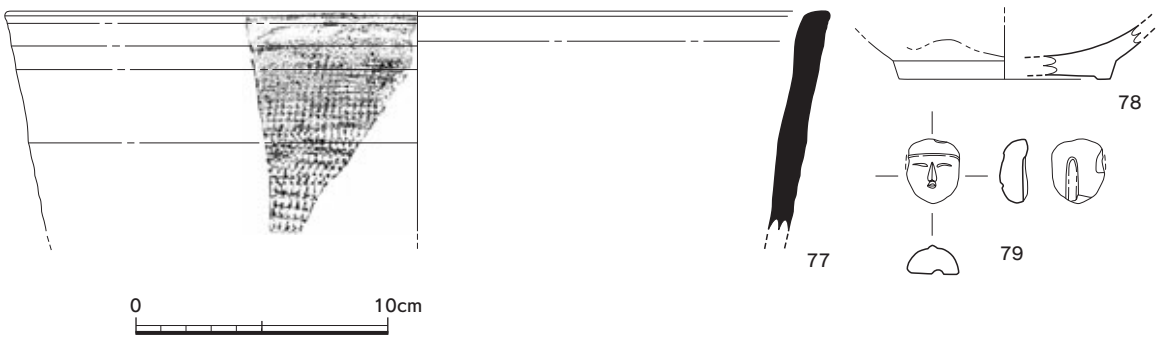
陶器（66）　粉青沙器。器種は小片のため不明。高台部のみ残存。見込みに印花が認められる。

磁器（67～72）　67・68は青磁椀。いずれも無文。太宰府分類Ⅰ類か？69～72は白磁。69～71は椀。69は玉縁をもち、太宰府分類Ⅳ類。70は小片のため、傾き・径の復元に難があるが、小椀となるか？71は細く高い高台を有し、太宰府分類Ⅴ類。72は皿。平底で、内外面ともに施釉される。太宰府分類Ⅸ－１類か？

瓦（73～75）　73は丸瓦。外面縄目タタキ。74は丸瓦としたが、小片のため詳細不明。焼成不良で



第21図　１次ＳＤ01・02出土遺物実測図（1／3）



第22図　１次ＳＤ06出土遺物実測図（1／3）

内外面の調整不明。75は平瓦。外面平行タタキ。

鉄器（76）　扇形にちかい形状をとる。刃部は作り出されず、不明鉄器とせざるをえない。

ＳＤ06（第６図）

調査区の西側、ＳＣ02に隣接し、南北にのびる。北側は幅30～40cmの溝状を呈するが、深さ２cm程度と浅く、南側にいくにしたがい溝の掘り方が失われてしまう。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・磁器などがある。

出土遺物（第22図）

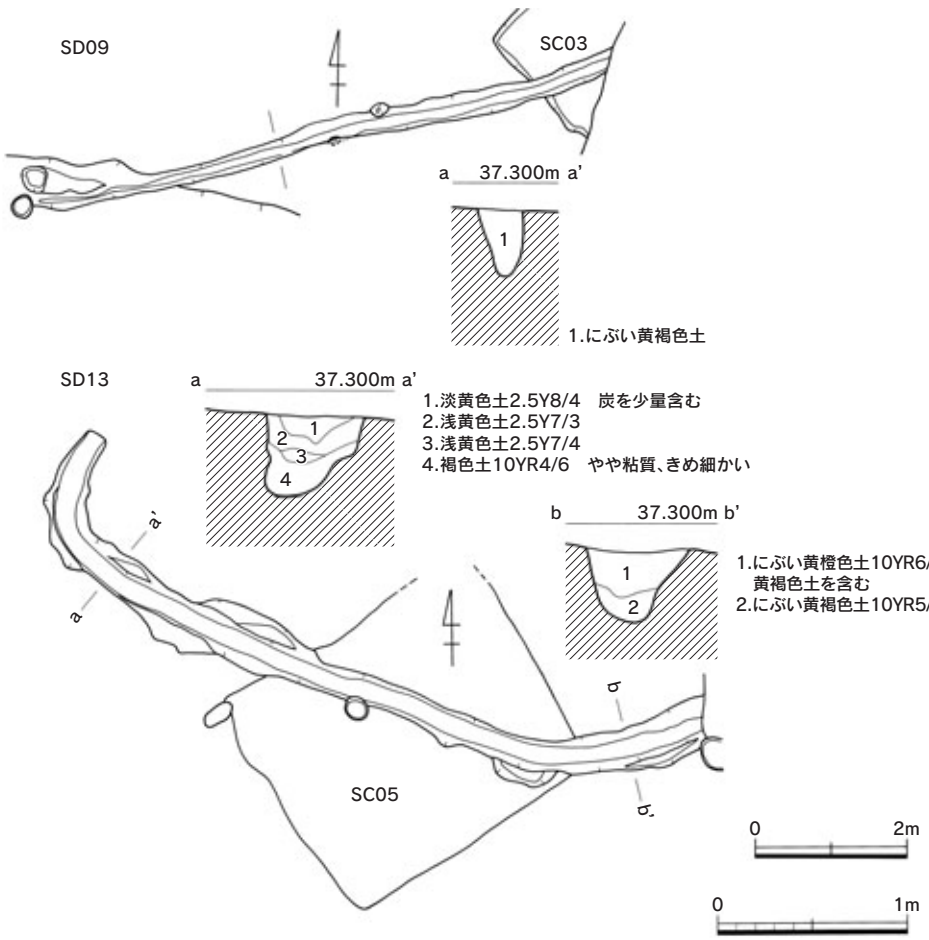
須恵器（77）　鉢か？口縁端部は平らに面取りされ、内傾する。外面に擬格子タタキが施されるが、内面は当て具痕跡は認められない。

磁器（78）

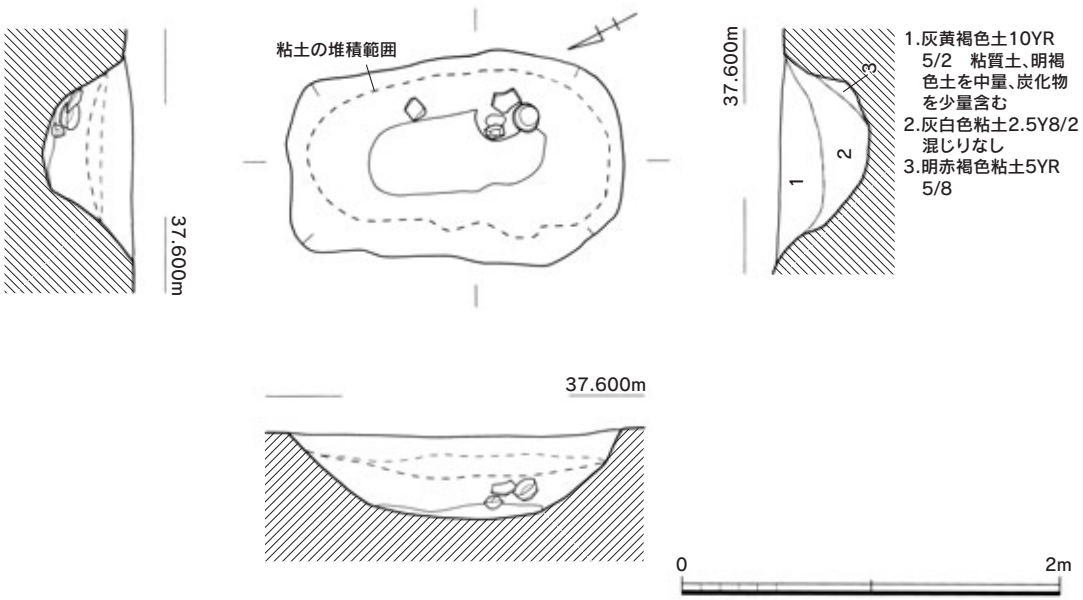
白磁椀。高台のケズリ出しは浅い。

土製品（79）

人面を表現する。内面の剥離状況から、壺などに貼り付けられていたものと思われる。鼻をつまみだし､目･口をヘラ書きにより表現する。



第23図　１次ＳＤ09・13実測図（土層は1／40・平面図は1／100）



第24図　１次ＳＸ02実測図（1／40）

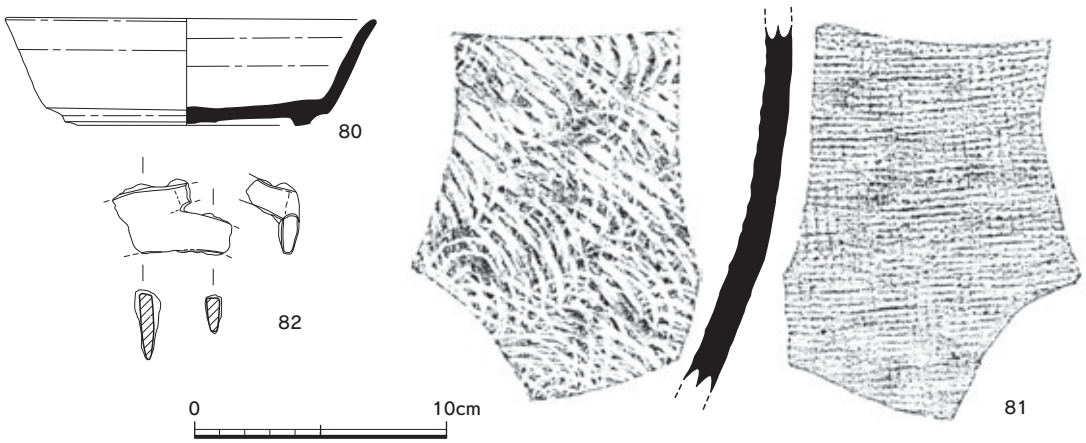
ＳＤ09（第23図）

調査区の南側に位置し、ＳＣ03を切る。谷部からのびて調査区東側へ直線的にのびる。幅0.21～0.35m、深さ0.35～0.4m。断面はU字形を呈し、ＳＣ03側へむかって緩く下っている。埋土はにぶい黄褐色土。出土遺物は、須恵器・土師器がある。出土遺物は図化できるものがなかったが、土師器小皿・椀の小片が含まれている。

④土坑

ＳＸ02（第24図・図版７・８）

調査区の北西側に位置する。長さ1.77m、幅1.09m、深さ0.44m。隅丸長方形プランを呈し、底面は鍋底状を呈する。検出時は灰黄褐色土の埋土を認めて掘り下げを開始したが、掘り下げると20cm程度で粘土が認められた。このため、埋土を除去し粘土の検出をおこなったところ、全面に粘



第25図　１次ＳＸ02出土遺物実測図（1／3）

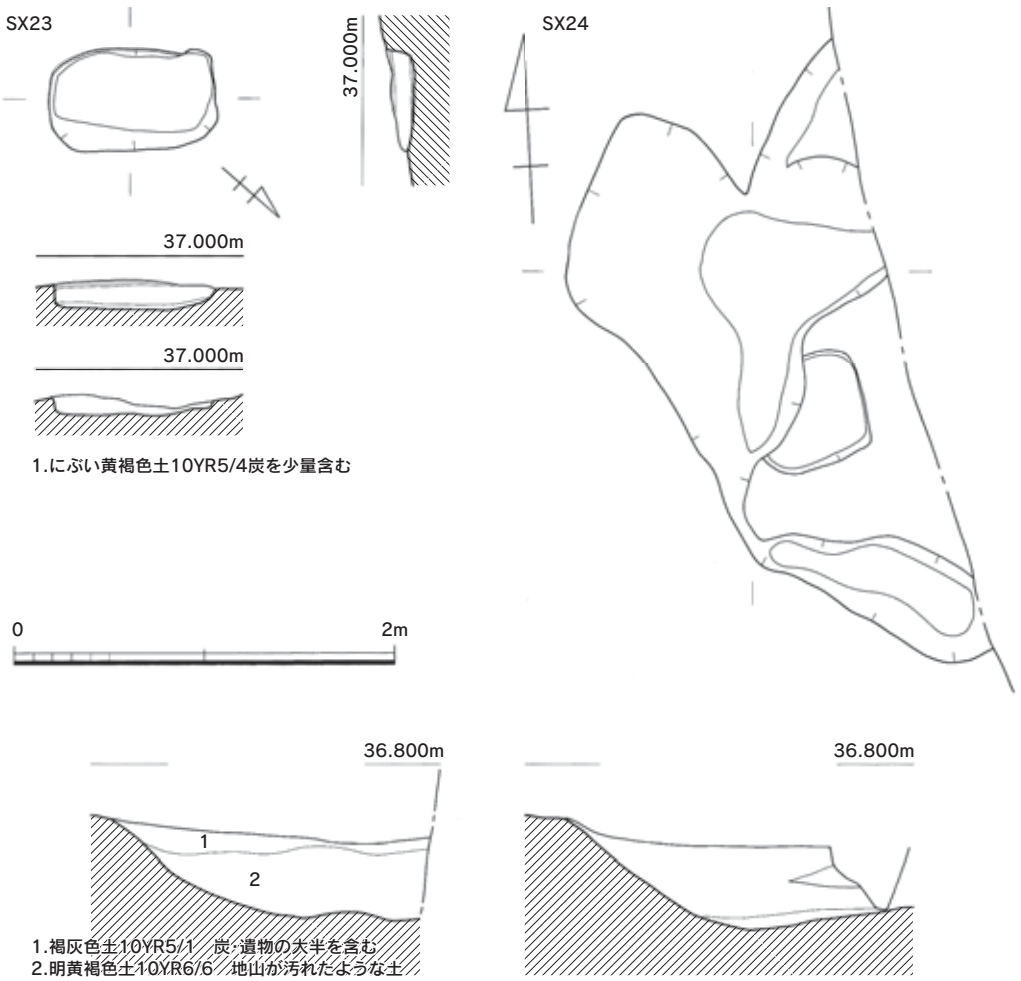
土が堆積する事が確認された。検出された粘土の上面のレベルを測ると、おおむね真ん中にむかって10cm程度緩やかに沈み込んでいた。

この粘土は非常にしまりあり非常に固く、土坑底面まで間層などを挟まない純粋な混じりのない粘土層であった。厚さ約25cm。粘土層中からは、土坑底面の南東側に接して完形の須恵器杯身・甕、石が出土した。粘土の厚さと固さ、完形品の須恵器杯身を合わせて考えると、杯身は粘土が泥状の時に埋没したものと考えられ、粘土層の中央部が沈み込むのも乾燥にともなうものとすることができよう。出土遺物は、埋土中から須恵器・土師器・縄文土器・鉄器、粘土層中から須恵器・土師器が出土した。

出土遺物（第25図・図版59)

須恵器（80・81）　いずれも土坑底面からの出土。80は杯Ｂ身。完形品。高台は低く、内端面で接地する。焼成は良好で、固く焼き締まっているが、器表面は滑らかになっている。81は甕の体部片。外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕。

鉄器（82）　残存部では断面は刀子の刃部状を呈し、途中から背側と刃側に二又に分かれ、背側は約90度折り曲げられる。粘土層上の灰黄褐色土中から出土しており、機能・形態とも全く不明。



第26図　１次ＳＸ23・24実測図（1／40）

ＳＸ23（第26図・図版９）

調査区の東側に位置し、ＳＢ05と重複する。長さ0.87ｍ、幅0.54ｍ、深さ0.1ｍ。長方形プランを呈する焼土坑であり、壁面の上半は赤く被熱している。埋土はにぶい黄褐色土で、炭を少量含んでいた。出土遺物は須恵器・土師器があるが、図化できるものはなかった。

ＳＸ24（第26図）

調査区の東側に位置し、東半部は調査区外へのびるが、隣接する９次調査で土坑の続きは確認できなかった。長さ3.35ｍの不整形プランを呈し、深さ0.5ｍ。埋土は上層が褐灰色土、下層は明黄褐色土。下層は第２面基盤層と弁別が付けづらかった。出土遺物は、須恵器・土師器・鉄滓のほか、被熱された石がある。

出土遺物（第27図・図版60）

須恵器（83～85）　83・84は杯Ｂ蓋。83は山形の高いつまみを有する。85は杯Ｂ身。比較的高い高台を有し、底部と体部の境は丸い。

鉄滓（86～116）　いずれも不定形なもので、４cm程度のものから１cm未満のものまである。上層から多く出土している。86は含銑鉄滓である。

石器（117）　花崗岩。特に加工痕は見当たらない。

ＳＰ292（第28図・図版９）

調査区の南東側に位置する。径0.6ｍ、深さ0.15ｍ。略円形プランを呈し、壁面は直立する。埋土中からは、土師器小皿が口縁部を２枚合わせた状態で出土した。検出時は柱穴と認識し、掘方からも蓋然性は高い。出土した土師器小皿は底面から６cm浮いており、時期的には第１面の遺構にあたることから、ＳＰ292上に存在した第１面から掘り込まれるピットにともなう可能性が高い。他の出土遺物は、須恵器・土師器がある。

出土遺物（第29図・図版60）

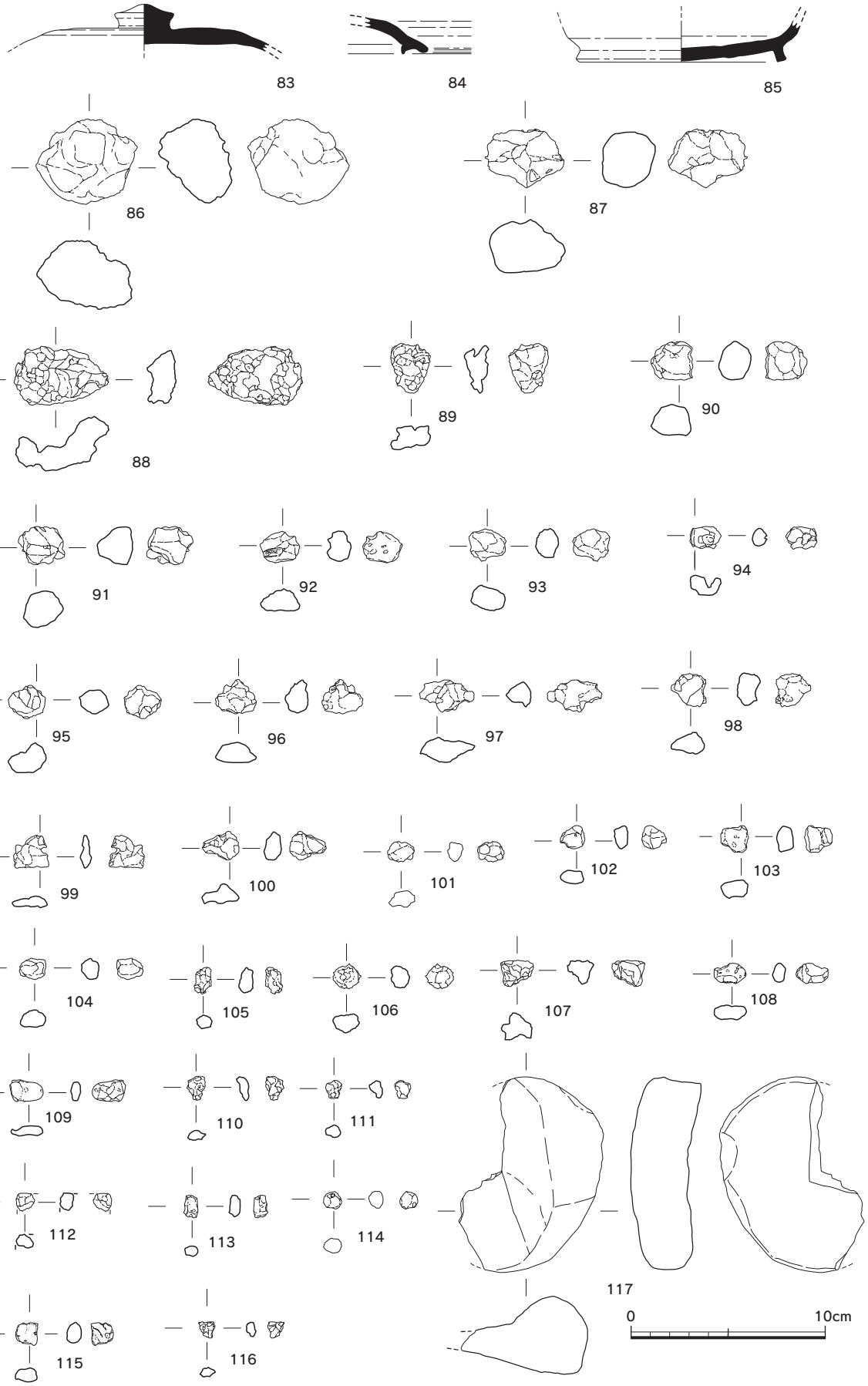
土師器（118・119）　いずれも小皿。ヘラ切り。118は上に被さっていたもの、119は下のもの。口径9.2～9.5cm、器高1.3～1.5cmとほぼ同じ大きさである。119は内面に黒斑を有する。

ＳＰ359（第28図・図版９）

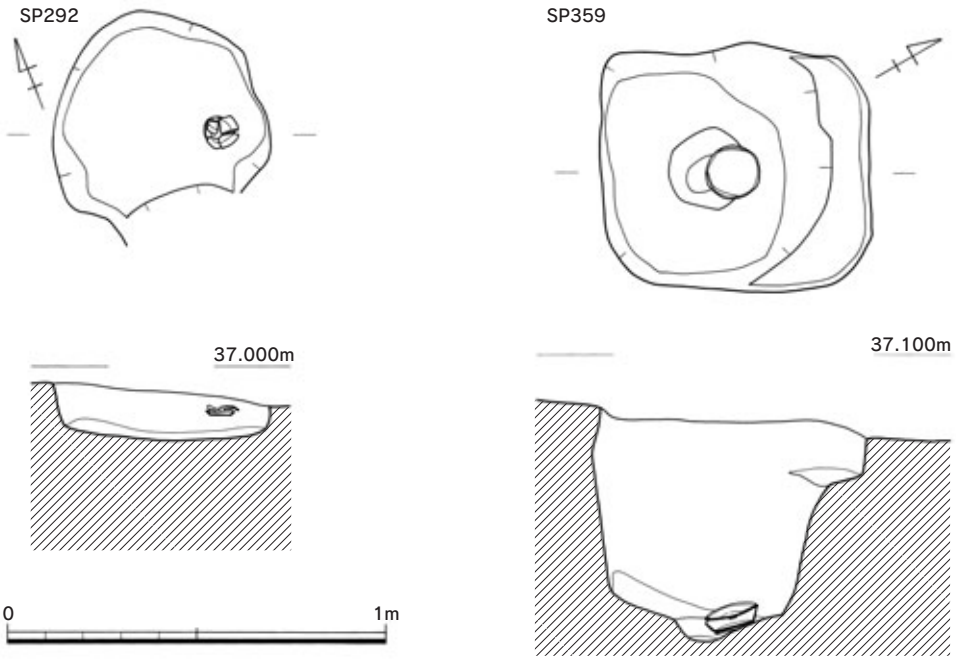
調査区の東側に位置し、ＳＢ05の南側３ｍに位置する。長さ0.71ｍ、幅0.65ｍ、深さ0.53ｍの略方形プランの土坑底面に径0.22ｍ、深さ５cmのピットが掘り込まれる。土坑の北壁は、検出面から12cmほどでテラスがあり、二段掘り状の断面をとる。土坑底面のピットには、完形の須恵器杯身が正置され、杯身上には杯蓋をひっくり返した状態で重ねられていた。他の出土遺物は、須恵器・土師器がある。

出土遺物（第29図・図版60）

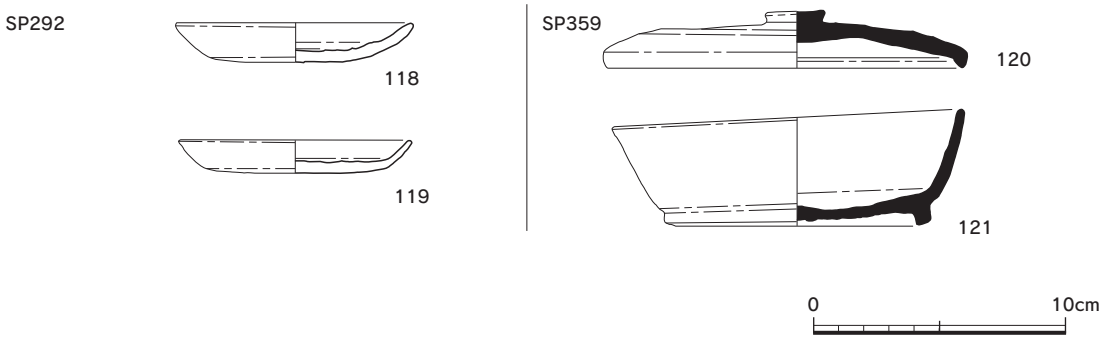
須恵器（120・121）　120は杯Ｂ蓋。つまみは平たく、天井部外面は回転ヘラケズリをともなう。121は杯Ｂ身。底部と体部の境は丸く、高台はやや高くしっかりしている。



第27図　１次ＳＸ24出土遺物実測図（1／3）



第28図　１次ＳＰ292・359実測図（1／20）



第29図　１次ＳＰ292・359出土遺物実測図（1／3）

（3）南側調査区

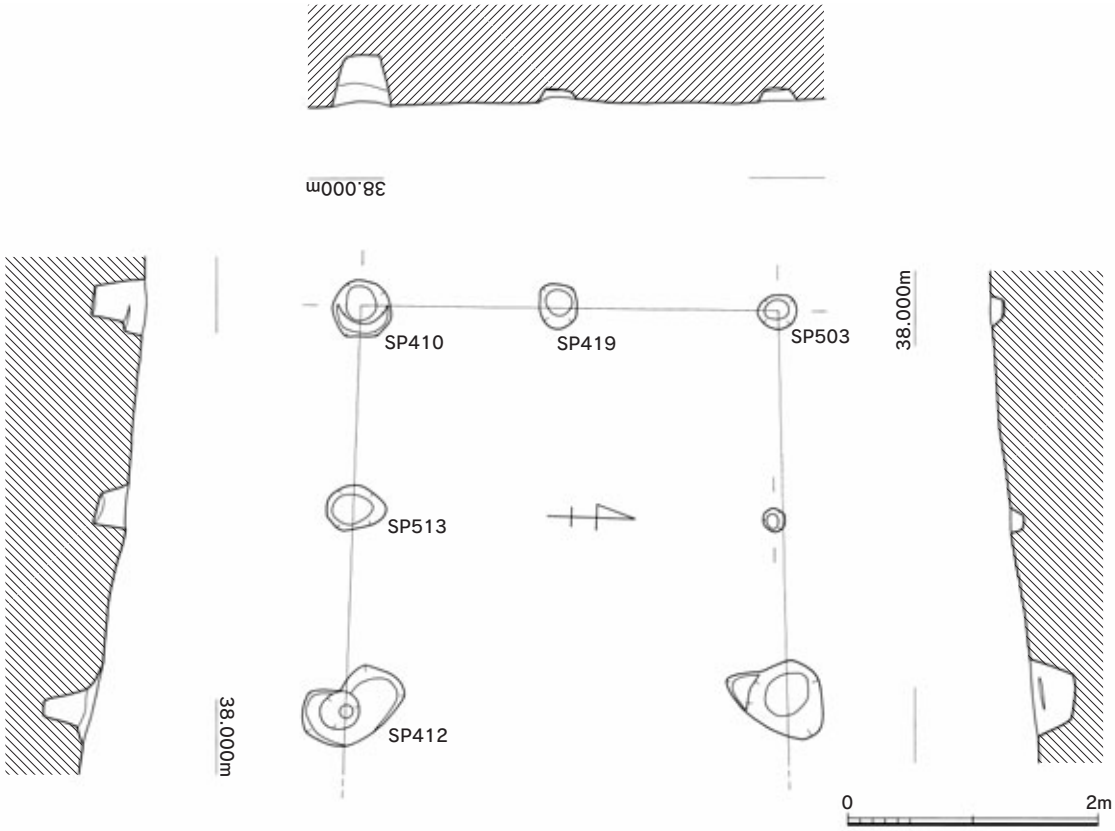
①掘立柱建物

ＳＢ06（第30図）

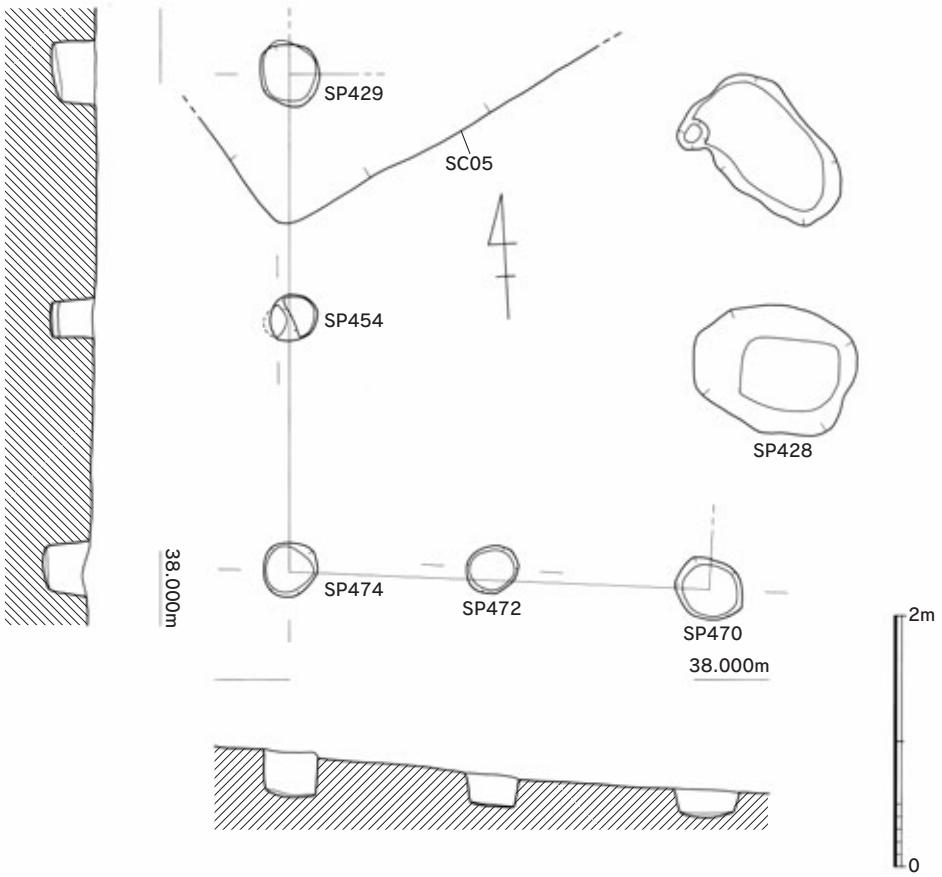
調査区の南側に位置する。２×２間の側柱建物である。桁行3.31ｍ、梁行3.07～3.23ｍ。東列中央の柱はＳＰ500と切り合い失われる。各柱穴からは、須恵器・土師器・黒色土器Ａ類が出土しているが、図化できるものはなかった。

ＳＢ07（第31図）

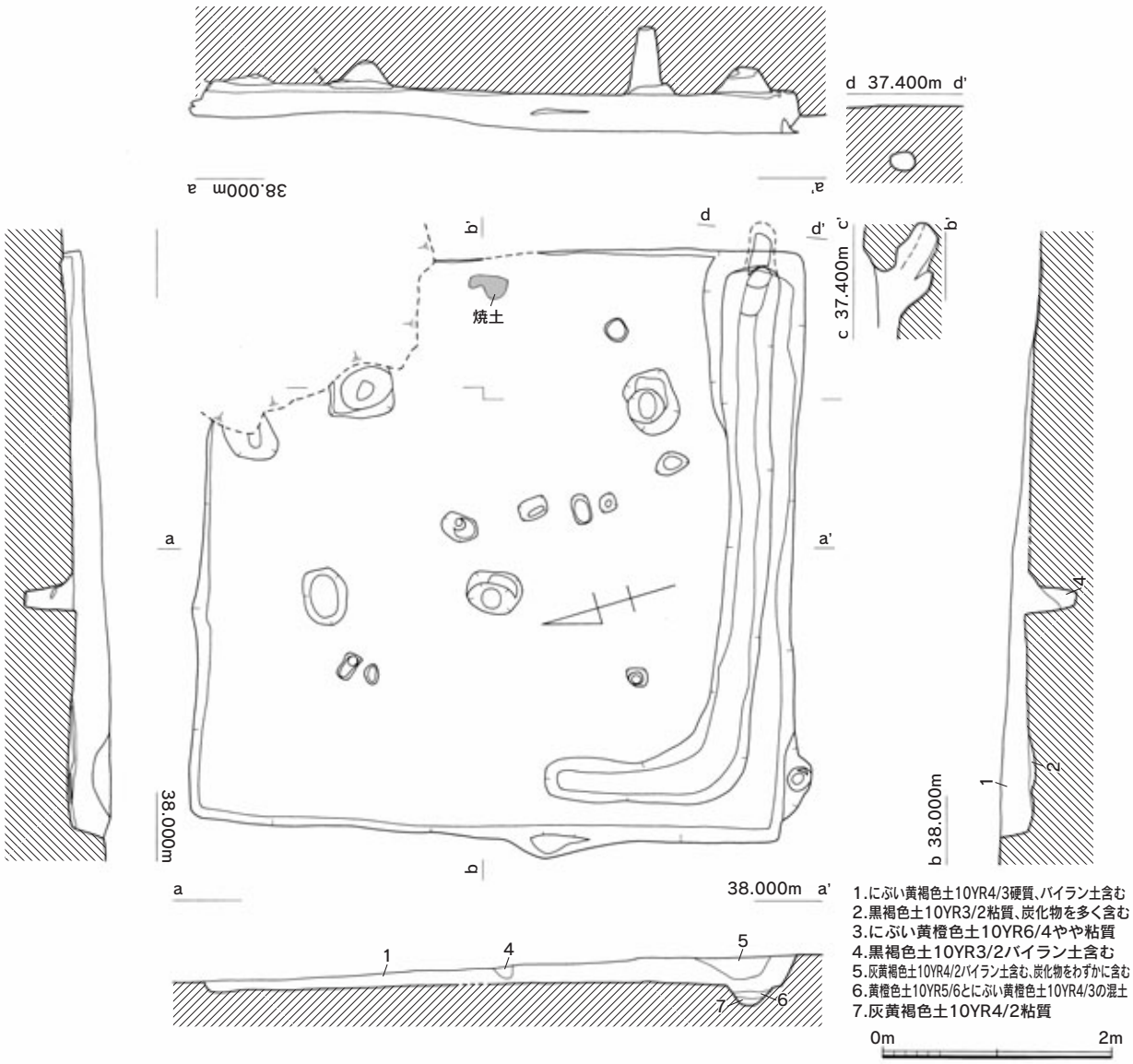
調査区の南側に位置し、ＳＣ05を切る。柱列は西側と南側それぞれ２間分が検出されたが、東・北側柱列は確認できていない。このため建物として扱ってよいか不安があるが、西側柱列が柱間２ｍ、南側柱列が柱間1.65ｍと整うことから、２×２間程度の側柱建物が存在するものと考えた。ほぼ南北方向に主軸をとる。各柱穴からの出土遺物は、須恵器・土師器・鉄釘などがあり、図化できなかったが８世紀後半代のものを含んでいた。



第30図　１次ＳＢ06実測図（1／60）



第31図　１次ＳＢ07実測図（1／60）

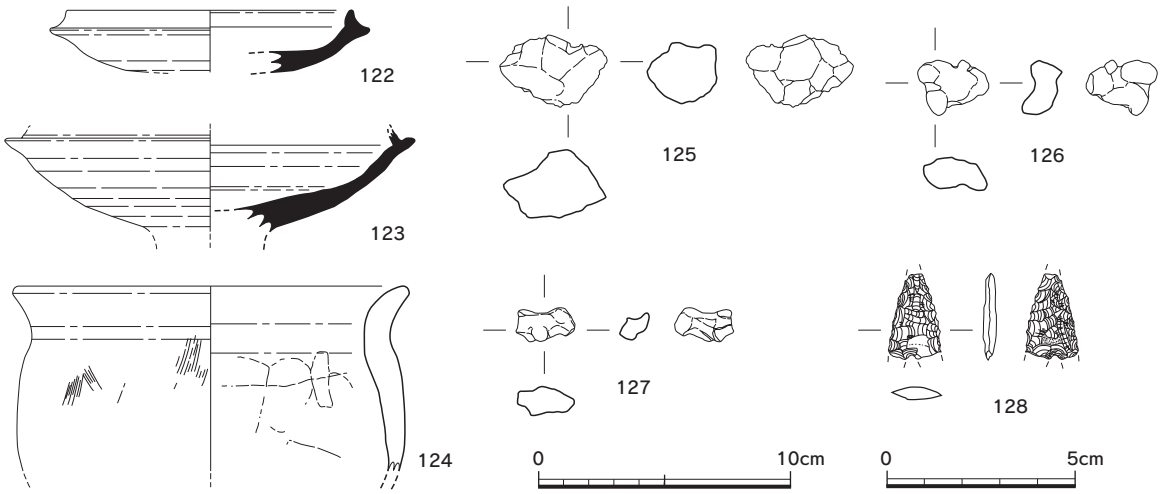


第32図　１次ＳＣ04実測図（1／60）

②竪穴住居跡

ＳＣ04（第32図・図版10）

調査区の北側に位置し、方形プランを呈する。北側調査区のＳＣ02と同じ主軸方位をとる。北東側にコーナー部を失う。南壁長5.1ｍ、西壁長5.1ｍ。深さは斜面上方である西壁側が0.34ｍと深いのに対し、東壁側はわずか1cmほどで、元々掘り込みはあったものの浅かった可能性が高い。主柱穴は東壁側の２本が確認され、４本柱の構造が想定できるが、西壁列の位置にあたる柱穴は小さく、住居に伴うものとはしがたい。西壁の中央から南壁にかけては壁溝が巡らされるが、壁面から10～20cm離れて掘り込まれる。壁溝はさらに地下へ40cmほど掘り進んでいる。カマドは確認されなかったが、東壁中央で15～30cmの範囲でうっすらと赤く被熱した面が認められた。移動式カマドの痕跡か？埋土はにぶい黄褐色土。貼床は認められなかった。出土遺物は、須恵器・土師器・石器・鉄滓・焼土塊がある。



第33図　１次ＳＣ04出土遺物実測図（128は1／2、他は1／3）

出土遺物（第33図・図版60）

須恵器（122・123）　122は小片であるが、杯H身とした。立ち上がりは太く低い。123は有蓋高杯。立ち上がりを欠損するが、外面の回転ヘラケズリの範囲は広い。

土師器（124）　甕。小型。口縁部にススが付着し、内面はナデて仕上げる。

鉄滓（125～127）　いずれも不定形。メタルはほとんど残っていない。

石器（128）　黒曜石製石鏃。先端部と脚部を欠損する。

ＳＣ05（第34図・図版11）

調査区の北側に位置し、北側コーナー部がＳＣ04に接する。ＳＤ13と切り合うが、検出時はＳＤ13→ＳＣ05と考えたが、住居内の土層実測時に貼床を切ると考えてＳＣ05→ＳＤ13とした。しかし、埋土の土層写真を観察しても明確な溝の掘り込みは認められず、貼床を切ると考えた線もあやふやである。したがって、今回遺物も合わせて検討をおこなった結果、ＳＣ05の方が新しい遺物を含むことから、ＳＤ13→ＳＣ05と確認した。

長さ3.77ｍ、幅3.22ｍの略方形プランを呈する。深さは13～20cm。床面下には貼床が認められ、厚さ12cm程度。埋土はにぶい褐色土、貼床上には東壁中央にカマドが確認されたほか、床面上からは粘土が３ヶ所から出土した。主柱穴・壁溝は確認できなかった。

カマドは東壁ほぼ中央部につく。左右には粘土で袖が作られ、長さは0.3～0.55ｍ。出土遺物は、須恵器・土師器・石器・鉄器・焼土塊がある。（石木）

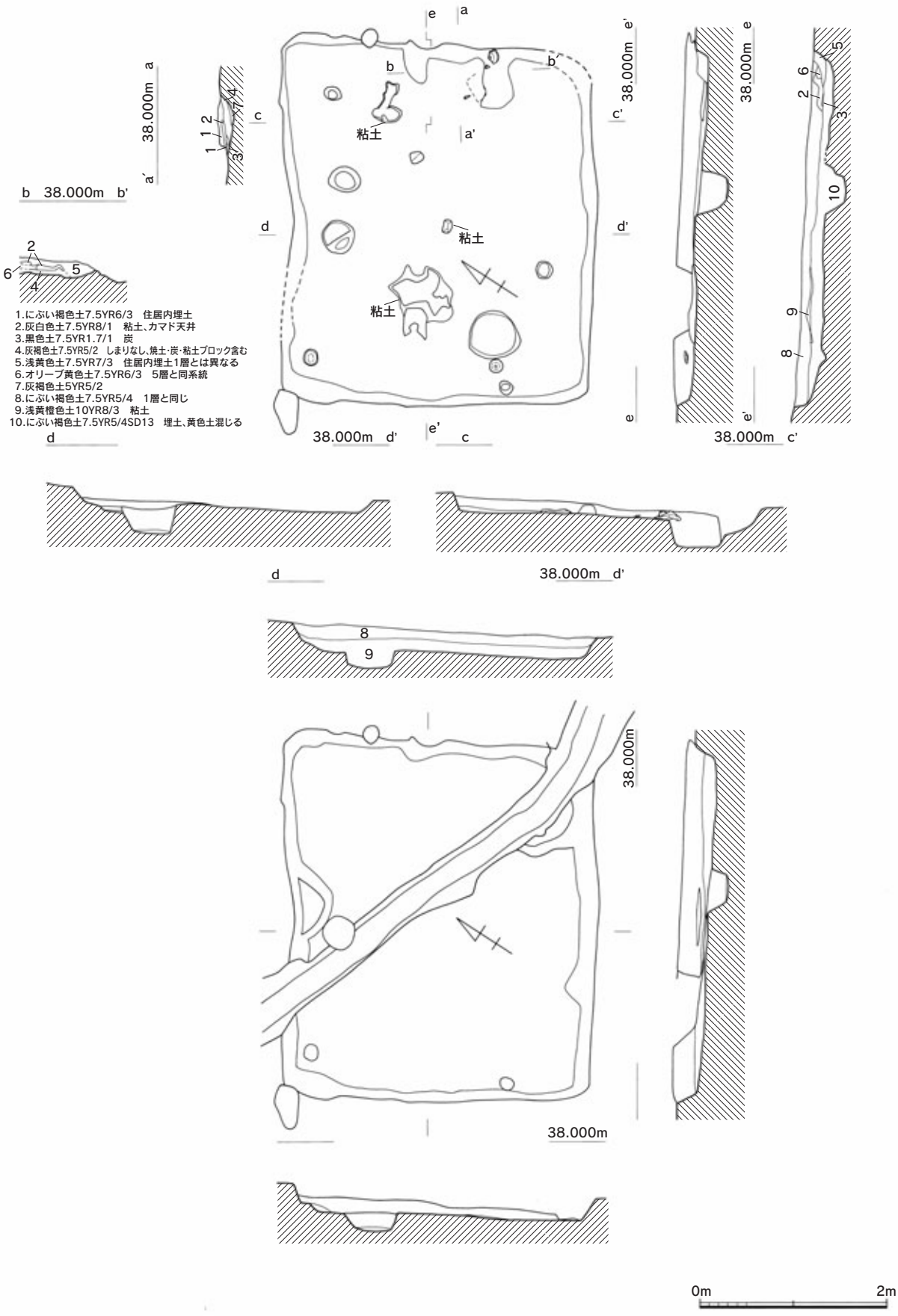
出土遺物（第35図・図版60）

須恵器（129～139）　129～135は杯Ｂ蓋。129はやや高いつまみを有するが、130～132は山形の低いつまみを有する。いずれも端部はやや長く折り曲げられる。133は焼け歪む。136・137は杯Ｂ身。底部と体部の境は丸みを帯びるようである。138は小片のため器種不明であるが、高杯か。139は鉢。体部は丸く、口縁端部は面取りされ、内傾する。

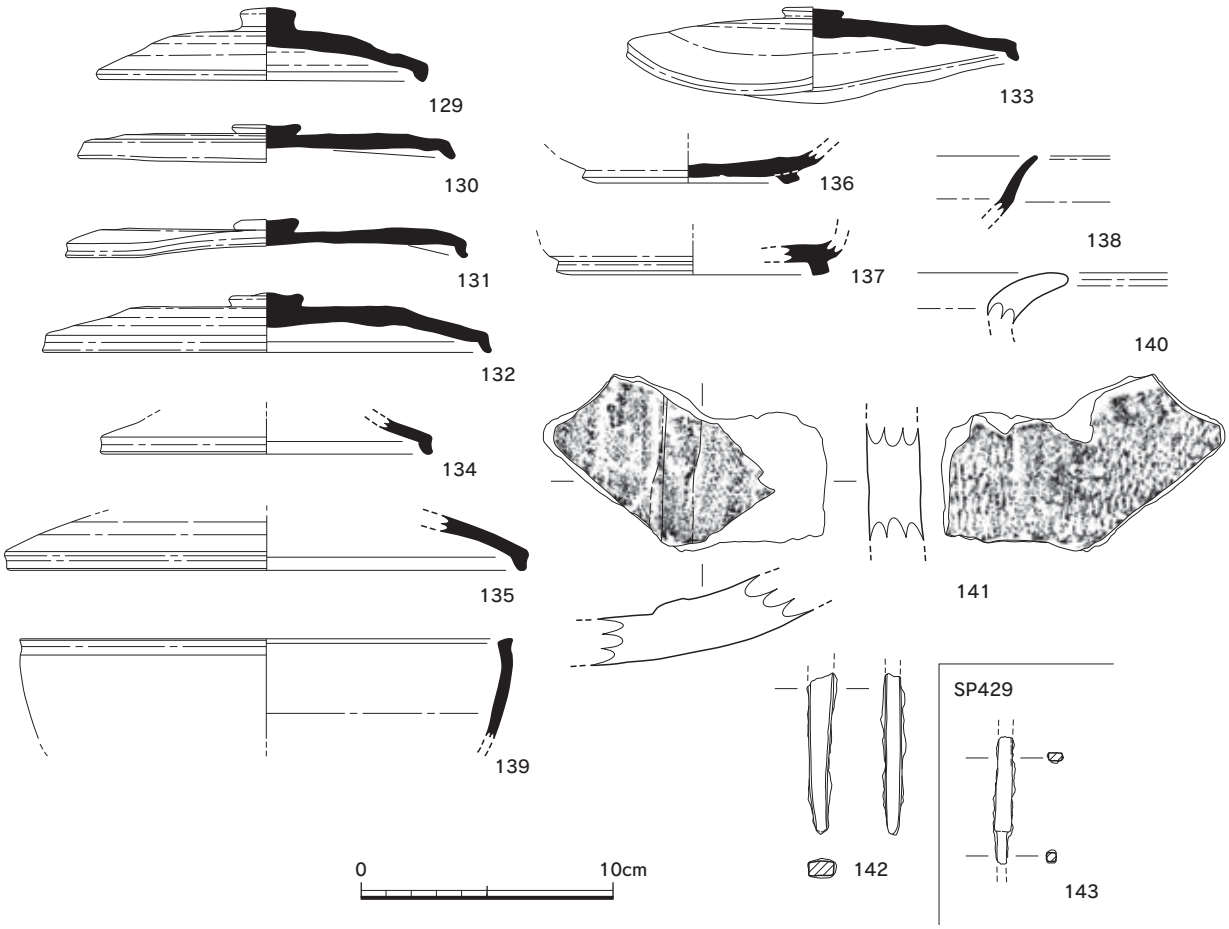
土師器（140）　甕。口縁部小片。

瓦（141）　小片。平瓦か？凸面縄目タタキ、凹面には布目が残る。

鉄器（142・143）　いずれも断面長方形。143は篦被部を有し鉄鏃と判断されるが、142は下端部



第34図　１次ＳＣ05実測図（1／60）



第35図　１次ＳＣ05出土遺物実測図（1／3）

が丸く仕上げられ、別の器種と考えられる。

③溝

ＳＤ12（第６図・図版10）

調査区の西側を丘陵の地形に沿って巡る。幅0.82～2.58m、深さ10cm程度の浅い溝である。先述のとおり、ＳＤ02の続きであり、Ｏ面上にある。一旦溝全体を検出したが、下面の遺構検出のため南半部は図化せずに掘り下げた。埋土はにぶい黄橙色土。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・瓦質土器・磁器など多量に出土した。

出土遺物（第36図・図版61）

須恵器（144）　甑の把手。須恵質に焼成される。

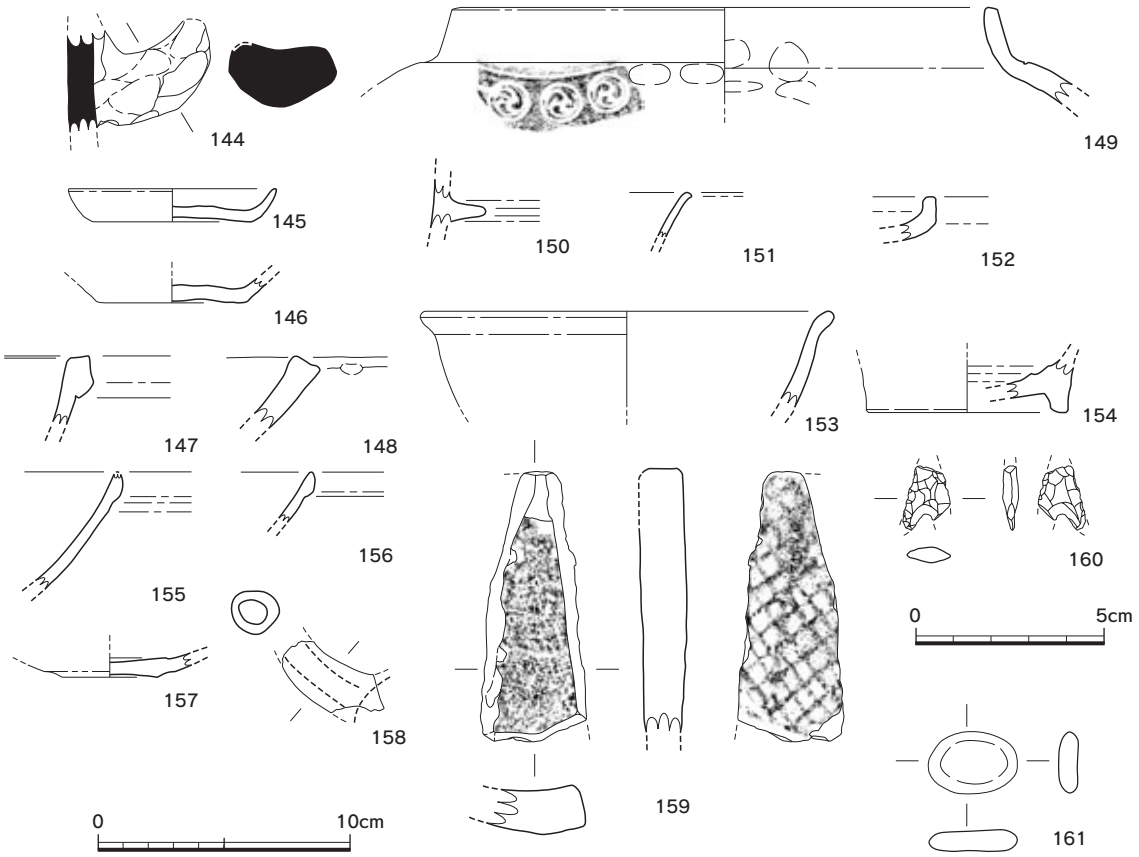
土師器（145・146）　いずれも小皿。145は糸切り。146は摩滅しているが、糸切りと考えられる。

土師質土器（147・148）　いずれも鉢。

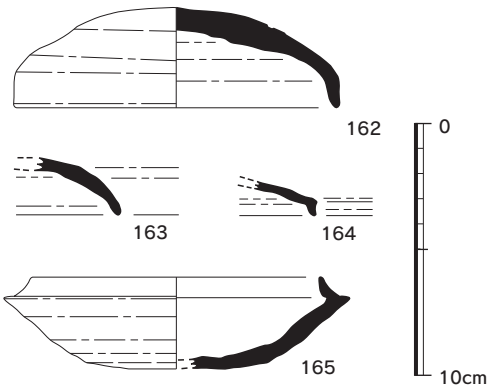
瓦質土器（149・150）　いずれも羽釜。149は頸部下にスタンプ文を施す。

陶器（151・152）　151は椀か？152は器種不明。

磁器（153～158）　153・154は青磁。153は椀。釉が厚くかかる。154は越州窯系壺。内面無釉。ロクロ目が顕著である。155～157は白磁。155・156は椀。太宰府分類龍泉窯系青磁椀Ⅳ類か？157は皿。底部やや上げ底で、施釉されない。158は水注の注口か？



第36図　１次ＳＤ12出土遺物実測図（160は1／2、他は1／3）



第37図　１次ＳＤ13出土遺物実測図（1／3）

瓦（159）　平瓦か？小片のため判断に迷う。凸面は太い格子目タタキが施される。

石器（160・161）　160は石鏃。安山岩製。先端部と脚部を欠損する。161は2.5～3.55cmの楕円形の扁平な石。用途不明。

ＳＤ13（第23図・図版13）

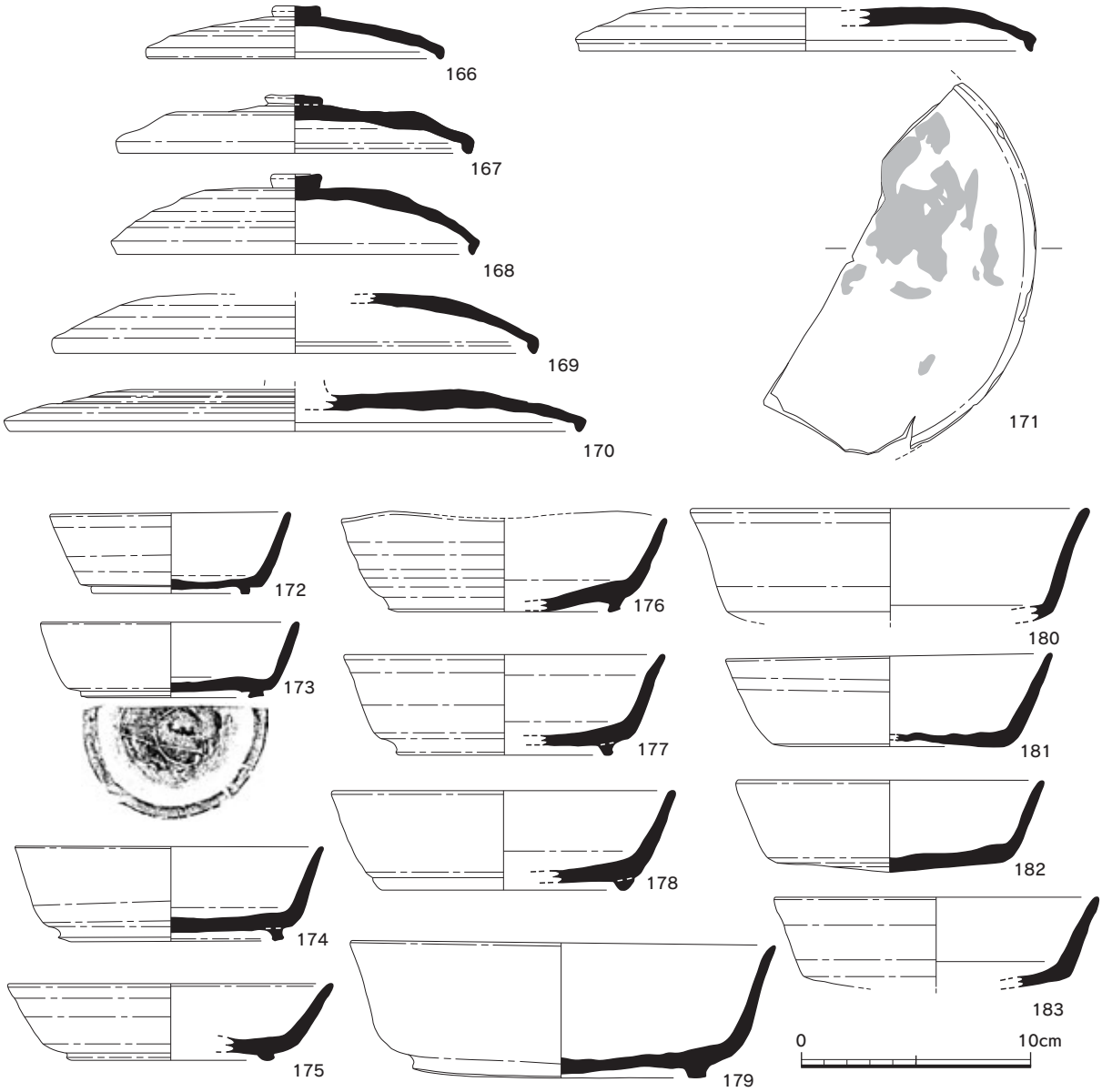
調査区の北側に位置し、ＳＣ05に切られる。溝は等高線に平行するような形でスロープ状に掘り込みがはじまり、２ｍほど南へ掘り込まれた後に角度を変え斜面下方向にのびる。屈曲部からは７ｍほど直線的にのびた後、やや北よりに角度を変える。溝の深さは40cm程度、断面はＵ字形に近い。溝の延長方向をみると、北側約２ｍに位置するＳＣ04の平面プランと極めてよく似ており、両者は一連の遺構とすることができよう。出土遺物は、須恵器・土師器・石器がある。

出土遺物（第37図）

須恵器（162～165）　162・163は杯Ｈ蓋。162は天井部は回転ヘラケズリを施し、比較的高い。163は焼け歪む。164は杯Ｂ蓋。端部の折り曲げはしっかりしている。165は杯Ｈ身。立ち上がりは低く内傾し、底部内面にはシッタ痕を有する。

④土坑

第38図　1次ＳＸ35実測図・土層実測図（1／30）



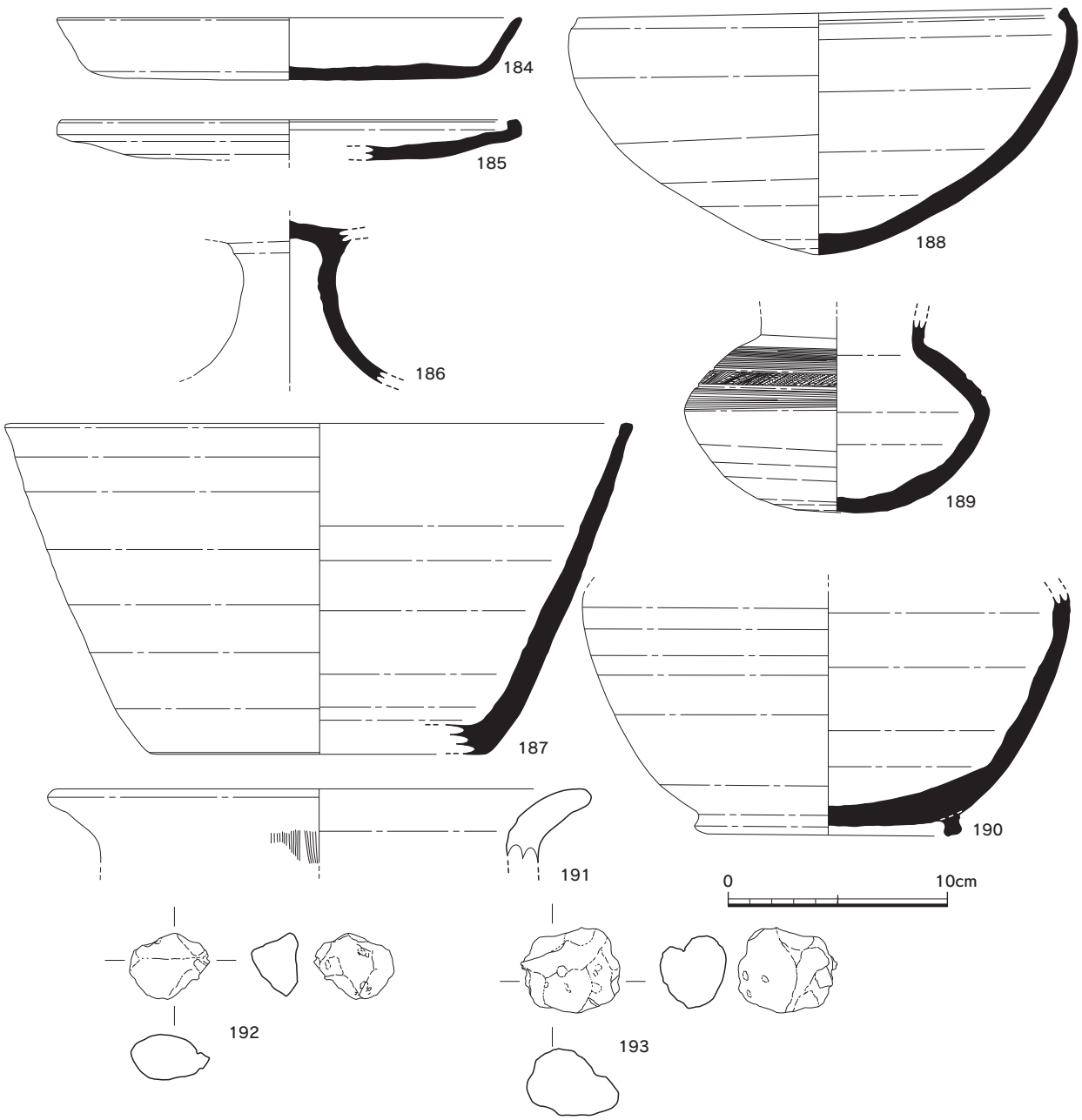
第39図　１次ＳＸ35出土遺物実測図①（1／3）

ＳＸ35（第38図・図版14）

調査区の南側に位置する。平面プランは長さ6.19m、幅1.3mの不整長楕円形を呈し、等高線に平行するようにのびる。深さは７～47cm、南側が一段下がっており、底面プランも不整形である。埋土はにぶい黄褐色土。埋土中からは、多量の須恵器・土師器・瓦・鉄滓が出土したが、特に北側に集中していた。

出土遺物（第39・40図・図版61）

須恵器（166～190）　166～171は杯Ｂ蓋。端部の折り曲げはしっかりしており、つまみは低く扁平なものである。171は内面に灯明痕が残る。172～180は杯Ｂ身。数は少ないが、法量的には口径10～11cm、13～15cm、18cm前後の３つに分かれ、底部と体部の境は丸い。181～183は杯。杯部の特徴は、杯身と同じである。184は皿。底部回転ヘラ切り。185・186は高杯。185は杯部は浅く、外面は回転ヘラケズリを施す。186は脚部のみ。太い筒状の基部から大きく開いて脚端部へいたる。



第40図　１次ＳＸ35出土遺物実測図②（1／3）

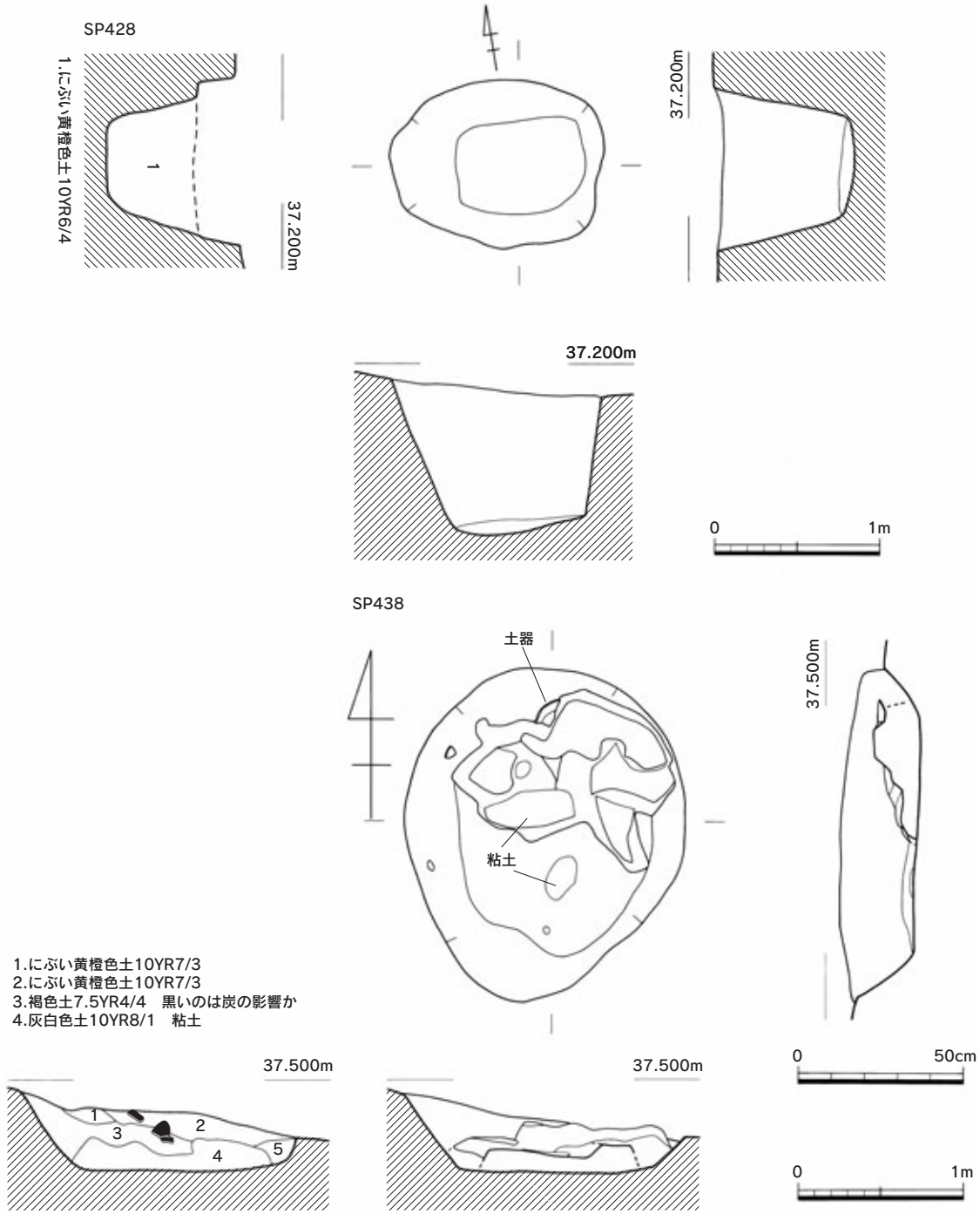
187・188は鉢。187はバケツ型。残存部が少なく、径の復元に難あり。188は鉄鉢型。体部外面下半は回転ヘラケズリ。ほぼ完形に復元される。189・190は短頸壺か？189は算盤玉に近い体部に刺突文が施される。190は四角く内端面で接地する高台をもち、球状の体部をもつようである。

土師器（191）　甕。外面ハケメ。

焼土塊（192・193）　いずれも３～４cm。スサは混じらない。

ＳＰ428（第41図）

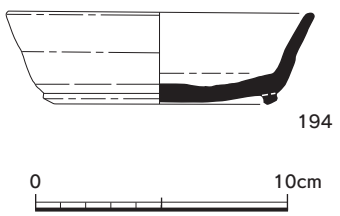
調査区の北側にあり、ＳＣ05の南東側２ｍに位置する。長さ1.28ｍ、幅１ｍ、深さ0.82ｍ。略楕円形プランを呈する。埋土はにぶい黄橙色土。出土遺物は、須恵器・土師器・石器があるが、図化できるものはなかった。



第41図　１次ＳＰ428・438実測図（ＳＰ428は1／40、ＳＰ438は1／20）

ＳＰ438（第41図・図版15）

調査区の南側にあり、ＳＸ35の北側1.5ｍに位置する。径0.85～1.02ｍの円形プランを呈し、深さは0.1～0.25ｍ。埋土はにぶい黄橙色土～褐色土。土坑内からは粘土が多量に見つかったが、ＳＸ02とは異なり、山状に盛り上げた状態で凹凸が著しい。また粘土中には土や焼成不良の土器も含まれており、ＳＸ02のような均質な粘土ではない。出土遺物は、須恵器・土師器がある。



第42図　１次ＳＰ438出土遺物実測図（1／3）

出土遺物（第42図）

須恵器（194）　杯B身。非常に焼きがあまく、水につけると溶けそうである。粘土層中から出土。

（4）谷部

南北調査区の間にあたり、西側は７次調査地へ続く。幅10.4～11.4m、深さ2.7～2.9mほど、谷部の長さは16.5m検出された。断面は漏斗状を呈し、底面は浅い鍋底状を呈する。上層は黄褐色土～褐灰色土、下層は灰色土～灰白色土が中心。最下層からは木が出土するなど滞水していた状況が伺える一方、４層のように乾燥が進み、荒地化した時期もある。

中央部からは、谷部を直交する２列の杭列（西側杭列、東側杭列）と、谷底を谷部と平行する方向に打った２列の杭列（北側杭列、南側杭列）が検出された。杭は径４～６cm程度の細い自然木の先端を尖らせており、大半は丸木をそのまま使用しているが、一部半割りしたものがある。西側杭列は、30～40cm間隔で杭を７本打っている。杭列からわずかに東に外れるが、杭列と同じ方向に径10cm程度の丸木を確認した。丸木は伐採痕が残り、先端は二股に分かれるが、上面は36.00mでほぼ水平となり、下面は杭の頭部と同じレベルにあった。丸木のレベルと土層図のレベルを比較すると、丸木は７・８層間にあたり、杭列の杭頭部は８層にある。東側杭列は25～40cmの間隔で杭を７本確認した。東西杭列間の距離は1.7mで、平行している。杭の下端は、ほとんどが地山まで到達しておらず、８～11層中に打ち込まれており、堆積土中にあった土器を壊している。南北杭列間の距離は0.4～0.5m、東側杭列の0.4m東側から0.9mと1.1mの所に打たれている。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・白磁・青磁・瓦・土製品・鉄器・石器・木製品など大量に出土している。（石木）

出土遺物（第45～70図・図版61～71）

谷部からの出土遺物は、上層から最下層まで多量に出土している。掘り下げは東半部から始め、ついで西半部をおこなった。両者の掘り下げにあたっては、対応関係に十分注意を払いながら進めたが、上・中層において若干誤認が生じていることが整理作業時に判明した。ここでは各層の整合を図り、谷部出土遺物を上層・中層・下層①・下層②・最下層に分けて報告をおこなう。土層図と上層～最下層の対応関係は、上層（１・２層）・中層（２・３層）・下層①（４～６層）・下層②（７～９層）・最下層（10・11層）となる。

上層出土遺物（195～226）

須恵器（195～201）　195は蓋。端部は大きく外に広がり、つまみは認められない。小田浦38－Ⅰ号窯跡に類例がある。196は瓶。頸部は細い。198は瓶か？内面シボリ痕が著しい。199はナデの状況から横瓶の可能性があるが、確言はできない。外面太い格子目タタキを用いる。200・201は同一個体。肩部はなだらかで、体部がややふくらむ壺状の器形となる。

土師器（202～209、212～218）　202は小皿。底部ヘラ切り。203は丸底杯。焼け歪んでいる。204～206は椀。204は小片のため、丸底杯の可能性もある。205はハの字に開く細い高台を有する。206は高台が高い。207は鉢か？外面ケズリ。208は甑。体部と接合のため、突起状の差込部を作っている。209は甕？小片のため、全形不明。212～217は椀等の脚部か？いずれも手づくね。218は土釜の脚部か？一部剥落する。

黒色土器（210）　B類。椀。高台は低く開く。

瓦器（211）　椀。高台は低い。

磁器（219～221）　219・220は白磁椀。219は高台のケズリ出しは浅い。220は体部丸く、無文。太宰府分類Ⅴ類。221は青磁椀。越州窯系Ⅰ－2aⅠ類。杯部は比較的浅く、口縁部は外反する。

土製品（222～224）　222・223は棒状土製品。222は小口面に成形時の巻き取り痕が認められる。223は先端部を蛤刃状に整形する。224は土玉。直径1.8cm。

石器（225・226）　225は石鏃。安山岩製。基部の刳り込みは浅い。226は縦長剥片。黒曜石製。素材面・自然面を残す。

中層出土遺物（227～291）

須恵器（227～252）　227・228は杯B蓋。端部の折り曲げは短く、天井部は低いボタン状つまみをつける。229～237は杯B身。229はやや深い杯部をもつが、他は浅いものが多い。口径は12cm前後・14cm前後・18cm前後に分かれる。237は底部内面にヘラ記号をともない、外面にヘラ記号を施すのが大多数の牛頸窯跡群において極めて珍しい事例である。238～242は皿。底部は平らに仕上げられる241は回転ヘラケズリ、その他の丸みを持つものは回転ヘラ切り後ナデている。243・244は一応鉢とする。243は頸部下に最大径をもち、口縁部は屈曲をもち大きく外反する。類例に乏しい。244は口縁部はわずかに外反し、体部はまっすぐになる。245～247は壺。245は二重口縁をもつ。胎土は白い。246は底部片のみ。平底で、底部外面は回転ヘラケズリを施す。247は高台をもち、体部外面は回転ヘラケズリを施す。短頸壺か？248は瓶。頸部は細い。249は甕体部片。円盤状の浮文が貼り付けられる。内面の当て具痕は細かい。250は把手か？器種不明。251は径4.4cmの大きなつまみである。252は把手を失う。把手付甕である。内外面のタタキ当て具痕は太く荒い。

土師器（253～274）　253～256は小皿。いずれも小片のため径の復元に難があり、摩滅のため底部調整が不明であるが、256はヘラ切りされる。257は杯。底部外面調整は不明。258～260は椀。258・259は細い高台をともなう。260は高台を伴わない古墳時代の丸底の椀。261・262は高台付小皿。いずれも細く高い高台を有し、262は杯部内面が変色しており、被熱されている可能性がある。263は鉢か？口縁部は屈曲をもち大きく外方へのびる。264・265は器台。いずれも杯部は完存しない。266・267は甑。266は先端が細く、やや歪んでいる。268は甕。下半部はタタキを施す。269～274は脚付椀等の脚部か？低く力強く踏ん張るもの（269・270）と、細く接地面が小さいものがある。274は土釜の脚であろうか？

黒色土器（275～277）　275・276はA類。椀。いずれも細く高い高台を有する。277は小片のため傾きに難があるが、体部は直立し、口縁部はやや外反する。B類。甕と考えられる。

土師質土器（278・279）　いずれも鉢。279は底部平底。

弥生土器（280・281）　280は蓋か？281は甕。底部平底。

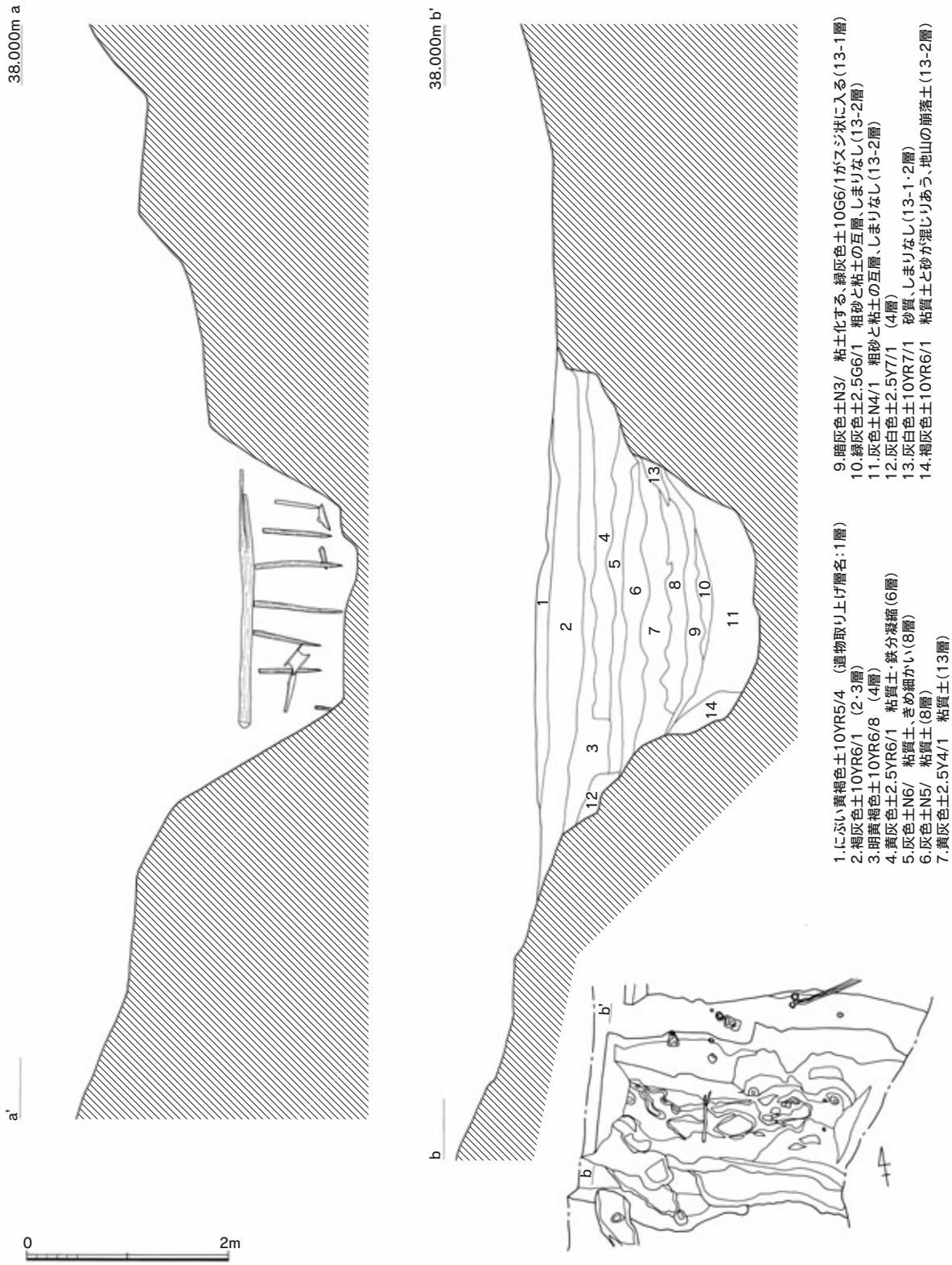
磁器（282）　白磁椀。太宰府分類Ⅱ－1類。釉は緑色をおびる。

瓦（283・284）　いずれも平瓦。摩滅のため、タタキの種類は不明である。

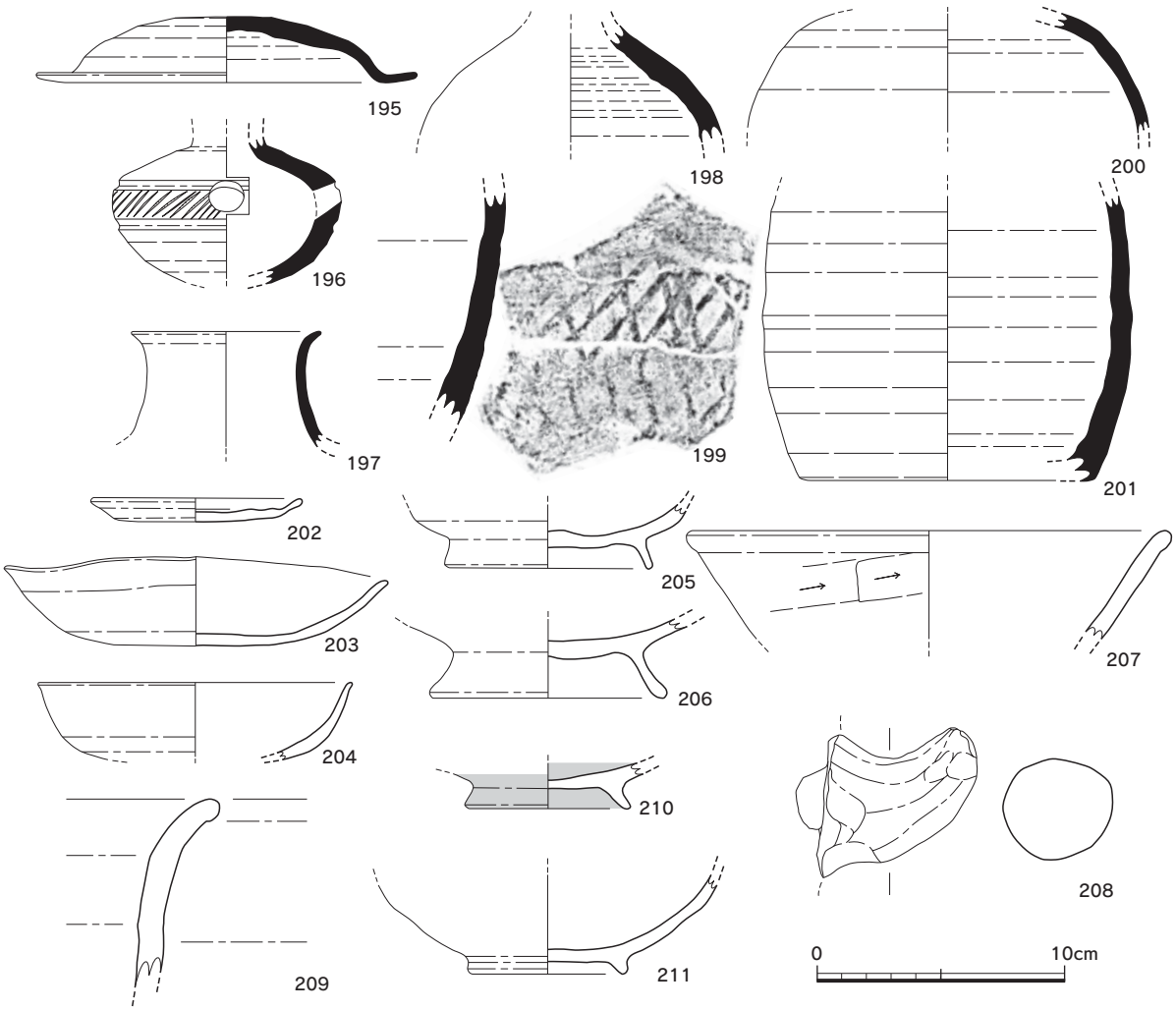
土製品（285）　鞴羽口。先端部の小片であり、残存部は全体に還元を受けたようになる。

鉄滓（286・287）　286は椀形鍛冶滓である。

第43図　1次谷部橋状遺構実測図①（1／60）



第44図　1次谷部橋状遺構実測図②・土層実測図（1／60）



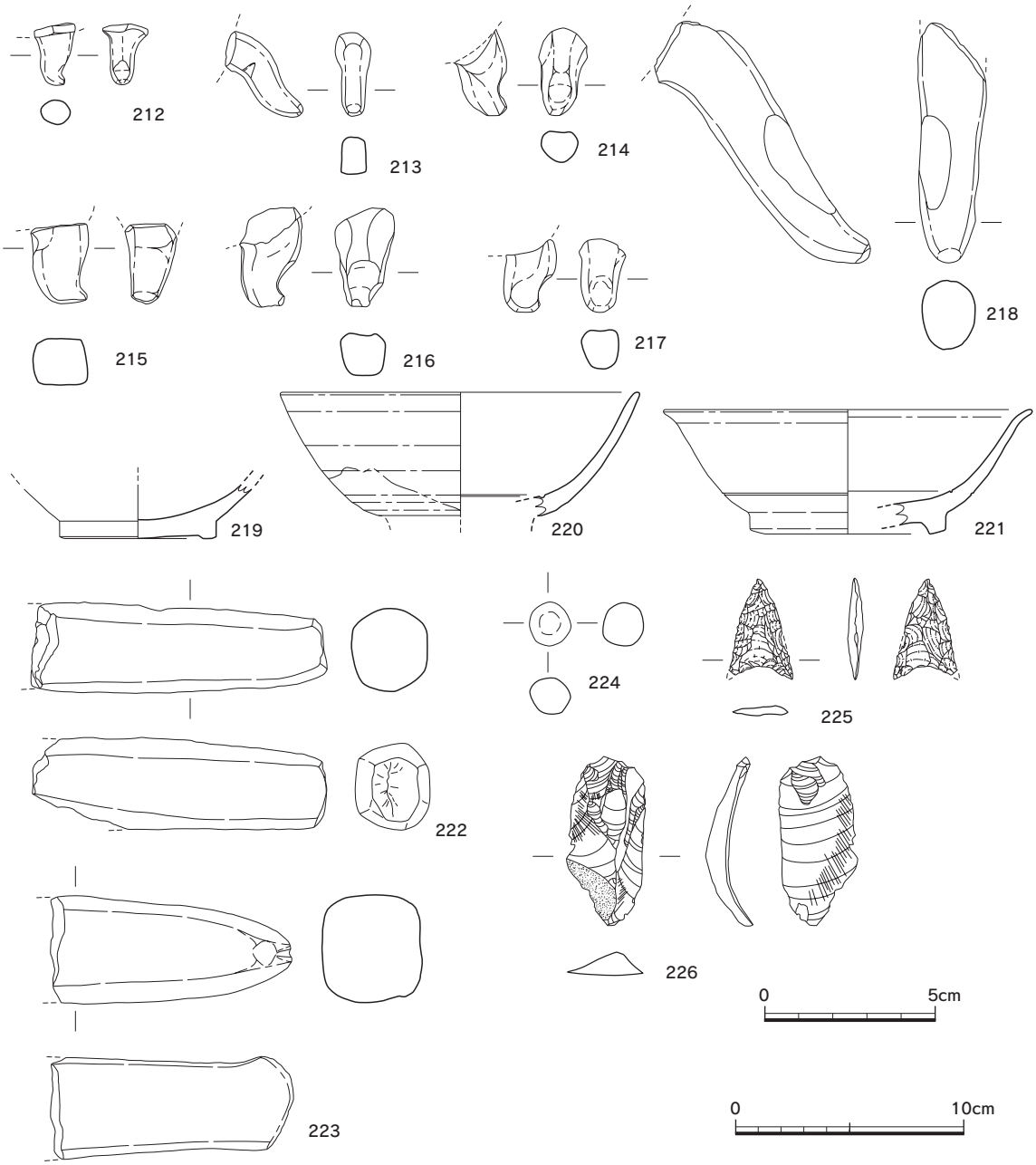
第45図　１次谷部上層出土遺物実測図①（1／3）

石器（288～291）　288は石鏃。黒曜石製。姫島産か？289は石匙。安山岩製。290は敲石。凝灰岩製。291は花崗岩であるが、被熱される。特に加工された痕跡は認められない。

下層①出土遺物（292～314）

須恵器（292～311）　292～295は杯Ｂ蓋。292・294はつまみが低くボタン状を呈する。端部の折り曲げは短い。294・295は転用硯。いずれも内面に墨痕が認められ、294は外面にも確認できる。296～303は杯身。296～301は杯Ｂ身。いずれも底部はやや丸みをもち、体部との境は丸みをもつ。302・303は杯Ｈ身。いずれも底部外面の回転ヘラケズリの幅は広い。304・306は杯。304は小型で、杯部が浅い。306は焼け歪みあり。305は皿。底部回転ヘラ切り。307は盤。器壁は厚く口縁端部は面取りし、内面にはヘラ記号を伴う。類例に乏しい。308は小片のため全形は不明であるが、頸部は直立した後大きく外反し、器壁は薄い。壺類と思われるが、類例を知らない。309は甕か？口縁部は外方にのび、体部は球状の器形となりそうである。310は309と同じく口縁部は外方にのびるが、端部を面取りしており、体部は胴のあまり張らない器形をとる。体部外面には沈線が一条巡らされており、長胴甕になるのであろうか。311は甑。把手部分のみの残存であるが、体部は丸く球形に近いようである。体部外面には２条の沈線が巡る。

土師器（312）　小型の甕である。口縁部は短く外反し、内面ヘラケズリ。

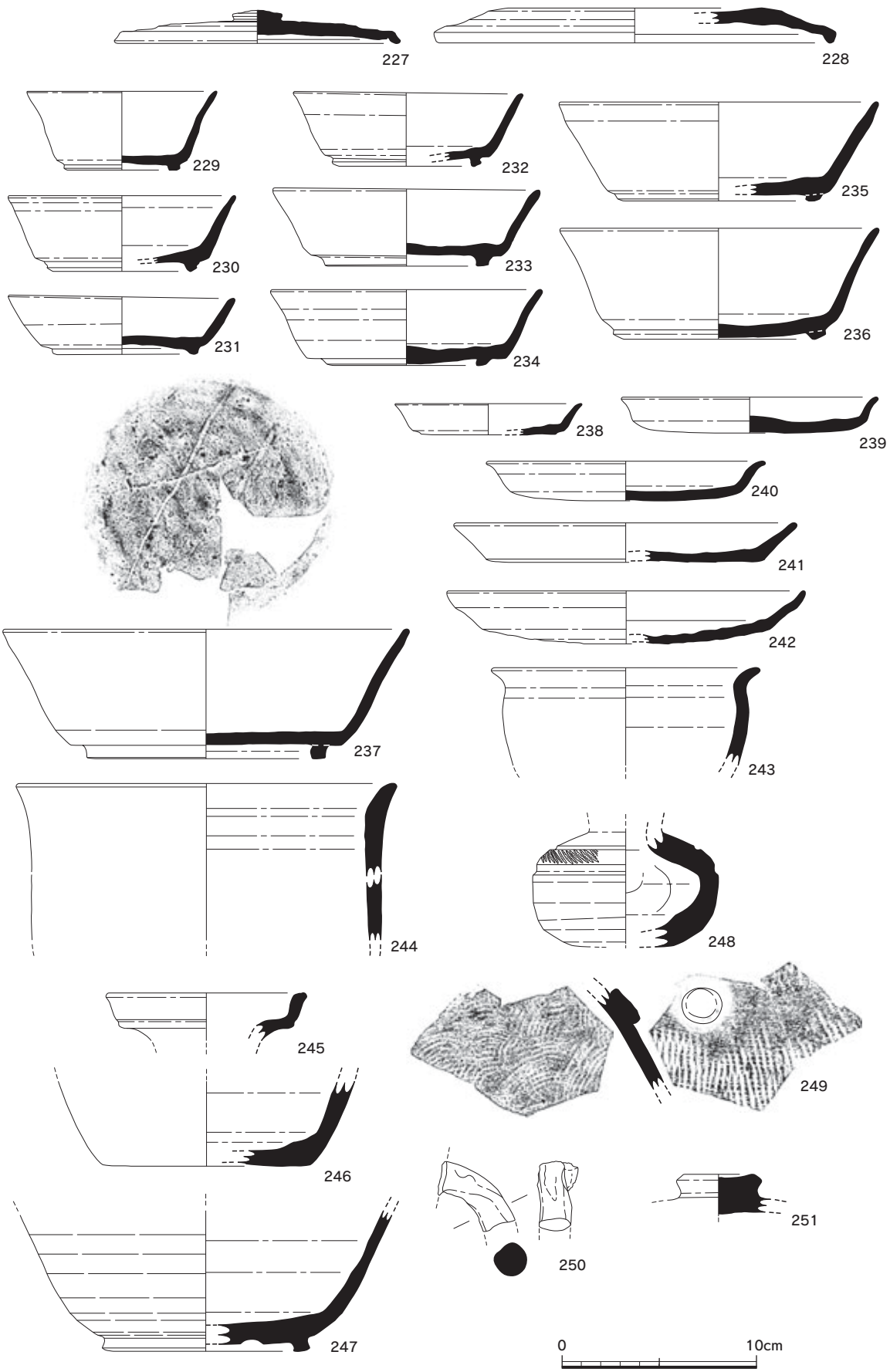


第46図　１次谷部上層出土遺物実測図②（225・226は1／2、他は1／3）

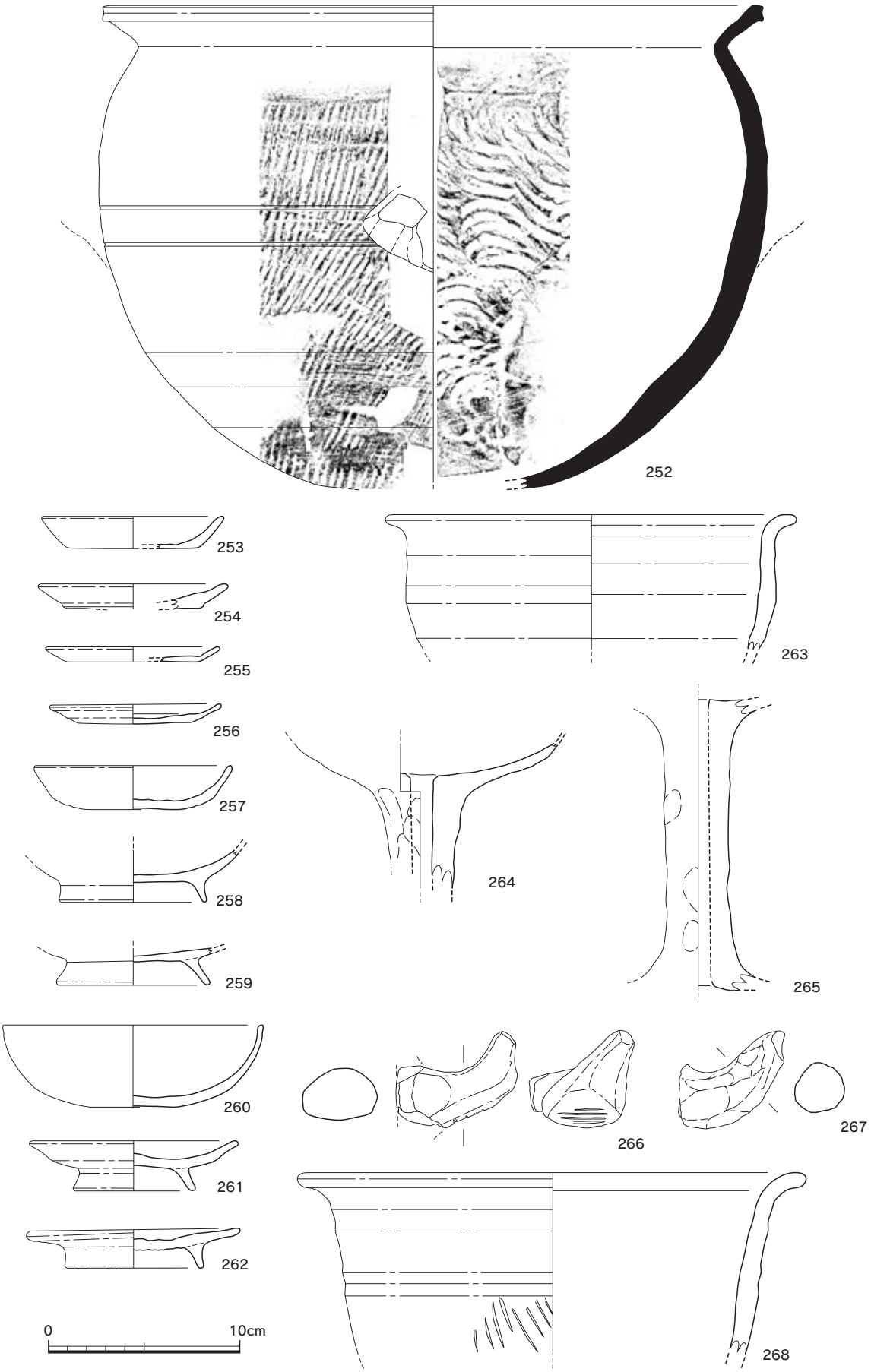
石器（313・314）　314は凹み石。両面とも認められる。

下層②出土遺物（315～350）

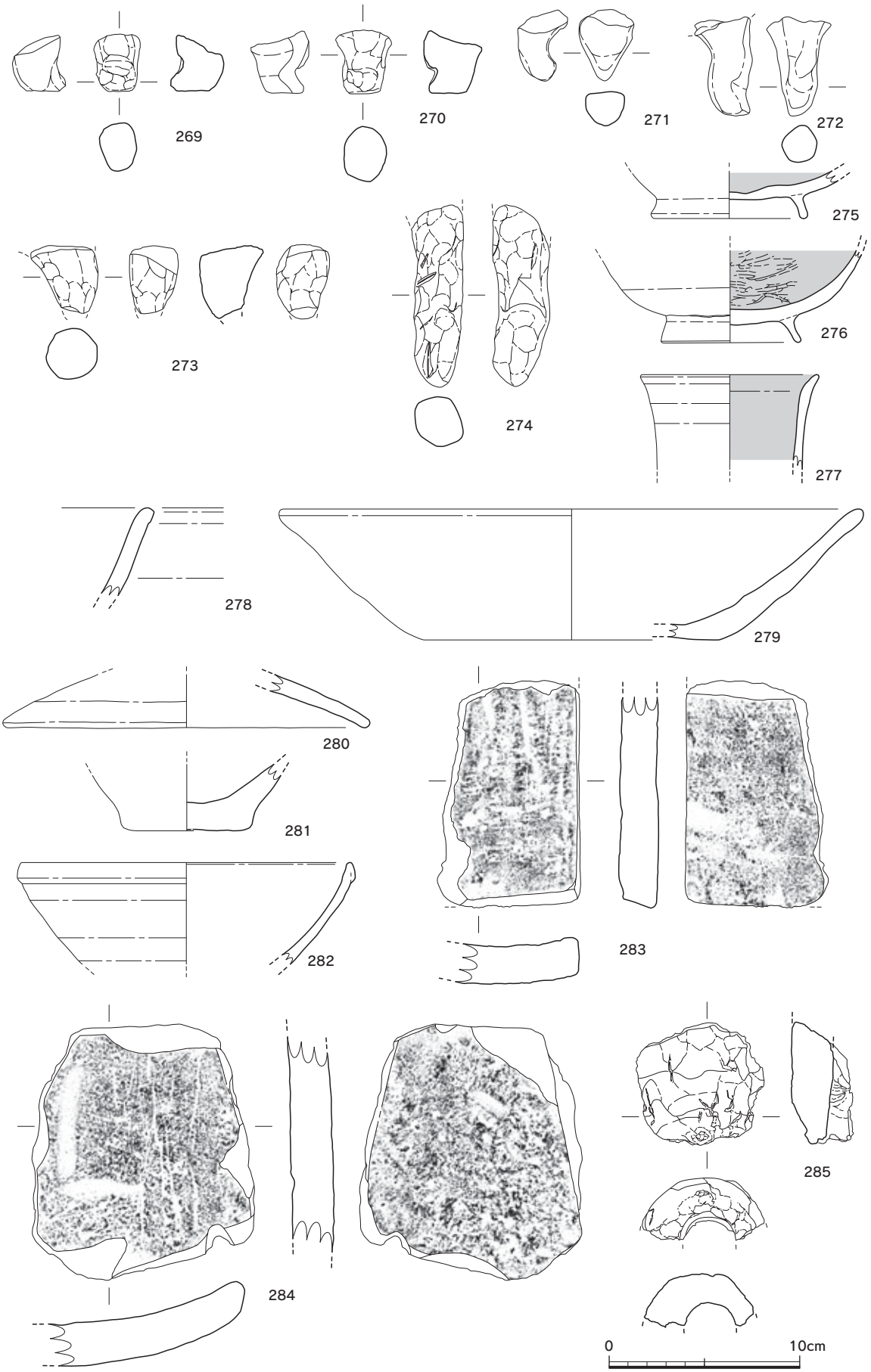
須恵器（315～345）　315～323は杯蓋。うち315～321は杯H蓋。口径13cm前後のものと14cm強のものに分かれる。いずれも回転ヘラケズリを施した後に天井部外面にヘラ記号をつける。322は杯G蓋。つまみは乳頭状になる。323は杯B蓋。つまみは山形で高く、かえりは口縁端部と変わらない高さになる。324～333は杯身。うち324～331は杯H身。受部径13cm代のものと14cm代のものがある。いずれも底部外面に回転ヘラケズリを施した後に、ヘラ記号をつける。332は、杯H身の底部を焼成前に穿孔したいわゆる穿孔杯である。333は杯B身。杯部は深く、底部との境は丸い。334～337は有蓋高杯。334～336は蓋。つまみの外れた335・336は接合のための沈線を渦巻状に施



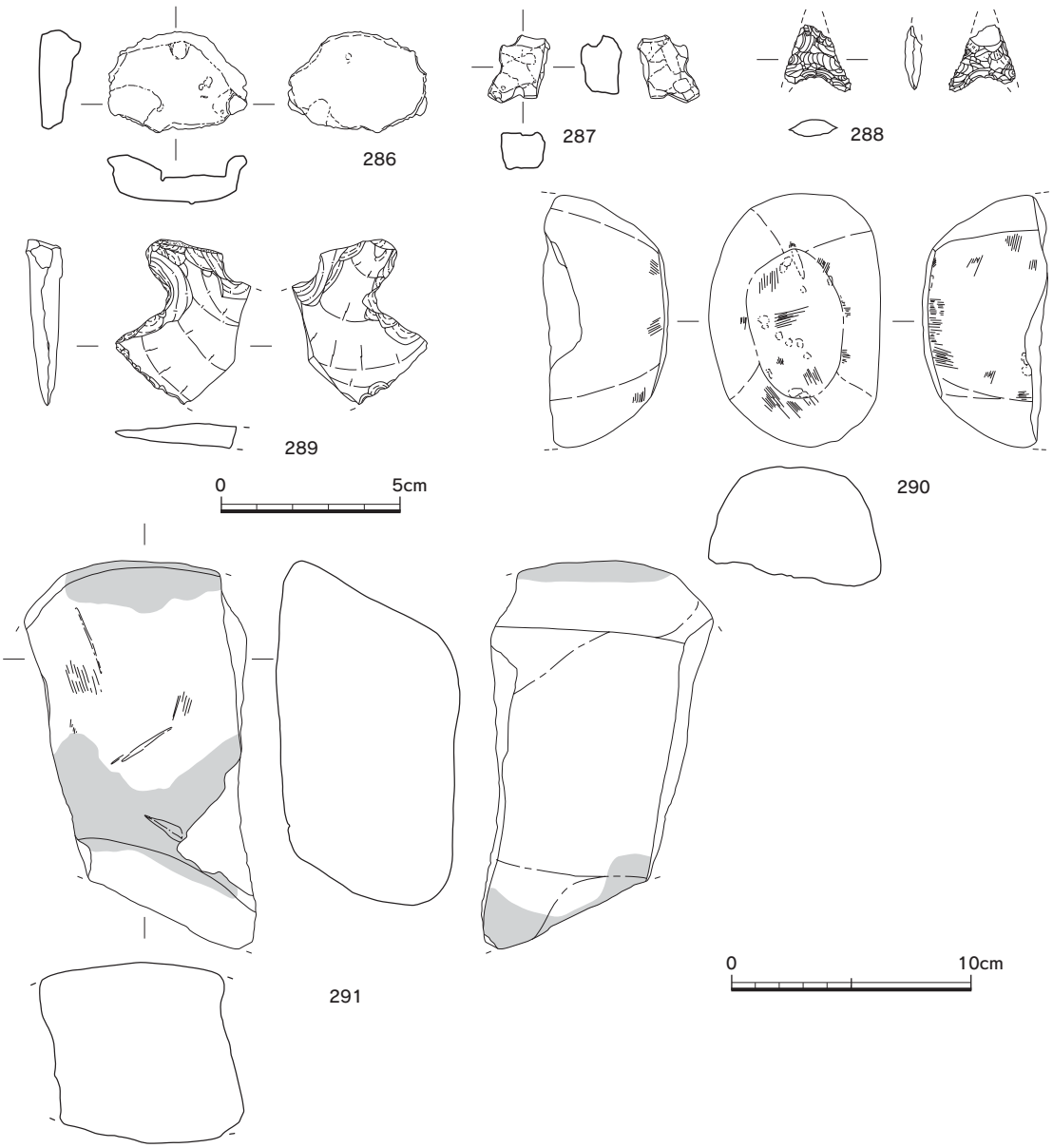
第47図　1次谷部中層出土遺物実測図①（1／3）



第48図　1次谷部中層出土遺物実測図②（1／3）



第49図　1次谷部中層出土遺物実測図③（1／3）

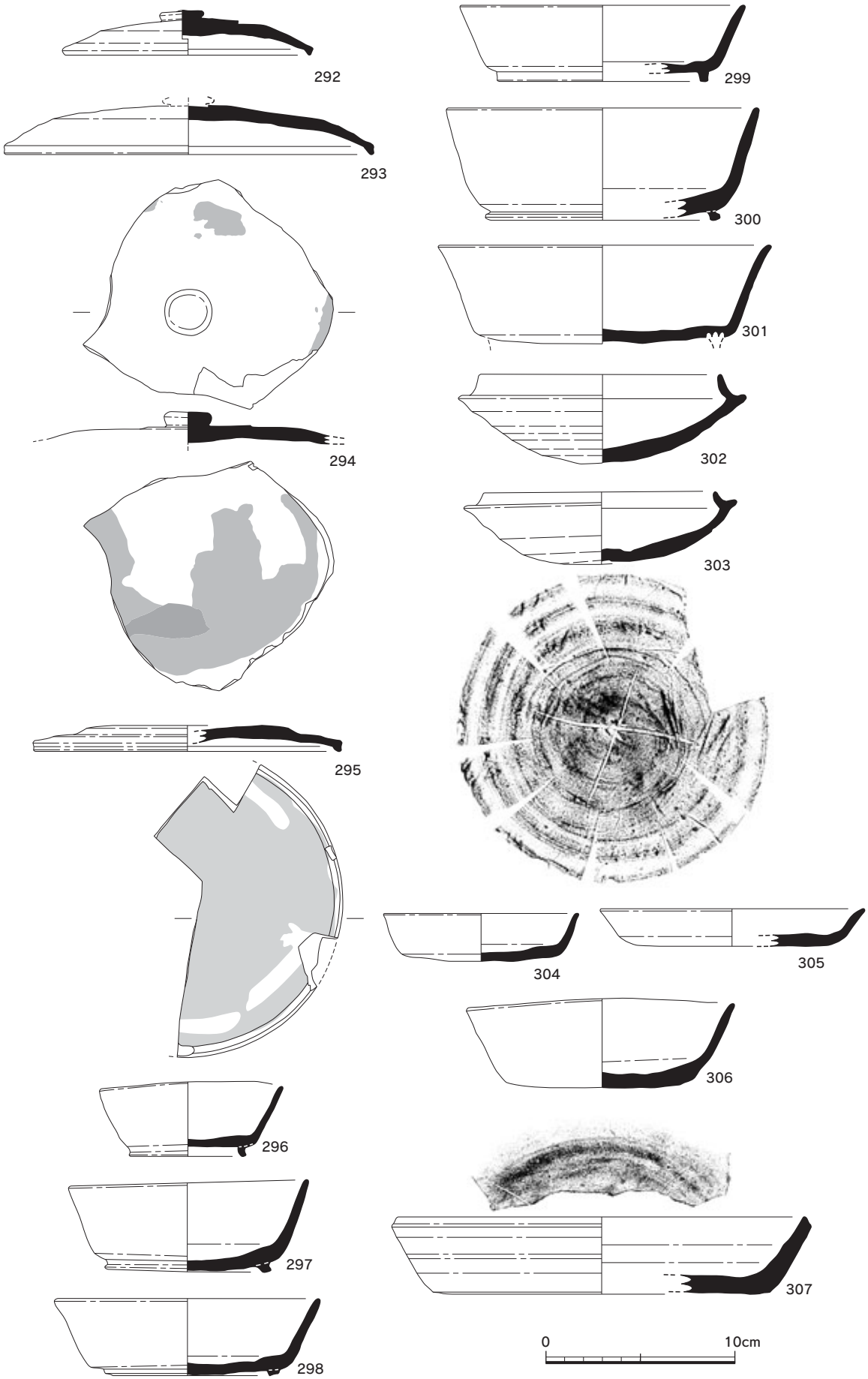


第50図　１次谷部中層出土遺物実測図④（288・289は1／2、他は1／3）

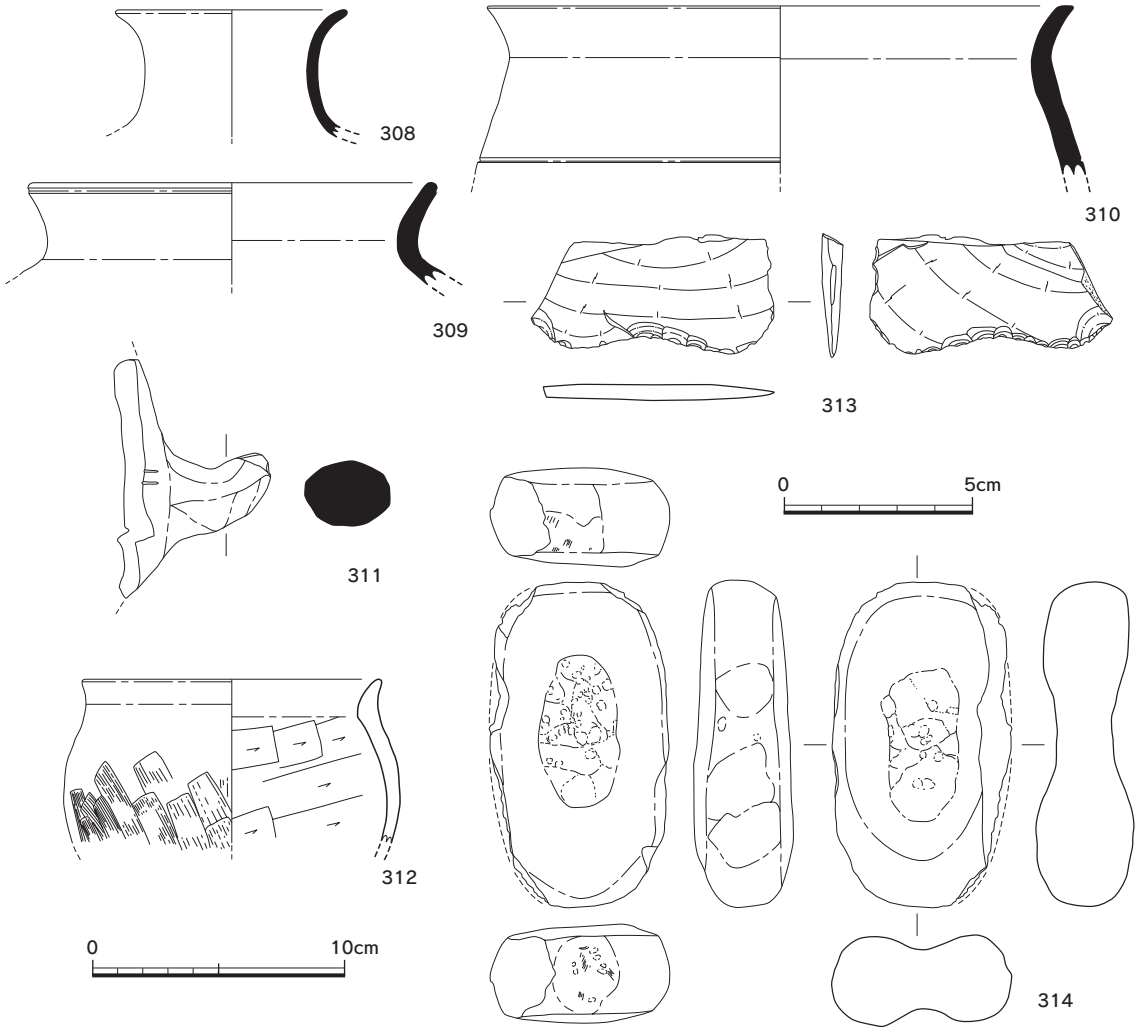
す。337は脚部が比較的低い。端部は外方につまみ出すようにして、丸くおさめる。338は短頸壺。体部外面は全面にカキメを施す。339～341は壺。339は頸部が直立し、やや高い。底部は焼成時に弾ける。340は長い頸部を有する。底部外面回転ヘラケズリ。341は頸部が狭まる。口縁部は外反するようである。342・343は甕。頸基部は細い。344は提瓶。肩部には把手は認められない。345は半身しか残存しないが、残存部は横瓶に近い形態をとる。体部外面は密にカキメを施す。残存部は少ないが、中央には仕切り板が別作りで貼り付けられる。接合痕から、平底の底部のあるドーム型のものに残る半身を貼り付けたと考えられる。類例を知らない。

土師器（346～350）　346・347は小型の甕。いずれも平底、内面ナデ。348は甑か？内面ヘラケズリ。349・350は把手のみ残存。いずれも球状に近い体部を有する。把手付の甕か？

木製品（351～361）　351～357は杭列の杭である。直径５～８cm程度の丸木の先端部を尖らせた



第51図　1次谷部下層①遺物出土実測図①（1／3）

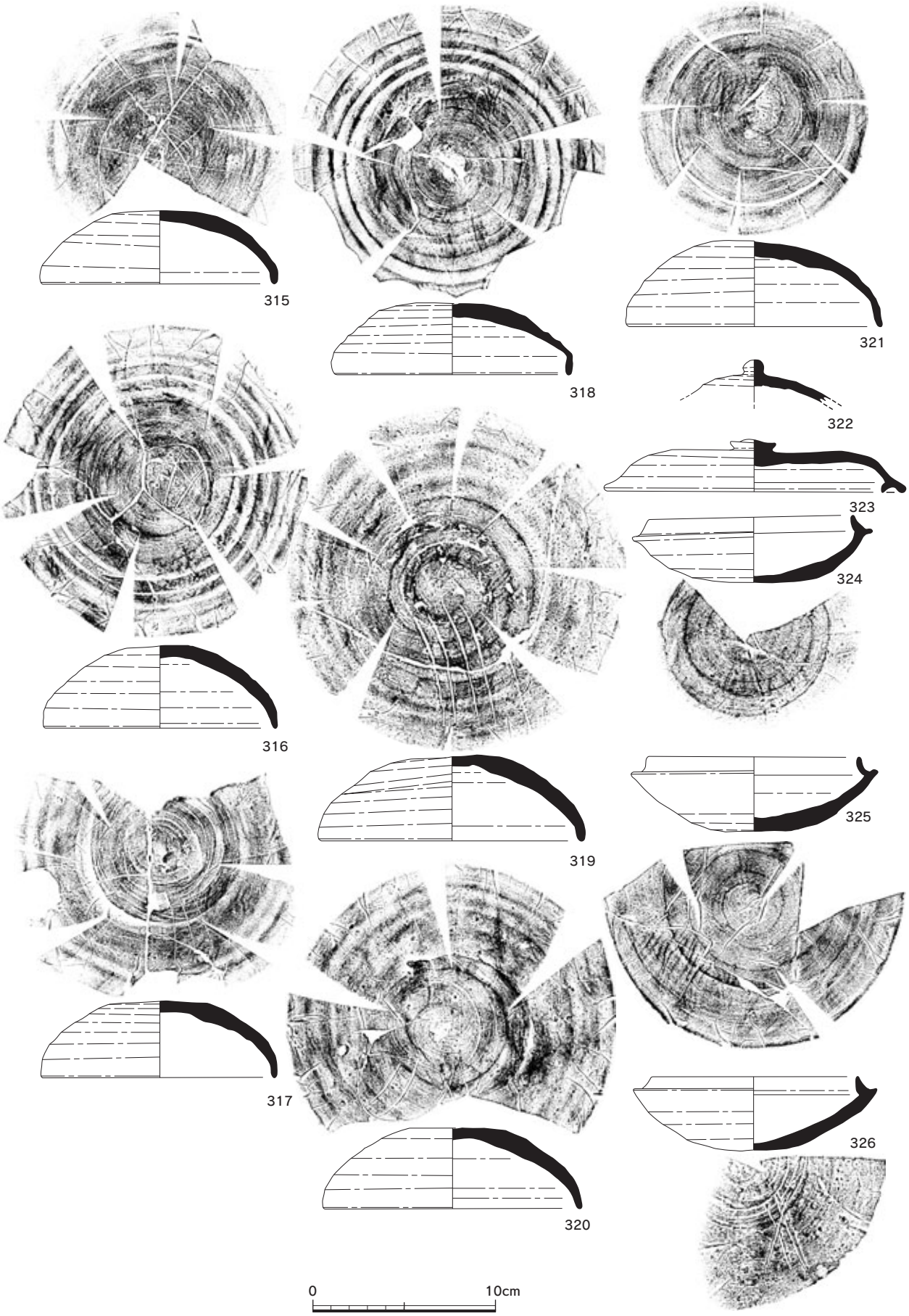


第52図　１次谷部下層①出土遺物実測図②（313は1／2、他は1／3）

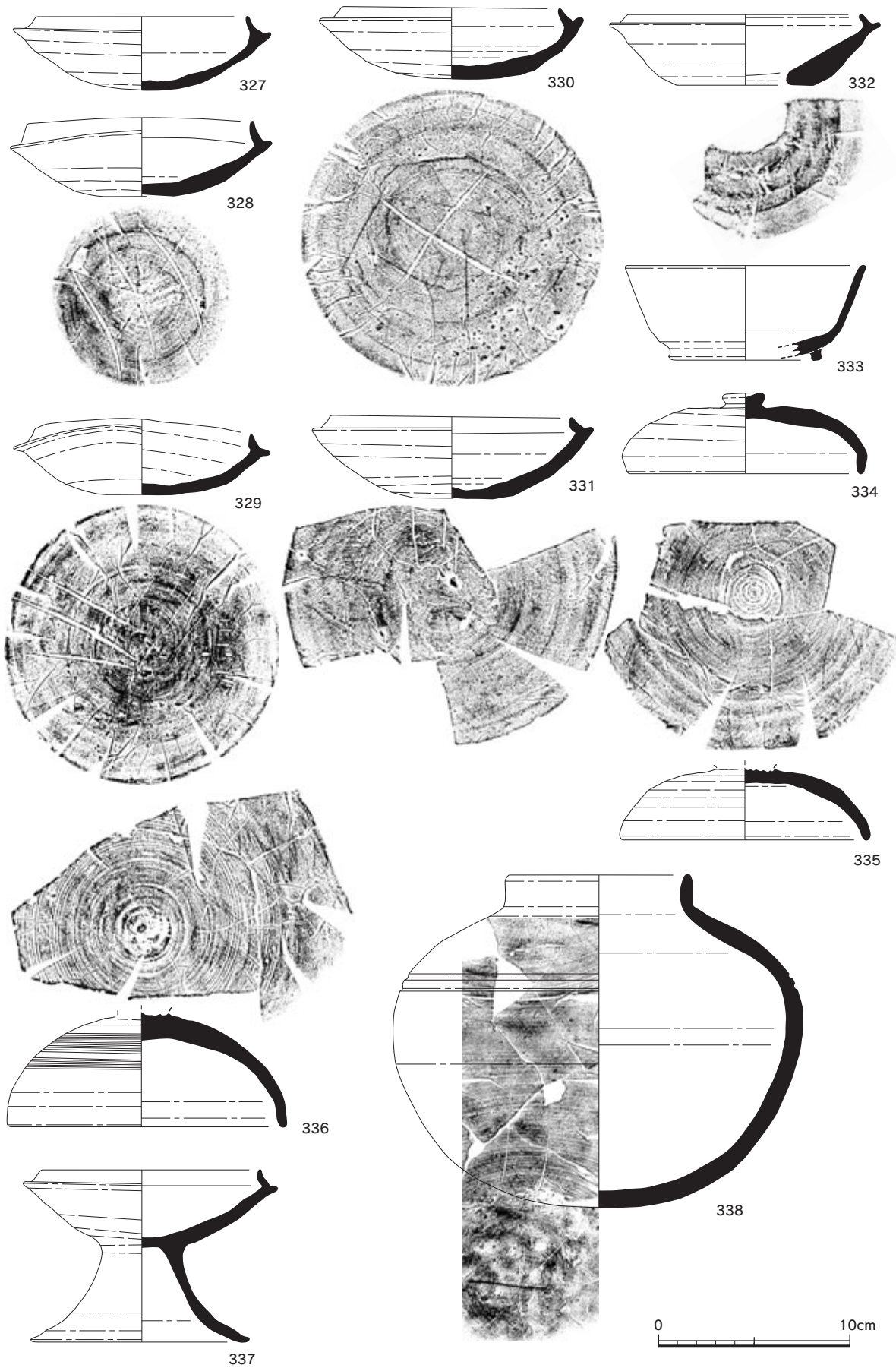
ものと、半割にして杭に加工したものの両者がある。358は杭列上部で確認された丸木の根側の部分である。伐採痕が明瞭である。359～361は板材。幅２cm前後、厚さ５㎜程度の細長いもので、359は一部刳り込み、360は穿孔が認められる。

最下層出土遺物（362～445）

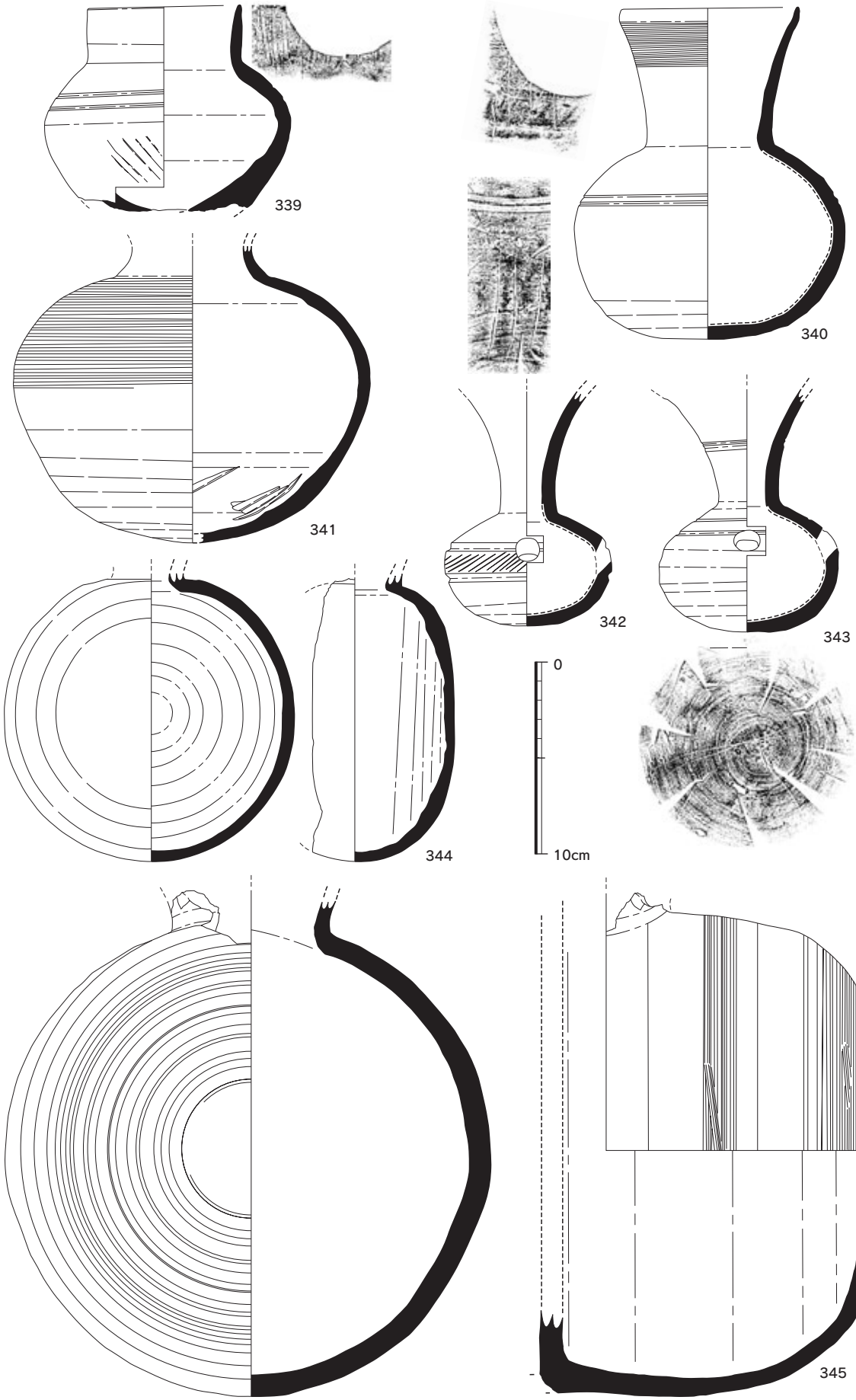
須恵器（362～422）　362～380は杯蓋。うち362～379は杯Ｈ身。いずれも天井部外面に回転ヘラケズリを施し、口径12～13cm前後のものと14cm前後のものに分かれる。天井部は比較的高いものが多いが、379は天井部が高く、沈線を巡らせる。378を除きヘラ記号がつけられる。380は杯Ｂ蓋。天井部には山形の高いつまみがつけられており、かえりは口縁端部とさほど変わらない高さにある。381～396は杯身。いずれも杯Ｈ身である。395・396は立ち上がりが高く、杯部もやや深いのに対し、他は立ち上がりが短く内傾し、杯部も浅い。396は底部内面に当て具痕をともなう。口径は立ち上がりが高いものは14～15cm代とやや大きめであり、立ち上がりの低いものは13～14cm代となる。397は蓋か杯身か区別できないが、外面にヘラ記号が四方に施されている。文字の可能性も考えたが、整った字形は認められない。398～400は椀。398・399は体部外面に２条沈線を巡らす。400は椀としたが、体部上半を欠き全形は不明。あるいは蓋か？体部外面は全面カキメが施され、小さく



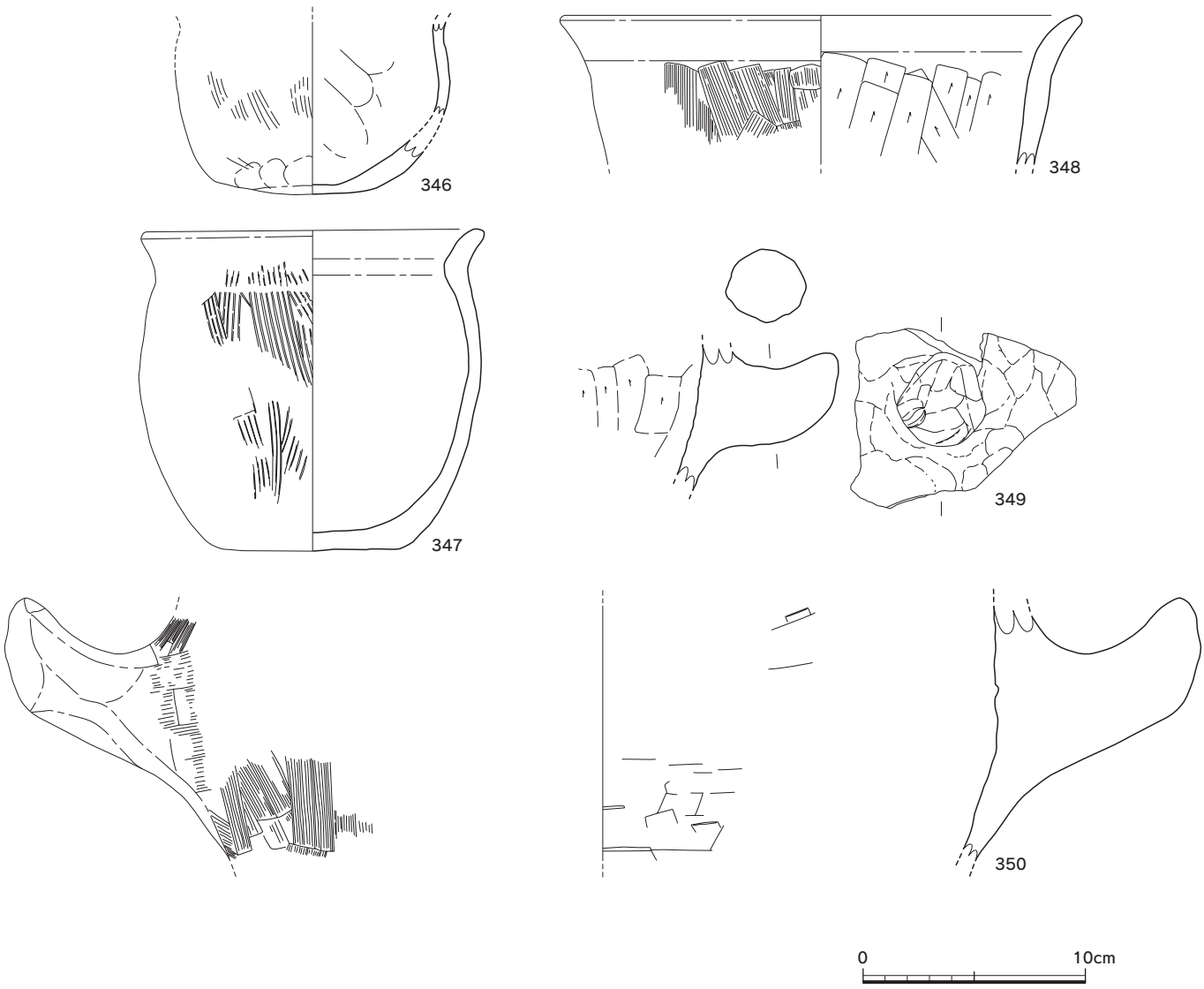
第53図　1次谷部下層②出土遺物実測図①（1／3）



第54図　1次谷部下層②出土遺物実測図②（1／3）

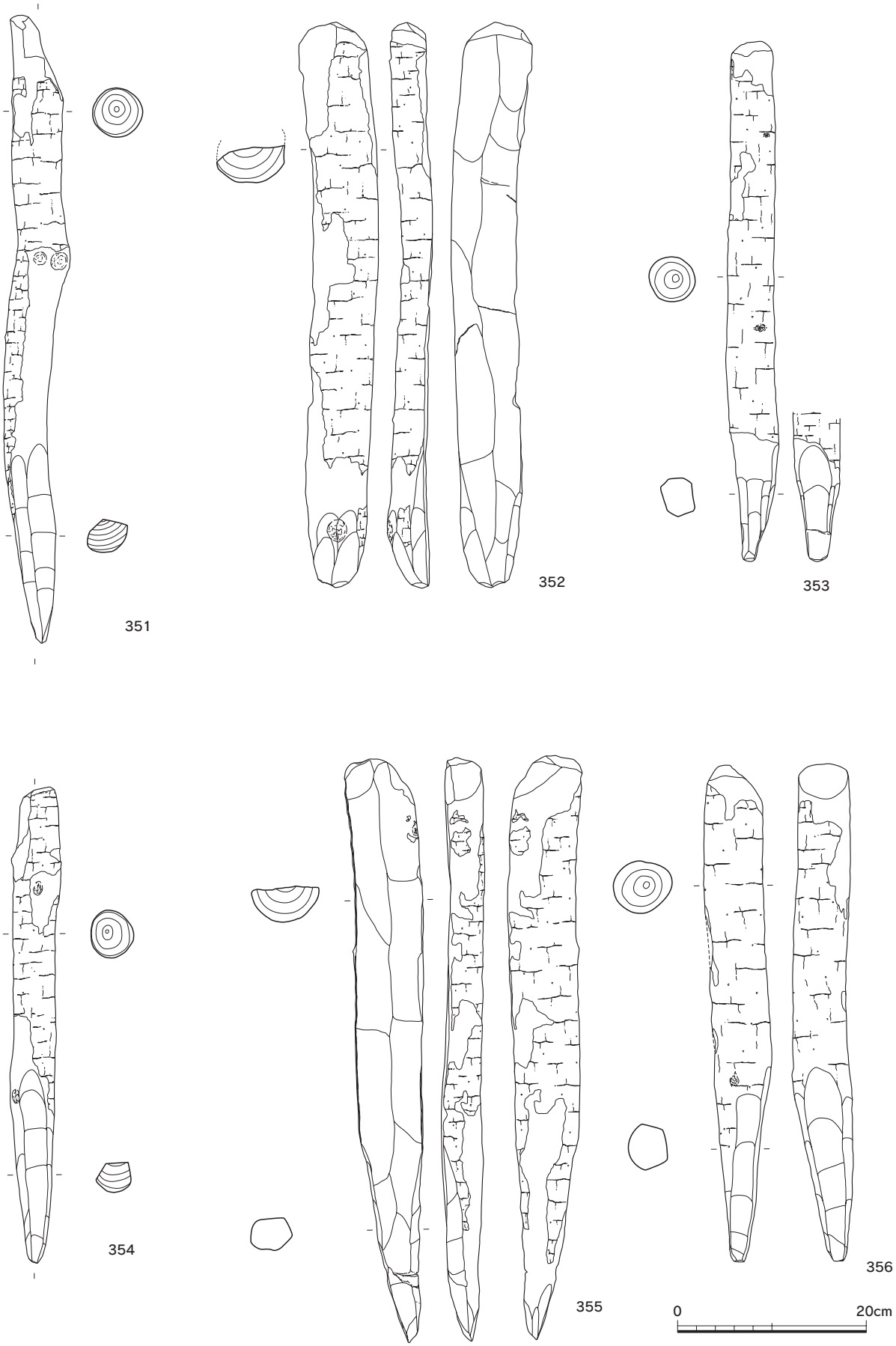


第55図　1次谷部下層②出土遺物実測図③（1／3）

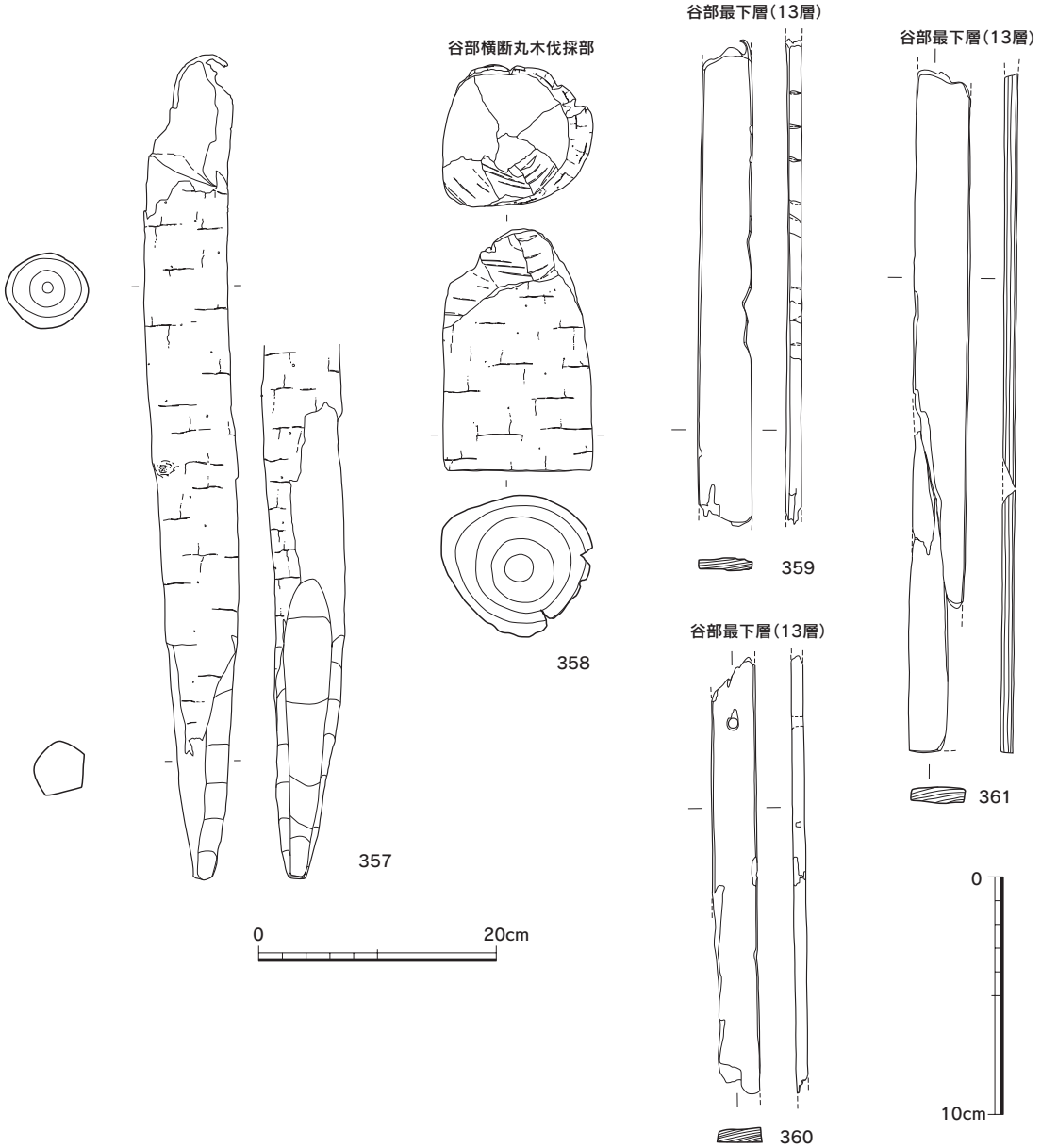


第56図　１次谷部下層②出土遺物実測図④（1／3）

踏ん張る高台がつく。器壁状態から、杯部はまだ上方へのびるようであり、天地逆の可能性もある。401～407は高杯。402は有蓋高杯の蓋。つまみは中央をくぼめる。402は無蓋高杯か？杯底部は丸く、体部は直立気味に上がる。403は無蓋高杯。杯部は杯H蓋を逆にしたような形態をとる。404は有蓋高杯。杯部の立ち上がりは高く、脚部は擬似的に段が作り出される。405～407は脚部のみ。405・406は短脚。脚裾部は大きく外方へのびる。407は長脚。スカシは認められない。408～410は短頸壺。408・409は蓋。409は天井部が平らであるが、口縁端部の形態から蓋とした。410は頸部を欠損する。体部中位に沈線を２条施し、間に刺突文を施す。411は𤭯。底部は弾ける。頸基部は細く、屈曲部をもって端部へいたる。412は横瓶。413は鉢か？口縁部は外方にのび、端部は丸く仕上げる。外面擬格子タタキを施し内面には当て具痕が認められる。野添遺跡７次調査２号窯跡灰原出土遺物に平底で同様の口縁部形態をとる鉢があるが、類例に乏しい。414は甑。外面擬格子タタキ、内面ナデか？胎土・色調・技法の特徴ともに牛頸窯跡群では類例を見ない器種である。415～421は甕。415～418は口縁部折り曲げの甕。417は器高44.5cmに復元される。内面の同心円文当て具痕は粗く



第57図　1次谷部下層②出土木製品実測図①（1／6）



第58図　1次谷部下層②出土木製品実測図②（357・358は1／6、他は1／3）

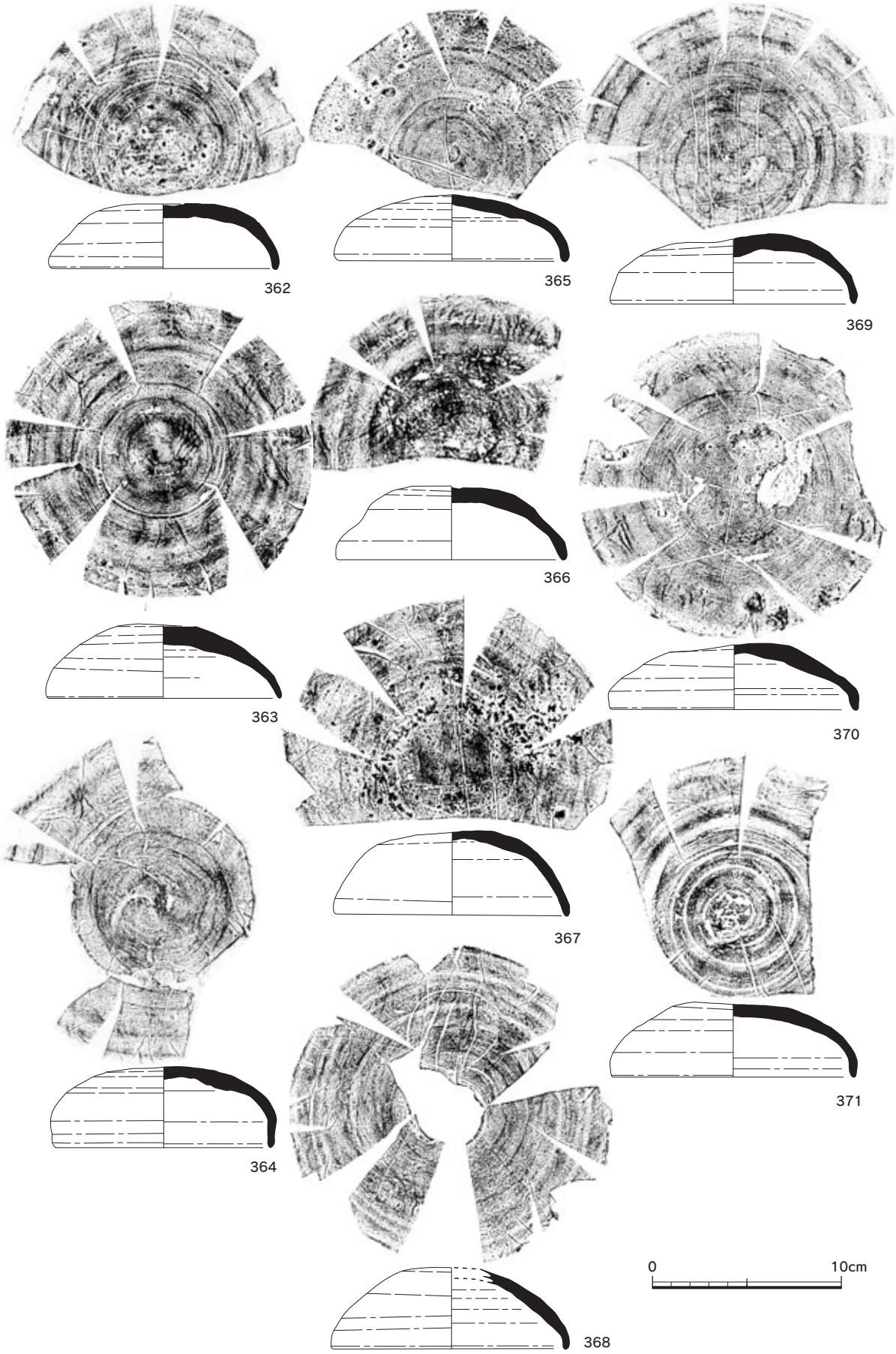
掘り込まれたものを使用する。419～421は口縁部別作りの甕。419は頸部上段に波状文、420は粗い連続斜線文を巡らせる。421は口径36.15cm、器高57.7cmで、一部欠損はあるがほぼ完形に復元される。頸部外面は上段に巡らされた２段の沈線間にやや密に連続斜線文を施す。重量は15.35kgあり、同種の大型の甕に使用された粘土の量を計る目安となる。422は、甕の成形段階で口縁部を乗せる部分の余分な粘土を切り取ったものを焼いたいわゆる切削物である。

土師器（423～431）　423・424は甑。425は壺。体部内面ナデ。426～430は甕。いずれも内面ヘラケズリ。431は手づくねで仕上げられる。ミニチュア土器の甕か？

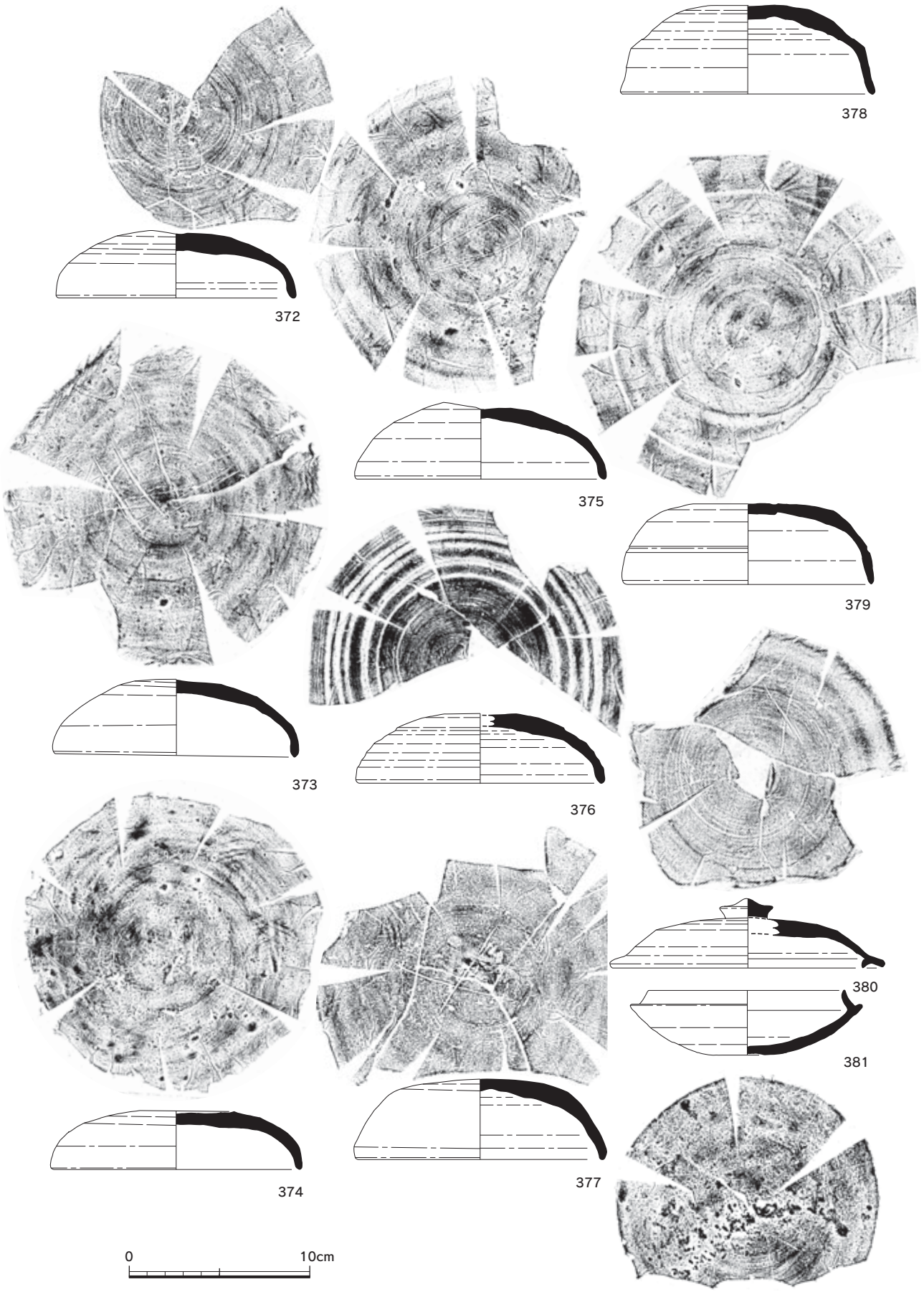
弥生土器（432）　壺の口縁部小片。一部赤色顔料が残る。

石器（433～437）　433は扁平打製石斧。玄武岩製か？434は不明石製品。全面にたたく敲打痕が認められる。435は凹み石。436はスクレイパー。安山岩製。437はチャート。縦長剥片である。

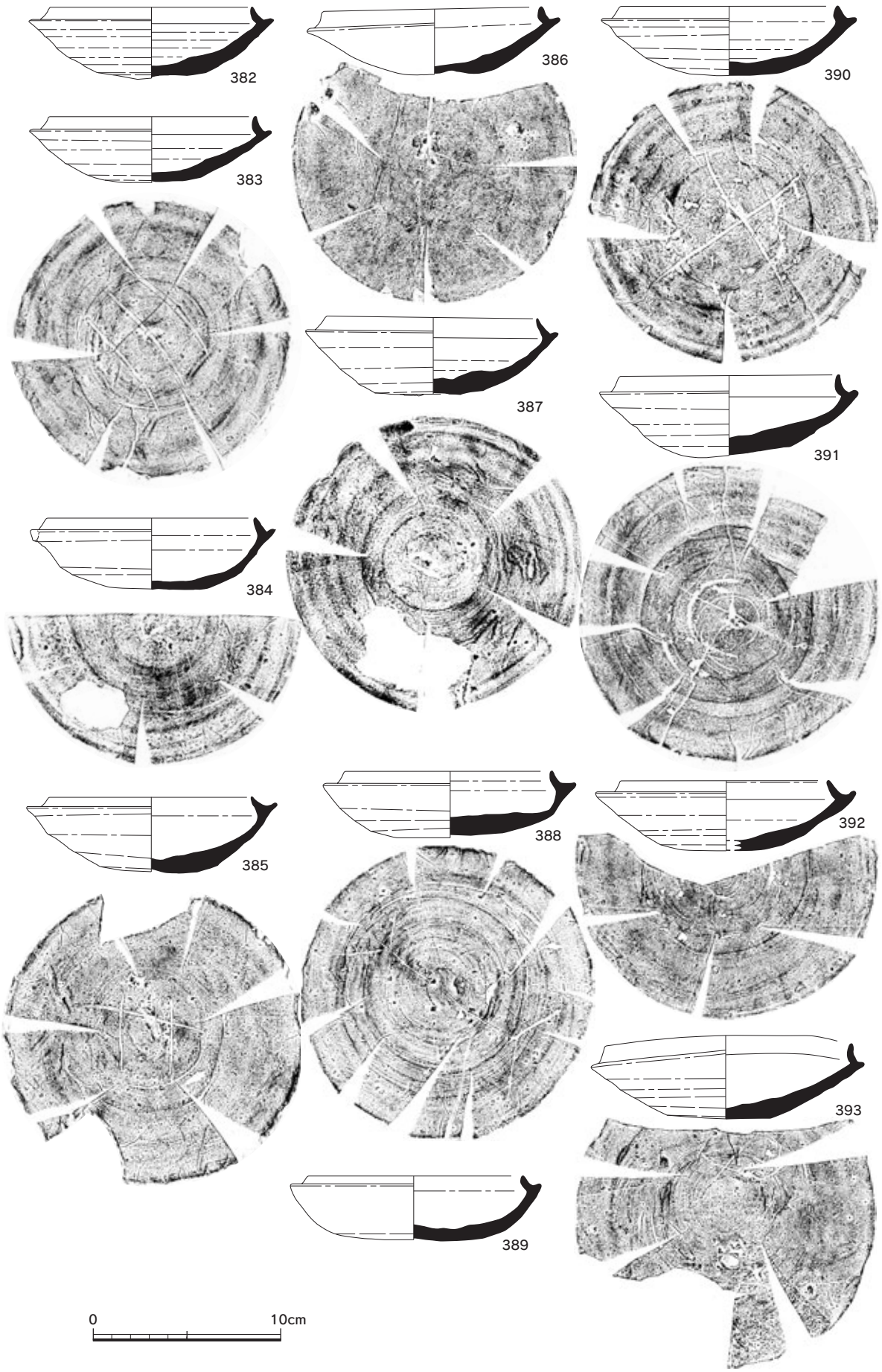
最下層杭列出土遺物（438～445）



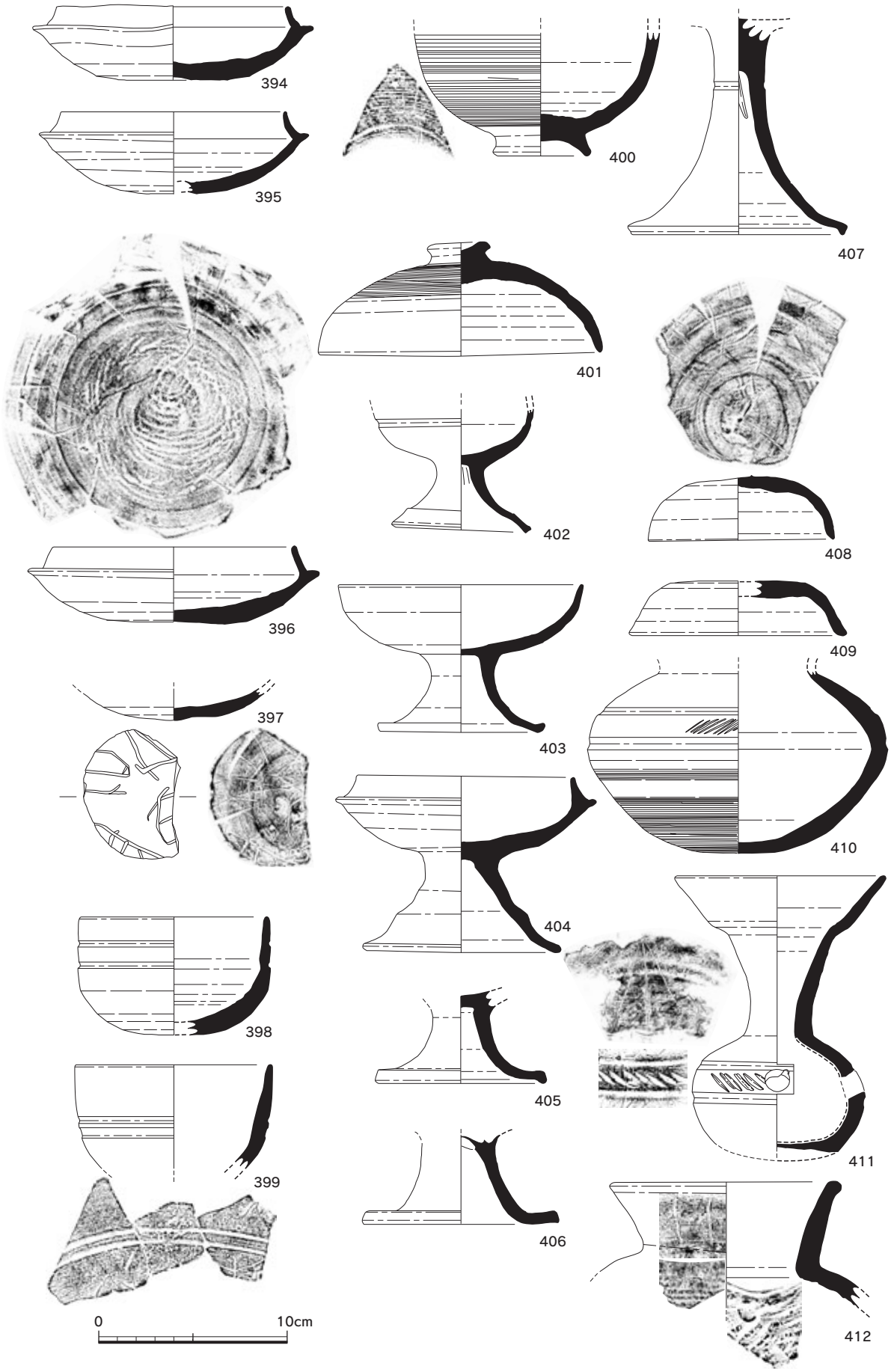
第59図　1次谷部最下層出土遺物実測図①（1／3）



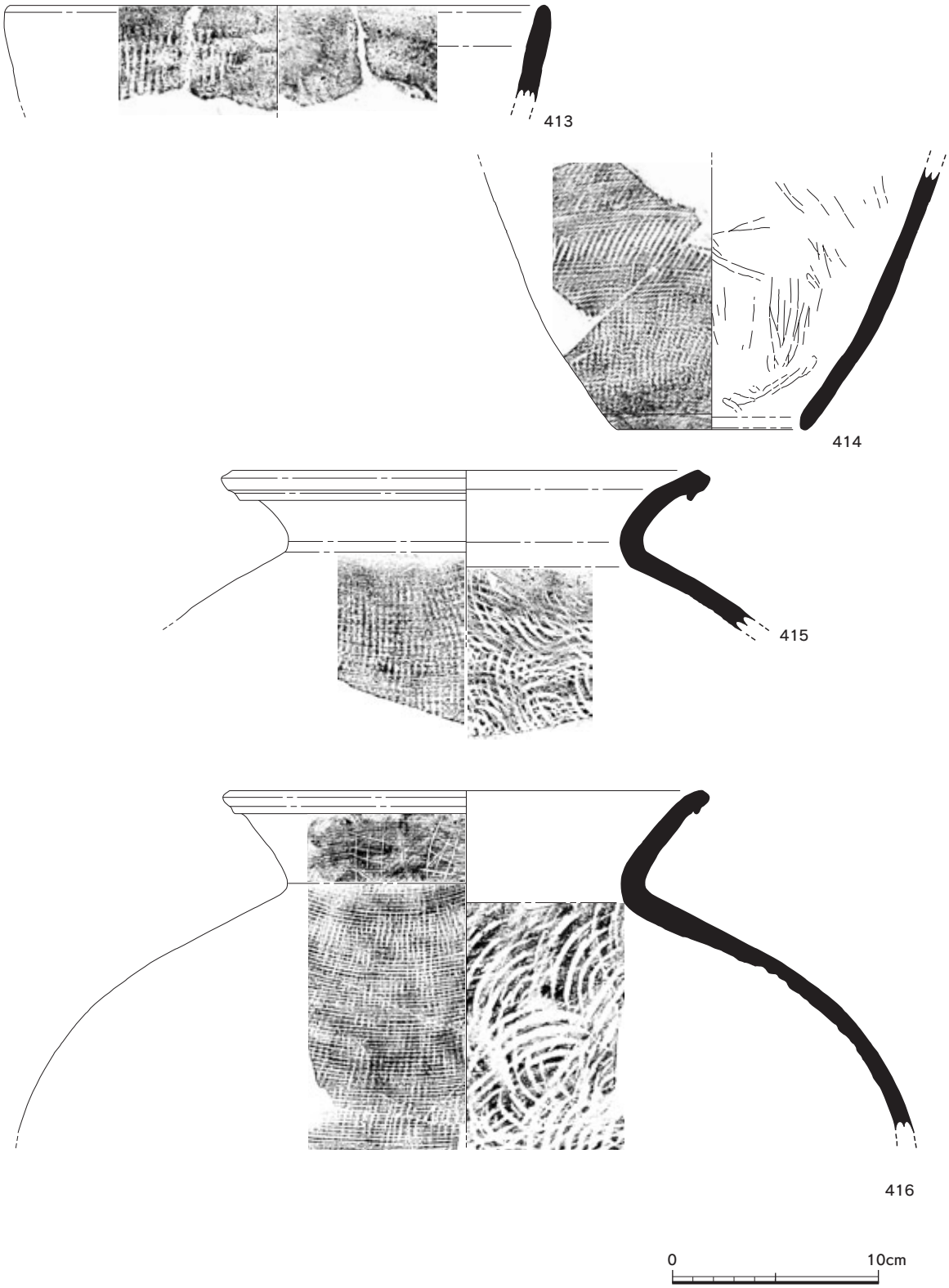
第60図　1次谷部最下層出土遺物実測図②（1／3）



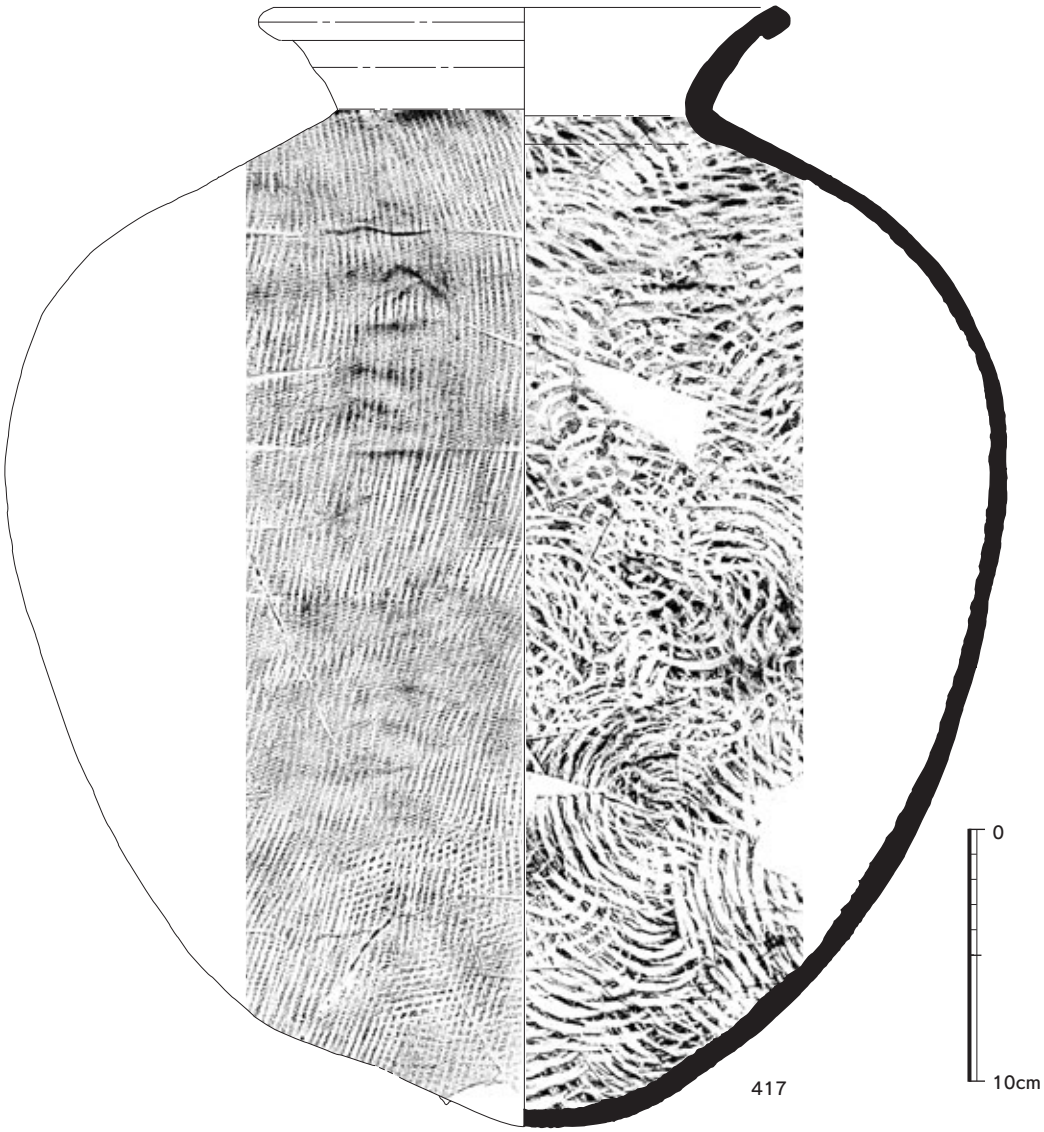
第61図　1次谷部最下層出土遺物実測図③（1／3）



第62図　1次谷部最下層出土遺物実測図④（1／3）



第63図　1次谷部最下層出土遺物実測図⑤（1／3）



第64図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑥（1／3）

ここに取り上げるのは、８層から打ち込まれた杭列周辺から出土した遺物である。杭により打ち割られた遺物もあり、基本的には下層②・最下層堆積土中にあったもので、杭列が設置された時期の目安とするために別に報告する。

須恵器（438～444）　438・439は杯H蓋。いずれも口径13.0cm前後。天井部外面の回転ヘラケズリの範囲は狭い。440・441は杯H身。441は口縁端部が細かに剥離し、使用痕と考えられる。442は提瓶。ほぼ完形である。443は蓋。口径26.2cmと大型で、かえりをもち、断面箱形の高いつまみがつく。444は甕。口径20.8cm。

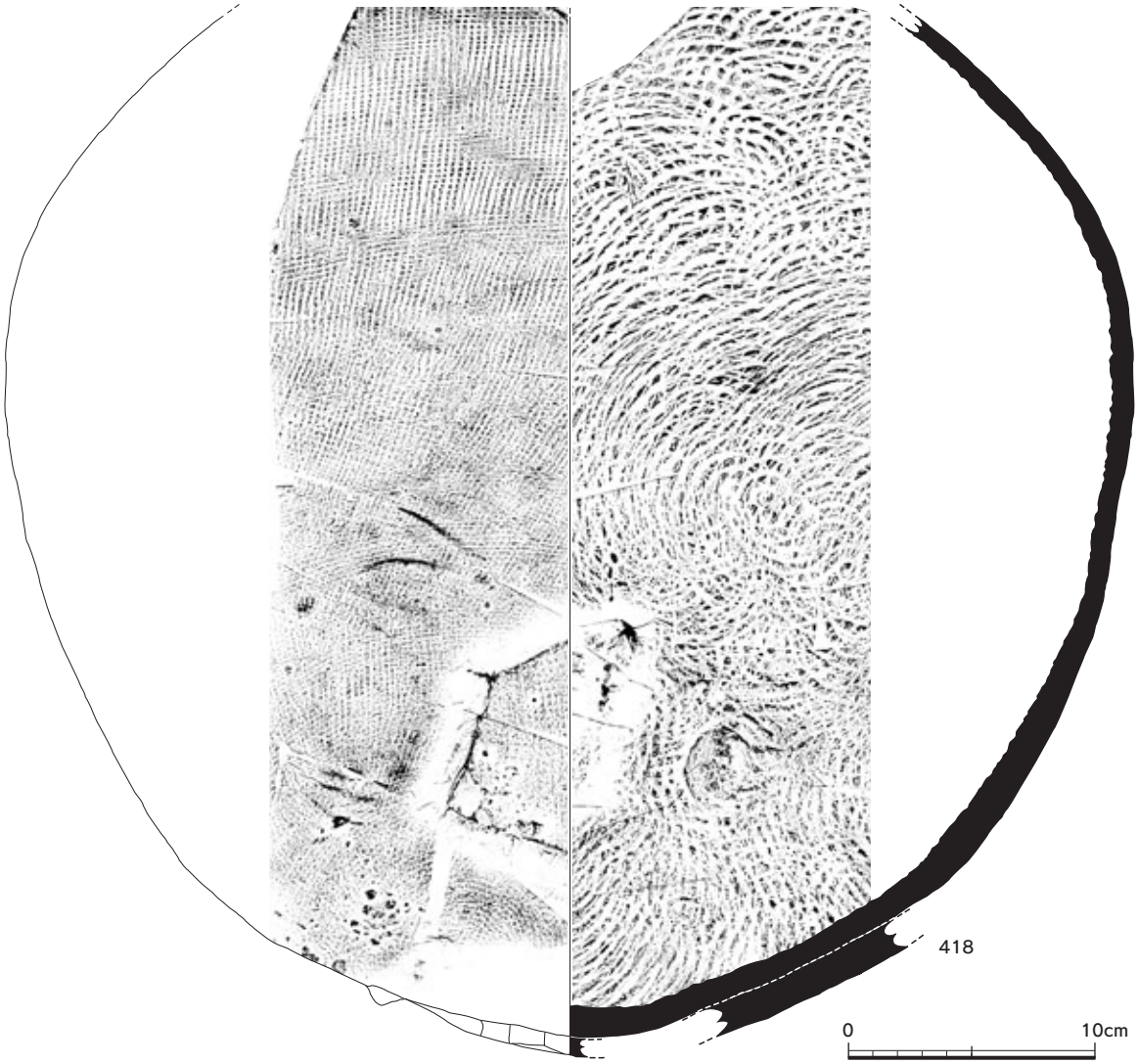
土師器（445）　甕。底部は平底に近い。内面ヘラケズリ。

検出面・包含層出土遺物（446～448）

須恵器（446）　平瓶。閉塞部を失う。

土師器（447）　高台付小皿。小片。摩滅する。

瓦（448）　軒丸瓦。瓦頭面は無文。神ノ前タイプ。



第65図　1次谷部最下層出土遺物実測図⑦（1／3）

層位不明遺物（449～452）

須恵器（449・450）　449は杯Ｂ蓋。つまみは低いボタン状。天井部は回転ヘラ切り。外面に墨書が認められる。「識」と判読できる。450は器種不明。

磁器（451）　白磁。内面は施釉されず、器種は壺であろうか？

石器（452）　石鏃。小型で粗雑なつくりである。

（5）その他の遺構出土遺物

報告された以外の遺構出土遺物について、南北調査区および遺構面ごとに報告し、各遺構面の時期を考える一助としたい。

北側調査区第1面（第71図）

須恵器（453・454・463）　453は杯Ｂ蓋。つまみはつかない。454は杯Ｂ身。杯底部は丸くなる。463は甕。外面に連続斜線文を施す。

土師器（455～457、459～462、464～468）　455・456・464・468は小皿。いずれも底部回転ヘラ切り。460は杯。底部回転ヘラ切り。体部は丸みがつく。457は丸底杯。摩滅しており、調整不明。

461・462・465は椀。細くやや低い高台がつく。459は器種不明。外面に墨痕のようなものが見える。

黒色土器（466・467）　いずれもＡ類。椀。底部は丸く、高台はやや低い。

瓦器（458）　椀。高台は低い。

炉壁（469）　厚さ３～４cm程度。全体に被熱される。

石器（470）　石鏃。基部の抉りは浅い。安山岩製。

北側調査区第２面（第72図）

須恵器（471・473・474・477・478）

473・477は杯Ｈ蓋。いずれも天井部外面に回転ヘラケズリを施す。474・478は杯身。474は杯Ｈ身。立ち上がりは内傾し、短い。471は皿。口縁部は大きく外方に開く。

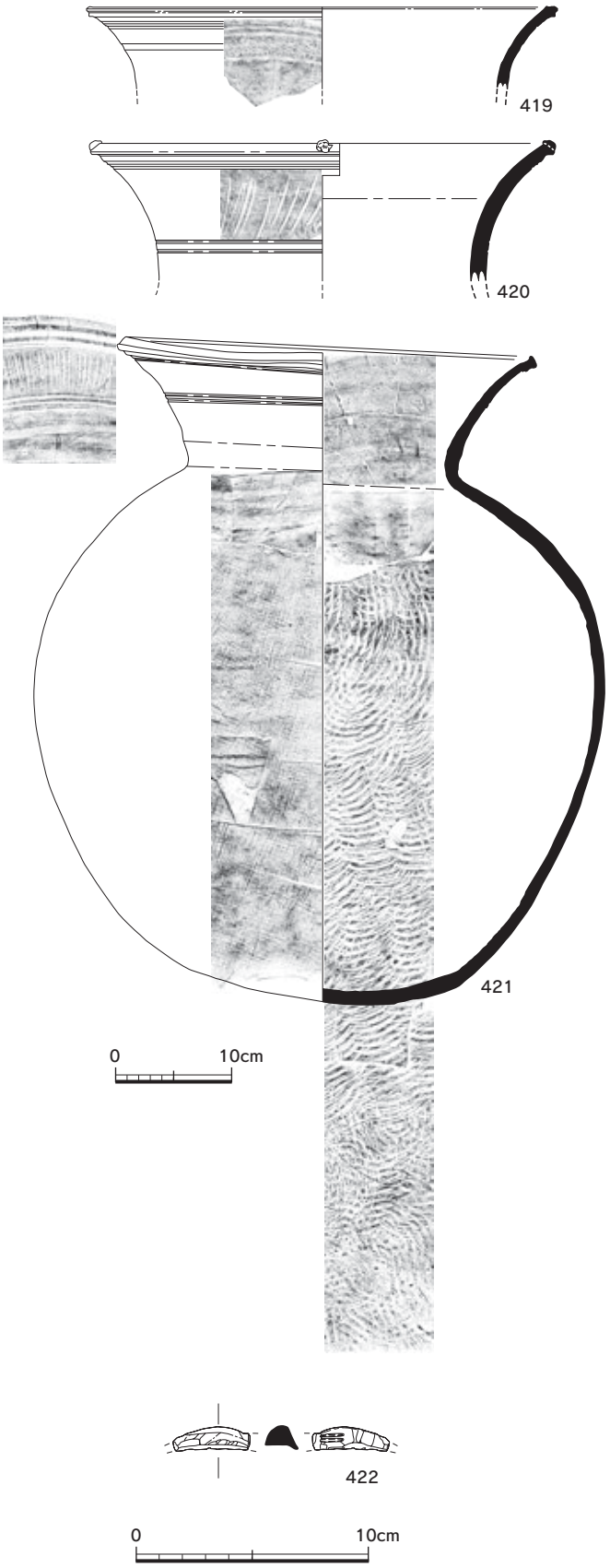
鉄滓（479・480）　いずれも炉壁かと考えられるものがつく。

石器（472・475・476・481）　472は石包丁の残欠。475は砥石。四面を砥面とする。476は石鏃。安山岩製。脚部は欠損するが、長いようである。481は細石刃か？下半を欠損する。

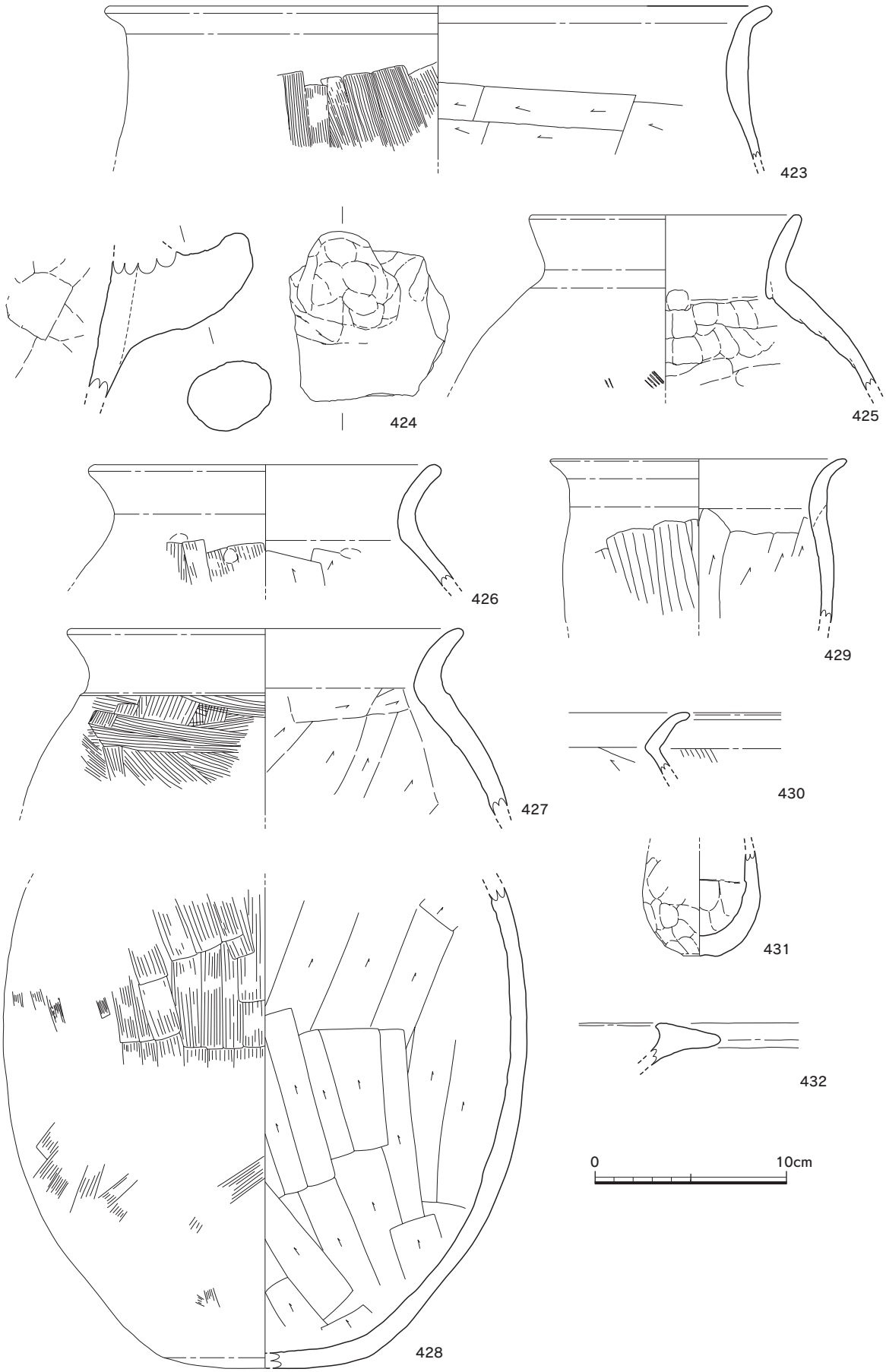
南側調査区０面・検出面（第73図・図版71）

須恵器（484～486・492・493・498）

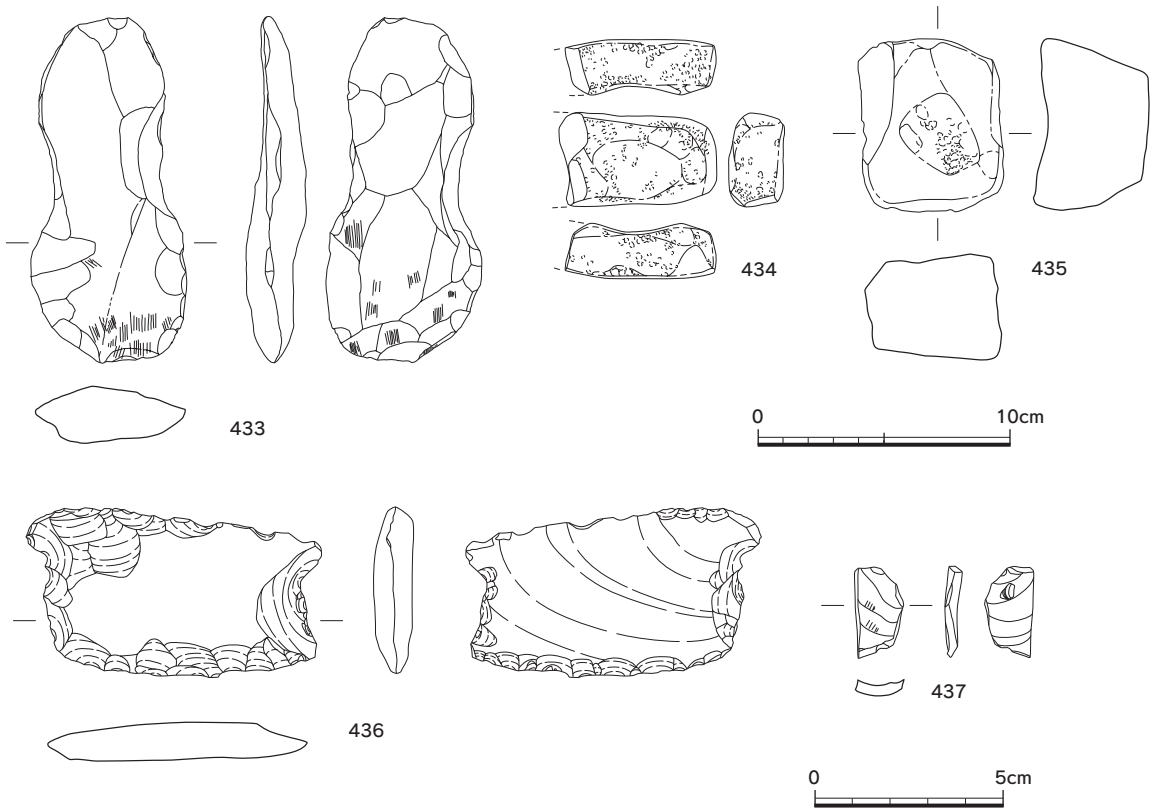
484・492は杯Ｂ蓋。484はつまみは低く、中央はくぼみ、端部の折り曲げは短い。492は小型であるが、つまみは高く大きい。485・486は杯Ｂ身。高台は低い。498は短頸壺か？高台は高い。493は甕。外面格子目タタキ、内面同心円当て具痕。牛頸窯跡群の製品ではない可能性もある。



第66図　１次谷部最下層出土遺物実測図⑧
（422は1／3、他は1／6）



第67図　1次谷部最下層出土遺物実測図⑨（1／3）



第68図　1次谷部最下層出土遺物実測図⑩（436・437は1／2、他は1／3）

土師器（482・487・488・494・495）　482・487・488・494は椀。高台は低い。482・495は脚部。椀等につくものか？

黒色土器（489～491）　いずれも椀。489はA類。他はB類。

鉄滓（496）　2.5～3.1cm。球状に近い形状をとる。

鉄器（497）　断面長方形。刀子の茎か？

石器（483）砥石。厚さ1cmと扁平。

表土剥ぎ等の出土遺物（第74・75図・図版71）

須恵器（499～506）　499～502は杯蓋。499は杯H蓋。天井部外面には、ヘラ記号を深く刻んだ後、種類の異なる細く浅いヘラ記号を施す。500～502は杯B蓋。つまみは低く、端部の折り曲げは短い。503は杯B身。高台は低く、底部と体部の境は丸い。504は高杯とするが、杯部底面から受け皿状の体部がのびる。金属器模倣品か？505・506は甑。把手部のみ。

土師器（507～509）　507は丸底杯。508は皿状の底部外面に脚部をともなう。杯部内面は被熱されており、灯明具であろうか？509は移動式カマドか？内外面ともナデて仕上げる。

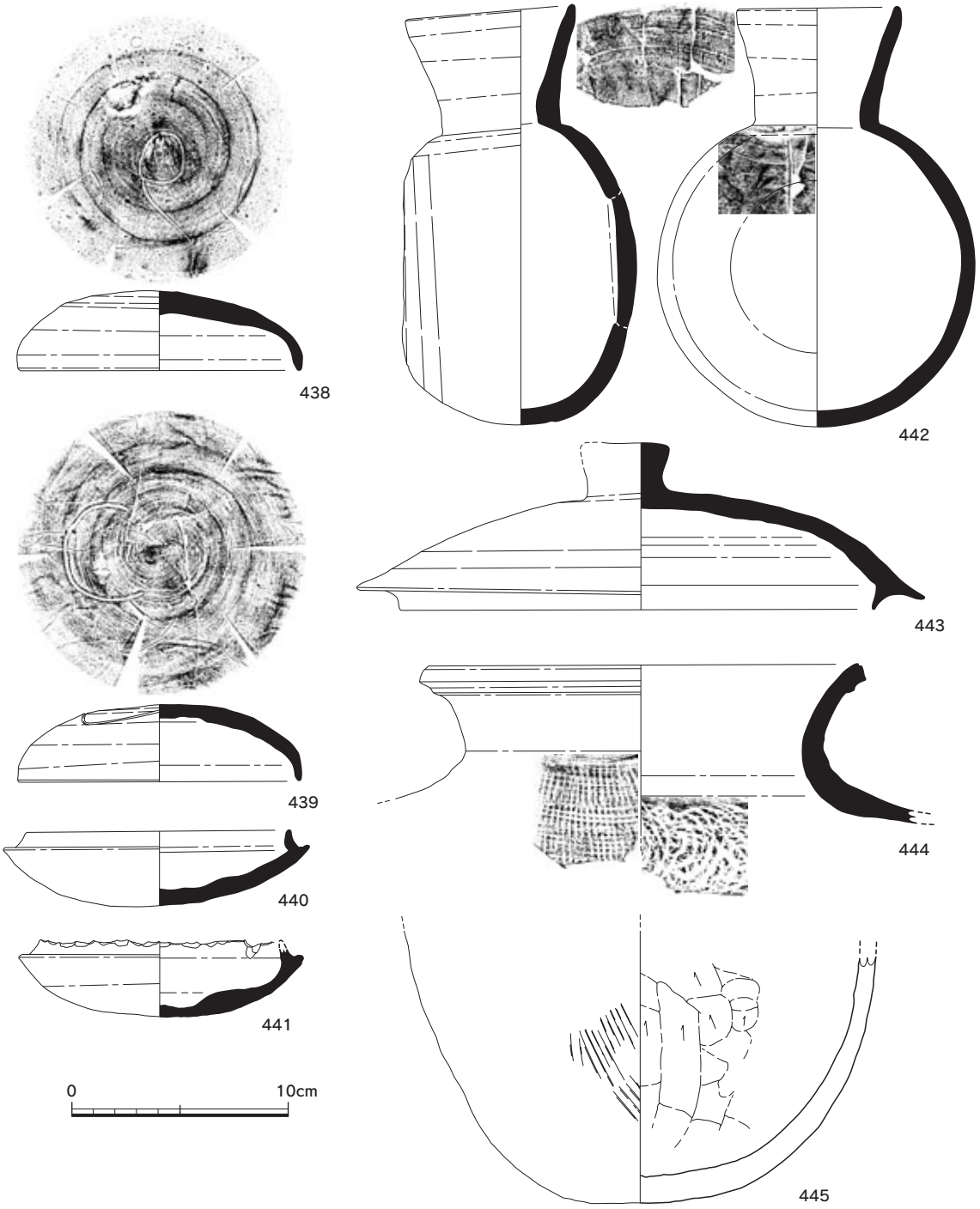
瓦器（510）　椀。大きく焼け歪む。

瓦（511）　平瓦。外面縄席文タタキ。

土製品（512）　塼。厚さ7.4cm。残りは欠損する。

鉄滓（513）　椀形滓か？

石器（514）　石鏃。黒曜石製。脚部は長い。



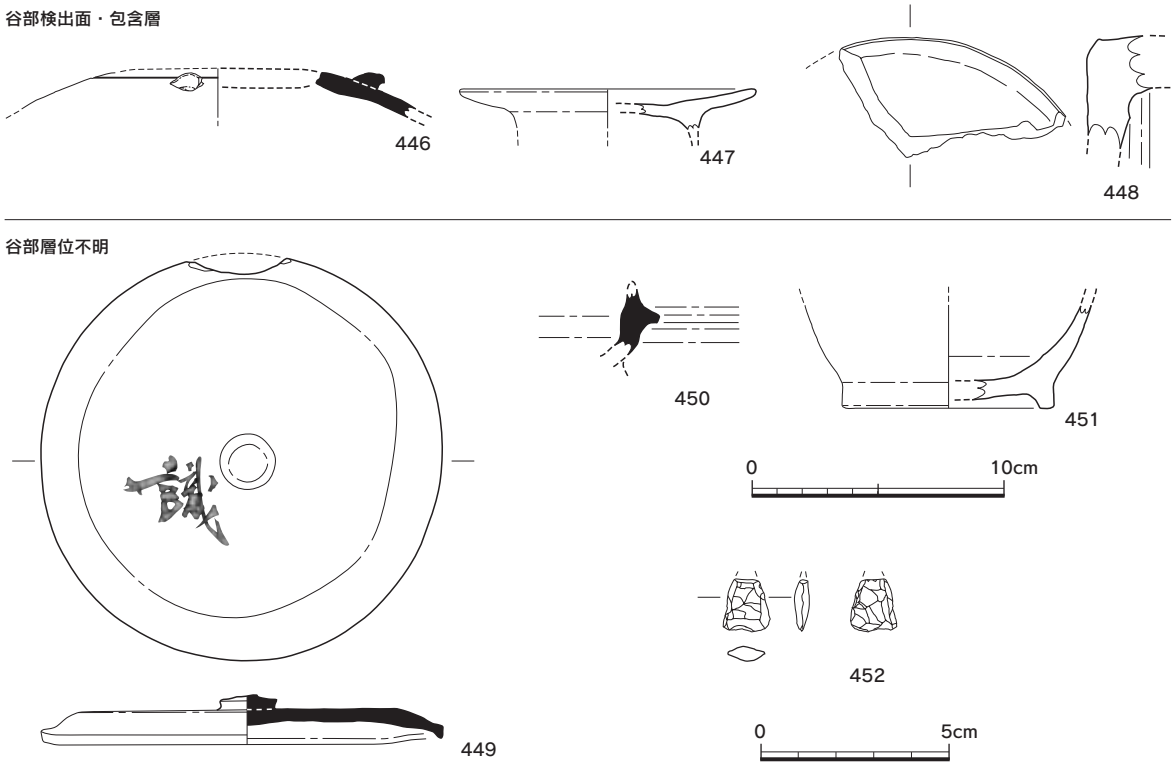
第69図　１次谷部最下層杭列出土遺物実測図（1／3）

C．小結

１次調査地では緩斜面に掘立柱建物や竪穴住居跡などの集落遺構が確認され、遺構面が２面確認されるなど遺構密度も高い方であった。遺構と遺物の報告では、南北調査区と谷部に分けて記述を進めたが、以下では１次調査地全体の遺構について時代を追ってまとめてみたい。

旧石器～弥生時代

旧石器・縄文時代は、細石刃や抉りの深い石鏃やチャート製の縦長剥片の存在など、周辺で活動した痕跡は認められるものの、明確な遺構は確認できていない。こうした状況は弥生時代について



第70図　１次谷部内その他の出土遺物実測図（452は1／2、他は1／3）

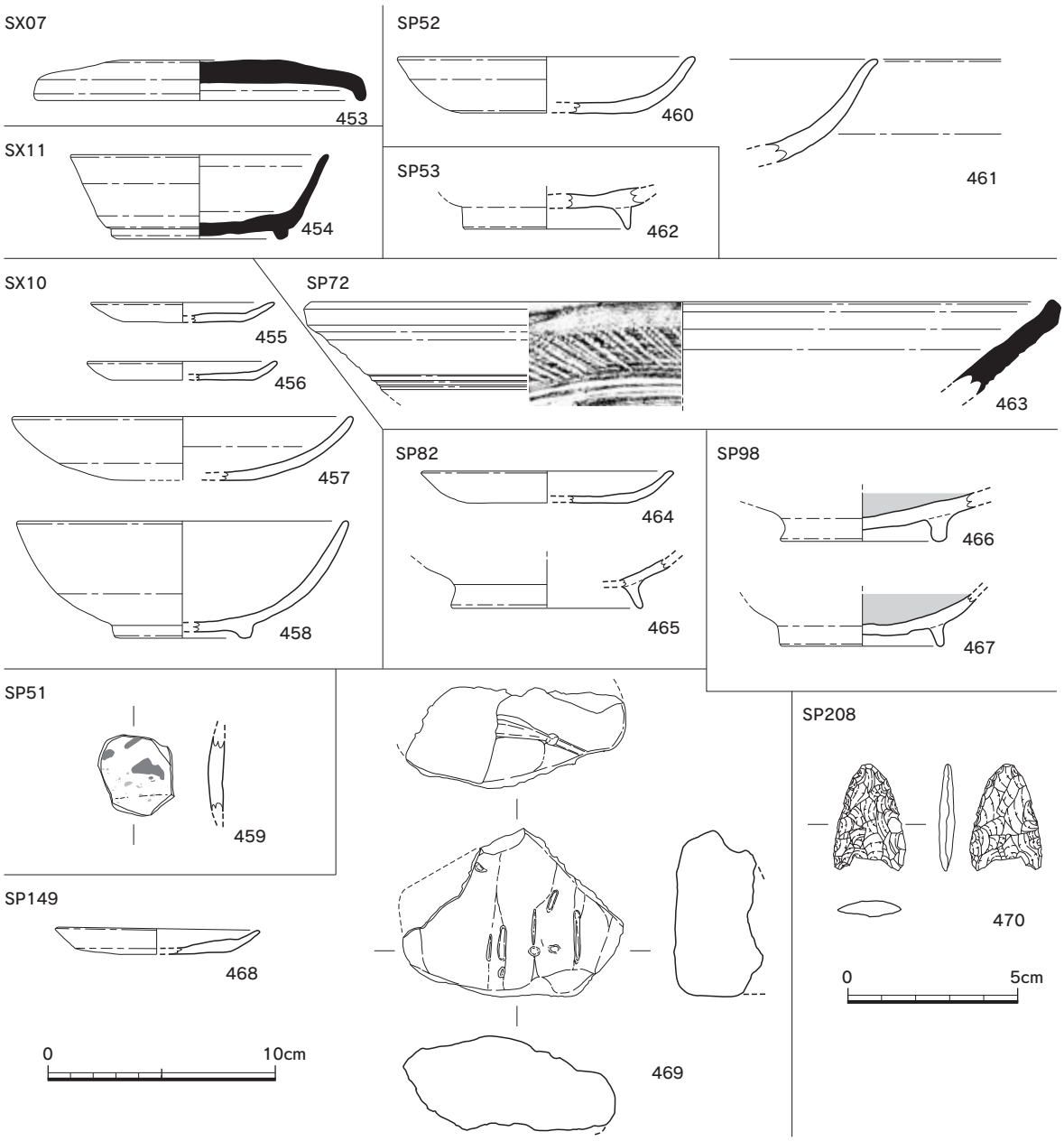
も言えることで、小片であるがＳＢ04を構成するＳＰ268より前期にあたる甕が出土するなど、断続的な活動の痕跡は追えるが、調査地内では遺構は確認できていない。

古墳時代～飛鳥時代

１次調査地で確認される遺構として最も古いものは、古墳時代後期のものである。ＳＣ04は遺物が小片・少量のため時期の判定に困るが、杯Ｈ身はおおむね小田編年Ⅳ期にあたると思われ、６世紀末～７世紀前半代に位置付けられよう。ＳＣ04の南側に位置するＳＤ13は、奈良時代の杯Ｂ蓋を含むが小片であり、ＳＣ05に切られⅣＡ期の遺物を含む。また、溝ののびる方向はＳＣ04南壁で確認された溝と同じであることから一連の遺構と考えられる。ＳＢ04は図化できなかったがⅣ期の遺物を含み、この時期以降にあたる。この他、確定はできないがＳＣ03出土甕もこの時期にあたると考えられる。

このように、１次調査地では６世紀末～７世紀になると竪穴住居や掘立柱建物が確認できる。また、谷部最下層や下層②からはⅣＡ期にあたる遺物が大量に出土し、一部Ⅲ期に遡る遺物も含む。最下層の埋土は粗砂と粘土が互層で厚く堆積しており、１次調査地の谷の上方にある本堂遺跡７次調査地で須恵器窯の築造がおこなわれている事から、森林開発とそれにともなう環境破壊がおこったと判断される。最下層出土遺物は環境破壊にともなって引き起こされた洪水により流出した遺物と考えるが、出土した須恵器は完形品が多く、焼け歪んだものも少なく、窯壁片・焼土塊・炭が多量に出土することはなかったことから、須恵器窯の灰層が流されたと考えるのはやや困難であり、その由来については７次調査の成果をまって判断したい。

こうして６世紀末頃から始まる集落が確認されたが、１次調査地内で連続する時期の遺構は見出せず、また出土遺物も７世紀中頃から後半のものは少ない。ＳＸ24は第2面で検出され、７世紀後

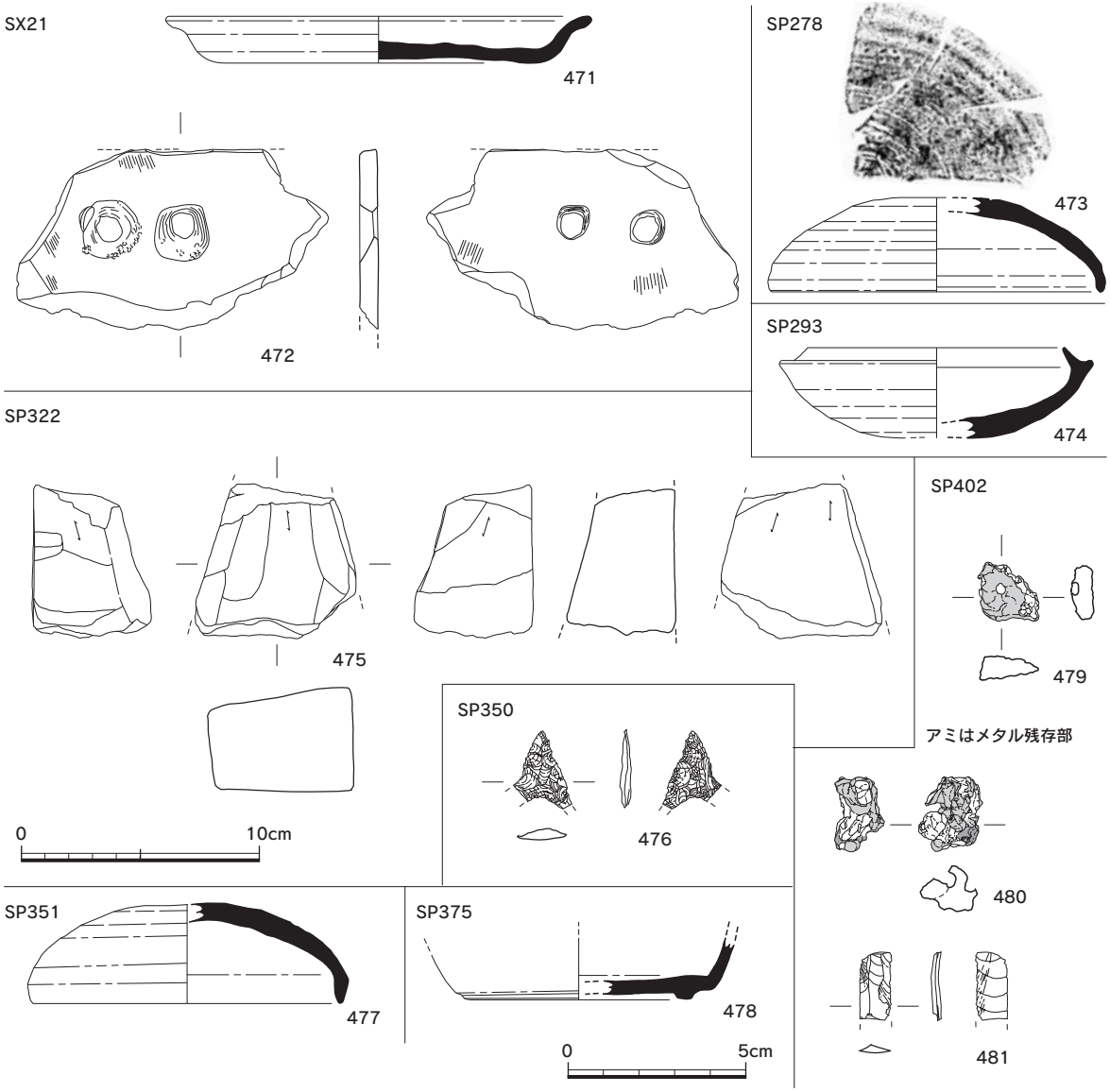


第71図　１次その他の遺構出土遺物実測図（北側調査区・第１面）（470は1／2、他は1／3）

半の須恵器と鉄滓を多量に含む。製鉄遺構が周辺にあった可能性があるが、鍛冶炉は確認できなかった。谷部からもこの時期の遺物は確認できるが、ごく少量であり、再び遺構が増加するのは８世紀に入ってのことである。

奈良時代

奈良時代に入ると、遺構の数は一気に増加する。出土遺物から見て、北側調査区第２面はこの時期にあたる。ＳＣ05は山形のつまみをもつ杯蓋を含み、８世紀前半～中頃とすることができよう。住居床面から粘土が出土することから、須恵器工房であったと考えられる。ＳＣ02は一部中世の土師器・磁器を細片で含むが、同じ時期とできよう。またＳＸ13もつまみを欠損するが、同じ時期と考えたい。このように、８世紀前半代に竪穴住居跡が確認され、窯壁や粘土が出土することから須

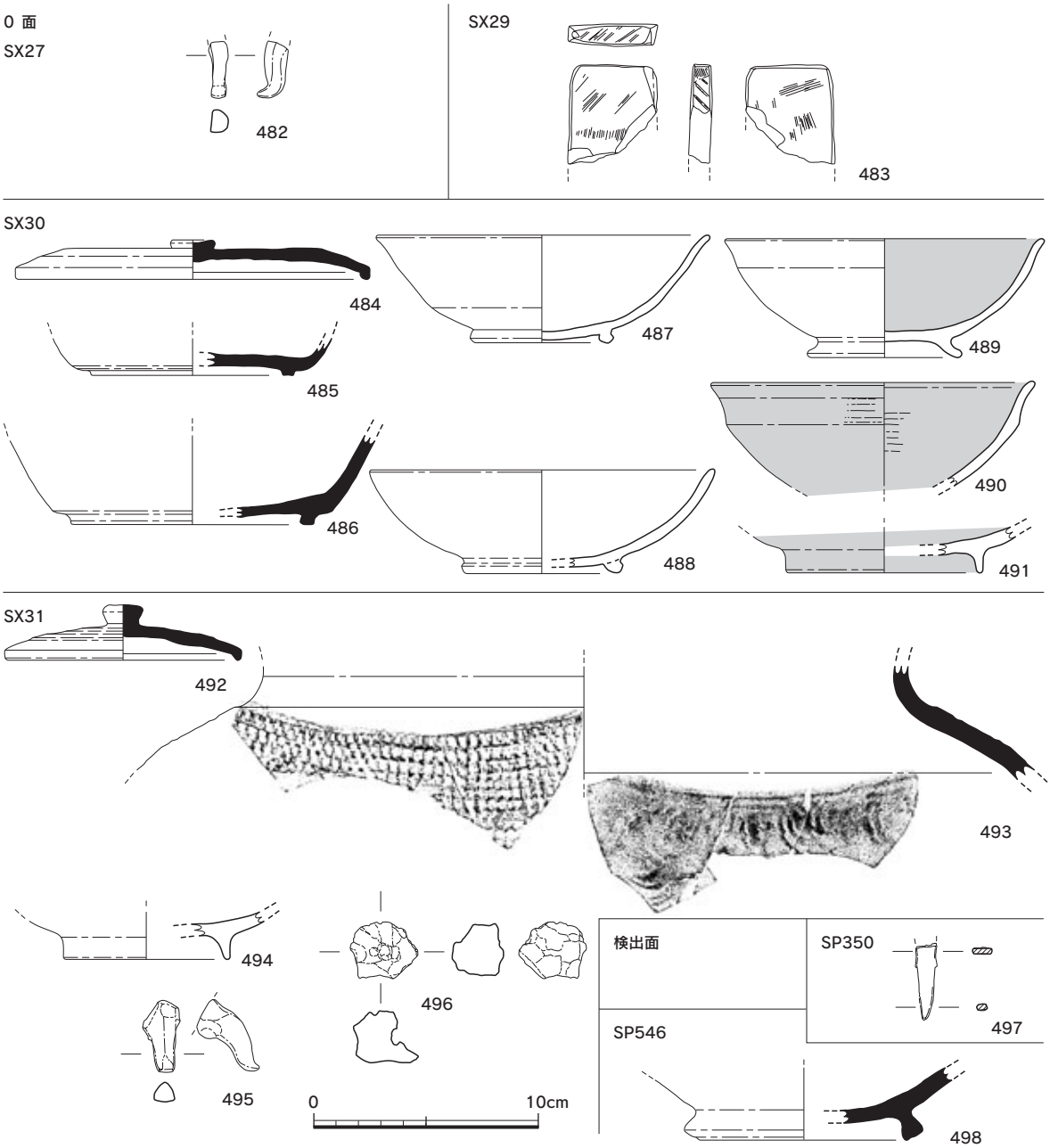


第72図　１次その他の遺構出土遺物実測図（北側調査区・第２面）（472・476・481は1／2､他は1／3）

恵器工人集落の一部にあたると考えられる。ＳＸ02・ＳＰ438は時期決定できる遺物が少なく判断に迷うが、８世紀後半と考えるのが妥当であり、このころまで須恵器工人の活動がおこなわれていたと考えられる。

一方、ＳＸ35は８世紀中頃前後と考えられ、仏鉢形の鉢をともなう。ＳＢ01は、柱穴からの出土遺物は８世紀中頃～後半。また、時期は確定できないがＳＢ07は前代のＳＣ05を切り、南北方向に主軸をむける建物と考えられる。同様の主軸方向をとる建物はＳＢ05があり、こちらは２×２間の総柱建物。このように、前代とは異なり南北方向を意識した建物が認められるようになるが、時期については切り合い関係よりＳＣ05（８世紀前半～中頃）以降とするのみである。同じ方位をとる建物は隣接する９・12・17次調査でも認められ、まとまった建物群を構成するようである。ＳＰ359は８世紀後半と考えられ、蓋杯の出土状況から地鎮遺構と考えられる。

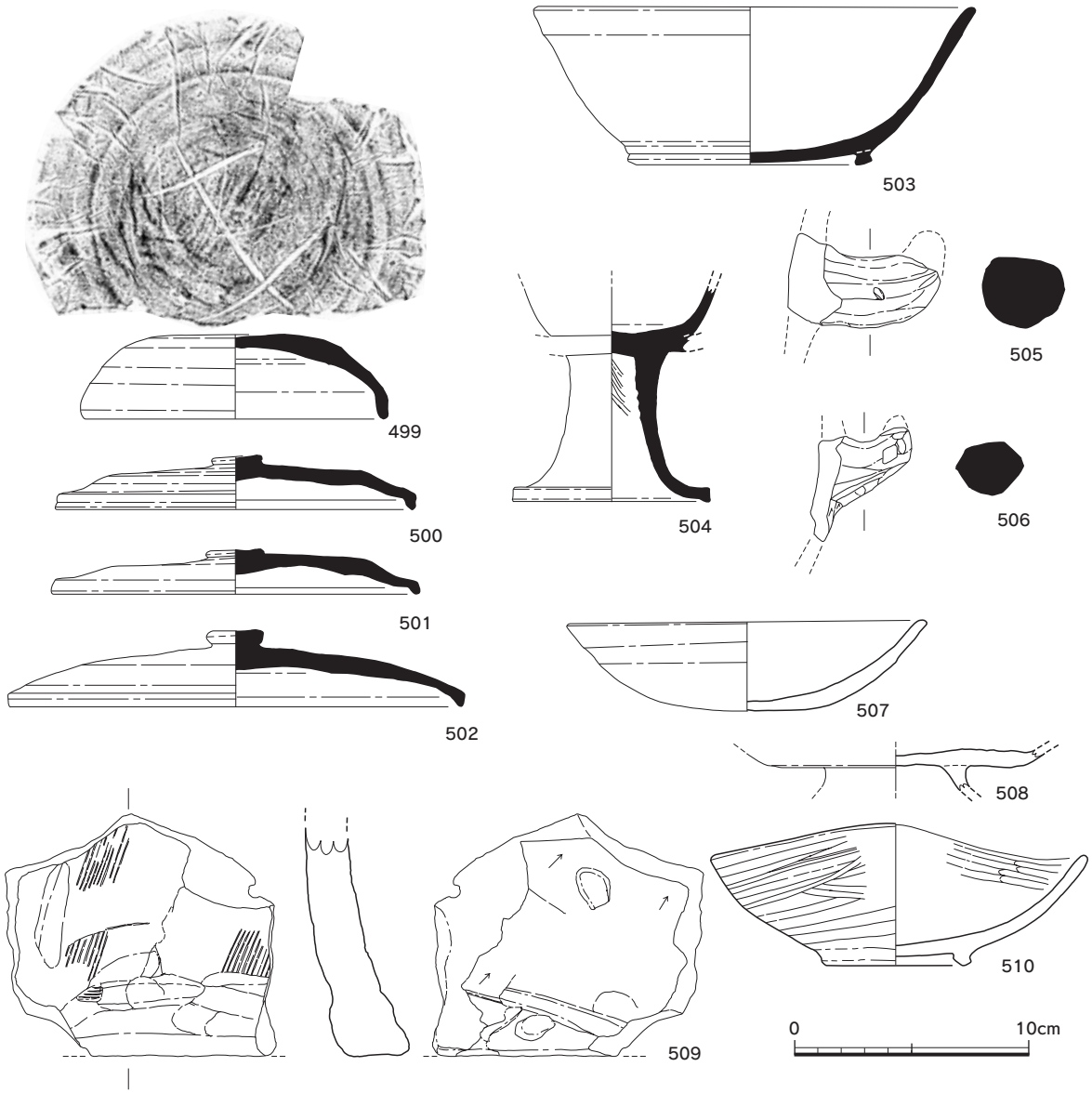
谷部に打ち込まれた杭列については、８層から杭が打ち込まれていることから下層②の出土遺物が手がかりとなる。下層②からは６世紀末～７世紀初頭の須恵器を主体とし、一部７世紀後半～８



第73図　１次その他の遺構出土遺物実測図（南側調査区０面・検出面）（１／３）

世紀前半の遺物を含む。杭の頭部と丸木は７・８層間にあり、これは下層②にあたることから、杭が打ち込まれ丸木が設置されたのは下層②の堆積中のことと思われる。したがって、杭列の設置は遅くとも８世紀前半までに行われていた可能性が高い。

また谷部土層断面を見ると、谷の傾斜面が連続せず、造成を受けたような部分がある。仮にこれを造成面と名づけ、北側の土層を見ると垂直に掘られた後に傾斜をもって下り、７層上面にあたる。ここは下層①②として分層され、遺物相も大きく変わる。平面的に見ると造成面は谷部の北側に顕著であり、あるいは７層の堆積中で谷部を底の浅い溝状に掘り込んだとすることも可能かもしれない。しかし、ここでは可能性を指摘するに止め、結論は西側に続く７次調査地の谷部について検討をおこなった後に取り上げることとしたい。土質について見ると７・８層は粘質化が進んでいるが、



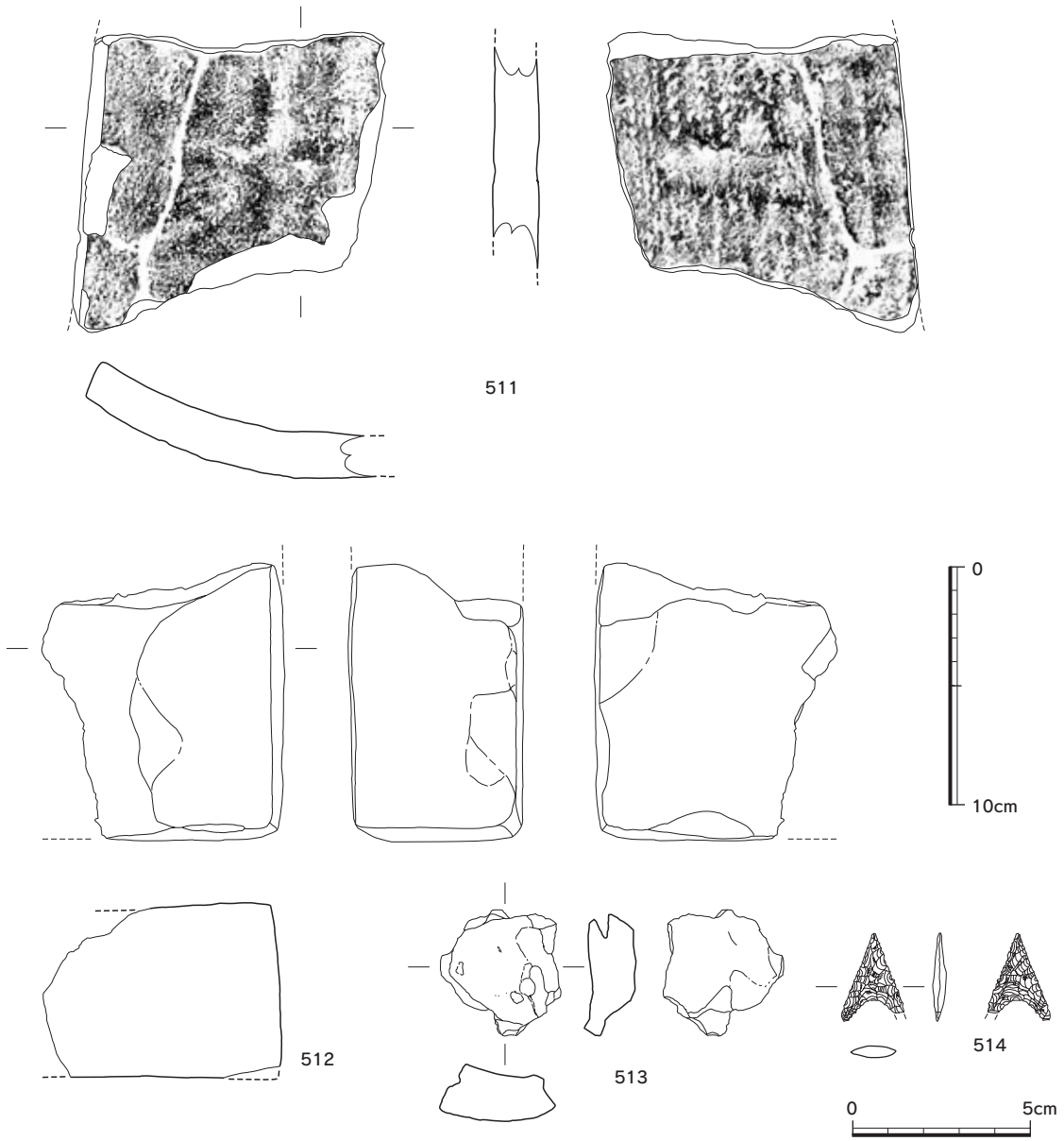
第74図　１次表土剥ぎ等出土遺物実測図（１／３）

10・11層は砂質土であり、丸木と杭列が設置された時期は、谷部がやや荒地化したような状況と考えられる。したがって、丸木・杭は出土状況から見て、橋脚を持つような橋というよりは荒地化した谷部埋土上に杭を打ち込み、その上に丸木を渡した施設と考えられる。また、「識」と墨書された須恵器は降雨後の泥土中から出土したため出土層位は不明であったが、型式的には８世紀後半に位置付けられ、下層①に含まれていた可能性が高い。

平安時代以降

１次調査地では、９世紀にあたる遺構・遺物はまったく認められない。確認できるのは10世紀以降のものである。北側調査区第１面の遺構がこの時期にあたり、第２面包含層が９世紀代に形成されると考えられるが、堆積状況からは整地とは考えにくい。

ＳＸ01は第１面に形成された遺構の中で最も古いもので、遺物は少量ながら10世紀中頃～後半にあたろうか。ＳＸ03もこの時期の土師器・黒色土器を多く含んでいる。ＳＢ02の柱穴からは、土師器小皿が出土しており、小片のため時期の確定は難しいが11世紀後半～12世紀前半。ＳＸ03



第75図　１次表土剥ぎ等出土遺物実測図（514は１／２、他は１／３）

より新しいと考えることができよう。また、ＳＢ03も同じ主軸方向をとることから同じ時期と考えられる。ＳＸ15はいずれも小片であるが、最も新しい遺物でこの時期の瓦器を含む。ＳＰ292もこの時期の小皿２点が合わせ口で重ねられる。こうした行為は、まじないに用いられた可能性が高い。（註１）12世紀後半～13世紀前半ではＳＸ16は土師器小皿がこの時期にあたる。谷部上層の遺物も12世紀後半代の遺物が最も新しいようであり、このころには谷部は埋没し、南北調査区はつながっていたと考えられる。

このように、１次調査地では13世紀を境に景観が変わる。この後の遺構はいずれも溝であり、明確な遺構を確認できなくなる。ＳＤ12は14世紀代の青磁椀などを含む。ＳＤ01・02は、15～16世紀代の粉青沙器が出土している。溝の方向から、ＳＤ01・02・12は谷部埋没後に掘られた一連の溝と考えられ、南側調査区Ｏ面はこの時期にあたる。（石木）

註１　宮瀧交二1999「研究ノート　土器を埋めるということ」『祭祀考古学』創刊号　祭祀考古学会

２．第９次調査

Ａ．調査概要（第76図・図版19）

第９次調査地は、本堂１次調査地の東側に隣接する。大野城市大字上大利649-9、649-18、649-20にあたり、調査面積は約400㎡である。調査区は、大野城市の南に位置する牛頸山から北側に延びる丘陵の東側に位置し、丘陵の裾部にあたると思われる。しかし、調査区の東側半分は水田および宅地造成に伴い大きく削平されていた。

試掘調査は、平成16年10月12日～18日の間に56次試掘調査としておこなった。隣接する第１次調査で遺構が確認されていたため、本調査地においても続きが検出されるものと考え、トレンチを設定したところ、遺構の存在を認めた。このため、試掘調査からそのまま表土剥ぎに移ることとなった。１次調査では、調査区の東側で遺構面が２面確認されており、本調査地においても同様に確認できるものと考え、遺物包含層を残して表土剥ぎをおこなった。しかし、調査区の東側大部分は住宅建設により予想外の削平を受けており、１次調査地から続く第１面の遺構面が確認できたのは調査区西側の一部のみである。

発掘調査は、平成16年10月21日～12月３日の間に実施し、北川が担当した。調査は西側で検出された第１面から掘り下げを開始した。この部分は、第１面完掘後人力により包含層の掘り下げをおこない第２面を検出したが、一部第１面で確認できずに第２面上で確認してしまった遺構もある。

調査区東側は、住宅建設により西側に比べて50～70cmほど下がる状態であった。このため、第１面はないものと考えていたが、ＳＤ01の周辺およびその東側で遺物を含む黄褐色土の存在が確認できた。これを除去した所、ピット・土坑を検出した。黄褐色土はしまりあり極めて固く、狭い範囲のみ確認できた。このことから、調査区東側においても遺構面が２面確認されることとなったが、調査区壁面の観察において両者は土層上では連続せず、遺物の内容からも。

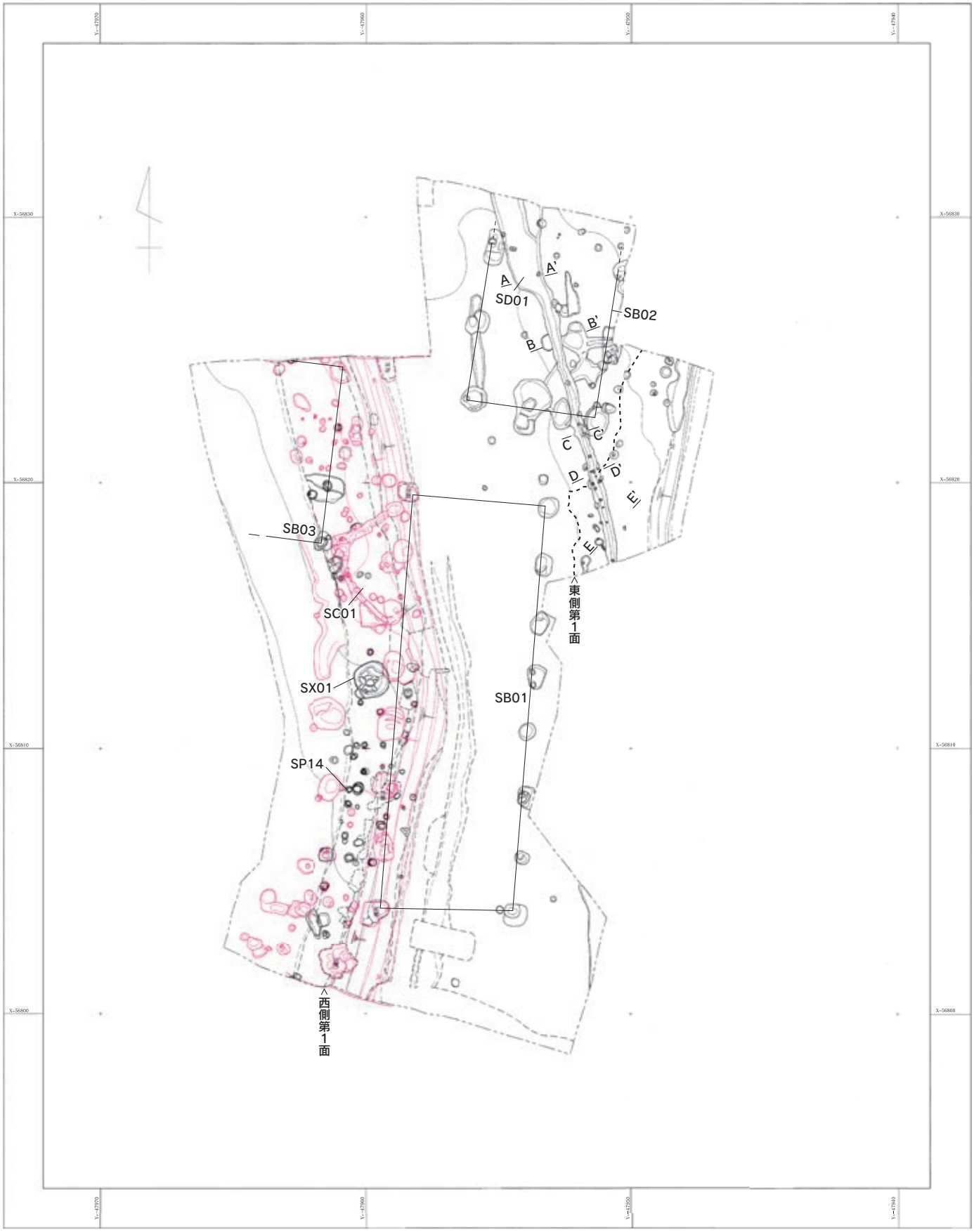
調査の結果、掘立柱建物２棟・竪穴住居跡１軒・溝１条・土坑やピットが多数確認された。掘立柱建物には１×７間の南北に長い建物があり、主軸は東へやや振れる南北方向をとっている。地形的な制約を考えると、南北方位を志向したものと考えられよう。また、弥生時代の竪穴住居跡も確認され、周辺調査地での集落の展開が予想される。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・石器・鉄滓があり、特に注目される遺物としては円盤状土製品がある。柱穴の埋土中に安置しており、何らかの祭祀行為に基づくものであろう。（北川・石木）

Ｂ．遺構と遺物

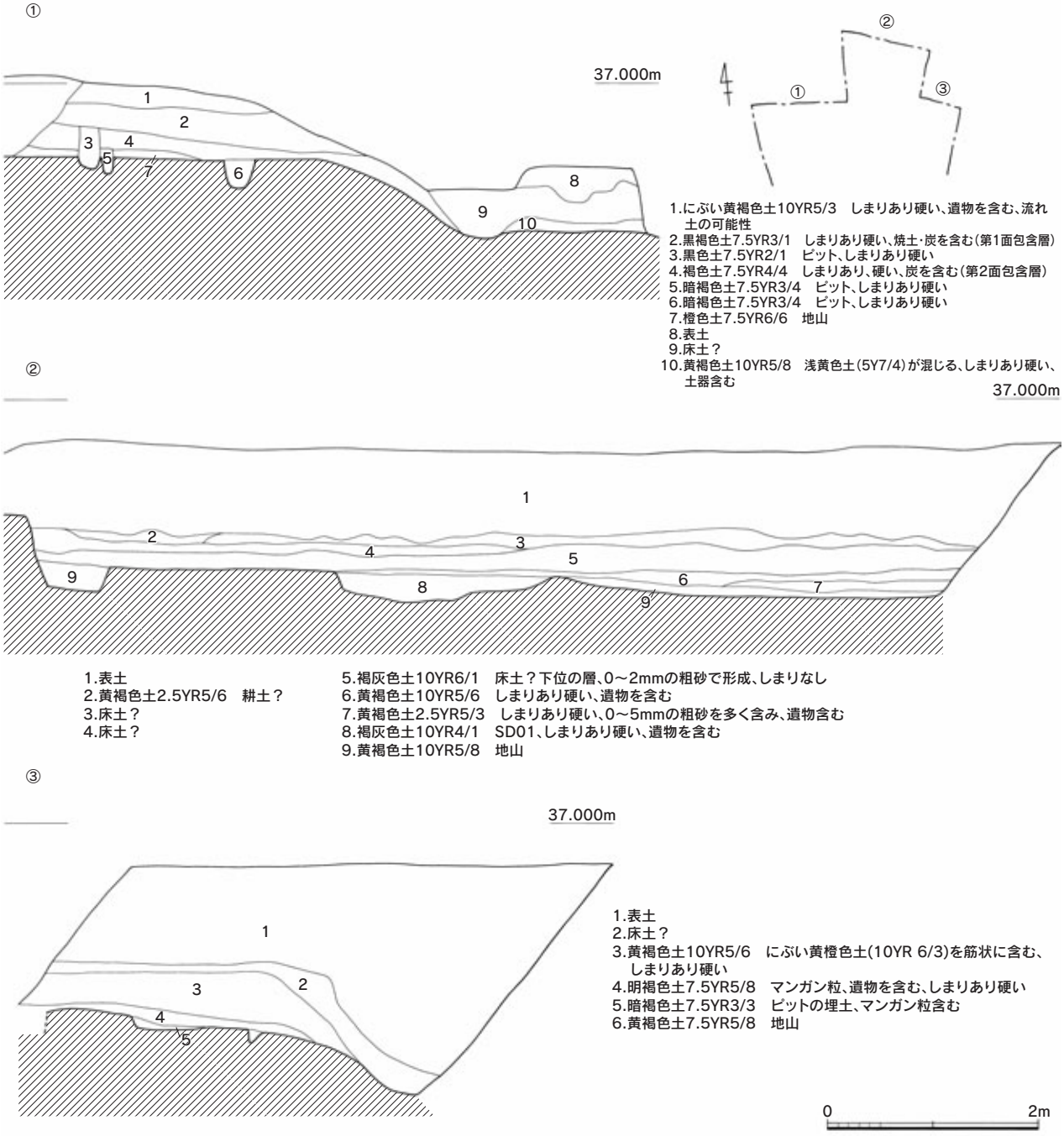
（１）調査区および層位（第76・77図・図版19）

９次調査地は、１次調査地から連続する遺構面が検出された西側と住宅により削平された東側に大きく分ける事ができる。調査の結果、東西いずれにも２面の遺構面が存在することが明らかとなった。それぞれの遺構面は連続しないが、一連の遺構が広がっている。

西側は、にぶい黄褐色土除去後に黒褐色土の遺物包含層を確認し、包含層下の褐色土を第１面とした。第１面が確認できたのは、住宅により削平された部分から西側の細長い範囲である。第１面を除去すると橙色土を基盤とする第２面が検出できた。



第76図　９次調査地全体図（１／200）（赤は第２面検出遺構）



第77図　９次調査区壁面土層図（１／60）

東側は褐灰色土下に黄褐色土を検出し、ここを遺構面と考えた。しかし調査を進めた結果、検出面に極めて近似した黄褐色土層を確認した。層中には遺物を含み、ＳＤ01などがこの層を切ることから遺構面が存在するものと考えた。範囲はＳＤ01の周辺に限られている。

以上、９次調査地の東西で確認された遺構面のうち、西側は１次調査地から連続する第１・２面を検出したが、東側で検出された上層の遺構面との連続性ははっきりしないことから、西側の第１面上で確認された遺構を西側第１面の遺構、東側の上層の遺構面を便宜的に東側第１面の遺構、それ以外を第２面の遺構として分けて報告する。　（石木）

ｉ）西側第１面の遺構

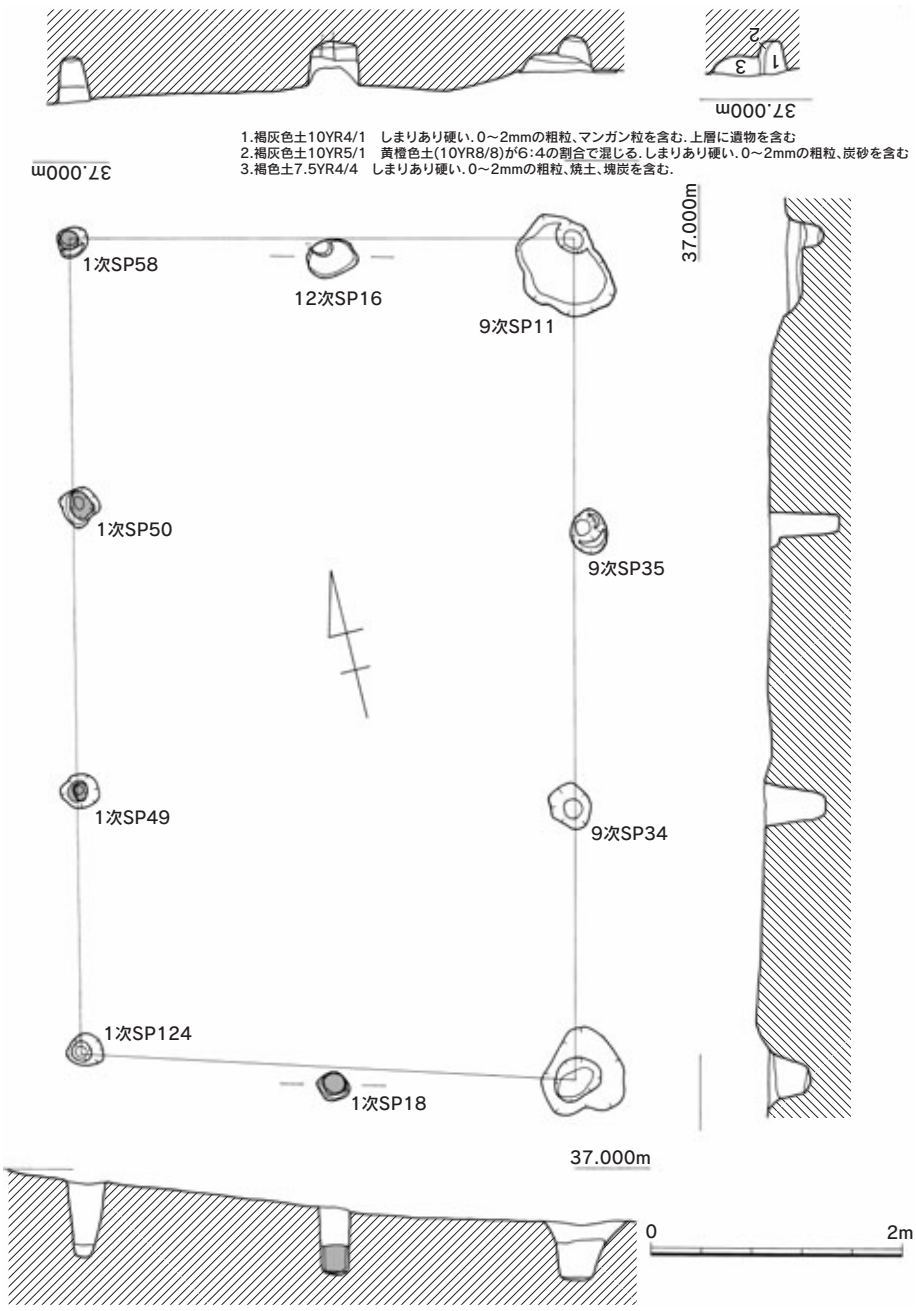
①掘立柱建物

ＳＢ03（第78図・図版19）

調査区の北西側に位置する。１次調査ＳＢ03の東列にあたる。２×３間の規模を有する。桁行6.7ｍ。北東隅の柱（ＳＰ61）は第２面で検出されたが、土層観察から径20cmほどの柱穴が切り込んでいることが明らかになり、出土遺物から一連の柱列と判断した。また、北側柱列の中央は12次調査で検出されているため合わせて図を掲載する。各柱穴からは、須恵器・土師器・黒色土器Ａ・Ｂ類が出土したが、図化できるものはなかった。（石木）

②土坑

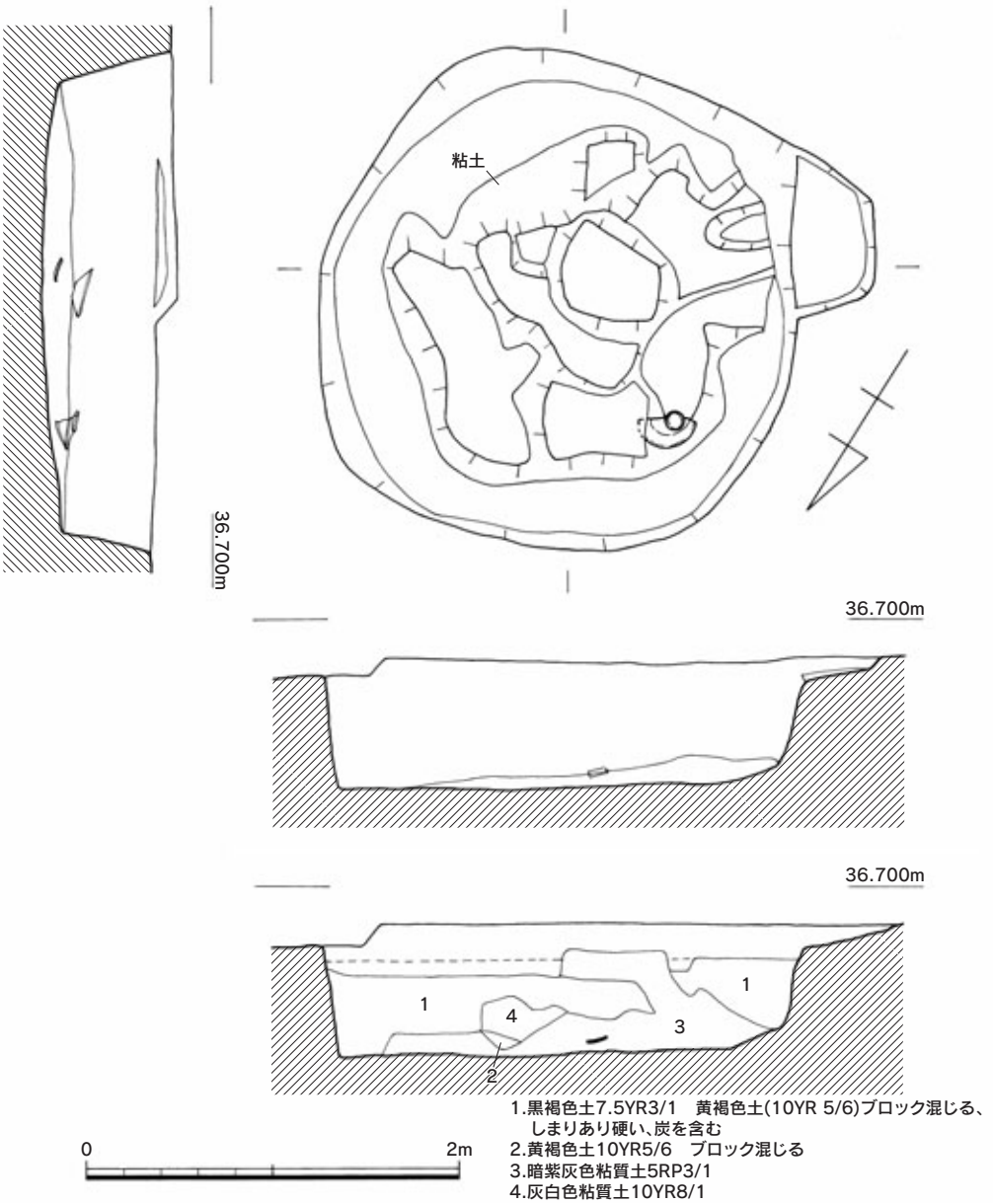
ＳＸ01（第79図・図版20）



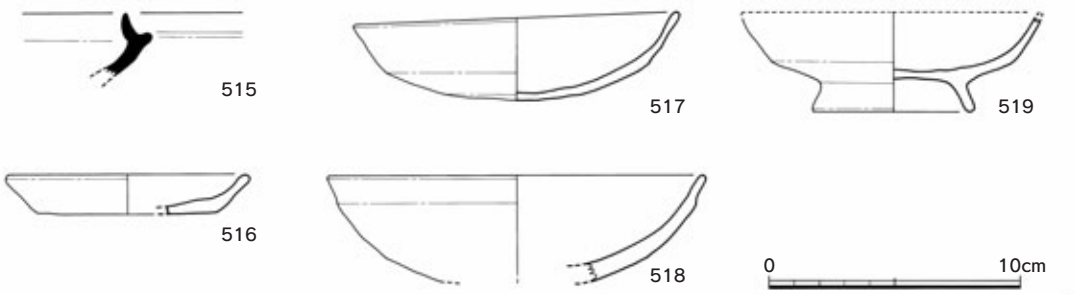
第78図　９次ＳＢ03実測図（１／60）

調査区中央やや西側に位置し、一辺2.6ｍの隅丸方形を呈し、深さ0.7ｍを測る。５cmほど掘り下げたところで、暗紫灰色をした粘土を２ヶ所で検出した。その内、中央部で検出した粘土の中心を通るように土層観察ベルトを設定した。粘土を残し、埋土だけの掘り下げを行い、粘土の範囲を確認した。粘土は中央部に集中しており、山のような形状をしていた。埋土は、ブロックを含む黄褐色土。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器などがある。（北川）

出土遺物（第80図・図版75）



第79図　９次ＳＸ01実測図（１／40）



第80図　９次ＳＸ01出土遺物実測図（１／３）

須恵器（515）　須恵器杯身の口縁部片である。内面・口縁部外面は回転ナデで、体部外面下半は回転ヘラケズリである。

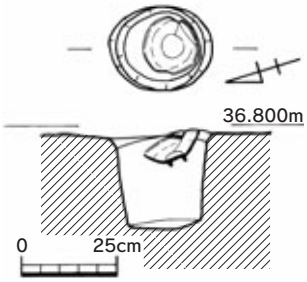
土師器（516～519）　516は小皿で、底部はヘラ切りであろうか。口縁部回転ナデ、底部内面ナデである。517・518は丸底杯である。517はほぼ完形品で全体的に磨滅する。底部外面は一部黒

斑がつく。518は全体的に磨滅するが、内外面ともに黒変する。519は小椀で、全体的に磨滅するが内外面ともに回転ナデである。（上田）

③ピット

ＳＰ14（第81図）

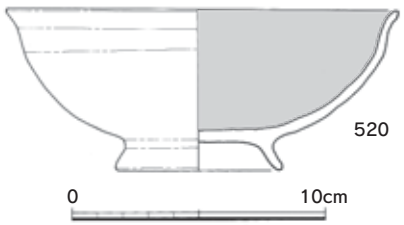
調査区中央部西側、ＳＸ01の南約3mに位置する。0.55m×0.45mの楕円形を呈し、深さは0.5cmを測る。上層から、黒色土器がほぼ完形の状態で出土した。柱抜き取り後の祭祀的な行為の可能性がある。（北川）



第81図　９次ＳＰ14実測図（１／20）

出土遺物（第82図）

黒色土器（520）　完形の黒色土器Ａ類椀である。内外面ともに磨滅のため調整不明だが、体部外面の下半には指オサエの痕跡がのこる。内面および口縁部外面を黒色に仕上げている。（上田）



第82図　９次ＳＰ14出土遺物実測図（１／３）

ii）東側第１面の遺構

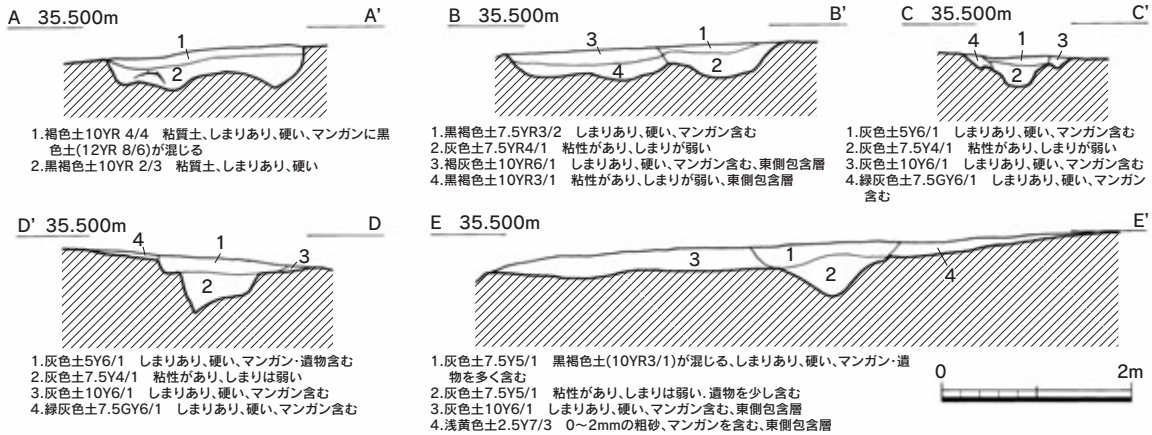
①溝

ＳＤ01（第83図・図版21）

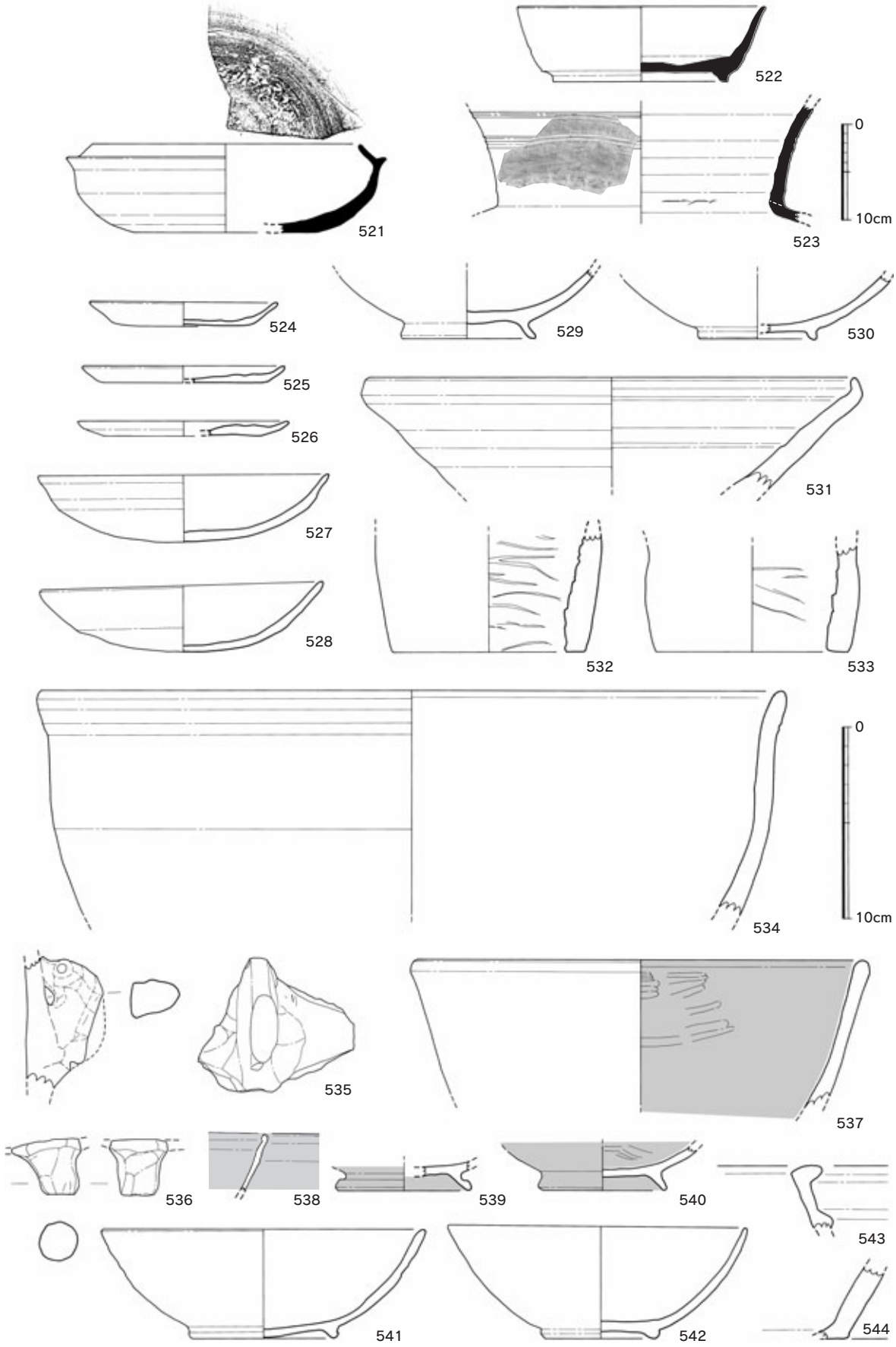
調査区東側で検出された。ＳＢ02を形成するＳＸ05、ＳＸ12を切る。ほぼ直線的に略南北方向のびており、溝の端は調査区外へのびる。幅約0.3～1.2m、深さ約17cm～40cm。溝底のレベルは南北であまり変わりがない。底面は、北から南に向かって、断面逆台形から断面V字形に変わる。遺物は層位ごとに取り上げを行い、須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・弥生土器・白磁・石器などがある。（北川）

出土遺物（第84・85図）

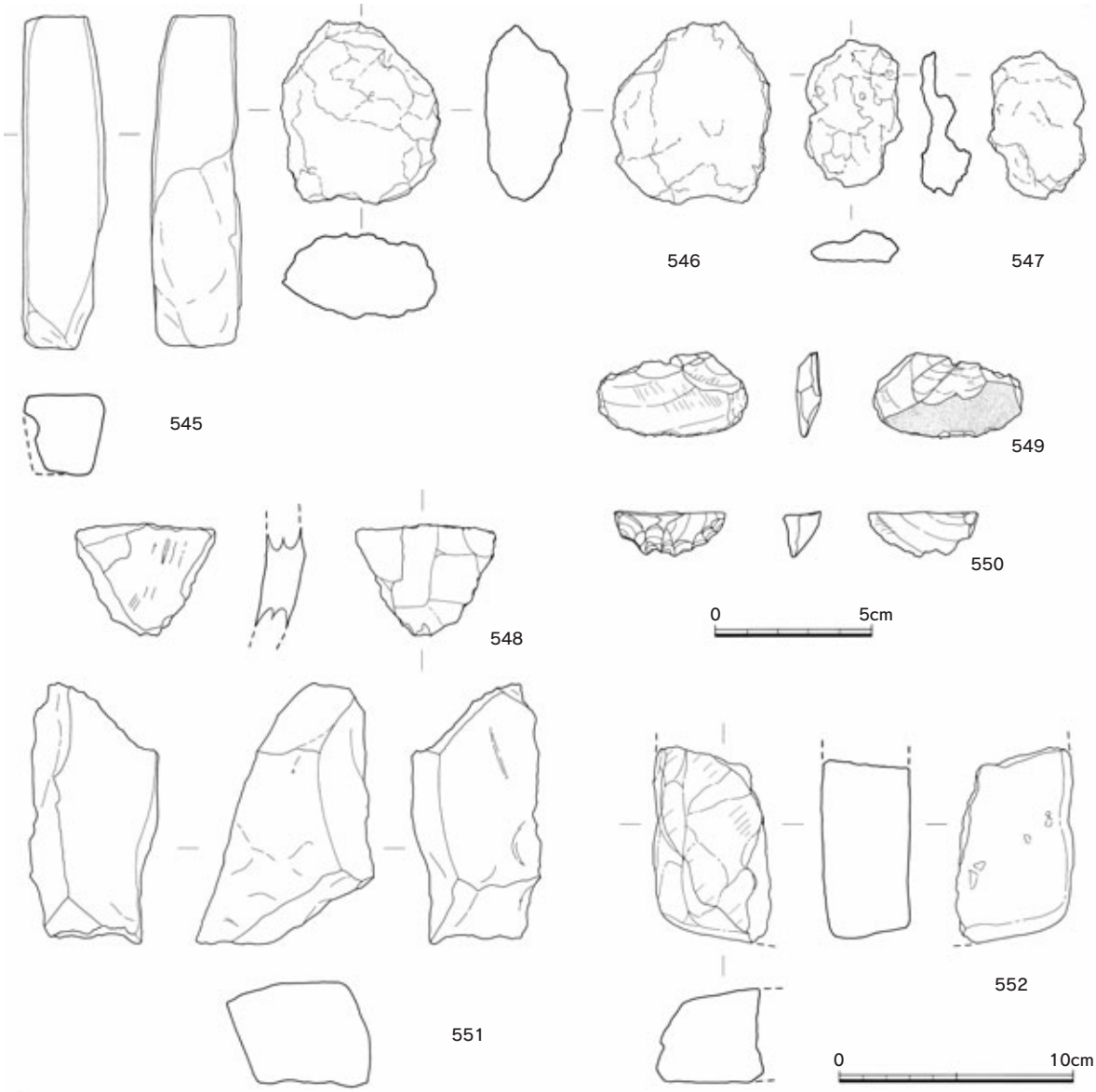
須恵器（521～523）　521・522は杯身である。521は杯Ｈ身。立ち上がりは内傾し、やや長い。523は大甕の頸部片で、内外面ともに回転ナデで仕上げる。頸部外面上半はカキメを施した後、沈線を２段に巡らせ、間に櫛描波状文を施す。頸基部内面に接合痕、内面に同心円文当て具痕が残る。



第83図　９次ＳＤ01土層実測図（１／40）



第84図　９次ＳＤ01出土遺物実測図①（523は１／６、他は１／３）



第85図　９次ＳＤ01出土遺物実測図②（549・550は１／２、他は１／３）

口縁部～体部は内外面ともに回転ナデ、底部外面１／２は回転ヘラケズリを施す。また底部内面にはシッタ痕が残る。522は杯Ｂ身。高台は低い。口縁部～体部は内外面ともに回転ナデである。底部内面は不定方向のナデ、底部外面はヘラ切りで一部板状圧痕が残る。

土師器（524～536）　524～526は小皿である。524は底部ヘラ切りで、底部外面に板状圧痕が残る。口縁部は回転ナデ、底部内面は不定方向のナデである。525・526はともに器面磨滅のため調整不明である。527・528は丸底杯である。527は外面はナデ、内面は磨滅する。内面は全体的に黒色を呈す。529は内外面磨滅するが、口縁部外面は回転ナデで、体部外面の中位に指オサエと考えられる凹凸が残る。529・530は椀の底部片で、いずれも器面磨滅のため調整不明である。531は鉢で、内外面ともに器面磨滅のため調整不明である。体部は直線的に広がり、口縁部は屈曲し上方に立ち上がる。口縁部は内外面とも回転ナデ、体部外面は回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデである。532・533は円筒形を呈し、同一個体の可能性がある。器壁は厚く、端部は水平に仕上げる。器面磨滅のため調整不明だが、内面にはヘラ状工具と考えられる調整痕がある。534は鍋か？

器面磨滅のため調整不明だが、胴部外面に煤が付着する。535は、半月形の粘土塊を縦方向に貼り付け把手とする。外面は摩滅するが把手部分はナデ、内面はヘラナデであろうか。把手上部と下部には、棒状の工具を押し当てたような直径５㎜ほどの円形の孔がある。鉢などの器種が考えられるが、定かではない。536は脚付皿の脚部片で、断面円形を呈す。器面磨滅のため調整不明である。

黒色土器（537～540）　537はＡ類鉢である。体部外面は磨滅するが内面～口縁部外面にかけては横方向のミガキを施す。538～540はＢ類椀である。538は口縁部片で、内外面ともにミガキを施す。器壁は薄く、口縁部内面は沈線状にくぼんでおり、畿内産（楠葉型）の可能性がある。539は内面と体部外面はミガキで高台部分は回転ナデである。底部外面に板状圧痕が残る。540は内外面とも器面磨滅のため調整不明である。

瓦器（541・542）　いずれも器面磨滅のため調整不明であるが、541の体部外面は指オサエと考えられる凹凸が残る。

弥生土器（543・544）　いずれも甕である。543は甕の口縁部片である。口縁部は断面三角形を呈し、外面口縁部下に三角突帯を１条施す。内面及び口縁部上面はナデで、外面は摩滅のため調整不明である。544は底部片で内面ナデ、外面は磨滅する。

土製品（545）　棒状土製品である。土師質焼成で断面方形、平面長方形で緩やかに湾曲する。磨滅のため調整不明であるが、器面は全体的に平滑である。

鉄滓（546・547）　546は塊状を呈し、大型である。下半は緩い舟底状を呈し、炉底滓の可能性がある。ほとんど着磁しない。547は片面平らに近く、片面は瘤状に盛り上がる。平らに近い面には石英粒が溶着しており、流出滓かと考えられる。強く着磁する。

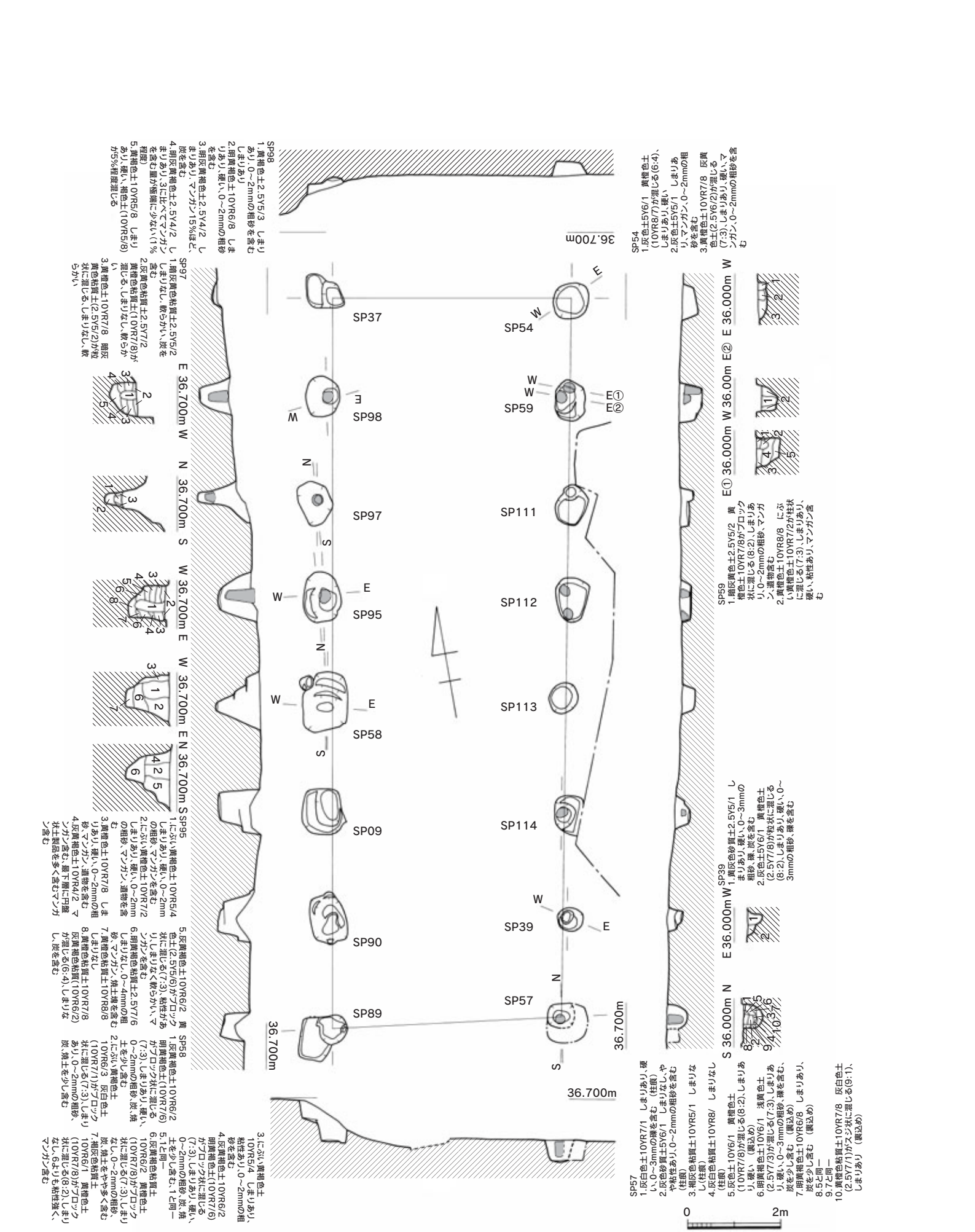
石器（548～552）　548は滑石製石鍋の破片である。外面ケズリ、内面には工具の痕跡が残り、外面は煤が付着する。破断面にも被熱の痕跡があることから転用品の可能性がある。549は安山岩製のスクレーパーで縁辺部に微細な剥離を施す。550は姫島産黒曜石の剥片である。側縁部に微細な剥離痕があり、スクレーパーの可能性がある。551は花崗岩製の砥石で、３面の使用面が認められる。552は花崗岩の石塊で、被熱の痕跡があり、破損面以外は平滑である。　（上田）

ⅲ）第２面の遺構

①掘立柱建物

ＳＢ01（第86・87図・図版22～24）

調査区中央で検出した１×７間の南北棟の建物であるが、桁行と梁行の間隔より東西の柱列間に柱があり、本来は２×７間であった可能性がある。規模は、桁行５ｍ、梁行約15.7m、面積約78.5㎡になる。柱間は桁行５ｍ、梁行1.9～2.4ｍを測る。主軸方向は、南北方向よりもやや東に振れているが、多分に正方位を意識したものと考えられる。西側の柱穴は平面形が楕円形から隅丸長方形を呈し、長さ1.1～1.2m、深さ0.2～1.2m。東側の柱穴は円形から隅丸方形プランを呈し、径0.5～0.8m、深さ0.26～0.5m。削平されるためか、東側柱列の柱穴が西側のものに比べてやや小さい。柱痕はＳＰ57・59・95・97・98・112・113・114で確認され、径20ｃｍ程度である。ＳＰ95からは、66点＋αの円盤状土製品が４層最下層でまとまって出土した。また、ＳＰ89も円盤状土製品９点が出土した。出土状況から、柱を建てる際に行った祭祀的行為であろうか。さらにＳＰ90底面か



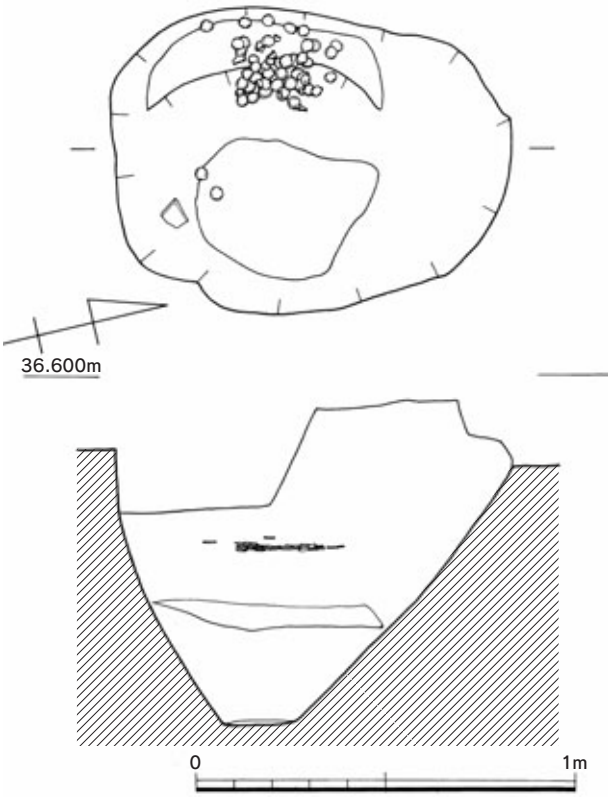
第86図　9次ＳＢ01実測図（1／100）

らは、柱と思われる木材が出土した。同定の結果、柱材はイスノキであった。各柱穴からは、須恵器・土師器・石器が出土した。（北川・石木）

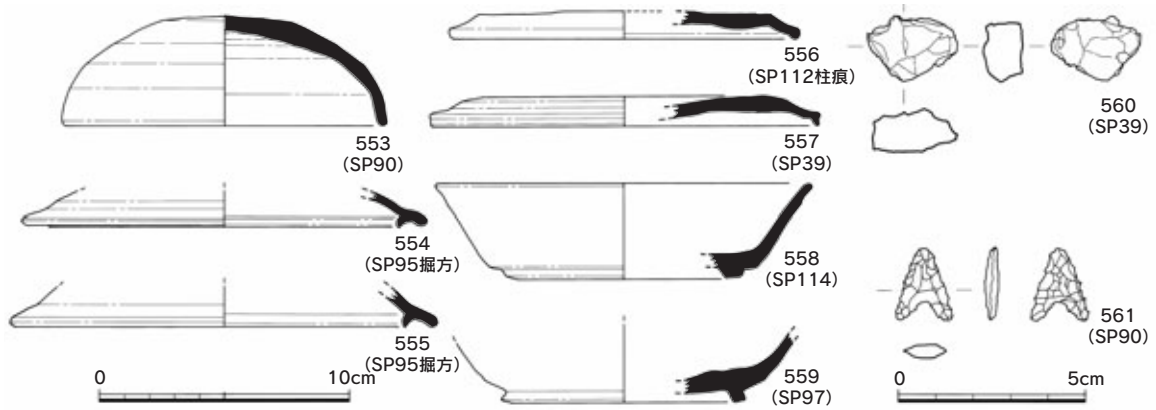
出土遺物（第88～91図・図版75・76）

須恵器（553～559）　553～557は杯蓋、558・559は杯身である。553は杯H蓋。天井部外面回転ヘラケズリ、底部内面はナデ、口縁部は回転ナデを施す。554・555は杯B蓋。口縁部にかえりを有するもので、いずれも内外面回転ナデである。556・557は杯B蓋。口縁端部を下方に折り曲げるものである。556は内外面回転ナデで、天井部はヘラ切り後ナデを施す。557は内外面回転ナデで、天井部にヘラケズリを施す。558・559は杯B身。いずれも内外面回転ナデ、底部内面はナデである。

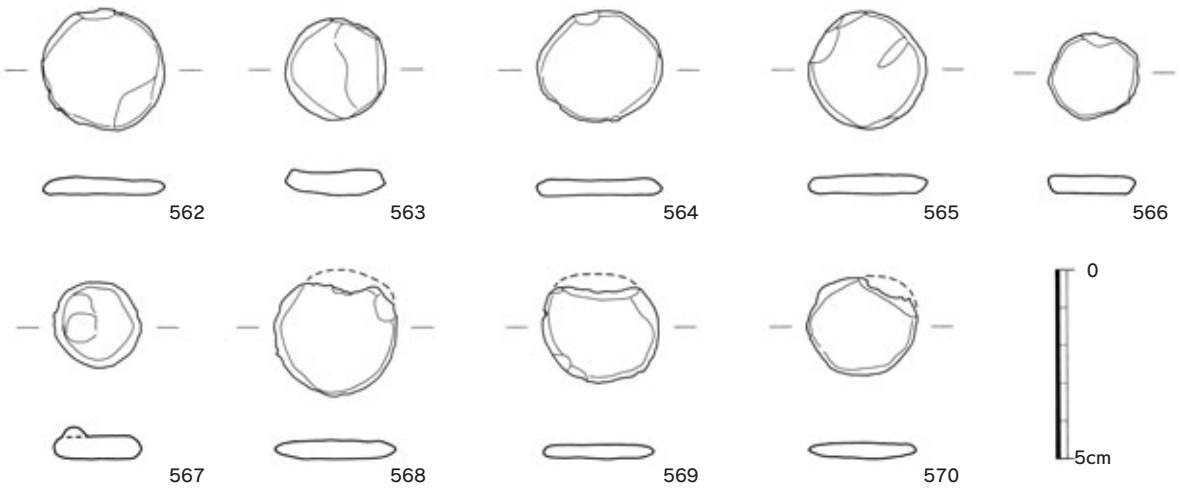
鉄滓（560）　塊状を呈し、ほとんど着磁しない。



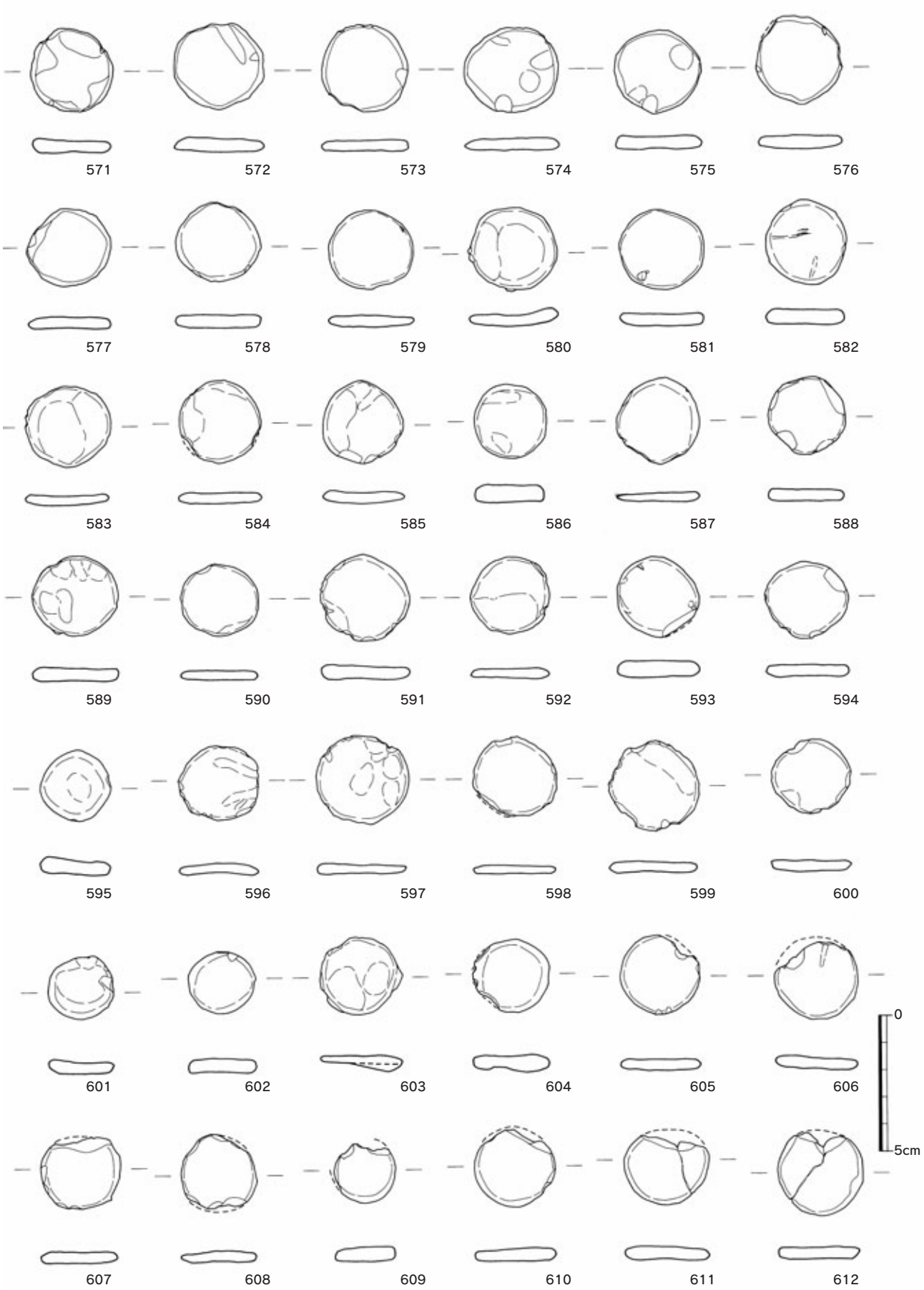
第87図　9次SB01（SP95）円盤状土製品出土状況実測図（1／20）



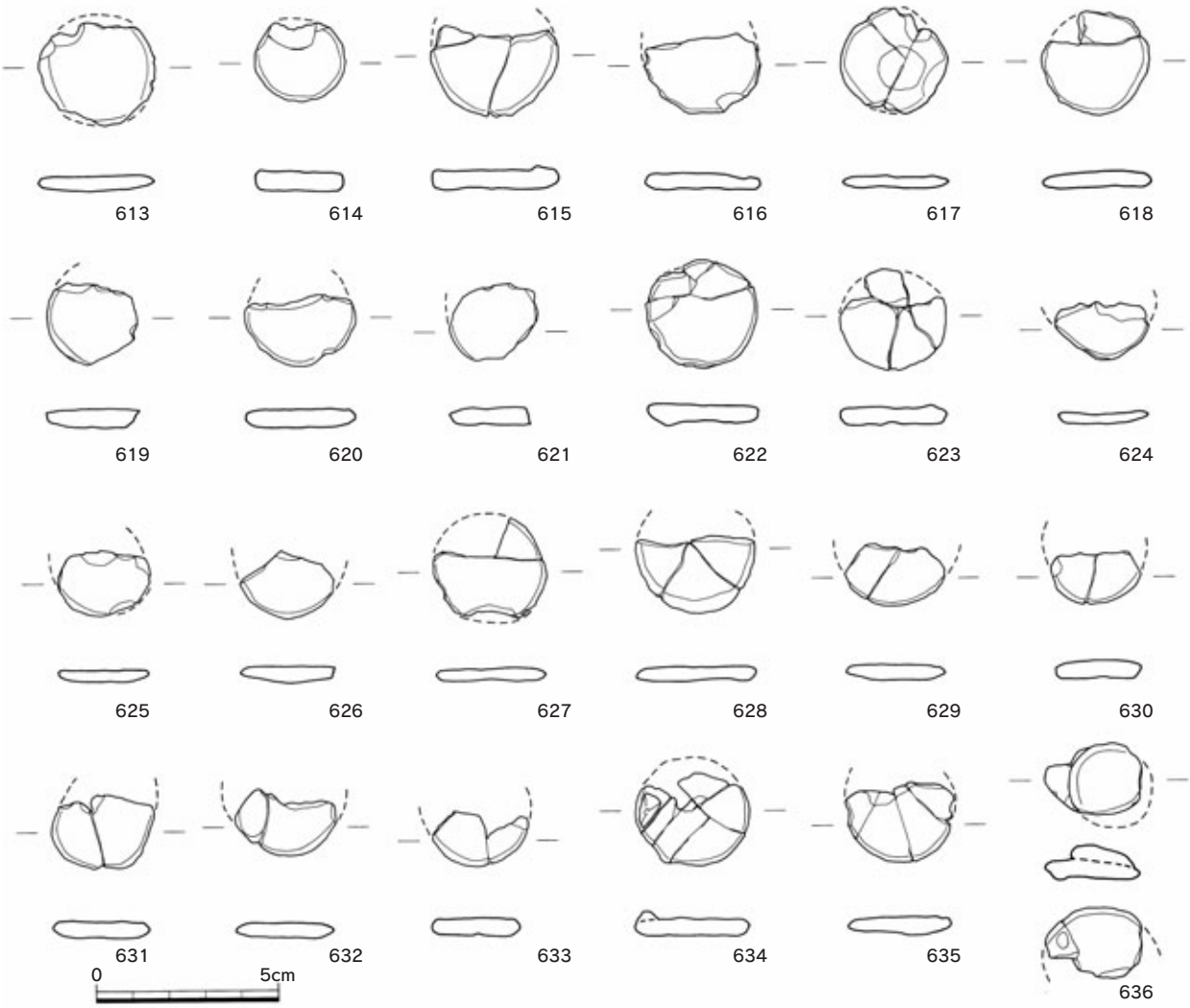
第88図　9次SB01出土遺物実測図①（561は1／2、他は1／3）



第89図　9次SB01（SP89）出土遺物実測図②（1／2）



第90図　9次ＳＢ01（ＳＰ95）出土遺物実測図③（1／2）



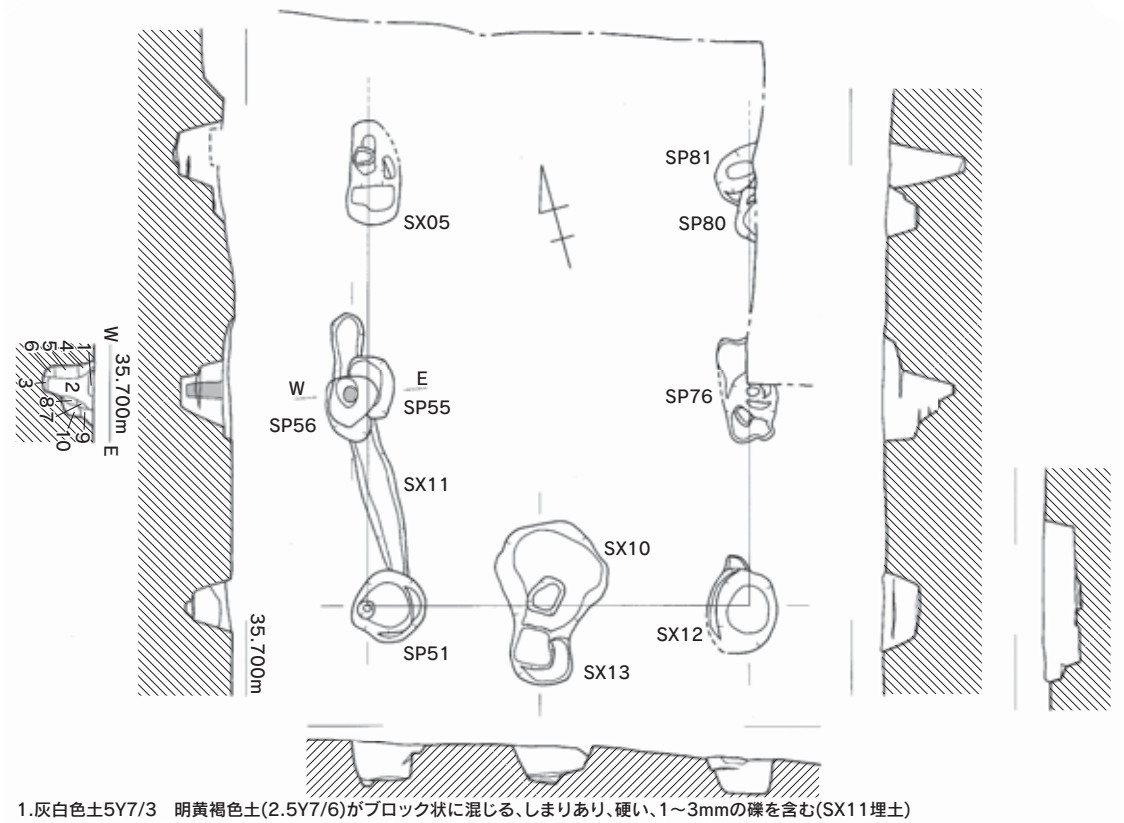
第91図　9次ＳＢ01（ＳＰ95）出土遺物実測図④（1／2）

石器（561）　安山岩製の石鏃で、刃部がやや鋸歯状を呈す。

円盤状土製品（562～636）　562～570がSP89、571～636がSP95で出土した。全て土師質で円盤状を呈する土製品である。直径2.4～3.5cm、厚さ0.3～0.5cm、重さ2.4～5.6ｇ。75点あり、一部欠損するものもあるが、完形品や完形品に近いものが多い。色調はほとんどが灰白色を呈し、一部灰黄色や橙色を呈すものがある。約１割の個体に黒斑が認められる。胎土はいずれも密で、すべて手づくねで成形し、ナデを施す。表面に粘土塊が付着するものがあることや、特に625は２つの製品が接着した状態で焼成されていることから、重ねて焼成した可能性が高い。　（上田）

ＳＢ02（第92図・図版25）

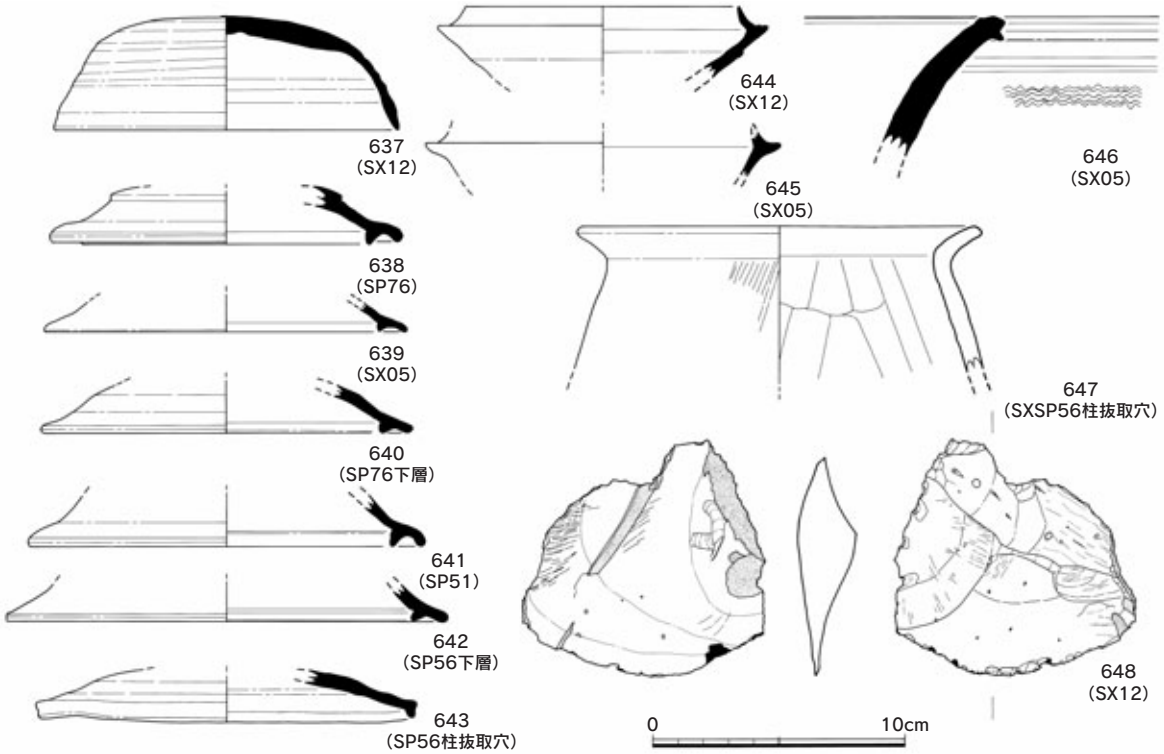
調査区北側で検出した２×２間の建物である。柱列は北側調査区外へとのびているが、北側の17次調査地で対応するような柱穴は検出されておらず、本来は２×３間になろうか？本調査地で確認した範囲では、桁行約6.0ｍ、梁行約5.0ｍ、面積30.0㎡である。柱間は桁行2.4～2.7ｍ、梁行2.8～3.0ｍ。主軸方向は、南側に位置するＳＢ01よりもさらに東へ振れている。柱穴は円形と長方形の平面プランを呈し、円形は約1.0ｍ、長方形の長径は約1.4ｍ、深さ0.5～1.1ｍ。柱痕はＳＰ56で確認された。径25cm。また、ＳＰ55・56・80・81の掘り方や切り合いから建て替えがあった



1.灰白色土5Y7/3　明黄褐色土(2.5Y7/6)がブロック状に混じる、しまりあり、硬い、1～3mmの礫を含む(SX11埋土)
2.暗灰黄褐色砂質土2.5Y5/2　しまりなし、軟らかい、炭を含む1～2mm大の粗砂を含む(柱抜き取り痕)
3.黄橙色砂質土10YR7/8　灰白色粘質土(5Y7/1)がブロック状に混じる、しまりなし．軟らかい(SP56埋土)
4.灰黄色土2.5Y6/2　しまりあり、1～2mmの粗砂、マンガンを含む(SP56埋土)
5.灰黄色土2.5Y6/2　黄色土(2.5Y7/8)がブロック状に混じる、しまりあり、硬い、遺物、マンガン含む(SP56埋土)
6.にぶい黄褐色土10YR5/3　褐灰色土(10YR5/1)が混じる、粘性あり、しまりなし(SP56埋土)
7.明灰黄褐色土2.5Y5/2　明灰黄色土(10Y7/8)がブロック状に混じる、しまりあり、硬い(SP56埋土)
8.灰黄色土2.5Y6/2　黄色土(2.5Y7/8)がブロック状に混じる、しまりあり、マンガン含む(SP56埋土)
9.黄灰色土2.5Y6/1　明褐色土(7.5YR5/6)が柱状に混じる、しまりあり、硬い、1～3mmの粗砂・礫、マンガンを含む(SP55埋土)
10.暗灰黄色砂質土2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)しまりなし、軟らかい(SP55埋土)

0　2m

第92図　９次ＳＢ02実測図（１／100）



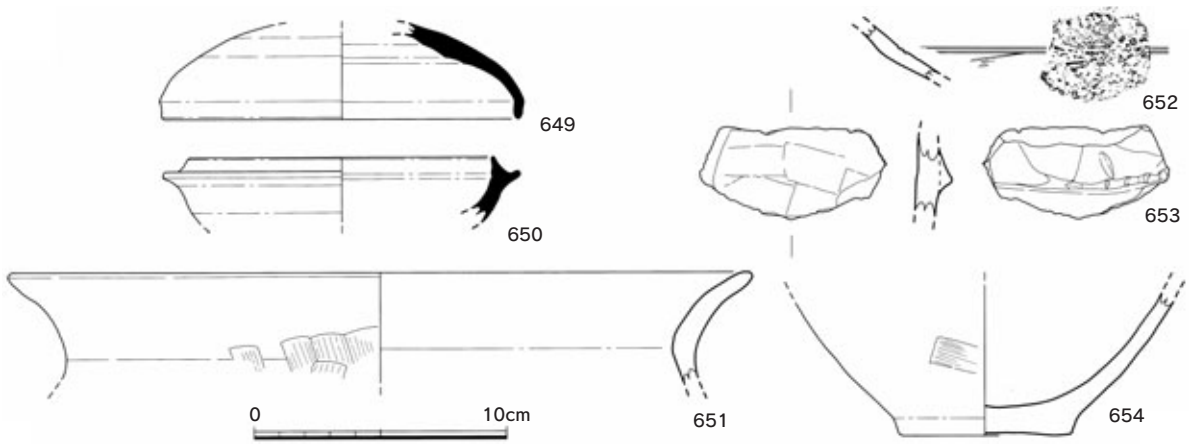
第93図　９次ＳＢ02出土遺物実測図（１／３）

可能性が予想される。　（北川・石木）

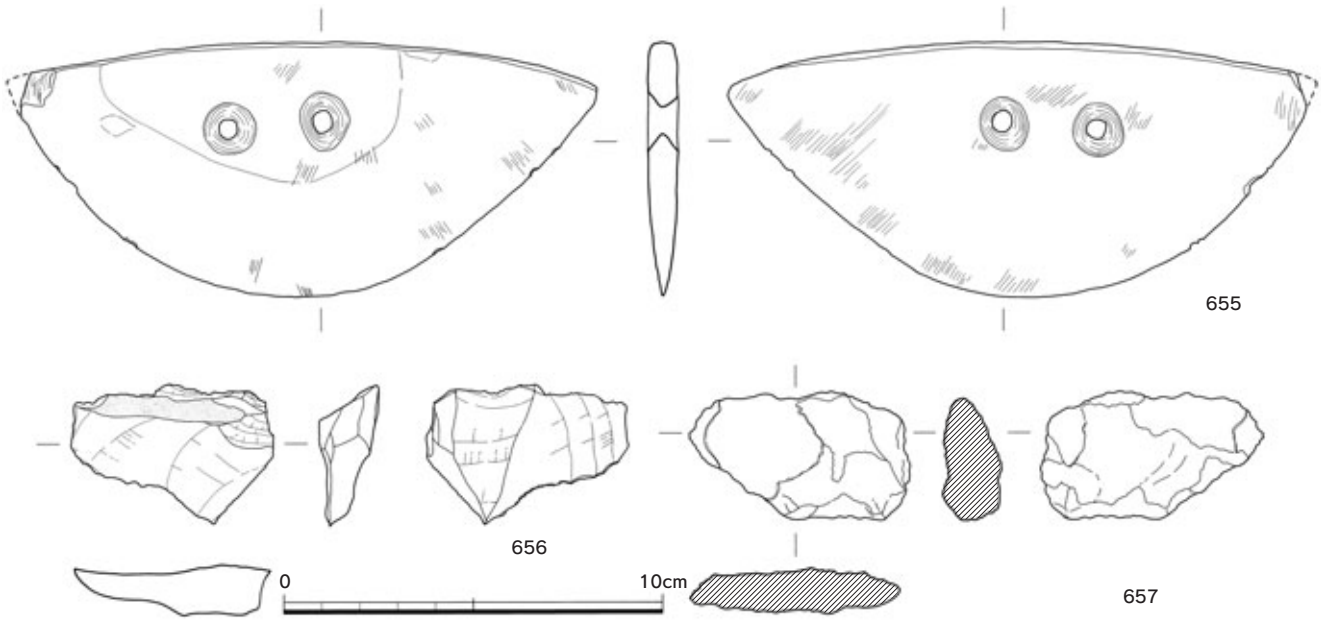
出土遺物（第93図・図版76）

須恵器（637～646）　637～643は杯蓋。637は杯Ｈ蓋。天井部外面回転ヘラケズリ、口縁部～体部は回転ナデで体部外面の中位は強い回転ナデのため凹線状を呈する。638～642は杯Ｂ蓋。口縁部にかえりを有する。638は内外面回転ナデで、天井部外面ヘラ切りのみ。639は内外面ともに回転ナデを施す。640は器面磨滅のため調整不明。641・642はいずれもは内外面回転ナデである。643は口縁部折り曲げ。口縁端部が断面三角形を呈する。内外面回転ナデで天井部外面は回転ヘラケズリを施す。644・645は杯Ｈ身。644は外面に自然釉がかかり、器面には焼成時に付着したと考えられる砂が残る。内面・口縁部は回転ナデである。645は内外面ともに回転ナデを施す。646は甕である。口縁部片で、内外面を回転ナデで仕上げる。口縁上面は平坦となり、頸部外面は沈線を巡らせた後に波状文を施す。

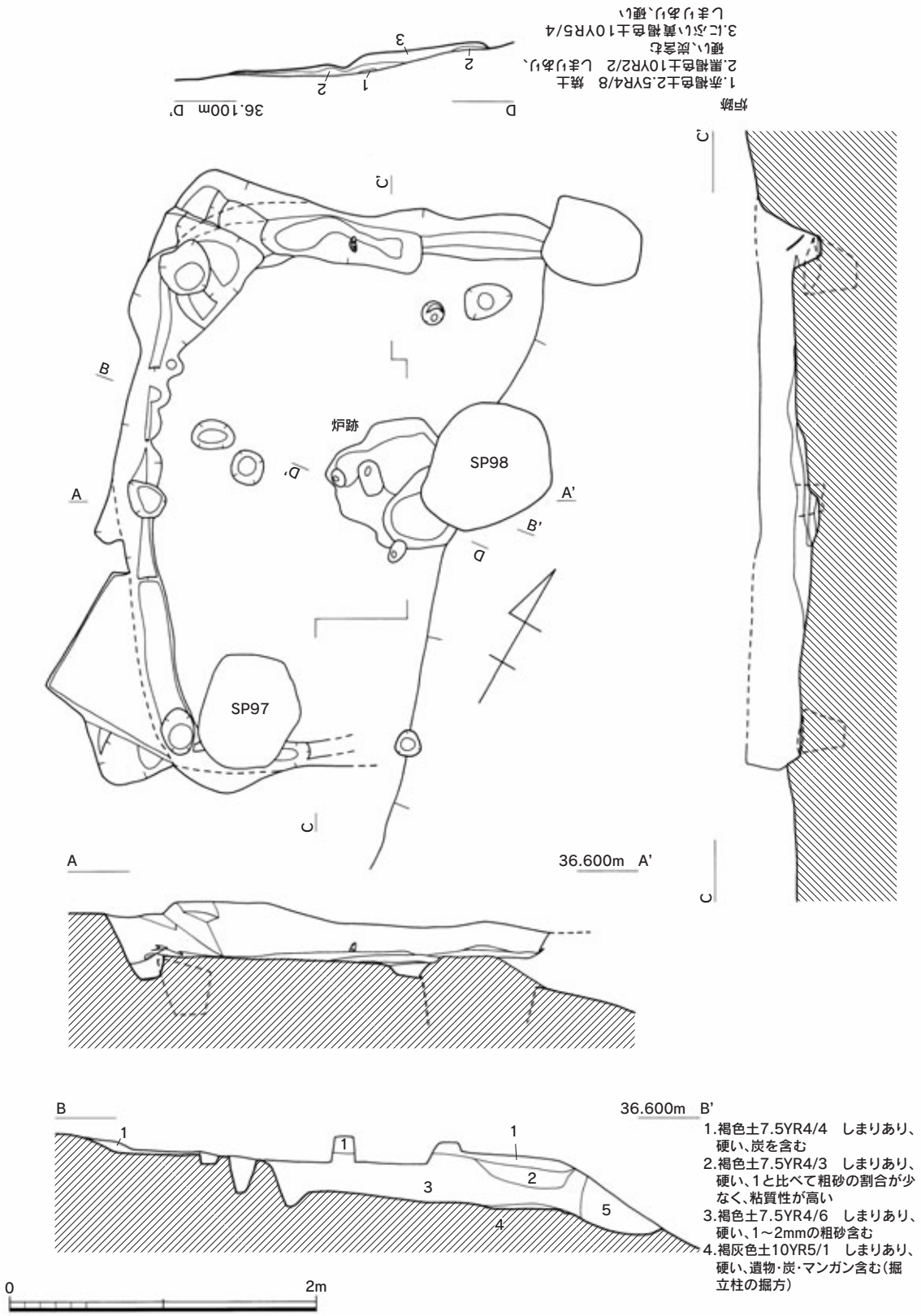
土師器（647）　甕。外面は磨滅するがわずかにハケメを確認できる。内面は縦方向のヘラケズリ



第94図　９次ＳＣ01出土遺物実測図①（１／３）



第95図　９次ＳＣ01出土遺物実測図②（１／２）



第96図　9次ＳＣ01実測図（1／40）

を施す。

石器（648）　安山岩製のスクレーパーで、長さ・幅とも10cm弱を測る大型品である。押圧剥離により刃部を形成する。（上田）

②竪穴住居跡

ＳＣ01（第96図・図版25）

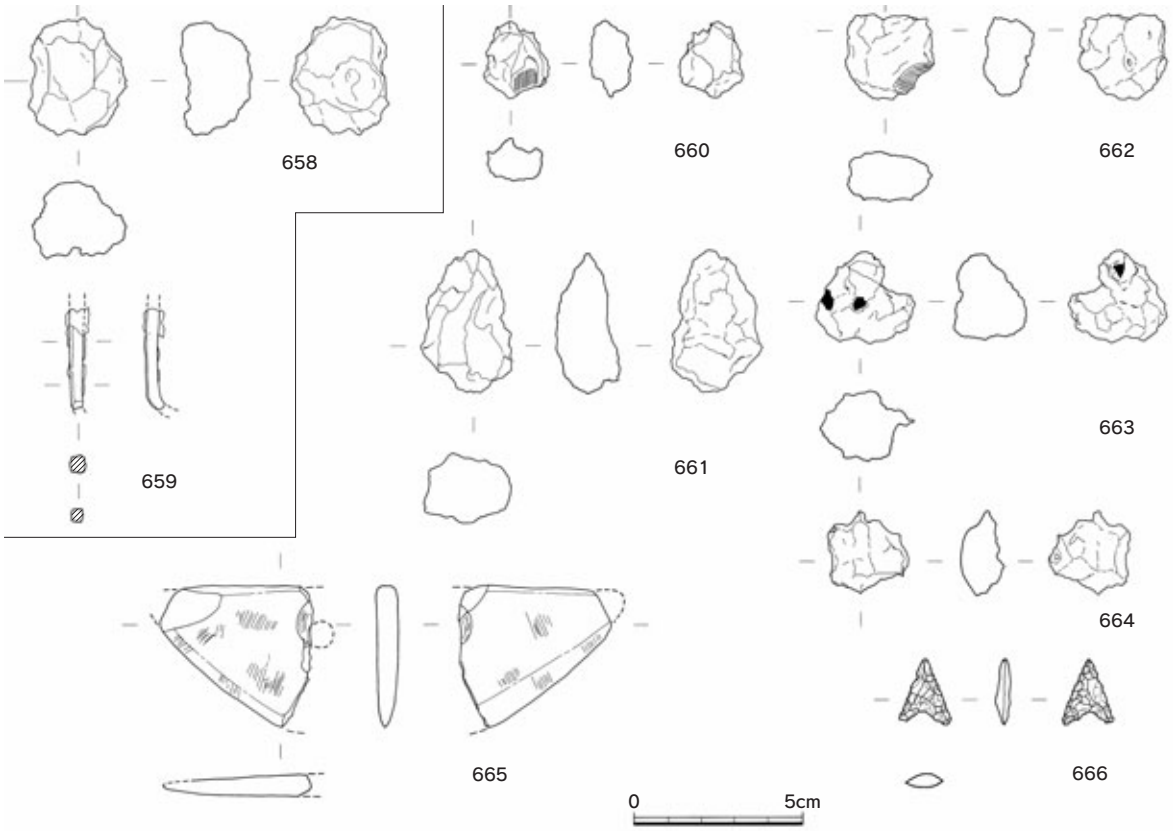
調査区中央西側において検出した。東側が大きく削平され、また、西側においても地山面と遺構埋土の土色の違いが判断できず大幅に掘削してしまった箇所があるが、平面プランは、隅丸方形を呈していると思われる。残存長が南北方向で約3.5m、検出面からの深さ約25～40cmを測る。竪穴内においては、炉と壁溝の住居内施設を確認することができた。炉はほぼ中央に位置し、ＳＰ98に切られているが、約90cmの円形であろう。床面から約10cm掘り込まれ、炭や焼土を含んでいた。壁溝においては残存する竪穴内に巡る。床面から5～17cmを測る。また、壁溝を切る形で3つの柱穴を確認した。住居に伴うものと考える。遺物は少ないが、炉跡から刻目突帯をもつ破片と、壁溝から完形の石包丁が出土した。（北川）

出土遺物（第95図・図版76）

須恵器（649・650）　649は杯Ｈ蓋で、内外面に回転ナデで天井部外面に回転ヘラケズリを施す。体部外面にヘラ記号を有する。650は杯Ｈ身で内外面回転ナデである。

土師器（651）　甕の口縁部片である。内面は器面が磨滅するが、外面は口縁部にヨコナデ、胴部にハケ目を施す。

弥生土器（652～654）　652は壺の頸部片で、内外面ともに磨滅するが外面はヘラによる２条の沈線と斜線文を施す。653は甕の胴部片で刻目のある三角突帯を施す。刻目は浅く小さい。内面はヘラ状工具によるものと考えられるナデを施す。654は壺の底部片で、底部はわずかに外側に突出す



第97図　９次西側１・２面包含層出土遺物実測図（１／２）

る。器面磨滅するが、外面にはハケ目の痕跡が残る。また底部外面には籾圧痕と考えられる痕跡がある。

石器（655・656）　655は頁岩質砂岩製の石庖丁である。背部がやや丸みを帯びることから若干杏仁形を呈す。孔は両側から回転穿孔により施す。やや不明確であるが、全体に研磨痕が残る。656は安山岩製の剥片で、一部微細剥離により刃部を形成する。スクレーパーであろう。

鉄器（657）　不明鉄製品である。鉄滓か？　（上田）

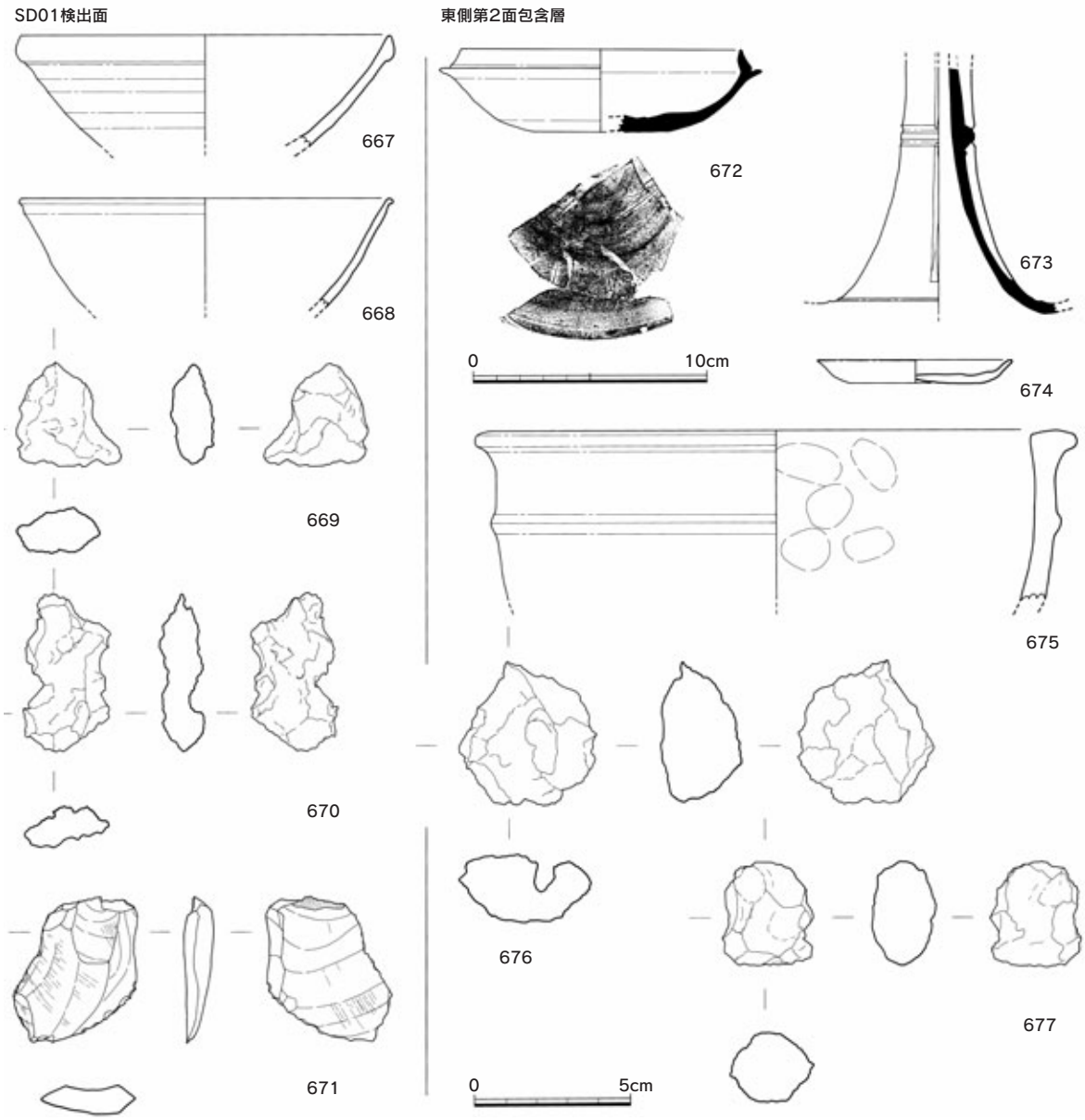
ⅳ）その他の遺構の出土遺物

報告された以外の遺構出土遺物について、以下に報告する。

西側第１面包含層（第97図・図版77）

鉄滓（658）　塊状を呈する。わずかに着磁する。

鉄器（659）　棒状鉄製品である。断面方形で、図面下方でわずかに屈曲する。



第98図　９次ＳＤ01検出面･東側第２面包含層出土遺物実測図(669～671･676･677は１/２､他は１/３)

西側第２面包含層（第97図・図版76）

鉄滓（660～664）　いずれも塊状を呈する。660は錆ぶくれの部分で破断する。わずかに着磁する。661は片面舟底状に近い。全面錆化しており、わずかに着磁する。662は側面に炭化材が錆着する。ほとんど着磁しない。663は全面錆化しており、ほとんど着磁しない。664は錆ぶくれが著しく、全面錆化する。ほとんど着磁しない。

石器（665・666）　665は頁岩質砂岩製の石庖丁である。磨滅のため調整痕は明確ではないが、回転穿孔による孔の痕跡が確認できる。666は安山岩製の打製石鏃である。

ＳＤ01検出時（第98図・図版77）

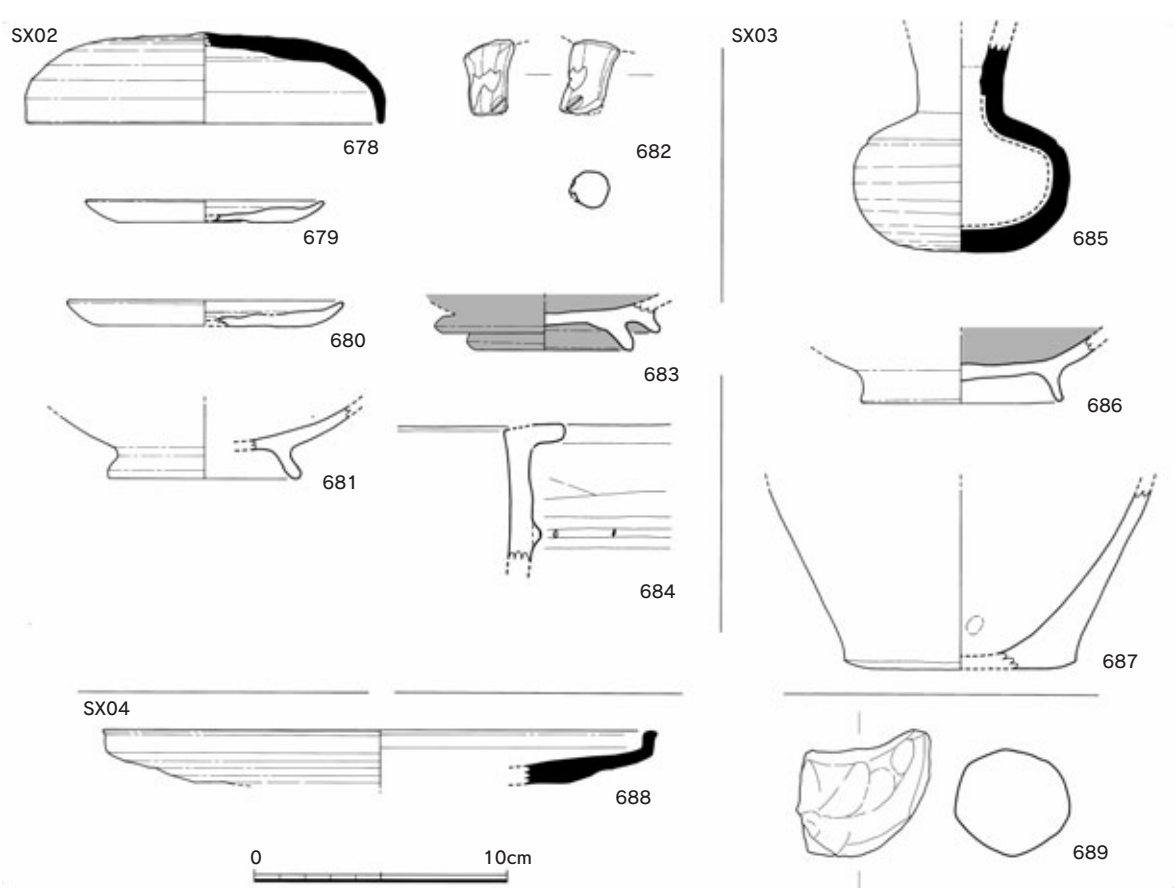
白磁（667・668）　いずれも椀である。667は高台を欠損する。全面施釉し、太宰府分類Ⅳ類にあたる。668は口縁部端部は嘴状に外方へ突出し、体部外面下半は露胎となる。太宰府分類Ⅴ類。

鉄滓（669・670）　669は一方は細くのび、大きく波打つ面と丸く収まる面がある。着磁する。670は両面とも大きな凹凸があり、一方の面には石英粒の溶着が認められる。やや強く着磁する。

石器（671）　安山岩の縦長剥片で、側縁部に微細な剥離の痕跡がある。

東側第２面包含層（第98図）

須恵器（672・673）　672は杯Ｈ身。内外面ヨコナデ、底部外面はヘラケズリで、底部にヘラ記号を施す。673は高杯の脚部片である。脚部に未貫通の２段透かしを一対施す。上下の透かしの間と脚裾部に沈線が巡る。内外面ともにヨコナデである。



第99図　９次ＳＸ出土遺物実測図（１／３）

土師器（674）　小皿である。底部外面ヘラ切り、板状圧痕が残る。

弥生土器（675）　甕である。口縁部より下がった位置に断面三角形の突帯をつける。内面ナデ。

鉄滓（676・677）　676は一部折損し、断面黒色の破断面が観察できる。一方の面は大きく穴が認められる。部分的に着磁する。677は塊状を呈する。ほとんど着磁しない。

ＳＸ出土遺物（第99図・図版77）

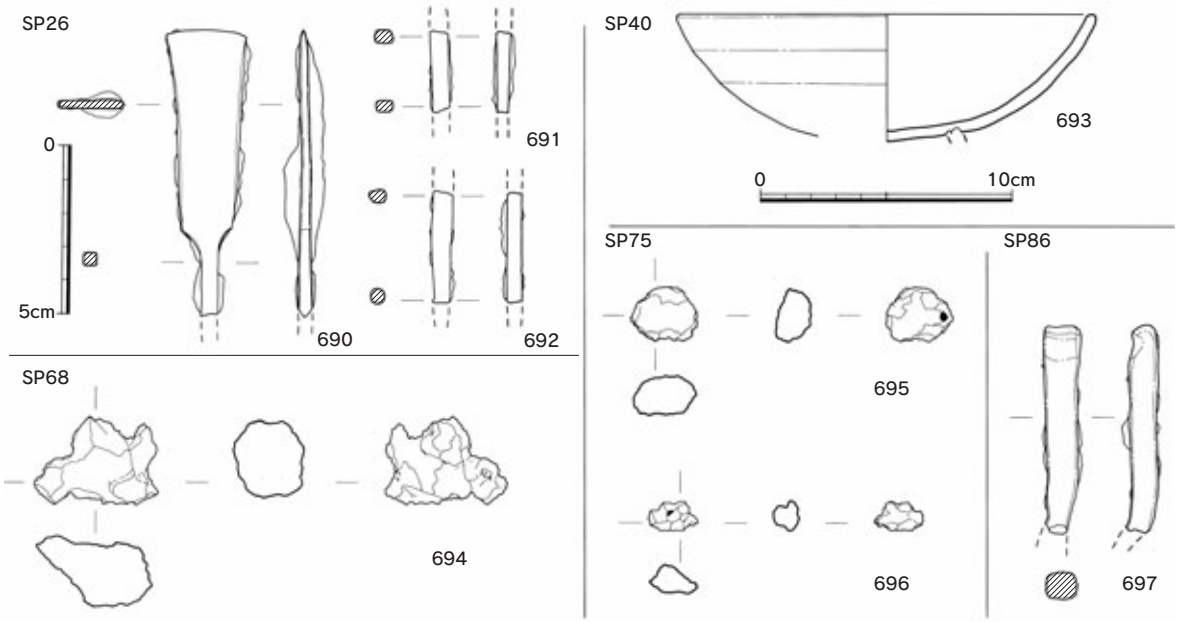
ＳＸ02～04はいずれも西側第１面で検出される。このうち、ＳＸ02・03は第２面包含層の一部であった可能性が高い。

須恵器（678・685・688）　678は杯蓋である。内外面回転ナデ後、天井部のやや広範囲に回転ヘラケズリを施す。685は器形はハソウであるが、穿孔が認められない。底部～胴部は回転ヘラケズリ、肩部～頸部は回転ヨコナデを施す。頸部内面の下半部にはシボリ痕が残る。また肩部に沈線・連続刺突文を施すが、刺突文は一部ヘラケズリによって消されている。688は高杯。内外面回転ヨコナデで、底部外面に回転ヘラケズリを施す。

土師器（679～682・689）　679・680は小皿である。679は底部ヘラ切りで口縁部は回転ナデ、他は磨滅のため調整不明である。680は全体的に磨滅するが、口縁部は回転ナデ、底部はヘラ切りであろうか。681は椀の底部片で内外面ともに磨滅するが、高台および体部外面は回転ナデを施す。682は脚部の破片で、脚付皿になるものか。表面に丁寧なナデを施す。689は甑の把手である。器面風化するが、成形時のナデの痕跡が残る。

黒色土器（683・686）　683はB類の台付椀である。外面は回転ナデ、内面はミガキであろうか。686はＡ類の椀である。高台は回転ナデ、他は回転ナデ後ナデを施す。また内面は器面が平滑でミガキであろう。

弥生土器（684・687）　684は甕の口縁部片で、外面に刻目のある三角突帯を１条施す。内面はナデ、口縁部と突帯はヨコナデ、外面の口縁部下は板ナデの後ナデを施す。内面～口縁部上面には煤



第100図　９次ＳＰ出土遺物実測図（690～692・697は１／２、他は１／３）

が付着する。687は甕の底部片である。内外面ともに器面磨滅のため調整不明。

ＳＰ出土遺物（第100図・図版77）

図化した遺物のうち、ＳＰ26は西側第1面、ＳＰ40は東側第1面、ＳＰ68・75・86は西側第２面で検出している。

瓦器（693）　椀で、器面磨滅のため調整不明だが、底部外面に高台が剥がれた痕跡がある。

鉄器（690～692・697）　690は方頭斧箭式の鉄鏃である。茎を欠損するが、刃長は6.0cm・刃幅は2.4cm・厚さ0.25cmを測る。茎は厚さ・幅ともに0.4cmで断面方形を呈す。691・692は鉄製品で、鉄鏃茎部の破片であると考える。691の断面は隅丸長方形、692の断面は図面上方が隅丸長方形、図面下方が円形に近い。697は鉄釘。断面方形を呈し、上端部はわずかに折れ曲がる。

鉄滓（694～696）　694は凹凸の著しい瘤状を呈する。ほとんど着磁しない。695は塊状を呈する。ほとんど着磁しない。696は小さく、突起が不定方向にのびる。着磁する。　（上田）

Ｃ．小結

９次調査地は１次調査地の東側にあたり、本来の地形は緩やかな斜面であったと考えられるが住宅地の建設により大きく削平され、相当の遺構が失われている。ここでは確認できた遺構・遺物について、時代を追って見てゆきたい。

旧石器～弥生時代

旧石器・縄文時代の遺物は非常に少なく、ピットから脚の長い石鏃が出土したのみであり、遺構は認められない。ＳＣ01は床面直上からの遺物の出土はなかったが、炉跡から刻目突帯をもつ甕の胴部片が出土した。破片のため時期決定は難しいが、埋土中からは板付Ⅱｂ式以降の壺や完形の石包丁が壁溝の埋土から出土していることから弥生時代前期に位置付けられよう。

古墳時代～飛鳥時代

遺構は確認できないが、ＳＤ01からは内面に当て具痕をもつ杯Ｈ身があり、甕は頸部に細かい波状文を２条巡らせるなど、この時期の遺物は各遺構から散見され、本来はもっと多くの遺構が存在したものと考えられる。

奈良時代

ＳＢ02は柱穴抜取穴からの出土遺物は８世紀前半のもので、堀方出土遺物は７世紀後半にあたることから、７世紀末～８世紀初頭の造営年代が考えられる。ＳＰ55・56の切り合いから建替えがおこなわれた可能性がある。ＳＢ01は、柱痕から出土した須恵器は天井部と体部の境が鈍角を呈し、９世紀的な様相をもつことから、８世紀末～９世紀初頭には建物は廃絶された可能性が高い。その他の遺物は掘方・柱痕の別が不明であるが、最も新しい遺物は８世紀中頃～後半であることから、建物の時期は８世紀後半と考えられる。この建物は主軸方向を南北方向にとる大型のものであり、周辺で確認されている同じ方向をもつ建物の時期を考える上で重要である。なお、ＳＰ89・95からは円盤状土製品が出土しており、掘方をある程度埋めた段階で置かれた状況を示す。土製品の直径は径2.0～3.5cmであるが、ほとんどは３cm前後であり、平城京若犬門跡前出土の物差しの目盛りが一寸平均2.952cmであること（註１）を合わせると、円盤状土製品の規格は一寸であった可能性が高

い。

平安時代以降

東側に隣接する１次調査地同様、９次調査地内においても９世紀代の遺構・遺物は認められない。西側第１面に掘り込まれたＳＰ14は10世紀中頃～11世紀後半の黒色土器が出土している。このことから、西側第１面と１次調査北側調査区第１面は同じ時期にあたることが確認できる。11世紀後半～12世紀前半には、ＳＢ03・ＳＤ01・ＳＸ01が確認できる。ＳＸ01は土坑内部に粘土が確認され、周辺の調査地から棒状土製品や焼け歪んだ瓦器が出土していることから焼成遺構が存在した可能性がある。

また、以上の遺構・遺物のほか、調査地内からは鉄滓が多数出土している。ＳＢ01柱穴出土遺物にも含まれることから、それ以前にあたる可能性もあるが、時期は限定しにくい。　（北川・石木）

註１　山中敏史2003「Ⅶ－３造営尺」『古代の官衙遺跡　遺構編』独立行政法人奈良文化財研究所

３．第12次調査

Ａ．調査概要（第102図・図版27）

第12次調査地は、牛頸山より北側に派生する樹枝状の丘陵部上、標高35.50～38.00mにあり、三兼池東側に位置する。所在地は大野城市大字上大利649－４の一部ほかにあたり、調査面積は約500㎡である。調査区の細く南側に突き出している部分は、住宅用道路にあたり着工の日程が調査終了よりも早いことから、先に引き渡さなければならなかった。そのため同一の調査区であるが、先に引き渡す部分を１区、残りを２区と呼称し調査を実施した。

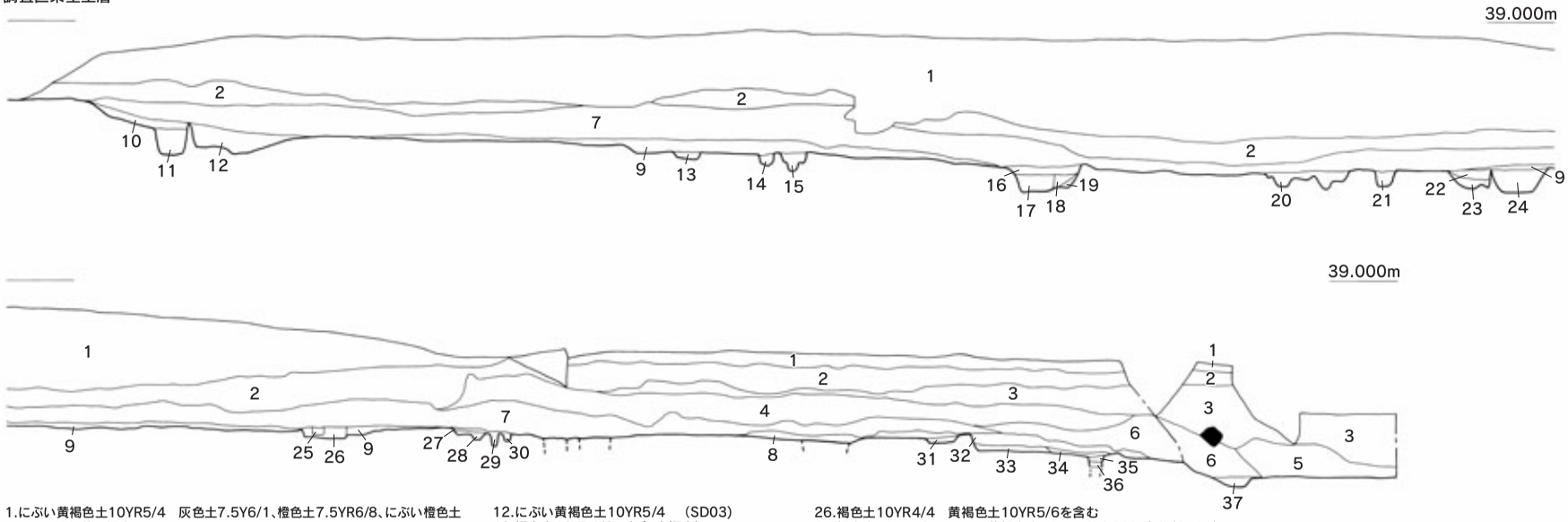
試掘調査は、平成17年１月27日～２月21日の間に59次試掘調査としておこなった。南側に隣接する１・９次調査地において遺構が確認されていたため、遺構が存在するものと考えて全体を表土剥ぎすることから入った。調査は南側から開始し、合わせて道路を挟んだ北側の植林地も全体的に表土剥ぎをおこなった。調査地の南側は表土が深く、土の搬出に難渋した。

発掘調査は３月２日に１区から開始した。隣接する本堂１・９次調査区で、遺構面が２面確認される部分があることから、その点に留意して調査を進めた。２区も並行して着手しようとし、調査区壁面の土層観察を行った結果、遺構面と考えられていた面は包含層であることが判明した。そのためバックフォーを使用して包含層を掘削し、調査区東側では最大約80cmほど掘り下がって遺構面に至った。その結果、２区の北側から西側は花崗岩バイラン土上に現代の側溝や、植木の植樹のためのバックフォーの爪痕などが著しく認められ遺構は残存せず、主に東側から南側にかけてのみ遺構が残存することが分かった。遺構は１・２区、合わせて掘立柱建物３軒・土坑13基・溝３条・ピットなどが検出された。遺構面は１区では想定どおり第１・２面の両面が確認されたが、この第１面は１区の北側で途切れており、２区では１区で確認された第１面を確認することができなかった。２区は１区の第２面から続く遺構面が検出されたことから、検出された遺構面は第２面として調査にあたった。１区は３月31日に第１面、４月27日に第２面の全景写真を撮影し、実測作業を済ませ、４月末日に終了した。２区は南側から調査に着手し、４月14日にはこの調査地の中心的施設と考えられる大型掘立柱建物（ＳＢ04）を検出した。しかし調査区外の東側へと続いており、この時には全体を把握することができなかった。また調査区北側でＳＤ03が検出されたほかは、遺構検出域のほぼ全面にピットが認められた。これらの中には掘立柱建物の柱痕と考えられるものもあったが、残念ながら建物を復元するに至らなかった。６月１日には２区の空中写真撮影を、㈲空中写真企画に委託して行い、６月22日に実測作業を終了し、翌23日に２区の遺構が残存する部分を埋め戻し、終了した。

本調査地は、本来の区画整理計画では調査後すぐに切土が開始されるはずであったが、東側の次年度調査地（本堂17次）へと大型掘立柱建物が続いていること、隣接する本堂遺跡９次調査でも梁行１間×桁行７間の大型掘立柱建物が検出されており、このような大型建物がある遺跡の性格を明らかにするためにも、次年度の調査まで保存することを、上大利北土地区画整理組合と協議し合意に至り、埋め戻すこととなった。（久住）

第101図　12次調査区東側土層実測図（1／120）1区第2面包含層土層・2区SD02西側包含層土層実測図（1／60）

調査区東壁土層



1.にぶい黄褐色土10YR5/4　灰色土7.5Y6/1、橙色土7.5YR6/8、にぶい橙色土7.5YR6/4他の混土
2.にぶい黄褐色土10YR5/4　上層：黄灰色土2.5YR6/1、中層：黄褐色土10YR5/6、下層：にぶい黄褐色土10YR5/3
3.橙色土7.5YR6/6　褐色土10YR4/4含む
4.にぶい褐色土7.5YR5/4　褐色土7.5YR4/4を含む
5.褐色土10YR4/4　軟質
6.黄灰色土2.5Y4/1　粘質土、明黄褐色土2.5Y7/6を40%含む
7.にぶい黄橙色土10YR6/4　褐色土10YR4/4を含む、マンガン斑・遺物を多く含む（第1面包含層）
8.暗褐色土10YR3/3　マンガン斑多く含む（第2面包含層）
9.褐色土10YR4/4　にぶい黄橙色土10YR6/4を含む（包含層）
10.灰黄褐色土10YR5/2　炭化を非常に含む（炭だまり）
11.暗オリーブ褐色土2.5Y3/3　炭化を非常に含む（SP20）
12.にぶい黄褐色土10YR5/4　（SD03）
13.褐色土10YR4/6　（ピット埋土）
14.褐色土10YR4/6　（ピット埋土）
15.褐色土10YR4/6　（ピット埋土）
16.褐色土10YR4/6　（SP116）
17.にぶい黄褐色土10YR4/3　（SP116）
18.褐色土10YR4/4　（SP116）
19.黄褐色土10YR5/6　（SP116）
20.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6を含む
21.にぶい黄褐色土10YR4/6
22.にぶい黄褐色土10YR5/4　（SD01）
23.褐色土10YR4/4　（SD01）
24.褐色～明黄褐色土10YR4/6～6/6　（SP69埋土）
25.にぶい黄褐色土10YR4/3　（SP166）
26.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6を含む
27.褐色土10YR4/4　にぶい黄褐色土10YR5/4を20%含む（SD01）
28.黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4を20%含む（SD01）
29.褐色土10YR4/4
30.褐色土10YR4/6
31.暗褐色土10YR3/3　（ピット埋土）
32.暗褐色土10YR3/4　マンガン斑多く含む（SX11）
33.褐色土10YR4/6　マンガン斑多く含む、暗褐色土10YR3/4小ブロックを30%含む（SX11）
34.褐色土10YR4/4　マンガン斑多く含む（SX11）
35.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6小ブロックを10%含む
36.黄褐色土10YR5/6
37.暗黄灰色土2.5Y4/2　粘質

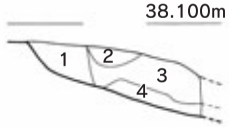
1区第2面包含層①

1.褐色土10YR4/4　炭化物をわずかに含む
2.褐色土10YR4/6　にぶい黄橙色土10YR5/4を30%含む

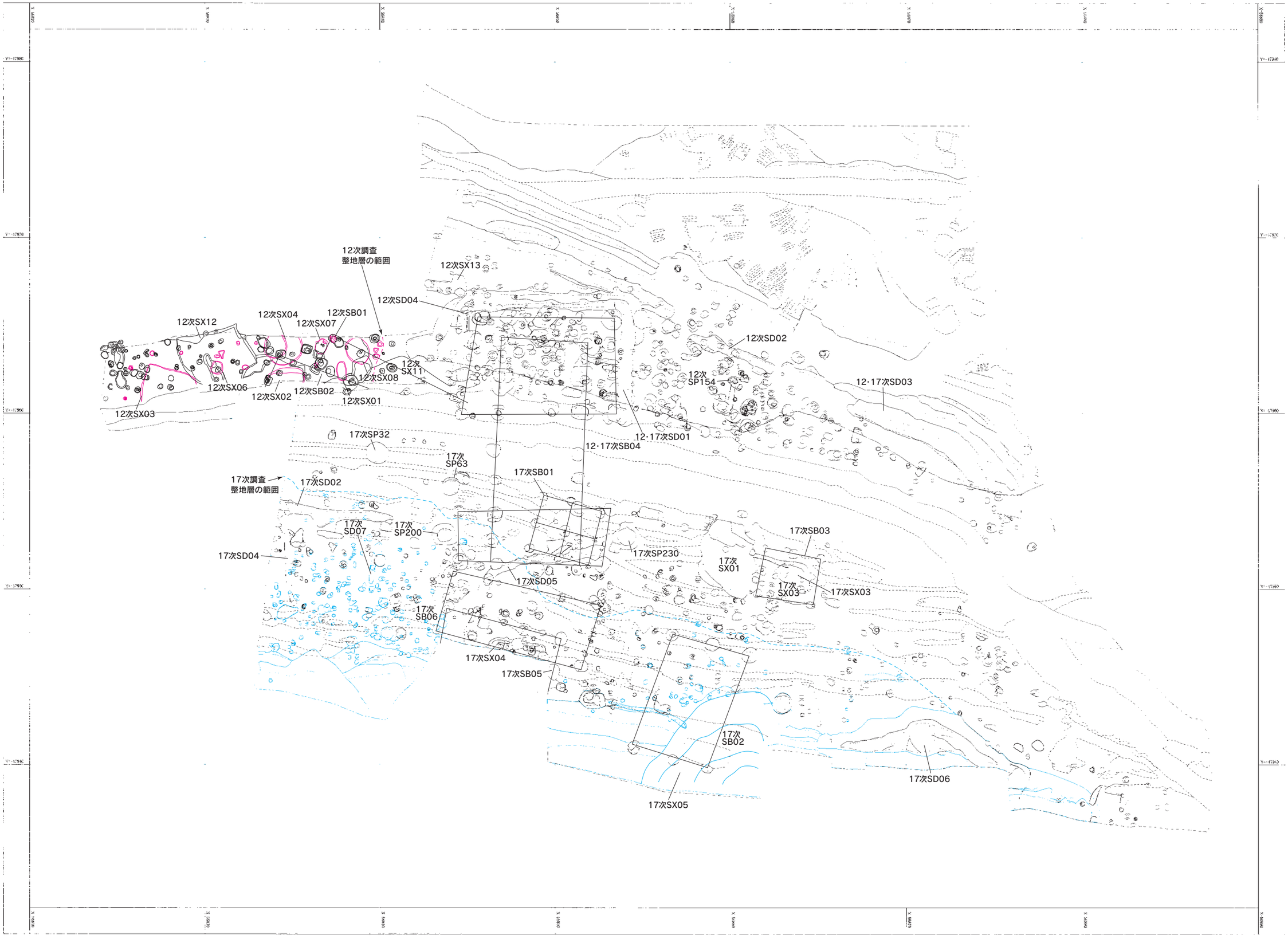
1区第2面包含層②

1.にぶい黄褐色土10YR4/3　にぶい黄褐色土10YR5/3を20%含む
2.褐色土10YR4/4

2区SD02西側包含層



1.黄褐色土2.5YR5/4　軟質、黄褐色土10YR5/6を5%含む
2.にぶい黄褐色土10YR5/4　径5mm以下の砂礫を多く含む
3.ぶい黄褐色土10YR5/4　黄褐色土10YR5/6の小ブロック（径2cm程度）を多くふくむ
4.黄褐色土2.5YR5/3　軟質



第102図　12・17次調査全体図（1／200）（青は17次調査第２面遺構、赤は12次調査第１面遺構）

Ｂ．遺構と遺物

（１）調査区および層位（第102図・図版27）

１区の層序は上から現代の整地層、にぶい褐色土、耕作土、暗褐色土（第１面かつ第２面包含層）、橙色土（第２面）である。遺構は暗褐色土と橙色土の両面でそれぞれ確認されたため、暗褐色土上を第１面、橙色土上を第２面として調査を行った。この第１面の暗褐色土は調査区南端部から約15mの付近で、途切れており、最も厚い部分でも約20cm程で、北側へ向かって段々と薄くなっていた。そのため遺構は土坑８基、ほかピットが検出されたが、特に第１面が途切れる付近は、第２面遺構にも関わらず、第１面で検出してしまったものもあった。標高は36.25～36.50mで、調査区東側に向かって下がっていく地形である。

（２）第１面の調査

ｉ）土坑

ＳＸ01（第103図・図版28）

１区北側、ＳＸ08東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、検出面で長軸1.09m、短軸0.57m、底面は長軸2.03m、短軸0.96m、検出面～底面まで最も深い部分で0.28mを測る。底面の北東隅に15cm×13cmのピットを有し、深さはＳＸ01の底面から約15cmである。また西側から須恵器・黒色土器が出土した。これらは底面から約15cm浮いていた。ほかに遺物は土師器が出土した。

出土遺物（第104図・図版77）

須恵器（698～701）　698は杯Ｈ蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号「｜｜｜」が施されている。699は杯Ｂ蓋で、かえりを持つものである。700は椀であろうか。体部中位から直立気味に口縁部へと至り、口縁端部はわずかに外反する。701は短頸壺で、体部中位に最大径をとるようである。肩部～体部外面はカキメ、肩部外面はその後ナデを施す。

黒色土器（702）　Ｂ類椀である。口縁部はやや外反する。体部外面は器表が摩滅しミガキはかすかにその痕跡を留めるのみである。体部内面は斜位のミガキが認められる。

ＳＸ02（第103図）

１区中央付近に位置し、東側は撹乱に切られている。調査区東辺にかかっており、全体の規模は不明である。検出面で南北2.24m、東西0.94m、底面は南北2.15m、東西0.54m、検出面～底面まで最も深い部分で0.34mを測る。遺物は須恵器・土師器などが出土した。

出土遺物（第104図）

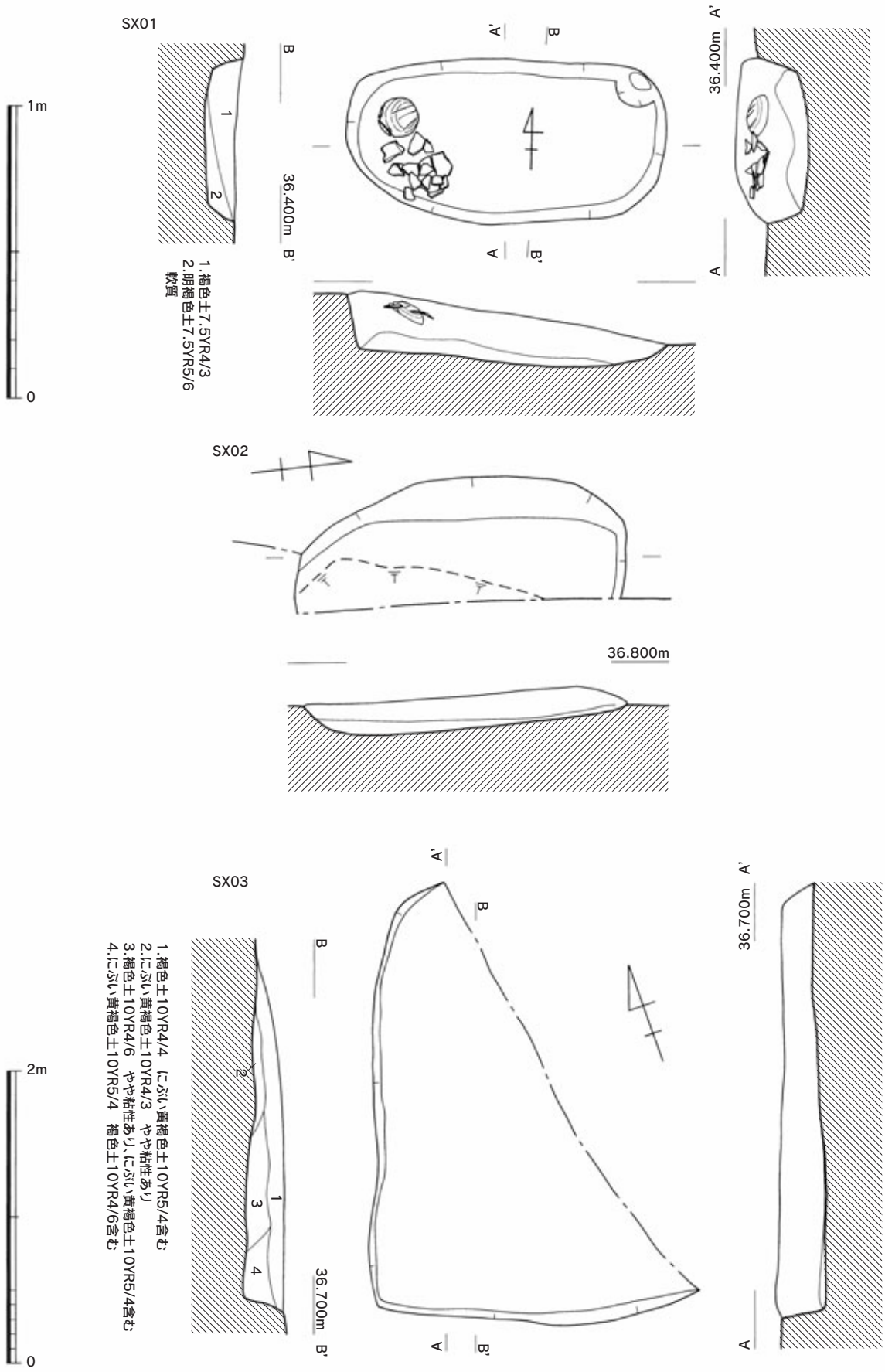
須恵器（703）　皿である。体部は直線的に開き、体部と底部の境はやや丸みを持つ。

ＳＸ03（第103図・図版28）

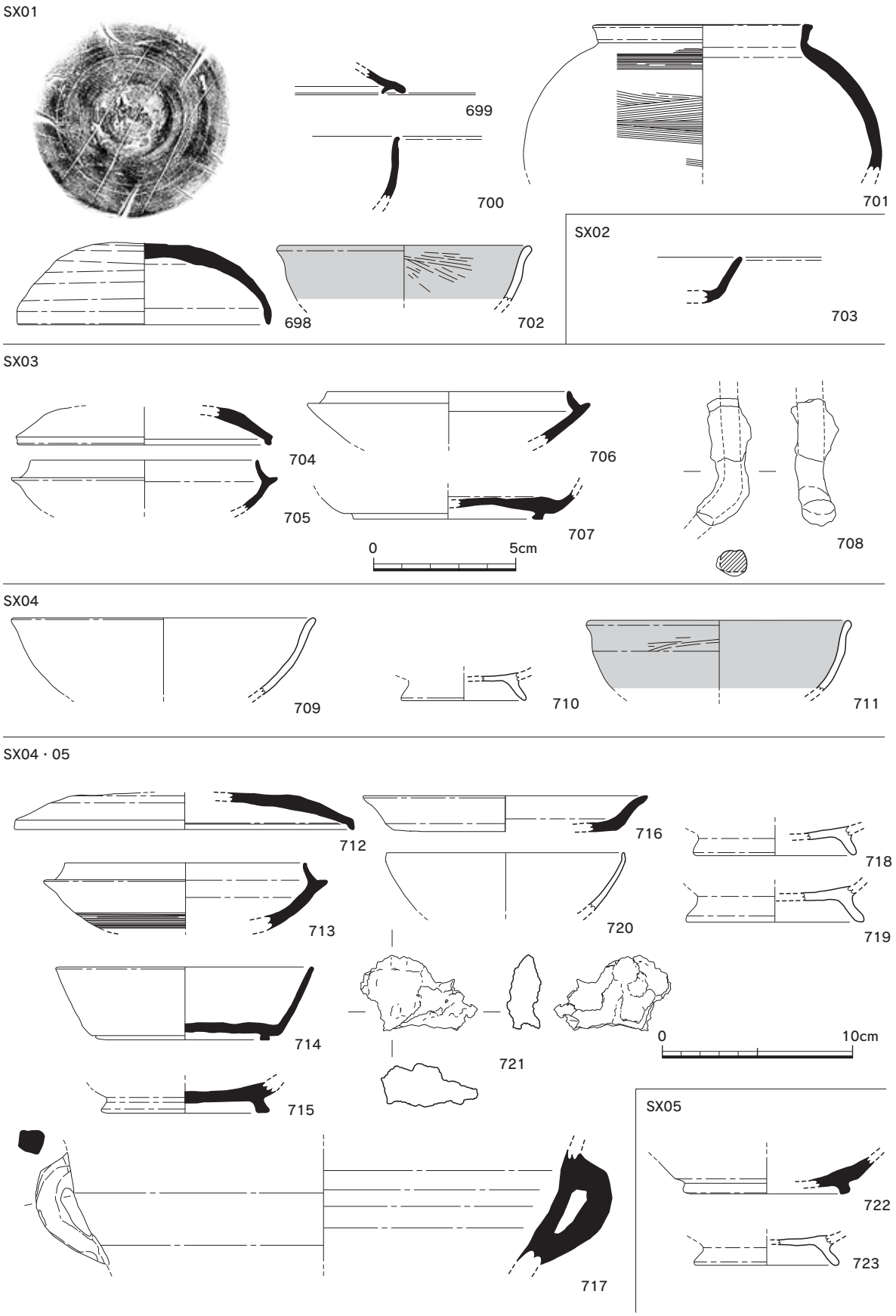
１区南側に位置する。調査区東辺にかかっており、全体の規模は不明である。検出面で長軸3.00m、短軸2.25m、底面は長軸2.94m、短軸2.20m、検出面～底面まで最も深い部分で0.34mを測る。底面は南側がやや下がるが、ほぼ平坦である。遺物は須恵器・土師器・弥生土器・鉄製品・黒曜石などが出土した。

出土遺物（第104図）

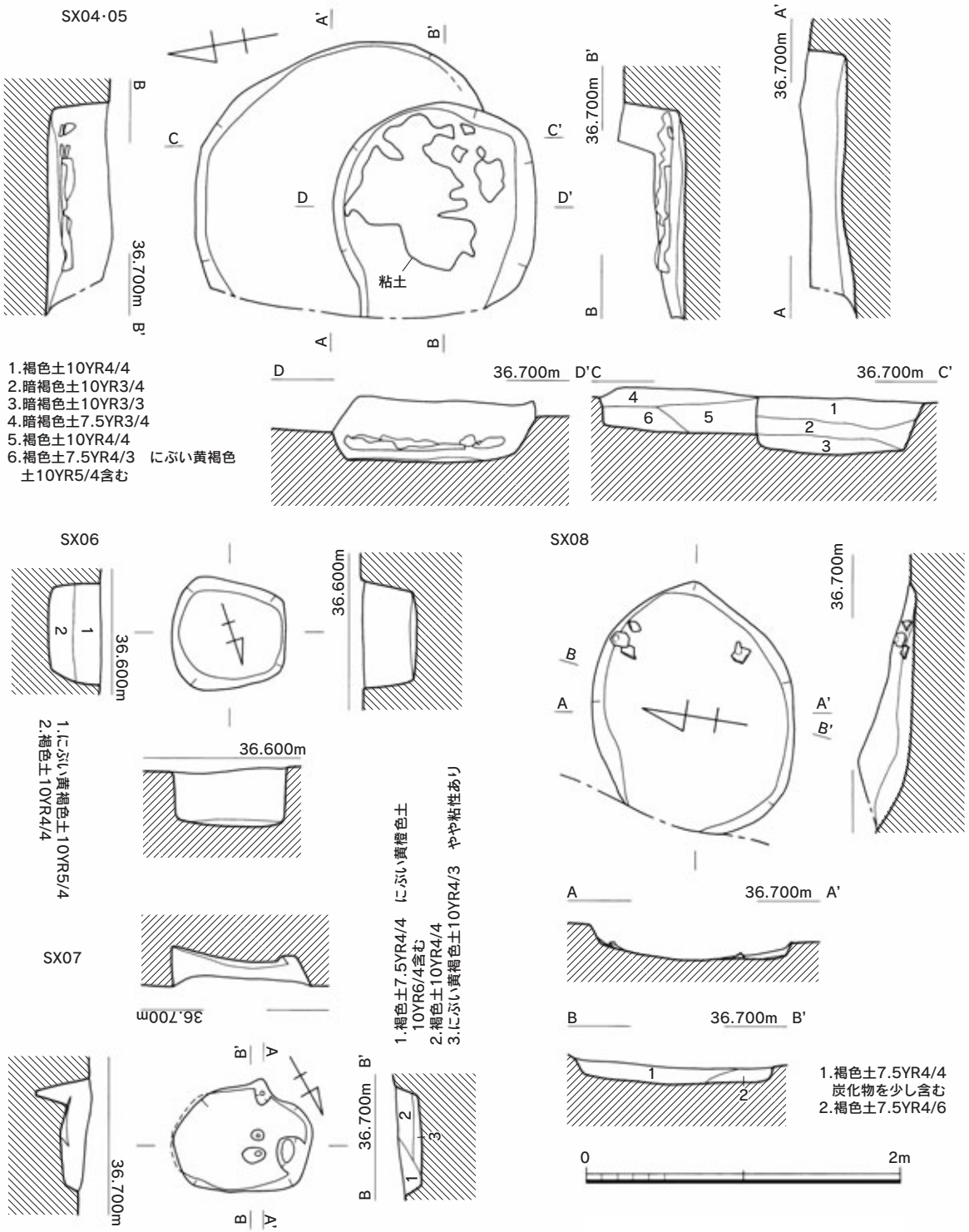
須恵器（704～707）　704は杯Ｂ蓋で、口縁端部は折り曲げ、小片のため口径にやや難がある。705・



第103図　12次ＳＸ01～03実測図（１／40）



第104図　12次ＳＸ01～05出土遺物実測図（708は１／２、他は１／３）



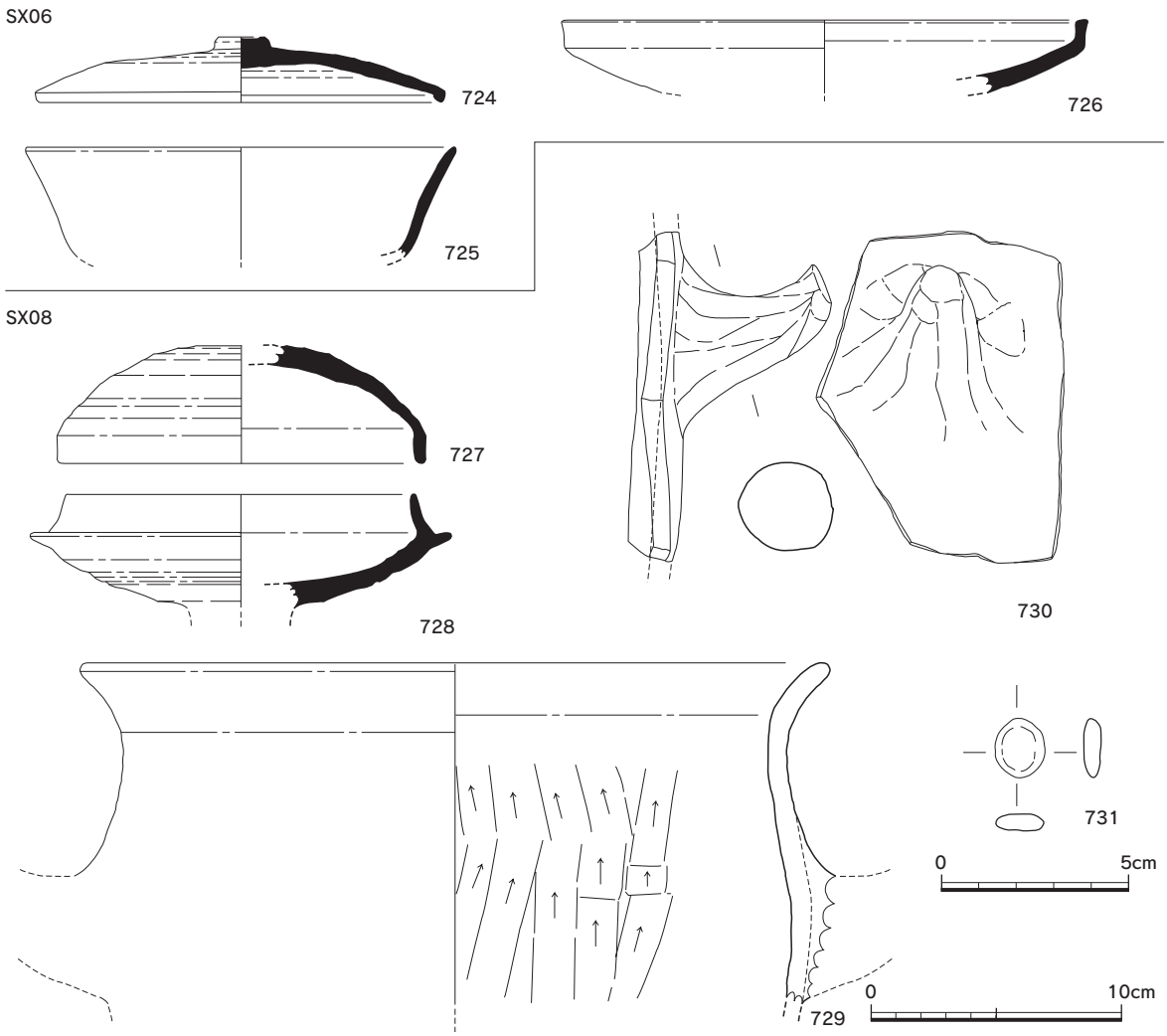
第105図　12次ＳＸ04～08実測図（１／40）

706は杯Ｈ身で、いずれも小片のため口径にやや難がある。707は杯Ｂ身である。高台は低く、底部外面端よりも内側に貼り付けられる。焼け歪みが認められる。

鉄製品（708）　釘であろうか。断面は長方形を呈し、「く」字形に曲がっている。

ＳＸ04（第105図・図版29）

１区中央付近に位置し、ＳＸ05を切る。調査区西辺にかかっており、全体の規模は不明である。検



第106図　12次ＳＸ06・08出土遺物実測図（731は１／２、他は１／３）

出面で南北1.30m、東西1.36m、底面は南北1.08m、東西1.32m、確認面～底面まで最も深い部分で、0.45mを測る。底面はほぼ平坦である。粘土が底面の６～８cm上から広がった状態で検出された。粘土の厚さは均一ではなく凹凸があり、最も厚い部分では約10cmを測る。また粘土の下、底面直上からは黒色土器が出土した。ほかに遺物は須恵器・土師器などがある。

出土遺物（第104図）

土師器（709・710）　709は丸底杯である。小片のため、傾きに難あり。体部中位付近でわずかに屈曲し口縁部へとゆるく伸びている。710は椀の高台で、細く高い。

黒色土器（711）　Ｂ類椀である。体部は丸みを持ち、口縁部下方から口縁部は若干直立気味となり、口縁端部はやや外反する。体部は内外面ともに摩滅しており、口縁部下外面にわずかにミガキが認められるのみである。

ＳＸ04・05出土遺物（第104・図版77・78）

ＳＸ04・05の両遺構を検出したときに出土したものである。そのため遺物は両遺構のものが混じっており、どちらのものか特定することはできなかった。遺物は須恵器・土師器・平瓦・青磁・滑石製品・鉄滓などがある。

須恵器（712～717）　712は杯Ｂ蓋で、口縁端部は折り曲げられる。713は杯Ｈ身としたが、体部下

位外面にはカキメが施されるため、高杯の可能性もある。口縁端部には重ね焼き時の蓋の一部が釉着している。714・715は杯Ｂ身である。714の体部は開き、高台は低く、底部外面端からやや内側に貼り付けられる。715の高台は高い。716は皿である。体部は外反しながら口縁部へと至っている。717は器種不明である。体部外面には回転ヘラケズリが施され、把手が貼り付けられている。把手の断面形はほぼ方形を呈し、丁寧に面取りして整えている。

土師器（718・719）　いずれも椀底部片で、高台はいずれも高い。

磁器（720）　越州窯系青磁椀である。体部は開き、口縁端部は内湾する。釉は全体的に薄くかかっており、釉調は黄色味を帯びている。太宰府分類Ⅱ－2d。

鉄滓（721）　椀形滓か？表面は小さな凹凸が著しい。

ＳＸ05（第105図・図版29）

１区中央付近に位置し、ＳＸ04に切られる。調査区西辺にかかっており、全体の規模は不明である。検出面で南北1.82m東西1.74m、底面は南北1.49m、東西1.71m、検出面～底面まで最も深い部分で0.39mを測る。底面はほぼ平坦である。遺物は須恵器・土師器などが出土した。

出土遺物（第104図）

須恵器（722）　杯Ｂ身底部片で、高台は底部外面端からやや内側に貼り付けられる。

土師器（723）　椀底部片で、高台は細く高い。

ＳＸ06（第105図・図版29）

１区中央付近に位置する。平面形は略方形を呈し、検出面で南北0.73m、東西0.72m、底面は南北0.57m、東西0.66m、検出面～底面まで最も深い部分で0.37mを測る。底面はほぼ平坦である。遺物は須恵器・土師器・剥片石器などが出土した。

出土遺物（第106図・図版78）

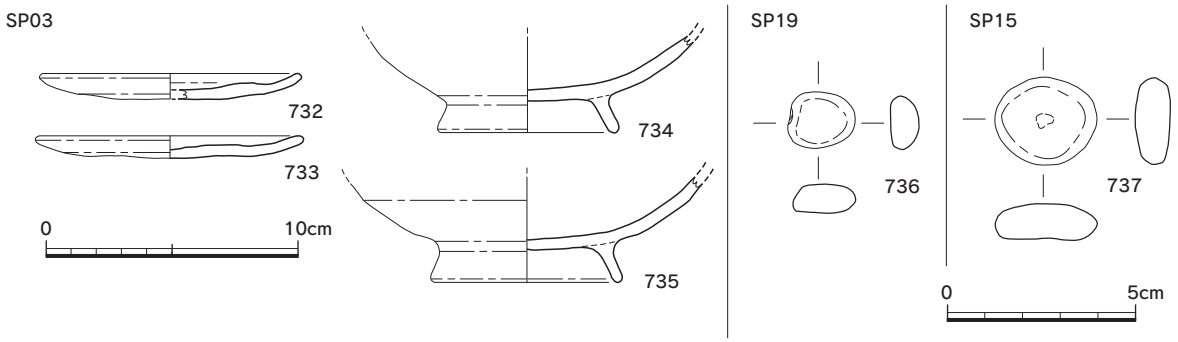
須恵器（724～726）　724は杯Ｂ蓋である。つまみは小さく低く、口縁端部は折り曲げられる。天井部外面は回転ヘラ切り後回転ナデが施されている。725は杯Ｂ身である。体部はやや開き、口縁部へと緩く伸びている。726は高杯で、口縁部は直立している。小片のため傾きにやや難がある。

ＳＸ07（第105図・図版30）

１区北側に位置する。平面形は楕円形を呈し、検出面で長軸0.90m、短軸0.71m、底面は長軸0.86m、短軸0.64m、検出面から底面まで最も深い部分で0.295mを測る。東側の壁面はややオーバーハングする。底面は南東側へと低くなっており、中央付近に２個（9cm×7cm・15cm×10cm）、北西部（16cm×11cm）・西側（22cm×20cm）に各１個の計４個、ピットが認められる。これらの深さはＳＸ07底面から８～20cmである。遺物は須恵器・土師器などが出土したが、いずれも小片のため図示できなかった。

ＳＸ08（第105図・図版30）

１区北側に位置する。調査区西辺にかかっており、全体の規模は不明である。平面形は砲弾形を呈し、検出面で長軸1.59m、短軸1.28m、底面長軸1.50m、短軸1.17m、検出面～底面まで最も深い部分で0.32mを測る。埋土は炭化物を少し含んでいる。また底面付近から土師器・須恵器などが数点出土している。これらはいずれも破片であり、完形品となるものはない。このほかに、平瓦・円礫が出



第107図　12次第１面ＳＰ出土遺物実測図（736・737は１／２、他は１／３）

土した。

出土遺物（第106図・図版78）

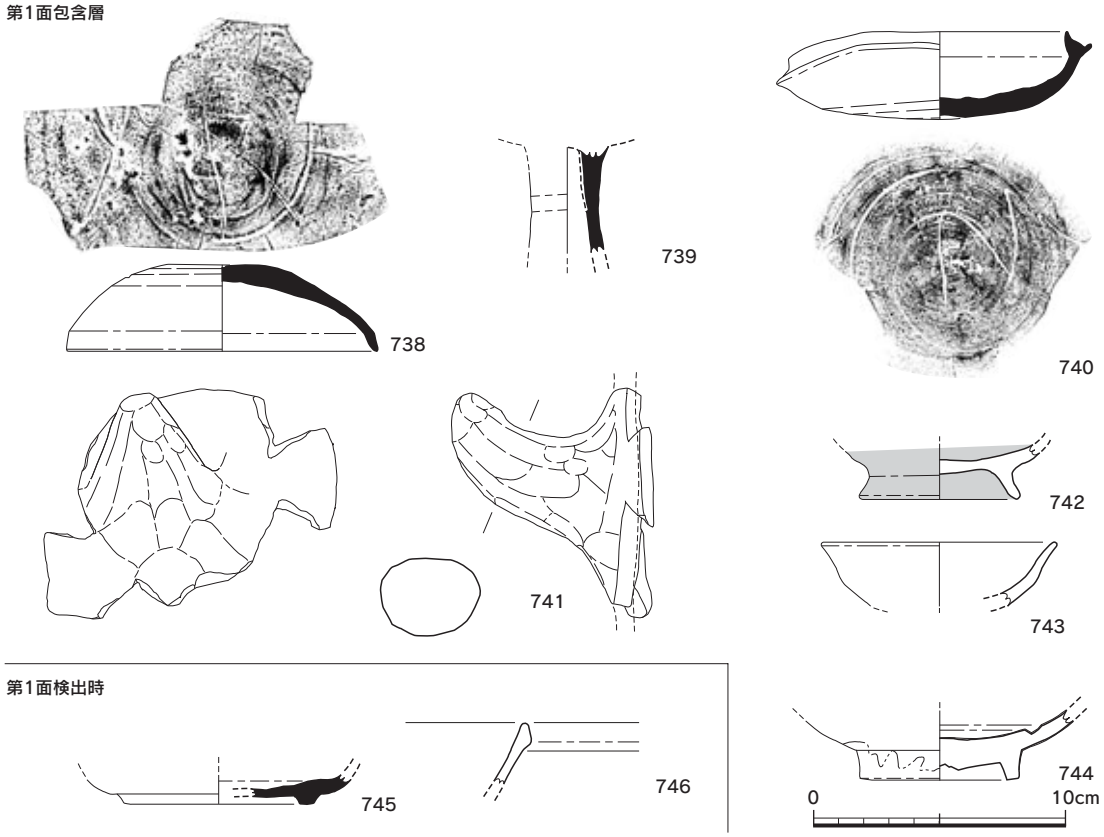
須恵器（727・728）　727は杯H蓋である。口縁部は直立しており、天井部外面は回転ヘラケズリが施されている。728は高杯で、脚部は欠損している。立ち上がりは高く伸び、杯部底部外面は回転ヘラケズリが施されている。

土師器（729・730）　729は甕または甑で、体部内面には縦位のヘラケズリが施されている。730は甑把手か。

円礫（731）　石材は蛇紋岩である。

ⅱ）その他遺構出土遺物（第107図・図版78）

ＳＰ03



第108図　12次第１面包含層・遺構検出時出土遺物実測図（１／３）

土師器（732～735）　732・733は小皿で、口径は10.2～10.7cm、器高は0.9～1.0cmを測る。底部外面は回転ヘラ切りである。734・735は椀で、高台は高く伸びる。

ＳＰ15

円礫（736）　石材は砂岩である。

ＳＰ19

円礫（737）　石材は砂岩である。

ⅲ）第１面包含層出土遺物（第108図・図版78）

須恵器（738～740）　738は杯Ｈ蓋で、天井部外面は回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号「×」が認められる。739は高杯脚部基部で、基部は細い。740は杯Ｈ身で、底部外面は回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号「M」が認められる。焼け歪みが著しい。

土師器（741）　甕もしくは甑の把手である。

黒色土器（742）　Ｂ類椀底部片で、高台は高い。

陶器（743）　山茶碗の小椀である。17次調査撹乱溝出土のものと同一個体と思われる。体部は開き、口縁部下方～口縁部にかけてごく緩く外反する。

磁器（744）　白磁椀で、高台はケズリ出しによる。釉は内外面に薄く均一に施されている。

ⅳ）第１面検出時出土遺物（第108図）

須恵器（745）　杯Ｂ身である。底部外面端よりやや内側に低い高台が貼り付けられる。

磁器（746）　白磁椀口縁片である。口縁部は小さい玉縁状を呈し、全体に薄く施釉されている。

（３）第２面の調査

２区においては１区で認められた第１面を確認することができず、検出された遺構面は、調査区東壁面の土層から１区の第２面と一連のものである。層序は上から、整地層、耕作土、包含層（にぶい黄橙色土）、包含層（褐色土）、第２面（橙色土）である。遺構は１区と２区調査区東側～南側にかけて検出され、北側～西側にかけては花崗岩バイラン土が露出し遺構は認められなかった。ただしこれらは古墳～飛鳥、奈良、平安時代以降の各期のものが認められるので、本来は遺構面が複数存在していた可能性がある。遺構が残存する部分の標高は35.50～38.00mである。

ⅰ）掘立柱建物

調査ではＳＢ01・02・04の３棟を確認した。ＳＢ03は調査時、掘立柱建物となると考えて遺構名をつけていたが、柱掘方がうまく並ばなかったため、建物として成立しないという結論に至り、結局欠番とした。

ＳＢ01（第109図）

１区北側に位置する側柱建物でＳＢ02を切る。調査区際にかかっており、全体の規模は不明である。12次調査時には１間×３間が確認されており、本堂17次調査時に柱掘方が１個検出され（17次ＳＰ360）、合わせて梁行１間×桁行４間（2.06×8.15m）が検出された。主軸はＮ－33°－Ｅにとり、掘方プランは円形・楕円形・略方形と様々である。検出面でＳＰ12は0.46m×0.37m、深さ0.59m、SP18は0.41m×0.45m、深さ0.54m、ＳＰ17は残存部0.62m×0.47m、深さ0.64m、ＳＰ117は0.57m×0.46m、深さ0.74m、17次ＳＰ360は0.55m×0.47m、深さ0.72m、ＳＰ24は0.69m×0.64m、深さ0.68m

を測り、心々間はＳＰ24・12間1.45m、ＳＰ12・18間1.80m、ＳＰ18・17間1.90m、ＳＰ17・117間2.03m、ＳＰ117・17次ＳＰ360間2.0mを測る。ＳＰ117は12次調査時の調査区際に位置し、全体を検出することができなかったため、翌年の17次調査時に未検出部分を調査する予定であった。しかし、17次調査時にはその点を失念してしまい、その結果、全体を検出し損なってしまった。西隅のＳＰ12からは、平瓦が１点出土した。

出土遺物（第111図・図版78）

17次ＳＰ360

須恵器（747）　掘方から出土した。杯Ｂ蓋で、天井部は平坦となり、口縁端部は折り曲げられる。

ＳＰ117

ここに図示したものは掘方からの出土である。小片のため図示しえなかったが、柱痕からは須恵器・礫などが出土した。

須恵器（748）　杯Ｂ身で、体部の開きは浅く、底部外面端のわずか内側に低い高台が貼り付けられる。

円礫（749）　石材は砂岩である。

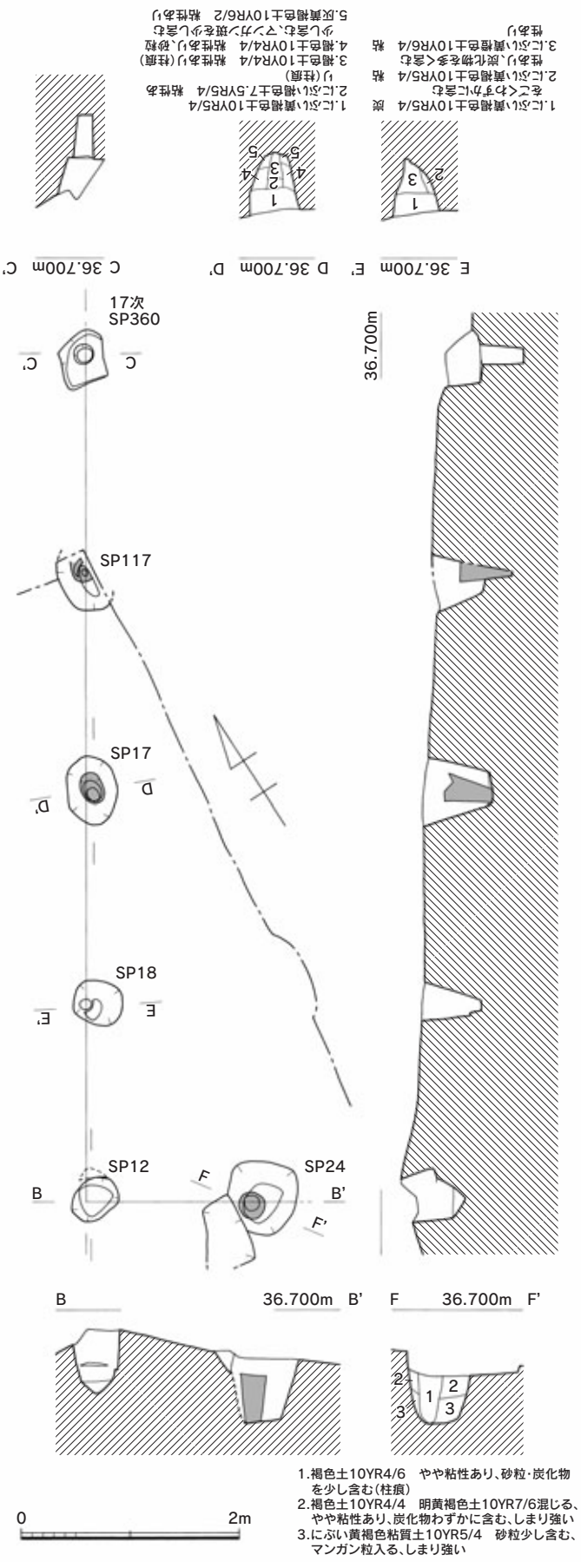
ＳＰ12

柱痕からは遺物は出土しなかった。

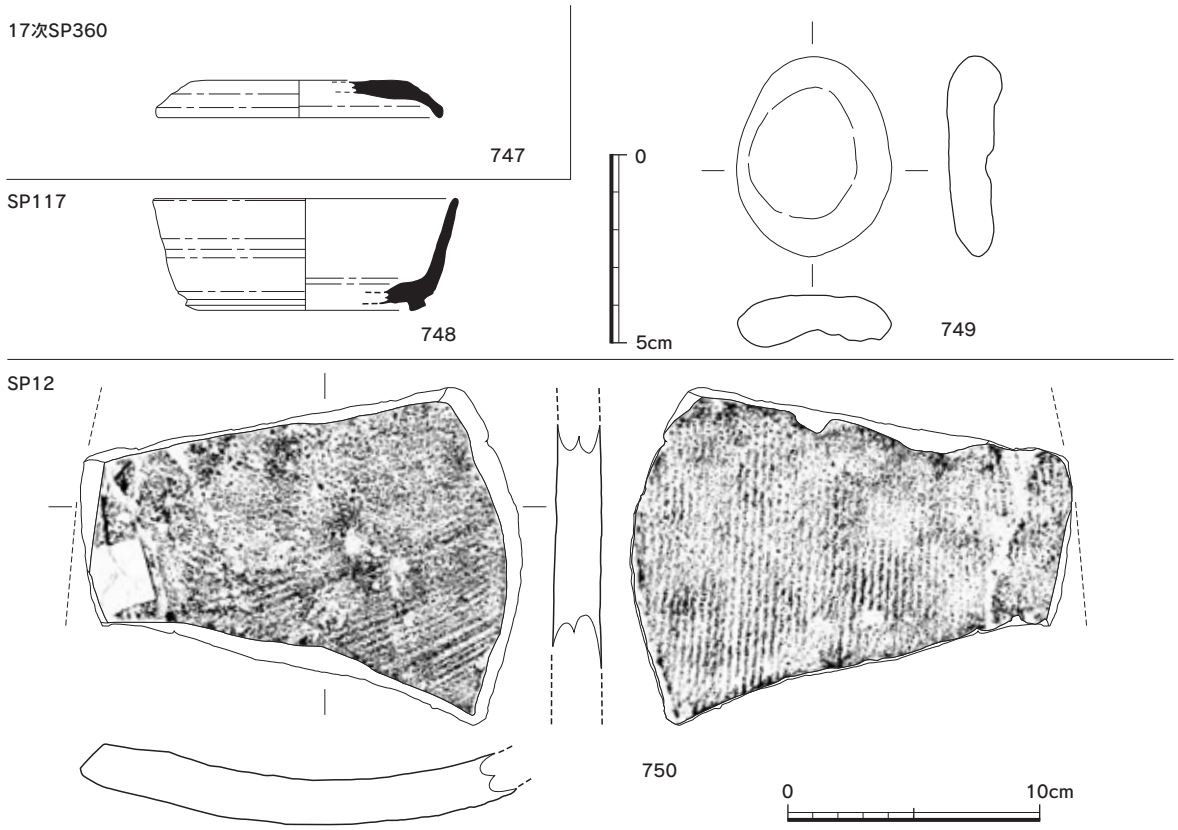
瓦（750）　平瓦である。凹面は布目痕が認められ、その後ヘラケズリを施している。凸面は縄目タタキ、側縁部は面取りが施されている。

ＳＢ02（第111図）

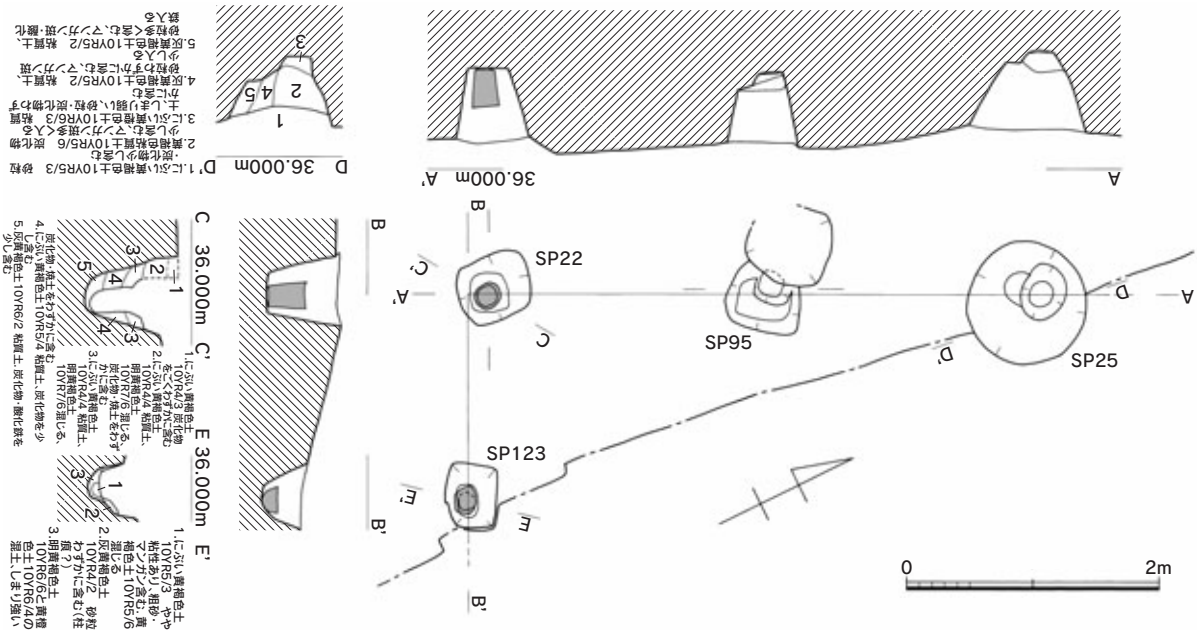
１区北側に位置する側柱建物で



第109図　12次ＳＢ01実測図（１／60）



第110図　12次ＳＢ01出土遺物実測図（749は１／２、他は１／３）



第111図　12次ＳＢ02実測図（１／60）

SB01に切られる。調査区際にかかっており、全体の規模は不明であるが、２間×１間（5.0×2.22m）が検出された。主軸はＮ－26°－Ｅにとり、掘方プランは円形と略方形がある。検出面でＳＰ123は0.52×0.41ｍ、深さ0.37m、ＳＰ22は0.58×0.52m、深さ0.60m、ＳＰ95は0.57×0.58m、深さ0.61m、ＳＰ25は0.95×0.97m、深さ0.67mを測り、心々間はＳＰ123・

22間1.63m、ＳＰ22・95間2.24m、ＳＰ95・25間2.16mを測る。本来、本堂17次調査地へと続くものであるが、大きく削平を受けていたため17次調査時には検出できなかった。

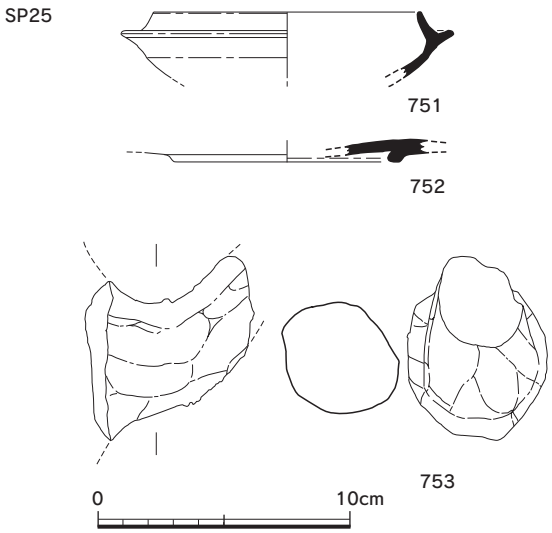
出土遺物（第112図）

ＳＰ25

柱痕からは遺物は出土しなかった。

須恵器（751・752）　751は杯Ｈ身で、底部を欠損する。752は杯Ｂ身で、高台は低い。

土師器（753）　甕もしくは甑の把手である。先端を欠損する。



第112図　12次ＳＢ02出土遺物実測図（1／3）

ＳＢ04（第114図・図版32）

２区中央付近に位置し、調査区東辺にかかって検出された掘立柱建物で、南・西・北面の三面に廂が取り付く。主軸はＮ－３°－Ｅとほぼ正方位にとる。12次調査時には、身舎２間×１間に廂４間×２間が検出された。各柱掘方の検出面規模は以下の通りである。ＳＰ172は略方形、1.33m×1.13m、深さ1.40m、ＳＰ161は略方形、1.23m×1.24m、深さ1.09m、ＳＰ70は五角形、1.11m×1.06m、深さ1.07m、ＳＰ169は略方形、0.90m×1.34m、深さ1.04m、ＳＰ160は楕円形、0.81m×0.91m、深さ0.66m、ＳＰ159は略方形、0.79m×0.87m、深さ0.61m、ＳＰ65は円形、1.20m×1.20m、深さ0.73m、ＳＰ85は楕円形、0.52m×0.71m、深さ0.50m、ＳＰ163は長方形、1.54m×1.29m、深さ0.75m、ＳＰ63は台形、1.18m×0.87m、深さ0.60m、ＳＰ170は楕円形、1.03m×0.91m、深さ0.55m、ＳＰ49は楕円形、0.80m×0.94m、深さ0.64mを測る。身舎の柱掘方の心々間はＳＰ172・161間2.05m、ＳＰ161・70間2.55m、ＳＰ70・169間1.85m、廂の柱掘方の心々間はＳＰ160・159間1.5m、ＳＰ159・65間1.55m、ＳＰ65・85間2.0m、ＳＰ85・163間1.90m、ＳＰ163・63間2.15m、ＳＰ63・170間1.82m、ＳＰ170・49間1.75mを測る。これらから廂のほうが身舎よりも規模が小さいことが分かる。また身舎の柱掘方はいずれも版築が行われているが、廂は北西角のＳＰ65以外は明確に版築をおこなう掘方は認められない。

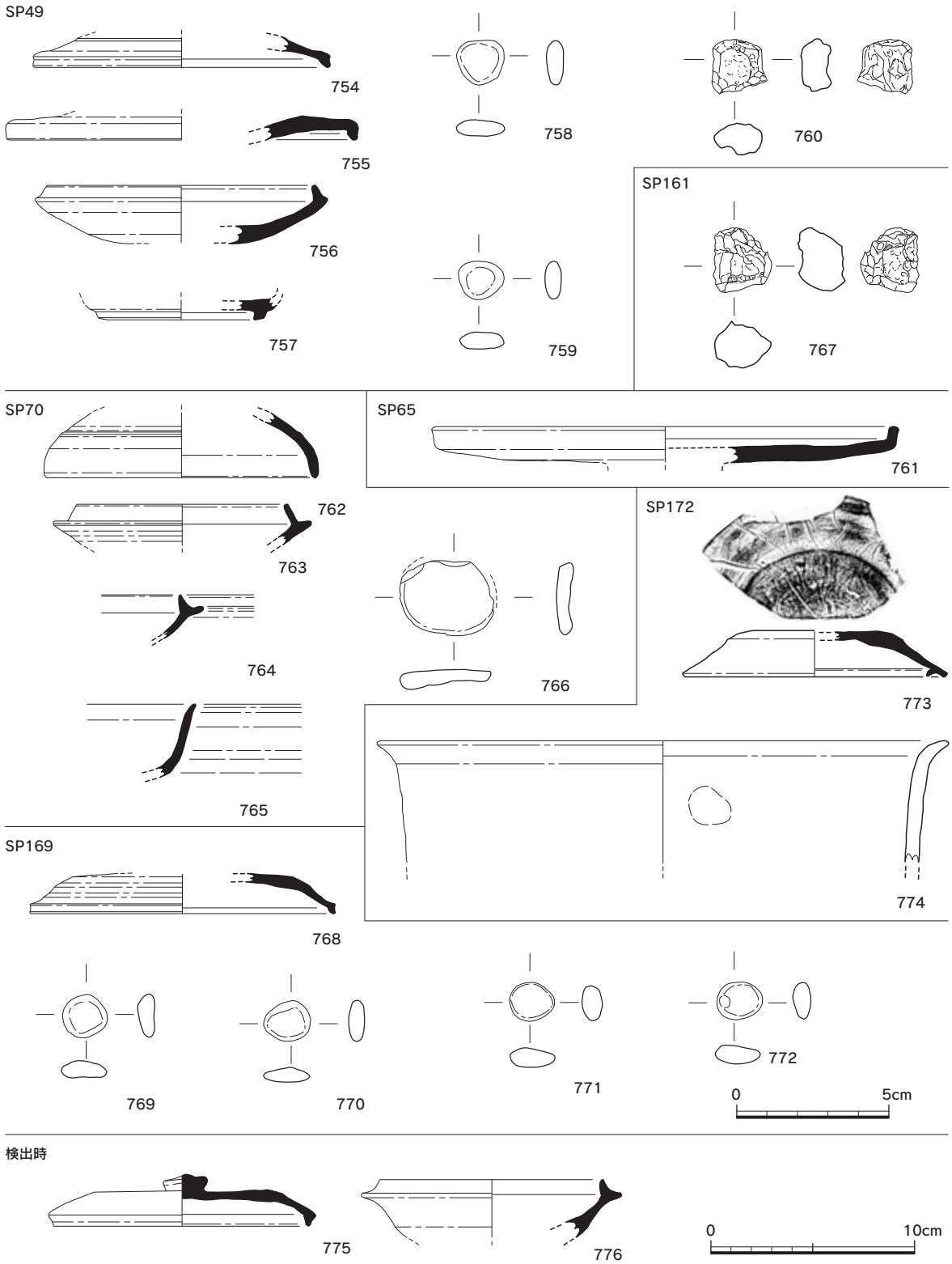
また掘方の中には柱替えを行った可能性があるものがある。ＳＰ49は底面の柱痕西側に南北0.58m×0.46mのピット状の浅いくぼみが認められた。ＳＰ170は検出面から35cmほど下で、柱痕北側に0.53m×0.56mのピットがもう一つ検出された。ＳＰ160は検出面から12cmほど掘り下げると、柱痕の西側にＳＰ203が認められ、柱穴が２個あるような状況を呈していた。これらが当初の柱痕であるならば、当初の心々間は、ＳＰ203・159間1.15m、ＳＰ203・65間1.57m、ＳＰ63・170間1.35m、ＳＰ170・49間は1.5mを測る。

出土遺物（第113図・図版78・79）

ＳＰ49

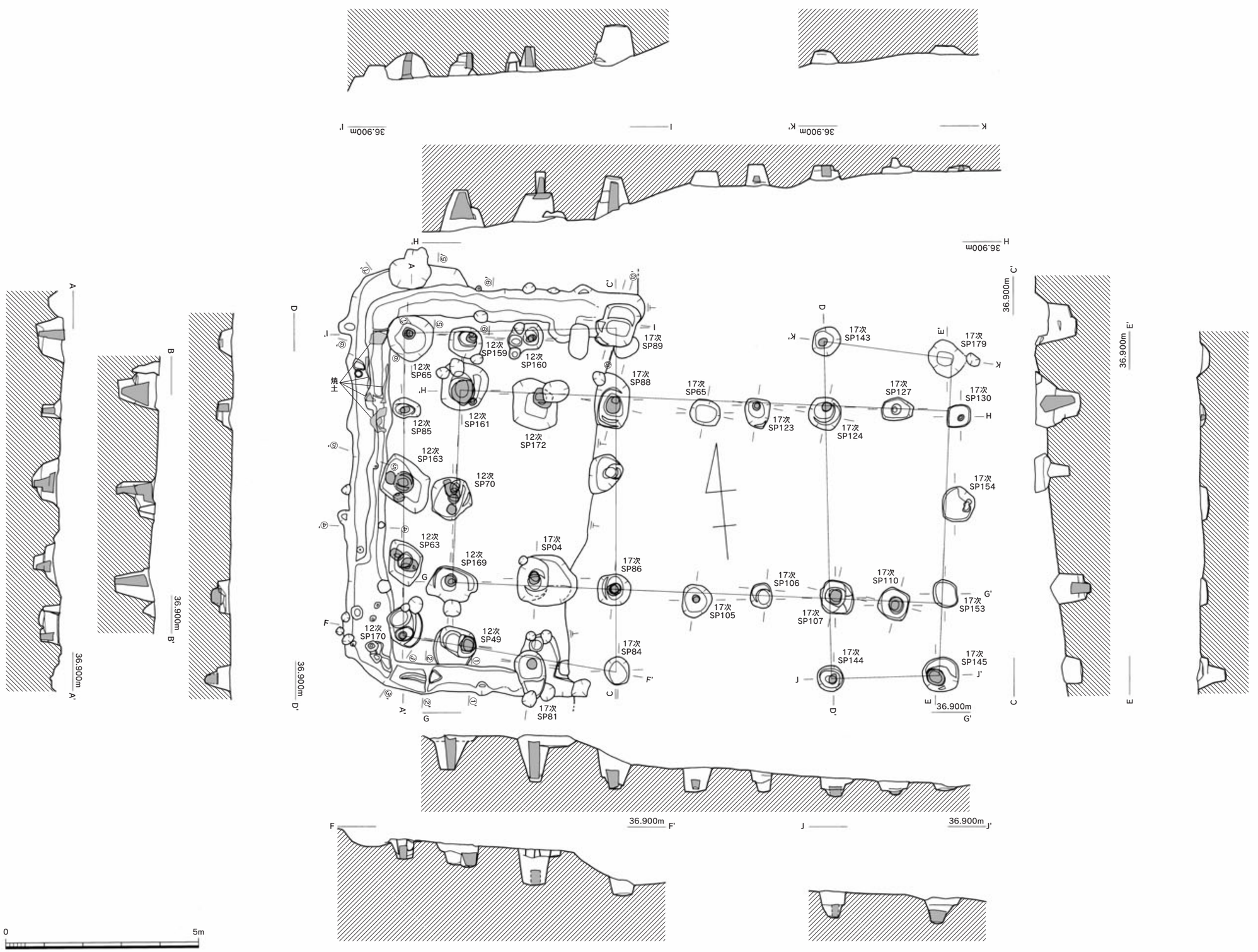
ここに図示した758・759は柱痕、それ以外は掘方から出土した。

須恵器（754～757）　754・755は杯Ｂ蓋で、口縁端部は折り曲げられる。755は図上では天井部が



第113図　12次ＳＢ04出土遺物実測図（758・759・766・769～772は１／２、他は１／３）

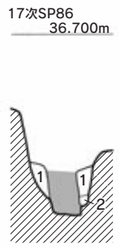
陥没して見えるが、焼き歪みが著しいためであり、これは本来の器形を示さない。756は杯Ｈ身である。摩滅が著しく口縁部および受部が本来の器形よりも小さくなっている。757は杯Ｂ身底部片である。残存状況が悪く判然としないが、高台は短く、底部外面端近くに貼り付けられているようである。底部外面は回転ヘラケズリを施す。

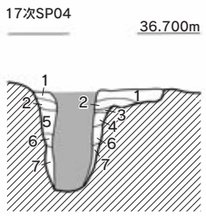


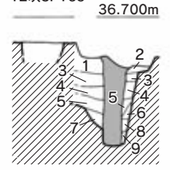
第114図　12・17次SB04実測図（1／100）

17次SP105

1.浅黄色土2.5Y7/3　粘質土
2.にぶい黄褐色土10YR4/3

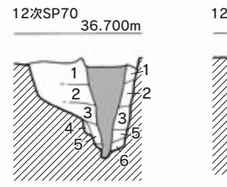






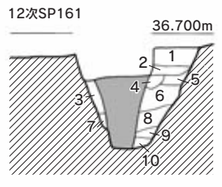
12次SP169

1.にぶい黄褐色土10YR5/4　褐色土10YR4/4をブロック状に含む
2.明黄褐色土10YR6/6　にぶい黄褐色土10YR5/4をブロック状に含む
3.にぶい黄褐色土10YR4/3　褐色土7.5YR4/4をブロック状に含む
4.にぶい黄褐色土10YR5/4　褐色土10YR4/4をブロック状に含む
5.にぶい黄橙色土10YR5/4　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む
6.にぶい黄褐色土10YR5/4　明黄褐色土10YR6/8をブロック状に含む
7.明黄褐色土10YR6/8　にぶい黄褐色土10YR5/4をブロック状に含む
8.にぶい黄褐色土10YR5/4
9.暗灰黄色土2.5Y5/2　にぶい黄橙色土10YR6/4・黄褐色土10YR5/6を含む



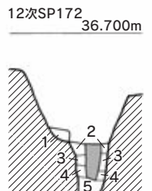
12次SP70

1.褐色土10YR4/4　にぶい黄褐色土10YR5/4をブロック状に含む
2.にぶい黄褐色土10YR5/4　褐色土10YR4/4をブロック状に含む
3.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6、にぶい黄褐色土10YR5/4をブロック状に含む
4.黄褐色土10YR5/8　やや粘性あり
5.にぶい黄褐色土10YR5/4　黄褐色土10YR5/3
6.にぶい黄褐色土10YR5/3



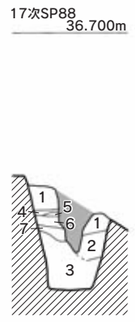
12次SP161

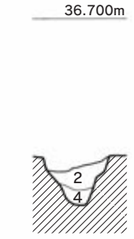
1.明黄褐色10YR7/6　褐色土10YR4/4を含む
2.褐色土10YR4/6　明黄褐色土10YR7/6をブロック状に含む
3.明黄褐色10YR6/6　砂質
4.明黄褐色10YR7/6　にぶい黄褐色土10YR5/4をブロック状に含む
5.にぶい黄褐色土10YR5/4　明黄褐色土10YR7/6をブロック状に含む
6.褐色土10YR4/6　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む
7.黄褐色土10YR5/8　やや粘性あり、やや粘性のあるにぶい黄褐色土10YR5/3を含む
8.にぶい黄褐色土10YR5/3　黄褐色土10YR5/6・褐色土10YR4/4をブロック状に含む
9.黄褐色土10YR5/6
10.にぶい黄褐色土10YR5/3　褐色土10YR4/4を含む



12次SP172

1.褐色土10YR4/6
2.黄褐色土10YR5/8　にぶい黄色土2.5Y6/3・にぶい黄褐色土10YR5/4をブロック状に含む
3.にぶい黄橙色土10YR6/4　にぶい黄色土2.5Y6/3・にぶい黄褐色土10YR5/4をブロック状に含む
4.黄褐色土10YR5/6
5.黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4を含む





17次SP110

1.褐灰色土10YR6/1　炭をわずかに含む

17次SP107

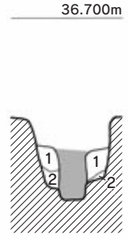
1.黄褐色土2.5Y5/4　炭を含む、明青灰色土10BG7/1　を粒状に含む
2.褐灰色土10YR6/1
3.褐灰色土10YR6/1　黄橙色土10YR8/8を含む
4.褐灰色土10YR5/1　粘質土

17次SP106

1.黄褐色土10YR8/6
2.灰白色土10YR7/1　炭を含む
3.浅黄橙色土10YR8/4　砂質
4.褐灰色土10YR6/1

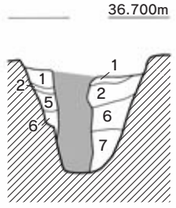
17次SP65

1.灰白色土10YR7/1　粘質土（ビット覆土）
2.灰白色土2.5Y8/2　砂質、にぶい黄橙色土10YR7/3を含む（柱痕埋土）
3.灰黄褐色土10YR5/2　砂質土（柱痕埋土）
4.灰黄色土2.5Y6/2　シルト（柱裏込め）
5.浅黄色土2.5Y7/3　砂質（柱裏込め）
6.明黄褐色土10YR7/6　（柱裏込め）
7.灰白色土10YR8/1　砂質



17次SP86

1.にぶい黄橙色土10YR7/2　砂質、マンガン粒を多く含む
2.灰白色土10YR7/1　砂質



17次SP04

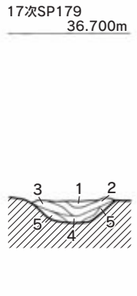
1.灰黄褐色土10YR6/2　炭・黒褐色土ブロックを含む
2.明黄褐色土10YR7/4　1層の土をブロック状に含む
3.浅黄橙色土10YR8/3　砂質土（2層の一部、裏込め）
4.にぶい黄褐色土10YR7/4　粘質土
5.にぶい黄褐色土10YR7/2　砂質
6.灰黄色土2.5Y6/2　粘質土
7.にぶい黄褐色土2.5Y6/3

17次SP144

1.にぶい黄褐色土10YR4/3　粘質土、炭をわずかに含む
2.にぶい黄褐色土10YR7/2　青灰色土・黄橙色土ブロック含む

17次SP145

1.黄色土2.5Y8/8　粘質土
2.暗灰黄色土2.5Y4/2　粘質土

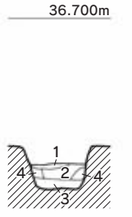


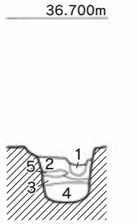
17次SP179

1.灰黄褐色土10YR5/2
2.灰黄褐色土10YR4/2　マンガン粒含む
3.灰黄褐色土10YR6/2　浅黄橙色砂質土10YR8/3を含む
4.青灰色土2.5BG6/1　粘質土、マンガンの沈着あり
5.灰白色土2.5Y7/1　砂質土

17次SP88

1.浅黄橙色土10YR8/4　炭をわずかに含む
2.にぶい黄橙色土10YR6/3　炭を含む
3.黒褐色土10YR3/2　粘質土
4.灰黄褐色土10YR5/2
5.浅黄橙色土10YR8/4　炭をわずかに含む
6.灰黄褐色土10YR4/2
7.褐灰色土10YR4/1　粘質土



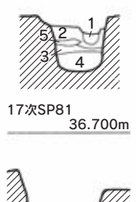


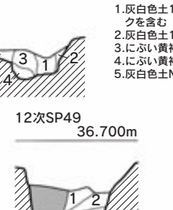
17次SP123

1.灰白色土10YR8/1　粘質土（柱痕埋土）
2.にぶい黄橙色土10YR7/4　炭を含む
3.にぶい黄橙色土10YR7/3　炭を含む
4.灰黄褐色土10YR4/2　粘質土、炭を含む
5.浅黄橙色土10YR8/4　砂質土、細かな裏込め埋土の単位わかる

17次SP124

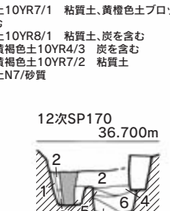
1.灰白色土10YR7/1　粘質土、黄橙色土ブロックを含む
2.灰白色土10YR8/1　粘質土、炭を含む
3.にぶい黄褐色土10YR4/3　炭を含む
4.にぶい黄褐色土10YR7/2　粘質土
5.灰白色土N7/砂質





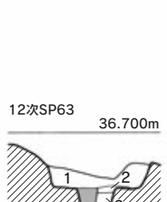
12次SP49

1.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む
2.にぶい黄褐色土10YR5/4　褐色土10YR4/4を含む
3.暗褐色土7.5YR5/6



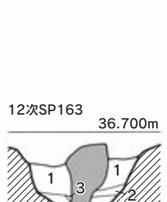
12次SP170

1.黄褐色土10YR5/6　（地山）
2.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む（裏込め）
3.黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4を含む（裏込め）
4.なし
5.黄褐色土10YR5/6　にぶい黄橙10YR6/4を含む
6.褐色土10YR4/6　褐色土10YR4/4を含む
7.黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4を含む



12次SP63

1.明黄褐色土10YR6/6　黄褐色土10YR5/6を含む
2.にぶい黄褐色土10YR5/4
3.黄褐色土10YR5/6　にぶい黄褐色土10YR5/6を含む
4.黄褐色土10YR5/8

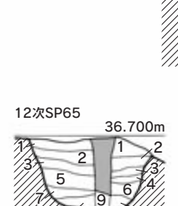


12次SP163

1.黄褐色土10YR5/6　にぶい黄橙色土10YR6/4を含む
2.黄褐色土10YR5/6
3.にぶい黄褐色土10YR5/4　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む

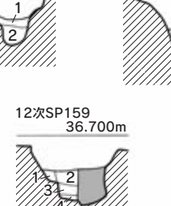
12次SP85

1.明黄褐色土10YR6/6
2.にぶい黄橙色土10YR6/4



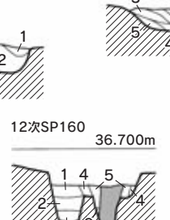
12次SP65

1.黄褐色土10YR5/6
2.黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4をブロック状に含む
3.黄褐色土10YR5/6　黄褐色土10YR5/8・にぶい黄褐色土10YR5/4を含む
4.黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4をブロック状に含む
5.明褐色土7.5YR5/6　黄褐色土10YR6/6をブロック状に含む
6.黄褐色土10YR5/8　褐色土10YR4/4を含む
7.明褐色土7.5YR5/6　にぶい黄橙色土10YR6/3を含む
8.明褐色土7.5YR5/8　粘性あり、褐色土10YR4/4含む（掘りすぎか？）
9.褐色土10YR4/4　柱痕の掘り残し
10.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6を含む（掘りすぎか？）



12次SP159

1.黄褐色土10YR5/6
2.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む（裏込め）
3.にぶい黄褐色土10YR5/4　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む（裏込め）
4.褐色土10YR4/4　（掘りすぎ）

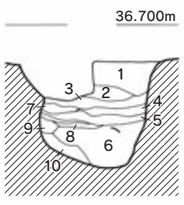


12次SP160

1.明黄褐色土10YR6/6　褐色土10YR4/6・黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む（ビット）
2.明黄褐色土10YR6/6　褐色土10YR4/6・褐色土10YR4/4をブロック状に含む（ビット）
3.黄褐色土10YR5/6　褐色土10YR4/4をブロック状に含む（ビット）
4.明黄褐色土10YR6/6
5.褐色土10YR4/4　黄褐色土10YR5/6をブロック状に含む
6.褐色土10YR4/4

12次SP89

1.にぶい黄橙色土10YR6/3
2.灰白色土10YR8/2　砂質
3.灰黄褐色土10YR4/2
4.にぶい黄橙色土10YR7/3
5.灰黄褐色土10YR4/2
6.黄灰色土2.5Y4/1　粘性あり
7.にぶい黄橙色土10YR7/3
8.にぶい黄褐色土10YR4/3
9.褐色土10YR4/4
10.褐色土10YR4/4　炭を含む
11.灰黄褐色土10YR4/2
12.灰黄褐色土10YR5/2
13.浅黄褐色土10YR8/4　砂質



17次SP84

1.灰黄色土2.5Y7/2　やや粘質、黄橙色土7.5YR7/8をブロック状に含む

17次SP81

1.にぶい黄褐色土　10YR5/4

第115図　12・17次SD04柱穴土層実測図（1／60）

円礫（758・759）　石材は泥岩である。

鉄滓（760）　表面は凹凸が著しい。

ＳＰ65

柱痕から遺物は出土しなかった。

須恵器（761）　高杯である。口縁部は直立し、杯部底部外面は回転ヘラケズリを施す。

ＳＰ70

掘方から須恵器・土師器・円礫など、柱痕から須恵器が出土した。ここに図示したものは、いずれも掘方から出土した。

須恵器（762～765）　762は杯Ｈ蓋である。763・764は杯Ｈ身である。765は杯Ｂ身で、口縁部がごくわずかに外反する。

円礫（766）　石材は泥岩である。

ＳＰ161

767は掘方から出土した。柱痕からは須恵器・土師器が出土したが小片のため図示しえなかった。

鉄滓（767）　塊状を呈する。

ＳＰ169

ここに図示した772は柱痕、それ以外は掘方から出土した。

須恵器（768）　杯Ｂ蓋である。口縁端部は折り曲げられ、天井部外面は回転ヘラケズリを施されている。

円礫（769～772）　771の石材は、石英である。他は、砂岩である。

ＳＰ172

773は掘方から出土した。柱痕からは土師器が出土したが小片のため図示しえなかった。

須恵器（773）　杯Ｂ蓋である。天井部は平坦で、かえりを持つ。天井部外面は回転ヘラ切りのままで、「｜」のヘラ記号が施されているが、破片であるため、本来の種類は不明である。

土師器（774）　甕である。体部は直線的でやや開き、口縁部は強く外反する。

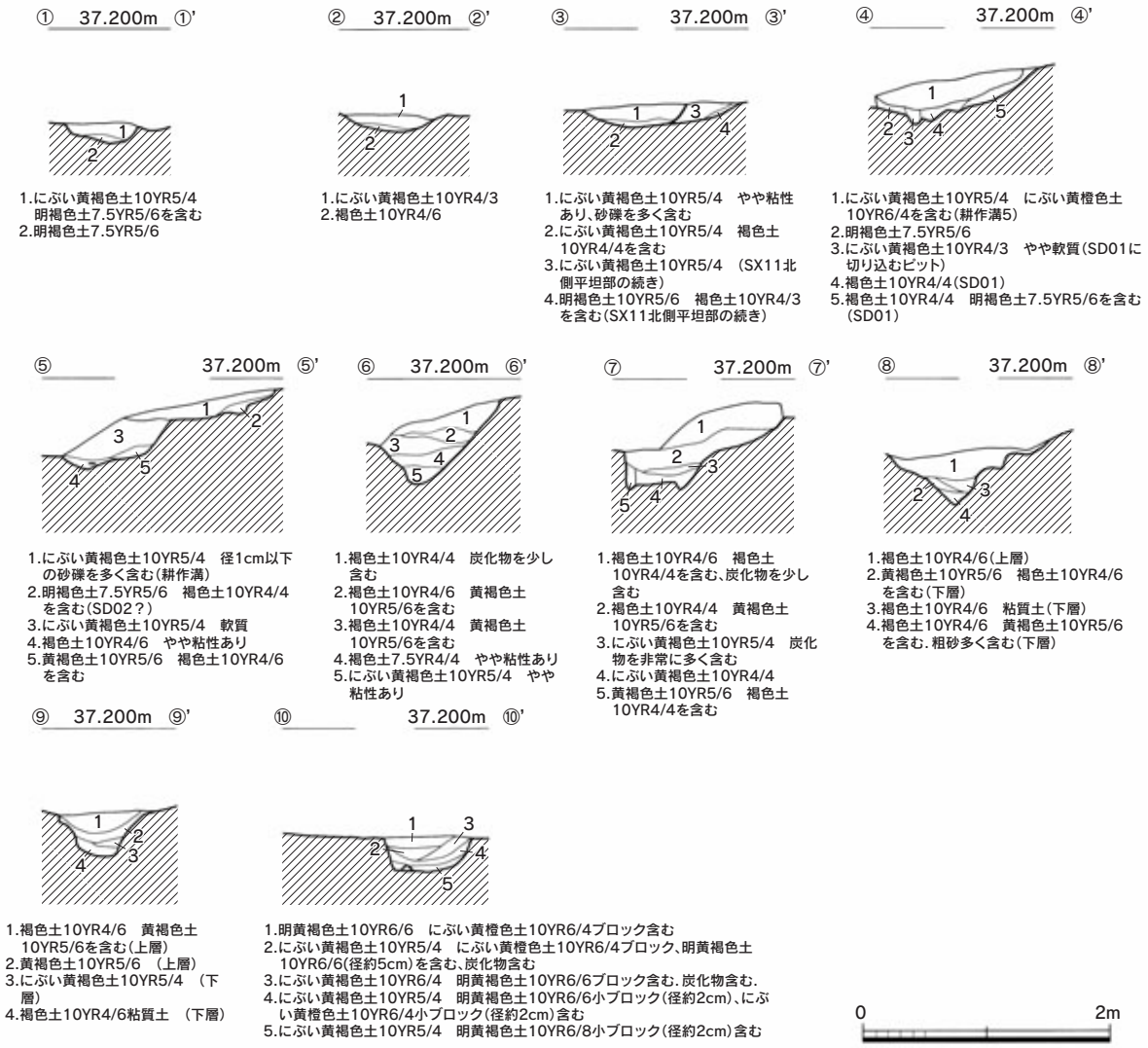
検出時

須恵器（775・776）　775は杯Ｂ蓋で、口縁端部は折り曲げられる。天井部外面は回転ヘラ切り後回転ナデが施される。776は杯Ｈ身で、口縁部と受部は小さい。

ⅱ）溝状遺構

ＳＤ01（第116図・図版32）

２区中央付近に位置し、調査区東壁よりの所で検出された。ＳＸ11を切り、西辺は現代の耕作溝に切られている。平面形は隅丸の「コ」字形を呈し、西側の一部から北側の一部にかけてはテラスを有するので、北辺の北西隅部から東へ約３ｍは最も幅が広くなっている。12次調査で検出された規模は南北11.06m×東西6.08m、17次調査で検出された部分も合わせると、東西7.09mを測る。幅は北辺0.80～1.98m、西辺0.85～1.40m、南辺0.65～0.88mを測る。断面形は各箇所によって異なるが、西辺は浅いＶ字形もしくは逆台形状、南北両辺は浅いU字形もしくは逆台形状を呈す。深さは溝外側肩部～底部まで0.70m、溝内側の肩部～底面まで約0.10～0.40m、ＳＢ04の側柱心とＳＤ01心間は

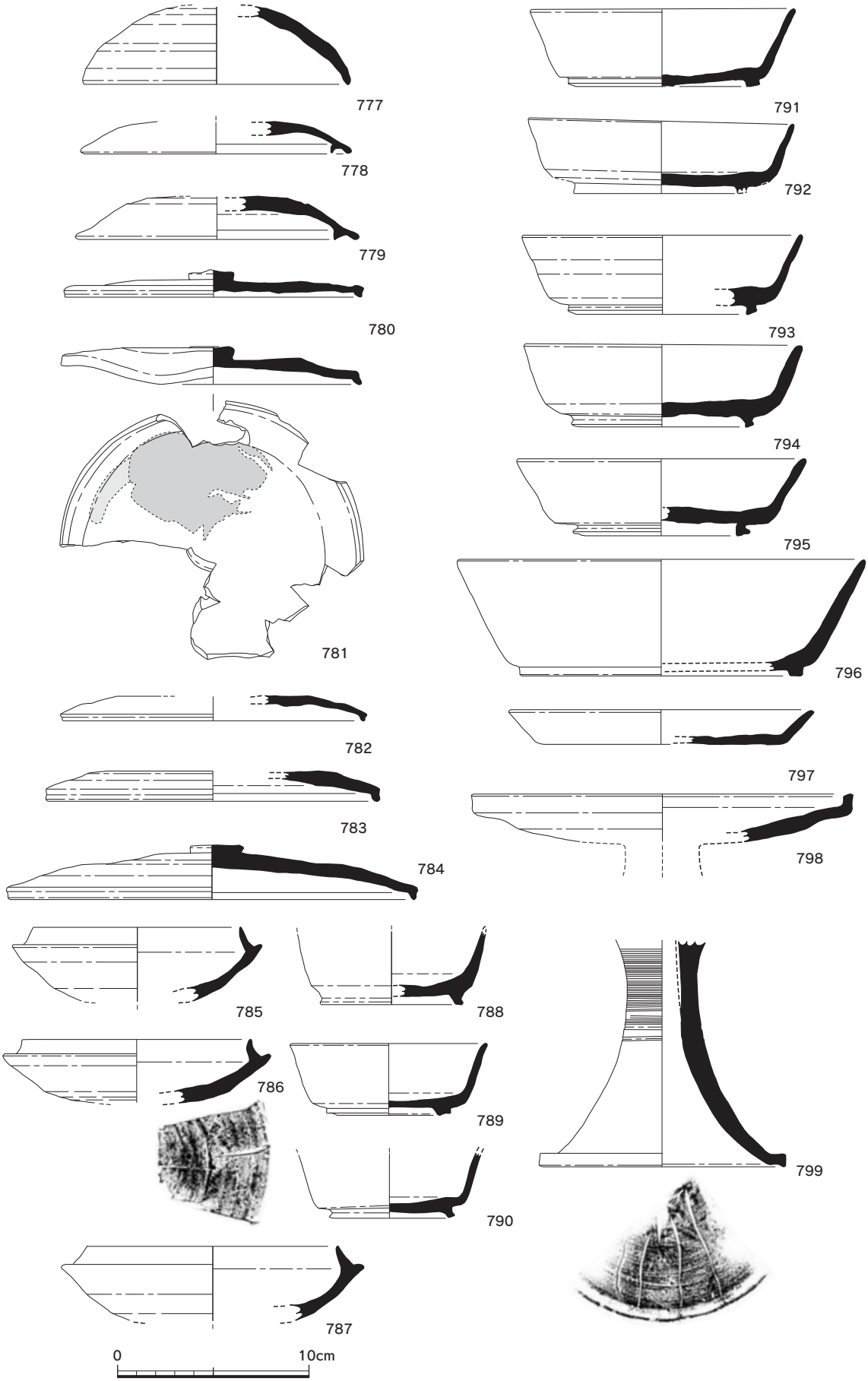


第116図　12・17次ＳＤ01土層実測図（1／60）

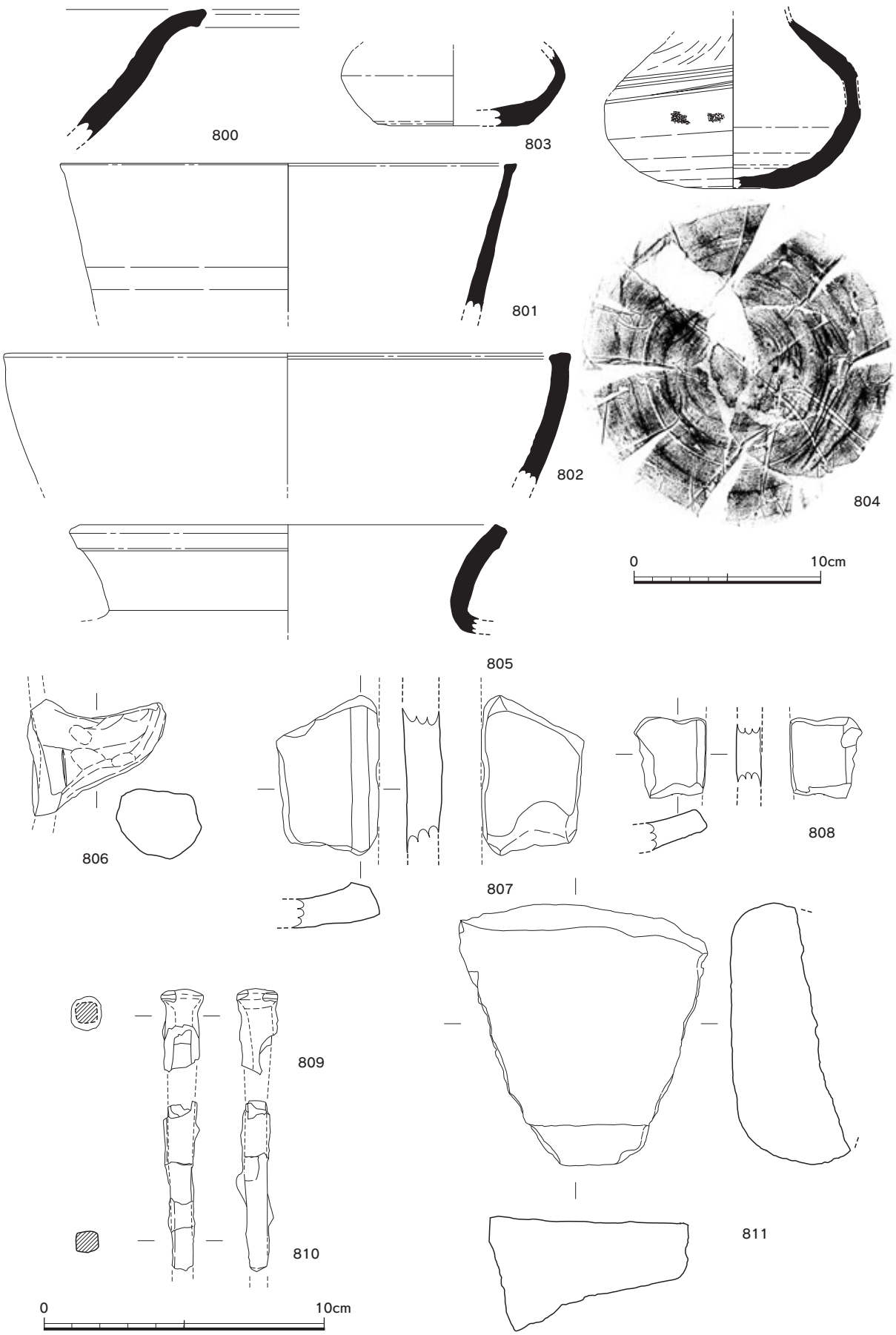
平均約0.8m、ＳＤ01外側肩部までは1.2～1.65mを測る。埋土はにぶい黄褐～褐色を主体とし、掘り直しは認められない。またＳＢ01－５～ＳＤ01－６では、底面上約10cm付近から赤変した埋土と、炭化物が認められた。これらは厚さ数cmで、長さ約2.6mの間で５ヶ所が検出された。ＳＤ01はＳＢ04に沿うような配置であることから、雨落ち溝もしくは区画する意図があったと考えられる。遺物は須恵器・土師器・平瓦・鉄製品・鉄滓・円礫・礫などが出土した。

出土遺物（第117～119図・図版79～81）

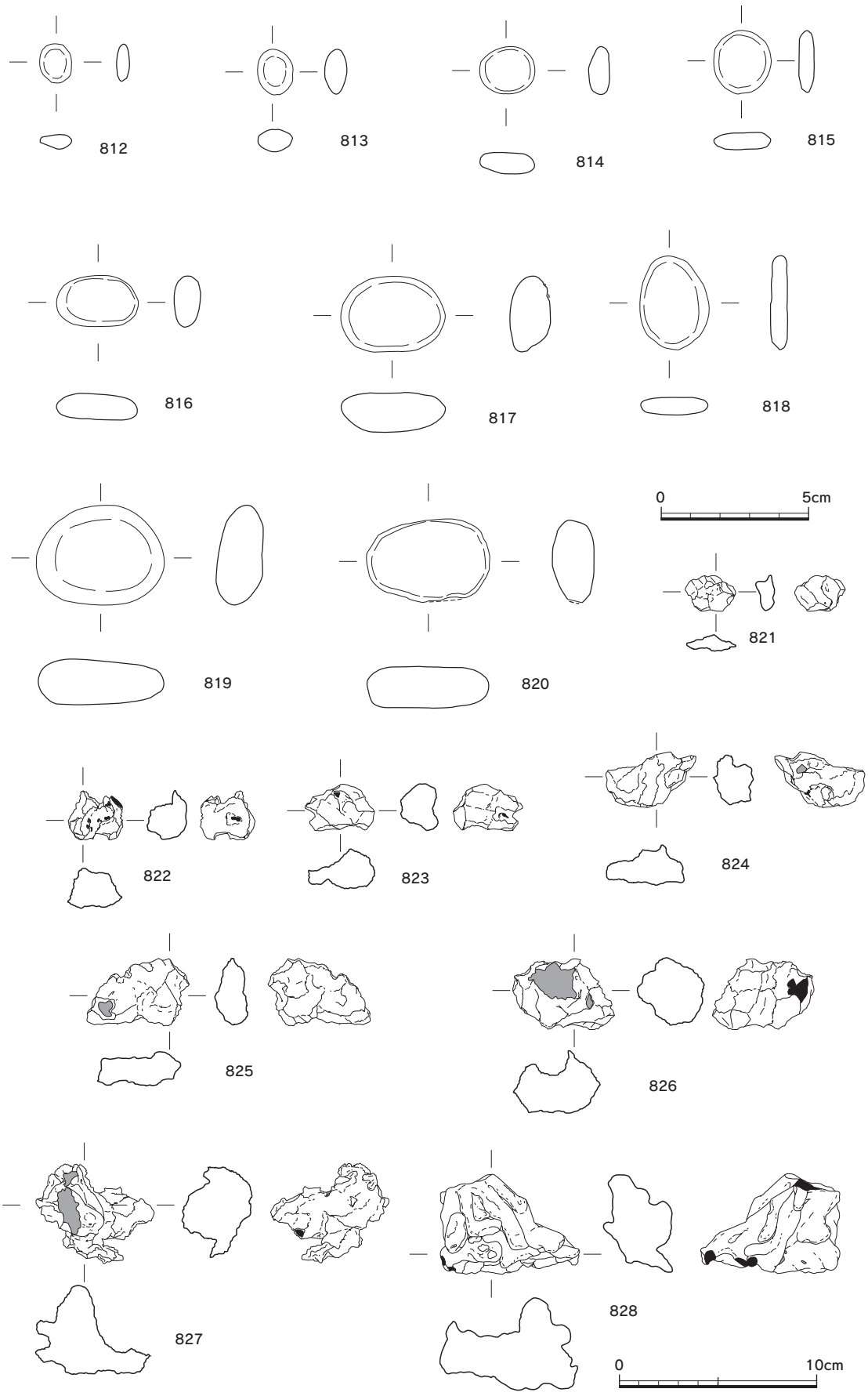
須恵器（777～805）　777は杯Ｈ蓋で、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。778～784は杯Ｂ蓋である。778・779の口縁部にはかえりが付き、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。780～784の口縁部は折り曲げ、天井部外面は、780は回転ナデ、他は回転ヘラ切りである。781の内面には赤色顔料が広く付着している。内面があまり摩滅したような痕跡は認められないので、転用硯というよりは、パレットの様に使用したようである。785～787は杯Ｈ身で、底部外面は回転ヘラケズリが施される。787は小片のため復元径にやや難がある。788～796は杯Ｂ身である。788～790は小型品で、



第117図　12次ＳＤ01出土遺物実測図①（１／３）



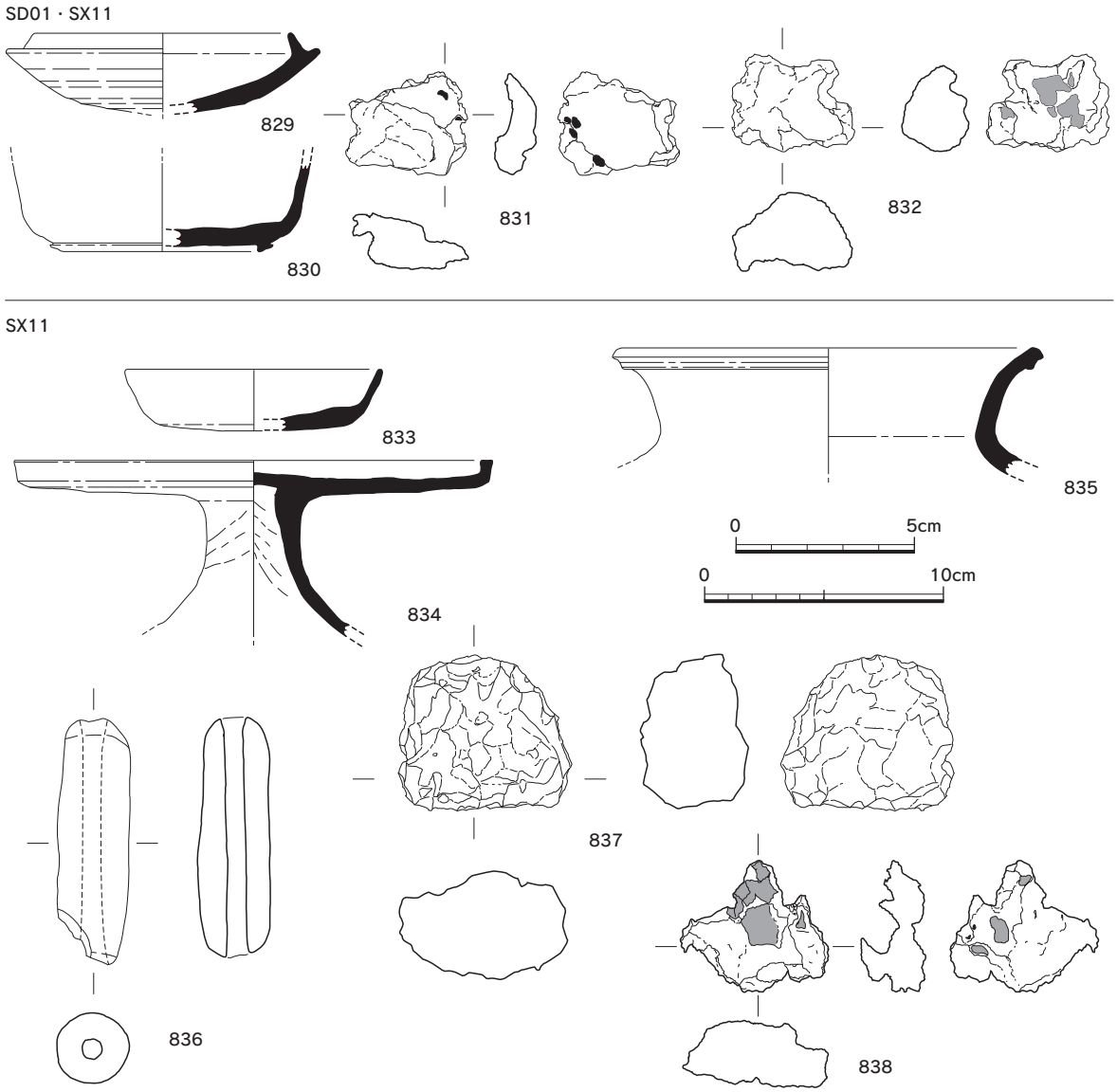
第118図　12次ＳＤ01出土遺物実測図②（809・810は１／２、他は１／３）



第119図　12次ＳＤ01出土遺物実測図③（812～820は１／２、他は１／３）

高台は低く底部外面端のやや内側に貼り付けられる。791～796の体部は浅く、795は体部の開きが大きい。いずれも高台は低く底部外面端から内側に貼り付けられる。797は皿で、底部外面は回転ヘラ切りである。798・799は高杯である。798は口縁部が直立するもので、杯部底部外面は回転ヘラ切りである。799は高杯脚部である。長脚で、外面上位にはカキメ、中位には沈線が二条施されている。800は器台か。体部は開き、口縁端部は外反する。801・802は鉢。801はバケツ形となろう。802は体部上位～口縁部にかけて内湾する。803・804は壺である。803は体部中位で屈曲する算盤玉状を呈する。底部外面は回転ヘラ切りである。804の体部は球形を呈し、頸部にむかって絞られる。体部外面下半～底部外面にかけては回転ヘラケズリ、体部外面中位にはらせん状の沈線が施される。また体部外面中位、沈線の下方には布目痕が３ヶ所認められる。これは製作技法に関わるものではなく、製作時に工人の衣服が接触したためであろう。底部外面にはヘラ記号が認められる。805は甕で、口頸部は短く、頸部外面には施文されない。

土師器（806）　甕もしくは甑の把手である。ナデ調整で仕上げられている。



第120図　12次ＳＤ01・ＳＸ11検出面出土遺物実測図（836は１／２、他は１／３）

瓦（807・808）　いずれも平瓦である。807の側縁部は面取りした後、凹面の端部をさらにナデあげて仕上げている。

鉄製品（809・810）　釘である。809は頭部で810は身部である。断面形は方形を呈する。これらは接点がないため明言はできないが、類似しており同一個体の可能性が考えられる。

礫（811）　花崗岩である。人為的に整形した痕跡は認められないが、外面には被熱痕が認められる。

円礫（812～820）　石材は、812・814・815・818・819は砂岩、813は石英、816・817は泥岩、820は花崗岩である。

鉄滓（821～828）　821～827は塊状を呈する。828は流動滓（製錬滓）である。

ＳＤ01・ＳＸ11検出時出土遺物（第120図・図版81）

須恵器（829・830）　829は杯Ｈ身である。器高は低く、底部外面は回転ヘラケズリが施される。830は杯Ｂ身である。体部と底部の境は丸みを持ち、高台は低く底部外面端よりも内側に貼り付けられている。

鉄滓（831・832）　831は椀形滓である。

ＳＤ02（第121図・図版33）

２区中央付近、ＳＢ04の北側に位置する。長さ5.25m、幅1.32m、幅は均一ではなく、北側にテラスを有する。検出面から底面までは最も深いところで0.19mと比較的浅いものである。また底面にピットを３個有する。ピットは南側から0.35×0.37m、0.40×0.28m、0.47×0.35m、深さは溝底面から0.11～0.13mと浅いものである。底面中央のピットから、滑石製の臼玉が１点出土した。ほかに須恵器・土師器・平瓦・滑石製品・鉄滓などが出土した。

出土遺物（第122図・図版81・82）

須恵器（839～845）　839・840は杯Ｂ蓋である。839はかえりを持ち、840は器高が低く、口縁部は折り曲げられ断面三角形を呈す。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。841は杯である。底部と体部の境は丸く、体部外面中位に沈線二条が施される。842～844は杯Ｂ身である。842の高台は高く、外方に開き、底部外面端よりも内側に貼り付けられる。843・844はいずれも体部は直線的に開き、高台は低く内端部のみが接地している。また高台は底部外面端より内側に貼り付けられる。845は高杯脚裾部で、端部は折り曲げられる。

土師器（846）　椀底部片である。高台部は高く、外方へ開く。

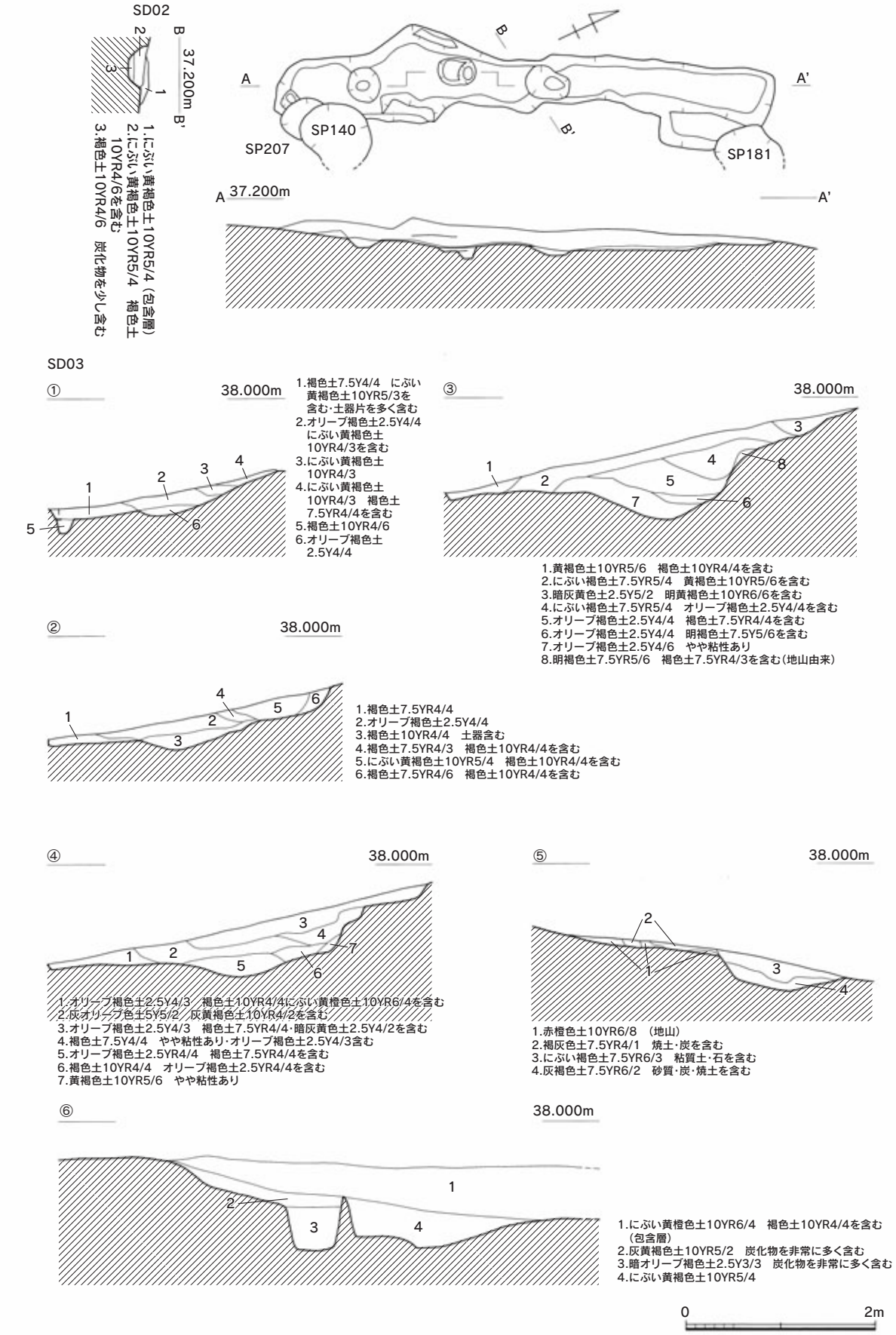
瓦（847・848）　いずれも平瓦である。凸面はいずれも平行タタキで、848の凹面には当て具痕が認められる。

石製品（849・850）　849は滑石製臼玉である。仕上げは粗く、平面形は円形ではなく、七角形を呈す。厚さは不均一で、断面形をみると上面が斜めになっている。850は滑石製品で、その用途は不明である。一面は一方向に長辺方向に、もう一方の面は一部を研磨した痕跡が認められる。また前者の面には線刻らしきものが認められるが、何を示しているかは不明である。

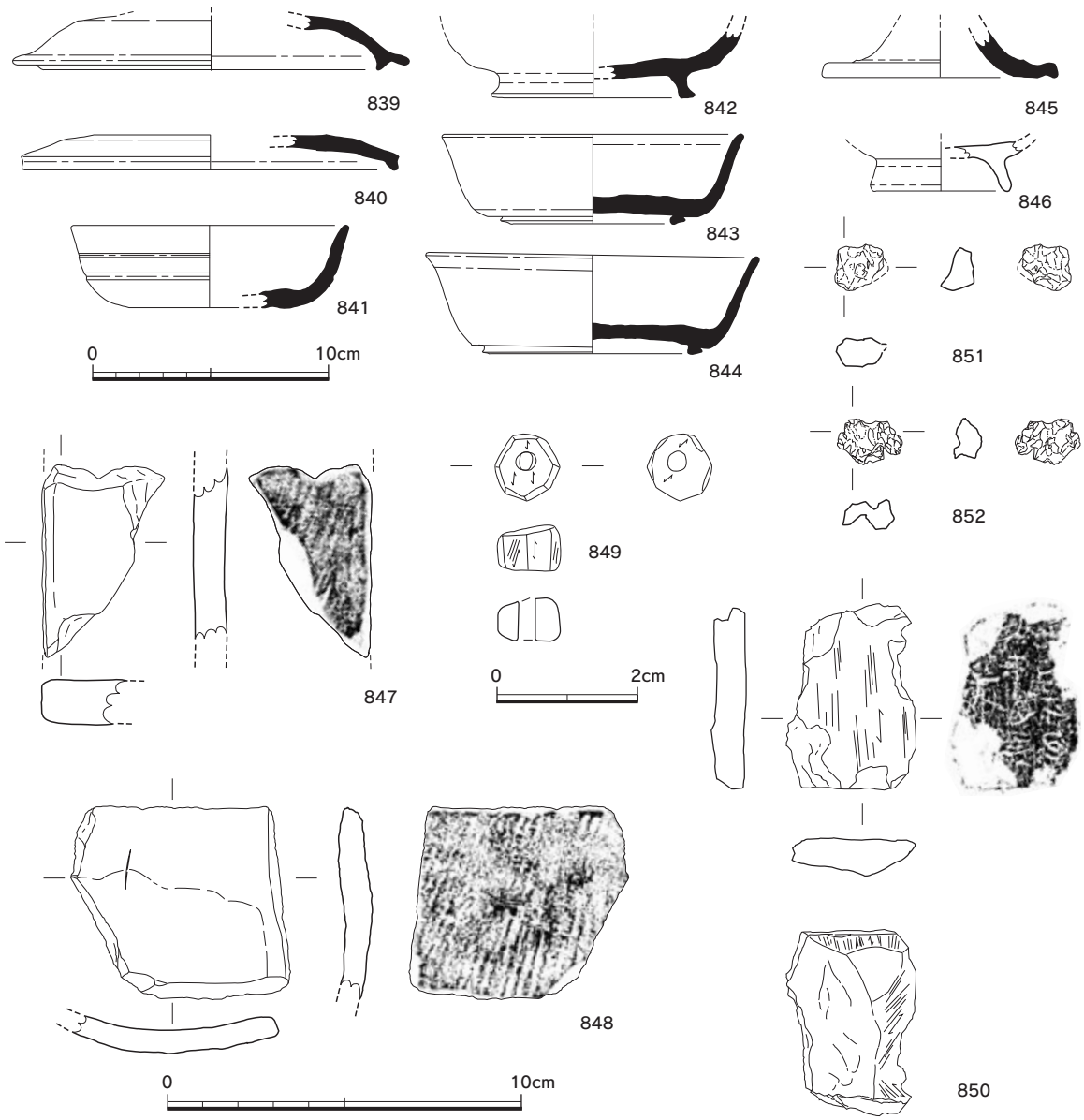
鉄滓（851・852）　いずれも小さな塊状を呈する。

ＳＤ03（第121図・図版34）

２区ＳＤ02北東から直線状に伸び、調査区北東隅で弧を描いて、本堂17次調査地へと続く。溝の



第121図　12次ＳＤ02・ＳＤ02土層・12・17次ＳＤ03土層実測図（１／60）

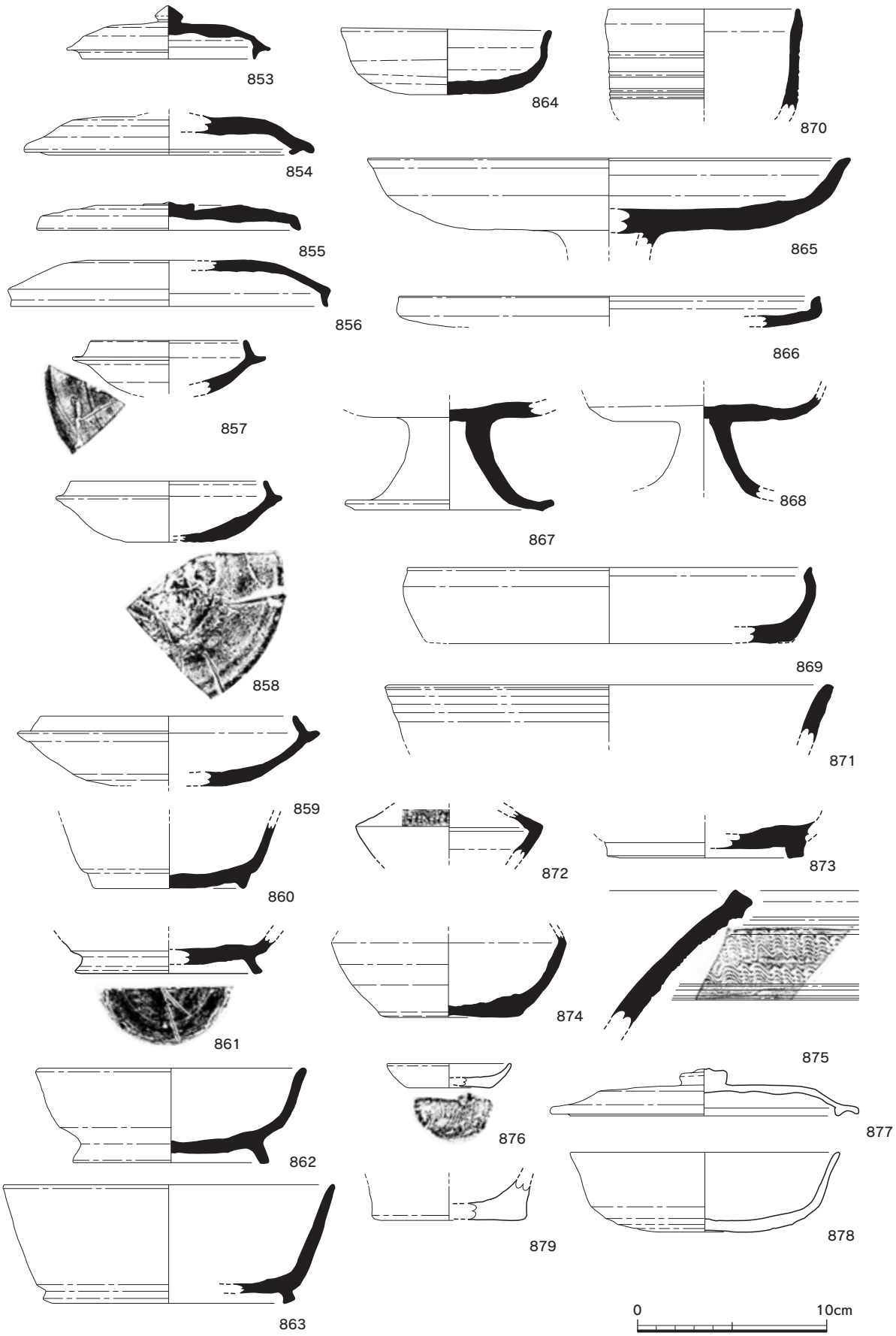


第122図　12次ＳＤ02出土遺物実測図（849は１／１、850は１／２、他は１／３）

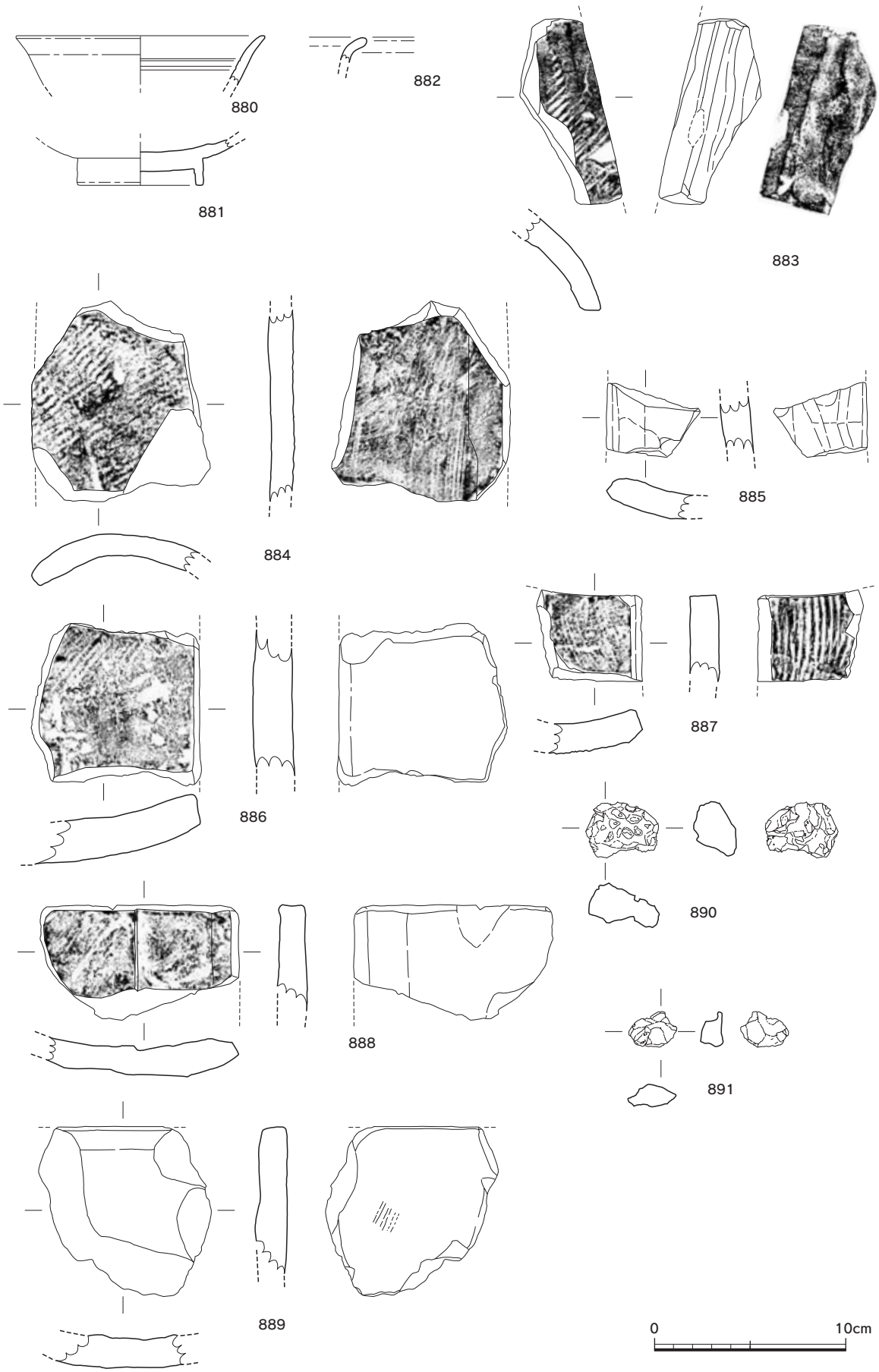
西側はテラス状を呈する。長さは15.50m、検出面幅は約1.6～3.22m、底面幅は約0.2～0.55m、深さは約0.5～0.9mを測る。底面は若干北側へと傾斜している。埋土は斜面上方からの流土により自然に埋没していった状況が伺われ、掘り直しは認められない。須恵器・土師器・弥生土器・瓦器・平瓦・白磁・鉄滓などが出土した。

出土遺物（第123・124図・図版82・83）

須恵器（853～875）　853は杯G蓋である。器高は低く、かえりを持ち、宝珠形のつまみを貼付ける。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。854～856は杯Ｂ蓋である。854はかえりを持ち、天井部外面は回転ナデを施す。855・856の口縁部は折り曲げられ、天井部外面は、855は回転ナデ、856は回転ヘラケズリが施される。857～859は杯Ｈ身である。底部外面は、857・859は回転ヘラケズリ、858は回転ヘラ切りである。857・858はヘラ記号が認められる。860～863は杯Ｂ身である。高台は、860は低く、861・862は高い。864は杯である。底部と体部の境は丸く、口縁部はわずかに外反する。865～868は高杯である。865の杯部底部と体部の境は丸く、体部～口縁部は開く。866の口縁部は直



第123図　12次ＳＤ03出土遺物実測図①（１／３）



第124図　12次ＳＤ03出土遺物実測図②（1／3）

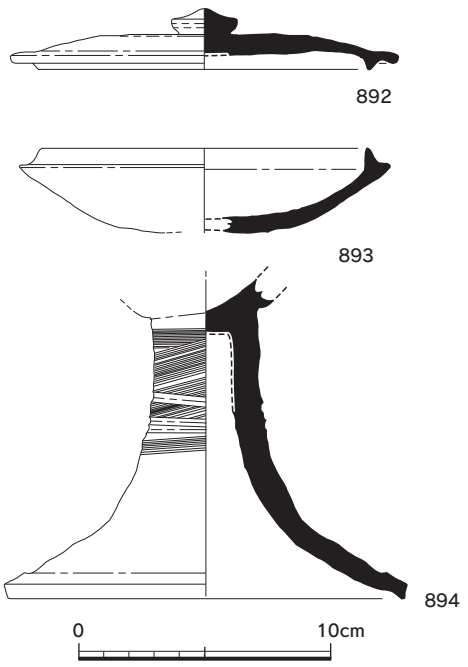
角に折り曲げられ、杯部底部外面は回転ナデ調整である。867・868は高杯脚部である。867は短く、基部は太い。脚裾端部は反っている。868は低脚の高杯となろう。869は盤である。平底で体部は開き、口縁部下で緩やかに内湾するが口縁端部は小さく外反する。底部外面は回転ヘラケズリが施される。870は椀で、体部はほぼ直立し、口縁部は細く終わっている。体部外面中位に沈線が四条認められ、そのうち二条は接する。871は鉢である。器形はバケツ形となろう。872は平瓶もしくは壺であろうか。肩部下で強く屈曲し、肩部外面には格子目タタキ、体部外面は回転ヘラケズリが施される。873は壺か。平底を呈し、体部外面は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切りである。874は壺の底部であろうか？器壁は厚く、高台は太く短い。875は甕口縁片である。口縁部直下外面とその３cmほど下の頸部外面に二条一組の沈線が２組施され、その沈線間に波状文を上下２段に施す。

土師器（876～878）　876は小皿で、底部外面は回転糸切りである。877は杯蓋である。器高は低く、かえりを持つ。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。878は杯である。底部と体部の境は丸い。

弥生土器（879）　甕底部である。器表が摩滅しており不鮮明であるが、体部外面には縦位のハケメが施されることが分かる。

磁器（880～882）　880・881は白磁椀である。880の口縁部はわずかに外反し、体部内面に沈線が二条施されている。太宰府分類Ⅴ－2a類か。881の高台部は高く、高台内部はケズリ出しによる。太宰府分類Ⅴ類であろうか。釉はごく薄い。882は龍泉窯系青磁椀口縁片で、口縁部は強く外反する。小片のため判然としないが、太宰府分類Ⅲ類であろうか。釉は比較的分厚く施される。

瓦（883～889）　883・884は丸瓦である。いずれも凸面は平行タタキが施され、凹面には布目痕が認められる。884の凹面はハケメ様の痕跡が認められる。885～889は平瓦である。凸面は、885は長軸方向のヘラケズリ、887～889は平行タタキ、889はナデが施されている。凹面は、885は器表が摩滅しているため判然としないが、布目痕がうっすらと認められるようである。886はナデにより仕上げられるか？888は布目痕と模骨痕が認められる。889は器表が摩滅しているため調整は不明である。



第125図　12次ＳＤ04出土遺物実測図（１／３）

鉄滓（890・891）　いずれも塊状を呈する。表面の凹凸は著しい。

ＳＤ04（第115図）

２区中央からやや南側のＳＤ01内、ＳＰ170の南に位置する。長さは短く、深さはごく浅いものである。遺物は須恵器・土師器が出土した。

出土遺物（第125図）

須恵器（892～894）　892は杯Ｂ蓋である。扁平で、口縁部にはかえりを持ち、つまみは山形を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリである。893は杯Ｈ身である。体部は浅く、口縁部の立ち上がりは低い。焼成は不良である。894は高杯脚部である。器高は高く、脚裾部は大きく開き、脚裾端部は折り曲げられる。脚部外面の上位から中位にかけてカキメが

施され、その後中位よりやや上方に沈線が２条施されている。

ⅲ）土坑

ＳＸ09（第126図・図版35）

１区北側に位置し、東側をＳＸ25、西側をＳＸ29に切られる。検出面で長軸1.49m、短軸1.14m、底面は長軸1.12m、短軸0.88m、検出面～底面までは最も深い部分で0.23mを測る。埋土の上層は炭化物をわずかに含む。底面から須恵器が出土し、他に土師器・弥生土器が出土した。

出土遺物（第127図・図版83）

須恵器（895～899）　895・896は杯Ｈ蓋である。895の口縁部はほぼ直立するものである。896の天井部外面は回転ナデが強く施されており、一見沈線状に見えるほどである。897は高杯蓋で、口縁部は直立し、つまみの中央部はくぼむ。天井部外面はカキメが施されている。898は杯Ｈ身である。体部は浅く、底部外面は回転ヘラケズリが施される。杯Ｈ蓋を重ね焼きした痕跡が受部に認められ、同じく杯Ｈ蓋らしき破片が底部外面に釉着している。体部外面は降灰し、その灰が釉状となって流れている方向から、正置の状態で焼成されたことが分かる。またヘラ記号が体部～底部外面にかけて施されるが、杯蓋釉着片に隠れており、その種類は不明である。899は椀である。底部は丸みを帯び、体部～口縁部は少し開くが、口縁端部はごくわずかに内湾する。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面は沈線が２条施される。

ＳＸ10（第126図・図版35）

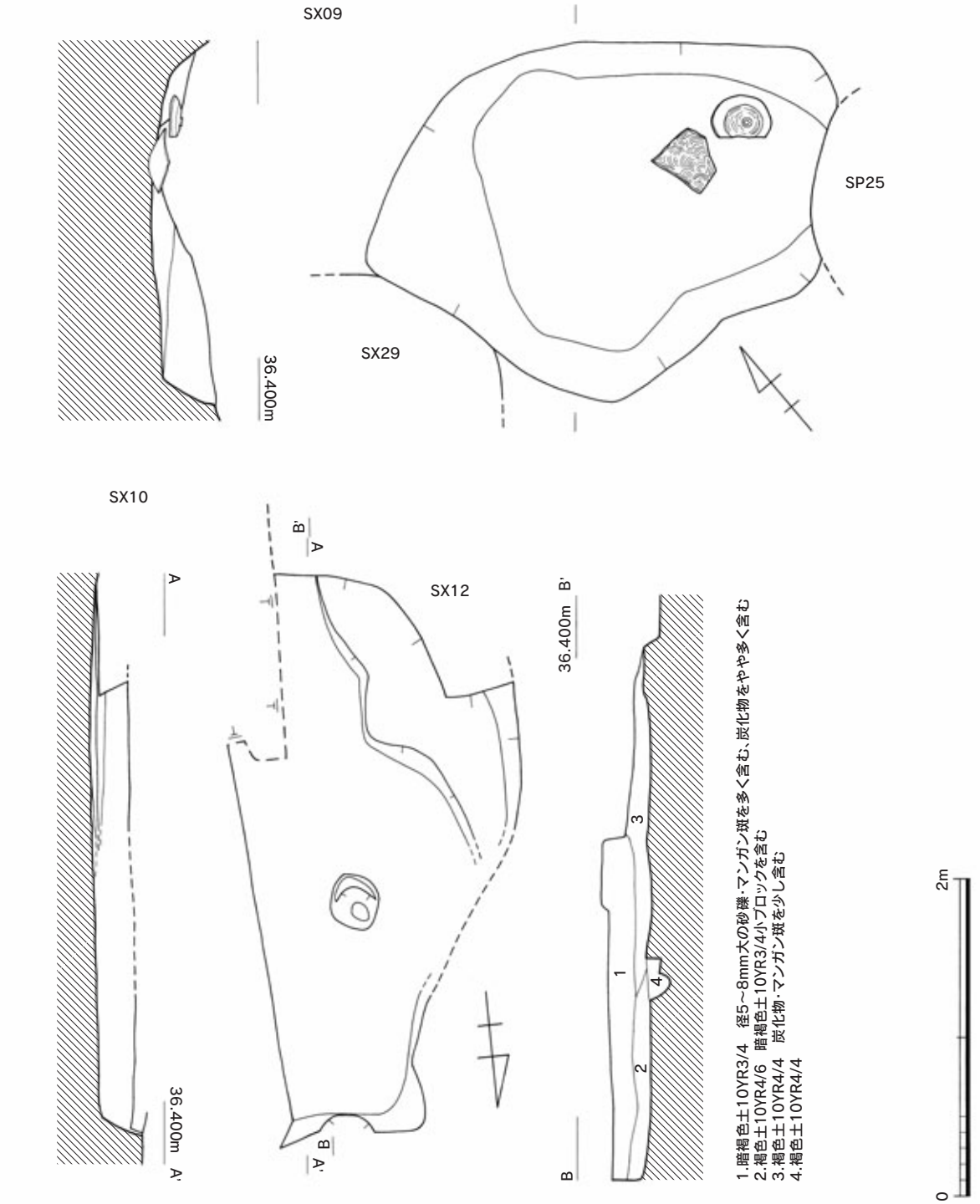
１区中央付近に位置し、ＳＢ02の柱掘方ＳＰ123を切る不整形の掘り込みである。調査区東辺際にかかるため、全体の規模は不明である。検出面で南北3.63m、東西1.85m、底面は南北3.45m、東西1.76m、検出面～底面まで最も深い部分で0.46mを測る。底面は南西側に１～5cmのわずかな段がつき、北側から南側へと下がっている。底面中央付近から30cm×36cmのピット１個、その南東側でＳＰ123が検出された。埋土は上面でマンガンブロックが混じる暗褐色土、その下は暗褐色土のブロック・炭化物とマンガンブロックが混じる褐色土が認められた。プラン検出時は住居跡を想定していたが、底面が傾斜していること、貼床が認められないことなどから住居跡ではないと考える。ＳＸ10はＳＸ12に切られるように検出したが、調査区東辺際に入れたトレンチにより、実際はＳＸ10がＳＸ12を切っている事が判明し、切り合いを逆に調査したことが判明した。遺物は須恵器が少量出土したが、小片のため図示しえなかった。

ＳＸ11（第128図）

１・２区の境に位置し、西側をＳＤ01南辺と調査区際でピットに切られる。調査区際にかかっているため、全体の規模は不明であるが、残存長は東西3.70m、幅は西側0.85mで、一旦0.65mにくびれ、それから東側へと膨らみ、最大1.87m、深さは検出面～底面まで最大0.40mを測る。底面は東へ向かって下がる。遺物は須恵器・土師器・土製品・鉄滓が出土した。

出土遺物（第120図・図版81）

須恵器（833～835）　833は杯である。体部は浅く、底部と体部の境は角張らない。底部外面は回転ヘラ切りである。834は高杯である。口縁部は直立し、杯部底部外面は回転ヘラ切りである。脚部基部は太く、低脚となろう。835は甕である。頸部は短く、頸部外面に文様は認められない。



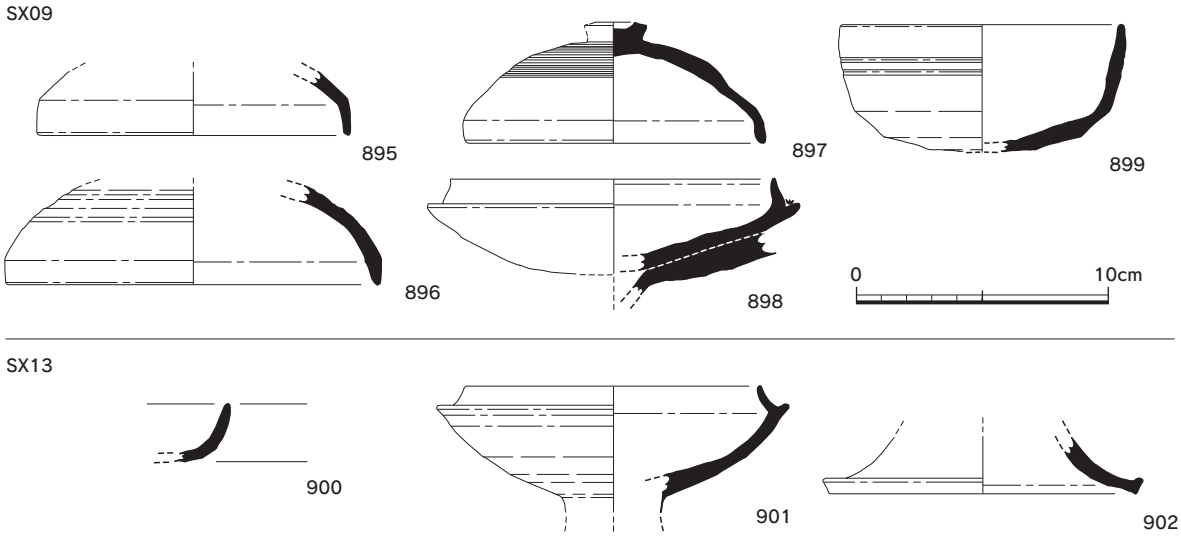
第126図　12次ＳＸ09・10実測図（1／40）

土製品（836）　土師質に焼成された土錘である。径５mm程の孔が体部内部を貫通しており、孔の両端は少し広がっている。

鉄滓（837・838）　837は塊状を呈する。838の表面は、小さな凹凸が著しく、ギザギザとしている。

ＳＸ12（第129図・図版36）

２区中央付近に位置する。10数個のピットに切り込まれている。調査区の東辺にかかっており、北



第127図　12次ＳＸ09・13出土遺物実測図（１／３）

側をＳＸ10に切られるため、全体の規模は不明である。北辺と西辺は直線的、南辺は弧状を呈すという不整形を呈し、検出面で長軸4.16m、短軸3.44m、底面は長軸4.00m、短軸3.30m、検出面～底面まで最大0.45mを測る。底面は東へ向かって下がっている。また、底面東側に長軸1.73m、短軸0.83m、ＳＸ12底面から深さ22cmの掘り込みと、南西隅に25cm×16cm、ＳＸ12の底面からの深さ９cmのピットが１個検出された。この掘り込みはやはり調査区東辺にかかるため全体は不明であるが、東西に長い形態で東側にテラスを有す。埋土は水平堆積している様子がうかがえる。遺物は須恵器・土師器・弥生土器・二次加工が認められる黒曜石の剥片が出土したが、いずれも小片のため図示しえなかった。

ＳＸ13（第130図・図版36）

２区南側、SD01西に位置し、東側をＳＰ195・196・197に切られる。平面形は「L」字形を呈する。東側を現代の耕作溝に削平され、南側は調査区外にあるため、全体は不明であるが、検出面で長軸2.30m、短軸1.20m、底面で長軸2.18m、短軸1.16m、検出面～底面まで最大16.5cmを測る。底面北側では焼土が認められる。焼土は赤色を呈し、中央がくぼんでおり、その厚さは２～９cmである。遺物は須恵器・土師器・焼土塊が出土した。

出土遺物（第127図・図版83）

須恵器（900～902）　900は皿であろうか。体部と底部の境は丸みを持つ。901・902は高杯である。901の杯部底部外面は回転ヘラケズリが施される。902は脚部で、裾部は大きく開くものである。

ⅳ）ピット

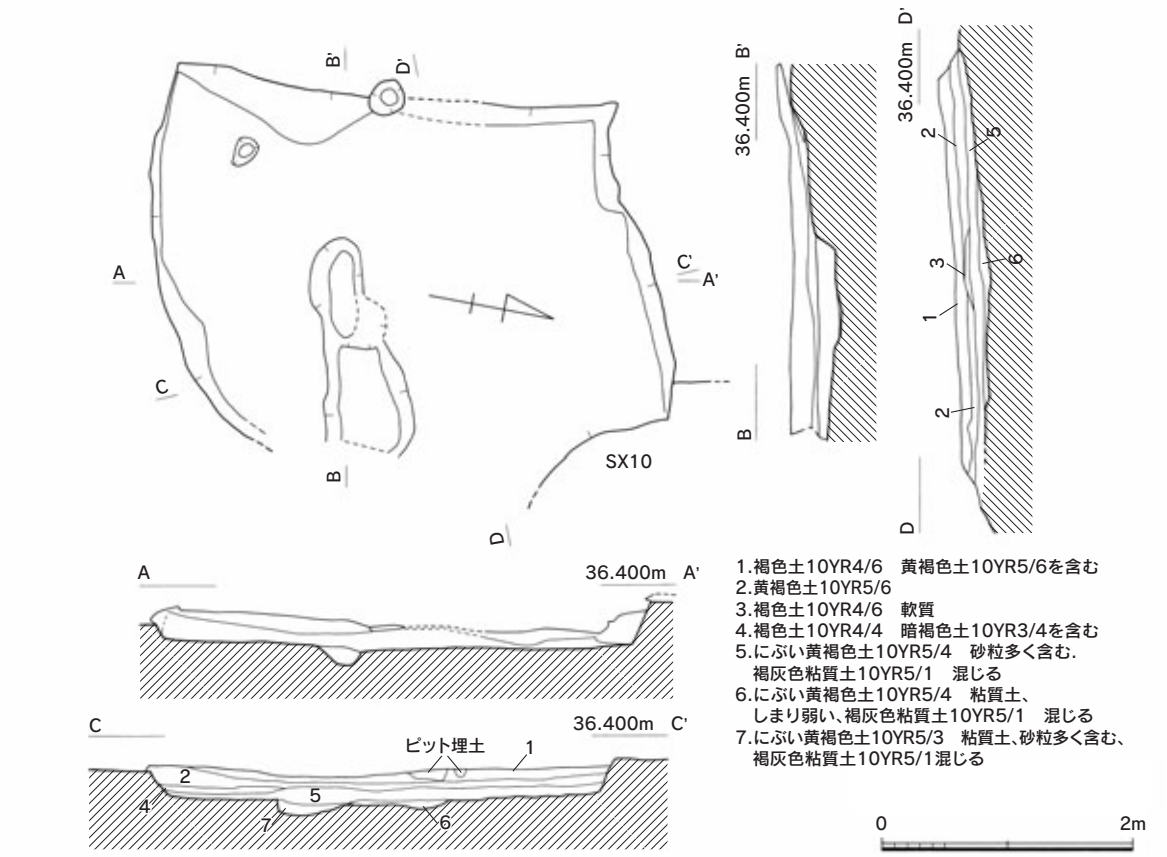
ＳＰ154（第131図）

２区ＳＤ02東側に位置する。検出面で南北0.67m×東西0.66m、深さ0.60mを測る。検出面から数cm下で粘土が広がっていることが確認された。遺物は須恵器・土師器などが出土した。

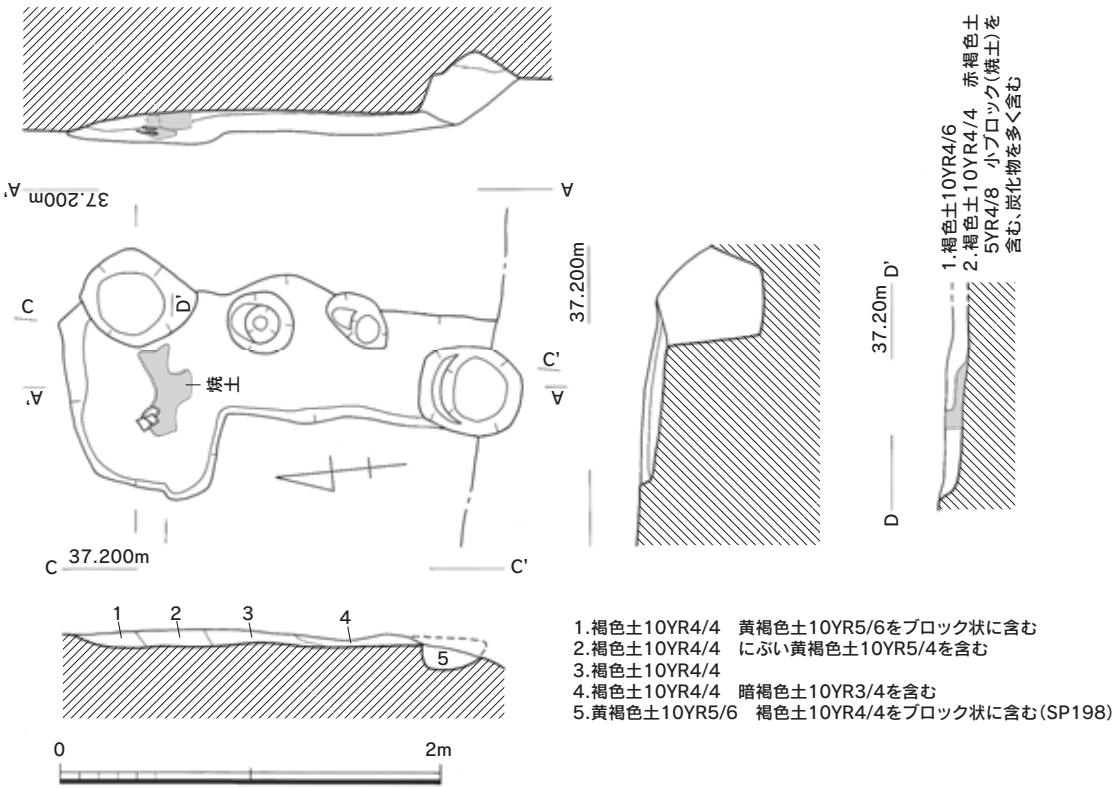
出土遺物（第133図・図版83）

須恵器（928・929）　928は杯Ｈ身で、底部外面はヘラ切りが施される。929は鉢である。平底気味で、体部中位～口縁部にかけてわずかに外反する。底部外面は回転ヘラ切りで、体部外面と底部外面

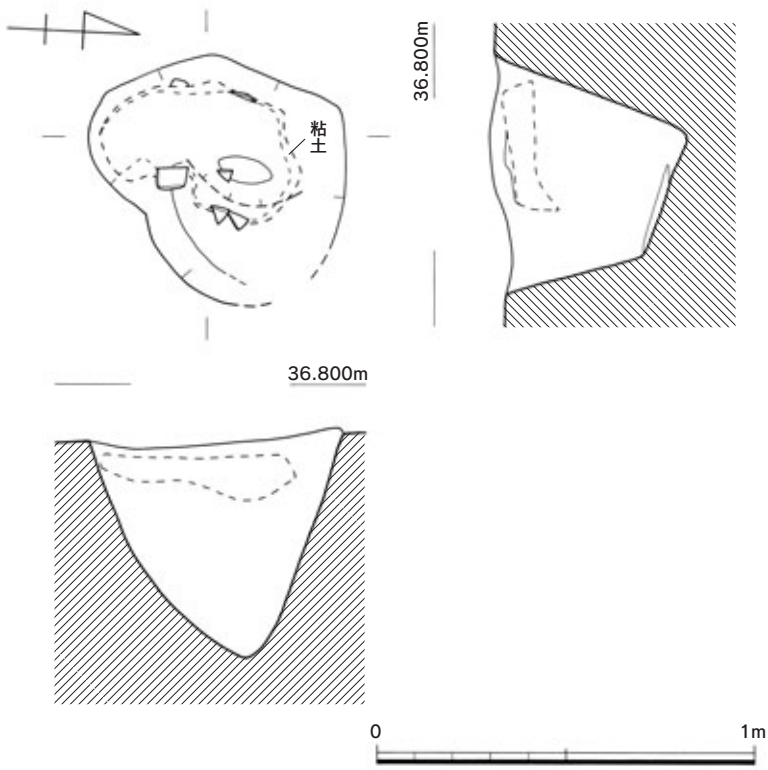
第128図　12次ＳＸ11実測図（1／40）



第129図　12次ＳＸ12実測図（１／60）



第130図　12次ＳＸ13実測図（１／40）



第131図　12次ＳＰ154実測図（１／20）

の境は手持ちヘラケズリを施される。

土師器（930）　甕である。体部外面は縦位のハケメ、体部内面は縦位のヘラケズリが施されている。

ｖ）その他の出土遺物

ＳＰ19（第132図）

須恵器（903・904）　903は杯Ｈ蓋で、器壁は厚い。904は杯Ｈ身で、体部は受部のすぐ下方～底部外面にかけて回転ヘラケズリが施されている。

ＳＰ20（第132図）

須恵器（905）　椀で、底部外面は回転ヘラケズリが施される。底部外面にヘラ記号「｜｜」が認められる。

ＳＰ23（第132図）

須恵器（906・907）　906は杯Ｂ蓋で、口縁端部は折り曲げられる。907は杯Ｂ身である。高台は高く、底部外面端よりも内側に貼り付けられる。

ＳＰ31（第132図）

鉄滓（908）　塊状を呈する。

ＳＰ43（第132図）

須恵器（909）　鉢で、器形はバケツ形を呈するものとなろう。

ＳＰ53・54（第132図）

両ピットを検出中に出土した。

円礫（910）　石材は砂岩である。

ＳＰ55（第132図）

円礫（911）　石材は蛇紋岩である。

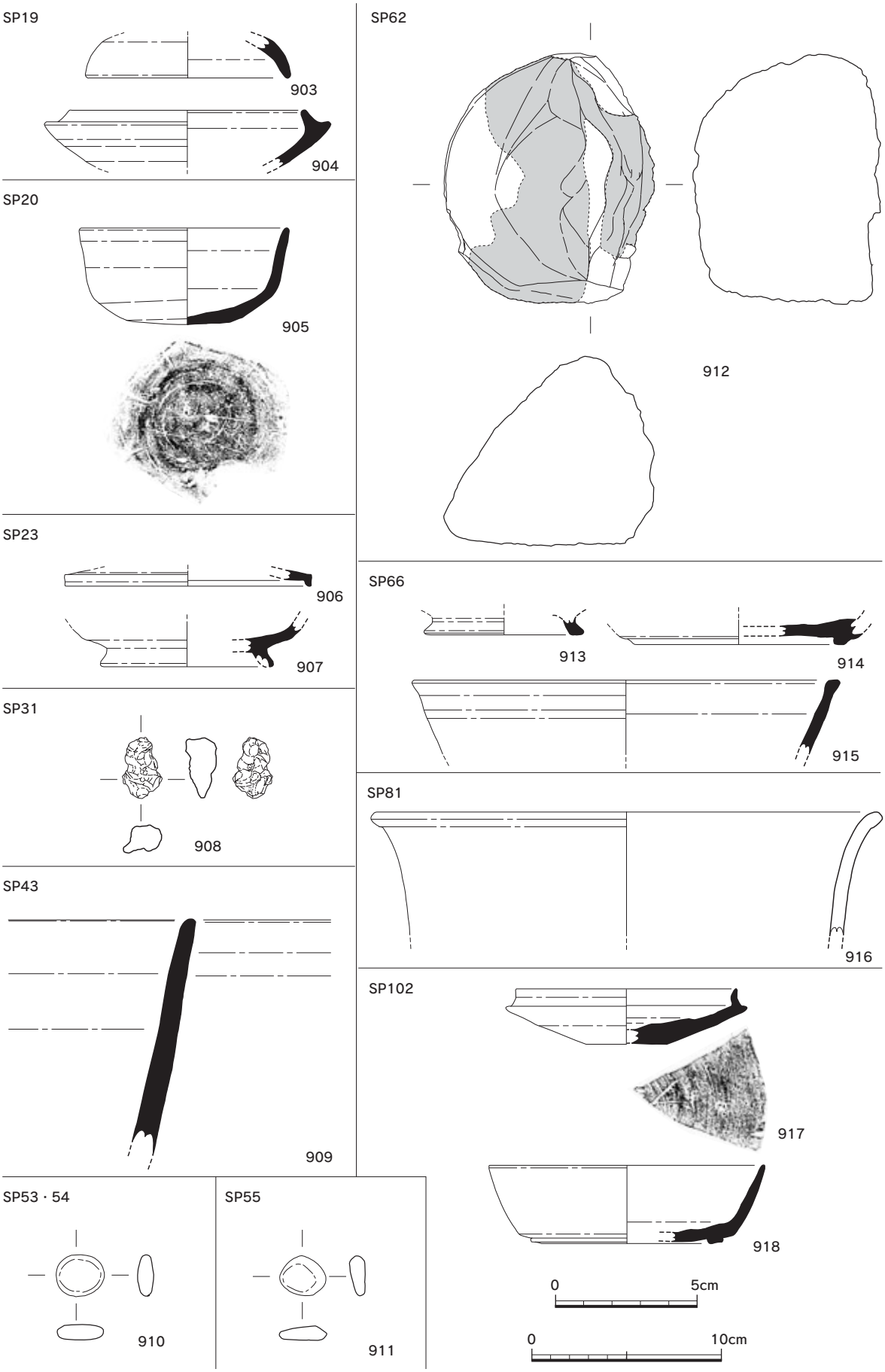
ＳＰ62（第132図）

礫（912）　花崗岩の自然礫である。整形された痕跡などは認められないが、表面が赤変していることから、被熱しているものと考える。

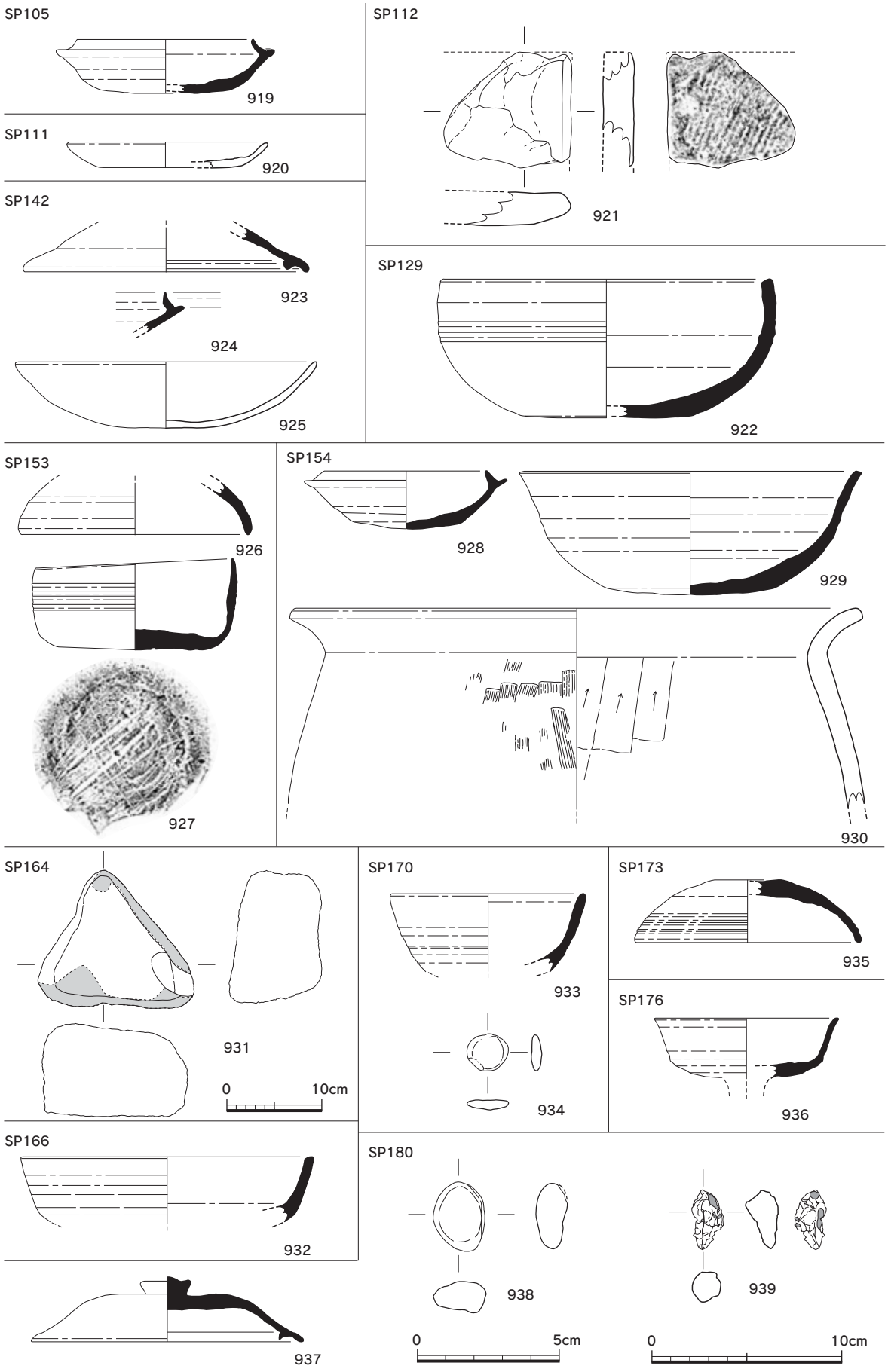
ＳＰ66（第132図）

須恵器（913～915）　913・914は杯Ｂ身で、914の底部外面は回転ヘラケズリが施される。915は鉢で、口縁上端部は回転ナデが施され、平坦となっている。器形はバケツ形となるものであろう。

ＳＰ81（第132図）



第132図　12次第２面ＳＰ出土遺物実測図①（910・911は１／２、他は１／３）



第133図　12次第２面ＳＰ出土遺物実測図②（931・934・938は１／２、他は１／３）

土師器（916）　甑であろうか。体部外面にはススが付着している。

ＳＰ102（第132図）

須恵器（917・918）　917は杯Ｈ身である。体部は浅く、底部外面は回転ヘラケズリ後、ヘラ記号が施されるが、大部分が欠損しているため、その種類は不明である。918は杯Ｂ身で、体部は浅く、高台は低く底部外面端よりも内側に貼り付けられる。

ＳＰ105（第133図）

須恵器（919）　杯Ｈ身で、体部は浅く、底部外面は回転ヘラ切りである。

ＳＰ111（第133図）

土師器（920）　小皿である。全体的に器表が摩滅しており、調整は不明である。

ＳＰ112（第133図）

瓦（921）　平瓦である。凹面は器表摩滅のため調整不明、凸面は平行タタキが施されている。

ＳＰ129（第133図）

須恵器（922）　鉢である。平底で、体部は丸みを持ち、体部中位～口縁部にかけて内湾する。体部外面中位のやや上方に沈線が２条施され、体部外面下位～底部外面は手持ちヘラケズリが施される。

ＳＰ142（第133図）

須恵器（923・924）　923は杯Ｂ蓋で、焼成は不良である。924は杯Ｈ身である。

土師器（925）　丸底杯である。口径は復元径で15.9cmを測る。全体的に器表が摩滅しているため、調整は不明である。

ＳＰ153（第133図）

須恵器（926・927）　926は杯Ｈ蓋である。927は椀で、平底を呈し、底部と体部の境は丸みを持ち、体部～口縁部は直立している。底部外面は回転ヘラ切り後、ヘラ記号、体部外面中位には沈線が４条施されている。

ＳＰ164（第133図・図版84）

礫（931）　花崗岩である。側面が赤変することから、被熱すると考える。これは上下両面には認められない。

ＳＰ166（第133図）

須恵器（932）　杯Ｂ身であろうか。口縁端部は厚く、底部外面は回転ヘラケズリが施される。

ＳＰ170（第133図・図版84）

須恵器（933）　椀である。口径は復元径10.3cmと小型で、体部は回転ナデが施される。

円礫（934）　石材は砂岩で、加工痕などは特に認められない。

ＳＰ173（第133図）

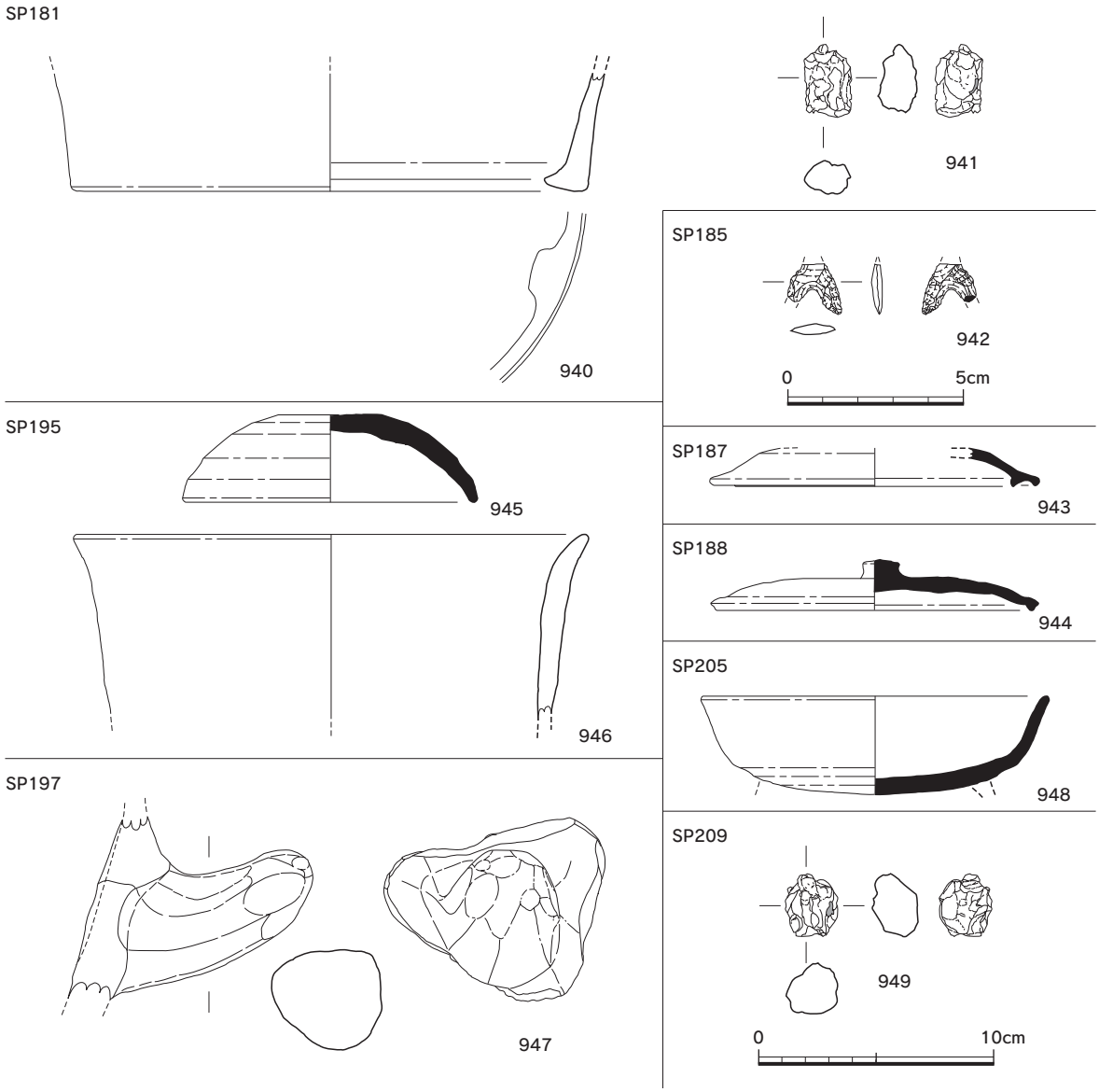
須恵器（935）　杯Ｈ蓋である。天井部は回転ヘラ切りが施されている。

ＳＰ176（第133図）

須恵器（936）　高杯で、脚部は欠損している。

ＳＰ180（第133図・図版84）

須恵器（937）　杯Ｂ蓋で、かえりを持ち、つまみは山形を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリが



第134図　12次第２面ＳＰ出土遺物実測図③（942は１／２、他は１／３）

施される。

円礫（938）　石材は砂岩である。

鉄滓（939）　塊状を呈する。

ＳＰ181（第134図・図版84）

土師器（940）　甑の底部片である。底部は縁辺部に方形状の張り出しが認められるように図示しているが、実際は多孔式のものである。

鉄滓（941）　塊状を呈する。

ＳＰ185（第134図・図版84）

石器（942）　安山岩製打製石鏃で、基部は凹基式である。切先と一方の脚部を欠損している。

ＳＰ187（第134図）

須恵器（943）　杯Ｂ蓋で、口縁部にはかえりを持つ。

ＳＰ205（第134図）

須恵器（944）　杯Ｂ蓋である。口縁部の折り曲げは短く、つまみは小さい。天井部外面は回転ヘラ切り後、回転ナデが施される。また内外面に重ね焼きの痕跡が認められる。

ＳＰ195（第134図）

須恵器（945）　杯Ｈ蓋である。体部は丸みを持ち、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。

土師器（946）　甑である。口縁部はわずかに外反し、頸部はしまりが無い。全体的に器表が摩滅しているが、体部内面にヘラケズリが施されているのがかろうじて認められる。

ＳＰ197（第134図）

土師器（947）　甕もしくは甑の把手である。手づくねにより整形されるが、丁寧にナデて仕上げられる。

ＳＰ205（第134図）

須恵器（948）　杯Ｂ身で、底部と体部の境は丸みを持ち、底部外面に高台が剥落した痕跡が認められる。

ＳＰ209（第134図）

鉄滓（949）　塊状を呈する。

ⅵ）第２面包含層出土遺物

第２面包含層からは多くの遺物が出土した。これらは弥生時代前期～平安時代のもので、６～８世紀代のものが多いが、混在した状態で出土した。なお、調査区内をいくつかの地区に分けて遺物を紹介するが、これは調査時の遺物取り上げ単位である。

ＳＤ02直上包含層（第136図・図版84・85）

須恵器（950～953）　950は杯Ｂ蓋で、口縁部にはかえりを持ち、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。つまみは剥落しており、天井部外面のつまみ剥落部には、らせん状の沈線が施されている。951～953は杯Ｂ身である。951は大型で、高台は底部外面端よりも内側に貼り付けられる。952は小型で体部は浅く、高台はほぼ底部外面端に貼り付けられている。また焼け歪みが著しい。

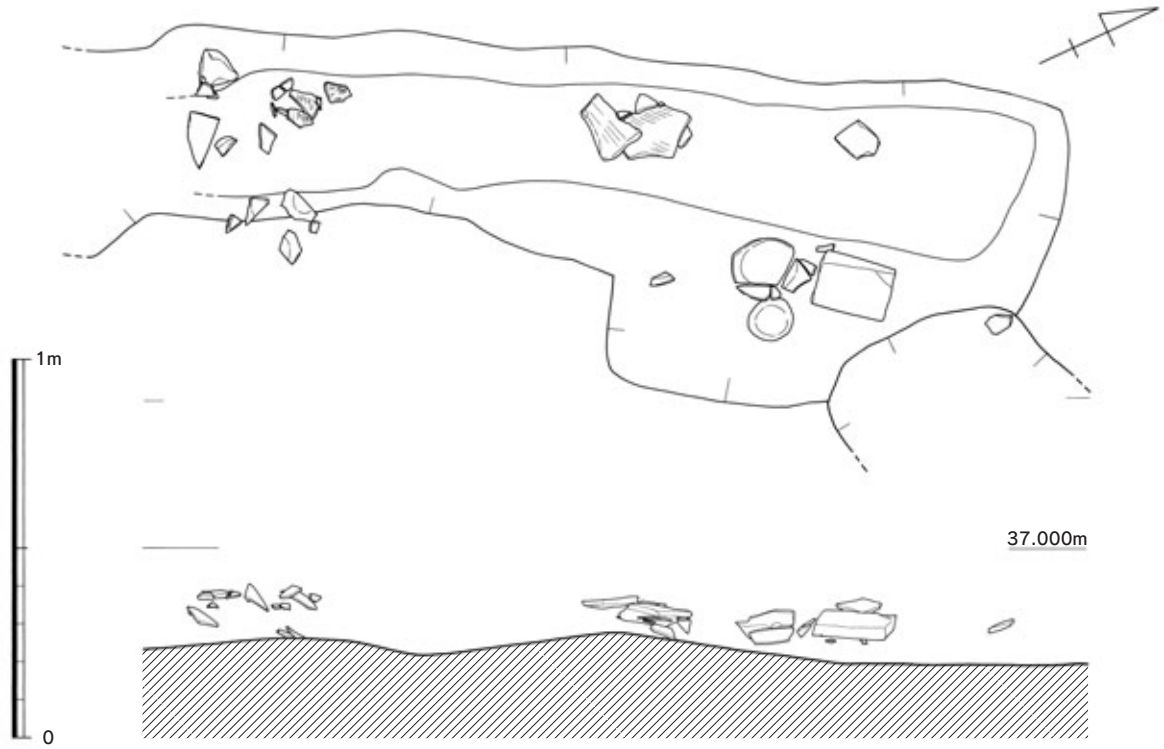
瓦（954～956）　いずれも平瓦で、凸面は平行タタキが認められる。954・955の凹面は布目痕と模骨痕が認められ、その後ハケメが施される。

塼（957）　長方形を呈し、無文である。法量は長さ20.6cm、幅13.5cm、厚さ5.4cmを測る。上下両面に短辺方向の沈線が認められる。この沈線は両面とも同じ位置ではなく１～２cmほどずれた位置にある。これは全体的に器表が摩滅しており断言はできないが、焼成後によるものと思われる。また長辺の一方は破断している。

鉄器（958）　釘であろうか。棒状を呈し、屈曲している。

ＳＤ02北側包含層（第138～140図・図版85～87）

須恵器（959～977）　959は杯Ｇ蓋である。天井部外面は回転ナデが施され、特に口縁部の焼け歪みが著しい。960・961は杯Ｂ蓋で、かえりを持ち、つまみは山形を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリが施される。962・963は杯Ｈ身で、体部は浅く、口縁部の立ち上がりは低い。底部外面は回転ヘラ切りである。963の底部は平坦で、ヘラ記号が底部外面に施される。964～970は杯Ｂ身である。964・965の体部は浅く、高台は底部外面端よりも内側に貼り付けられる。964の底部外面は回転ヘ



第135図　12次ＳＤ02周辺土器群出土状況実測図（１／20）

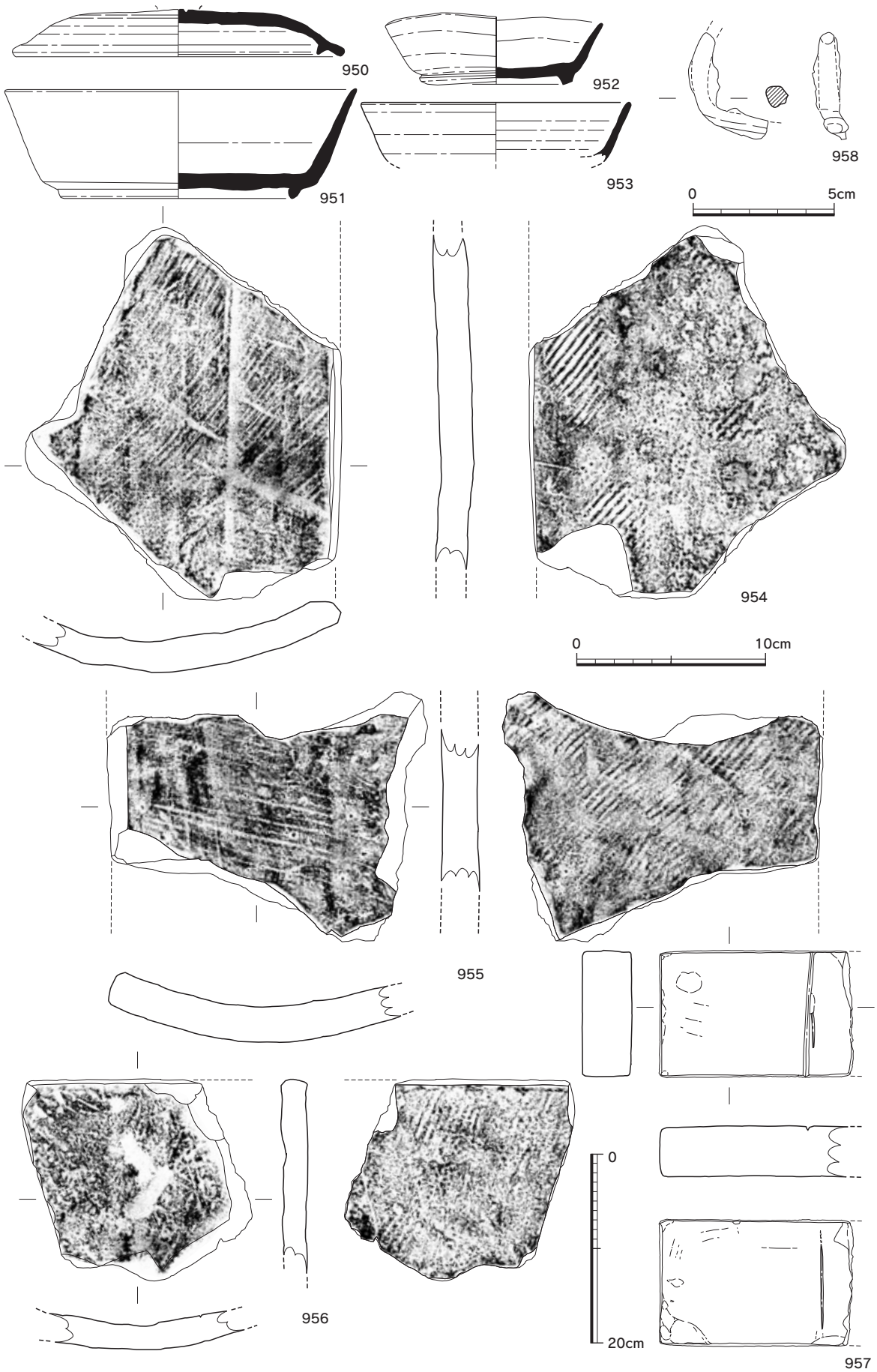
ラケズリ後、ヘラ記号が施されている。966は体部中位～口縁部にかけて外反し、高台が剥落している。967・968の体部は深く、高台は高く底部外面端よりも内側に貼り付けられる。底部と体部の境は丸みを持つ。969・970の高台は高く、底部と体部の境は丸みを持つ。971・972は杯である。972の体部は深い。いずれも底部と体部の境は丸みを持ち、底部外面は回転ヘラ切り後、971・972はヘラ記号を施す。973は高杯で、杯部底部外面は回転ヘラ切り後ナデが施される。脚部は低く、裾部は開きその端部は折り曲げられる。974は皿である。底部と体部の境は丸みを持ち、全体的に器表が摩滅しており調整は不明である。975は壺蓋である。天井部外面は回転ヘラ切りで、別個体の破片が釉着している。976は盤である。底部と体部の境に稜を持ち、高い高台は先端が細くなり、底部の中ほどに貼り付けられる。977は大甕で、頸部外面上位に圏線をめぐらし、口縁部間には波状文を施す。

土師器（978・979）　978は甕である。口縁部は短く、体部内面はヘラケズリが施されている。979は甑もしくは甕の把手である。手づくねによるもので、丁寧なナデが施されている。

瓦（980～987）　980・981は丸瓦である。980の凸面は格子目タタキ、凹面は丁寧なナデが認められる。981の凸面は平行タタキ、凹面には布目痕が認められる。982～987は平瓦である。凸面はいずれも平行タタキが施される。凹面は、981・987は布目、984・985は摩滅のため不明である。また985は粘土の接合痕が認められる。

１区包含層（第141・142図・図版87・88）

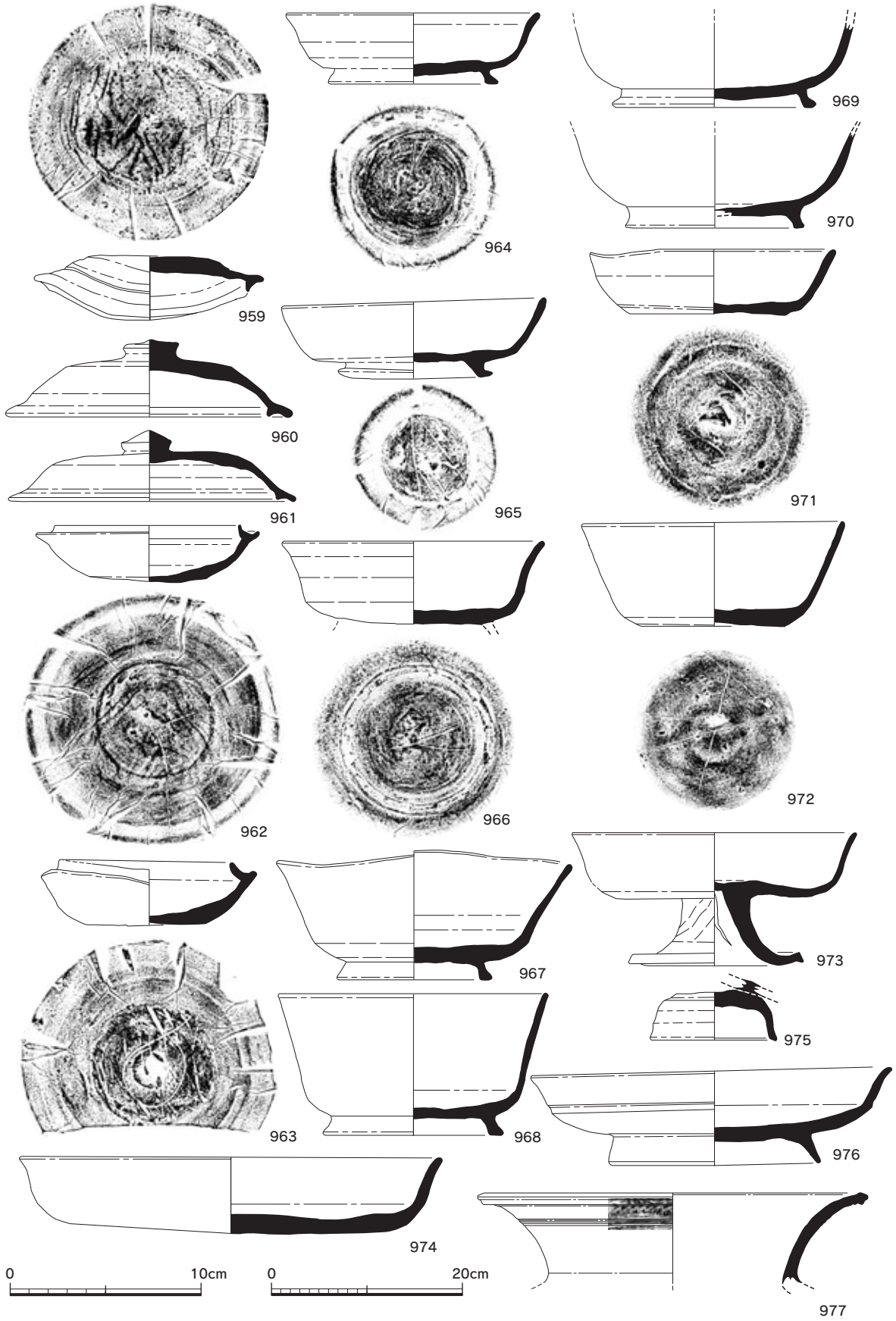
須恵器（988～1007）　988は杯Ｈ蓋で、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。989～993は杯Ｂ蓋で、口縁部は、989～992は折り曲げられ、993はわずかにつまむ程度である。989の天井部外面は回転ヘラ切り、990～992の天井部外面は回転ヘラケズリである。991は焼き歪みが著しい。994～997



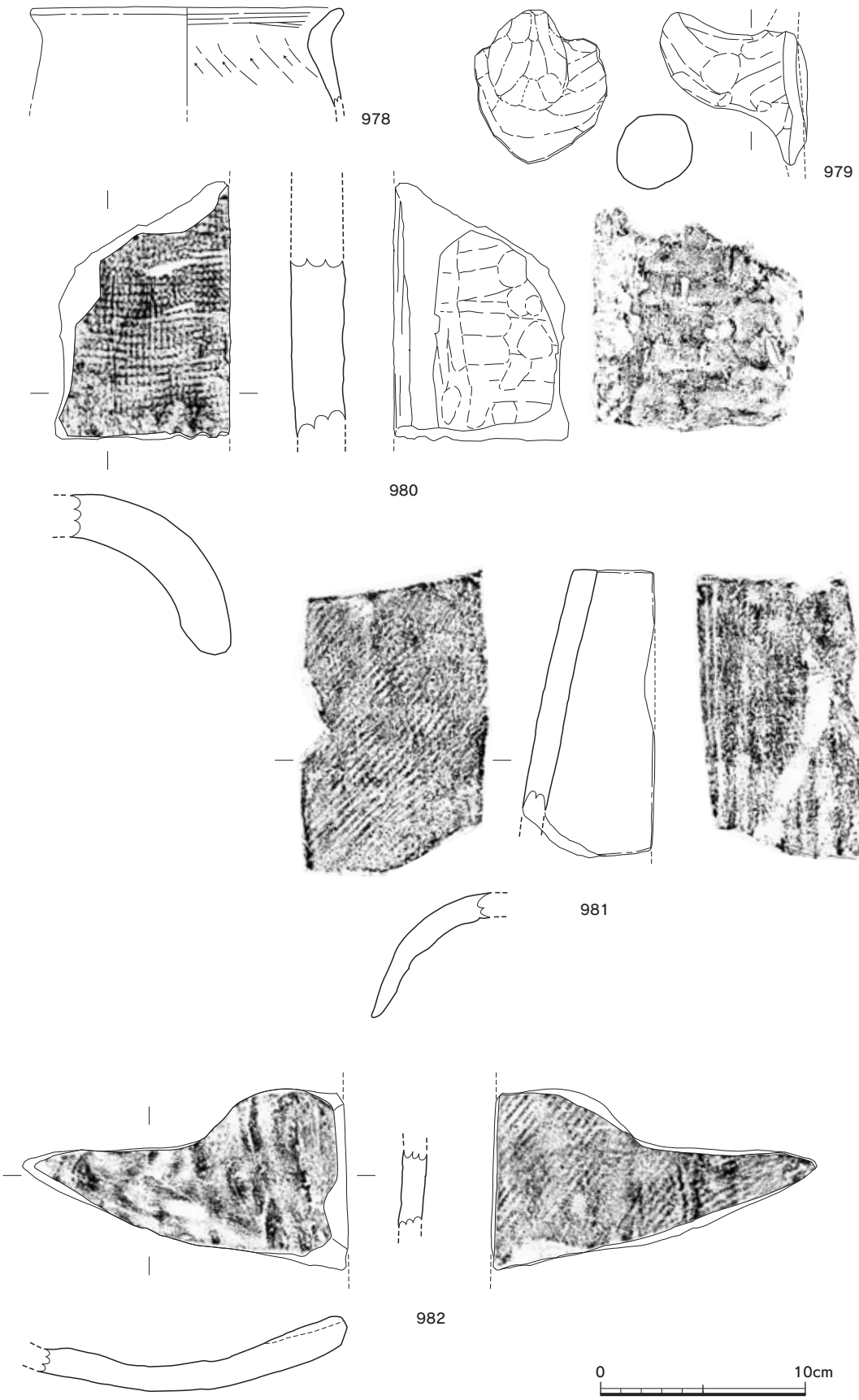
第136図　12次ＳＤ02周辺出土遺物実測図（958は１／２、957は１／６、他は１／３）

第137図　12次ＳＤ02北側土器群出土状況実測図（1／30）

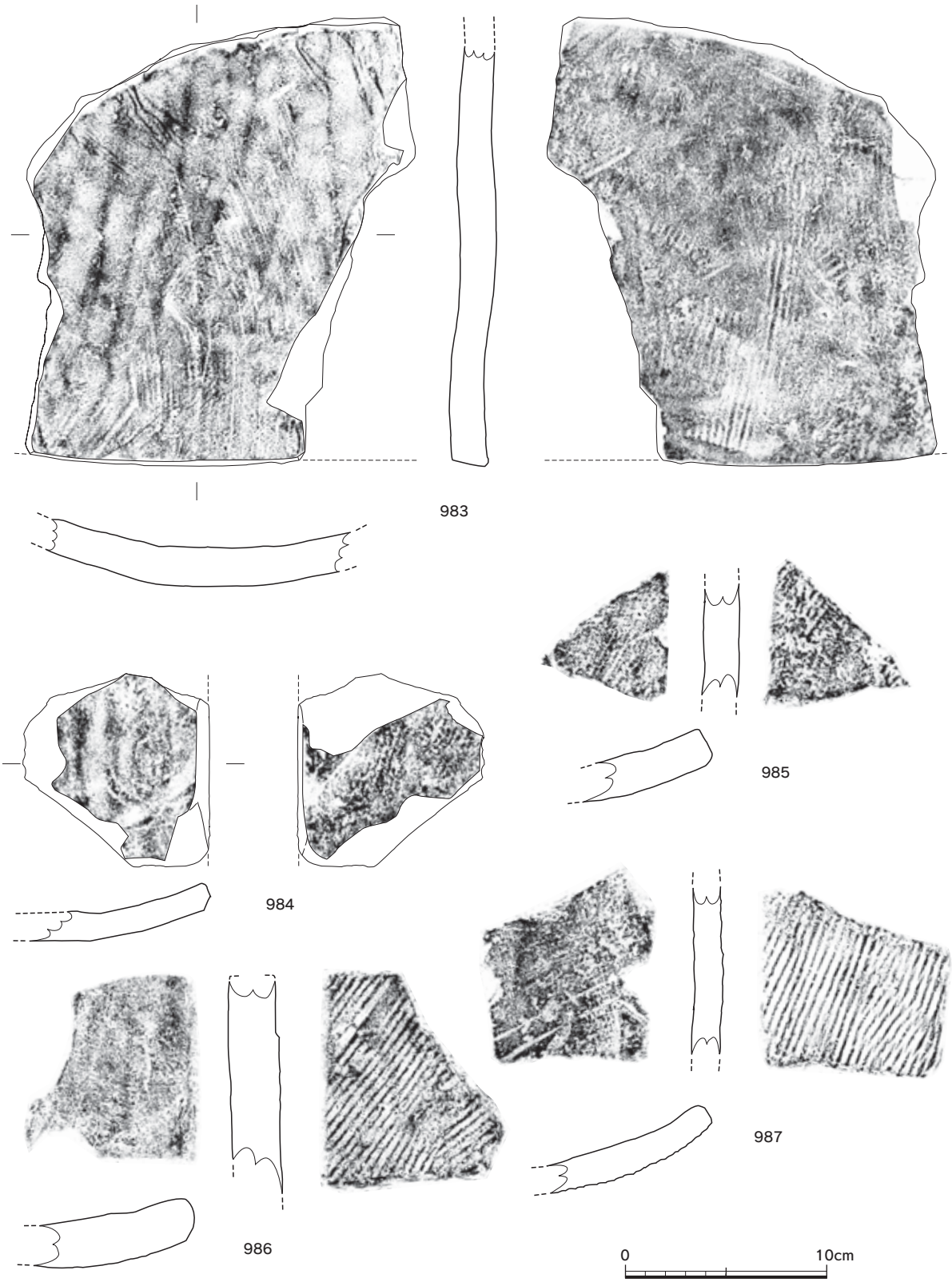
は杯Ｈ身で、底部外面は回転ヘラケズリが施される。997の底部外面にはヘラ記号が認められるが、破片であるため種類を特定できない。底部外面はいずれも回転ヘラ切りである。998・999は杯Ｂ身である。998の体部は浅く、高台は底部外面端より内側に貼り付けられる。底部外面にはヘラ記号が



第138図　12次ＳＤ02北側出土遺物実測図①（977は１／６、他は１／３）

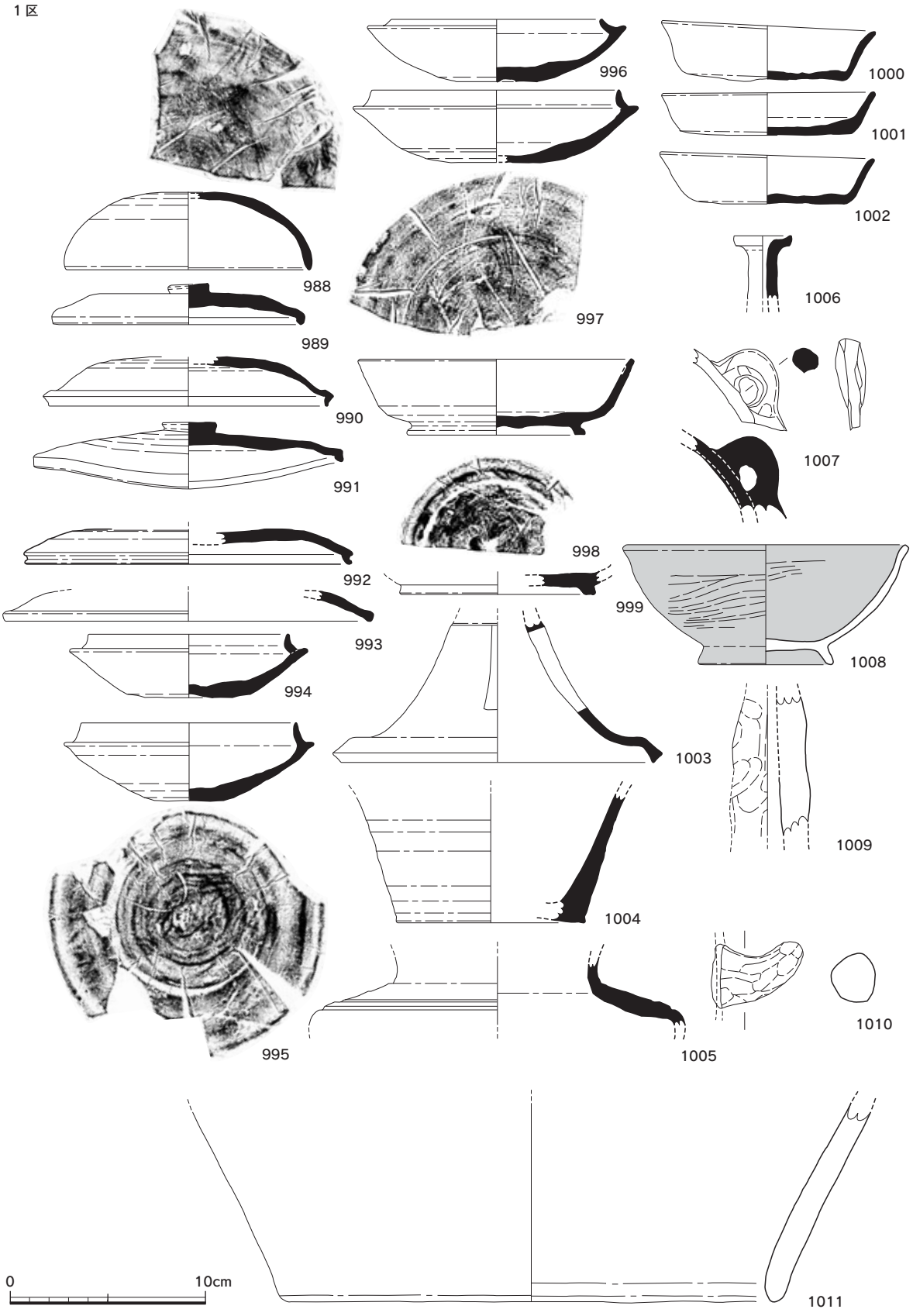


第139図　12次ＳＤ02北側出土遺物実測図②（１／３）

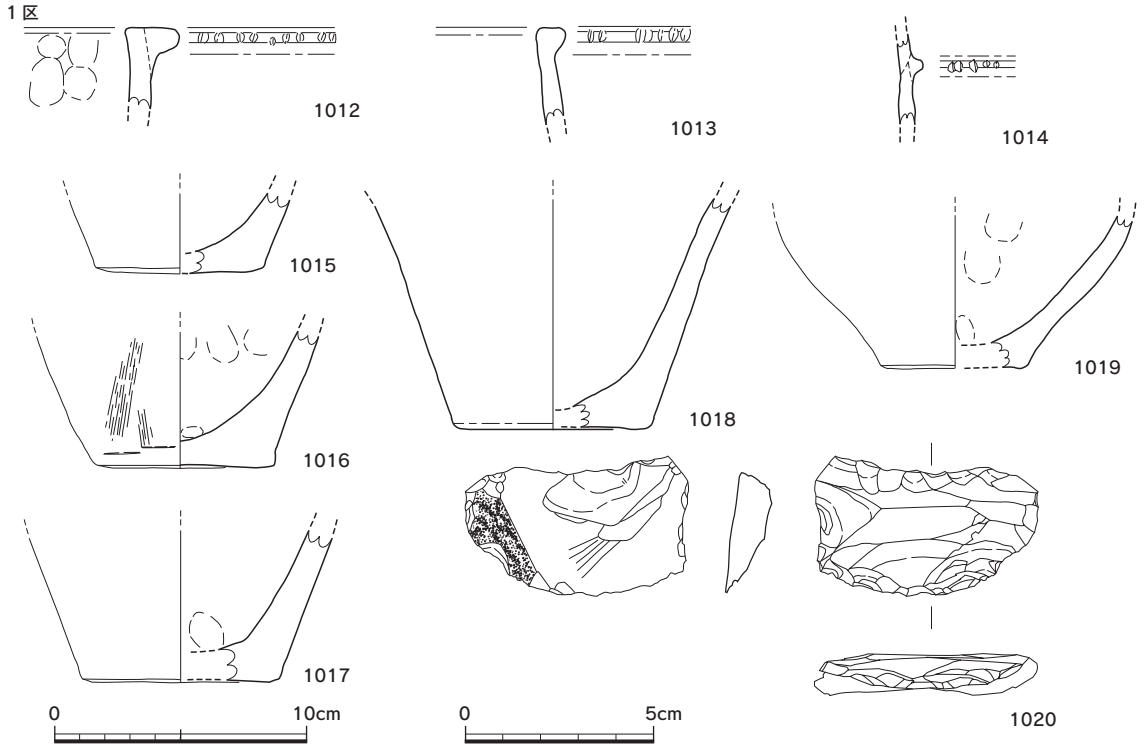


第140図　12次ＳＤ02北側出土遺物実測図③（１／３）

認められるが、破片であるため種類を特定できない。1000～1002は杯で、底部外面はいずれも回転ヘラ切りである。1003は高杯脚部である。ちょうど欠損部の外面に沈線が認められる。その下方には長方形の透かしがあり、本来は沈線を挟んで上下二段、４方向に配されていたのではなかろうか。1004・1005は壺であろうか。1004は平底を呈し、体部との境は明瞭で、体部は直線的に伸びるもの



第141図　12次第２面包含層出土遺物実測図①（1／3）



第142図　12次第２面包含層出土遺物実測図②（1020は１／２、他は１／３）

である。1005は肩部外面に沈線が二条施される。1006は水瓶である。1007は環状の耳部である。瓶類に貼り付けられていたものであろうか。断面形は円形で、丁寧にナデが施される。

黒色土器（1008）　Ｂ類椀である。体部は緩く伸び、内外面ともにミガキが認められる。

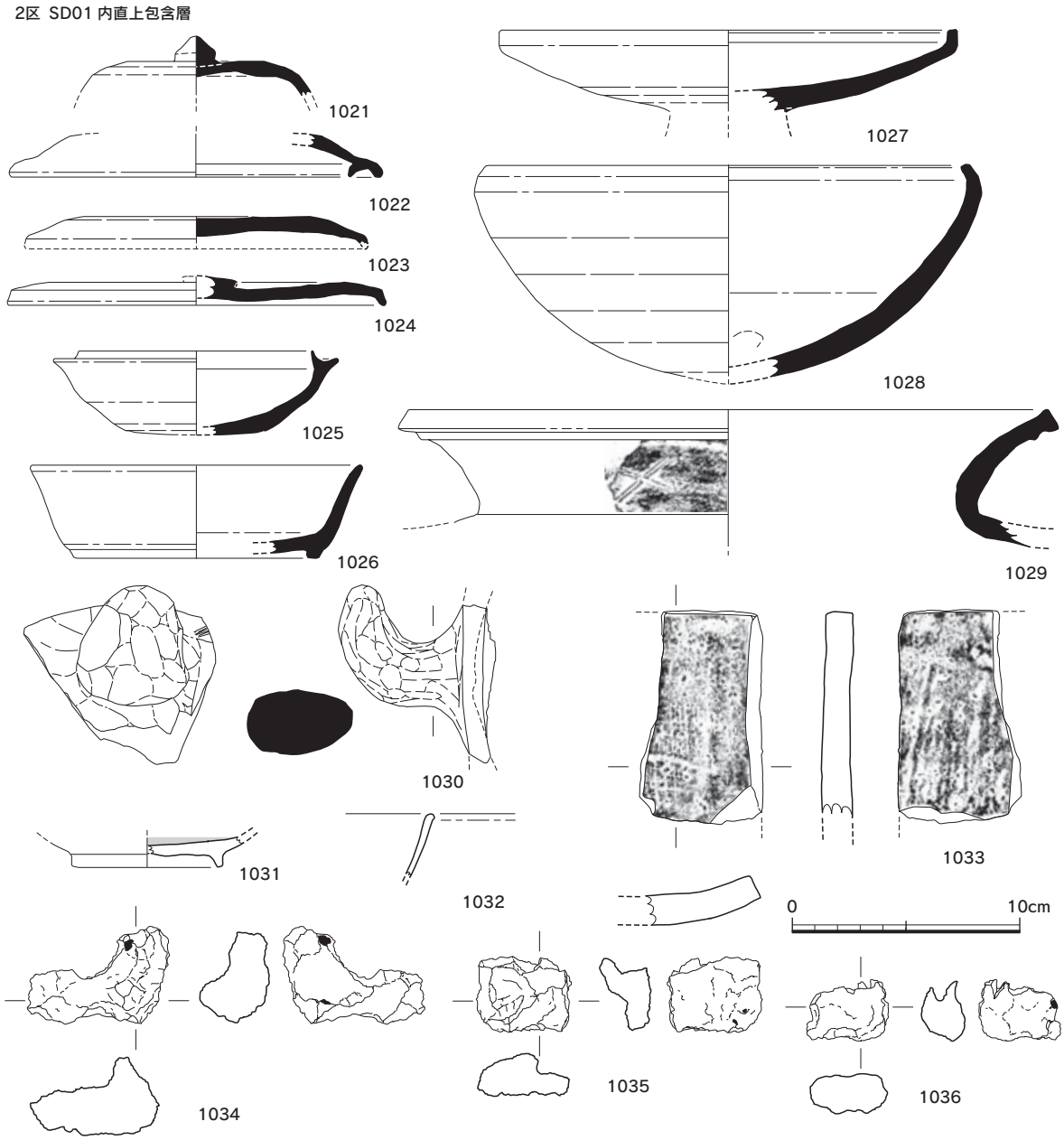
土師器（1009～1011）　1009は器台である。中空で、器壁は厚い。手づくねによるもので、外面はナデおよび指頭圧痕が顕著である。1010は甑もしくは甕の把手である。手づくねによるもので、丁寧にナデが施される。1011は甑裾部である。全体的に器表が摩滅しているため、調整は不鮮明であるが、体部内面にはヘラケズリが施されている。

弥生土器（1012～1019）　1012～1018は板付Ⅱ式の甕である。1012・1013は口縁端部、1014は体部に粘土を貼り付けて、いずれも刻目を施す。1015～1018は底部片で、いずれも平底を呈す。1019は壺である。平底で体部は球形を呈する。

石器（1020）　２次加工のある剥片で、縁辺に剥離を施している。石材は安山岩である。

２区ＳＤ01内直上包含層（第143図・図版88）

須恵器（1021～1030）　1021は杯G蓋であろうか。天井部は平坦で回転ヘラケズリが施され、宝珠形のつまみが貼り付けられる。1022～1024は杯蓋である。1022はかえりを持ち、1023・1024は口縁部が折り曲げられ、1024は扁平なつまみが貼り付けられる。天井部外面は、1023は回転ヘラケズリ、1024は回転ヘラ切りで、1024の天井部外面には斜格子状の圧痕が認められる。1025・1026は杯身である。1025は杯Ｈ身で、体部は深く、口縁部の立ち上がりは低い。底部外面は回転ヘラケズリが施される。1026は杯Ｂ身で、体部は浅く、高台は底部外面端のわずか内側に貼り付けられる。1027は高杯である。口縁部は直立し、杯部底部外面は回転ヘラケズリが施される。1028は鉄鉢である。口縁部は内湾し、体部外面上位～底部外面にかけて、回転ヘラケズリ後回転ナデが施される。



第143図　12次第２面包含層出土遺物実測図③（１／３）

1029は甕である。頸部は短く、外面にヘラ記号が施される。1030は甑または甕の把手である。手づくねにより成形されている。

黒色土器（1031）　Ａ類椀である。高台は低く、全体的に器表の摩滅が著しい。

磁器（1032）　青磁椀、口縁片である。釉は全体的に薄く施されている。

瓦（1033）　平瓦である。凸面は器表が摩滅しており不鮮明であるが平行タタキが施され、凹面は布目痕・模骨痕が認められる。

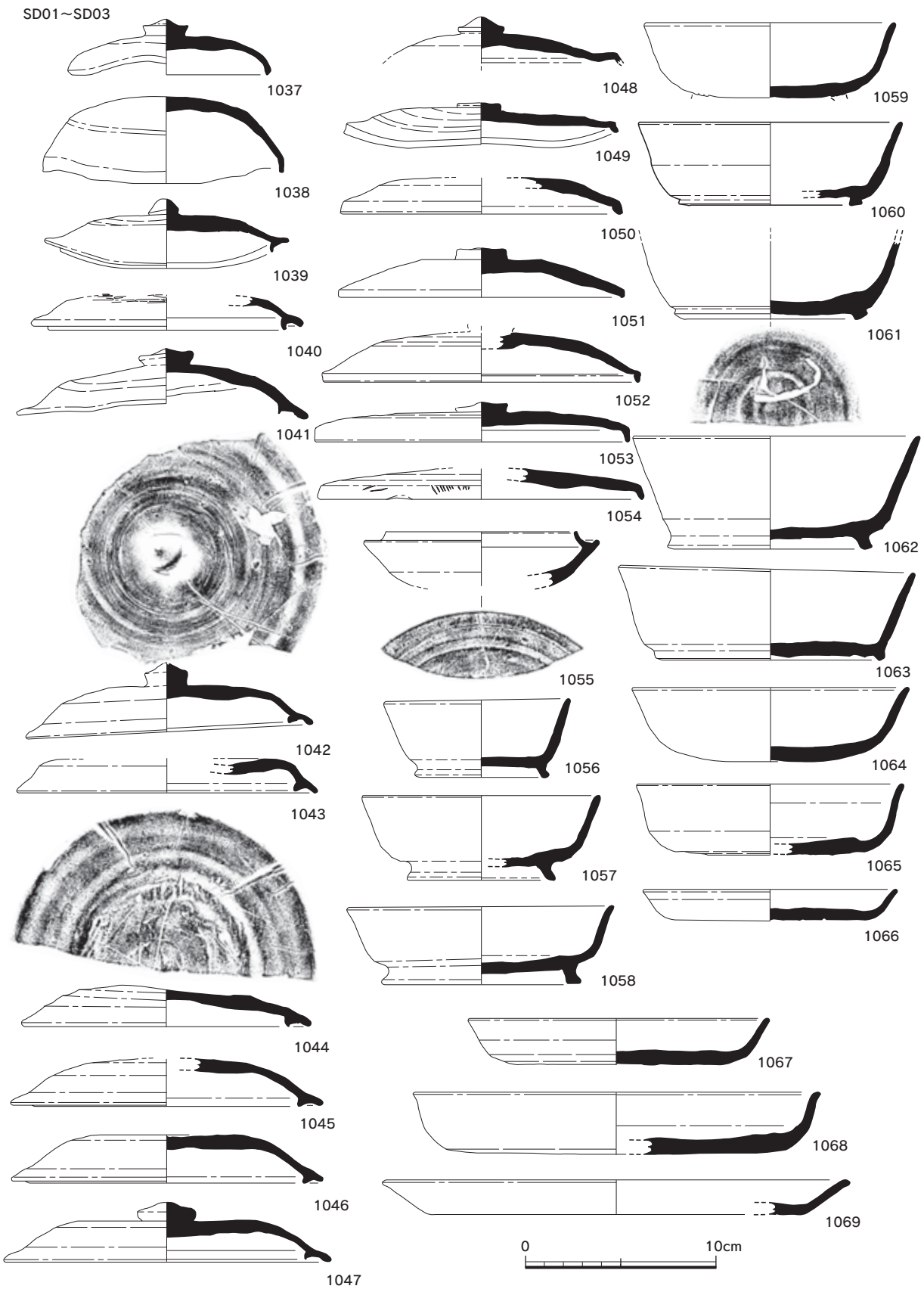
鉄滓（1034～1036）　いずれも塊状を呈し、表面は小さな凹凸が著しい。

ＳＤ01～03周辺包含層（第144～149図・図版88～92）

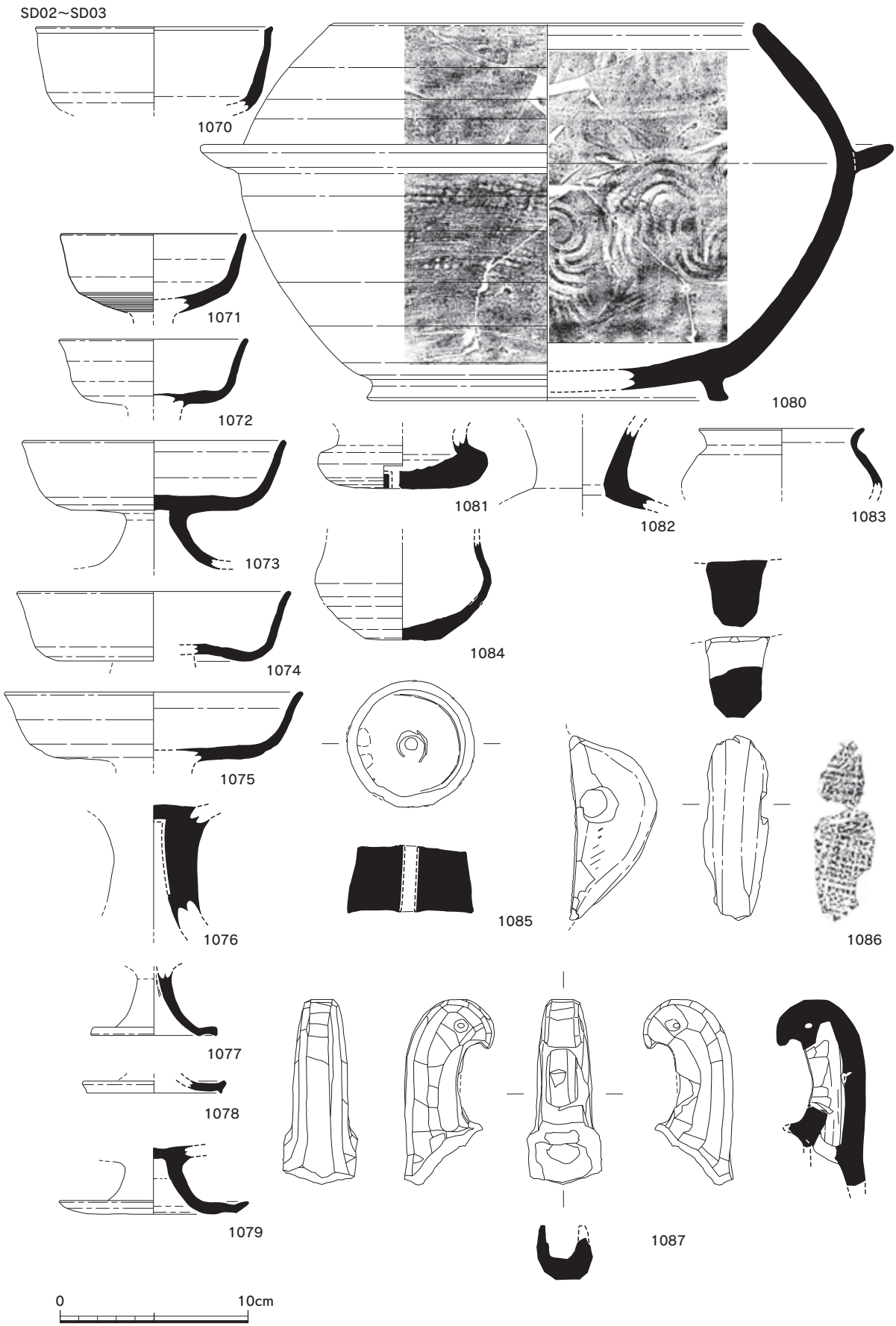
須恵器（1037～1087）　1037～1054は杯蓋である。1037は山形のつまみが貼り付けられる。天井

部外面は回転ヘラケズリが施される。1038は杯H蓋で、天井部外面は静止ヘラケズリ、体部外面には沈線が施される。1039は杯G蓋である。かえりを持ち、宝珠形のつまみが貼り付けられ、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。焼け歪んでいる。1040～1054は杯B蓋である。1040～1047はかえりを持ち、1048～1054の口縁部は折り曲げられる。天井部外面は、1041・1042・1046～1050・1052～1054は回転ヘラケズリ、1043・1044・1051は回転ヘラ切りである。1055～1063は杯身である。1055は杯H身で、口縁部外面下に工具の擦過痕が認められる。1056～1063は杯B身である。1056は小型のものである。1057・1058の体部は浅く、高台は底部外面端よりも内側に貼り付けられる。1059は底部と体部の境は丸みを持ち、高台を欠損する。1060・1061の高台は低く、底部外面端のごく内側に貼り付けられる。1062・1063の体部は直線的で、開くものである。1064・1065は杯である。いずれも底部と体部の境は丸みを持つが、1065は体部の開きが小さいため箱形を呈する。1065の底部外面は部分的に回転ヘラケズリを施すことから、この部位に高台が貼り付けられていた可能性も考えられる。1066～1069は皿である。1066～1068の底部と体部の境は丸く、底部外面は回転ヘラケズリが施される。1070は椀である。体部は深く、口縁端部はごく小さく外反する。1071～1079は高杯である。1071・1072は脚部を欠損するが、本来は長脚のものとなろう。杯部底部外面は、1071は回転ヘラケズリ後カキメ、1072は回転ヘラケズリである。1073～1075は脚部を欠損するが、本来は低脚のものとなろう。杯部底部外面は、1073・1075は回転ヘラケズリ、1074は回転ヘラ切りで、ヘラ記号が認められるが、破片であるため、種類を特定できない。1076～1079は脚部である。1080は鍔付鉢である。体部中位のやや上方で内湾し、薬壺形を呈する。鍔は体部最大径の部位に貼り付けられる。体部内面は同心円文当て具痕、体部外面中位～下位にかけては回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切りである。1081はすり鉢である。底部中央に穿孔、底部外面は回転ヘラケズリが施される。1082～1084は壺である。1083は短頸壺である。1084は平底で、体部外面中位～下位は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切りである。1085は紡錘車である。断面は台形を呈し、穿孔は上面から下面へとおこなわれる。1086は壺の把手である。本体との接合面には、擬格子目タタキが転写されている。1087は中空硯の把手で、硯本体部は欠損する。上面が刳り込まれ鉤状を呈し、側面から見るとあたかも嘴様に見えるので、鳥の頭部を模したものと思われる。硯を正置したとき、鳥の背部が接地し腹部が上面となるように本体に接合される。目と思しき位置に孔が穿たれている。目は両側面から穿孔され、穿孔口が大きく奥が細くなっており、鼓形に連結している。また腹部には3.1cm×1.6cmの略長方形孔が切り込まれ把手内部の中空部分と、把手内部の中空部は本体内部の中空部とつながっている。以下に製作の段階について触れる。第一段階は把手を中空にする。この中空部上面にハケメ、中空部の突き当たり部に木口痕、中空部側壁に擦過痕が認められることから、上面に孔を切り込み、ここからと本体との接合部に穿孔した孔から、板状工具を用い粘土を掻き出して内部を中空にしていることが分かる。第二段階は把手を杯部外面に貼り付ける。第三段階は把手との接合面に杯部内面から穿孔を施し、把手中空部と本体中空部を連結させる。第四段階は把手器表に調整を施している。長軸方向に丁寧なヘラケズリをおこない、上面の孔の周辺を入念に面取りし、略長方形に整えている。

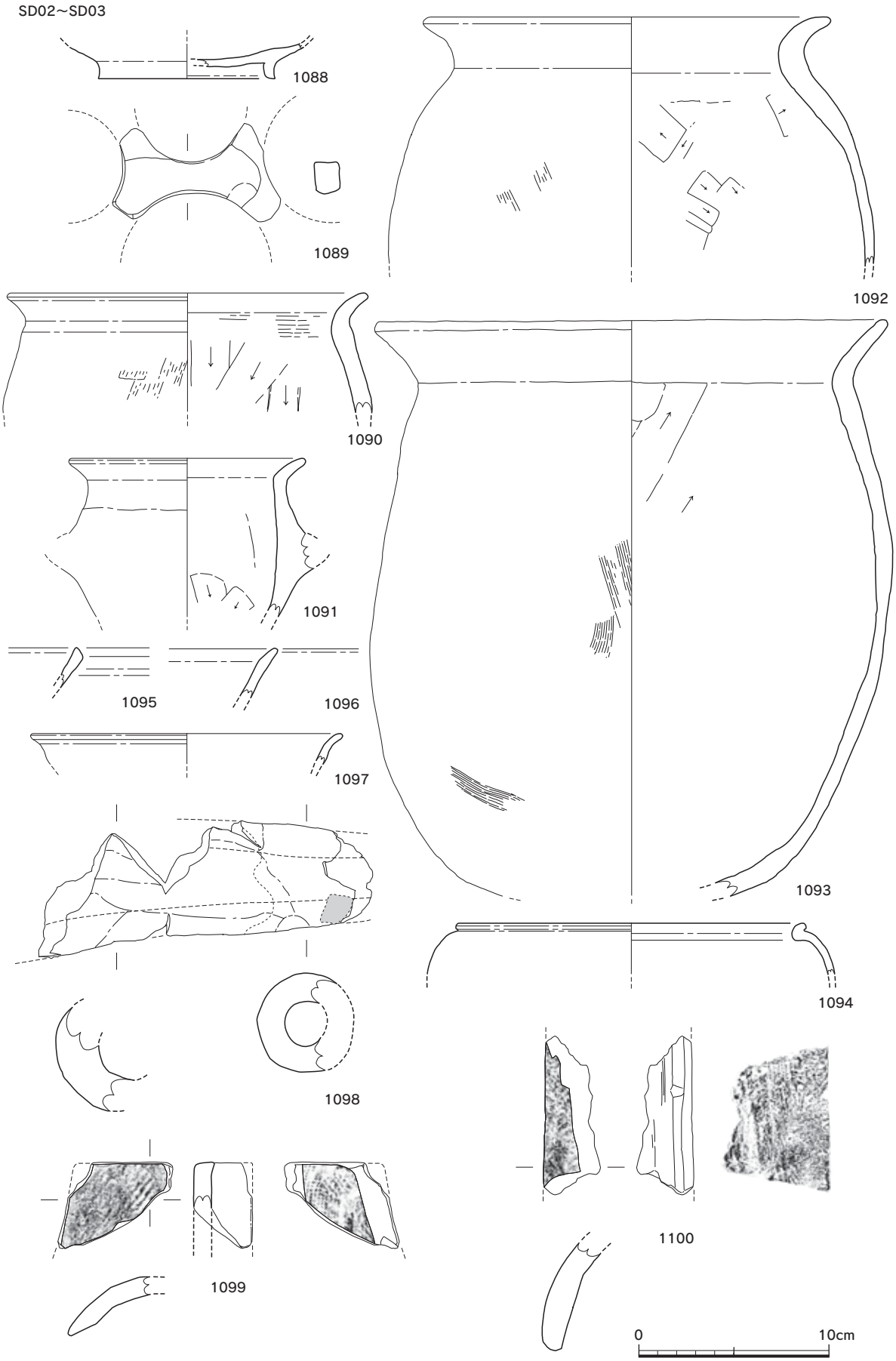
土師器（1088～1093）　1088は椀で、高台は低い。1089は多孔式の甑底部である。四辺に弧状の切り込みが認められる。1090～1093は甕である。1091は小型で、体部外面中位に把手を持つもので



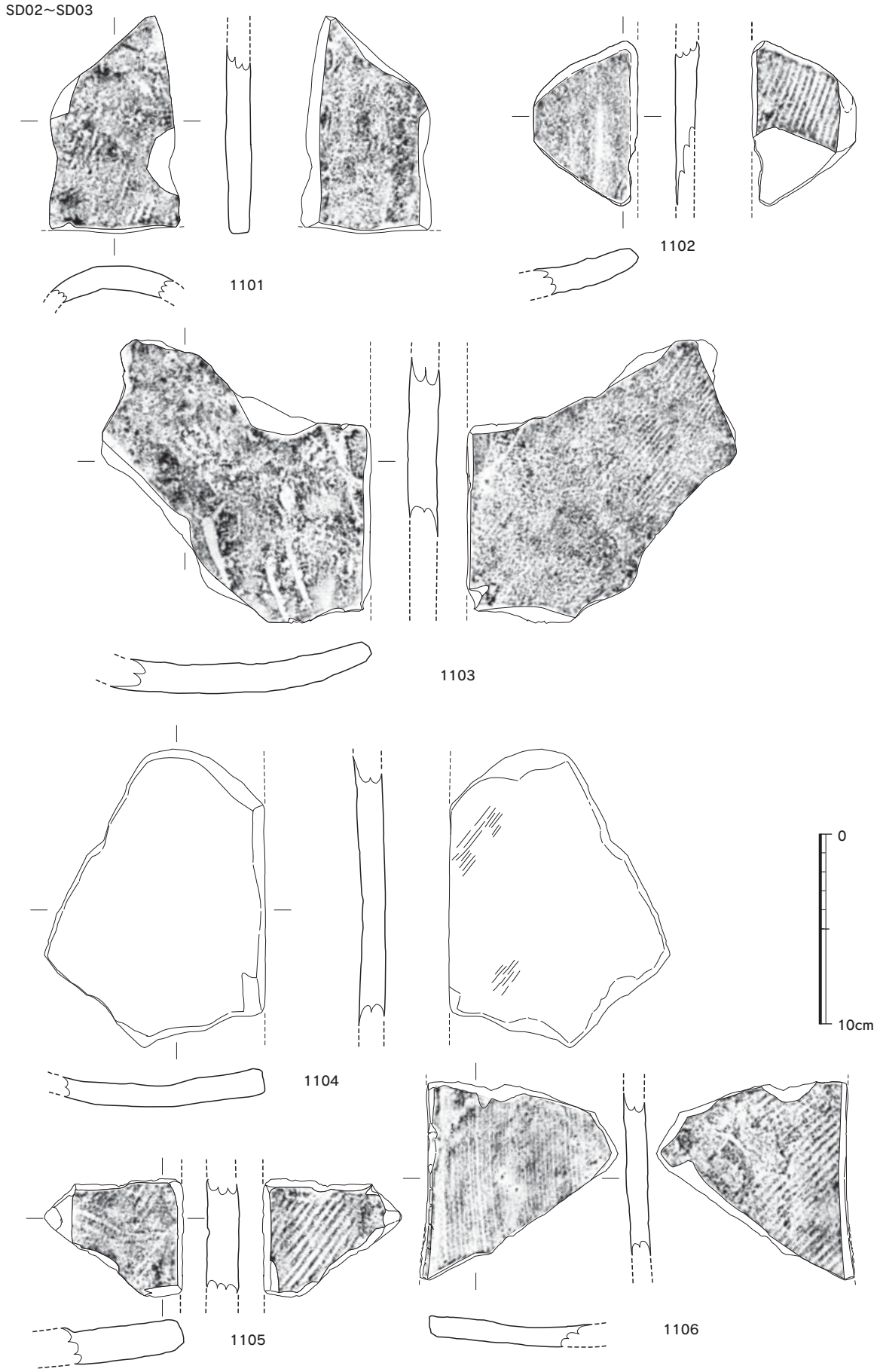
第144図　12次第２面包含層出土遺物実測図④（1／3）



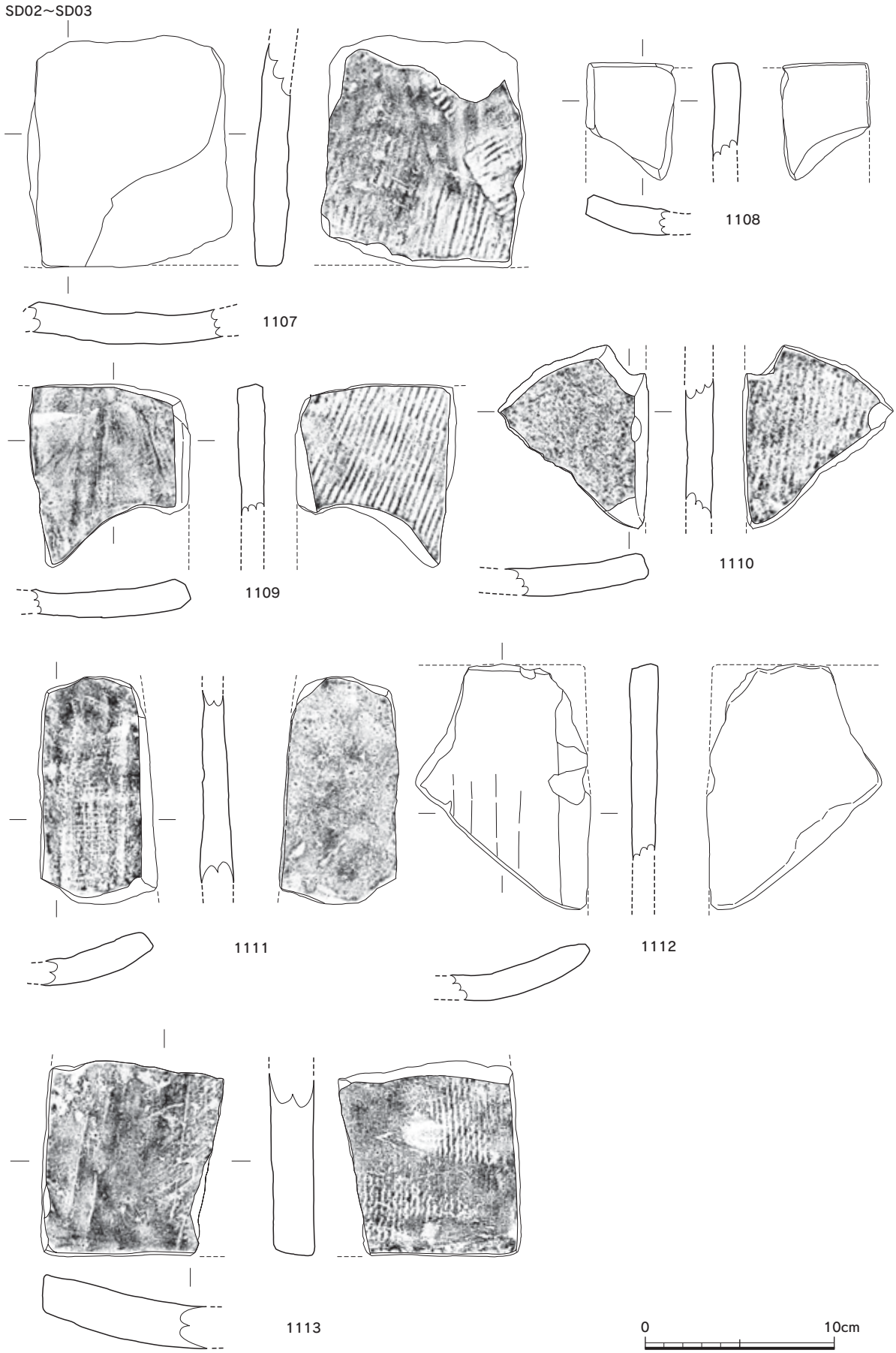
第145図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑤（１／３）



第146図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑥（１／３）

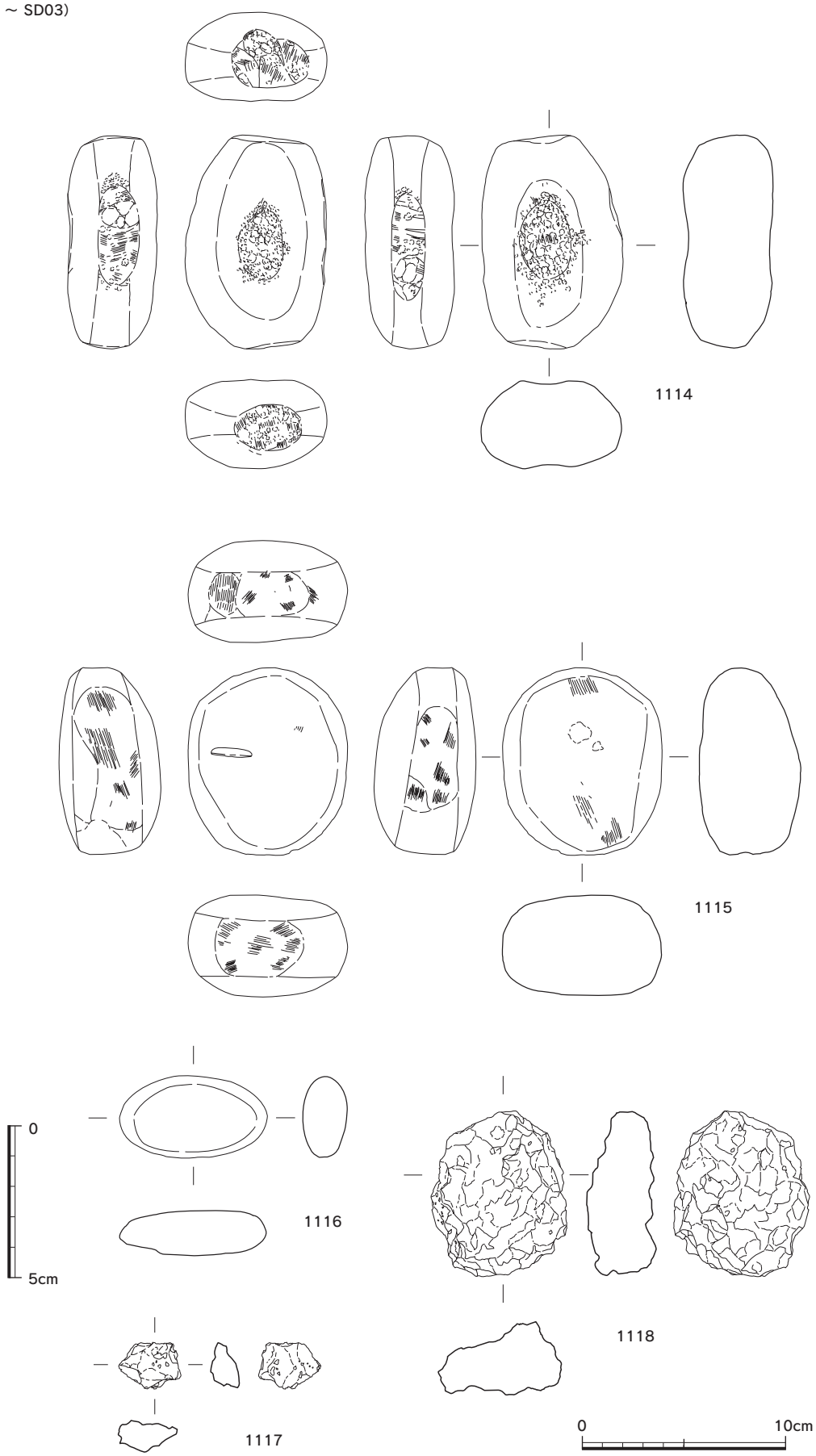


第147図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑦（１／３）

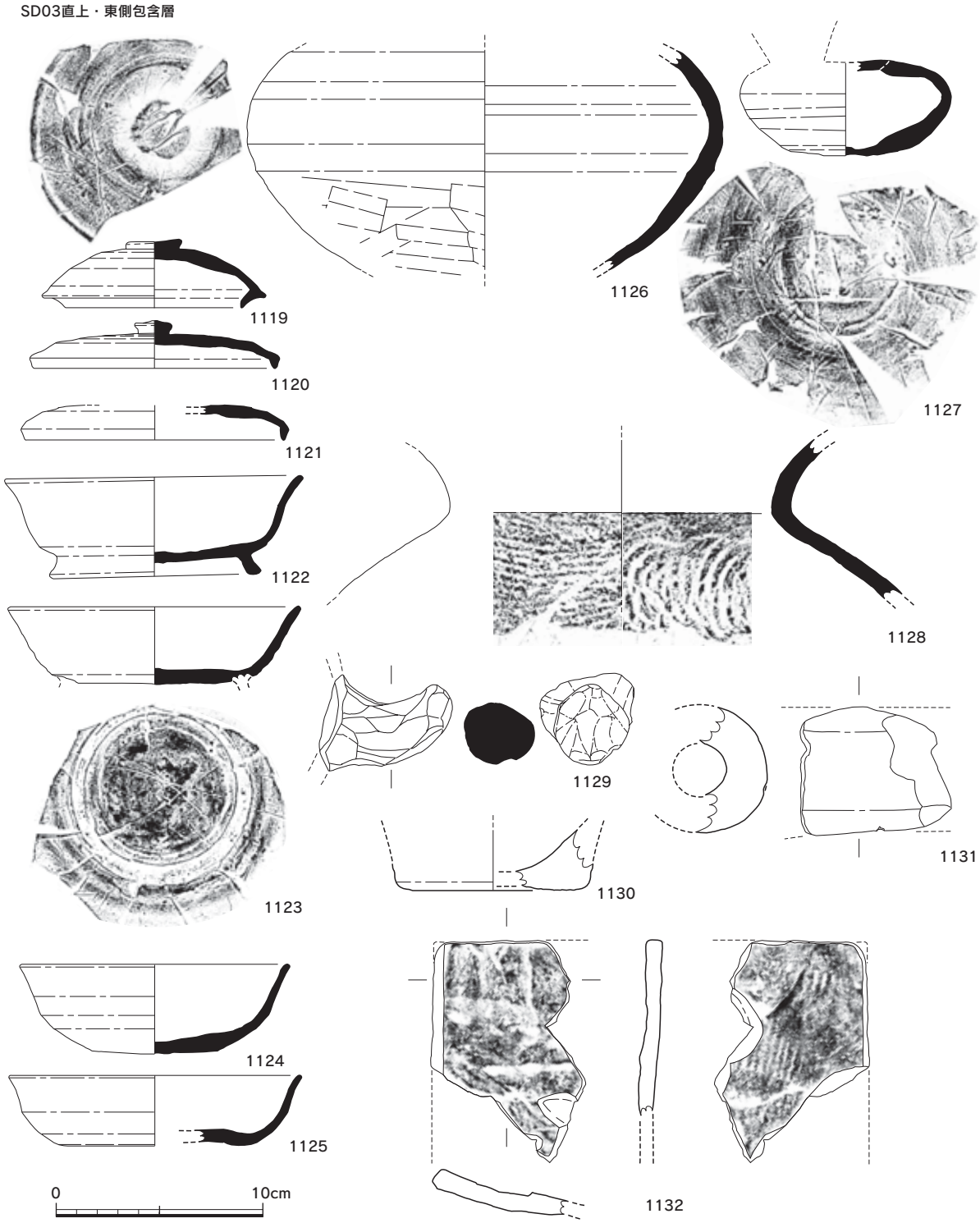


第148図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑧（1／3）

(SD02 ～ SD03)



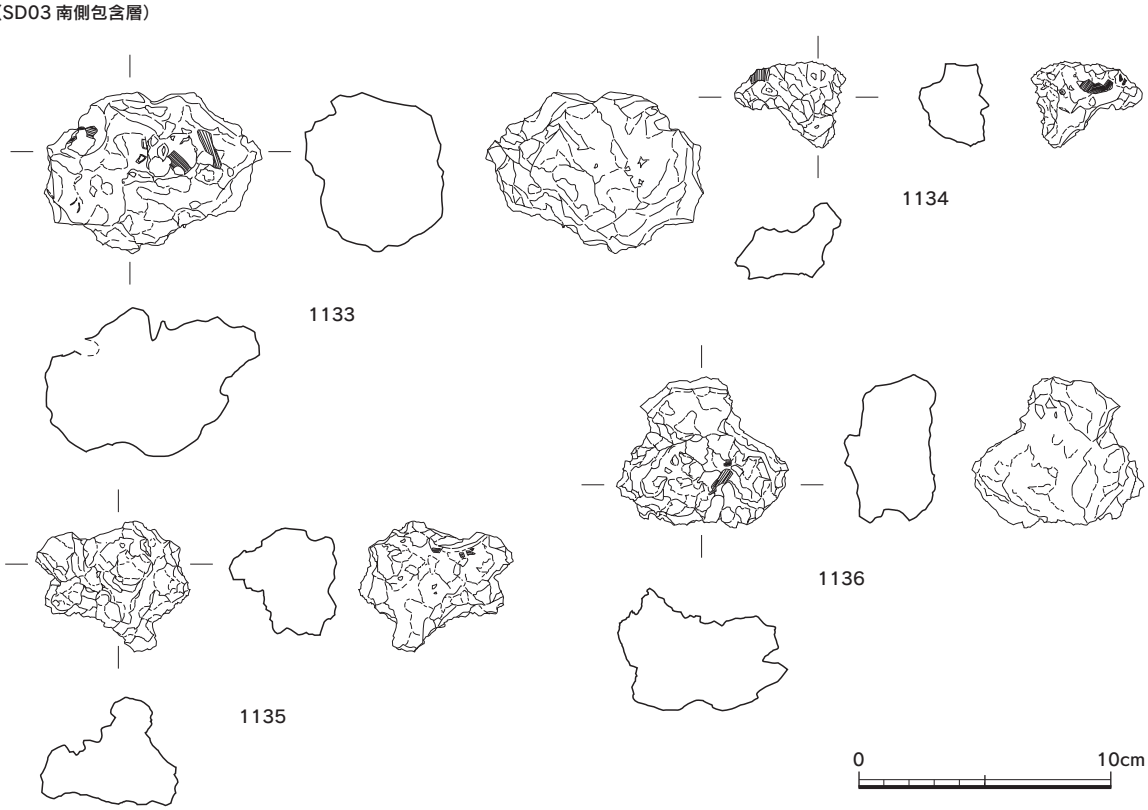
第149図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑨（1116は１／２、他は１／３）



第150図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑩（１／３）

あるが、本例は欠損している。1092は口縁部の外反は強く、体部最大径が口径を上回るものである。1093の口縁部は高く伸び、体部最大径と口径はほぼ同じである。いずれも体部内面にヘラケズリが施される。

陶器（1094）　鉢である。肩部は張り、頸部は締まり、口縁部は短く、強く外反する。内外面に黄褐色の釉が施されている。



第151図　12次第２面包含層出土遺物実測図⑪（１／３）

磁器（1095～1097）　1095は白磁椀であろうか。1096・1097は青磁椀である。1097は口縁部外面下に沈線が２条認められる。

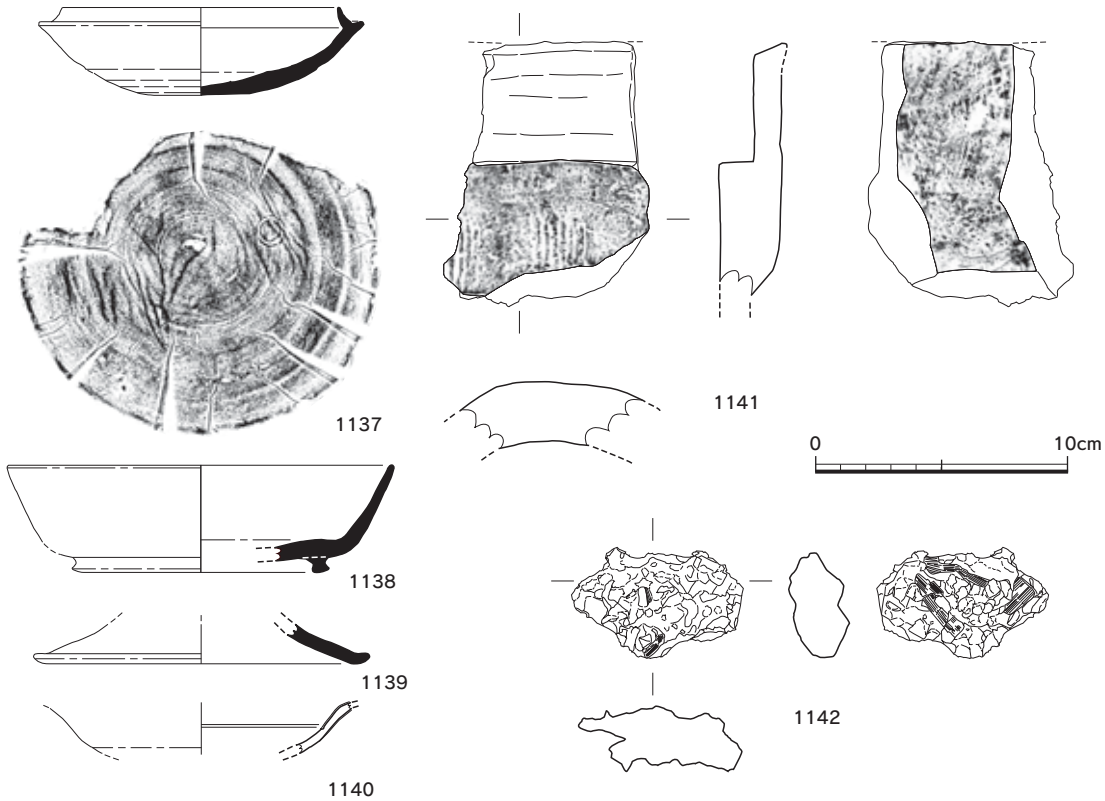
土製品（1098）　鞴羽口で、両端部は欠損している。被熱しており、一部は瓦質となっている部分も認められる。

瓦（1099～1113）　1099～1101は丸瓦である。いずれも凸面は平行タタキ、凹面は、1099は布目痕、1100・1101は布目・模骨痕が認められる。1102～1113は平瓦である。器表が摩滅のため調整不明の1108・1112と、縄目タタキの1113を除いて凸面は平行タタキが施される。1104は器表が摩滅しているがかすかに平行タタキの痕跡が認められる。凹面は、1102は模骨痕とナデ、1103は摩滅しているため不鮮明であるがヘラケズリであろうか、1104・1107～1109は摩滅のため不明、1105は器表が摩滅しているが布目痕とナデであろうか、1106はハケメか？弓切り痕の可能性あり、1113は摩滅しているがかすかに布目痕、1111は布目痕、1112は摩滅しているがかすかに模骨痕、1113はヘラケズリを施している。

石器（1114・1115）　1114は敲石兼磨石である。表裏両面は中央がくぼんでおり敲石としてこの面を使用している。両側面と上下両端面はたたいた痕跡と擦痕の両方が認められるが、特に擦痕の方が顕著であるため、主として磨石として使用されていたと考えられる。石材は石英斑岩である。1115は磨石である。両側面と上下両端面に擦痕が認められる。石材は凝灰岩である。

円礫（1116）　石材は凝灰岩である。加工痕などは特に認められない。

鉄滓（1117・1118）　いずれも塊状を呈する。表面は小さな凹凸が著しい。



第152図　12次２区中央トレンチ出土遺物実測図（１／３）

ＳＤ03直上・東側包含層・南側包含層（第150・151図・図版92）

須恵器（1119～1128）　1119は杯蓋か？体部は丸く、かえりを持ち、扁平なつまみが貼り付けられる。天井部外面は回転ヘラケズリ後、ヘラケズリが施される。1120・1121は杯Ｂ蓋で、口縁部は折り曲げられる。天井部外面は、1120は回転ヘラケズリ、1121は回転ヘラ切りである。1122・1123は杯Ｂ身である。1122の体部中位～口縁部にかけて外反し、高台は高く底部外面端よりも内側に貼り付けられる。1123の体部は直線的に口縁部へと至り、高台は欠損するが、底部外面端に貼り付けられていたことが分かる。1124は杯である。平底で、底部～体部下半は開き、体部中位でやや立つ。底部外面は回転ヘラ切りである。1125は高杯である。体部中位～口縁部にかけては、わずかに外反する。杯部底部外面は回転ヘラケズリが施される。1126は短頸壺となろうか。口縁部と底部を欠損する。体部最大径は中位のやや上方にあり、体部外面下半は手持ちヘラケズリを施している。1127は小型の平瓶である。体部最大径は中位のやや上方にあり、肩部内面には閉塞の痕跡が認められる。底部外面は回転ヘラ切りで、体部外面中位～下位に回転ヘラケズリを施す。1128は甕である。体部外面は器表摩滅のため不鮮明であるがタタキが施され、体部内面には同心円文当て具痕が認められる。1129は、甑もしくは甕の把手である。

弥生土器（1130）　板付Ⅱ式甕底部片である。平底を呈する。

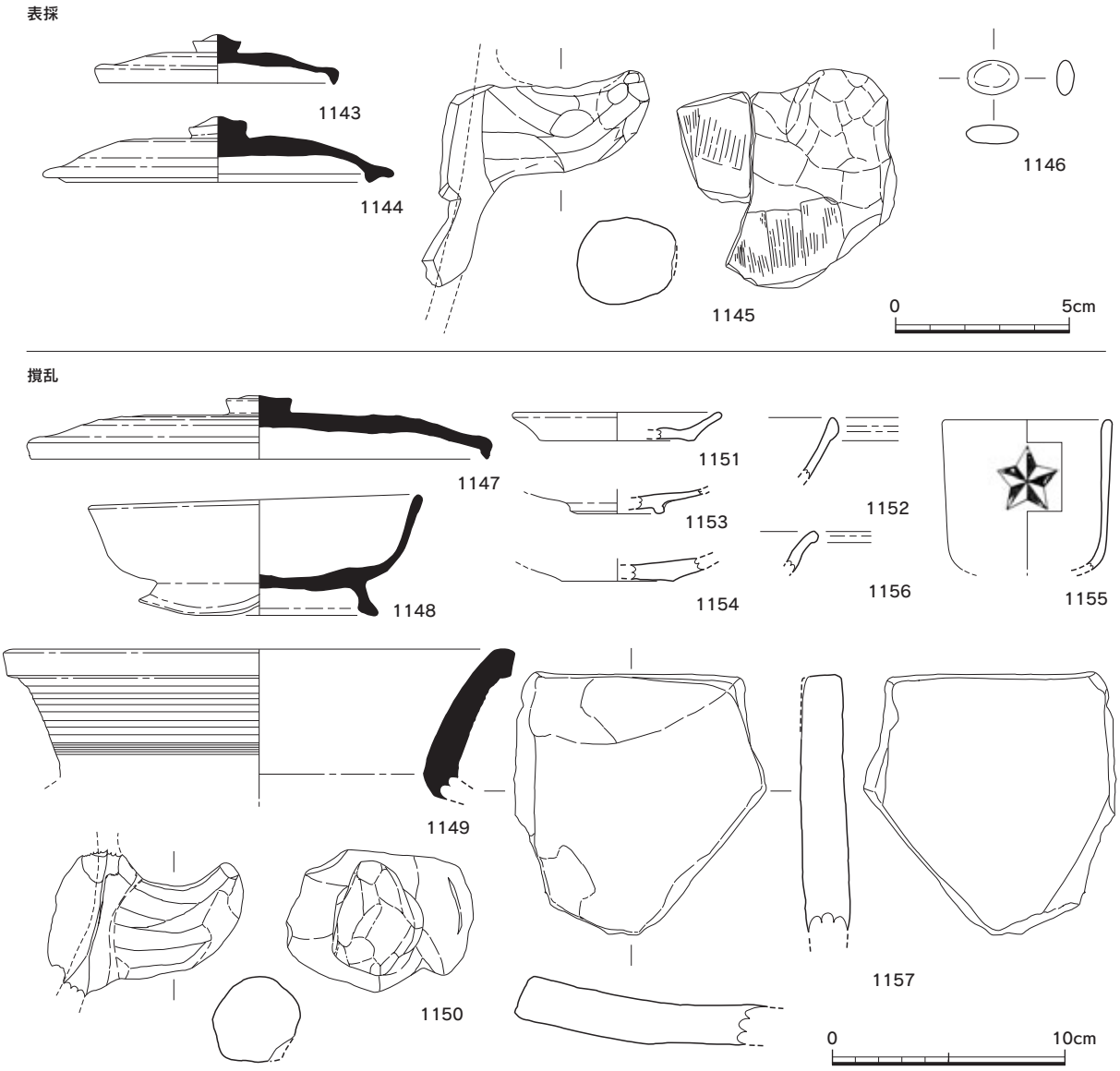
土製品（1131）　鞴羽口である。断面は円形を呈し、両端部を欠損する。

瓦（1132）　平瓦である。凸面は平行タタキが施され、凹面は器表が摩滅しており調整は不明である。

鉄滓（1133～1136）　いずれも塊状を呈する。表面は凹凸が顕著で、表面に炭化物をかみこんでいる。

vii）中央トレンチ出土遺物（第152図・図版92）

須恵器（1137～1139）　1137は杯Ｈ身である。体部は浅く、底部外面は回転ヘラケズリ後、ヘラ記



第153図　12次表採・撹乱出土遺物実測図（1146は1／2、他は1／3）

号として竹管文が1つ施される。1138は杯B身である。体部は浅く、高台は低く、底部外面端よりも内側に貼り付けられる。1139は高杯脚部である。脚裾端部が跳ね上がるものである。

磁器（1140）　白磁皿である。口縁端部は欠損するが、見込みに沈線が施される。太宰府分類Ⅳ類であろうか？

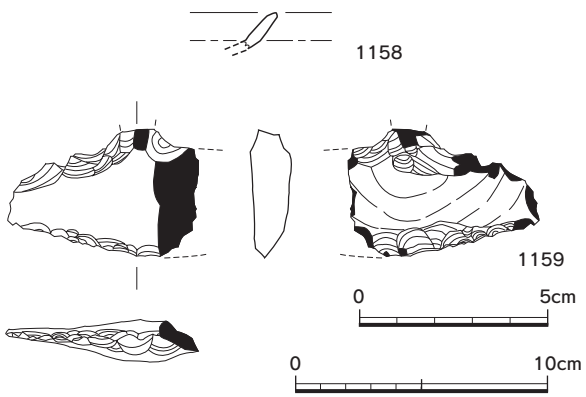
瓦（1141）　玉縁を持つ、丸瓦である。凸面は、玉縁部は工具による横位のナデ、体部は縄目タタキが施され、凹面は布目痕が認められ、狭端部はナデにより仕上げられる。

鉄滓（1142）　塊状を呈する。表面は凹凸が著しく、ところどころに炭化物をかみこんでいる。

viii）表採遺物（第153図・図版93）

須恵器（1143・1144）　いずれも杯B蓋である。1143は扁平で、口縁部は折り曲げられ、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。1144はかえりを持ち、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。

土師器（1145）　甑もしくは甕の把手である。体部内面はヘラケズリ、体部外面はハケメが施されている。



第154図　12次整地層出土遺物実測図
（1159は1／2、1158は1／3）

円礫（1146）　石材は砂岩である。

ix）撹乱出土遺物（第153図）

須恵器（1147～1149）　1147は杯Ｂ蓋である。体部は扁平で、口縁部は折り曲げられ、天井部外面は回転ヘラケズリが施される。1148は杯Ｂ身である。体部は直線的に口縁部に至り、高台は高く、底部外面端よりも内側に貼り付けられる。高台部に焼け歪みが認められる。1149は甕である。頸部は短く、頸部外面にはカキメが施される。

土師器（1150・1151）　1150は甑もしくは甕の把手である。ナデにより丁寧に仕上げられる。1151は小皿である。体部は外反しながら口縁部へ至る。器表摩滅のため調整は不明である。

磁器（1152～1156）　1152は玉縁口縁を持つ、白磁椀である。1153・1154は白磁皿である。1153の高台は低い。太宰府分類Ⅶ類か。1154はわずかに上底を呈す。1155は湯のみである。体部は直線的に直立しながら口縁部に至る。釉はごく薄く、均一に施されている。体部外面に星形のスタンプが認められ、旧陸軍が使用した軍用食器と思われる。1156は青磁椀である。口縁端部は小さく外反する。

瓦（1157）　平瓦である。全体的に器表が摩滅しているため、調整は不明である。

x）整地層出土遺物（第154図）

磁器（1158）　白磁皿であろうか。口縁部のみしか残存していないが、体部は口縁部下で屈曲していたようである。太宰府分類Ⅵ類であろうか。

石器（1159）　スクレイパーで、石材は安山岩である。（久住）

C．小結

今回の調査では、旧石器時代の遺構・遺物は認められなかった。以下では縄文時代以降の本堂12次について述べたい。

縄文～弥生時代

遺構は検出されなかったが、遺物が包含層や遺構の埋土中に混入した状態で出土した。縄文時代の遺物はＳＰ185出土の安山岩製の凹基式打製石鏃、近現代の整地層出土のスクレイパーがある。石器しか出土していないため、弥生時代の所産である可能性も否定できないが、形態などから縄文時代に属すると判断した。弥生時代の遺物は、第２面包含層・ＳＤ03上層などから板付Ⅱ式期～城ノ越式の土器が出土した。これらから該期の集落が周辺に展開していたことが想定される。本調査地北側の同一丘陵上に位置する本堂遺跡２次調査（註１）は、弥生時代早期・中期末～後期初頭に活動がうかがえることから、これらの時期以外にも同一丘陵上に集落が営まれていたことが考えられる。

古墳時代～飛鳥時代

6世紀末～7世紀前半にＳＸ08・13、7世紀前半にはＳＸ09が埋没している。該期の遺構は密度が

低い。また包含層から、瓦・中空硯などが出土している。瓦は平行タタキを多用し、牛頸窯跡群で６世紀末～７世紀前半代に生産されているものである。中空硯はこれだけでその製作時期を確定するのは困難であるが、春日市浦の原窯跡群（註２）・惣利北遺跡（註３）で７世紀後半の亀を模す中空硯が出土していることから、参考とすることができよう。形態や細かな製作技法は共通しない点もあるが、惣利北遺跡出土例は本体体部外面に中空の把手を貼り付けるという点で、本調査地出土例と共通している。またこの他にⅥ期の遺物が遺構の埋土や包含層から多く出土している。これらから周辺に該期の集落が展開しており、瓦葺建物の存在も推察される。

奈良時代

８世紀には主軸を北東にとるＳＢ01・02が建てられ、ＳＸ11が掘削される。ＳＢ01・02は切り合っており、時期はＳＢ01が８世紀前半～中頃とでき、ＳＢ02が先行する。その後、ＳＢ01・ＳＸ11を切る、ＳＤ01を伴うＳＢ04が配置される。このＳＢ04は主軸を正方位にとるもので、掘方中の最も新しい遺物は小片のため時期を確定しにくいが８世紀中頃～後半、ＳＤ01の最も新しい遺物は８世紀中頃～後半である。ゆえにこの建物と雨落ち溝は少なくとも８世紀後半には機能していたことが考えられる。また調査地内から９世紀代の遺物が調査地内から全く出土しておらず、これも建物の下限がやはり８世紀代に収まることを裏付けている。ＳＸ11は掘削時期を確定することはできないが、同一個体片がＳＸ11・ＳＤ01の両遺構から出土していることから、８世紀中頃～後半の時期には完全に埋没していなかったとみられる。この他にＳＤ02・ＳＸ06が８世紀中頃～後半に埋没している。また調査地内からは、鞴羽口が２点、鉄滓が30点以上出土した。鞴羽口は包含層からの出土であるが、鉄滓はＳＤ01・ＳＢ04などから出土しており、奈良期もしくはそれ以前に鉄生産に関わる行為を本調査地の周辺で行っていたことが考えられる。

ＳＢ04の出現は、この集落の性格を理解する上で重要である。ＳＢ04出現以前は建物を地形に従い配置していると考えられるが、ＳＢ04は正方位を意識し配置されている。構造は溝を伴い、北・西・南の三面に廂をめぐらせている。また調査地西側は岩盤が露出し遺構が削平を受けているので、本来の丘陵はより高いものであったことを想定すると、ＳＢ04周辺は傾斜が緩やかであるので、推測の域を出ないが、丘陵を部分的に整形した可能性を考えている。建物の性格は、その構造から官衙・寺院などの公的施設、村落寺院や在地氏族の居館などが想定されるが、建物の一部しか検出されなかったこともあり、本調査地の成果だけではその性格を明らかにすることはできない。周辺の本堂１・７・９・17次調査の成果と合わせて、集落の性格を検討したい。

平安時代以降

ＳＸ01は11世紀代、ＳＸ04・05は10世紀第３四半期～11世紀第１四半期に埋没している。ＳＸ04は粘土が検出された。厚みは薄く、床面のやや上方で出土しており、廃棄されたのではなかろうか。ＳＤ03は７・８世紀代の須恵器が多く出土しているが、下層から白磁椀の太宰府分類Ⅴ類が出土していることから、11～12世紀代に掘削されたと考えられる。２区では該期の遺構・遺物は少なく、ＳＤ03を含め、集落の様相を把握するには材料が乏しい。また鉄滓がＳＸ04・05から１点、ＳＤ03から２点の計３点出土した。該期のものか、奈良期の遺構から出土しているものと同時期のものか判断はつきかねる。（久住）

註１　石木秀啓編2008『牛頸本堂遺跡群Ⅴ』大野城市教育委員会文化財調査報告書第76集
註２　平田定幸・丸山康晴編1918『浦の原窯跡群』春日市教育委員会文化財調査報告書第11集
註３　丸山康晴・平田定幸編1986「惣利北遺跡」『春日地区遺跡群Ⅳ』春日市教育委員会文化財調査報告書第16集

４．第16次調査

Ａ．調査概要（第155図・図版39）

第16次調査地は、本堂遺跡２次調査地の南東側に隣接する。大野城市大字上大利632－１にあたり、調査面積は548㎡である。調査地は、牛頸山から北側に延びる丘陵が次第に標高を減じ、平野部に突き出した低丘陵上に位置しており、本来の地形は丘陵緩斜面にあたると考えられる。

試掘調査は、平成18年２月10日～20日の間に67次試掘調査Ａ地点としておこなった。隣接する第２・６・14次調査で遺構が確認されていたため、本調査地においても続きが検出されるものと考え、試掘調査というよりはそのまま表土剥ぎを実施したような状況である。調査前より住宅による削平が著しいものと予想していたが、実際に遺構面は相当の削平を受けており、調査区内はほぼ平らに近い状態であった。

発掘調査は、平成18年３月８日～４月21日の間に実施した。遺構は主に調査区中央部より北側で多く検出されたが、南西側は丘陵の削平が著しく、ほとんど確認できなかった。調査の結果、溝３条・土坑１基・ピットが多数確認された。隣接する調査地に比べて竪穴住居跡等の大型の遺構が少なく、遺構密度も散漫である。（北川・石木）

Ｂ．遺構と遺物

（１）溝跡

ＳＤ01(第156図)

隣接する本堂２次調査で、ＳＤ03とした溝の続きを調査区北西側で検出した。等高線と平行しており、幅は40～70cm、深さは8cm～20cm。断面は逆台形を呈し、南西に向かって底面レベルは深くなる。溝の南側は、削平されており確認できなかった。埋土は明黄褐色土。出土遺物は、須恵器・土師器などがあるが、図化できるものはなかった。（北川・石木）

ＳＤ02(第156図・図版39～41)

調査区中央から南東に向かって弧状に延び、ＳＤ03を切る。幅0.5ｍ～3.5ｍ、深さ5cm～60cm、東に向かって底面のレベルが深くなる。検出当初、SD03との切り合い関係はＳＤ02→ＳＤ03と考えたが、土層ベルトＧ－Ｇ´の観察結果よりＳＤ03→ＳＤ02であることを確認した。出土遺物は、須恵器・土師器・陶磁器などがある。（北川）

出土遺物（第157図・図版94）

瓦質土器（1160・1161）　いずれも釜。1160は鍔部片で、断面コの字形を呈する。下面に煤が付着する。1161は口縁部片。内外面ヨコナデ、外面には菱形文のスタンプを施す。

磁器（1162）　白磁椀。大宰府分類ＸＩ類か？外面露胎、内面は薄く施釉する。

陶器（1163）　中国製壺の底部片。底部平底。外面に褐色釉を施し、底部内面の一部に釉が付着する。

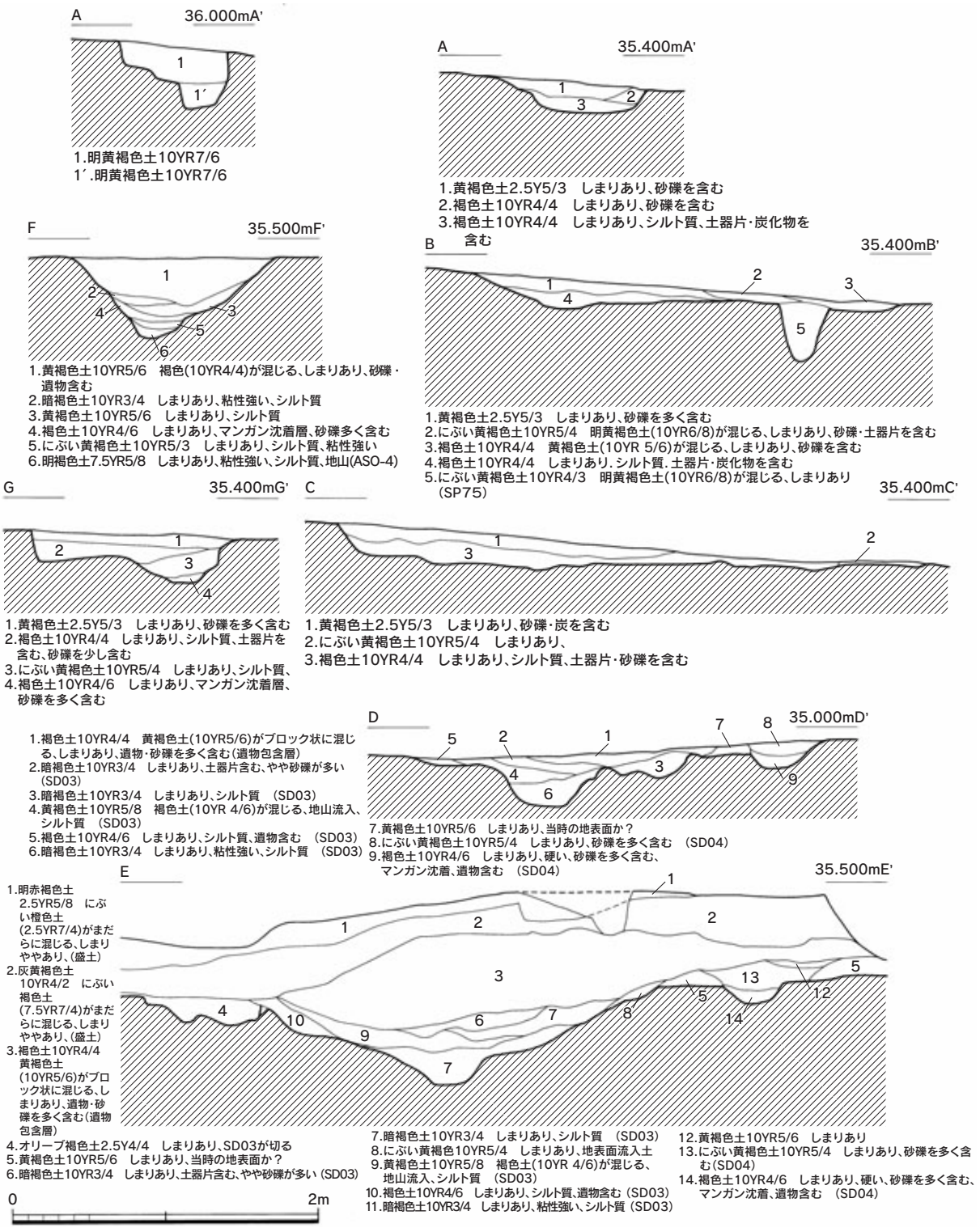
鉄器（1164）　鉄釘で先端を欠損する。断面は頭部側が方形、先端側は長方形を呈する。

石器（1165）　黒曜石製石鏃。基部の抉りは深い。全体を丁寧な押圧剥離で作り出す。（上田）

ＳＤ03（第156図・図版41）

調査区中央を東西に延び、幅0.4ｍ～1.1ｍ、深さ13cm～45cm。断面は逆台形を呈する。底面のレベルは東に向かって深くなる。出土遺物は、須恵器・土師器・瓦器・陶磁器などがある。（北川）

第155図　16次調査地全体図（1／200）



第156図　16次ＳＤ01～03土層実測図（1／40）

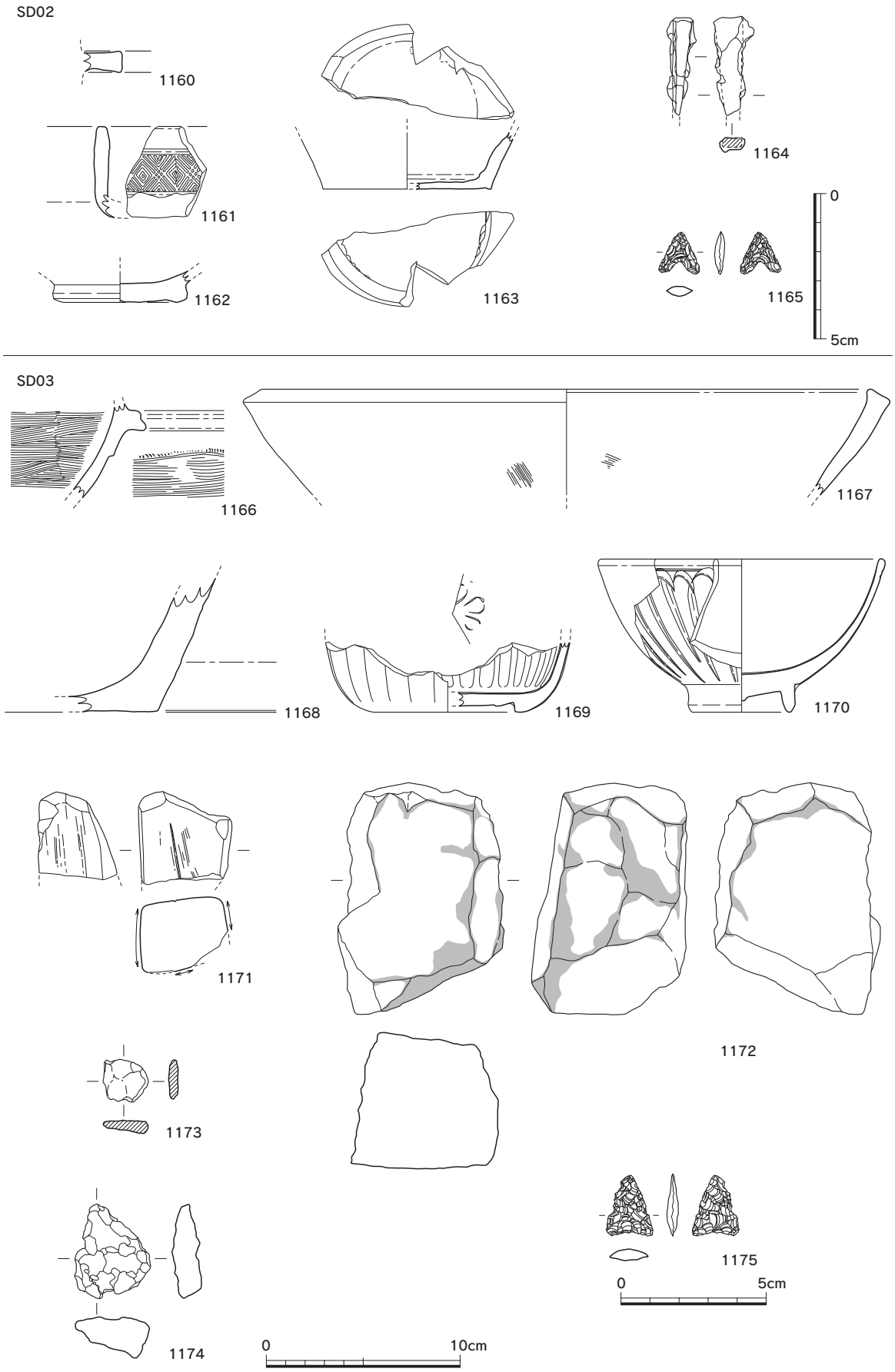
出土遺物（第157図・図版94・95）

瓦質土器（1166）　釜の体部片。鍔は短い。内外面ともにヨコハケ。

土師質土器（1167）　鉢の口縁部片。口縁部は玉縁状を呈する。

陶器（1168）　甕の底部。外面全体に褐色釉を施す。底部外面に目跡がある。

磁器（1169・1170）　いずれも龍泉窯系青磁。1169は杯。碁笥底。施釉後、畳付を掻き取る。外



第157図　16次ＳＤ02・03出土遺物実測図（1165・1175は１／２、他は１／３）

面は蓮弁文、見込みに線彫りによる花文を施す。1170は椀。上田分類B－Ⅲ－a類（註１）で、内外面施釉する。高台の内面は半分ほど釉がかかり、端部は釉を拭き取る。外面には片彫りによる蓮弁文を施す。

石器（1171・1172）　1171は砥石で、４面を砥面として使用する。1172は花崗岩の石材で、一部に被熱痕があり表面は平滑である。

鉄器（1173）　用途不明。扁平な略方形を呈する。

鉄滓（1174）　メタルが残存する。炉底滓か？

石器（1175）　石鏃。黒曜石製。全体を押圧剥離によって作り出す。基部の抉りは小さく二等辺三角形を呈する。（上田）

（2）土坑

ＳＸ01(第158図)

調査区北東側に位置し、東側は調査区外に延びる。調査区内での規模は、長さ1.0ｍ、幅0.3ｍ、深さ9cm～29cmと東に向かって深くなる。断面は逆台形。出土遺物は、須恵器があるが、図化できるものはなかった。（北川）

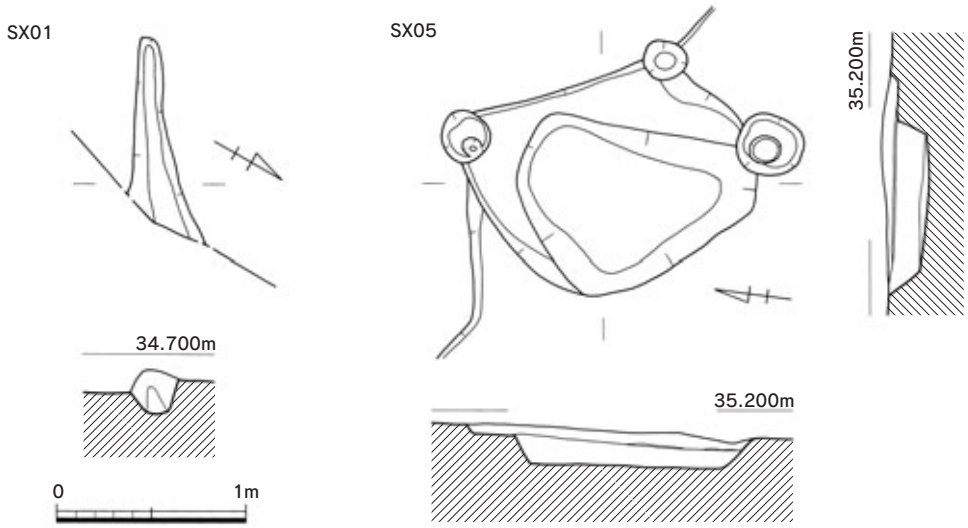
ＳＸ04（第159図・図版42)

調査区中央に位置し、中央部を井戸により切られる。長さ7.2ｍ、幅1.5ｍ、深さ15cm～40cm。断面は逆台形を呈する。検出時はＳＸ04の南側まで遺構の広がりを確認し、土層ベルトＣ－Ｃ´より南側をＳＸ04－３区として、掘削、遺物の取り上げを行った。しかし、Ｅ－Ｅ´・Ｆ－Ｆ´の掘削を進めると、ＳＸ04とは異なるプランの遺構が確認でき、別の遺構と考えられる。出土遺物は、須恵器・土師器・瓦質土器などがある。（北川）

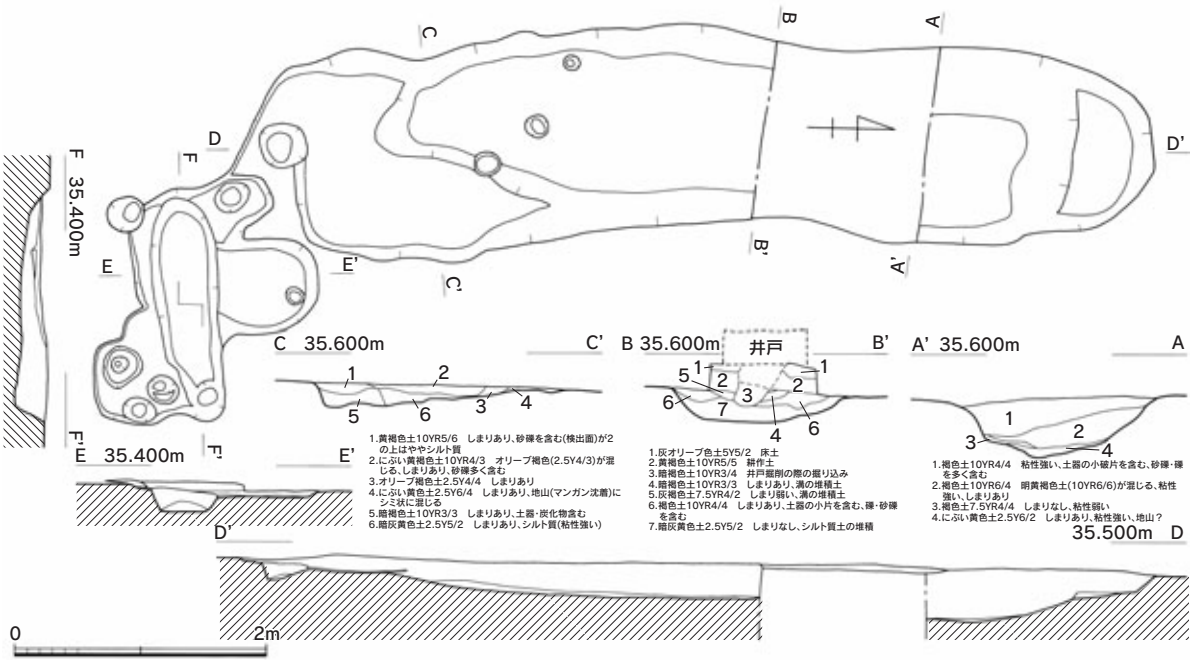
出土遺物（第160図）

土師器（1176・1177）　いずれも杯。1176は体部ヨコナデ、底部は糸切り。外面の底部から体部にかけて黒斑がある。1177は底部片。全体に摩滅するが、底部は糸切りである。

土師質土器（1178・1179）　1178は鍋の口縁部片で、口縁部のやや下がった位置に三角突帯を貼



第158図　16次ＳＸ01・05実測図（１／40）

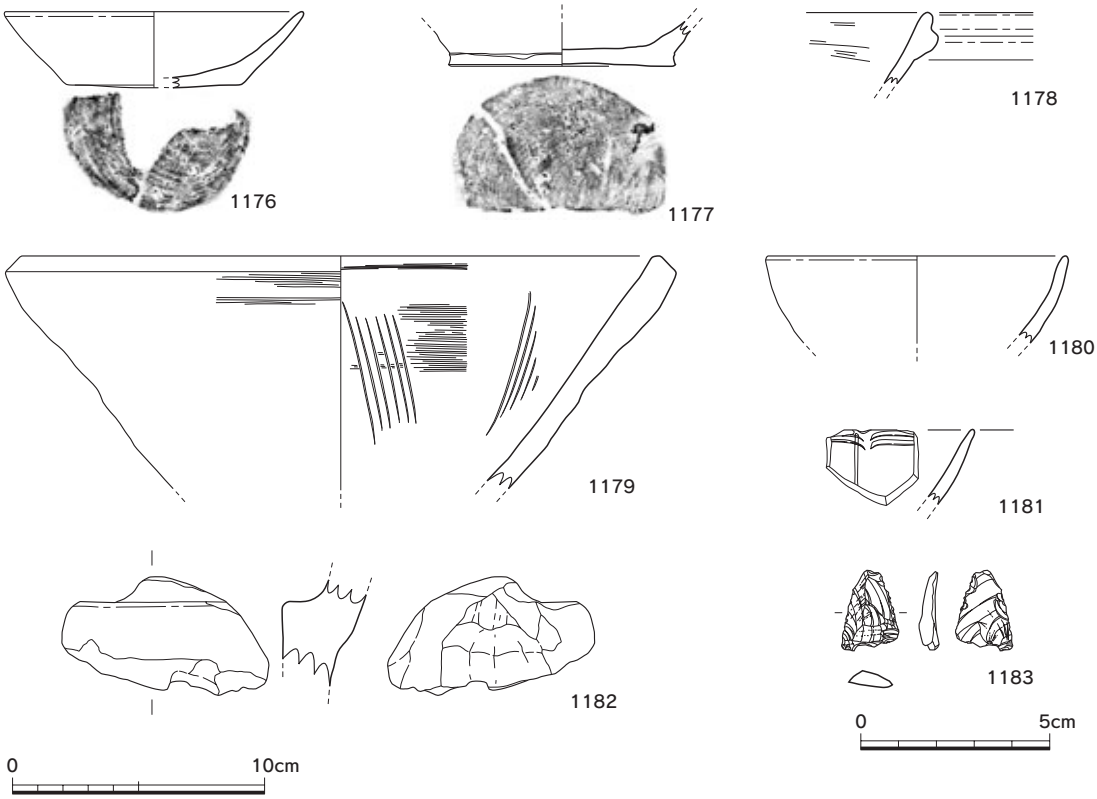


第159図　16次ＳＸ04実測図（１／60）

り付ける。内面ヨコハケ、外面には煤が付着する。1179は擂鉢で内面に６本を一単位とした擂目がある。内外面ヨコハケで内面に擂目を施す。

陶器（1180）　禾目天目椀。黒褐釉地。

磁器（1181）　龍泉窯系青磁椀。太宰府分類Ⅰ－４ｃ類。口縁部内面に片彫りの二本線を施し、内



第160図　16次ＳＸ04出土遺物実測図（1183は１／２、他は１／３）

面には縦の白堆線がある。

瓦（1182）　丸瓦。凸面はナデ。

石器（1183）　黒曜石の縦長剥片で、側縁の一方に微細な剥離痕がある。（上田）

ＳＸ05（第158図）

ＳＤ02を完掘後に検出した。平面形は不整形な台形を呈し、長さ1.4ｍ、幅1.1ｍ、深さ17cm。出土遺物は、須恵器・土師器があるが、図化できるものはなかった。（北川）

（3）その他の遺構出土遺物（第161図・図版95）

土師器（1184・1188・1191）　いずれも杯。1184は全体的に摩滅するが底部は糸切りである。1188は全体に摩滅するが底部内面はナデ、体部はヨコナデか。1191は全体的に摩滅するが底部はナデ、体部はヨコナデか。

磁器（1186）　白磁皿の口縁部片である。体部は内湾気味に立ち上がり口縁部は外反する。全体に薄く施釉し、口縁部内面には厚く釉がたまる。

鉄器（1187・1189）　いずれも不明鉄製品。1187は薄い板状で、平面は二等辺三角形状を呈す。底辺側にわずかに抉りがある。1189は薄い板状で、平面は不整な台形を呈す。

石器（1185・1190・1192）　1185は磨製石斧で、基部の一部を欠損する。表裏面は丁寧なミガキ、両側縁は敲打痕を残す。1190は黒曜石の石鏃で、基部は凸状になる。全体をやや粗い押圧剥離により作り出す。1192は花崗岩の石材である。全体に被熱痕があり一部に煤が付着する。カマド袖石か。（上田）

Ｃ．小結

16次調査は確認された遺構・遺物が少ない。これは遺構の残存状況にもよるが、特に弥生土器・須恵器など古代に位置付けられる遺物が極端に少ないことは注目できる。以下では、時代をおって遺構・遺物の状況を見てゆきたい。

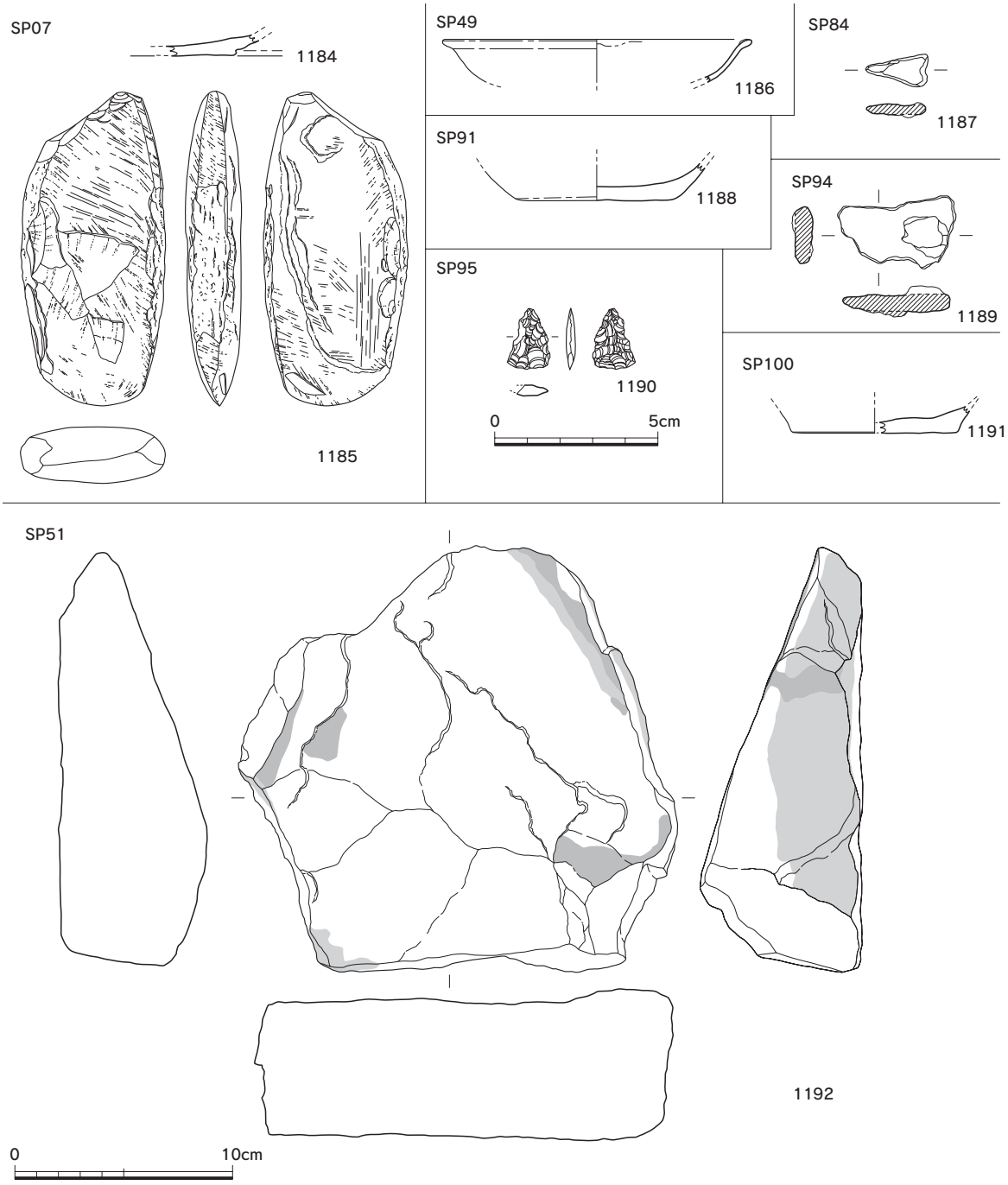
旧石器時代～奈良時代

この時期の遺構・遺物は極めて少ない。特に、周辺で多く確認され、出土量も多い須恵器のほとんどが器種判別も困難なほど小片であり、また量も少ない。住宅の建設に伴い削平された可能性もあるが、元々遺構の数が少なかったと考えられる。

平安時代以降

時期の明らかになる遺構は非常に少ないが、ＳＸ04は土師器から14世紀代の年代が考えられる。ＳＤ02は小片であるが鍔付の釜を含み、15世紀代か？ＳＤ03は青磁椀から15世紀代にあたる。（石木）

註１　上田秀夫1982「14～16世紀の青磁椀の分類について」『貿易陶磁研究№.２』

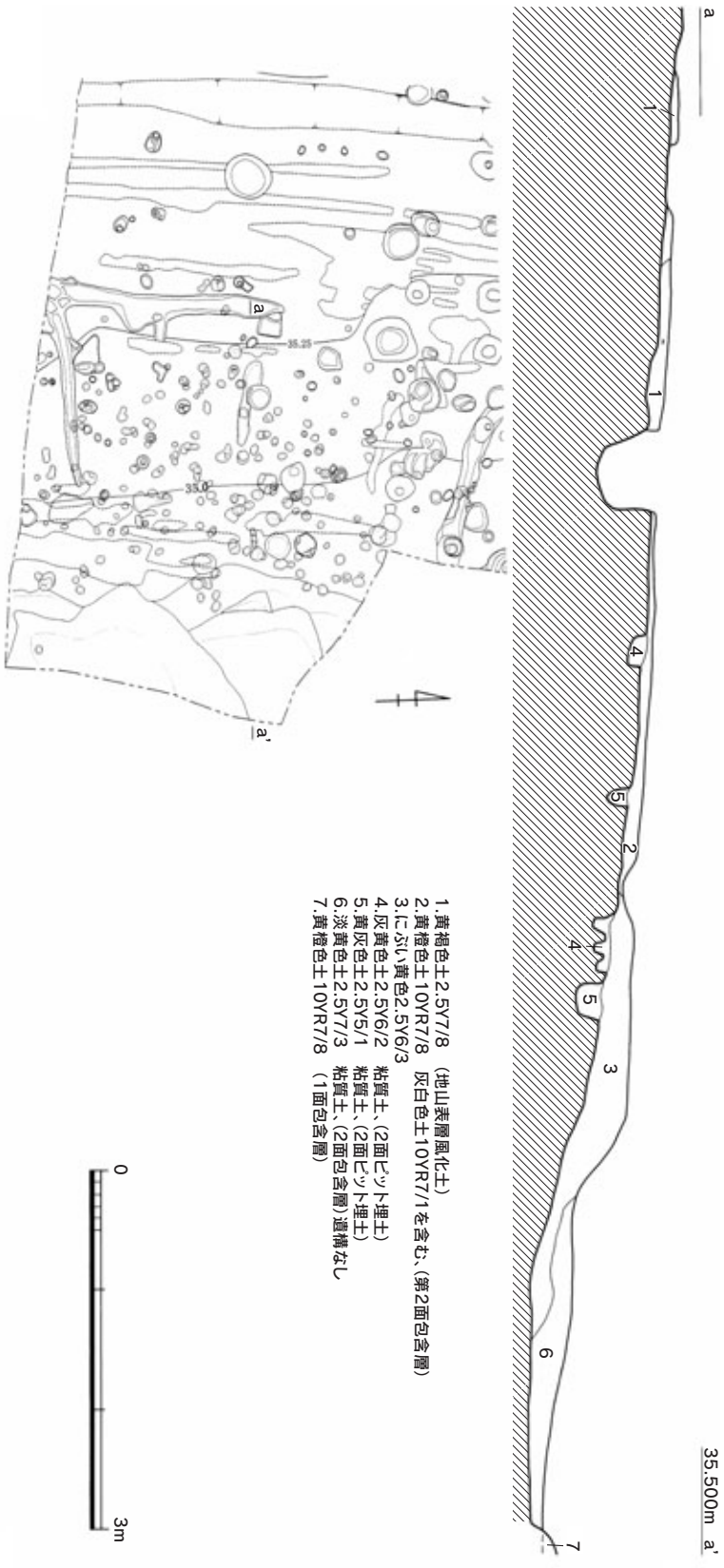


第161図　16次ＳＰ出土遺物実測図（1190は１／２、他は１／３）

５．第17次調査

Ａ．調査概要（第102図・図版43）

第17次調査地は、下大利南ヶ丘線に面した住宅地にあり、大野城市大字上大利621番地ほかにあたる。調査面積は約1,100㎡である。調査区は、本堂遺跡12次調査地の東隣にあり、遺構が連続していることから、12次調査終了後、埋め戻して現地保存を図り、17次調査時に合わせて表土剥ぎをおこなった。



第162図　17次整地層実測図（1／60）

発掘調査は平成18年４月18日から８月１日の間に実施した。調査はまず埋め戻していた12次調査の遺構を掘り出すことから開始した。12次調査との境は土手を残して表土剥ぎを実施しており、手掘りにより慎重に掘り下げを進め、遺構の検出に努めた。12・17次調査地の比高差は50～200cmあり、相当の遺構が削平にあったものと考えられる。また、17次調査地では住宅以前の耕作痕が南北に

表土剥ぎは、平成18年２月10日から３月23日の間に67次試掘調査Ｂ地点としておこなった。表土を除去してみると、南側に隣接する９次調査と同じく住宅建設により大きく削平される事が判明した。しかし、削平された割に多くの遺構が残っており、元々の遺構はさらに密度の濃いものであったと考えられる。

無数あり、これが遺構検出・掘り下げの障害となった。

調査を進めるにしたがい、調査区の東半部には遺構面が２面あることが明らかとなった。第１面は黄橙色土～浅黄色土を基盤とし調査区東壁まで続くが、第２面は東壁側に明確な遺構面が認められず、急激に下がる状況を確認した。ここからは大量の須恵器・土師器が出土し、第１面で整地される以前は下大利南ヶ丘線にむかって下がる谷部にあたることが判明した。このため可能な限り谷部の掘り下げをおこない遺物の取り上げに努めたが、歩道に面し掘り下げには危険性が伴っていたため十分な調査はできなかった。

調査の結果、12次調査地から続く大型掘立柱建物１棟・掘立柱建物５棟・溝１条・井戸４基・土坑２基・ピット多数が確認された。掘立柱建物は大型のものが多く、特に12次調査地から続く建物は主軸を東西方向へ向けており、何らかの規格性の下に造営されたと考えられる。その他はやや東に主軸がふれており、地形的な制約があったものであろう。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・灰釉陶器・円面硯・瓦・青磁・白磁・石器・鉄滓などがある。（石木）

Ｂ．遺構と遺物

（１）層位（第162図）

17次調査地は大きく削平を受けているにも関わらず、東半部は遺構面が２面確認された。第１面は、耕土下に検出された黄橙色土層である。これを除去すると、浅黄色土を基盤とする第２面が確認された。調査開始時点では第１・２面の区別は非常につけづらく、整地層が存在すると確認できたのは遺構検出を始めてからのことであった。遺構のほとんどは第１面上で確認されており、第２面の遺構はピットが多く、建物を構成するような柱列は確認できなかった。したがって、以下で報告する遺構は第１面・第２面の遺構を分けて報告するが、整地層がなく帰属する面が不明なものについては、出土遺物の時期により第１・２面に分けたものもある。（石木）

（２）第１面の遺構

ｉ）掘立柱建物

ＳＢ01（第163図・図版44）

調査区の中央部付近に位置する。ＳＢ04に切られる（ＳＰ124・143）２×２間の総柱建物である。規模は、桁行3.48～3.67ｍ、梁行3.05～3.24ｍ。柱穴はいずれも円形プランを呈し、径0.33～0.63ｍ。各柱穴からは、須恵器・土師器が出土している。（石木）

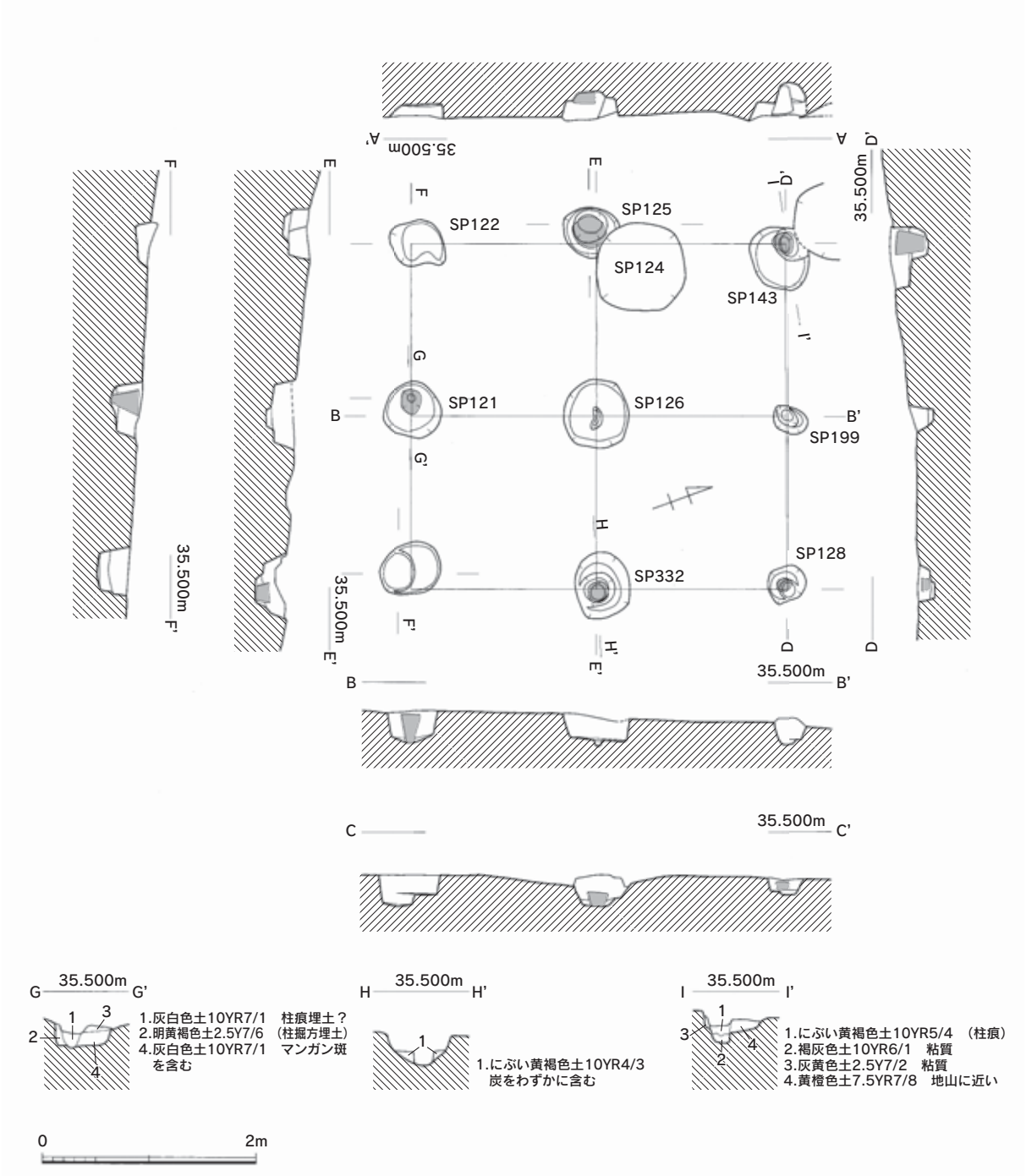
出土遺物（第164図）

須恵器（1193）　杯。口縁部は端部が丸く、底部からやや外傾ぎみに伸びる。

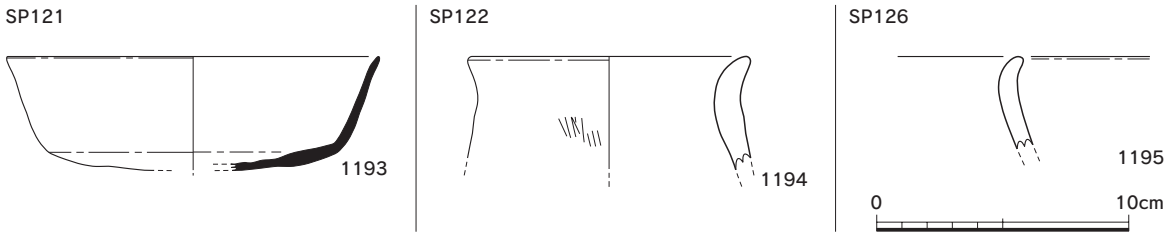
土師器（1194・1195）　いずれも甕。口縁部がゆるやかに外反する。摩滅のため調整不明。（大里）

ＳＢ02（第165図・図版45）

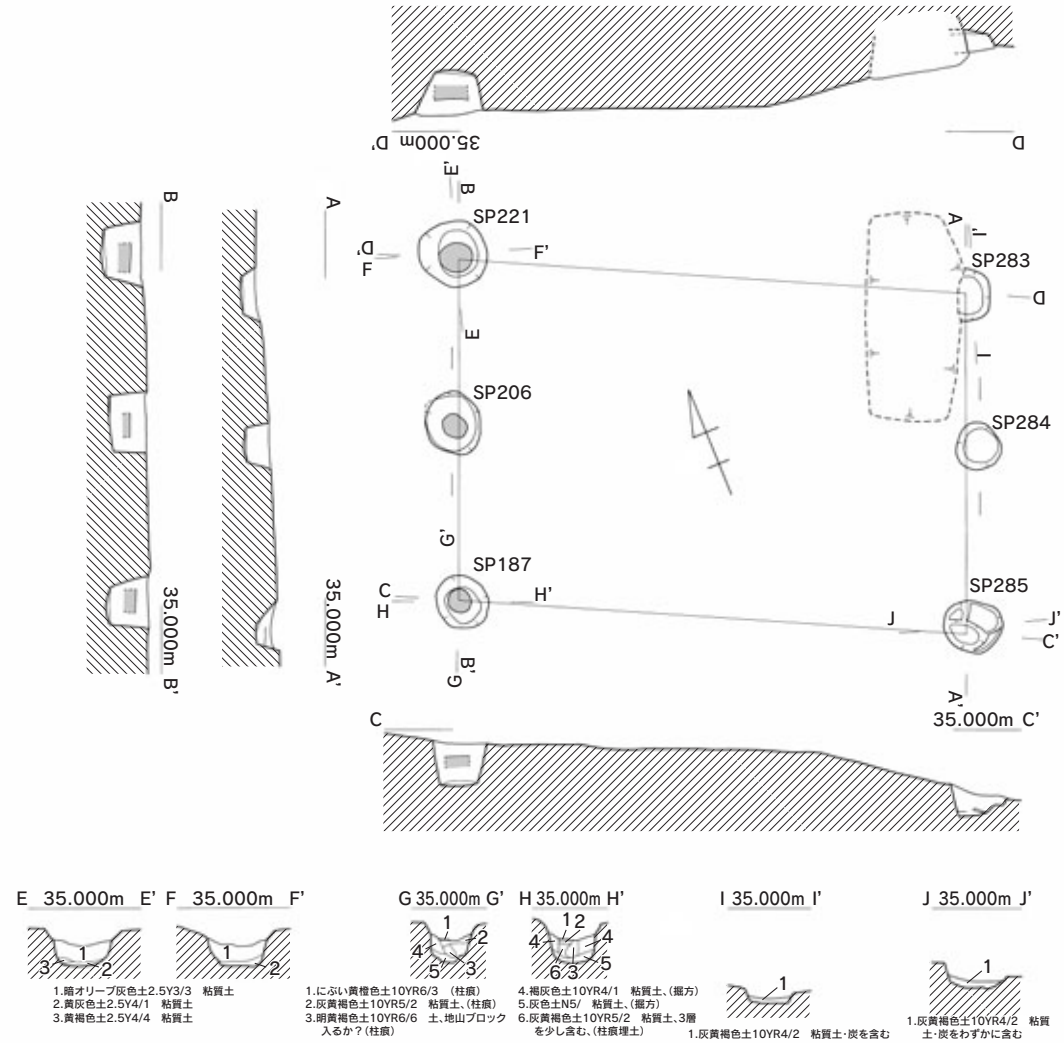
調査区の東側中央部に位置する。東西の柱列を検出し、柱列間を精査した結果、間をつなぐような柱は確認できなかったが、柱列の方向と柱穴の間隔が揃っていることから一連の建物と考えた。建物は１×２間が確認され、東西の柱列間は4.48ｍ、東西の柱列長は3.00ｍ。柱穴はいずれも円形プランを呈し、径40～60cm。柱痕は西側柱列のみ確認され、径20～25cmと調査区内の建物の中



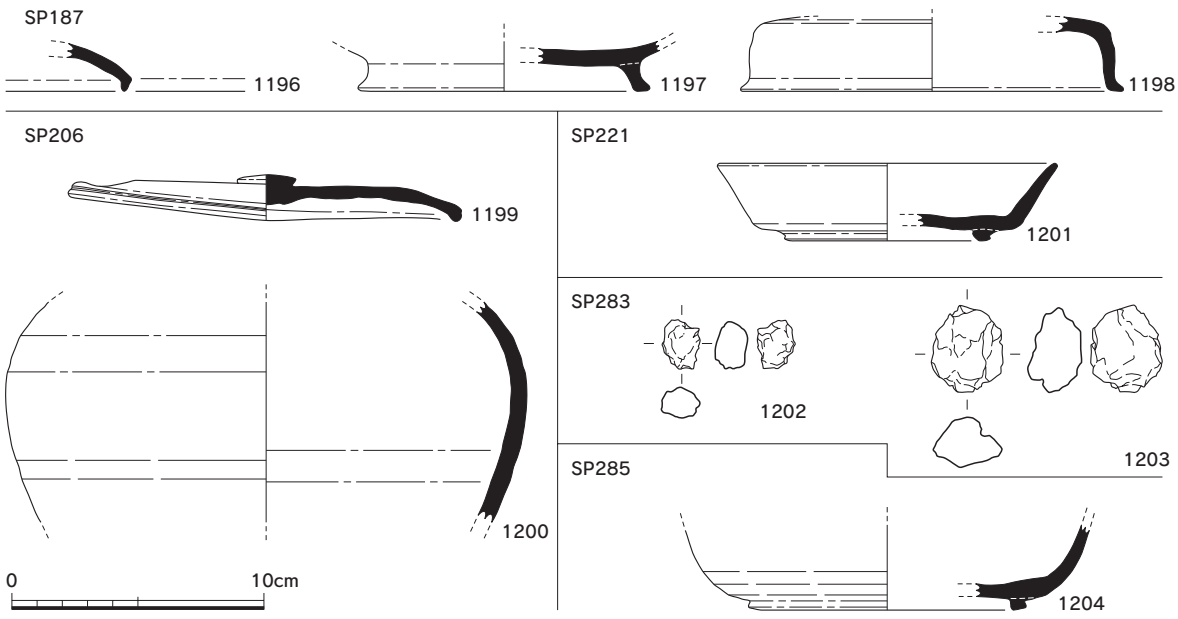
第163図　17次ＳＢ01実測図（1／60）



第164図　17次ＳＢ01出土遺物実測図（1／3）



第165図　17次ＳＢ02実測図（1／100）



第166図　17次ＳＢ02出土遺物実測図（1／3）

でも極めて大きい。柱配置を合わせて考えると、通有の掘立柱建物ではない可能性もある。各柱穴からは須恵器・土師器が出土しており、その他ＳＰ187からは鞴羽口片、ＳＰ283からは鉄滓が出土している。（石木）

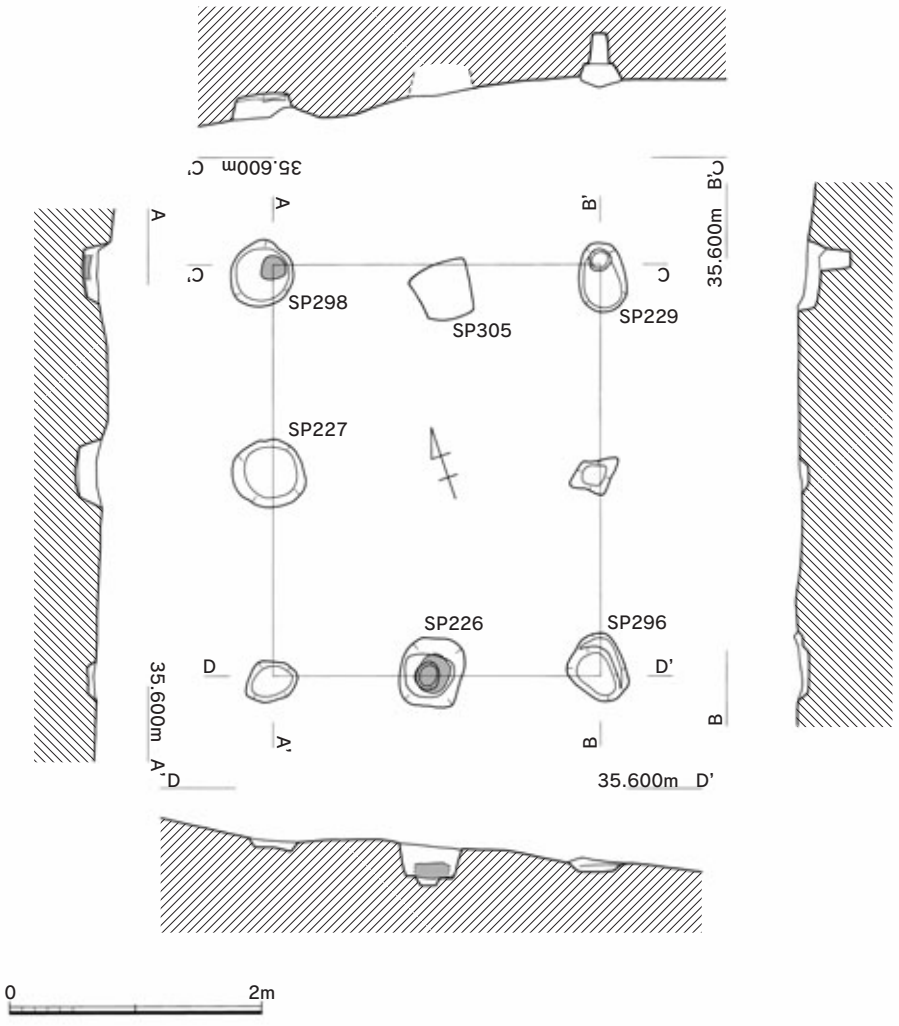
出土遺物（第166図・図版95）

須恵器（1196～1201・1204）　1196・1199は杯蓋。1196は口縁部の一部が残存し、回転ナデをおこなう。1199の天井部外面はヘラケズリ。1197・1201・1204は杯身。1197は高台が高く、ハの字形に広がる。1201の底部はヘラ切り。高台は短く、口縁部へはまっすぐ伸びる。1204も底部はヘラ切り。高台は短く、内端部で接地する。底部から体部へは丸みをもつ。1198・1200は短頸壺。1198は蓋。口縁部はつまみ出され、口唇部は平ら。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。1200は最大径を上部にとる。

鉄滓（1202・1203）　どちらもメタルが残存している。（大里）

ＳＢ03（第167図・図版44）

調査区の中央部よりやや北側に位置する。２×２間の掘立柱建物である。桁行3.25ｍ、梁行2.60ｍ。柱穴は円形～楕円形プランを呈し、34～57cm。柱痕が確認できるものはＳＰ296・298が



第167図　17次ＳＢ03実測図（１／60）

あり、径19～31cm。各柱穴からは須恵器・土師器が出土しており、７世紀後半から８世紀前半の須恵器杯Ｂが出土しているが、図化できるものはなかった。（石木）

ＳＢ04（第102図・図版46・47）

調査区の中央部に位置し、12次調査から連続する掘立柱建物である。主軸を東西方向にとり、桁行７間、梁行２間の身舎に西側は妻側と平側の一部に４×３間、東側は平側の両方に１×１間の柱列が巡る。西側の柱列の周囲には溝が巡らされており、柱列は庇と見ることができよう。東側の柱列は、身舎とは柱配置が異なる。身舎の桁行12.8～13.0m、梁行4.5～5.0m。桁側の柱間の寸法は、西側から北列2.1・1.9・2.4・1.3・1.8・1.8・1.75m、南列2.0・2.1・2.1・1.8・1.9・1.6・1.3mと庇がつく部分の柱間が広く、東側はやや狭くなっている。柱の掘方は庇がつく部分は円形～略方形プランを呈し、径0.9～1.55m、深さ0.9～1.1m、埋土は密に積まれ版築状を呈するのに対し、東側はいずれも略円形プランを呈し、径0.55～0.85m、深さ0.2～0.6m、埋土は積み方が荒く、規模も小さくなるが、東側が削平を受けるため柱穴の上端が失われている可能性が高い。柱痕は0.25～0.5m。各柱穴からは、須恵器・土師器が出土しているほか、ＳＰ89からは瓦が出土した。（石木）

出土遺物（第168図・図版95）

須恵器（1205～1210・1214～1231）　1205～1208・1222・1224～1226・1229は杯蓋。このうち1207のみ杯Ｈ蓋。1205は天井部外面回転ヘラ削り。1206はかえりは短く、断面三角形を呈する。1207は天井部は比較的高い。天井部外面にヘラ記号を施す。1208はかえりはやや長い。1222・1224は全体的に平らで、つまみは低い。1225は天井部外面回転ヘラ削り。1226は天井部外面回転ヘラ削り。1229はつまみが剥がれた痕跡がある。1209・1214・1217・1219・1220・1227・1230は杯身。1209は高台は底部端に付き、わずかにハの字型。1214は口縁部外反。高台はほぼ直立する。1217は高台はハの字に低く踏ん張る。1219は高台は低く、ややハの字につく。焼成不良。1220は高台は低く、ほぼ直立する。1227は高台は低く、直立している。1230は高台は低く、底部端につく。1221は杯。体部は直線的に伸びる。1215・1218・1228・1231は皿。1215は底部外面にヘラ記号をもつ。1218は底部外面回転ヘラ削り。体部は丸く、口縁部は外反する。1228は底部は平ら。1231は焼成不良、調整不明。1216は高台付皿。焼成不良。底部外面に黒斑が残る。1223は鉢。底部のみ残る。底部外面はヘラ切り後ナデ。1210は底部が丸く、未調整。

土師器（1211・1212）　1211は甕。底部外面に黒斑がみられる。1212は甑。摩滅のため調整不明。

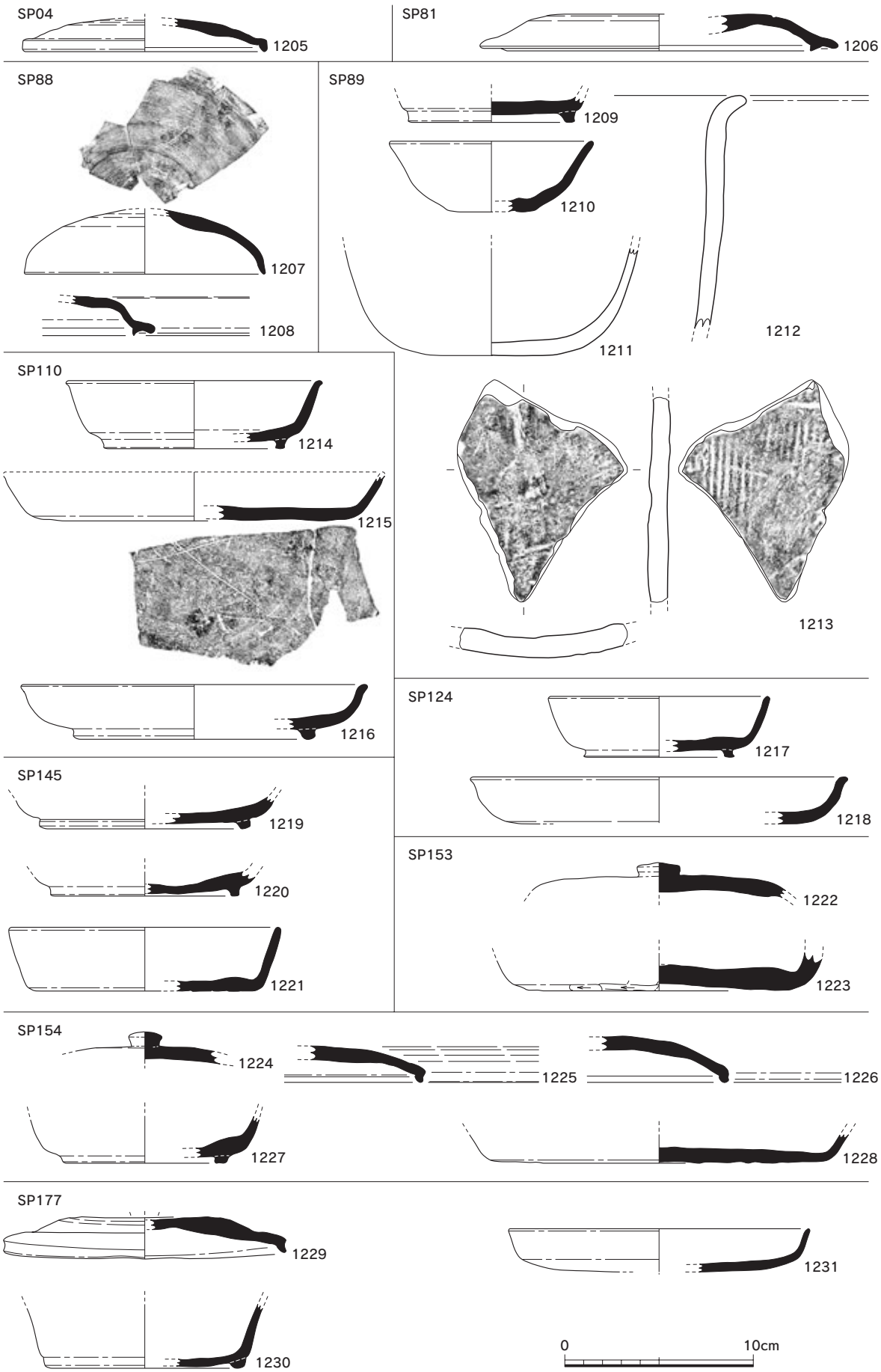
瓦（1213）　平瓦。焼成不良。凸面は平行タタキ、凹面は布目がみられる。（大里）

ＳＢ05（第169図・図版44）

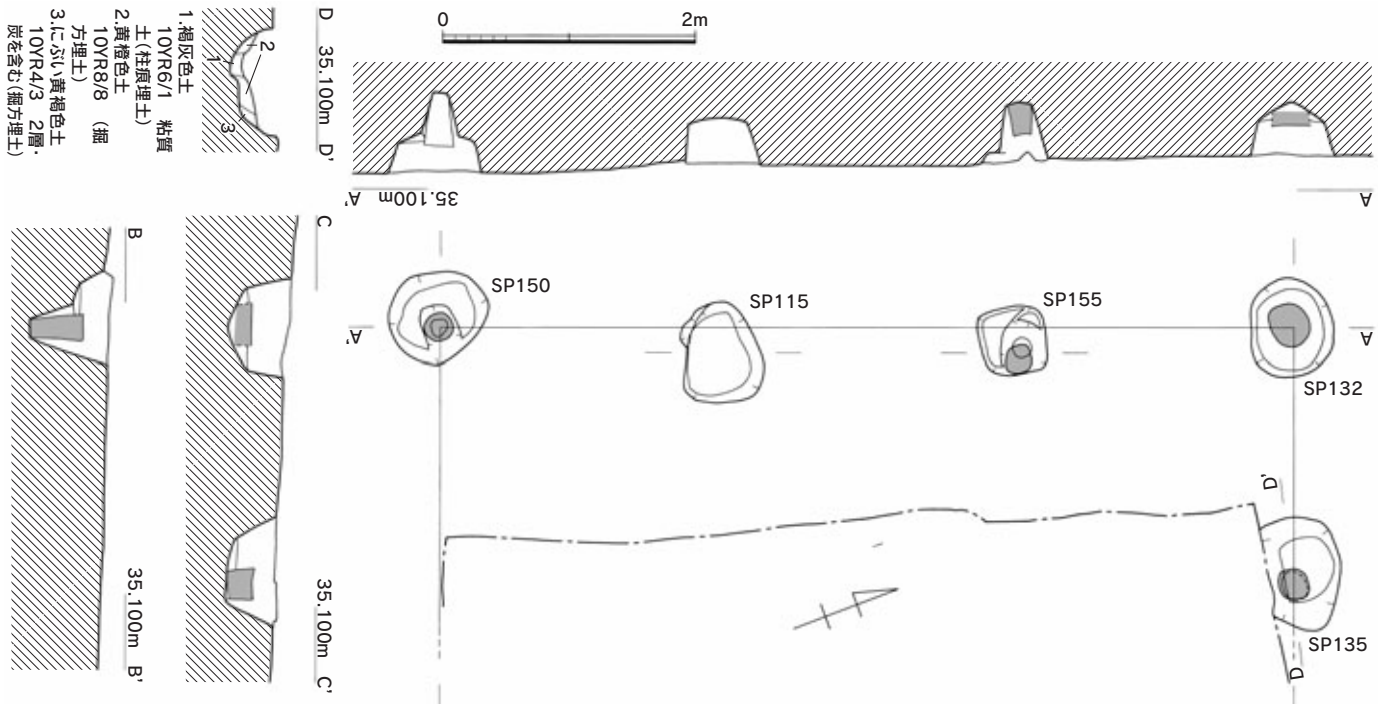
調査区の中央部やや東側に位置する。建物の東半部は調査区外へのびるが、ＳＢ01・02・06と同じ方向に西側の柱列が並ぶことから、２×３間の側柱建物と考えられる。桁行6.80m、梁行2.0m以上。柱穴はいずれも円形～不整円形プランを呈し、0.53～0.80m。柱痕が確認されるものは、いずれも円形プランを呈し、径15～30cm。各柱穴からは、須恵器・土師器が出土したほか、ＳＰ132・155からは鉄滓、ＳＰ150からは瓦が出土した。（石木）

出土遺物（第170図・図版95・96）

須恵器（1232～1234・1236～1238・1240～1243・1245～1247・1249～1251）　1236・1240～



第168図　17次ＳＢ04出土遺物実測図（１／３）



第169図　17次ＳＢ05実測図（１／60）

1242は杯蓋。1236はつまみを失う。1240は杯Ｈ蓋。1241はつまみは低く、中央にかすかなふくらみがあるが、ほぼ扁平である。1242は口縁部は直立し、断面三角形を呈する。1233・1234・1237・1238・1243・1245・1246・1249は杯身。いずれも杯Ｂ。1233は高台は低く、ハの字に広がり内端部で接地する。1234は高台はほぼ直立する。1237は高台低く、ほぼ直立する。1238は高台は細く、ほぼ直立している。1243は高台はやや太く短い。内端部で接する。1245は高台はほぼ直立し、内端部で接する。1246は高台はハの字を呈し、端部はわずかに凹む。1249は高台は低く、ほぼ全面で接地している。口縁はゆるやかに外反する。1250・1251は皿。1250は焼成不良。体部外面から口縁部内面に焼きムラがある。1247は高杯。内外面は回転ナデを施し、外面にシボリ痕がみられる。焼け歪んでいる。1232はつまみの縁は打ち欠かれるが、焼きムラから径2.5～４cmの浅い皿状を呈する可能性がある。内面は当て具痕がみられる。高杯の蓋か？

土師器（1235・1252）　1235は把手のみ。甑か？1252は甕。体部外面に破裂痕、煤が付着する。

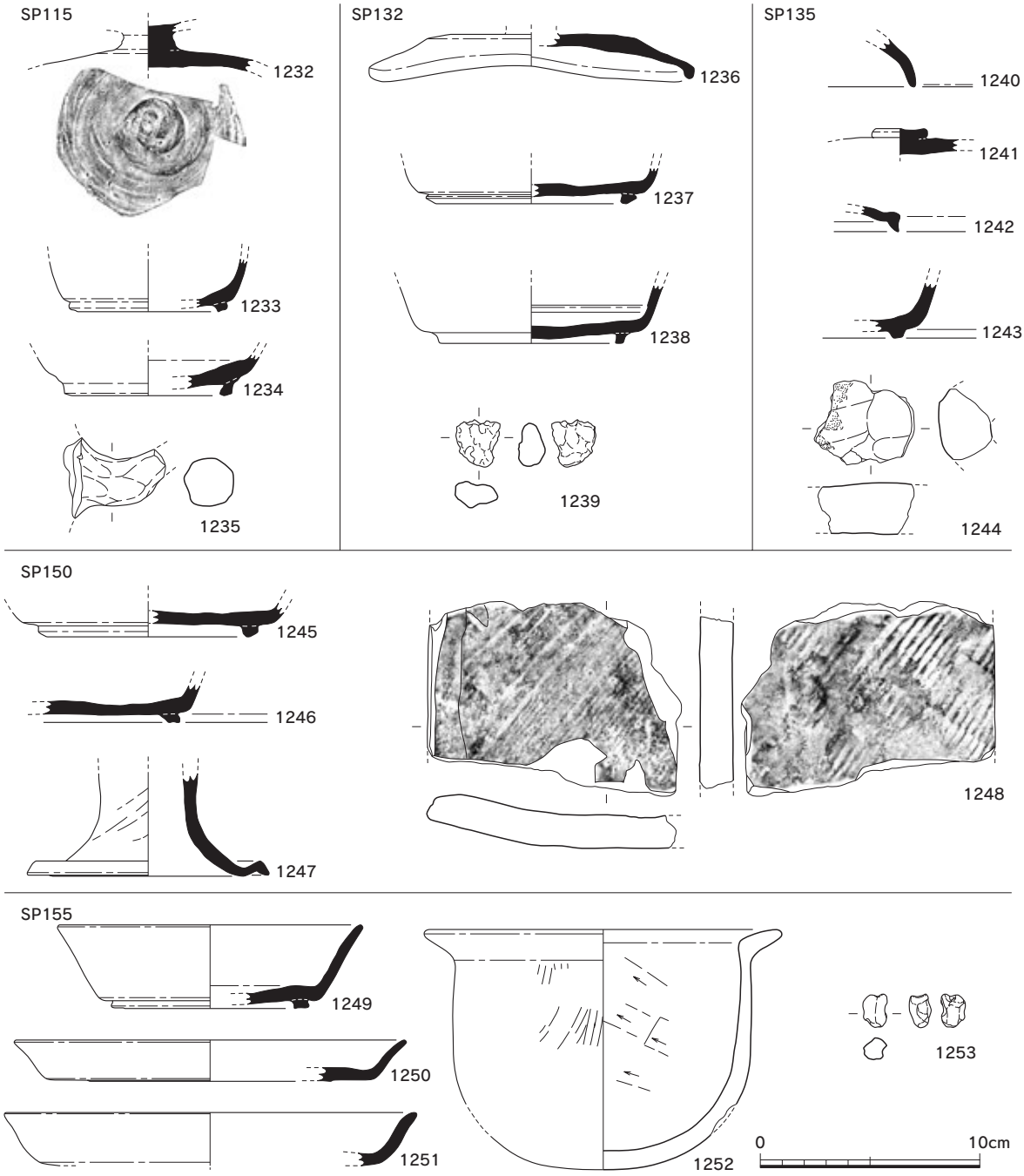
土製品（1244）　鞴羽口。端部は還元する。破面に煤が付着。

瓦（1248）　平瓦。凸面平行タタキ、凹面弓切り痕のように見えるが、摩滅が著しい。

鉄滓（1239・1253）　どちらも2～2.5cmほどの小さな鉄滓。　（大里）

ＳＢ06（第171図・図版44）

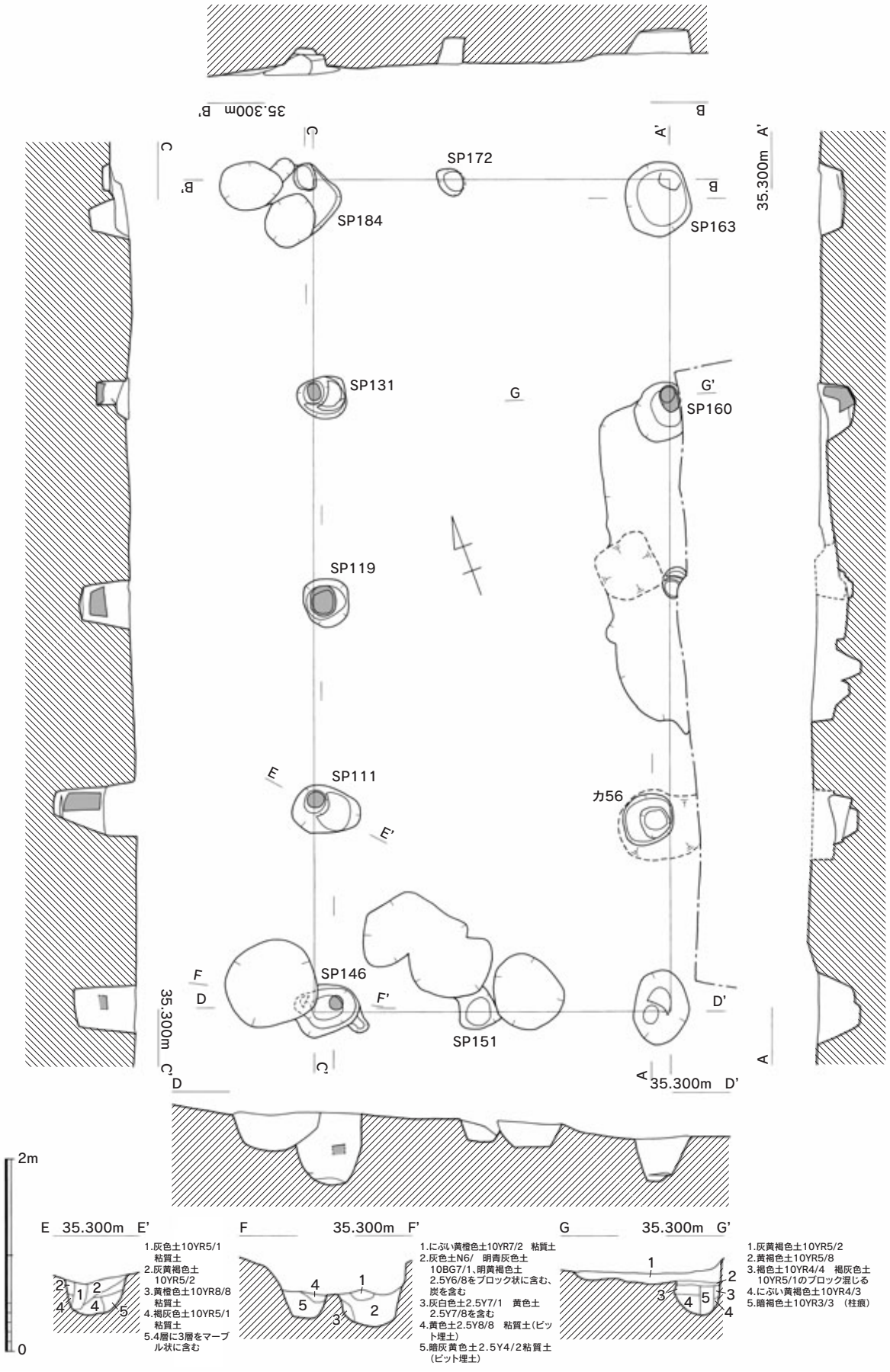
調査区の中央部やや東側に位置する２×４間の側柱建物である。ＳＢ04・05と重複するが、ＳＢ04とはＳＰ145・146が切り合うことからＳＢ06→ＳＢ04の順序が確認できる。ＳＢ05とは同じ建物主軸方向をとるが、ＳＰ150・151が切り合うことから、ＳＢ06→ＳＢ05の順序が考えられる。柱穴はいずれも円形～不整楕円形を呈し、妻側中央の柱がやや小さく径0.25～0.45m、その他は0.5～0.75m。柱痕は18～31cm。各柱穴からは須恵器・土師器が出土したほか、ＳＰ163からは鉄滓・鞴羽口、ＳＰ184からは鉄滓が出土した。　（石木）



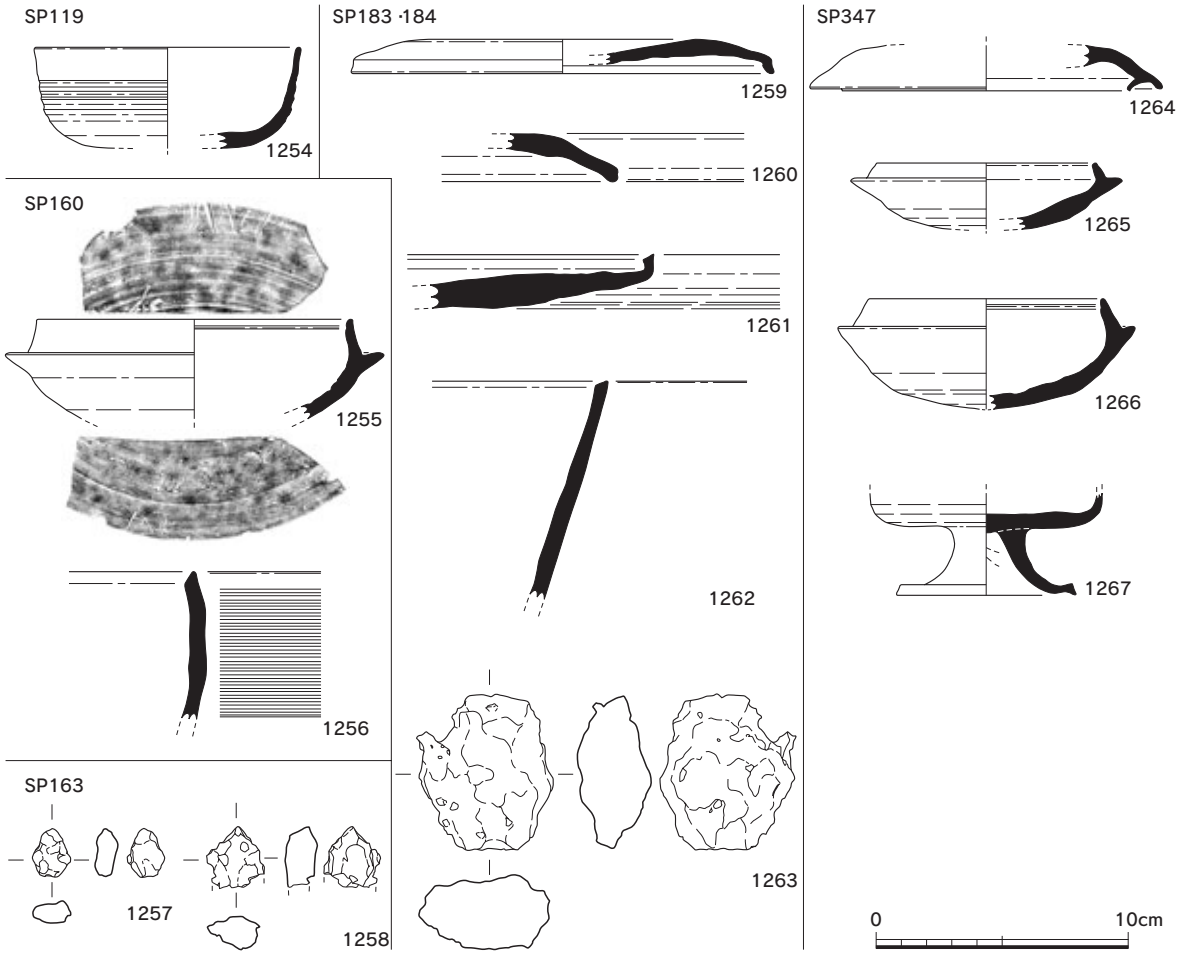
第170図　17次ＳＢ05出土遺物実測図（１／３）

出土遺物（第172図・図版96）

須恵器（1254～1256・1259～1262・1264～1267）　1259・1260・1264は杯蓋。1259は焼け歪むため、傾きに難あり。口縁部の折り曲げは長い。1260は端部の折り曲げは短い。1264は口縁部とかえりがほぼ同じ高さになる。1254・1255・1265・1266は杯身。1254は杯Ｇ身、他は杯Ｈ身。1254は体部外面に３条の沈線が入る。1255は口縁端部内面に沈線が巡らされ、体部内面にヘラ記号のような沈線が施される。1265は立ち上がりは短く内傾する。1266は受部に窯壁の付着があり、二次焼成を受けると考えられる。1261・1267は高杯。1261は杯部は浅く、口縁部は短く立ち上がる。1267は短脚。底部と体部の境は回転ヘラ削りを施し、丸みをもつ。1256・1262は鉢。1256



第171図　17次ＳＢ06実測図（１／60）



第172図　17次ＳＢ06出土遺物実測図（１／３）

は鋺形か？体部外面カキメ。1262はバケツ形。体部は直線的にのびる。端部は内傾する。

鉄滓（1257・1258・1263）　1257は表面錆化が進む。着磁が認められる。1258は上面は錆が覆うが、下面は灰黒色を呈する。ごく僅かに着磁が認められる。1263は長さ6.2cm、錆が全面に多い、表面に石英粒が付着する。部分的に着磁が認められる。椀形鍛冶滓である。　（大里）

ⅱ）竪穴住居跡

ＳＸ04（第173図）

調査区の東側に位置し、大半は調査区外へのびる。確認されたのは、一辺3.2ｍほどの隅丸方形プランの遺構であり、形状から竪穴住居の可能性が高い。撹乱や柱穴が切り込んでいるため残存状況は悪く、住居にともなう柱穴・カマド等は確認できなかった。深さは20cmほど。出土遺物は、後から切り込む柱穴からの遺物はあったが、住居にともなうものは確認できなかった。　（石木）

ⅲ）溝

ＳＤ01（第102図・図版48）

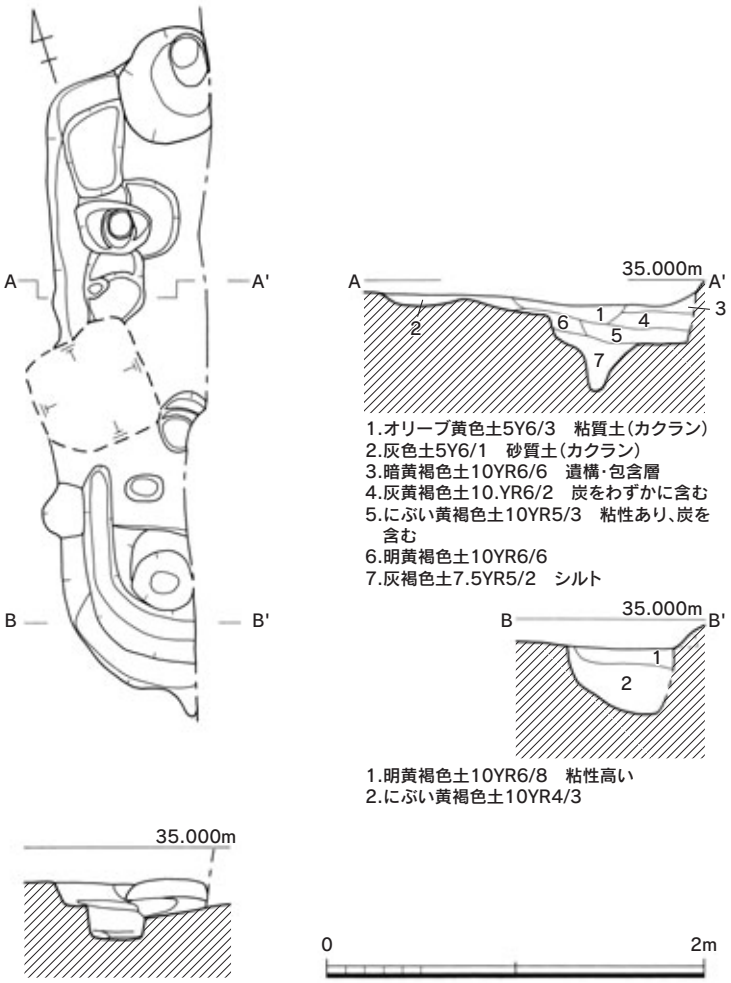
調査区の西端に位置し、12次調査地からのびる溝の続きにあたる。ＳＢ04を囲むコの字形の溝が確認されており、溝の東側は削平により失われている。本調査地で確認されたのは溝の東端であり、断面は箱形を呈する。出土遺物には、須恵器・土師器などがある。　（石木）

出土遺物（第174図・図版96）

須恵器（1268～1271）　1268は杯蓋。口縁部の内外面に煤が付着しており、灯明具と思われる。1269は蓋。杯蓋より大型のものである。かえりは短い。1270は杯身。高台は低く、ハの字に開き、内端部で接地する。1271は長頸壺。肩部と体部の境は角をなす。　（大里）

ＳＤ02（第175図・図版48）

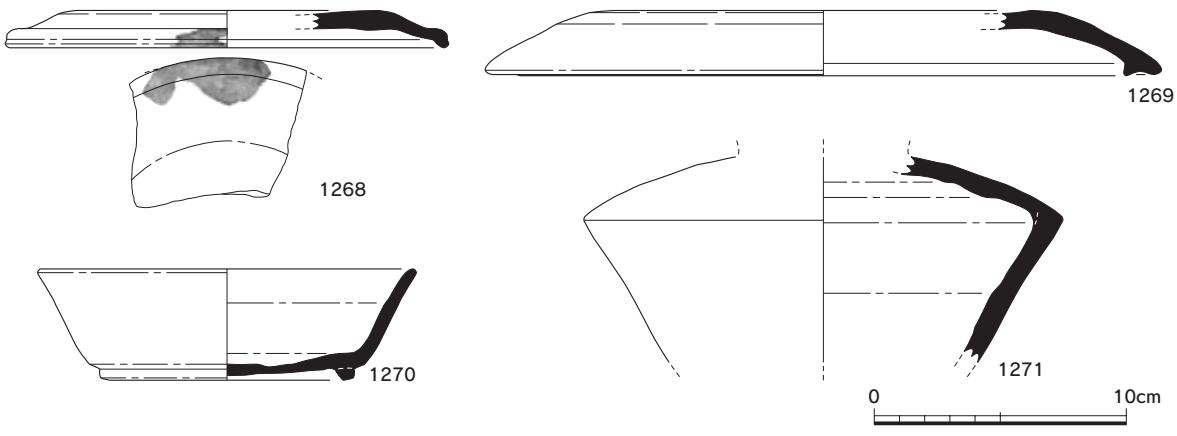
調査区の南端に位置し、９次調査ＳＤ01から北側にのびる溝の続きにあたる。調査区南壁より約6.5m北側へのび、幅0.5～0.6m、深さ４～10cmと浅く、断面は鍋底状を呈する。壁際ではＳＤ04と切りあっており、検出段階では確認できなかったが、調査区南壁の土層断面の観察結果よりＳＤ02→04の順番が考えられる。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・磁器・瓦などがある。　（石木）



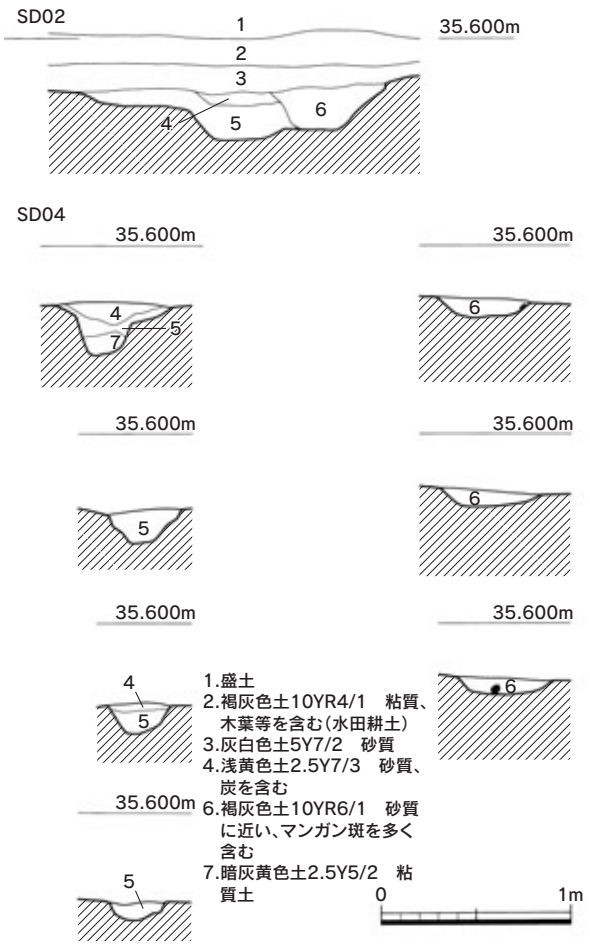
第173図　17次ＳＸ04実測図（１／40）

出土遺物（第176図）

須恵器（1272・1273）　1272は杯身。1273は杯であるが、口縁部を強くナデて大きく外反させる。内面にヘラ記号状の沈線が認められる。



第174図　17次ＳＤ01出土遺物実測図（１／３）



第175図　17次ＳＤ02・04土層実測図（１／40）

土師器（1274～1279）　1274は小皿。摩滅のため、底部調整不明。1275・1276は丸底杯。1276は内面に煤が付着する。灯明具か？1277は椀。高台は丸い。1278は鉢。内面黒斑を有する。1279は甕か？口縁部はゆるやかに外反する。摩滅のため、調整不明。

黒色土器（1280）　Ａ類の椀。調整は不明瞭。高台はハの字に開き、丸い。

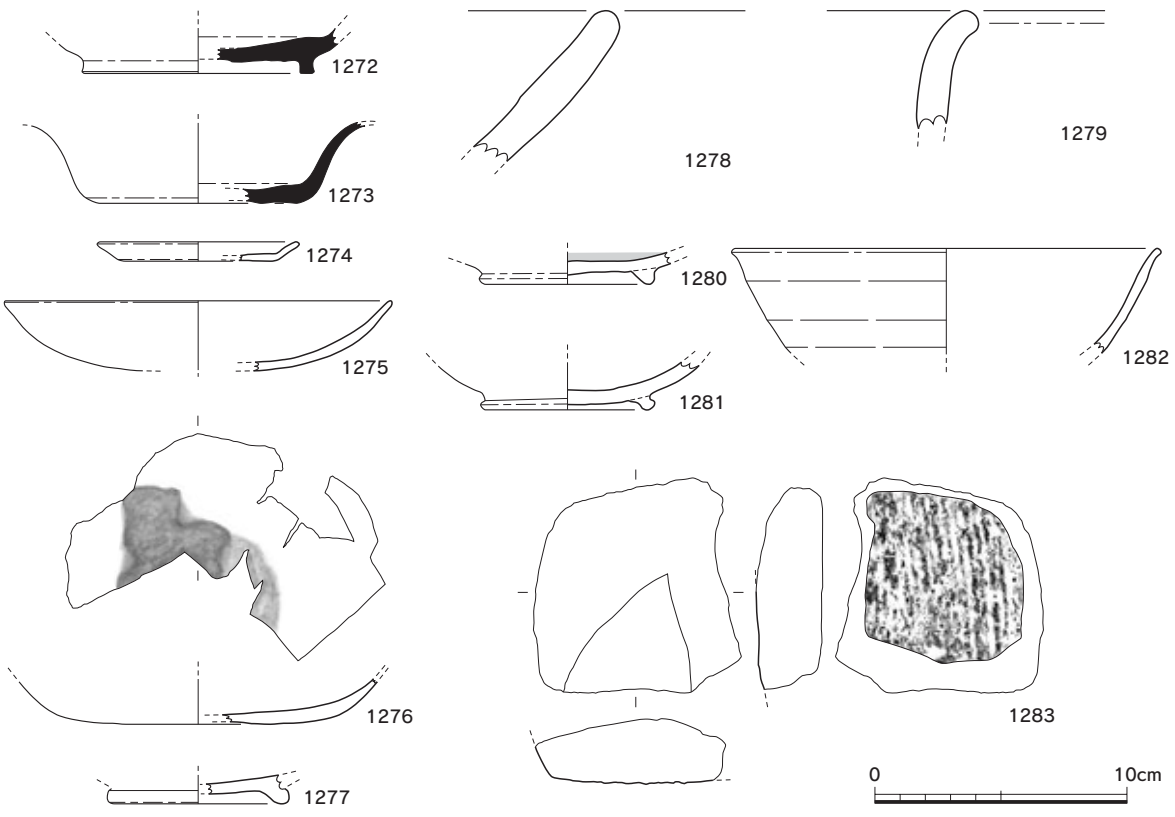
瓦器（1281）　椀。高台はハの字に開き、丸く、径は比較的大きい。

磁器（1282）　白磁椀。口縁端部は外反し、外面は釉が流れる。太宰府分類Ⅴ類か？

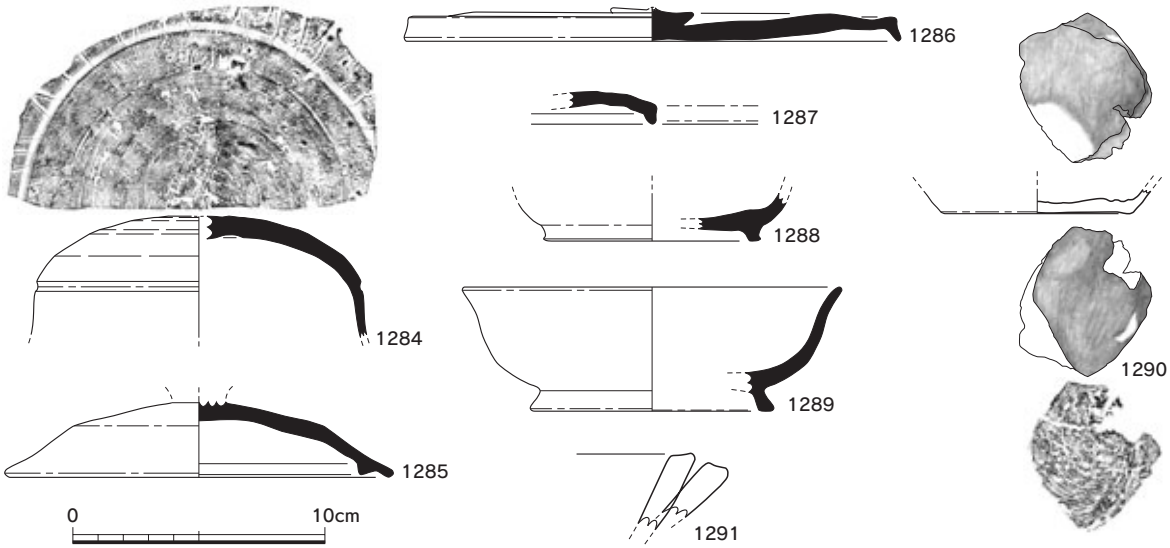
瓦（1283）　平瓦。凸面縄席文タタキ、凹面は摩滅のため調整不明。　（大里）

ＳＤ03（第102図・図版48）

調査区の北側に位置し、12次調査ＳＤ03から続く溝の続きである。北側にのびた溝が東へ向きを変えるが、溝は削平により失われ全容は明らかにできなかった。本調査地では溝は緩斜面に掘り込まれており、幅約1.4m、深



第176図　17次ＳＤ02出土遺物実測図（１／３）



第177図　17次ＳＤ03出土遺物実測図（１／３）

さ0.3m、断面台形を呈する。埋土の下層には炭・焼土を含んでいた。出土遺物は、須恵器・土師器などがある。（石木）

出土遺物（第177図・図版96）

須恵器（1284～1289）　1284～1287は杯蓋。1284は天井部外面にヘラ記号を施す。体部との境には沈線を巡らせ、沈線のやや上には櫛状の文様が施される。1285はかえりは短い。焼成不良。天井部外面につまみがあるが摩滅する。1286はつまみは大きく、わずかに山形を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリが広く施される。1287は小片。端部の折り曲げはやや長い。1288・1289は杯身。1288は焼成不良。1289は高台は高く、体部中位に屈曲部をもつ。

土師器（1290）　小皿で内外面に煤が付着している。底部外面は糸切り。

瓦質土器（1291）　鉢。片口がつく。片口部は長さ約4cm。器表面は摩滅して調整不明。（大里）

ＳＤ04（第175図）

調査区の南側に位置し、ＳＤ02に切られる。調査区南壁より東へ直線的にのびており、幅0.3～0.6m、深さ10～38cm。東へいくに従い浅くなるが、溝底のレベルはほとんど変わらない。溝は整地層を掘り込み、断面は鍋底状を呈し、埋土中には炭が含まれる。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・磁器・石製品などがある。（石木）

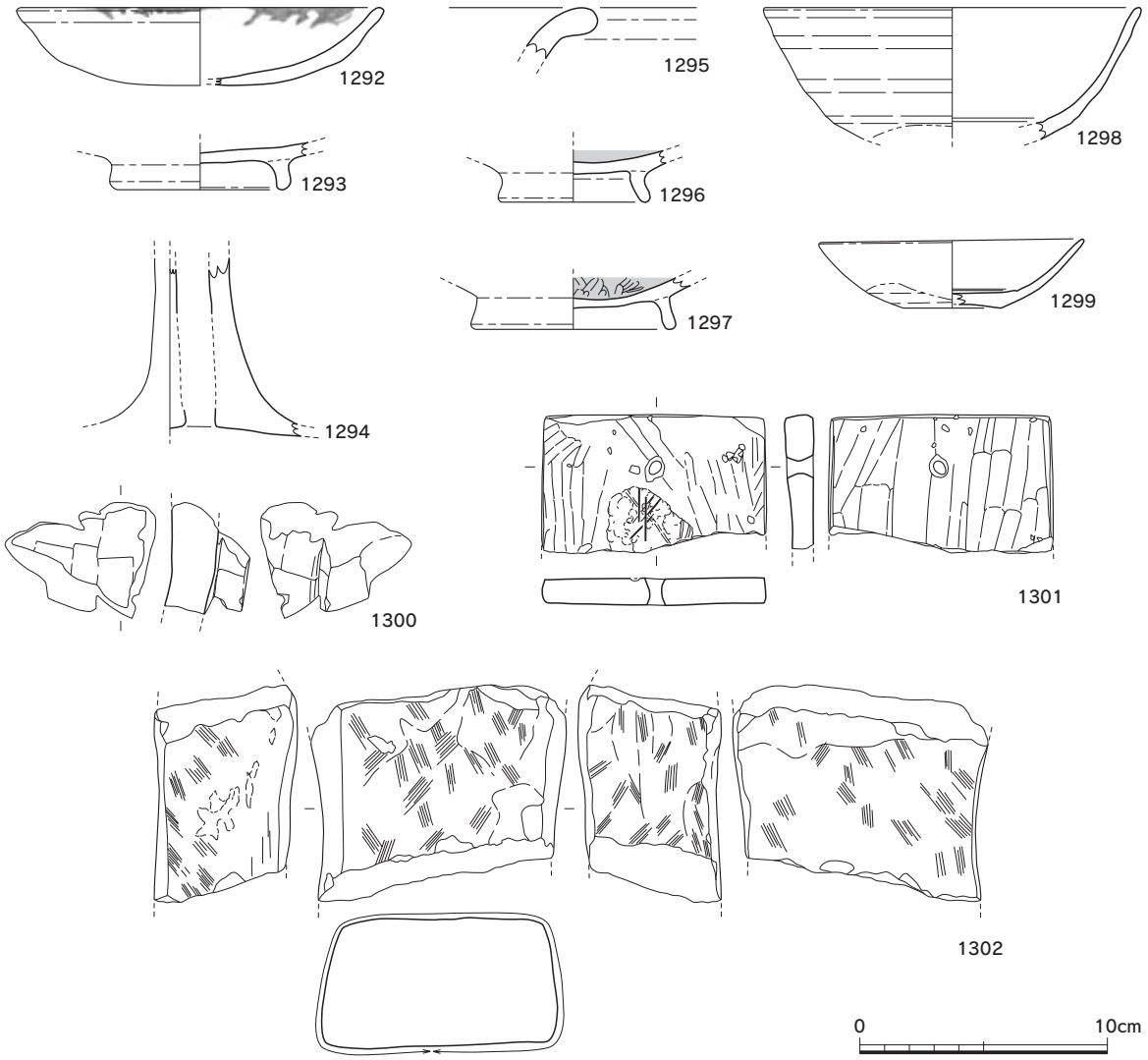
出土遺物（第178図・図版96）

土師器（1292～1295）　1292は丸底杯。内外面に煤が付着する。1293は椀。高台は細く高い。1294は器台。小片のため、天地の別に迷う。穿孔部の径は約1.5cm。1295は甕。内面黒斑。

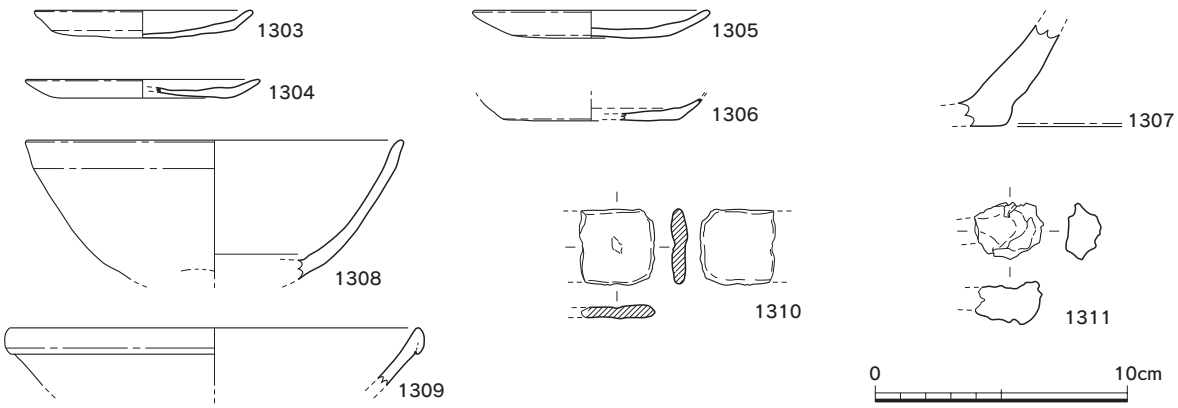
黒色土器（1296・1297）　いずれもＡ類の椀、細く高い高台を有する。高台内面は部分的に黒化する。

磁器（1298・1299）　1298は白磁椀。無文。体部外面下半は露胎。太宰府分類Ⅴ類。1299は白磁皿。底部はやや上げ底。体部外面下半は露胎。太宰府分類皿Ⅵ類。

石製品（1300～1302）　1300・1301は滑石製。1300は石鍋で縦長の把手がつく。外面には煤が付着している。1301は温石。幅8.8cm、厚さ1cm前後。表面中央はわずかに凹み、敲打痕および擦



第178図　17次ＳＤ04出土遺物実測図（１／３）



第179図　17次ＳＤ05出土遺物実測図（１／３）

痕がみられる。部分的に黒化する。1302は砥石。厚さは5.8cmで4面使用している。　　（大里）

ＳＤ05（第102図）

調査区のほぼ中央部に位置する。調査区東壁から弧状に北側へのびており、幅0.36～0.65m、深さ10cm程度。東へむかうにつれて次第に深くなっていく。溝はＳＰ111・332などを切っている。

出土遺物は、須恵器・土師器・瓦器・磁器などがある。（石木）

出土遺物（第179図・図版96）

土師器（1303～1306）　いずれも小皿。摩滅のため、ヘラ・糸切りの別は不明。1303・1306は底部外面に板状圧痕がある。

土師質土器（1307）　鉢の底部付近の小片である。器表面は摩滅しており調整は不明である。

磁器（1308・1309）　いずれも白磁椀。1308は内面全体と体部中位まで厚めに施釉している。太宰府分類Ⅴ類。1309は玉縁口縁で、やや厚めに施釉している。太宰府分類Ⅳ類か。

鉄器（1310）　幅2.8cm、厚さ約２㎜。中央に穴があり、一方は欠損する。用途不明。

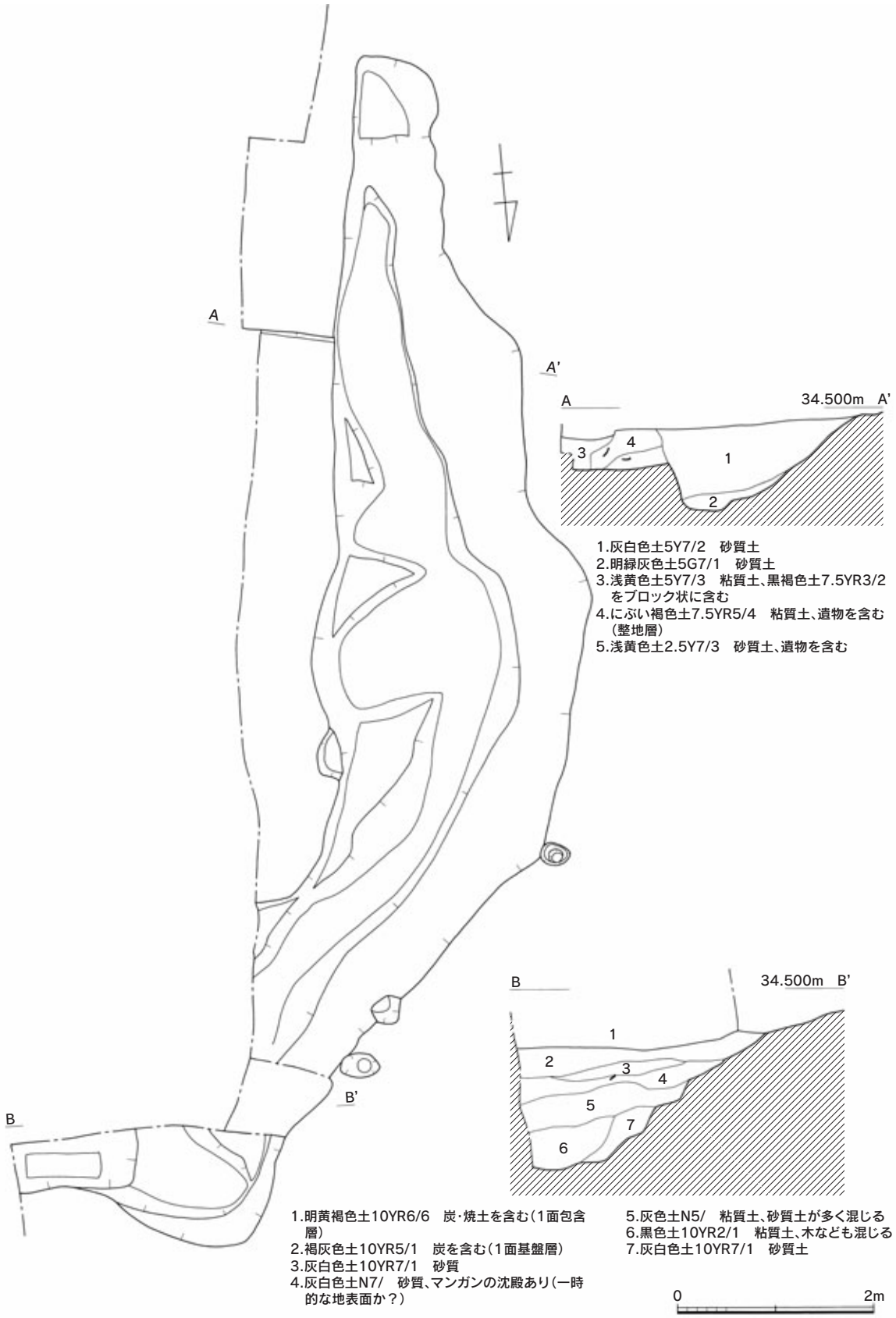
鉄滓（1311）　全面に錆が覆う。着磁が認められる。（大里）

ＳＤ06（第180図・図版49）

調査区の北東隅に位置し、幅0.88～2.76ｍ。南側から北側へむかって次第に深く掘り込まれており、最も深い所では約1.2ｍ。西側からのびる遺構面が傾斜を変えて下がり、東側は整地層を切って掘り込まれているのが確認できた。ただし、遺構検出により整地層を切ると確認できたのは一部である。溝は弧状に東へ巡っており、東へゆくにしたがい次第に深くなっていく。出土遺物は、須恵器・土師器・瓦・鉄器・石器などがある。（石木）

出土遺物（第181～183図・図版96・97）

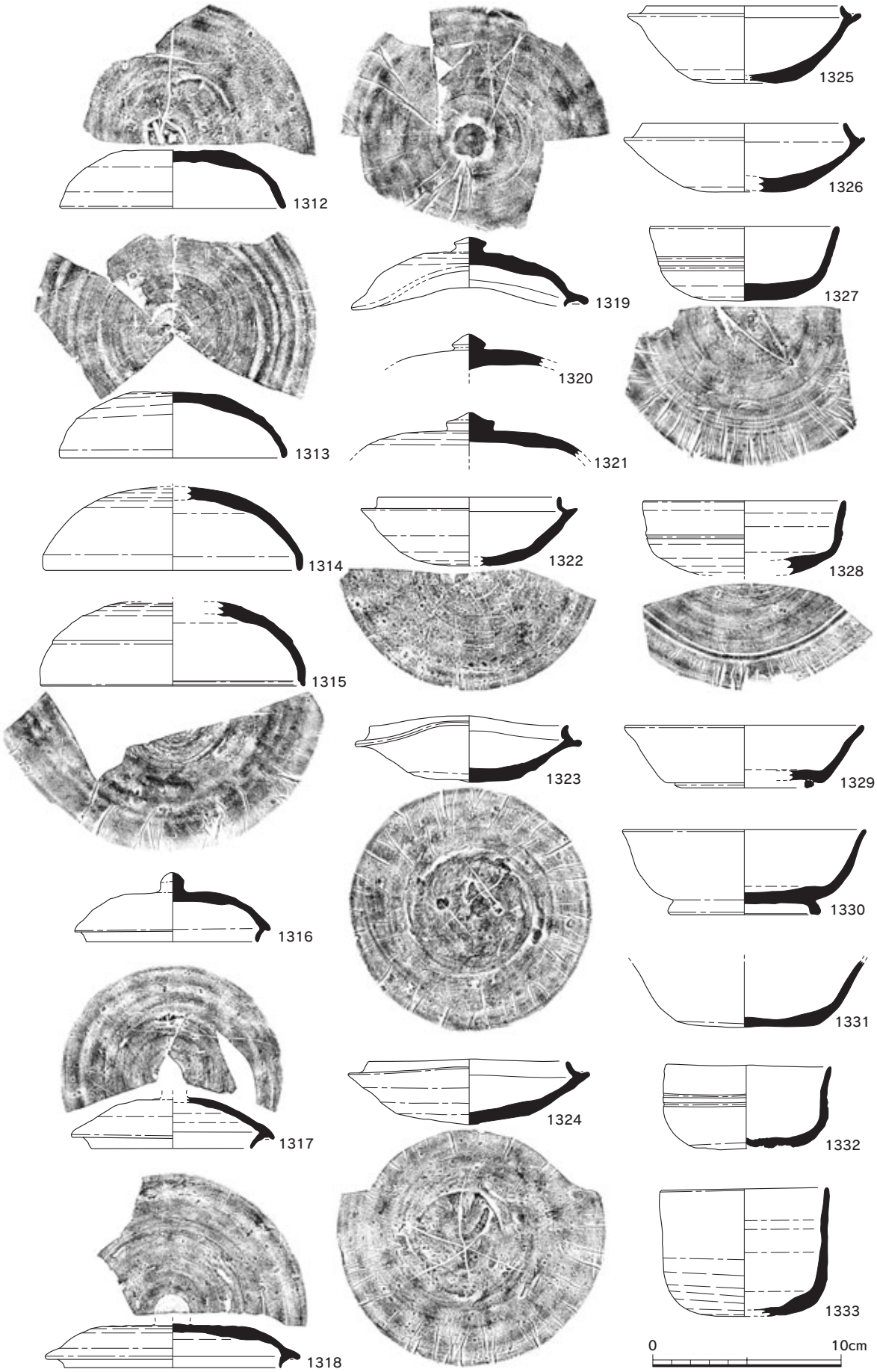
須恵器（1312～1344）　1312～1321は杯蓋。1312～1315は杯H蓋。1312は外面一部に降灰している。天井部は低く、ほぼ平ら。外面にはヘラ記号を施す。1313も天井部外面は平らに近い。外面にヘラ記号を施す。1314は天井部外面の回転ヘラ削りの幅は５mmほどで少し細め。1315は口縁端部に段を有し、体部との境も浅い段を巡らす。天井部の内面に当て具痕がある。器壁も一定で安定した技術がうかがえる。1316・1317は杯Ｇ蓋。1316は外面全体に降灰、調整不明。つまみは乳頭状を呈する。1317はつまみを欠損する。天井部の外面にヘラ記号を施す。1318～1321は杯Ｂ蓋。1318はつまみが剥がれている。天井部外面にヘラ記号を施す。1314は焼け歪む。つまみは山形を呈する。外面にはヘラ記号を施す。1320は高い山形のつまみを有する。1321は山形のつまみを有する。1322～1330は杯身である。1322～1326は杯Ｈ身。1322は口径は小さいが、杯部は深い。立ち上がりは内方にのびた後、大きく曲げられて立ち上がる。1323は焼け歪む。杯部は浅く、外面にはヘラ記号を施す。1324は焼け歪む。杯部は浅く、外面にはヘラ記号を施す。1325は外面全面に降灰している。杯部は深い。1326は底部外面ヘラ切り。平底に近い。1327・1328は杯Ｇ身。1327は体部は直線的に外方にのびる。底部はヘラケズリにより丸く仕上げられ、外面にヘラ記号が施される。1328もほぼ同様の器形をとる。底部外面にヘラ記号が施される。1329・1330は杯Ｂ身。1329は低い高台を有する。小片のため、傾きに難がある。1330は高台はやや高く、ハの字に開く。体部中位に屈曲部をもつ。1331は杯である。焼成不良。体部は大きく開く。1332～1335は椀。1332は焼け歪む。底部ヘラ切り後未調整。内面は降灰する。1333は底部回転ヘラケズリ。体部はやや長い。1334はやや焼け歪む。底部と体部の境が明確で、口縁部向かってほぼ垂直に伸びる。底部外面降灰。1335は浅い器形を有する。底部は丸く、ヘラ記号が記されている。また、底部外面から体部付近に自然釉が流れている。1336～1338は高杯。1336は無蓋高杯。やや焼け歪む。



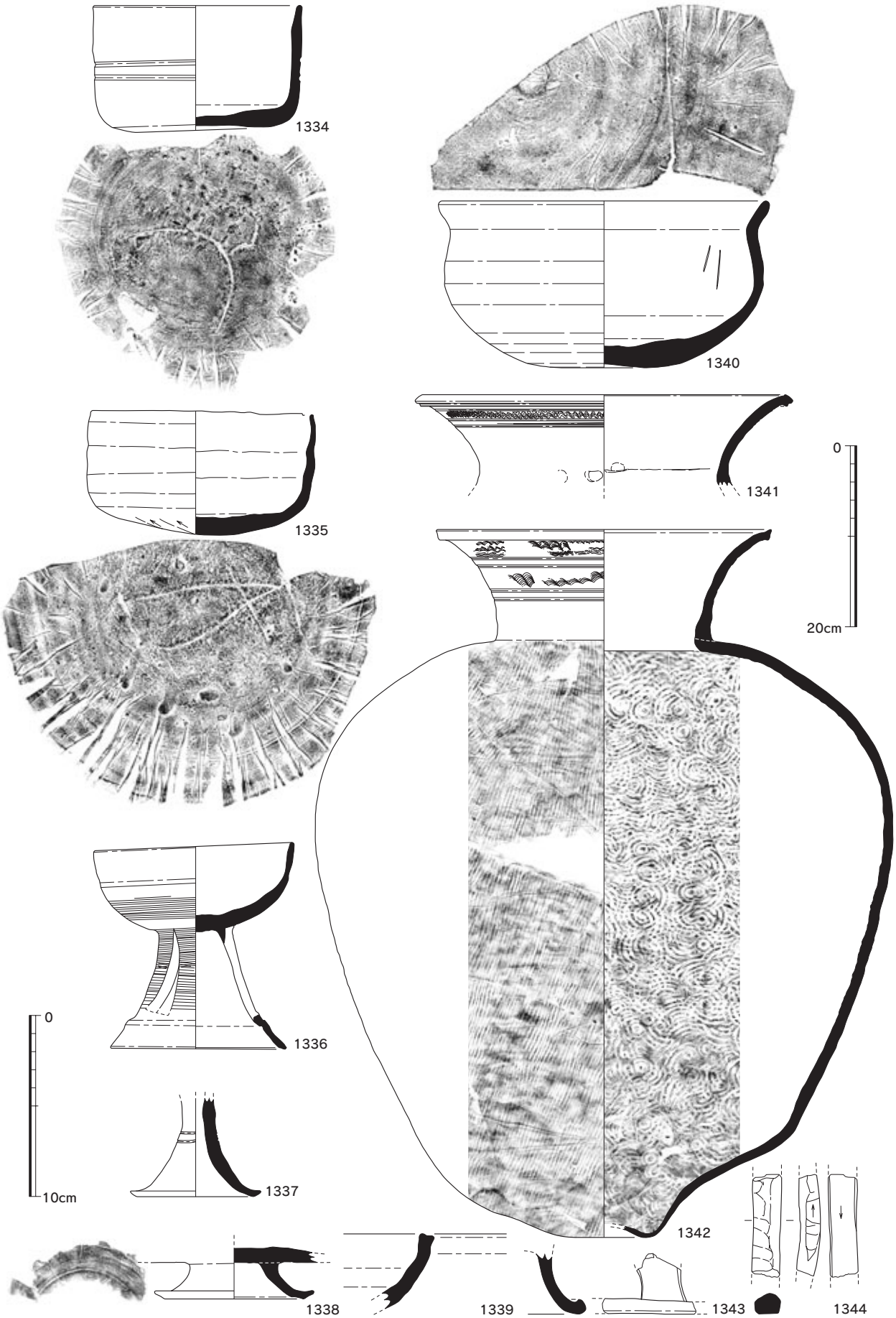
1.灰白色土5Y7/2　砂質土
2.明緑灰色土5G7/1　砂質土
3.浅黄色土5Y7/3　粘質土、黒褐色土7.5YR3/2をブロック状に含む
4.にぶい褐色土7.5YR5/4　粘質土、遺物を含む（整地層）
5.浅黄色土2.5Y7/3　砂質土、遺物を含む

1.明黄褐色土10YR6/6　炭・焼土を含む（1面包含層）
2.褐灰色土10YR5/1　炭を含む（1面基盤層）
3.灰白色土10YR7/1　砂質
4.灰白色土N7/　砂質、マンガンの沈殿あり（一時的な地表面か？）
5.灰色土N5/　粘質土、砂質土が多く混じる
6.黒色土10YR2/1　粘質土、木なども混じる
7.灰白色土10YR7/1　砂質土

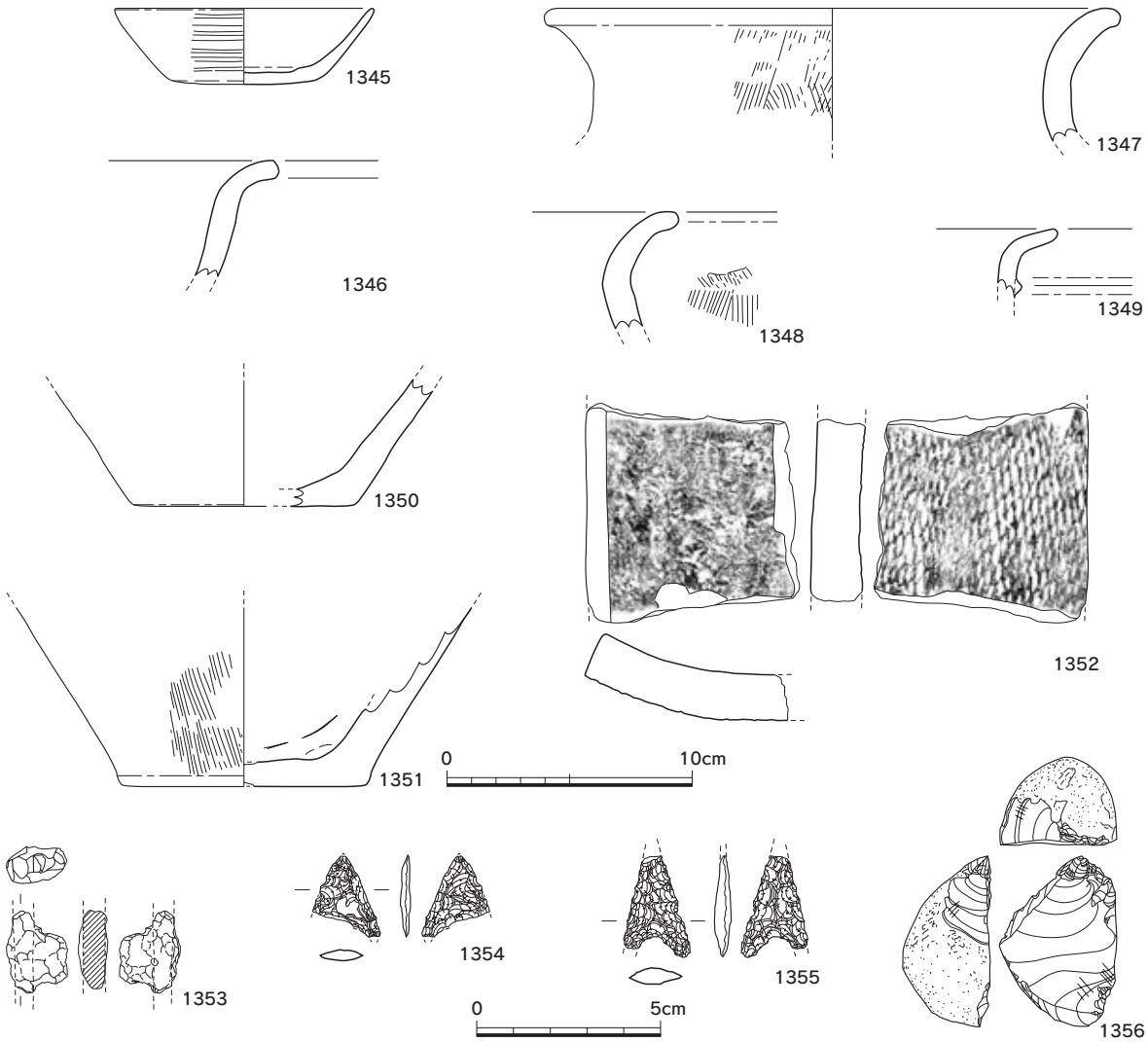
第180図　17次ＳＤ06実測図（１／60）



第181図　17次ＳＤ06出土遺物実測図①（１／３）



第182図　17次ＳＤ06出土遺物実測図②（１／３）



第183図　17次ＳＤ06出土遺物実測図③（1354～1356は１／２、他は１／３）

杯部および脚部にカキメを施し、脚部はスカシを三方にあけるが、一方は長三角形、二方は裾広がりの長方形である。脚部はハの字に広がり、段をもって裾部へ至る。脚端部は段を有する。1337は低脚。柱部の沈線は、フリーハンドで引かれる。1338は低脚。杯部平底、外面にヘラ記号が施される。1339・1340は鉢である。1339は丸底になるか？1340は口縁部外方へ開く。内面にヘラ記号が記される。1341・1342は甕である。1341は頸部外面上段に２条の沈線を巡らし、間に細かな波状文を施す。1342は頸部外面に２条の沈線を施し、波状文を２段にわたって巡らせる。外面に擬格子タタキ、内面には同心円文当て具痕。1343は円面硯の圏足。外面には降灰している。1344は断面方形に近い柱状の製品である。器種不明。

土師器（1345～1348）　1345は杯。底部外面回転ヘラケズリ。内外面ミガキ。いわゆる杯ｄである。1346～1348は甕である。1347・1348は口縁部は大きく外反し、体部外面にハケ目を施す。1346は小片のため、傾きに難あり。

弥生土器（1349～1351）　いずれも甕。1349は小片のため、傾きに難あり。頸部からやや下がった所に断面三角形の突帯がつく。1350・1351は底部である。いずれも平底。1351は外面二次焼成

を受けて、器壁がはじけている。

瓦（1352）　平瓦である。凸面は縄目タタキ、凹面は摩滅により不明。

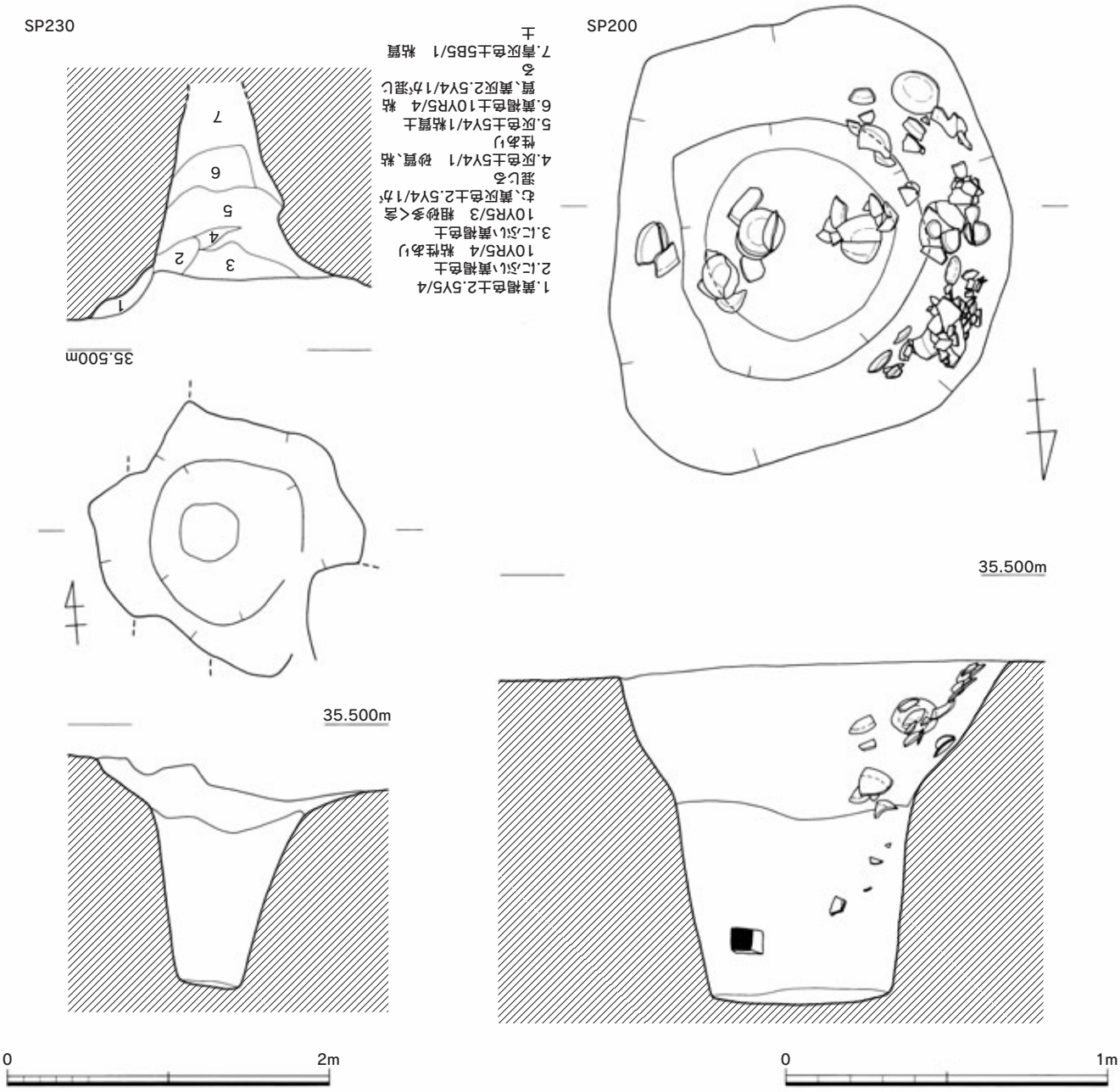
鉄製品（1353）　不明鉄製品。棒状と思われる。

石製品（1354～1356）　1354・1355は石鏃。1354は安山岩製。脚部欠損。1355は先端部及び脚部欠損。1356は黒曜石の石核。　（大里）

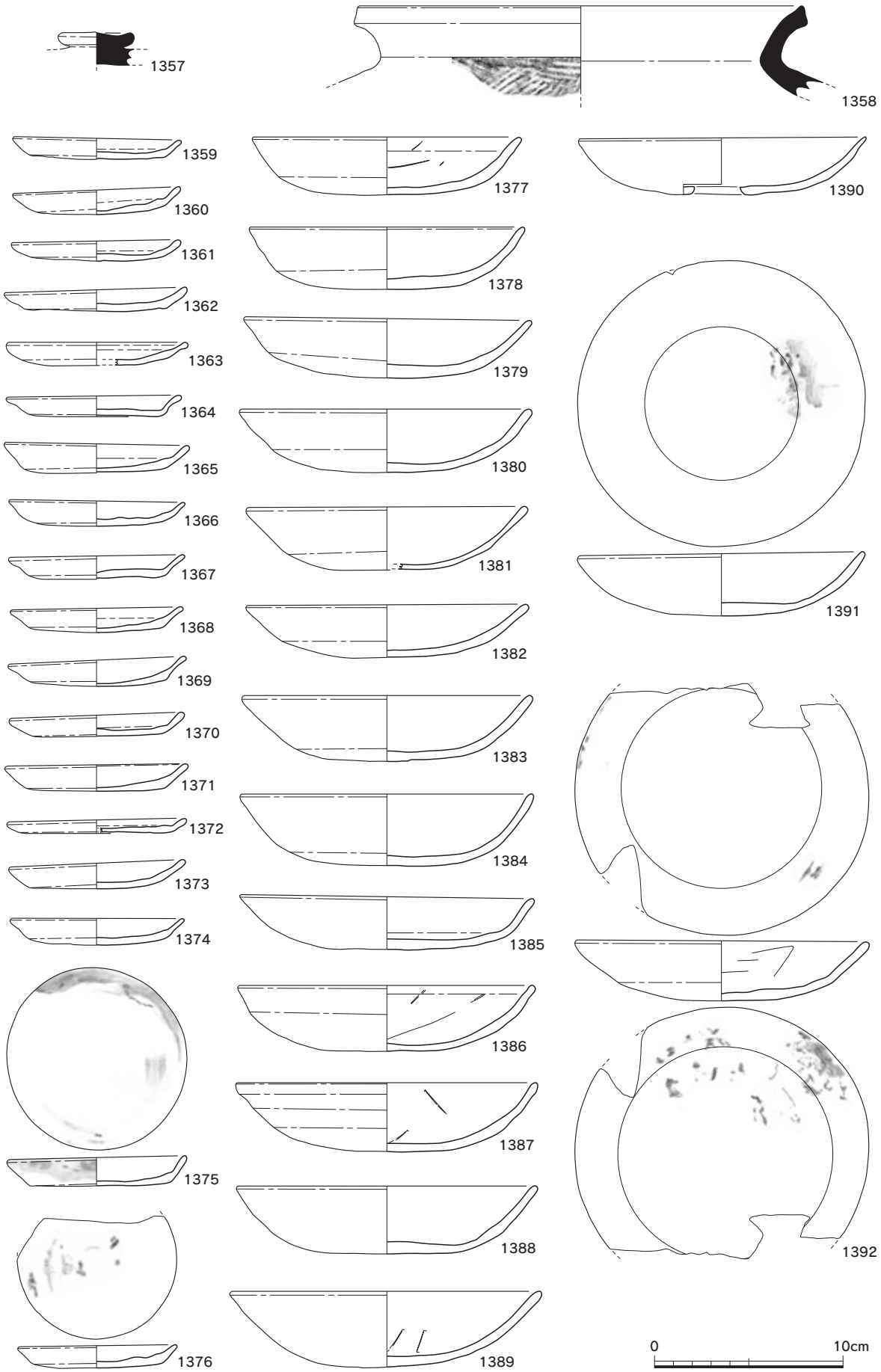
ⅳ）井戸

ＳＰ200（第184図・図版50）

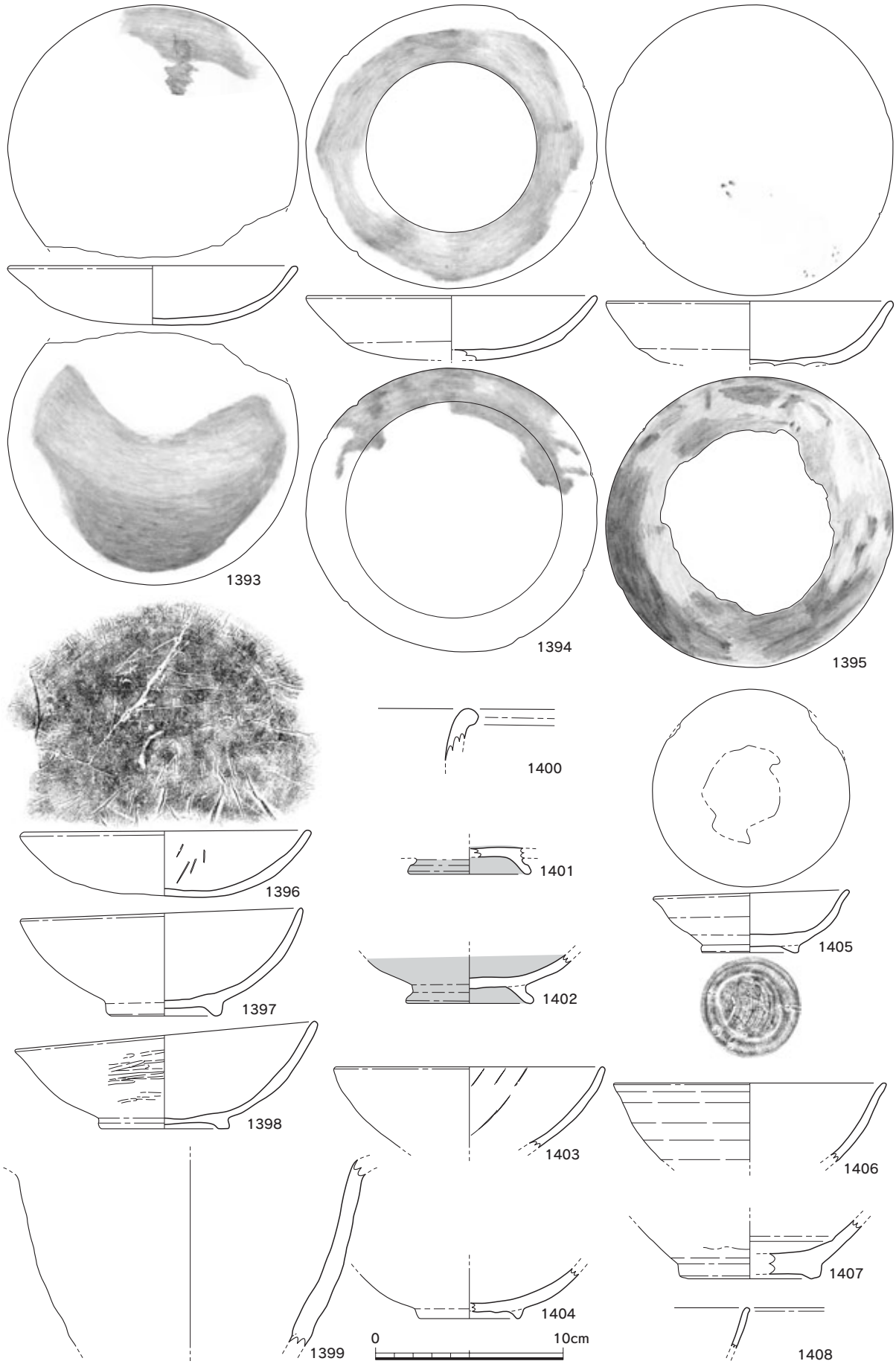
調査区のやや南側よりに位置する。検出時は柱穴と考えて掘り下げを開始したが、調査中に井戸と確認できた。径1.22～1.52ｍの不整円形プランを呈し、深さ1.05ｍ。底面はほぼ平らである。土



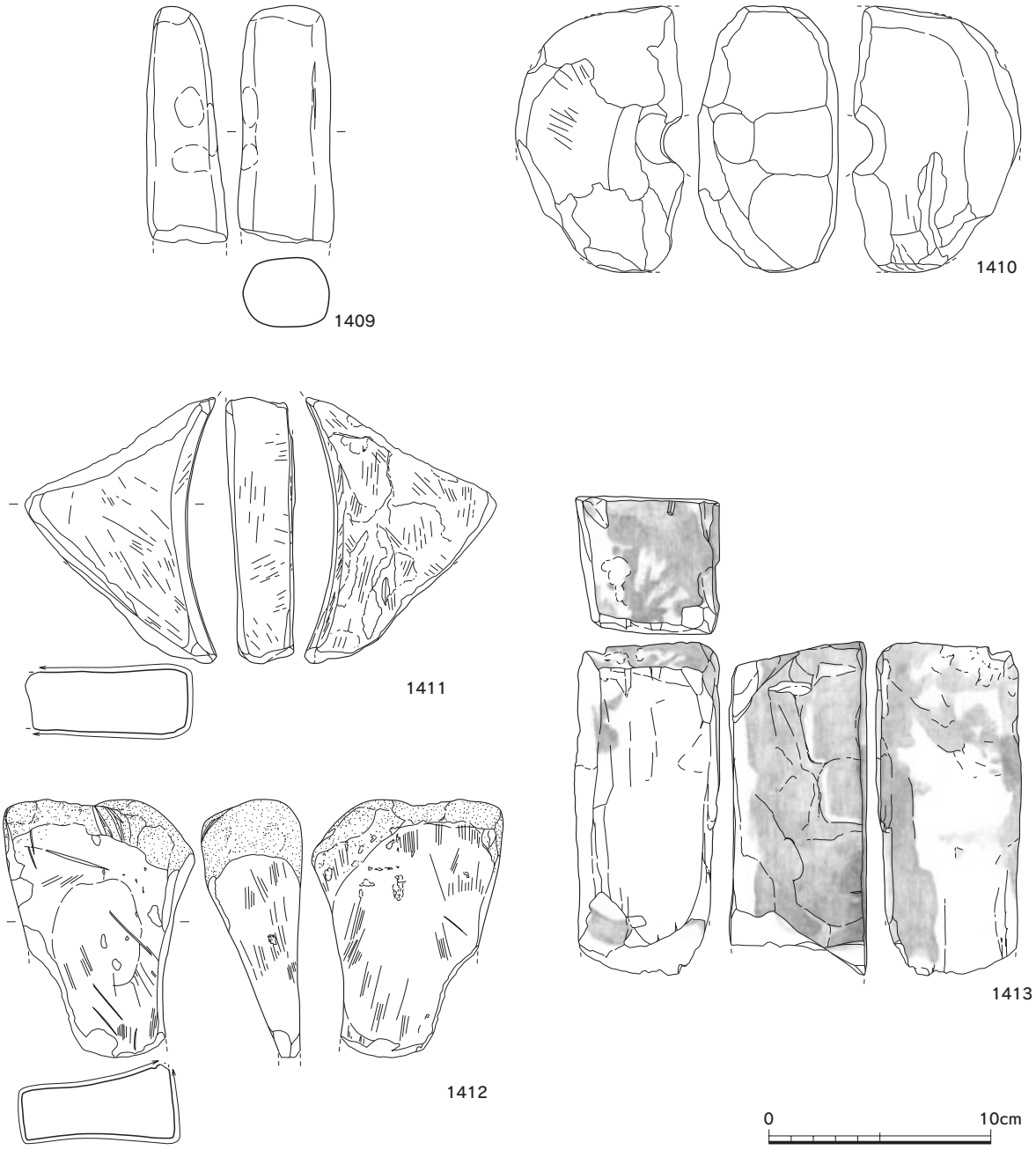
第184図　17次ＳＰ200・230実測図（ＳＰ200は１／20、ＳＰ230は１／40）



第185図　17次ＳＰ200出土遺物実測図①（1／3）



第186図　17次ＳＰ200出土遺物実測図②（1／3）



第187図　17次ＳＰ200出土遺物実測図③（1／3）

層は降雨後に崩落したため実測できなかったが、現場での観察によればレンズ状の堆積状況を示していた。井戸内部からは多量の土師器小皿・丸底杯・山茶碗・白磁などが出土したが、土師器類は完形品が多く、出土状況からみると井戸がある程度埋没した段階に投棄されており、しかも西側からの投棄が多いようである。（石木）

出土遺物（第185～187図・図版97～99）

須恵器（1357・1358）　1357は蓋。つまみのみ残存。つまみ上に重ね焼きの痕跡あり。1358は甕。体部外面は平行タタキ、内面は摩滅し調整不明。牛頸窯跡群にはない特徴を備える。産地不明。

土師器（1359～1400）　1359～1376は小皿。1359～1362・1364・1367～1369・1371・1372・1375・1376は底部外面ヘラ切り後ナデを行っている。また1359・1361・1363・1367・1368・1370・

1371・1373～1376は板状圧痕がついている。1360は内外面に褐色の斑点状のものがつく。1363は口縁部の形状が部分的に異なっており、外方に突出させる部分と丸く内側に折り込む部分がある。京都系「て」の字状口縁の小皿を模倣したものか？1365は外面に黒斑がみられ、焼け歪んでいる。1375は内外面に煤が付着している。1376は内面に煤が付着している。1377～1396は丸底杯。1380～1383・1386・1396は板状圧痕がつく。1383は底部内外面に黒斑がみられる。1387は内面コテ当てが認められる。1389は底部外面に２×３cmほど角形に灰色化する。焼成時の重ね焼き痕か？1390は底部の中央部に径2.7cm程度の穿孔がある。焼成前に穿孔されたようである。1391は内面一部に煤が付着し、底部外面中央に黒斑がみられる。1392・1393は内外面に煤が付着している。1394・1395は底部外面に破裂痕がみられ、内外面に煤が付着している。1396は内面にヘラ記号状の文様がある。1397・1398は椀。1397は高台径は小さく、断面は丸い。1398は口縁部から体部の外面にミガキ。高台の整形は雑。1399・1400は甕。1399は内外面ナデ。外面に煤が付着している。1400は口縁部外面ヨコナデ。外面煤付着。

黒色土器（1401・1402）　いずれもB類の椀。1401は摩滅のため調整は不明。高台はハの字に広がる。1402は体部から高台部外面に回転ナデ。底部外面はナデ、内面はヘラミガキをおこなっている。

瓦器（1403・1404）　いずれも椀。1403は体部は丸い。1404は高台は低く、断面三角形を呈する。

陶器（1405）　山茶碗の小椀。内面のみごま塩状に降灰。底部糸切り後、断面三角形の低い高台貼り付け。（註１）

磁器（1406～1408）　いずれも白磁椀。1406は無文。太宰府分類Ⅴ類。1407は内面および体部外面下方に施釉。太宰府分類Ⅳ類。1408は釉は浅緑色。端部は嘴状につまみ出す。太宰府分類Ⅴ類。

土製品（1409）　棒状土製品。側面に接合時のシワが認められる。

石製品（1410～1413）　1410は不明石製品。砂岩。長さ約12cm、縦約7.6cm、厚さ約6.3cm。半分欠損しているが中央部に穿孔がある。穿孔径は4.6cm。穿孔断面はやや末広がりになる。1411・1412は砥石。1411は砂岩製。３面使用されており、側面はよく使い込まれている。1412は４面使用しており、下部は欠損している。1413は方柱状の不明石製品。緑色片岩製。３面に煤が付着し、一部に被熱したような変色がある。（大里）

ＳＰ230（第184図・図版51）

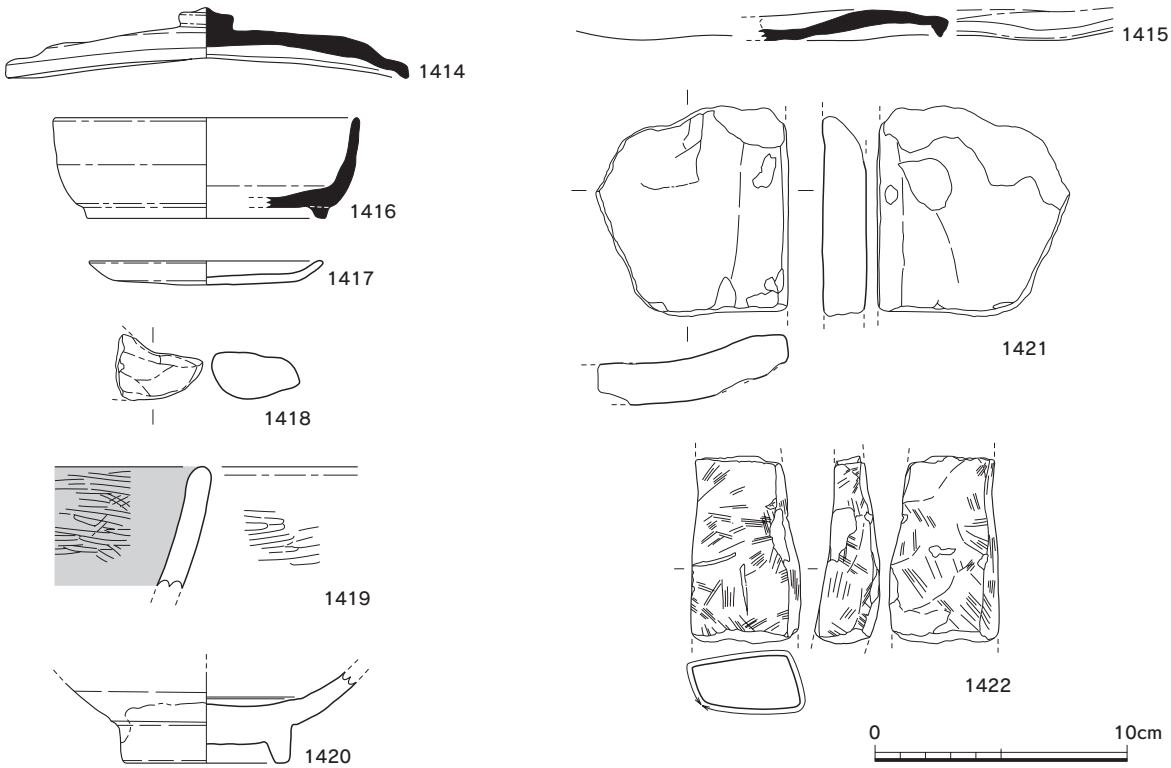
調査区のほぼ中央に位置し、ＳＰ200とはＳＢ04を挟んでちょうど対称的な位置にある。一部はＳＰ197に切られている。径1.32～1.70ｍの不整円形プランを呈し、深さ1.24ｍ。底面はほぼ平らである。埋土はレンズ状堆積を示し、いずれも粘性に富む土であった。出土遺物は須恵器・土師器・黒色土器などがある。（石木）

出土遺物（第188図・図版99）

須恵器（1414～1416）　1414・1415は杯蓋。1414は山形のつまみがつく。天井部外面回転ヘラケズリ。1415は口縁断面三角形を呈す。焼け歪んでいる。1416は杯身。高台は低い。焼け歪む。

土師器（1417・1418）　1417は小皿。底部外面は摩滅のため調整不明。1418は把手付鉢である。把手のみ残存し、ナデ調整をおこなう。

黒色土器（1419）　A類。体部直立し、口縁部外面ヨコナデ、体部内面ミガキ。鉢のような器形か？



第188図　17次ＳＰ230出土遺物実測図（1／3）

磁器（1420）　白磁椀。内面および体部の外面に施釉。太宰府分類Ⅳ類。

瓦（1421）　平瓦。凹凸面摩滅し調整不明であるが、凸面平行タタキを施すと考えられる。

石製品（1422）　砥石である。4面を使用しており、両端を欠損している。　（大里）

ＳＸ02（第189図・図版52）

調査区のやや北側に位置し、整地層を切り込んでいる。径1.08～1.20ｍのほぼ円形プランを呈し、深さ0.55ｍ。底面はほぼ平らである。埋土はレンズ状堆積を呈し、炭を含んでおり、下層からは完形品の土師器が出土した。その他の出土遺物は、須恵器・瓦器・磁器などがある。　（石木）

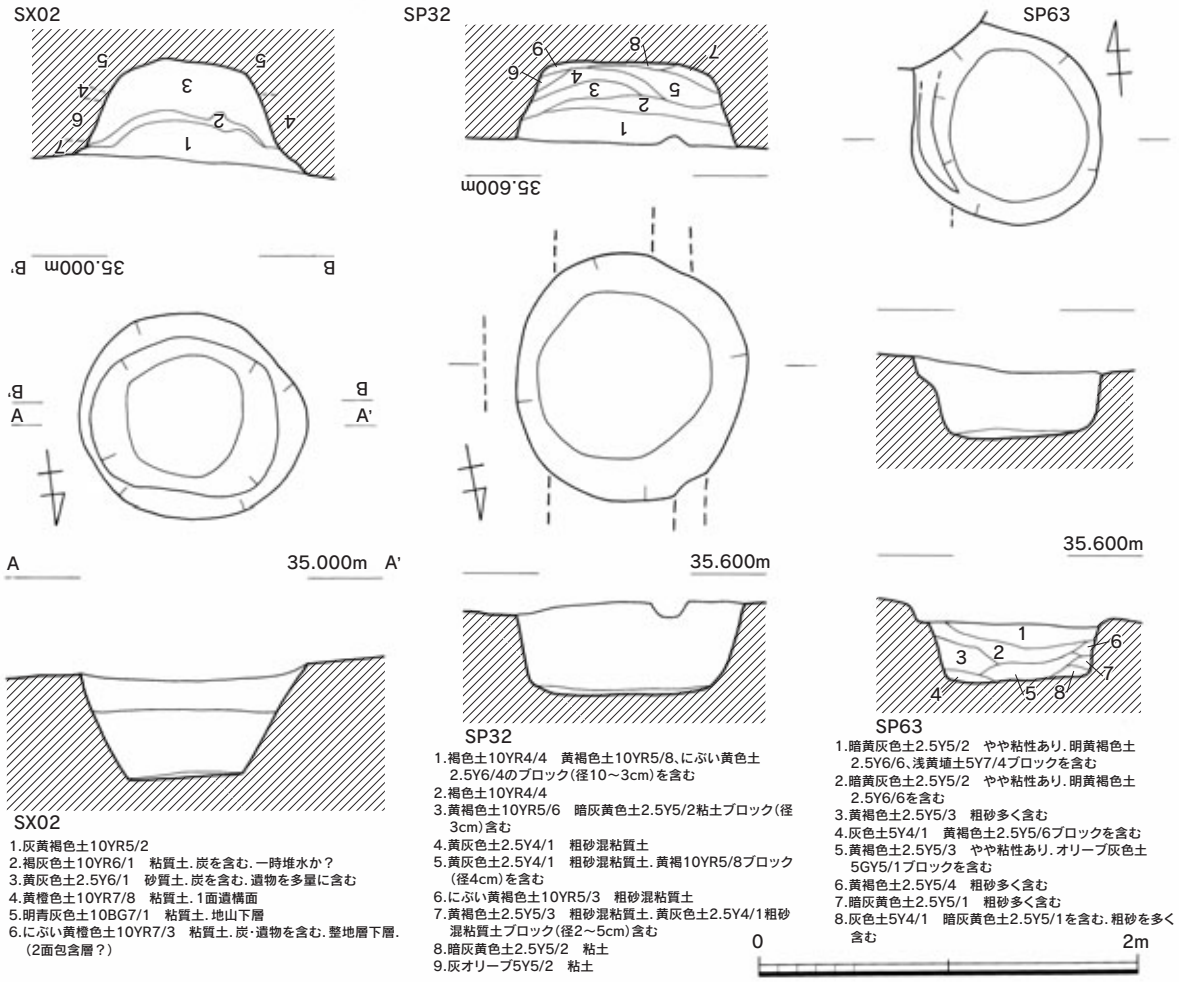
出土遺物（第191図・図版99）

須恵器（1423～1425）　1423は把手付甕。体部の外面格子目タタキ、内面には同心円文当て具痕。把手部はナデおよび指頭圧痕がつく。1424は甕。肩部にやや張りを持つが、全体的に丸みがある。体部外面平行タタキ後、体部上半をカキメ。内面同心円文当て具後、回転ナデ。1425は獣脚。一面のみヘラ削り。他は工具によるナデ。つま先がわずかに欠ける。

土師器（1426～1446）　1426～1434は小皿。底部外面ヘラ切り。1426・1428・1431・1432は板状圧痕がのこる。1435～1444は丸底杯。1436・1437・1441・1444は板状圧痕が残る。1444は他と比べやや深い。1445・1446は椀。高台は低く、断面三角形に近い。

瓦器（1447）　椀。内面は横方向のミガキを密におこない、高台は低い断面三角を呈する。口縁部内面には浅い沈線がある。楠葉型。

石製品（1448・1449）　1448は砥石。4面使用し、一部欠損後に再使用している。1449は不明石製品。煤が付着し、被熱痕がある。　（大里）



第189図　17次ＳＸ02・ＳＰ32・63実測図（１／40）

ＳＰ32（第189図・図版53）

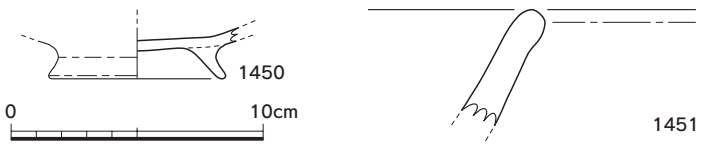
調査区の南側に位置し、細長い溝状のカクランに一部切られている。径1.22～1.32ｍの円形プランを呈し、深さ0.50ｍ。底面はほぼ平らである。埋土はレンズ状堆積を呈し、粘質土を主体としており、最下層はさらに粘性に富む。出土遺物は須恵器・土師器・黒色土器などが出土したが、細片が多かった。（石木）

出土遺物（第190図）

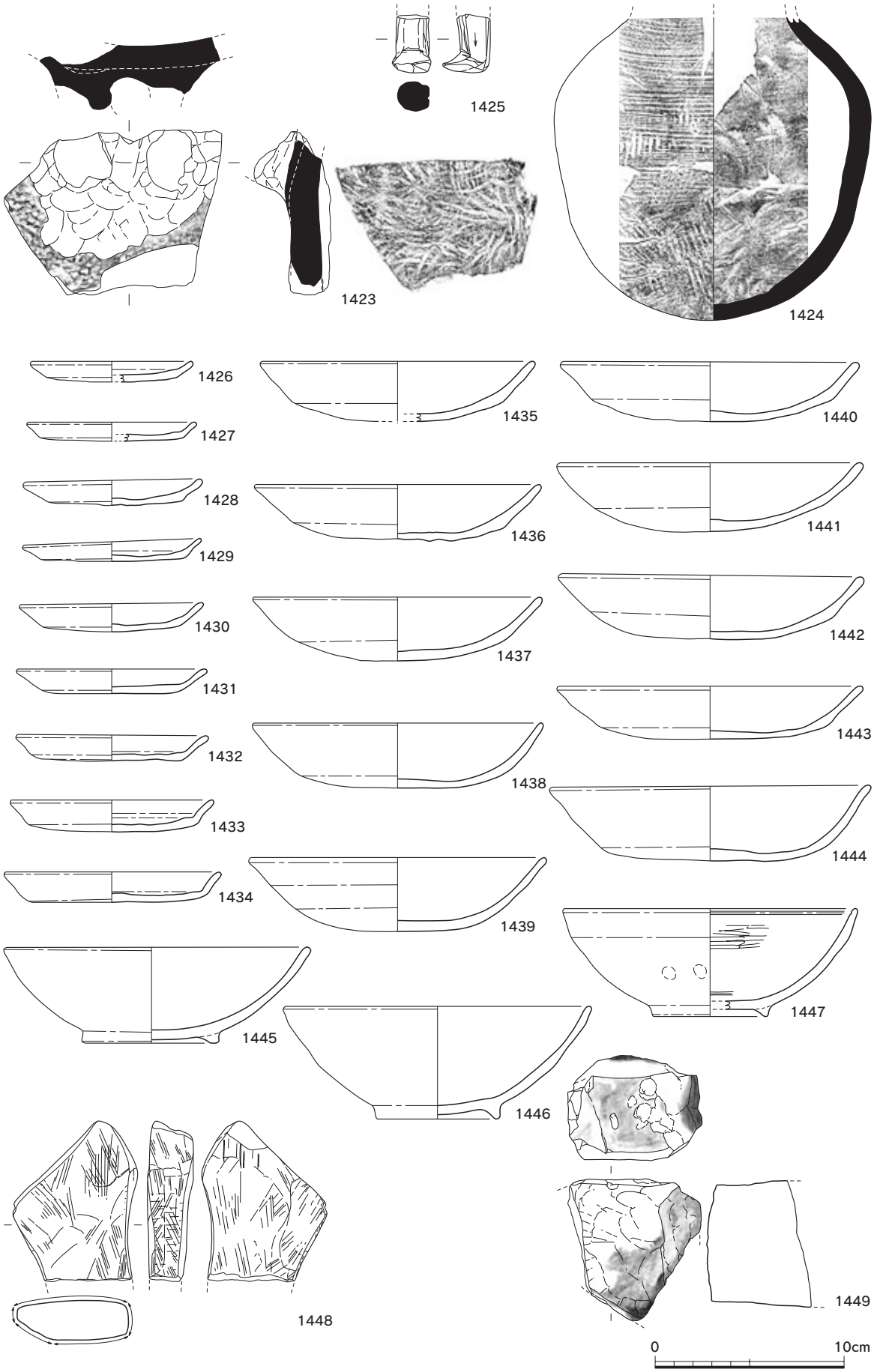
土師器（1450・1451）　1450は椀。高台は細身で長い。1451は鉢。口縁端部は丸い。摩滅のため調整不明である。（大里）

ＳＰ63（第189図）

調査区の西側に位置する。撹乱溝下で検出され、ＳＰ104を切っている。径１ｍほどの円形プランを呈し、深さ0.43ｍ。底面はほぼ平らである。埋土はレンズ状堆積を呈する。出土遺物は、須恵器・土師器が出土しており、図化できるものはなかったが、



第190図　17次ＳＰ32出土遺物実測図（１／３）



第191図　17次ＳＸ02出土遺物実測図（1／3）

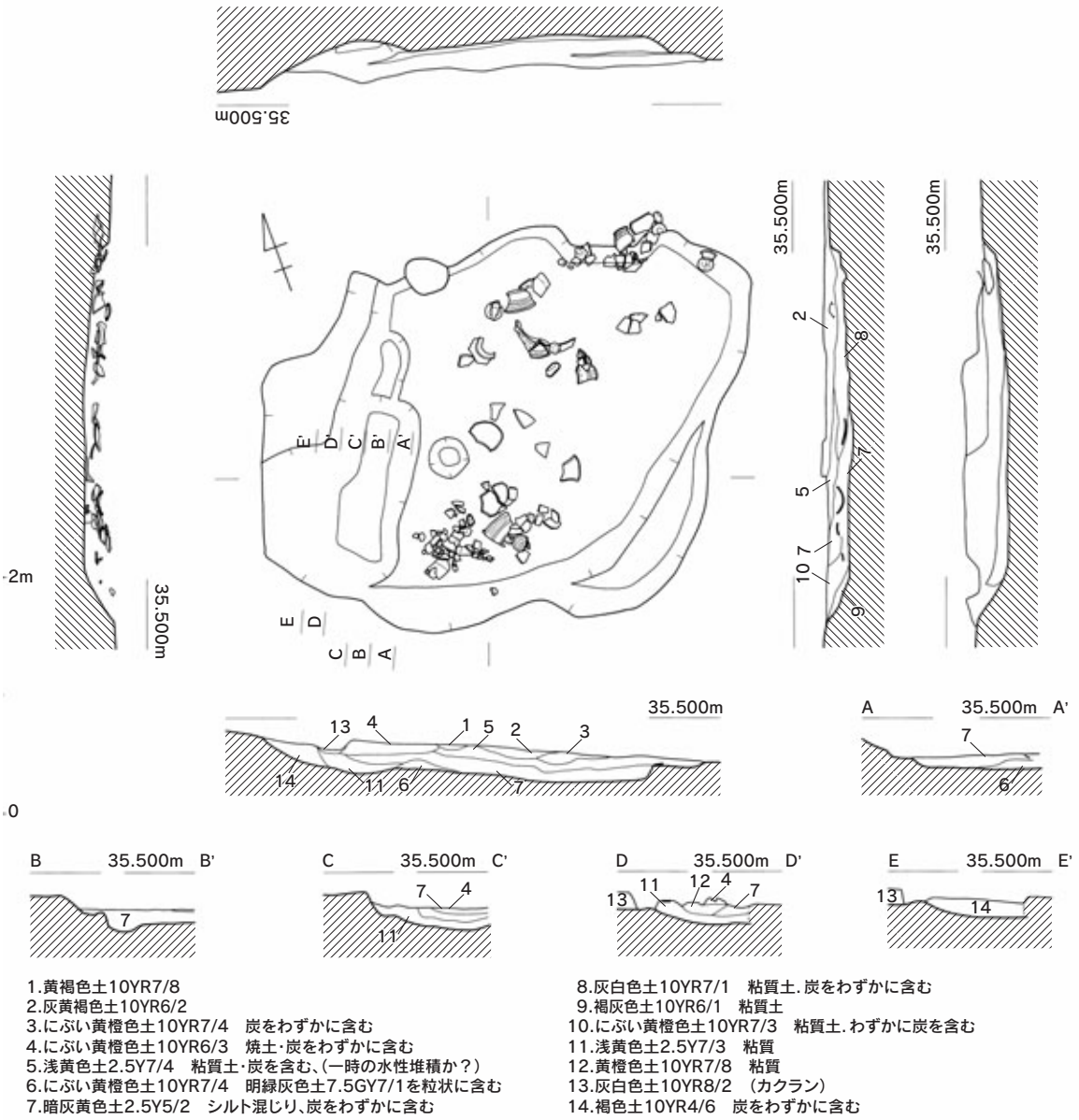
土師器は椀・杯などが多く、ＳＰ200と同様の年代が考えられる。（石木）

ｖ）土坑

ＳＸ01（第192図・図版54）

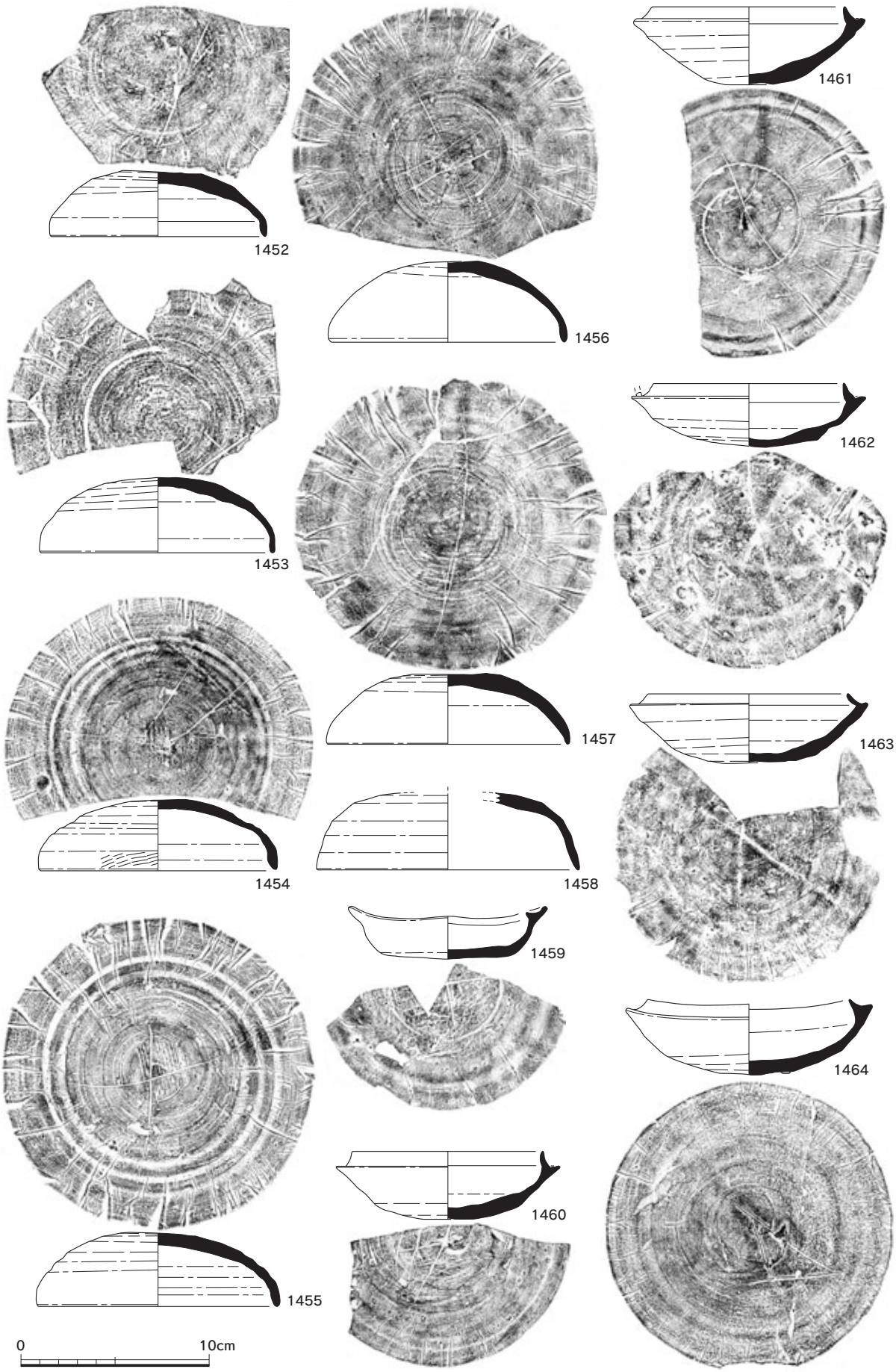
調査区のほぼ中央部に位置する。3.18～3.80ｍの不整形プランを呈し、深さ0.25ｍと浅い皿状を呈する。床面は東側へゆるく下っている。検出・掘り下げ中、土坑の南西側で焼土と炭を確認し、土層断面を20cm間隔で設定し、カマドの袖や焼土面の確認に努めたが、確認できなかった。また、住居に付随する柱穴等も検出されなかったことから、竪穴住居跡とは考えにくく、性格不明とせざるをえない。埋土は黄橙色土を主体とし、中層には炭を多く含む。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器・焼土塊などがあり、中・下層から多量に出土した。（石木）

出土遺物（第193～196図・図版99・100）

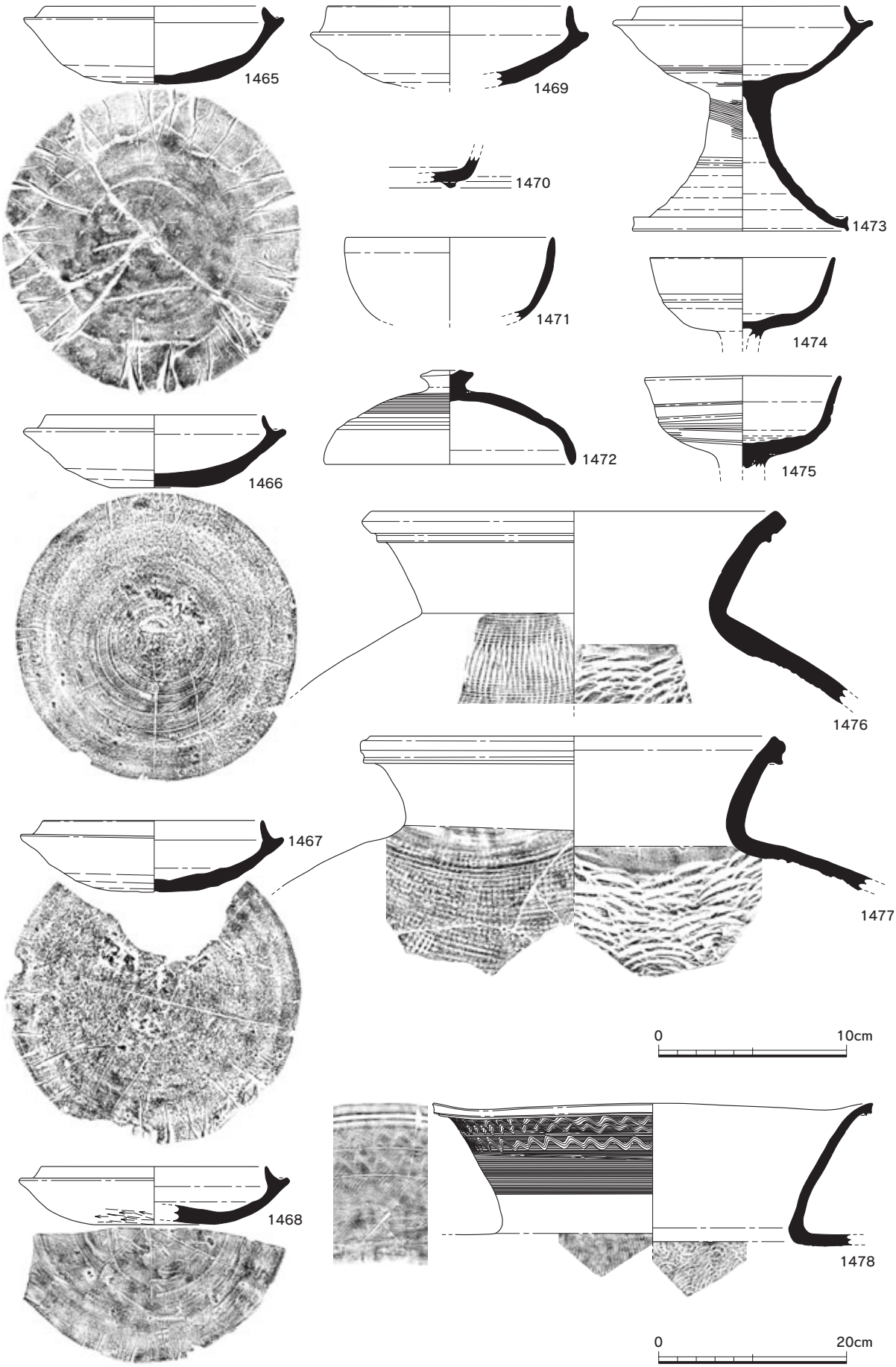


1.黄褐色土10YR7/8
2.灰黄褐色土10YR6/2
3.にぶい黄橙色土10YR7/4　炭をわずかに含む
4.にぶい黄橙色土10YR6/3　焼土・炭をわずかに含む
5.浅黄色土2.5Y7/4　粘質土・炭を含む、（一時の水性堆積か？）
6.にぶい黄橙色土10YR7/4　明緑灰色土7.5GY7/1を粒状に含む
7.暗灰黄色土2.5Y5/2　シルト混じり、炭をわずかに含む
8.灰白色土10YR7/1　粘質土．炭をわずかに含む
9.褐灰色土10YR6/1　粘質土
10.にぶい黄橙色土10YR7/3　粘質土．わずかに炭を含む
11.浅黄色土2.5Y7/3　粘質
12.黄橙色土10YR7/8　粘質
13.灰白色土10YR8/2　（カクラン）
14.褐色土10YR4/6　炭をわずかに含む

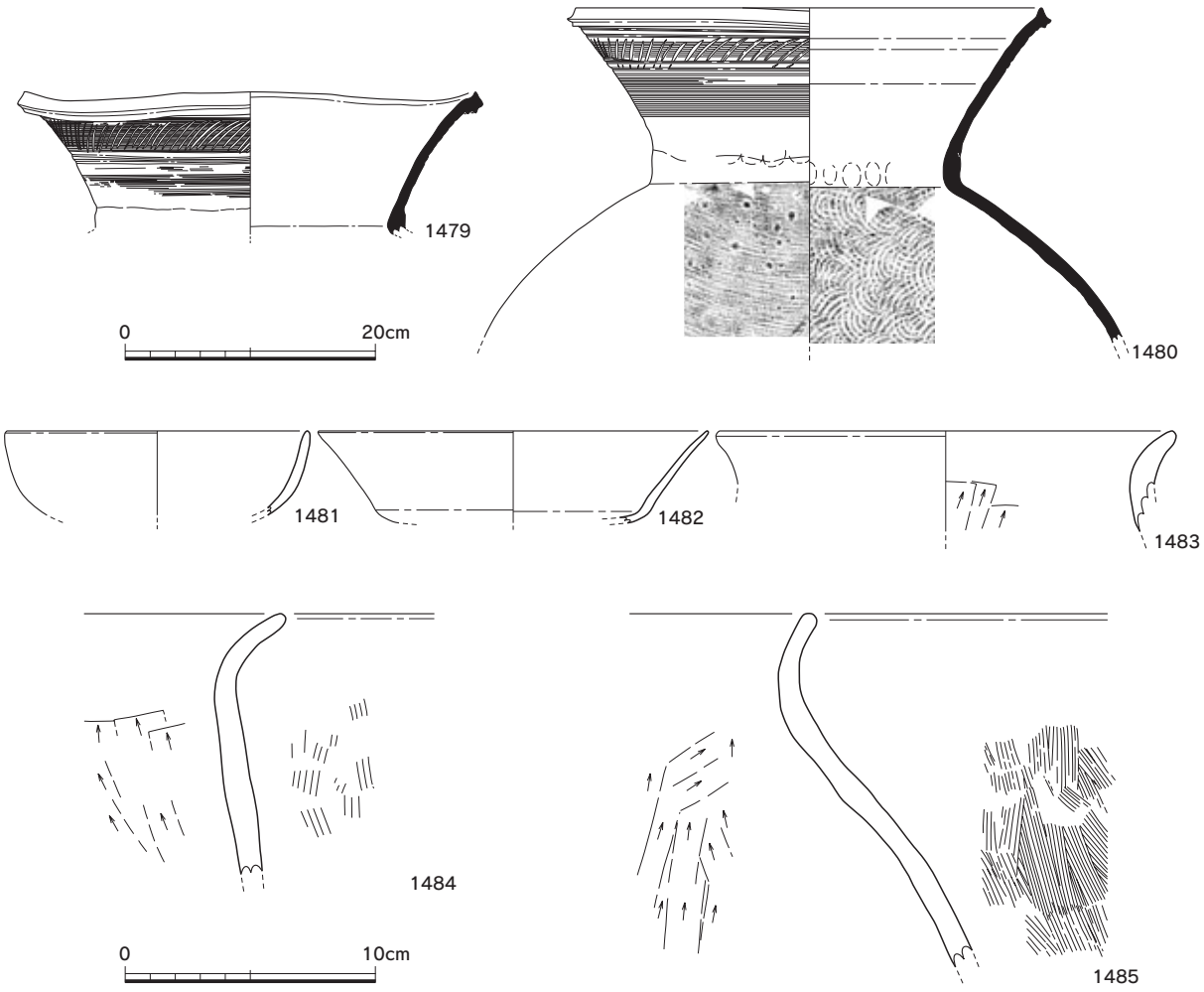
第192図　17次ＳＸ01実測図（１／40）



第193図　17次ＳＸ01出土遺物実測図①（1／3）

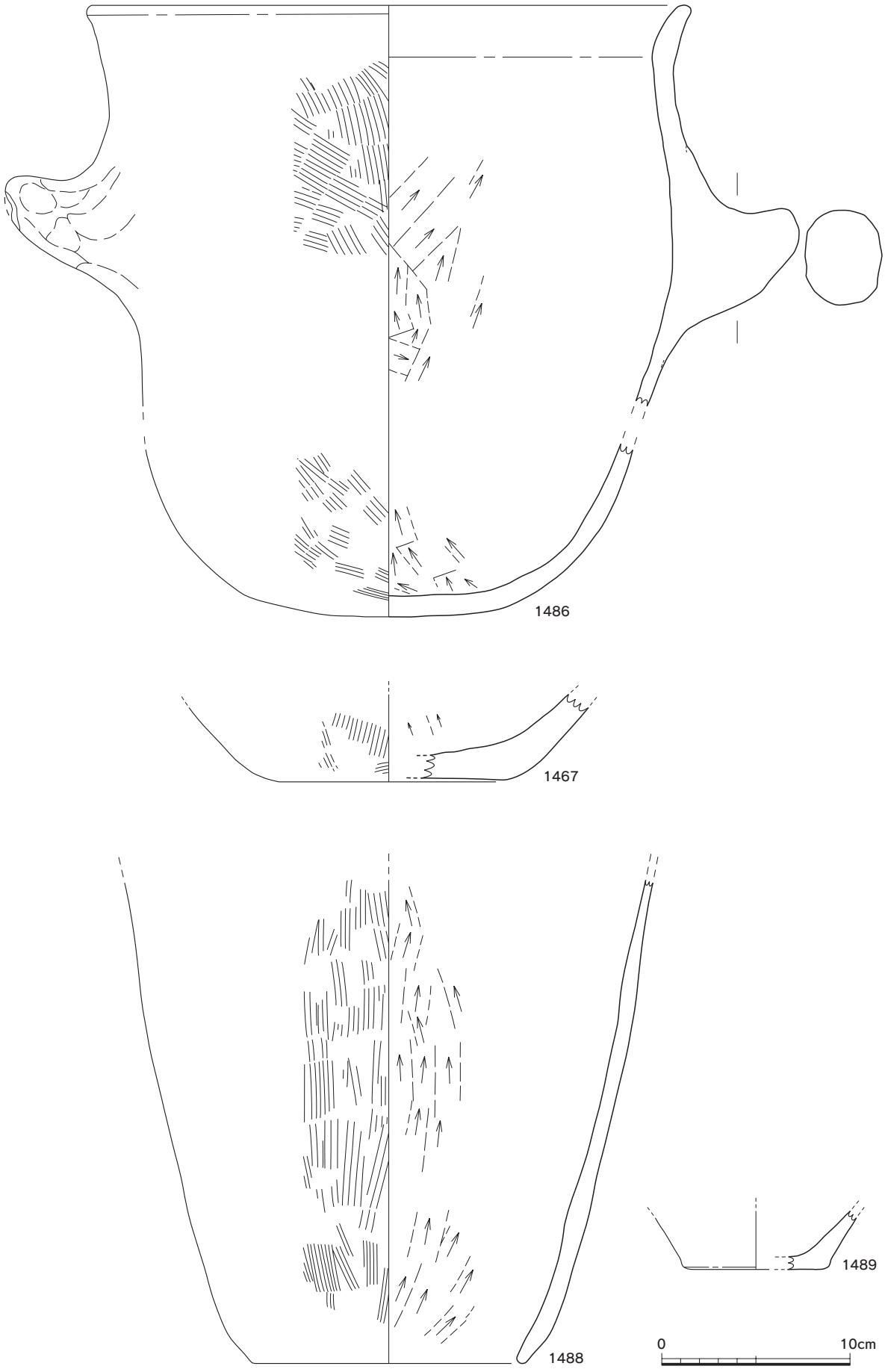


第194図　17次ＳＸ01出土遺物実測図②（１／３）



第195図　17次ＳＸ01出土遺物実測図③（1479・1480は１／６、他は１／３）

須恵器（1452～1480）　1452～1458は杯蓋、天井部外面には回転ヘラケズリを行う。また1452～1457は天井部外面にヘラ記号を施す。1455は天井部にハケメ状の痕跡がある。1458は小片のため傾きに難があるが、他よりも法量が大きく、天井部外面の回転ヘラケズリの範囲も広い。1459～1470は杯身。1459～1468は外面にヘラ記号がある。1462～1464・1466・1467は受部に杯蓋口縁部が釉着している。1459は底部外面平らで、焼け歪む。1462は外面全体に降灰し、1cm程度の窯壁が多く付着している。1464は底部外面に重ね焼きの痕跡あり。1465は焼成不良。1466は底部外面に灰色を呈する付着物がある。焼け固まり、発泡して小孔が無数に開き、製作時についた粘土もしくは泥かと考えられる。1467は外面広く降灰し、窯壁の付着が認められる。1468は焼け歪み著しい。1469は立ち上がりが高く、杯部も深い。1470は杯Ｂ身。高台は低い。焼成不良。小片。1471は椀。体部は丸みを持つ。1472～1475は高杯。1472は蓋である。外面の3分の2にカキメを施す。天井は高く、全体的に丸みがある。1473は有蓋高杯で杯部および脚部の一部にカキメを施す。1474と1475は無蓋高杯の杯部。杯部と脚部の接合方法は、1474は丸底の杯部に円筒上の脚部を貼り付けるのに対し、1475は杯部中央に断面三角形の突起を設け、円筒状の脚部を差し込んでいる。1476～1480は甕。1476は体部外面平行タタキ後にカキメを施す。1477は外部に擬格子タタキの後にカキメを施す。1478は頸部外面下半は平行タタキ後カキメを施している。さらに頸部外面上半に浅い

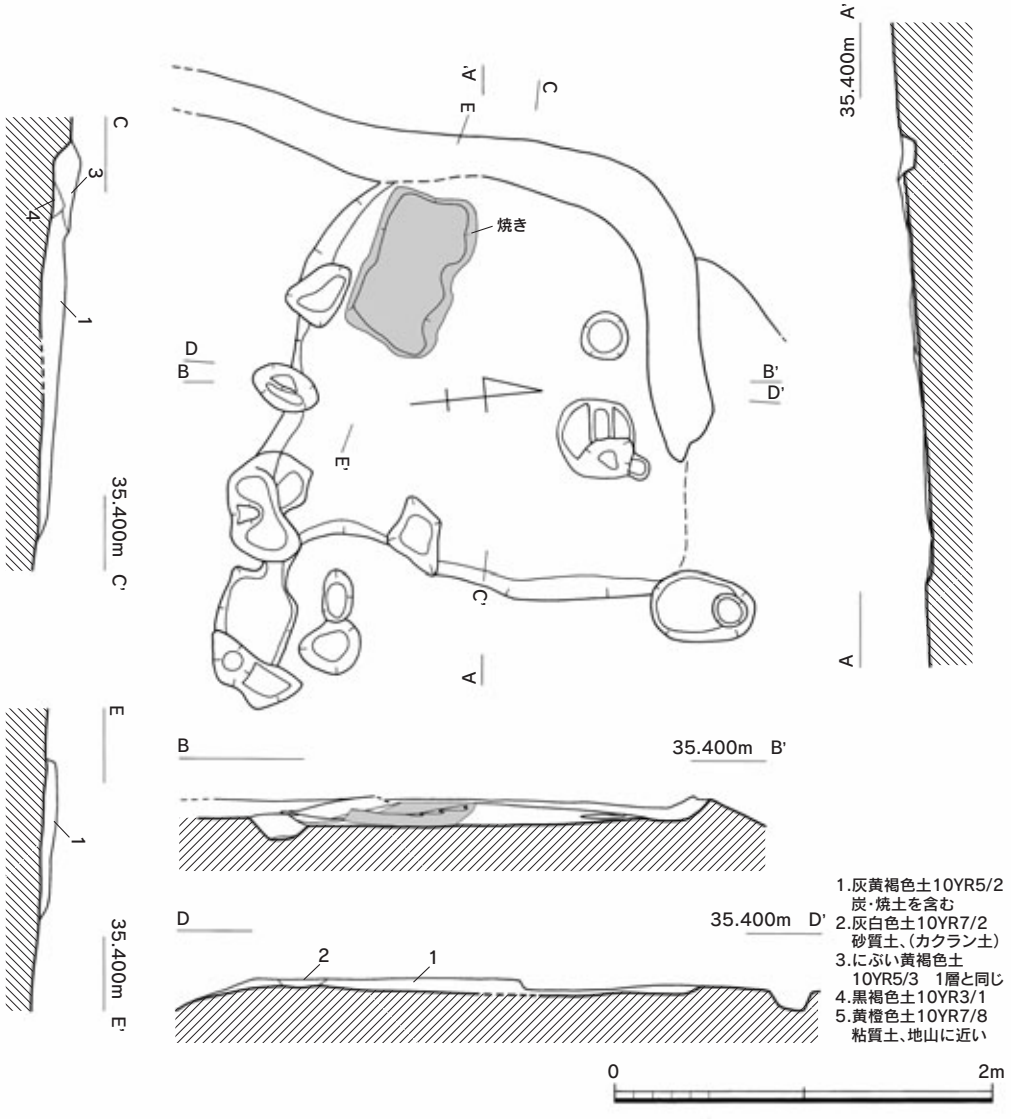


第196図　17次ＳＸ01出土遺物実測図④（1／3）

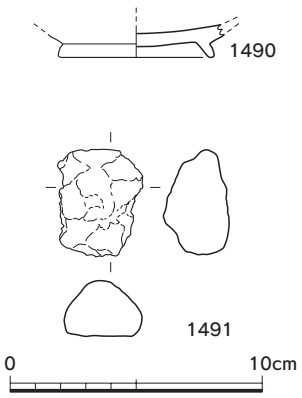
沈線を二条巡らせ、その間に上段２段、下段１段波状文を巡らす。施文方向は右から左と考える。体部内面の同心円文当て具痕は、細く深い。1479は口縁部にカキメ後に左下がりの連続斜線文を施している。1480は肩部はゆるやかに下降している。1479と同様に口縁部カキメ後に左下がりの連続斜線文を施すが、比較的粗い。

土師器（1481～1488）　1481は椀？丸底になるタイプか？1482は底部が丸く、体部はわずかに外反する。器壁が薄く、口縁部にいたっては2～3mmほどしかない。高杯を思わせるが、底部がほとんど残存していないためはっきりしない。1483～1487は甕。1483は口縁部内面に煤が付着し、外面は器壁がはじけている。1484・1485は小片のため傾きに難がある。1484は肩部が張らず、体部はややふくらみをもつ器形になる。外面に黒斑あり。1485は口縁部は短く、わずかに外反し、体部はふくらみを持つ。1486は把手付き。口縁の内面に黒斑がみられる。口縁部はゆるやかに外反する。底部は平底に近い。1487は外面に黒斑がみられる。底部平底。1488は甑。外面に黒斑がみられる。

弥生土器（1489）　甕の底部である。小片である。摩滅のため調整不明。　（大里）



第197図　17次ＳＸ03実測図（１／40）



第198図　17次ＳＤ07出土遺物実測図（1/3）

ＳＸ03（第197図）

調査区のほぼ中央部にあり、ＳＸ01のすぐ北側に位置し、ＳＢ03と重複するが前後関係は不明である。遺構検出時に２ｍ程度の埋土の広がりを認めて掘り下げをおこなったが、全体的に非常に浅く、なおかつ西側は削平されていた。調査の結果、土坑は一辺2.1ｍ程度の略方形プランを呈し、深さは10ｃｍ前後であった。埋土は黄褐色土～黄橙色土を主体とする。土坑の南西側からは長さ0.8ｍ、幅0.5ｍの長方形プランの焼土が確認された。焼土の厚さは５～６cm程度であったが、焼けしまりはそれほど強くない。竪穴住居跡かとも考えられたが、削平が著しく性格不明とせざるをえない。出土遺物は、須恵器・土師器があるが、いずれも小片であり実測可能なものはなかった。（石木）

（３）第２面の遺構

ｉ）溝

ＳＤ07（第102図）

調査区の南側に位置する。整地層除去後にプランを確認し、掘り下げをおこなった。長さ2.4ｍ、幅0.3～0.51ｍ、深さ10cm程度の小溝である。出土遺物は、須恵器・土師器などがある。遺構は第２面から検出されたが、出土遺物の時期が整地層などの所見と合致しない。このことに対して、ＳＤ07を第１面で検出できた可能性と、第１面でＳＤ07に切り込む遺構を検出できなかった可能性があり、溝底に小穴が認められることから後者の可能性が高い。（石木）

出土遺物（第198図）

土師器（1490）　椀。内面薄く黒化しており、あるいは黒色土器Ａ類か？

鉄滓（1491）　長さ約３cm。上面平ら、下面は丸くなる。着磁せず、メタルは残存しない。（大里）

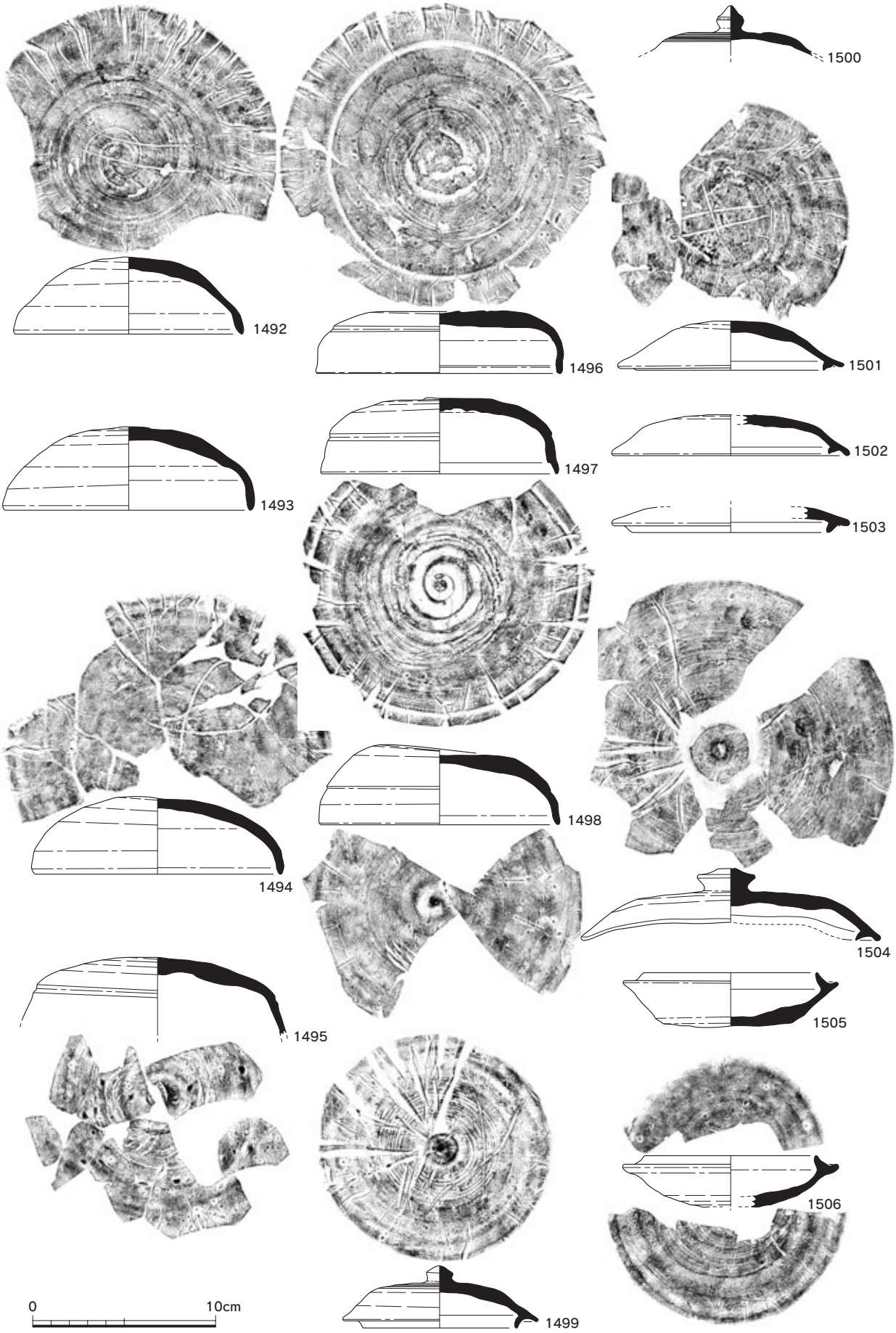
（４）整地層

整地層（第162図・図版57）

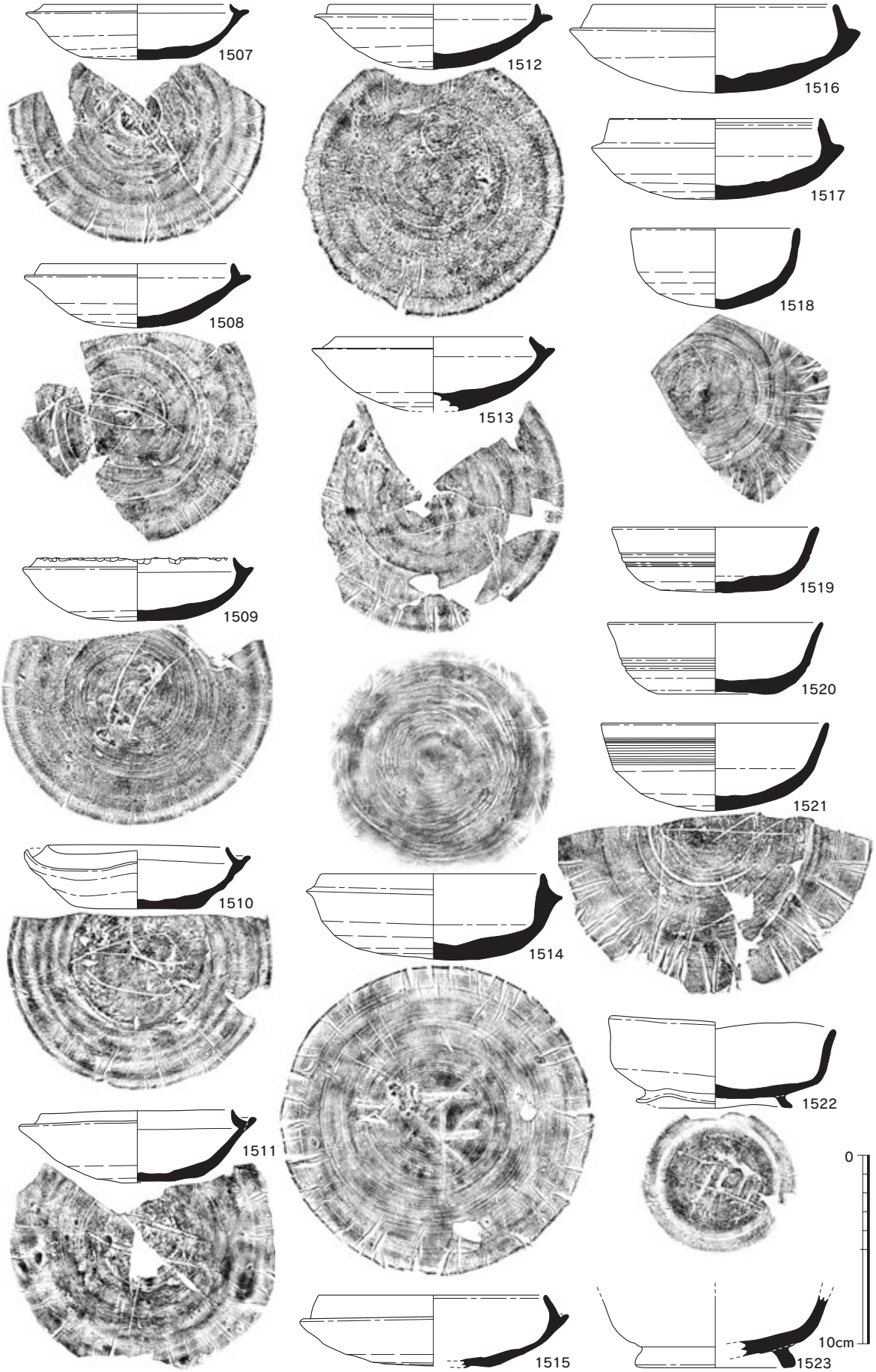
調査区の東半部で確認された。層は、東へむかうにつれて次第に厚くなり、最大40cm程度である。黄色土～黄橙色土を主体としており、しまりがありかたい。整地層下からはピット・溝が確認されたほか、調査区の東側中央部では東側へ下がる大きな落ち込み（ＳＸ05）を確認した。整地層からの出土遺物は、須恵器・土師器などがある。（石木）

出土遺物（第199～202図・図版100・101）

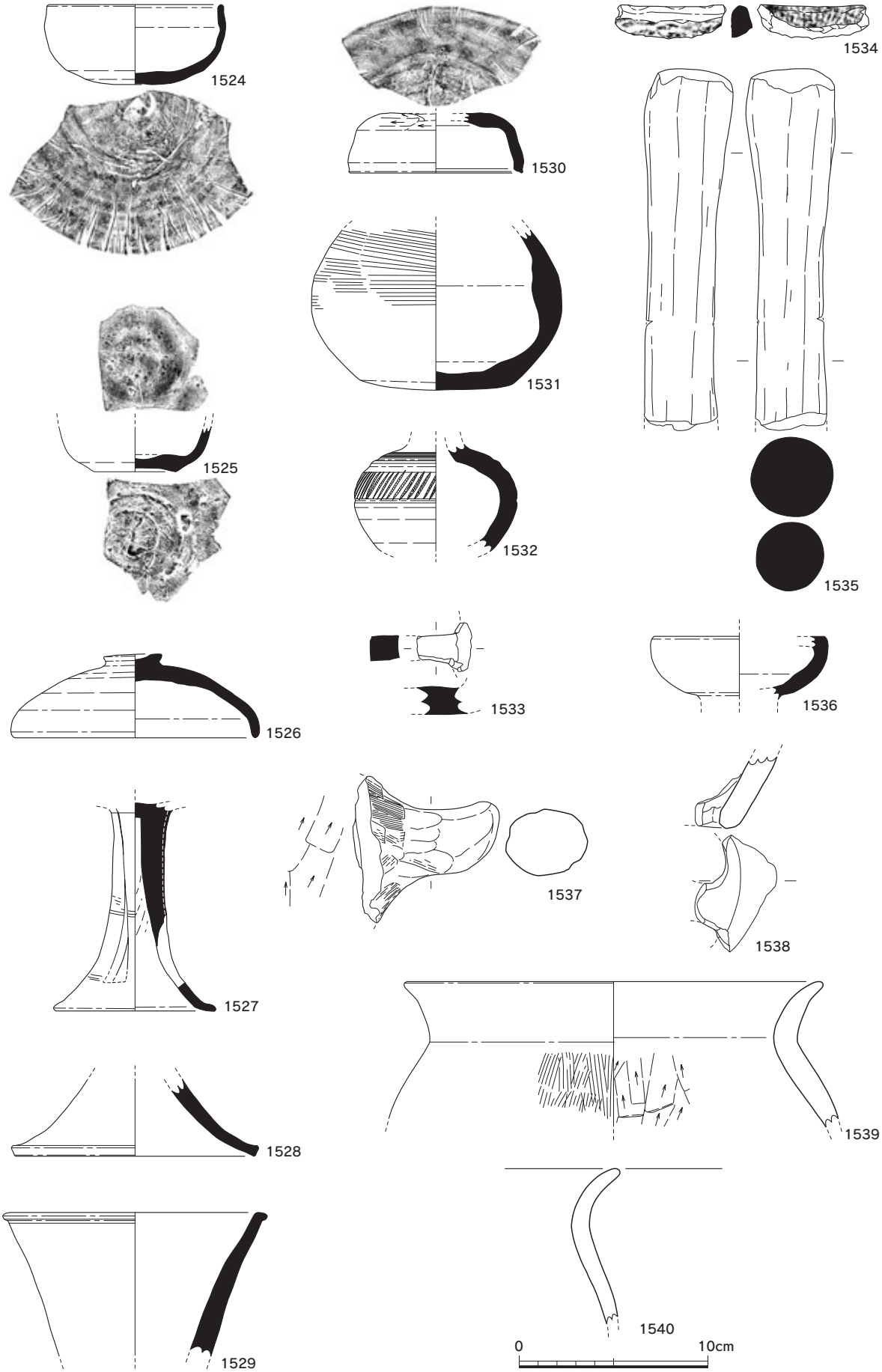
須恵器（1492～1536）　1492～1504は杯蓋。1492～1498は杯Ｈ蓋。1492・1494～1496は天井部外面にヘラ記号をもつ。1492～1494は天井部は比較的高く、丸みをもつ。1493は天頂部をケズリ残している。1495～1498は天井部と体部の境に沈線を巡らせる。1495は天井部内面に当て具痕を有する。1496は天井部外面の回転ヘラケズリの範囲は広いが、ケズリは稚拙で器壁は厚く、天井部は平らに近い。1497は口縁端部は段を有し、内面の巻上げの痕跡は明瞭である。1498は口縁端部内面を意識してナデるが、段をなすにはいたらない。天井部内面に当て具痕を有する。1499～1503は杯Ｇ蓋。1499はかえりが長く、つまみは乳頭状を呈する。1500は宝珠形に近いつまみをもち、



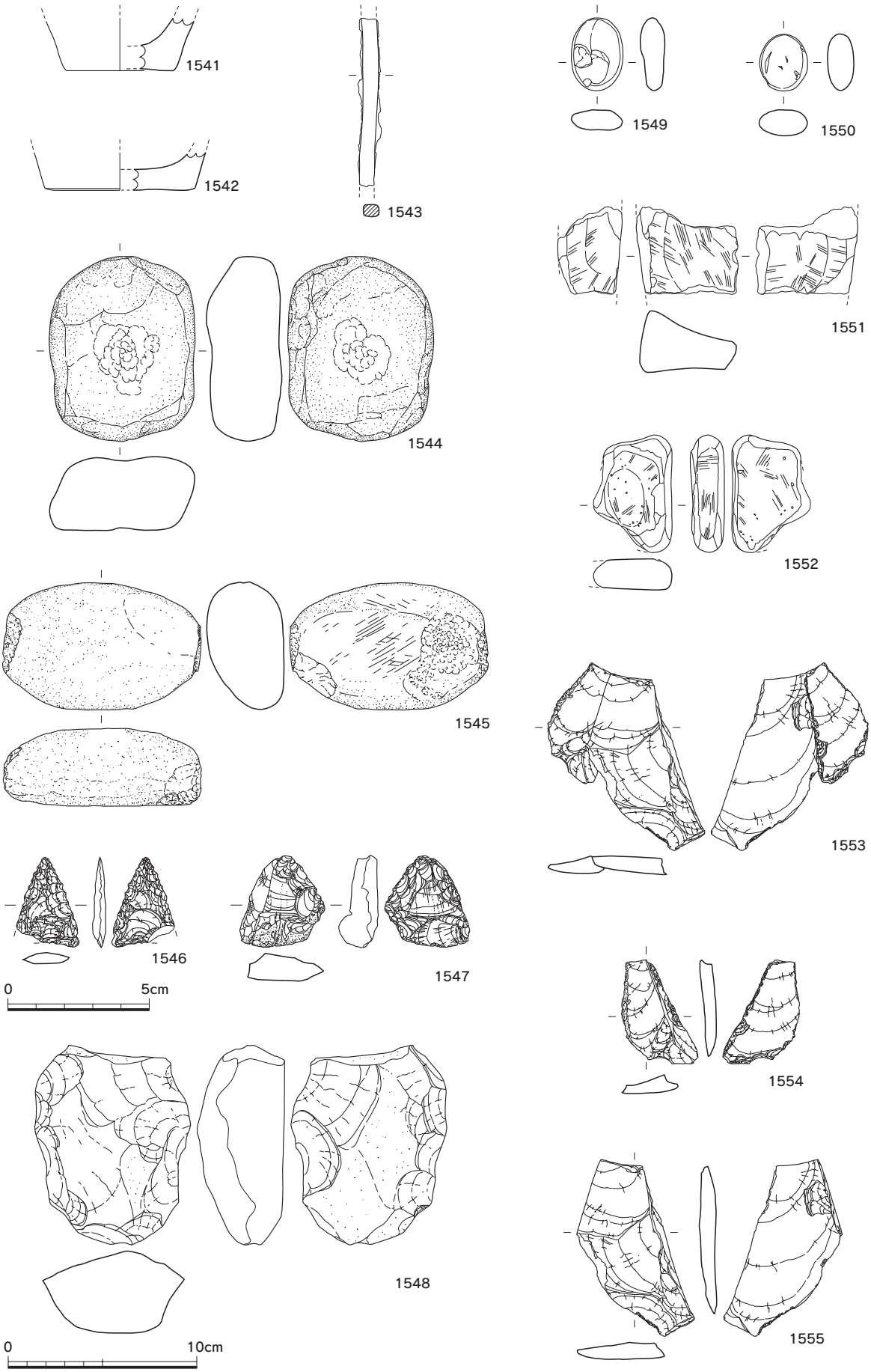
第199図　17次整地層出土遺物実測図①（1／3）



第200図　17次整地層出土遺物実測図②（1／3）



第201図　17次整地層出土遺物実測図③（1／3）



第202図　17次整地層出土遺物実測図④（1546・1547は1／2、他は1／3）

天井部の外面にカキメを施す。1501・1502はつまみをもたない。1501は天井部外面は回転ヘラケズリをおこなわず、ナデて仕上げられる。ヘラ記号を施す。1502は焼け歪む。天井部外面に回転ヘラケズリを施す。1503も焼け歪む。1504は杯B蓋。高い山形のつまみを有し、かえりは口縁部よりやや長い。1505～1523は杯身。うち1505～1517は杯H身。1505～1513は立ち上がりが低く内傾している。1505は底部外面をナデて仕上げ、平らに近くなる。1514は底部外面の回転ヘラケズリは密に施されるが、体部内面と立ち上がりはまったく屈曲せず、箱形に近い断面形を呈する。図に表現しにくいが、杯部全体は歪んでおり極めて拙劣な成形である。1515～1517は立ち上がりが高く、1517は口縁端部に段を有する。1518～1521は杯G身。1518・1521は底部は丸みを帯び、杯部は深く、1519・1520は底部が平らに近く、体部に沈線を施す。1522・1523は杯B身。高台はハの字にひらく。1524・1525は椀。1524は体部は内湾して立ち上がり、底部は丸い。1525は底部ヘラ切り痕を残し、平底。底部内外面に、異なる種類のヘラ記号を施す。1526～1528は高杯。1526は有蓋高杯の蓋である。中央がくぼむ扁平なつまみをつけている。1527・1528は脚部のみ。1527は一段スカシで、脚部の接合部から切れ込みを入れて下半で三角形のスカシを開ける。上半は切れ込みのみで、内面まで貫通しない。1528は脚部のみの細片。1529はすり鉢である。外方にまっすぐに伸びている。口縁部は外方に折り曲げられる。1530は短頸壺の蓋。1531は底部平底に近く、上半にカキメを施す。壺類。1532は鼈。頸基部は細い。1533は甑底部の小片。桟の一部である。1534は切削物である。1535は須恵質の棒状土製品。長さは18.7cm。太さは約4.7cm。欠損部で体部と接合していたと考えるが、器形不明。1536は器種不明。高台か脚がつくようである。

土師器（1537～1540）　1537は甑か？把手のみ残存。1538は甑。体部と桟の一部が残る。1539・1540は甕。いずれも外面ハケ目、内面ヘラ削り。

弥生土器（1541・1542）　どちらも甕の底部である。平底。

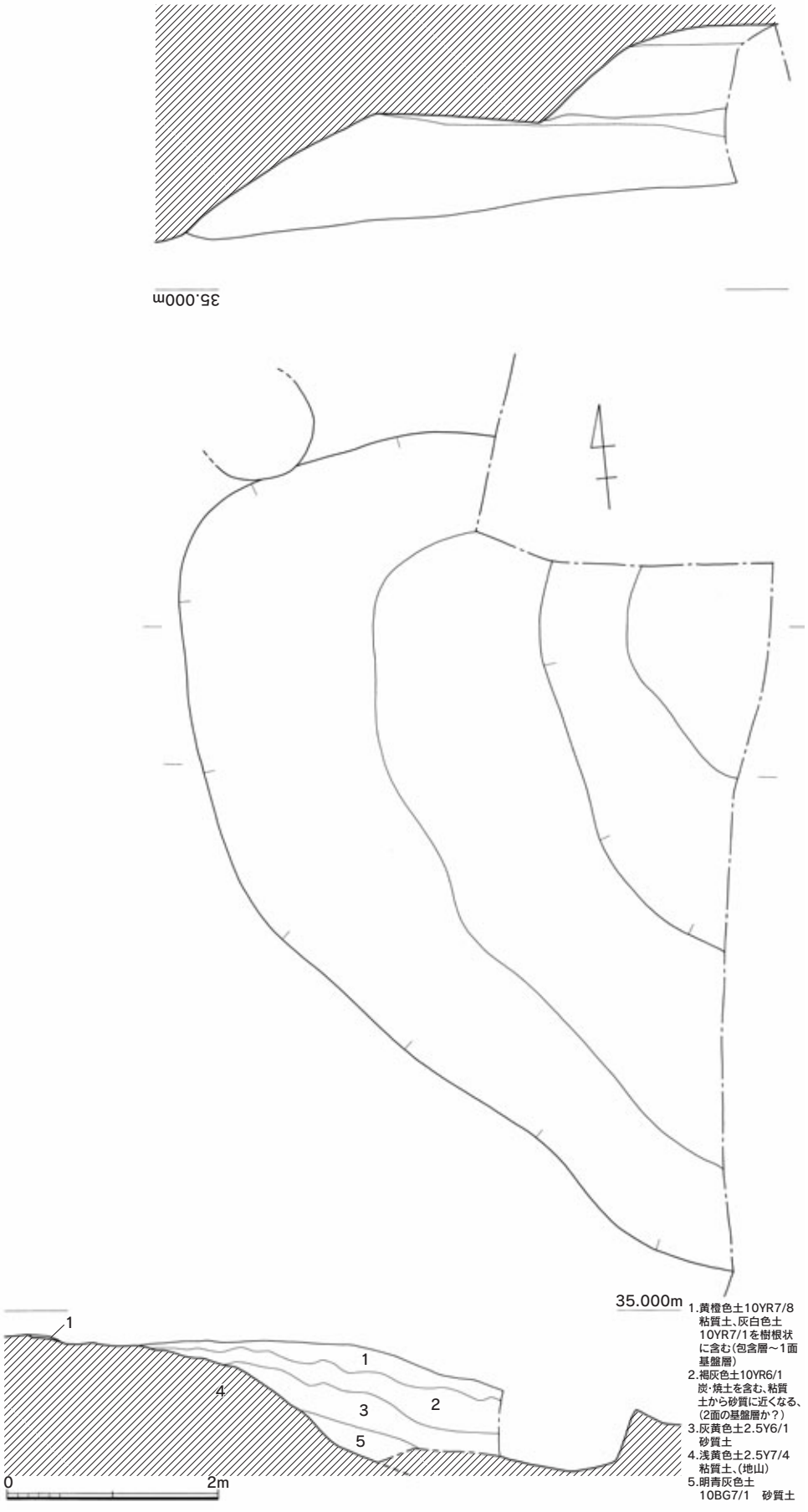
鉄製品（1543）　棒状。断面方形。表面に樹皮の痕跡が見える。器種不明。

石製品（1544～1555）　1544は凹石、1545は磨石で、敲石としても利用している。1546は安山岩製の石鏃。両脚部を欠損しているが、脚は長くない。1547は黒曜石の剥片。一部調整しているようだが、自然面を残し、厚さが不揃いであることから石器未製品と思われる。1548は全体を大まかに剥離しており、石斧の未製品か。1549と1550は不明石製品である。どちらも灰白色を呈し、丸く扁平である。1551と1552は砥石。1551は3面使用し、1552は全面使用している。1553は1554と1555の接合資料。1555は一側縁に礫面を残し、一方は調整をおこなったような痕がある。器種不明。　（大里）

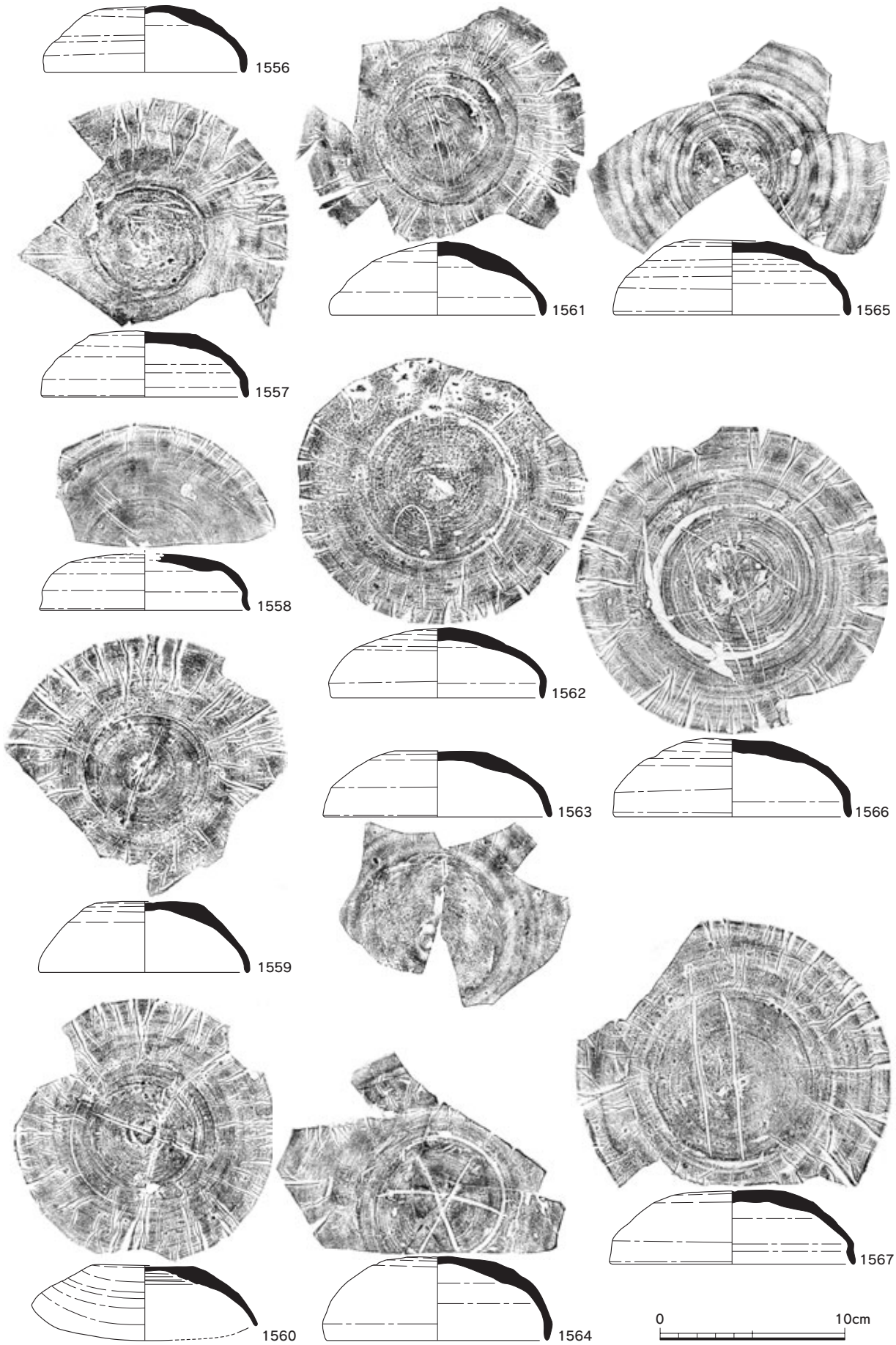
ＳＸ05（第203図・図版58）

調査区の中央部やや東よりで確認された。検出時は第２面の遺構と考えたが、調査の結果小谷の堆積層であることが確認できた。東側へむかう略半円状の落ち込みであり、埋土は上層ではＳＢ02が切り込む第１面の基盤層、下層では砂質土が確認できた。深さは１ｍあまりを確認したが完掘できず、東側へむかってさらに深くなるものと考えられる。遺物は上層からの出土が多く、下層にいくにしたがい次第に少なくなる。出土遺物は、須恵器・土師器・弥生土器などがある。　（石木）

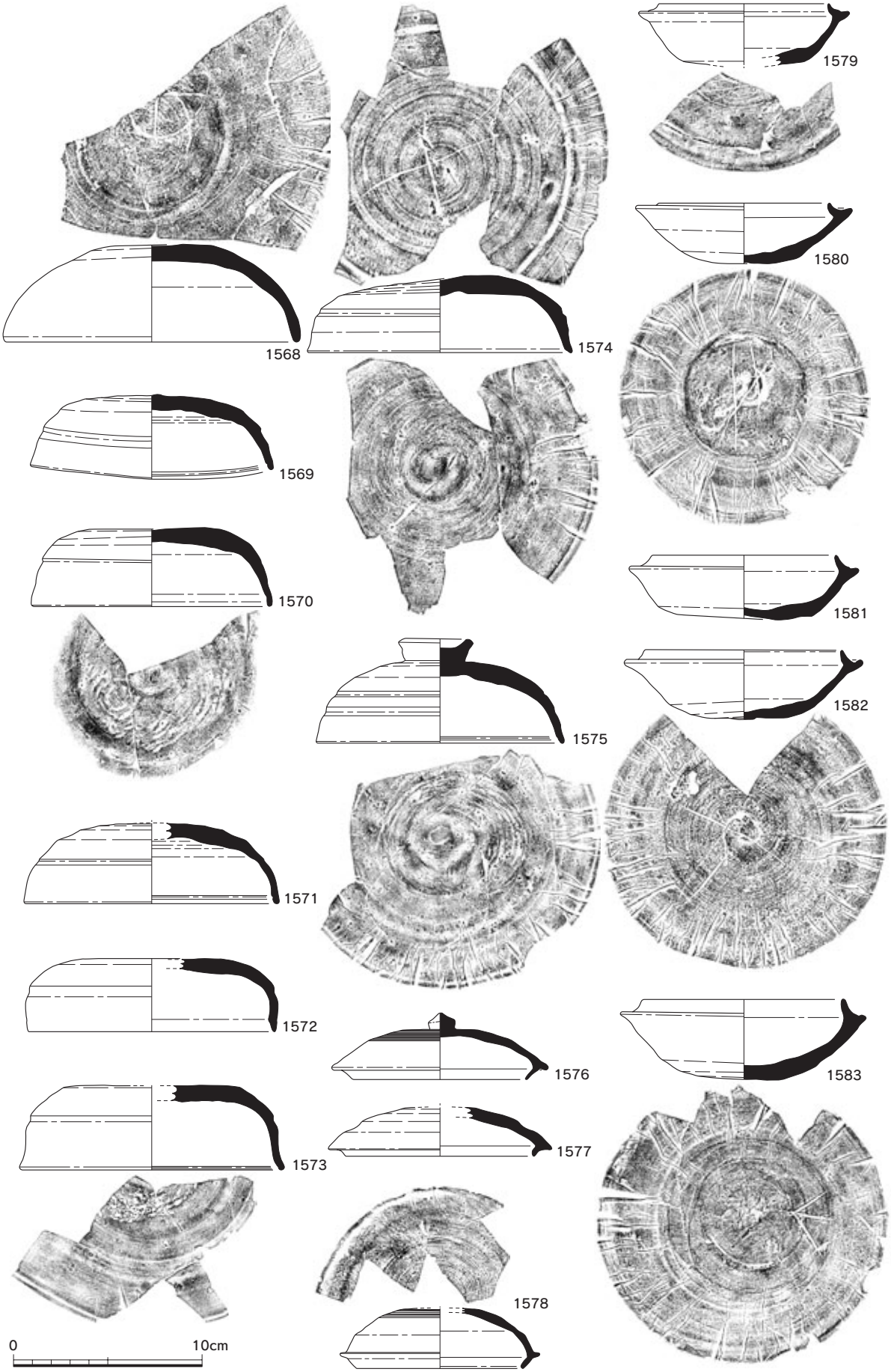
出土遺物（第204～212図・図版102～104）



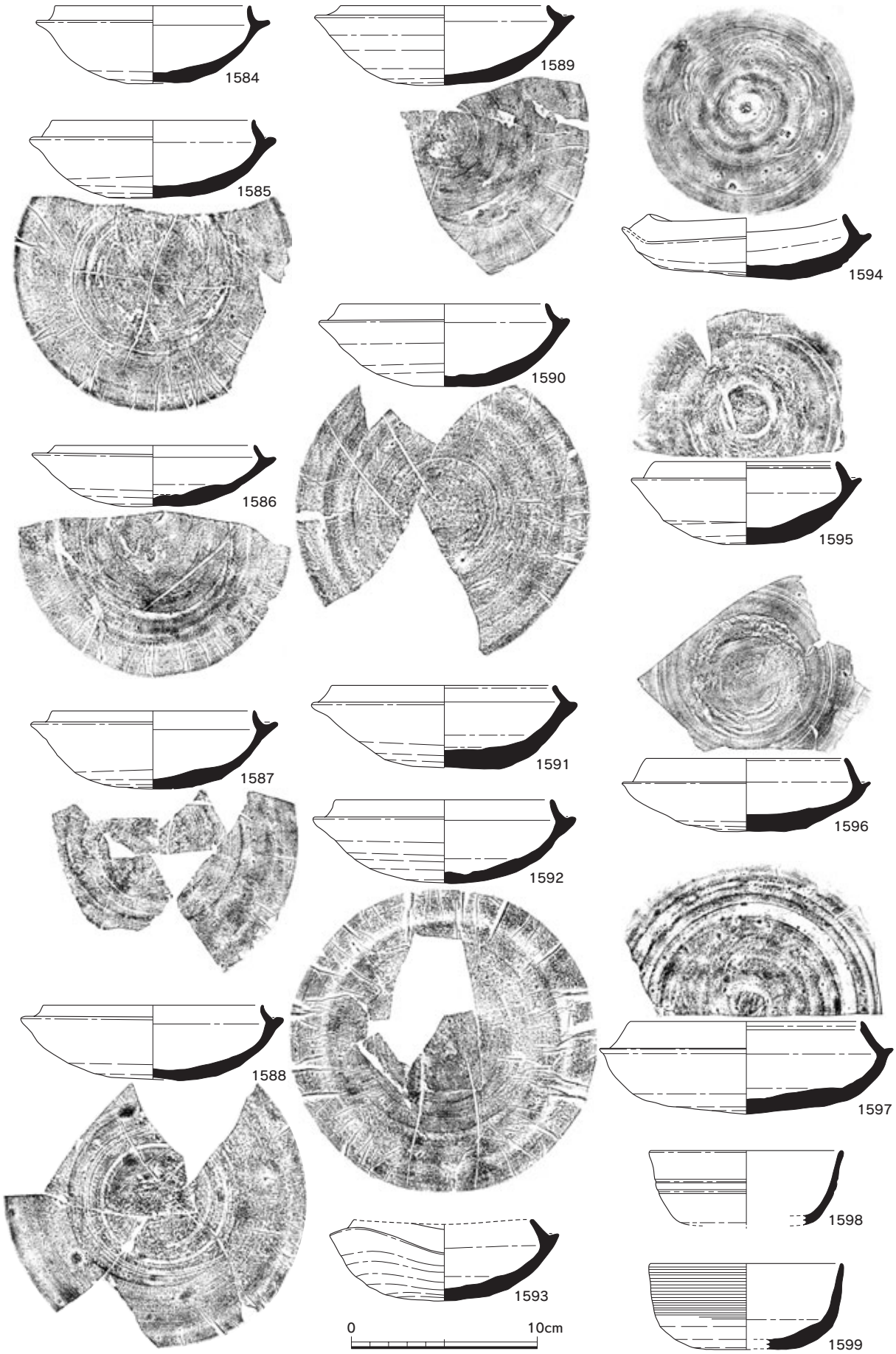
第203図　17次ＳＸ05実測図（１／60）



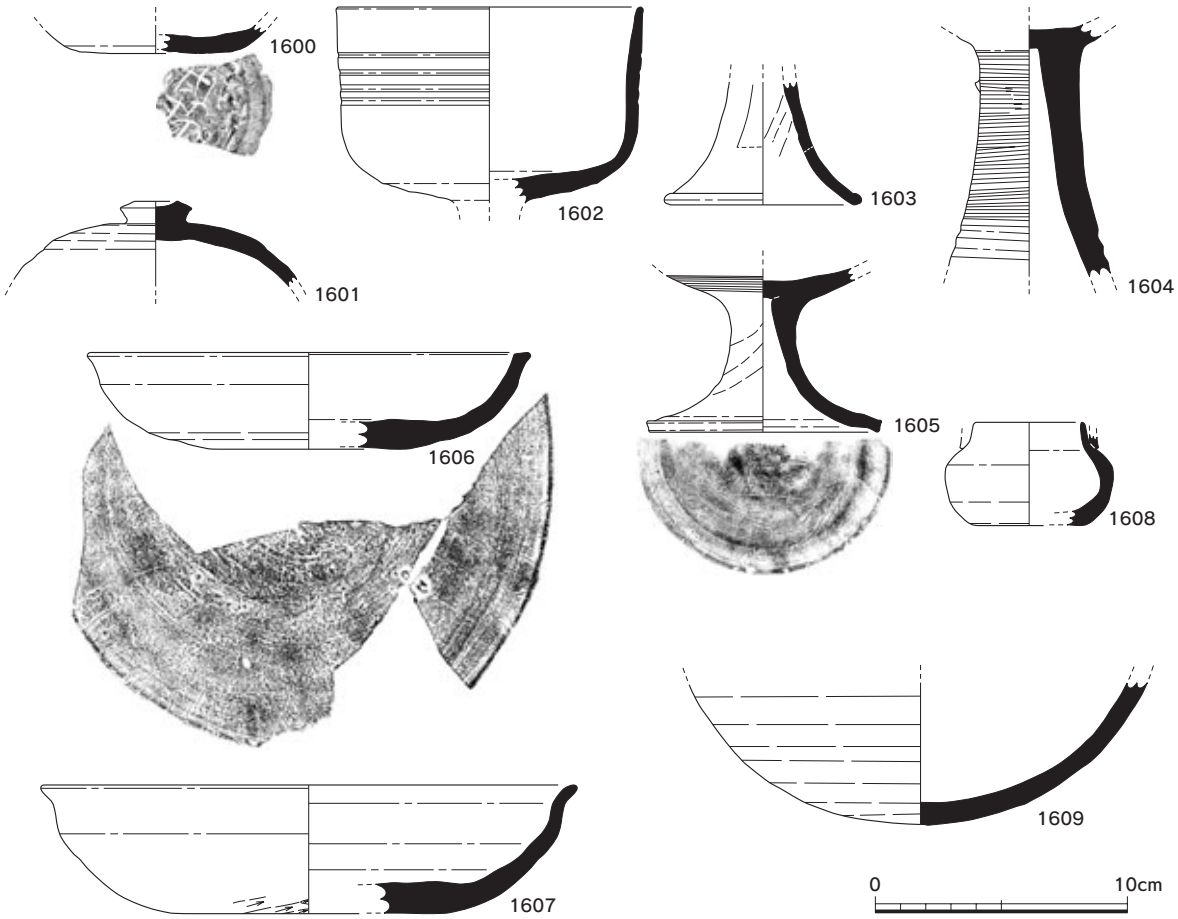
第204図　17次ＳＸ05出土遺物実測図①（１／３）



第205図　17次ＳＸ05出土遺物実測図②（１／３）

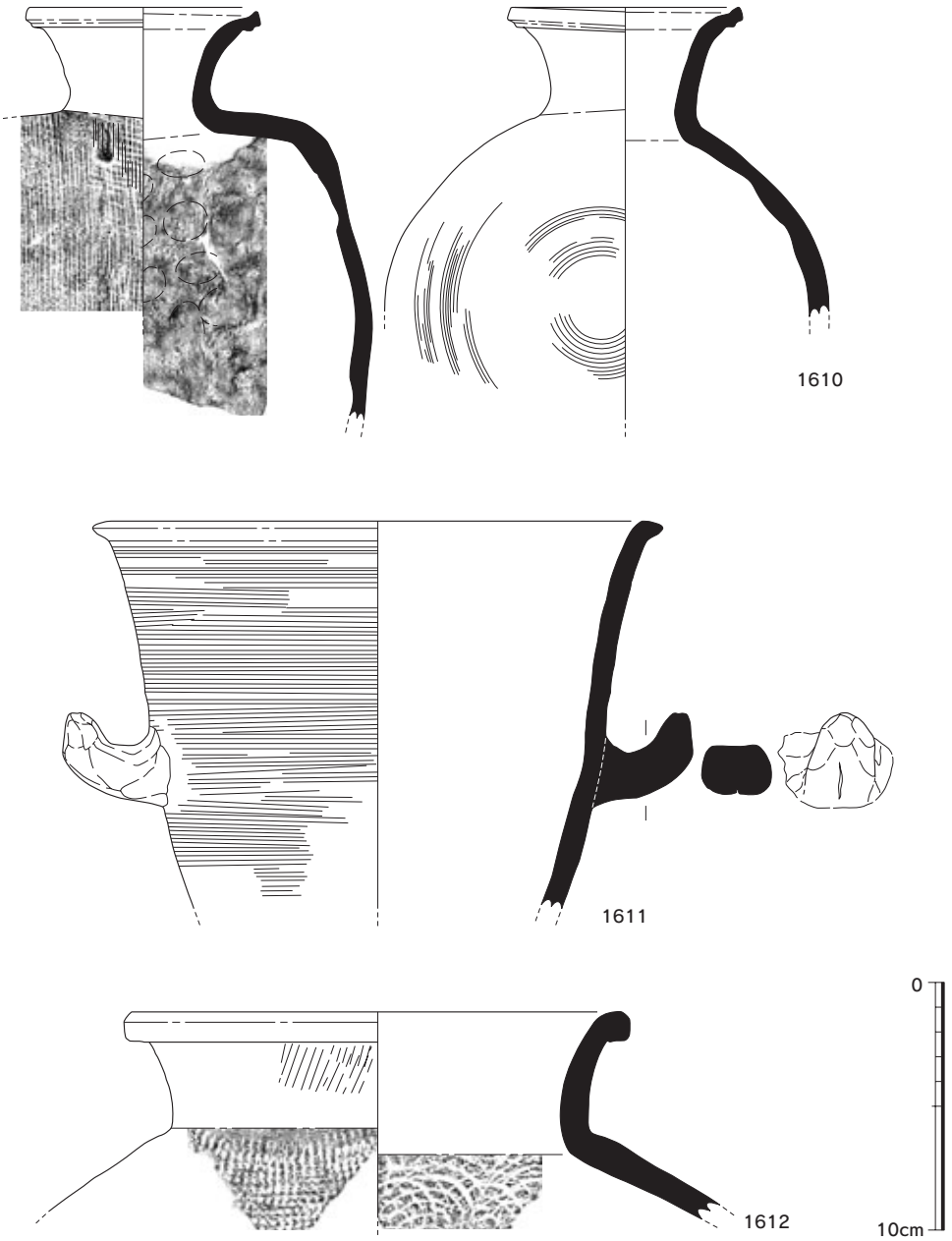


第206図　17次ＳＸ05出土遺物実測図③（１／３）



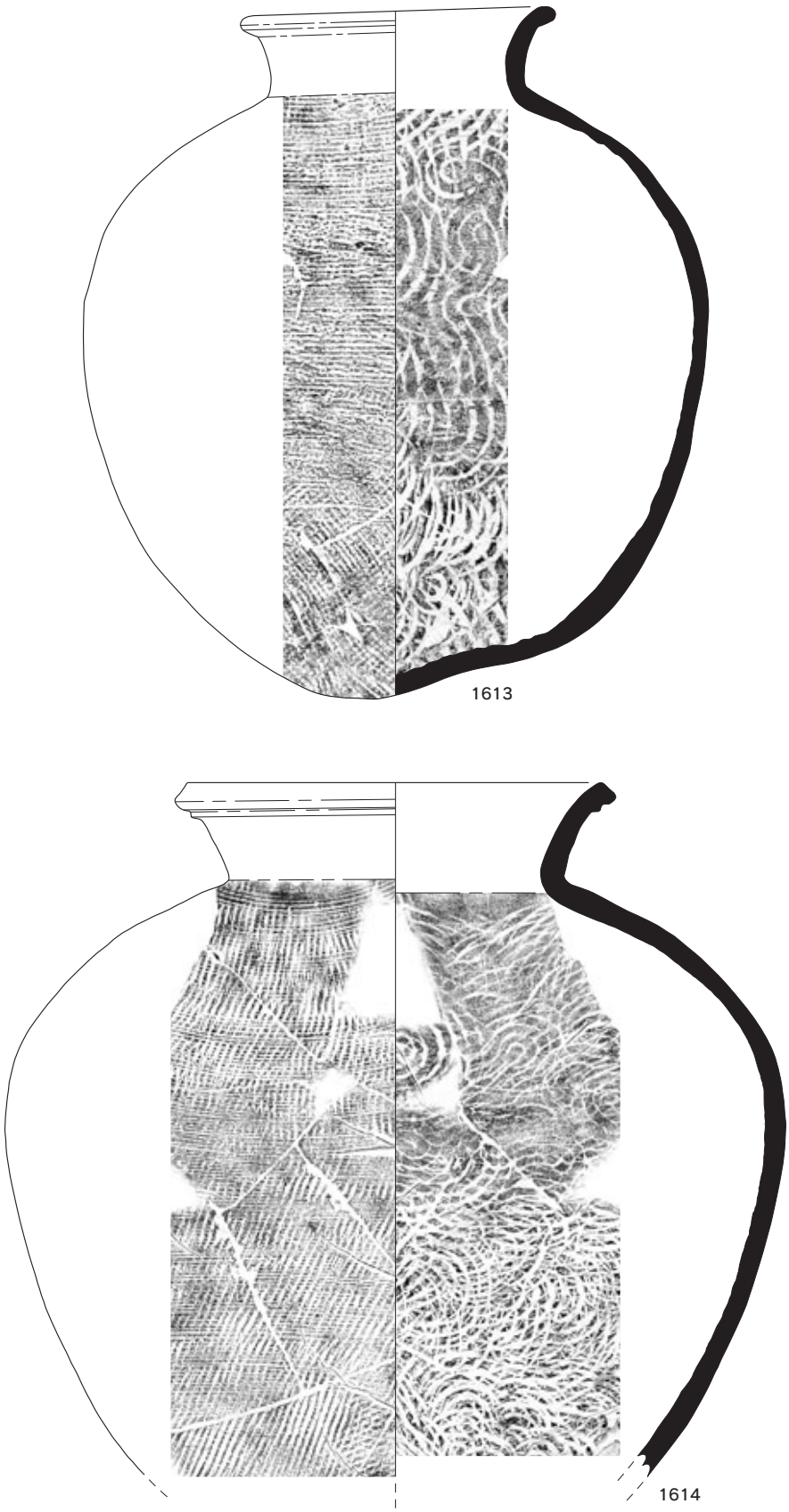
第207図　17次ＳＸ05出土遺物実測図④（１／３）

須恵器（1556～1623）　1556～1574は杯H蓋。1557～1562・1564～1568・1574は天井部外面にヘラ記号を施す。1556～1560は天井部が平らに近く、1556・1557は回転ヘラケズリを施さない。1561～1568は天井部が比較的高く、丸みをもつ。1563は天井部内面にシッタ痕を残す。1569～1574は天井部と体部の境に段を巡らせる。1570・1573・1574は天井部内面に当て具痕を有する。いずれも天井部が高く、やや肩が張るような箱形に近い断面形を呈し、外面の回転ヘラケズリの範囲は広く、口縁端部に段を有する。1575は杯H蓋に大きなつまみを有する。高杯の蓋とする。端部が外方へ開く中央部の平らな大きなつまみを有する。内面には当て具痕がある。1576～1578は杯G蓋。かえりは長い。1576は天井部にカキメを施し、小さな宝珠つまみをつけている。1578は天井部外面にカキメを有する。1579～1599は杯身。1579～1597は杯H身。1579・1580・1582・1583・1585～1590・1592は底部外面にヘラ記号が施され、1594～1597は底部内面に同心円の当て具痕がつく。1579・1580は立ち上がりが短く、大きく内傾する。蓋か身か判断に迷う。1581は底部は平らに近い。1582～1591は立ち上がりが低く、内傾する。杯部は比較的深い。1592～1597は立ち上がりは比較的長く、内傾する。1593は焼け歪む。1595・1597は口縁端部に段を有する。1598・1599は杯G身。1599は底部外面回転ヘラケズリを施す。1600は杯類と考えられる。外面にヘラ記号とも文字ともつかないヘラ書きが施される。1601は高杯蓋。丸みをもっている。1602は脚付椀。体部は直線的に伸びており、4条の沈線が入る。1603～1605は高杯。1603は低脚。

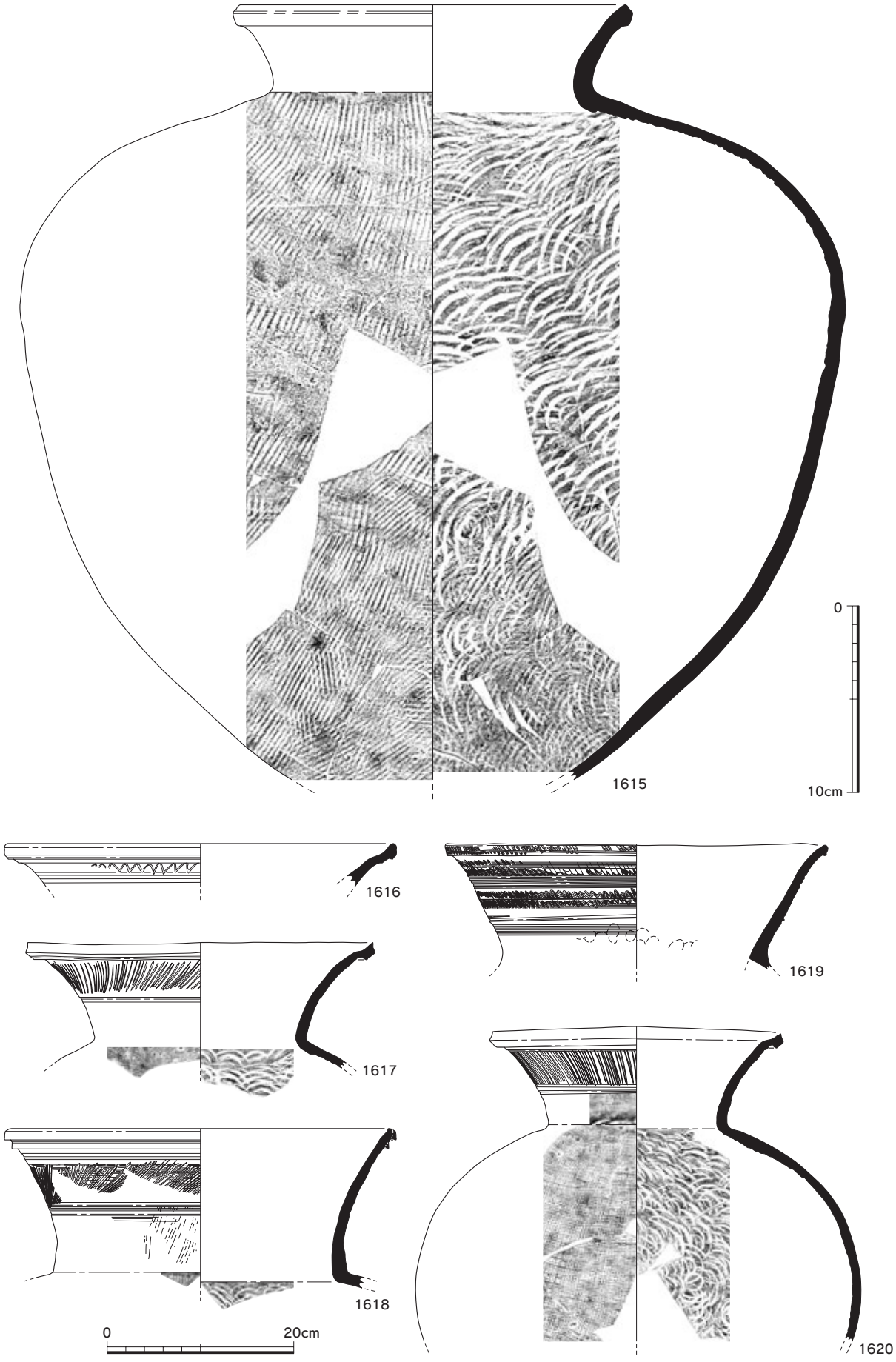


第208図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑤（１／３）

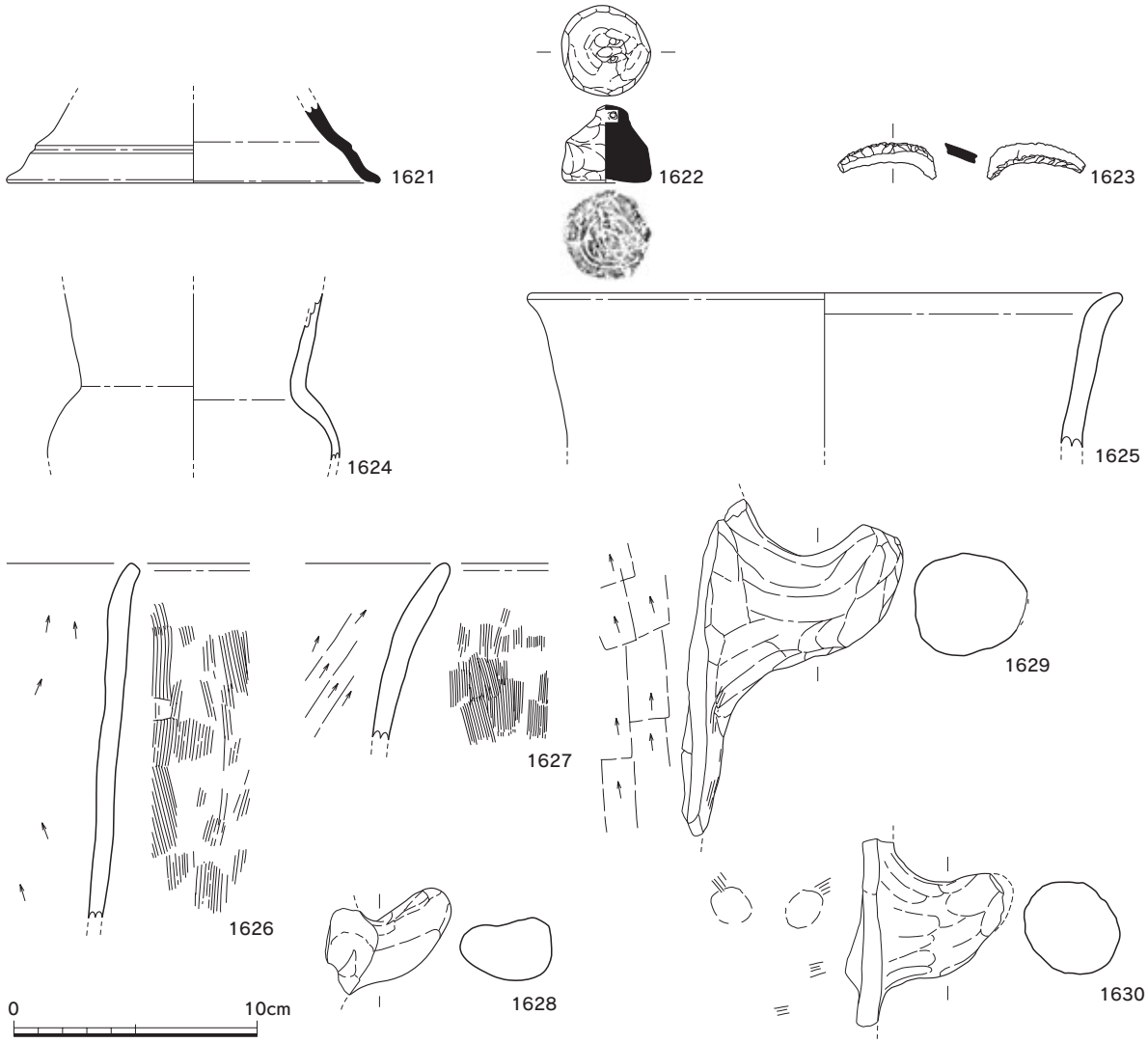
スカシを有する。1604は長脚。脚部全体にカキメが施され、自然釉が垂れる。1605は低脚。脚裾部は大きく広がる。脚部内面にヘラ記号を施す。1606・1607は盤。1606は底部まで回転ヘラ削りを行い、底部の外面にはヘラ記号を施す。1607は1606に比べやや深い。焼成不良。口縁部外反し、底部は手持ちヘラ削りをおこなう。1608は短頸壺。頸部に蓋の口縁部が釉着している。1609は壺類の底部。底部外面回転ヘラ削りを行い、調整は丁寧。1610は提瓶。内面は回転ナデの後、静止ナデを施し、指頭圧痕が残り、圧痕内には一部布目もみられる。外面には最終的にカキメが施されるが、カキメ下には平行タタキが認められ、内面の指頭圧痕と対応するようである。このことから、1610は体部下半にタタキが用いられるが、底部から粘土紐を巻き上げる段階に施されたもので、頸部を穿孔し、タタキ板と当て具を用いて丸底にタタキ出す横瓶の技法とは異なっている。1611は甑。体部はカキメが施される。把手下側中央には浅い切り込みが一条入る。1612～1620は甕。1612～



第209図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑥（１／３）

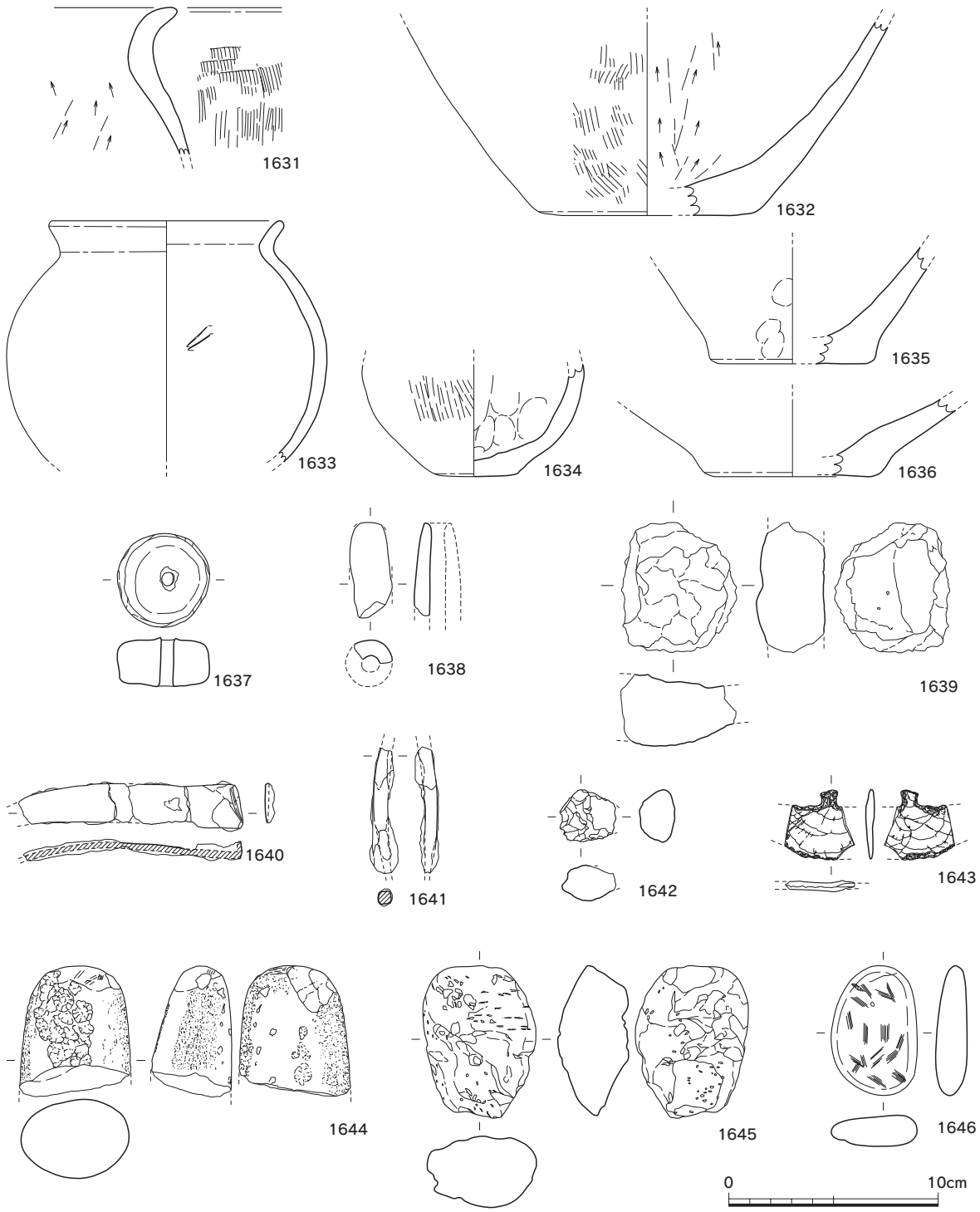


第210図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑦（1617～1620は１／６、他は１／３）



第211図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑧（１／３）

1615は頸部折り曲げ。いずれも内面には同心円文当て具痕がある。1613は最大径を体部中位あたりにとるが、1614、1615はやや上位よりにある。1612は外面擬格子目タタキ。1613は体部外面擬格子タタキ後、上半はカキメを施す。内面の同心円文当て具痕は粗い。底部外面に焼台の痕跡が認められる。1614は外面擬格子タタキ後、疎らにカキメを施す。1615は外面平行タタキ、内面上半は粗い同心円文当て具が用いられるが、下半は細かいものが使用される。当て具は頸部から底部へむかって進行している。1616は小片。頸部外面に一条の波状文が施される。1617～1620は口縁部別作り。1617は頸部外面中位に沈線を巡らせ、上段に左下がりの連続斜線文をやや粗く施す。1618は頸部外面にカキメを施した後、中位に沈線を巡らせ、連続斜線文をやや粗く施す。1619は頸部外面をカキメした後に上２本・下1本の２段に沈線を巡らせ、上段と中段に細かな波状文を２段にわたって施す。さらに、口縁端部外面にも刺突文を密に施しており、密に加飾される。内面は、中位のほぼ同じレベルに釉着が７ヶ所見られ、さらに口縁部から釉着部にむかって幅２～３cmの重ね焼き痕がある。窯道具あるいは他の器種を重ねたものと考えられるが、詳細は不明である。1620は頸部外面回転ナデ後沈線を２条巡らし、連続斜線文をやや粗く施す。1621は器種不明。脚部のみ。脚端部は外



第212図　17次ＳＸ05出土遺物実測図⑨（１／３）

反し、ラッパ状に大きく広がる。高杯か？1622は権状製品。高さは3.3cm、外面降灰。手づくねで低い釣鐘形を作り、方形状に鈕をつまみだし、穿孔する。底部には渦巻状のヘラ書きが認められる。重さ45.2ｇ。1623は切削物。外面端にタタキと思われる痕がある。

土師器（1624～1634）　1624は壺。1625～1630は甑。1626・1627は外面煤付着。1628は差し込み式で、下面に煤がつく。1631～1633は甕。1631は体部内面ヘラケズリ。1632は内面ヘラケズリ、底部は平底となる。外面煤付着。1633は小型。口縁部外方へのび、体部は球胴状。1634は器

種不明。底部は小さく平底になる。内面ナデ。

弥生土器（1635・1636）　1635は甕の底部。1636は底部のみで大きく開いてのびる。壺の底部か。

土製品（1637～1639）　1637は紡錘車。胎土は粗い。土師質に焼成され、黒斑を有する。1638は土錘。土師質。孔径６㎜程度か？。1639は炉壁もしくは窯壁か？砂粒が多く混じり、瓦質に焼固する。

鉄製品（1640・1641）　1640は鉄鎌。先端部欠損。1641は鉄釘か？

鉄滓（1642）　塊状を呈し、着磁しない。

石製品（1643～1646）　1643は石匙。両端部を欠損する。1644は石斧。基部のみの小片。1645は軽石。加工痕は認められない。1646は扁平な石。両面に直径1㎜程度の小さな穴がある。　（大里）

（5）包含層・覆土

12次調査区境包含層（第213図）

12次調査区との間を土手状に残して土層の確認に努めた。その結果、12・17次調査地の比高差は最大で200cmほどあり、田もしくは畑の造成にともなうことと、12次調査地側では整地層が南側で確認できるのみで、17次調査地との間では確認できないことが明らかとなった。したがって、整地層は17次調査の東半部で確認されたが、範囲については確認できなかった。包含層は黄橙色土を主体とする。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・磁器・瓦などがある。　（石木）

出土遺物（第214・215図・図版104）

須恵器（1647～1652）　1647・1648は杯Ｈ蓋。1647は天井部外面にヘラ記号を施した後、直交する細い線を施し、前のヘラ記号を切る。1648は内面は還元し、灰色を呈するのに対し、外面は酸化焔焼成を受けて赤褐色を呈する。1649は杯Ｈ身。かえりは低い。1650は杯Ｇ身。底部ナデて仕上げる。平底。1651は円面硯。圏足から海の一部残存。倒置して焼成したようで、圏足の内面に降灰する。1652は甕。口縁部折り曲げ。外面擬格子タタキ後にカキメ、内面は同心円文当て具痕。

土師器（1653・1654）　1653は丸底杯である。底部平らとなるが、底部と体部の境は丸みがある。1654は高台が高く細い。体部は丸みがある。どちらも磨滅のため調整不明である。

土師質土器（1655）　鉢である。器表面は磨滅のため調整不明である。口縁は外反している。

磁器（1656・1657）　1656は龍泉窯系青磁杯。小片であるが、破断面の観察より外面に鎬蓮弁文を有するようである。太宰府分類杯Ⅳ類。1657は明青花椀。口縁部外反。

陶器（1658）　皿か？高台は極めて小さい。高台内面のみ露胎。

瓦（1659～1661）　いずれも平瓦。凹面は平行タタキ。橙色～褐色に焼成され、焼成不良であり、残存状況は悪い。

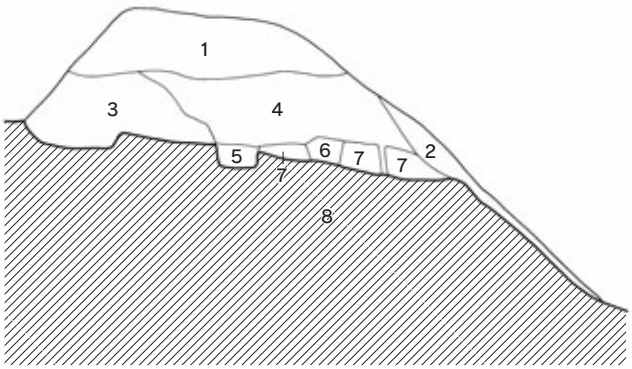
焼土塊（1662）　長さ３cm、幅２cm、厚さ1.5cm。

鉄器（1663）　不明鉄製品。断面は方形で棒状。鉄釘か。

鉄滓（1664～1666）　1664は塊状をなし、全面錆が覆う。わずかに着磁する。1665は断面方形に近い。わずかに着磁する。1666は平たいクッキー状を呈する。ほとんど着磁しない。

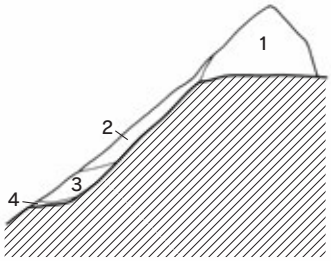
石製品（1667～1670）　1667・1668は黒曜石製の石鏃。1667は長さ約1.3cmと小型。側縁が鋸歯状になる。1668は抉りが深い。体部は大まかに剥離し、側縁にこまかい調整をおこなっている。

1・2間　37.400m



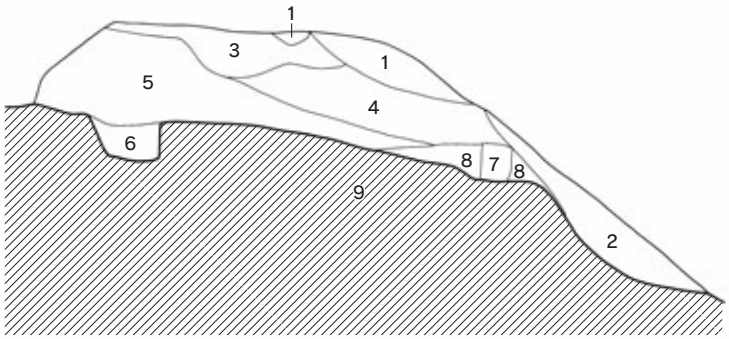
①
1.灰白色土2.5Y7/1　炭を含む(床土の下層)
2.灰黄色土2.5Y7/2　(田畑造成時の削平面)
3.明黄褐色土10YR6/6　炭を含む(包含層)
4.にぶい黄橙色土10YR6/3　(包含層)
5.にぶい黄橙色土10YR7/1　(ピット埋土)
6.にぶい黄橙色土10YR7/2　(ピット埋土)
7.灰黄褐色土10YR4/2
8.黄橙色土7.5YR8/8　(遺構面)

3・4間　37.400m



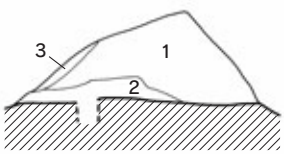
②
1.にぶい黄橙色土10YR6/4　灰黄褐色土10YR4/2小ブロック含む、土器片・炭化物を含む
2.褐灰色土10YR6/1　(耕作削平？)
3.暗黄褐色土10YR7/6　(床土？)
4.灰色土N6/　砂質

2・3間　37.400m



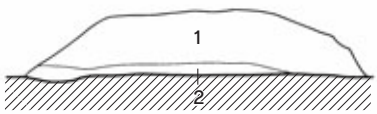
③
1.灰白色土2.5Y7/1　マンガン粒を含む
2.明青灰色土5B7/1　(耕作地削平面)
3.灰褐色土7.5YR6/2　炭を少量含む
4.にぶい褐色土7.5YR6/3　1層からの沈み込みあり(包含層上層)
5.にぶい黄褐色土10YR4/3　炭を含む(包含層下層)
6.にぶい黄橙色土10YR7/3　黄色土10YR7/3ブロックを含む　(ピット埋土)
7.にぶい黄橙色土10YR7/2　(ピット埋土)
8.にぶい黄橙色土10YR7/4　マンガンの沈着著しい
9.にぶい黄褐色土10YR5/3　(遺構面)

4・5間　37.400m



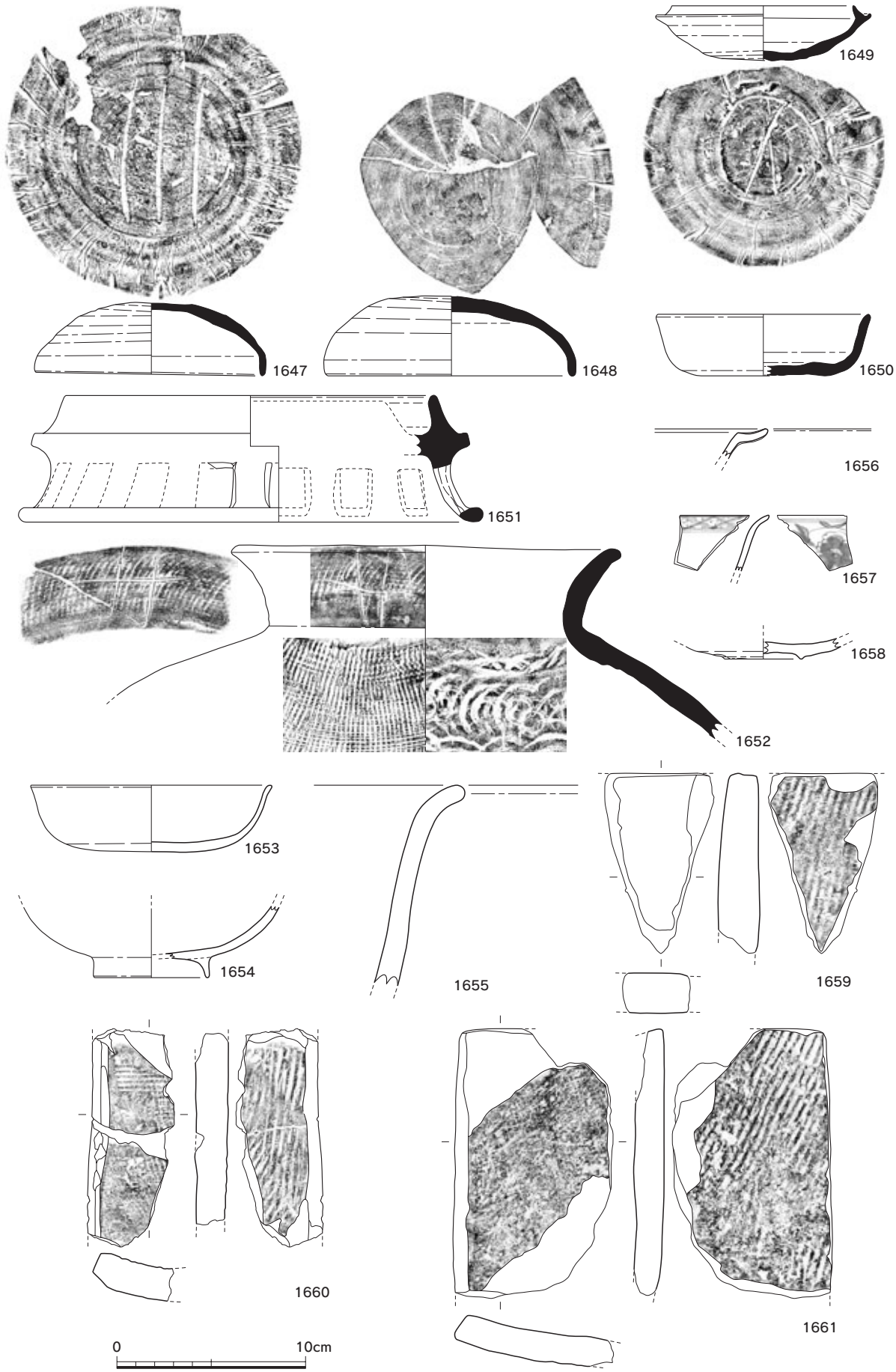
④
1.にぶい黄橙色土10YR6/4　褐色土10YR4/4を含む、土器片・炭化物を含む
2.橙色土7.5YR6/8　(地山？or整地層？)
3.灰白色土10YR7/1

5・6間　37.400m

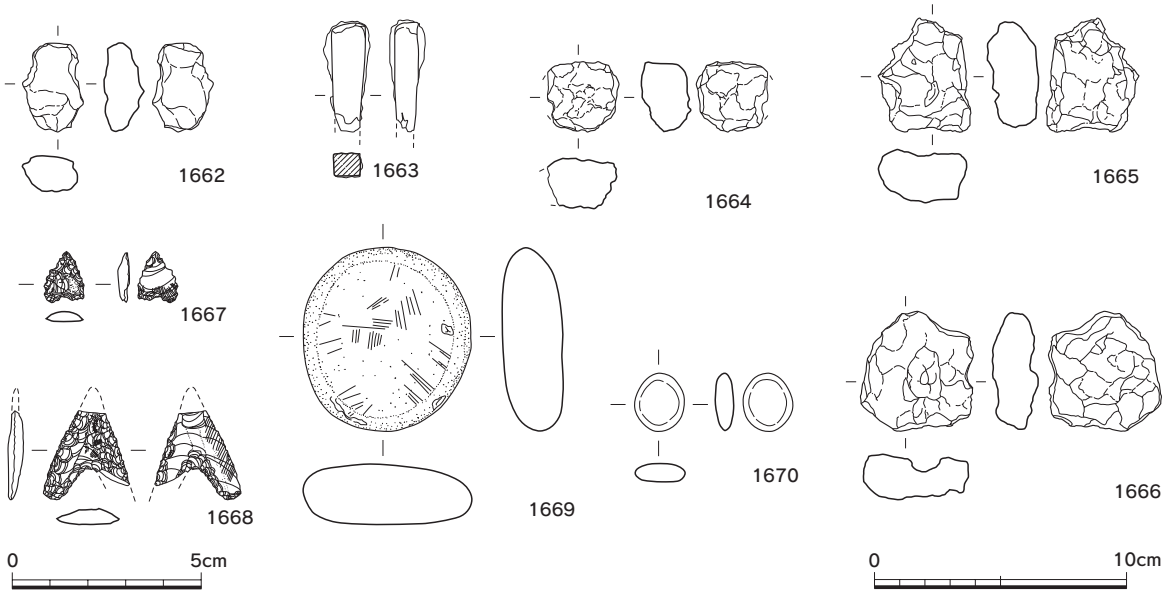


⑤
1.にぶい黄橙色土10YR6/4　土器片・炭化物を含む
2.にぶい黄褐色土10YR4/4　にぶい黄褐色土10YR5/4を含む

第213図　12・17次調査区境土堤土層実測図（1／40）



第214図　12・17次調査区境包含層出土遺物実測図①（1／3）



第215図　12・17次調査区境包含層出土遺物実測図②（1667～1670は1／2、他は1／3）

1669は扁平な円盤状の石。厚さは1.6cm程度。1670は碁石。灰色を呈する。長さ1.5cm、幅1.3cm、厚さ0.5cm。（大里）

調査区東側覆土（第102図）

調査区東側を第１面まで重機により掘り下げたが、一部遺構面まで達しない部分があったため手掘りにより掘り下げた。掘り下げたのは、耕土層下の黄褐色土で相当の撹乱をうけており、包含層として認識できるようなものではなかった。出土遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・磁器・瓦・石器などがある。（石木）

出土遺物（第216・217図）

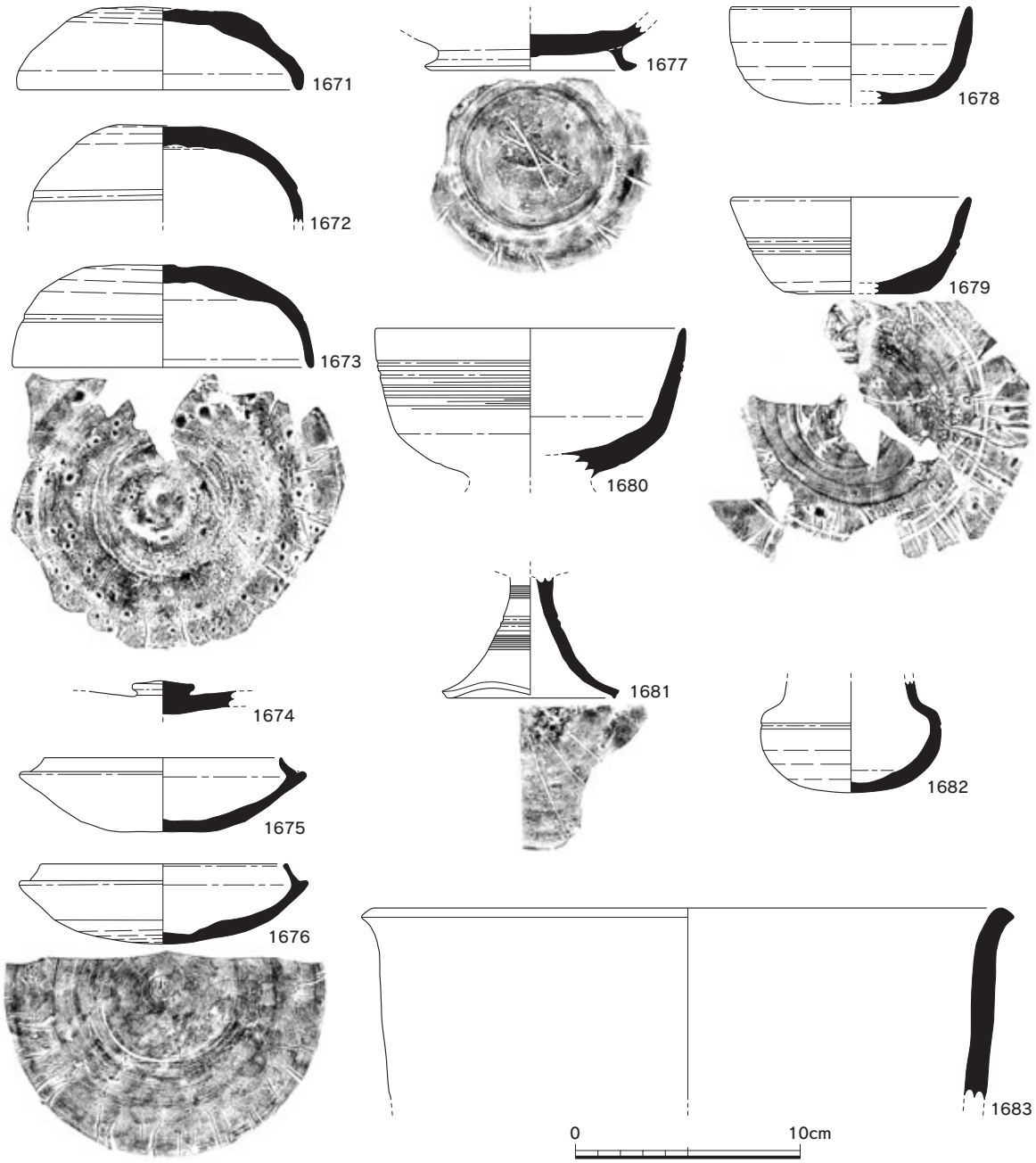
須恵器（1671～1683）　1671～1674は杯蓋。1671～1673は杯H蓋。1671は天井部はあまり高くない。回転ヘラケズリを行うが、平らに近い。1672は天井部は高く、体部との境に沈線を施す。1673は天井部高く、内面に当て具痕がつく。口縁端部の段は浅い。1674は杯Ｂ蓋。山形の低いつまみがつく。1675～1678は杯身。1675・1676は杯H身。1675は立ち上がりは低く内傾する。焼成不良。1676は底部外面に回転ヘラケズリをおこない、ヘラ記号を施す。1677は杯B身。高台はハの字に広がり、端部を外方に折り曲げる。底部外面にヘラ記号を施す。1678・1679は杯Ｇ身。1678は底部外面回転ヘラケズリ。1679も同様にヘラケズリをおこなうが、底部平底となる。1680・1681は高杯。1680は体部外面に沈線とカキメが施される。脚基部は太い。1681は短脚。底部の裾がラッパ状に広がり、脚部内面にヘラ記号を施す。1682は短頸壺。肩部は張りがある。1683は鉢か？体部はまっすぐ伸び、口縁部が短く外反する。

土師器（1684）　甑。桟の一部と体部が残る。底部平底。

黒色土器（1685）　A類の椀。摩滅のため調整は不明である。

瓦器（1686～1688）　いずれも椀。1686・1687は内外面部分的に黒色化しており、焼成不良の瓦器とした。1688は内外面ともに磨かれている。口縁端部を外反させる。

磁器（1689～1694）　1689・1690は白磁椀。どちらも肉厚な玉縁口縁でやや厚めに施釉している。

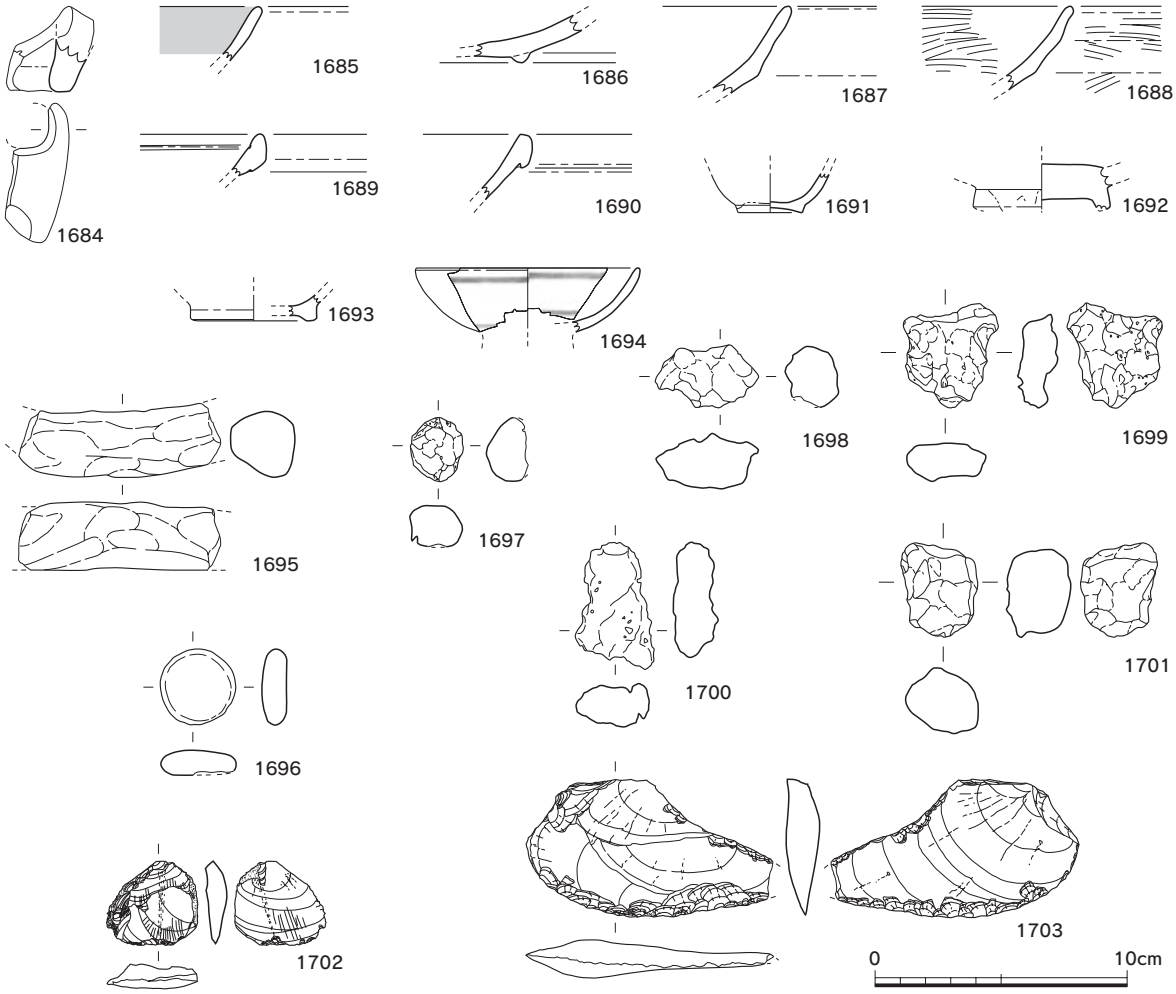


第216図　17次調査区東側覆土中出土遺物実測図①（1／3）

太宰府分類Ⅳ類。1691は白磁小椀か？残存器高は約1.5cm。高台以外に薄く施釉している。高台は削りだしで低い。胎土、釉は白く、光沢がある。1692は龍泉窯系青磁椀。底部は厚く、高台は削りだし。内外面とも薄く施釉し、高台にも部分的に流れている。1693は高台が一部残っているのみの磁器で、おそらく椀と思われる。残存部では内面のみ厚めに施釉している。1694は染付磁器の皿である。釉は厚い。肥前系。

土製品（1695・1696）　1695は不明土製品。棒状。断面三角形に近く、わずかに湾曲している。1696は円盤状の土製品。厚さは約1cm、直径は約3cmである。

鉄滓（1697～1701）　1697・1698・1701は塊状を呈する。1699・1700は平たい不整形なクッキー状を呈する。いずれもわずかに着磁する。



第217図　17次調査区東側覆土中出土遺物実測図②（1／3）

石製品（1702・1703）　1702は黒曜石の剥片。1703は安山岩製のスクレイパー。二側縁に調整をおこない、長辺に刃部を形成している。（大里）

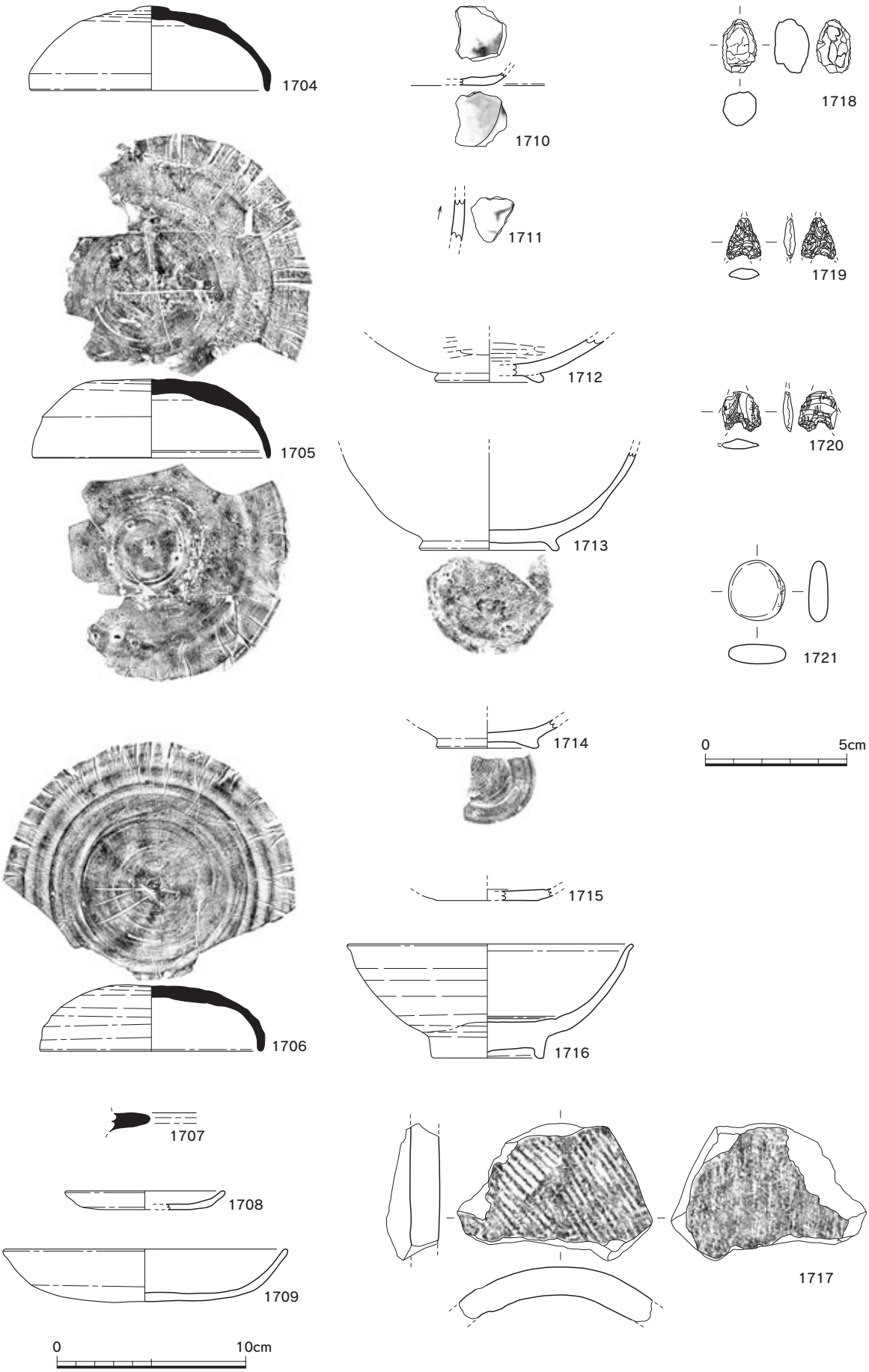
（6）その他の出土遺物

調査区内を縦走する溝から、多数の遺物が出土した。溝は田の耕作等に関わるものと思われ、深さ5cm程度と浅く、埋土は灰色を呈している。（石木）

撹乱溝出土遺物（第218図・図版104）

須恵器（1704～1707）　1704～1706は杯蓋。1704は天井部外面ヘラケズリを施すが、天頂部に低いボタン状の突起がある。つまみかとも考えたが、整形されていない。1705は口縁端部および体部との境の段は浅い。天井部外面にヘラ記号が施され、天井部の内面にはシッタ痕がつく。1706は天井部外面ヘラケズリ後、ヘラ記号を施す。1707は鍔付鉢の鍔のみ。12次調査出土のものと同一個体と思われる。

土師器（1708～1711）　1708・1710は小皿。いずれも小片。1710は摩滅するが、内外面赤い。顔料か？1709は丸底杯。底部外面に板状圧痕が残る。1711は墨書土器。器種不明。表面に墨書の一部分が確認できるが、判読できない。



第218図　17次撹乱溝検出時出土遺物実測図（1719～1721は1／2、他は1／3）

瓦器（1712・1713）　いずれも椀。1712は内外面ミガキを施す。須恵質に焼成されており、一見瓦器には見えない。1713は高台が広く、ハの字形に開く。底部外面に格子状のヘラ記号が施される。

陶器（1714）　山茶碗。小椀。内面に淡い緑色の釉がみられる。外面無釉。底部は回転糸切り後に高台を貼り付けている。

磁器（1715・1716）　1715は白磁皿。底部外面回転ヘラケズリ。焼成不良。釉は外面にわずかに残るのみ。1716は白磁椀。太宰府分類椀Ⅴ類。

瓦（1717）　丸瓦。凸面には平行タタキ、凹面は布目痕が残る。

鉄滓（1718）　塊状を呈する。着磁する。

石製品（1719～1721）　1719・1720は黒曜石製石鏃。1729は先端および両基部がわずかにかけている。全面にこまかい調整が施される。1720は側縁および抉りのみに調整をおこなっている。また、先端と基部の一部が欠損している。1721は碁石。片面に輪花状の細い朱線が認められる。長さ2.1cm、幅2.0cmのほぼ円形で、厚さは0.7cm。（大里）

ピット等出土遺物（第219・220図・図版104・105）

須恵器（1722～1727・1742～1744）　1722～1725・1742・1743は杯蓋。1722は口縁端部は凹面をなし、体部との境に沈線が巡らされる。天井部外面には重ね焼きの痕跡があり、天井部の内面には当て具痕を有する。1723も口縁端部は段をなし、体部との境には段を設ける。天井部内面には当て具痕を有し、天井部外面にヘラ記号が施される。また口縁部の外面には、極めて細い沈線がラセン状に巡らされている。1724は立ち上がりが高く、内傾している。天井部の外面にヘラ記号が施される。1725はつまみは小さな山形を呈し、かえりは短い。天井部外面には浅い沈線が多数放射状に施されている。1742は低いつまみを持つ。天井は低い。1726・1744は杯身。1726は底部内面に当て具痕がある。杯部は深く、立ち上がりは高い。1744は高台がわずかにハの字型に広がり、内端で接地する。1727は甑。橙色に焼成され、還元は十分ではない。口縁部は外方に突出し、端部は平らに面取りする。体部外面カキメ。内面指頭痕が認められナデで仕上げる。

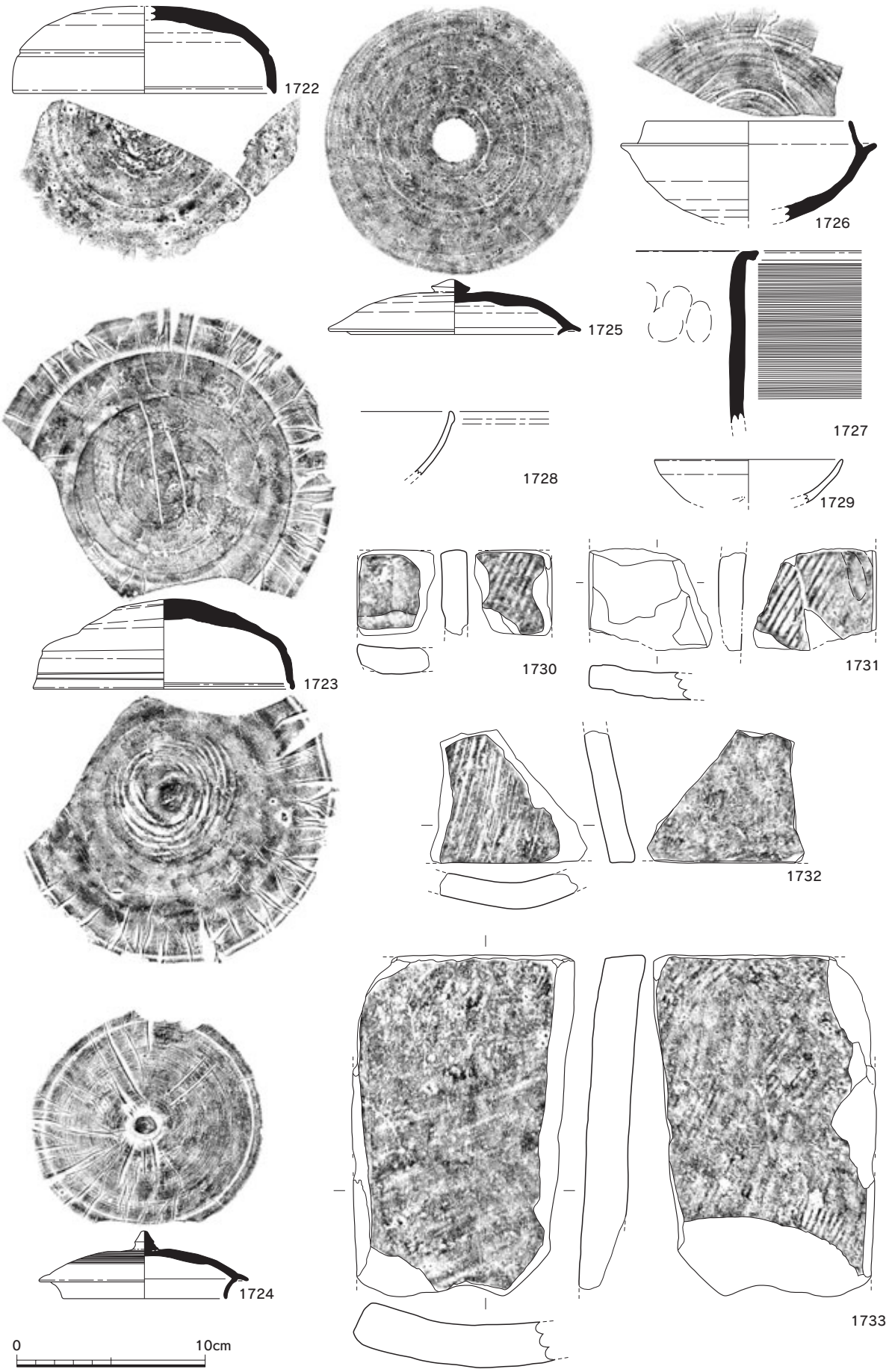
磁器（1728・1729）　いずれも白磁。1728は椀であるが小型。小椀とするのが適当か？小さな玉縁口縁をもち、太宰府分類Ⅱ類にあたるか。1729は皿、体部は内湾気味。太宰府分類皿Ⅵ類か。

瓦（1730～1733）　全て平瓦。いずれも焼成不良。橙色～灰白色を呈する。1730は凸面に平行タタキを施し、凹面に模骨痕。1731は凸面平行タタキ、凹面は摩滅のため調整不明。1732は凸面は摩滅のため調整不明。凹面は弓切り痕か？1733は凸面は平行タタキ、他は磨滅のため不明。

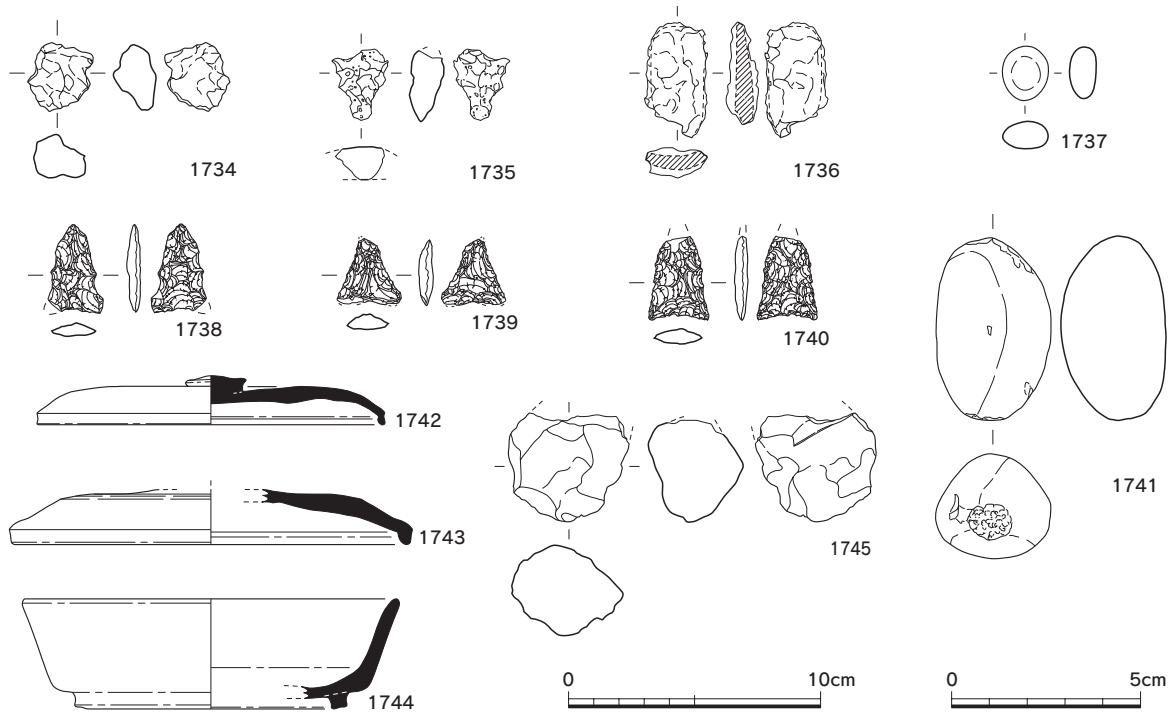
鉄器（1736）　不明鉄製品。わずかに彎曲する板状の鉄器であるが、錆が全面に付着しており詳細は不明。

鉄滓（1734・1735・1745）　1734は錆化は進まず、滓の表面は黒色を呈する。ほとんど着磁しない。1735はほとんど錆はつかず、滓は細かな発泡が認められる。磁力はまったくない。1745は塊状を呈し、着磁する。

石製品（1737～1741）　1737は碁石。長さ1.4cm、幅1.2cm、厚さは0.7cm。白色を呈する。1738～1740は安山岩製石鏃。1738は左側基部を欠損。縦長で大きめな剥離を全体におこなっている。1739は先端および両基部をわずかに欠損している。1740は先端部を欠損。胴長で厚さは均一。



第219図　17次ＳＰ等その他の出土遺物実測図①（1／3）



第220図　17次ＳＰ等その他の出土遺物実測図②（1737～1741は１／２、他は１／３）

1741は敲石。両端部に使用痕がみられる。（大里）

Ｃ．小結

17次調査では、大型掘立柱建物をはじめ多くの遺構が確認できた。特に12次調査地から続く大型の掘立柱建物は主軸を東西方向にとる建物であり、きわめて重要な遺構である。以下では、１・９・12・16次調査にしたがって、時代をおって遺構・遺物の状況を見ていきたい。

旧石器～弥生時代

包含層や整地層をはじめ、調査地内のいくつかの遺構から石鏃・石匙などが出土しており、縄文時代の遺構が存在した可能性がある。また、小片であるが弥生土器片も含まれており、遺構が周辺に存在した可能性がある。

古墳～飛鳥時代

この時期の遺構としては、ＳＸ01が挙げられる。６世紀末～７世紀初頭の遺物を中心とし、一部８世紀後半の杯身を含むが、小片であり、混ざり込みと考える。ＳＸ05は整地層下から検出した堆積層であり、７世紀中頃までの遺物を含む。したがって、７世紀中頃以前の堆積層と考えるが、注目されるのは天井部と体部の境に段をもち、口縁端部に段を有する須恵器蓋杯である。これらは牛頸窯跡群において、最も古い時期にあたる野添６号窯跡出土遺物に類似するものである。この時期の遺物は、ＳＤ06や整地層、ピットなどから多く出土しているが、明確な遺構は確認できない。周辺の調査では、17次調査地の北側に位置する14次調査地で灰原が確認され、該期の窯跡が存在したと考えられる。本調査地出土の遺物群もこの窯の操業に関る可能性が高く、ＳＸ03はこの時期の遺物を含み、竪穴住居跡である可能性もあるなど、何らかの集落遺構が存在したことは想定できるが、削平の度合いが著しく確認できない。

遺物については、ＳＸ05から出土した権状製品は須恵質のものである。出土状況から時期を確定するのは困難であるが７世紀中頃までの遺物を含み、整地層との時期的関係から７世紀後半を下ることはないと考えられる。これまで牛頸窯跡群の調査では、野添遺跡２次１号窯跡より権状製品の出土があった。７世紀後半に位置付けられるもので、福岡市柏原Ｇ－１号墳とともに最古の部類に入るものであったが、今回出土した権状製品はそれを遡る可能性をもつ。現時点では、意義について云々する余裕はないが、重さが45.2ｇと律令制下で定められた大両一両（42.0ｇ前後）や唐代の一両換算値（42.798ｇ）に近似する。粘土から成形・乾燥・焼成を経て規格的な重量にすることは極めて至難の技と考えられ、土製の権状製品は実用に向くのか疑問がある。しかしながら、７世紀後半代には確実に重さを量るための道具が存在することは明らかであり、今回の事例も含め古代の金属製以外の権状製品が様々な形態をとることを考えると、基準器たる金属製権が一種だけではないとする吉村氏の指摘は首肯できる（註２）。

また、包含層やピットなどから平行タタキを凸面に施す瓦が多数出土している。これらは大浦２号窯跡などと同じ時期のものと考えられ、７世紀前半代にあたるものである。いずれも破片は小さく、摩滅も著しい。生産地に近いため性格付けについては難しいが、この時期の瓦を用いた建物が存在する可能性もあり、注意が必要である。

奈良時代

奈良時代に入ると、遺構の数は増加する。特に掘立柱建物はこの時期にあたるものが多い。ＳＢ01はＳＰ121出土須恵器から８世紀前半代とされようか。ＳＢ04はＳＢ01を切っており、柱穴出土遺物のうち掘方内出土遺物で最も新しいものは８世紀後半に位置付ける事ができ、切り合い関係と矛盾しない。ＳＢ02はＳＰ187・206は堀方内からの出土遺物であり、８世紀前半～中頃に位置付けが可能であろう。またＳＢ06は主軸芳香をＳＢ02とそろえることから同様の時期に位置付けられ、ＳＢ06→ＳＢ04と考えられる切り合い関係に矛盾しない。これに対し、ＳＢ05はＳＢ01・02・06と同一主軸方向をとるが、ＳＢ06→05の切り合い関係が確認されており、８世紀前半～中頃の間に建替えがあったものと考えられる。

以上のような建物の変遷をまとめると、８世紀前半～中頃にＳＢ01・02・05・06があり、主軸方向をやや東よりに向けた建物が揃う。建物群は整地層を切っており、整地層からの出土遺物は７世紀後半の遺物が最も新しい。したがって、17次調査地における整地は建物造営に先立っておこなわれたものと考えられる。こうした主軸方向をやや東にむける建物群に対し、ＳＢ04は東西方向に主軸をとる。12次調査地側に続くが、ＳＤ01は８世紀後半の遺物を含み、ＳＢ04にともなうと考えられる。この時期の遺構は建物の他は少なく、ＳＤ06は整地層を切っており、最も新しい遺物は８世紀後半のものを含んでいる。

このように、８世紀後半に位置付けられるＳＢ04は正方位を意識した建物であり、９次調査で確認された南北方向を取る建物（９次ＳＢ01）と同時期にあたる。こうした建物の意義についてはまとめで取り上げることにしたい。

遺物については、この時期の瓦がＳＤ06より１点出土している。もとより建物全体を瓦葺きにするような量ではなく、軒瓦を伴わないが、建物の重要性を示すものと考えられる。また、小片であ

るが円面硯が出土している。墨書土器は１次調査地などから出土しており、遺跡の性格を決める上で重要な資料となろう。

平安時代以降

上記のように、８世紀代には多くの建物が建ち並ぶようであるが、これらの建物は９世紀に入る頃には機能停止もしくは廃絶しているようで、９世紀代の遺物はまったく認めることができない。次に確認できるのは、ＳＰ32である。小片のため、時期の確定が難しいが10～11世紀の間にあたろう。遺構の数が再び増加するのは11世紀後半～12世紀前半のことであり、ＳＤ02・04・05、ＳＰ200・230・ＳＸ02といった溝や井戸が確認できる。この時期の遺物は井戸に一括投棄されるなど非常に多く、白磁や山茶碗も出土するなど遺物の内容も豊富である。またＳＤ02・04は９次ＳＤ01からの続きである。溝の内外には多くのピットが確認され、井戸も近接することから周辺に建物が存在すると考えられるが確認することができなかった。

この時期以降になると、遺構・遺物は少なくなる。ＳＤ03は糸切りの土師器小皿を含んでおり、12世紀後半以降と考えられるが小片のため時期を確定できない。また、包含層中からは13世紀中頃～14世紀初頭とされる龍泉窯系青磁杯や16世紀代と考えられる明青花椀など遺物が散見されるが明確な遺構は確認できない。

註１　なお、山茶碗については福田京子氏（㈱埋蔵文化財サポートシステム）から有益なご助言・資料提供をいただいた。記して、感謝申し上げたい。
註２　吉村靖徳「権衡に関する一考察」『九州歴史資料館研究論集20』

表１　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1	土師器	小皿	SP99	①8.4　②1.4	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、1/2回転ナデ、内面不定方向ナデ	A:やや密。1～2 mmほどの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白2.5Y8/1～8/2・灰白2.5Y7/1　外．灰白2.5Y8/1～8/2	
2	土師器	杯	SX01	①(11.2)　②1.8 ③(7.8)	内外面摩滅のため不鮮明だがナデか、底部内面不定方向のナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや良好。C:内．灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1　外.灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3	
3	土師器	高台付小皿	SX01	①12.2　②2.3 高台径7.0　高台高1.1	底部ヘラ切り、外面ナデ、内面不定方向のナデ	A:やや密。1～3mm程の白色砂礫をやや多く含む。B:やや良。C:内外．灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3	
4	土師器	小皿	SX03 No.1	①(12.0)　②1.6 ③(8.4)	底部ヘラ切り、内外面摩滅のため不明瞭だが回転ナデか、底部内面不定方向ナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/3　外．にぶい黄橙10YR7/3、褐灰10YR5/1	
5	土師器	杯	SX03ベルト上層(黒色土)	①(9.6)　②2.2 ③(7.7)	内外面摩滅のため調整不明	A:やや密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内外．灰白2.5Y8/2	
6	土師器	杯	SX03ベルト北西部土器集中部	①(11.0)　②2.3 ③7.3	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:やや密。1～2mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内．灰白2.5Y8/2 外．浅黄橙7.5YR8/4	
7	土師器	椀	SX03 No.14	①(14.7)　②5.5 高台径8.7 高台高1.3	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面摩滅のため不明	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内外．灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3	
8	土師器	椀	SX03 No.7	②(4.6)　高台径(8.5) 高台高1.6	底部摩滅のため不明瞭だが回転ヘラ切りか、外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外．灰白10YR8/2～2.5Y8/2	
9	土師器	椀	SX03 No.9	②(2.8)　高台径8.8 高台高1.3	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面不定方向のナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．浅黄橙10YR8/4　外．浅黄橙10YR8/3	
10	土師器	椀	SX03 No.5	②(2.2)　高台径7.15 高台高0.8	底部回転ヘラ切り、内外面摩滅のため不明	A:やや密。1～3mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内外．灰白2.5Y8/2	
11	土師器	椀	SX03 No.5	②(2.1)　高台径(7.2) 高台高0.75	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面摩滅のため不明	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内．橙2.5YR7/6　外．灰白2.5Y8/2	内面赤い。
12	黒色土器A類	椀	SX03 No.10	①(16.2)　②6.1 高台径8.9 高台高1.3	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面ミガキ	A:密。1mm程の白色粗砂を含む。B:良好。C:内．オリーブ黒7.5Y3/1　外．灰白2.5Y8/2	
13	黒色土器A類	椀	SX03 No.4	①(15.8)　②(4.4)	外面摩滅のため不明、内面1/3ヘラミガキ、2/3摩滅のため不明	A:やや密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内．黒褐2.5Y3/1 外．灰白2.5Y8/1～8/2	
14	黒色土器A類	椀	SX03 No.13	②(3.1)　高台径8.5 高台高1.2	底部摩滅のため不明瞭だがナデか、外面回転ナデ、内面摩滅のため不明瞭だがミガキか	A:密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや良好。C:内．灰白10YR7/1～褐灰10YR5/1　外．淡赤橙2.5YR7/4～橙2.5YR7/6、橙2.5YR6/6	
15	黒色土器B類	椀	SX03 No.12	②(2.3)　高台径8.35 高台高1.2	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面ミガキ	A:密。1mm以下の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．黒10YR2/1　外．褐灰10YR5/1～4/1	
16	白磁	椀	SX03ベルト東側	②(2.0)	内外面回転ナデ、施釉	A:精良。B:良好。C:内外．灰白5Y8/1～8/2	一部釉が剥離。傾きに難あり。
17	鉄滓		SX03ベルト東側	縦1.3　横1.6 厚1.05　重1.7g			
18	須恵器	杯蓋	SX13	①(17.8)　②(3.0)	外面3/4回転ヘラケズリ、1/4回転ナデ、内面3/4不定方向のナデ、1/4回転ナデ	A:密。1mm以下の粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1、灰N6/　外．灰白7.5Y7/1	傾きに難あり。
19	須恵器	杯身	SX14	①(12.0)　②3.6 高台径(7.5)　高台高0.3	底部ヘラ切り、外面回転ナデ、内面2/3回転ナデ、1/3不定方向のナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外．灰白N7/～灰N6/～N5/	板状圧痕？
20	石器	縦長剥片	SX14	縦2.75　横1.45 厚0.53　重1.8g			黒曜石。
21	土師器	小皿	SX15 西側	①(9.8)　②0.9 ③(7.1)	内外面摩滅のため不明瞭	A:やや密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内．浅黄2.5Y7/3 外．にぶい黄橙10YR7/3～7/4	
22	黒色土器B類	椀	SX15	①(15.1)　②5.35 高台径(6.6) 高台高0.7	底部摩滅のため不明瞭だがナデか、外面回転ナデ、内面1/3回転ナデ、2/3摩滅のため不明瞭	A:密。1mm以下の白色粗砂を僅かに含む。B:やや良。C:内．灰N5/～4/～暗灰N3/、灰白5Y8/1　外．灰N4/～暗灰N3/	
23	白磁	皿	SX15	①(2.1)　高台径(4.7) 高台高0.7	底部削り出し、内外面施釉	A:密。B:良好。C:内(釉)．灰白7.5Y7/1 外(露胎)．灰白7.5Y8/1	太宰府分類Ⅸ類。
24	白磁	皿	SX15 東部	①(10.6)　②(2.3)	内外面回転ナデ、施釉	A:密。1mm程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外．灰白5Y7/1	
25	土師器	小皿	SX16(南半)	①(10.3)　②1.0 ③(8.0)	底部回転ヘラ切り、体部内外面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内．にぶい橙7.5YR6/4～橙7.5YR6/6　外．灰褐7.5YR5/2～6/2	
26	須恵器	杯蓋	SP136	①(14.8)　②2.8 つまみ径2.4 つまみ高0.7	つまみ回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面2/3不定方向ナデ、1/3回転ナデ	A:密。1～2 mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰N6/～5/　外．灰白N7/～灰N6/・灰N4/	
27	須恵器	皿	SP103	①(18.0)　②2.4 ③(15.1)	外面2/3回転ヘラ切り、1/3回転ナデ、内面2/3不定方向ナデ、1/3回転ナデ	A:密。1～3 mmほどの白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内外．灰白2.5Y7/1	

表２　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
28	弥生土器	甕	SP268	②(6.1)	外面ヨコナデ、内面ナデ	A:粗。２～３mmの長石粒・２～４mm大の石英粒・８×10mm大の石英粒を多く含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/3　外．にぶい黄橙10YR7/4　突帯より下は褐灰10YR6/1	板付Ⅱ式。
29	土師器	蓋か？	SP381	①(29.2)　②(2.9)	内外面回転ナデ	A:精。微細な長石粒を含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/4　外．灰黄褐10YR6/2	
30	須恵器	杯蓋	SC01	②(1.8)　つまみ径1.4 つまみ高1.4	つまみ回転ナデ、外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ	A:密。0.5～1mm大の長石粒、1～2mm大の石英粒を含む。B:良好。C:内．青灰5B6/1　外．灰白N8/	
31	須恵器	杯蓋	SC01	②(1.4)	内外面回転ナデ	A:密。微細な長石粒、1mm大の石英粒を少量含む。B:良好。C:内．青灰5B6/1、口縁部は暗青灰5B4/1　外．明青灰5PB7/1、口縁部は暗青灰5B4/1	外面に降灰。
32	鉄滓	椀形鍛冶滓片	SC01	縦6.3　横4.8 重72.1g			
33	須恵器	杯蓋	SC02	①(11.8)　②2.0	外面2/3回転ヘラケズリ、1/3回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な長石粒を含む。B:良好。C:内．明青灰5PB7/1～青灰5PB6/1　外．明青灰5PB7/1～暗青灰5PB4/1	内面に降灰。外面に一部指頭痕あり。
34	須恵器	杯蓋	SC02 南西角	①14.8　②1.8	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な長石粒、0.5～1mmの石英粒を含む。B:良好。C:内．灰N7/　外．灰白～灰N8/～N6/	
35	須恵器	杯蓋	SC02 No.4	①(15.2)　②2.6 つまみ径2.3 つまみ高0.5	つまみナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な長石粒を含む。B:良好。C:内．灰N7/　外．灰N6/	
36	須恵器	杯蓋	SC02 No.13 SC02 SC02 東側・北側ベルト	①(15.6)　②2.1 つまみ径2.7	つまみ回転ナデ、外面3/4回転ヘラケズリ、1/4回転ナデ、内面回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰白N7/～暗灰N3/　外．灰白N7/～灰N5/	焼き歪む。
37	須恵器	杯蓋	SC02 No.1　No.3	①19.9　②4.25 つまみ径2.9	つまみナデ、外面2/5ヘラケズリ、3/5回転ナデ、内面回転ナデ	A:精良。微細な長石粒を含む。B:良好。C:内外．浅黄橙10YR8/4	外面の摩滅激しい。
38	須恵器	杯身	SC02 南西角	①10.3　②3.5	底部回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ	A:密。微細な長石粒、1mm大の白色砂粒を含む。B:良好。C:内．明青灰5PB7/～青灰5PB6/　外．明青灰5PB7/1	外面ヘラ記号。
39	須恵器	杯身	SC02 北西角	①(9.2)　②4.15 ③(7.8)	底部回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な長石粒を多く含む。B:良好。C:内．明青灰5PB7/　外．灰N5/	
40	須恵器	杯身	SC02 北西角 SC04 北側検出面	②(3.4)　高台径12.2	底部摩滅により不鮮明、外面器面の摩滅により不鮮明、内面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰白2.5Y8/2 外．灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2	焼き歪む。
41	須恵器	皿	SC02 No.2	①(15.6)　②2.6 ③(13.4)	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ	A:精良。微細な長石粒を少量含む。B:不良。C:内．灰白2.5Y8/2　外．灰白～灰2.5Y8/2、灰N5/	
42	須恵器	皿	SC02 No.19 SC02 北西角 SC02 南北ベルト南側分	①(18.8)　②2.4 ③(15.6)	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、底部内面不定方向ナデ、内面回転ナデ	A:密。B:良好。C:内．灰N6/	
43	須恵器	高杯	SC02 No.17	①(28.4)　②(3.5)	外面回転ナデ、内面器面の摩滅により不鮮明	A:精良。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐10YR5/2　外．灰白2.5Y8/2	
44	須恵器	鉢	SC02 No.11	①(22.2)　②(15.8)	外面器面摩滅のため不鮮明だが恐らくナデ、内面回転ナデ後縦方向にケズリ(？)	A:精良。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/3～灰白10YR8/2　外．にぶい黄橙10YR6/3～淡黄2.5Y8/3	
45	須恵器	短頸壺蓋	SC02 北西角	①(17.1)　②3.4 ③(15.0)	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。0.5～1mm大の長石・石英粒を含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰白N8/、灰N4/	外面に降灰。内面一部に自然釉が付着。
46	須恵器	短頸壺	SC02 No.5	①4.0～4.4　②(3.2)	外面3/4カキメ、1/4回転ナデ、内面回転ナデ	A:精良。微細な長石粒を少量含む。B:不良。C:灰白2.5Y8/1	
47	須恵器	短頸壺	SC02 北西角	①(8.6)　②(2.3)	内外面回転ナデ	A:密。0.1～1mm大の長石粒を含む。B:良好。C:内．灰白N8/～N7/　外．灰7.5Y6/1	
48	須恵器	甕	SC02 No.14	②(11.7)	底部回転ヘラケズリ、外面回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内．にぶい橙7.5YR7/3～灰褐7.5YR6/2	底部外面にヘラ記号。
49	瓦	平瓦	SC02 北西角	厚1.4	布目痕	A:精良。0.5mm大の長石粒を含む。B:やや不良(生焼けか？)。C:凸．黄橙7.5YR7/8 凹．灰7.5Y6/1～4/1	
50	窯壁		SC02 No.7	長11.3　幅8.0 高6.2　重455g		A:密。1～3mm大の石英・角閃石粒を多く含む。C:灰白N8/～灰N5/	
51	土師器	小皿	SC02 ピット柱内	①(9.0)　②1.4 ③(7.0)	内外面回転ナデ	A:密。0.5mm大の長石・石英粒を含む。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
52	土師器	小皿	SP165 下層(坑底)	①(9.4)　②1.25 ③(7.4)	外面1/2ヘラ切り後ナデ、1/2回転ナデ、内面1/2不定方向ナデ、1/2回転ナデ	A:密。赤色粒子を少し含む。B:良好。C:内外．淡黄2.5Y8/3	
53	黒色土器Ａ類	椀	SC02 ピット土柱内	②(1.9)　③(7.5)	内面回転ナデ、脚部回転ナデ	A:精良。1mm大の石英粒を少量含む。B:良好。C:内．灰白2.5Y7/1　外．灰白2.5Y8/2	
54	白磁	碗	SC02 北西角	②(1.2)	施釉	A:密。灰白色、0.5mm大の長石粒を含む。B:良好。C:緑味を帯びた白灰4Y7/1	
55	土師器	甕	SC03 No.6 SC03 埋土	①(17.8)　②(5.9)	口縁部回転ナデ、外面ハケメ、内面ケズリ	A:良。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR6/4　外．明黄褐10YR6/6～黒褐10YR3/2～明赤褐5YR5/6	

表３　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
56	土師器	甕	SC03 No.3　SC03 No.1 SC03 No.2　SC03 No.4 SC03(実測遺物下出土)	①(14.8)　②(11.0)	口縁部回転ナデ、外面器面が摩滅しているがハケメ、内面ケズリ	A:やや粗。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR6/4 ～灰黄褐 10YR4/2　外．にぶい黄橙 10YR7/2 ～橙 5YR6/6 ～にぶい橙 2.5YR6/4	
57	須恵器	杯蓋	SD02	①(11.8)　②1.5 つまみ径 2.0 つまみ高 0.4	つまみ回転ナデ、外面 1/2 ヘラ切り後ナデ、1/2 回転ナデ、天井部内面不定方向のナデ、内面 1/3 回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．青灰 5B6/1　外．青灰 5B6/1、灰 N4/	
58	須恵器	杯身	SD02	②(1.3) 高台径（11.4） 高台高 0.4	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を僅かに含む。B:不良。C:内外．灰白 5Y8/1	高台の貼付があまく継目が残る。
59	須恵器	鉢	SD02	②(2.85)　③(13.2)	底部回転ヘラケズリ後一部ナデ、外面回転ナデ、内面 1/4 回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 5/　外．灰 6/ ～ 5/	底部に弧状の凹み残る。
60	土師器	三足脚付皿の脚	SD02	②(2.5)	ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を含む。B:良好。C:灰白 5Y8/1	
61	土師器	甑の把手	SD02		外面ナデ・指頭圧痕、内面ケズリ後ナデ	A:密。2 ～ 5mm 程の白色砂礫を多く含む。B:良好。C:内．浅黄橙 10YR8/3、にぶい黄橙 10YR7/3　外．浅黄 10YR8/3	
62	土師器	甑の把手	SD01-1 ベルト		指頭圧痕、ナデ	A:密。2 ～ 4mm 程の白色砂礫を多く含む。B:良好。C:内．橙 5YR6/6　外．にぶい橙 7.5YR6/4 ～橙 7.5YR6/6	
63	土師質土器	鉢	SD02	①(32.4)　②(6.6)	口縁部ヨコナデ、外面器面摩滅のため不鮮明だがナデか、内面器面摩滅のため不明	A:やや密。1mm 程の白色粗砂、赤色粒子を少しずつ含む。B:やや不良。C:内外．灰白 10YR8/2	
64	瓦質土器	擂鉢	SD02	②(5.1)	外面器面摩滅のため不鮮明、内面ナデ、擂りくぼみ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR6/4 ～明黄橙 10YR6/6　外．にぶい黄橙 10YR7/3 ～ 6/3	内面煤付着。
65	瓦質土器	擂鉢	SD02	②(4.3)　③(14.2)	底部ヘラ切り後ナデ、外面 1/2 指頭圧痕、1/2 ナデ、底部内面不定方向のナデ、内面 1/2 摩滅のため不明瞭だがナデ？、擂目あり	A:密。1 ～ 3mm 程の白色砂礫・角閃石を多く含む。B:良好。C:内．灰白 10YR8/2　外．灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 10YR8/3	
66	粉青沙器	不明	SD01(SB01 拡張部)	②(1.3)　高台径(4.6) 高台高 0.4	内外面施釉	A:精良。砂粒はほとんど含まない。B:良好。C:釉．オリーブ黒 5Y3/2　高台底(露胎)．にぶい赤褐 2.5YR5/4	内面に象嵌。象嵌部は白色。
67	青磁	椀	SD02	②(1.4)　高台径(5.9) 高台高 1.0	底部は削り出し無釉、外面施釉回転ナデ、内面施釉	A:密。砂粒はほとんど含まない。B:良好。C:釉．灰オリーブ 7.5Y6/2　底部外(露胎)．にぶい黄橙 10YR7/3	
68	青磁	椀	SD02	②(2.8)　高台径(5.6) 高台高 0.7	底部回転ナデ、外面施釉、回転ナデ、内面施釉	A:密。砂粒はほとんど含まない。B:良好。C:内外(釉)．灰オリーブ 7.5Y6/2　底部外(露胎)．灰 N5/	底部一部のみ釉がかかる。
69	白磁	椀	SD01・02 上層(遺物混)	①(18.4)　②(5.4)	外面 3/4 回転ナデ、1/4 施釉、内面回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外．灰白 2.5GY8/1	
70	白磁	椀	SD02(谷部近く)	①(12.5)　②(2.2)	内外面施釉、回転ナデ	A:精良。砂粒はほとんど含まない。B:良好。C:内(釉)．灰白 2.5GY8/1、明オリーブ灰 2.5GY7/1　外(釉)．灰白 2.5GY8/1	
71	白磁	椀	SD02	②(1.55)	底部はヘラ切り、外面ケズリ状の凹凸、内面施釉	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内(釉)．灰白 10Y7/1　外(露胎)．灰白 5Y8/1	
72	白磁	皿	SD02(谷部近く)	②(0.65)　③(8.8)	底部ヘラ切り？、内外面施釉	A:精良。砂粒はほとんど含まない。B:良好。C:内(釉)．明緑灰 7.5GY8/1　外(釉)．灰白 5GY8/1	
73	瓦	丸瓦	SD02	長(13.3)　幅(7.4) 厚 2.4	タタキ後ナデ	A:やや粗。1 ～ 4mm 程の白色粗砂を多く含む。B:やや良。C:凹．灰白 7.5Y8/1　凸．灰白 7.5Y8/1、灰白 N8/ ～ 7/	
74	瓦	丸瓦	SD01・01 上層(遺物混)	長(7.65)　幅(7.3) 厚(1.65)	外面摩滅のため調整不明、内面摩滅のため不明だが一部擦過状の痕跡あり	A:密。1mm 以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:凹凸．浅黄橙 7.5YR8/4、橙 5YR6/6	
75	瓦	平瓦	SD01・02 上層(遺物混)	長(6.6)　幅(6.3) 厚(1.4)		A:密。1mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:やや不良。C:凹．橙 5YR7/6　凸．にぶい橙 5YR7/4	
76	鉄製品	不明鉄片	SD02	縦 3.8　横 3.0　厚 1.0 重 9.0g			
77	須恵器	鉢？	SD06	①(32.8)　②(8.75)	外面 1/2 格子目タタキ、1/2 回転ナデ、内面ナデか？	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外．灰 N6/ ～ 5/	
78	白磁	椀	SD06	②(2.2)　高台径(8.4) 高台高 0.75	底部削り出し、体部外面施釉、回転ナデ、内面施釉	A:密。砂粒はほとんど含まない。B:良好。C:内(釉)．灰白 10YR8/1　外(露胎)．灰白 7.5Y8/1	
79	土製品	人面形土製品	SD06(SD02 上層)	縦 2.6　横 2.1 厚 1.15　重 5.6g		A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:表．浅黄橙 10YR8/4 ～黄橙 10YR8/6　裏．褐灰 10YR5/1	頭部裏欠損。
80	須恵器	杯身	SX02 No.2	① 14.7　② 4.3 高台径 9.75　高台高 0.7	底部回転ヘラケズリ、外面回転ナデ、内面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．褐灰 7.5YR6/1、灰褐 7.5YR6/2　外．灰 N6/ ～ 5/、灰褐 7.5YR5/2	
81	須恵器	甕	SX02 No.1		外面擬格子目タタキ、内面同心円文当て具痕	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．にぶい橙 5YR6/3 ～にぶい赤褐 5YR5/3　外．灰 N6/ ～ N5/	

表４　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
82	鉄器	不明鉄片	SX02 粘土上層	縦(2.8)　横(4.7) 厚(0.7)　重 15.7g			
83	須恵器	杯蓋	SX24 上層	②(2.4)　つまみ径(3.0) つまみ高 1.3	つまみ回転ナデ、外面回転ヘラケズリ、内面 1/4 回転ナデ、3/4 不定方向のナデ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内 . 灰黄 2.5Y7/2　外 . 灰白 5Y7/1	
84	須恵器	杯蓋	SX24 －②	②(1.9)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内外 . にぶい橙 5YR6/3 ～ 6/4	
85	須恵器	杯身	SX24 －③上層	②(1.8)　高台径 10.8 高台高 0.5	体部外面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内 . 淡黄 2.5Y8/3 ～ 8/4　外 . 黄橙 10YR8/6、黄灰 2.5Y6/1	
86	鉄滓	含鉄鉄片	SX24 上層	縦 4.4　横 5.3　厚 4.0 重 86.7g			
87	鉄滓		SX24 －①	縦 3.0　横 4.1　厚 2.8 重 33.2g			
88	鉄滓	椀形滓?	SX24 上層	縦 3.0　横 4.9　厚 2.8 重 35.6g			
89	鉄滓		SX24 上層	縦 2.6　横 2.1　厚 1.3 重 7.2g			
90	鉄滓		SX24 －①	縦 2.0　横 2.2 厚 1.65　重 8.9g			
91	鉄滓		SX24 －①	縦 2.0　横 2.4　厚 1.9 重 9.9g			
92	鉄滓		SX24 －①	縦 1.65　横 2.1 厚 1.2　重 4.1g			
93	鉄滓		SX24 上層	縦 1.7　横 2.0　厚 1.3 重 4.1g			
94	鉄滓	椀形滓?	SX24 上層	縦 1.1　横 1.6　厚 1.0 重 2.6g			
95	鉄滓		SX24 －①	縦 1.7　横 1.9 厚 1.55　重 3.8g			
96	鉄滓		SX24 －①	縦 1.75　横 2.1 厚 1.2　重 4.4g			
97	鉄滓		SX24 －①	縦 1.65　横 2.8 厚 1.25　重 4.5g			
98	鉄滓		SX24 上層	縦 1.6　横 1.8　厚 1.3 重 3.5g			
99	鉄滓		SX24 上層	縦 1.7　横 1.8 厚 0.65　重 1.3g			
100	鉄滓		SX24 －①	縦 1.5　横 1.9 厚 1.05　重 2.9g			
101	鉄滓		SX24 上層	縦 1.4　横 1.0　厚 0.8 重 1.3g			
102	鉄滓		SX24 －①	縦 1.2　横 1.3 厚 0.75　重 1.4g			
103	鉄滓		SX24 －①	縦 1.4　横 1.5　厚 1.0 重 1.5g			
104	鉄滓		SX24 上層	縦 1.3　横 1.1　厚 0.9 重 1.6g			
105	鉄滓		SX24 上層	縦 1.3　横 0.9　厚 0.8 重 0.9g			
106	鉄滓		SX24 上層	縦 1.2　横 1.4　厚 0.9 重 1.7g			
107	鉄滓		SX24 上層	縦 1.3　横 1.7　厚 1.4 重 3.0g			
108	鉄滓		SX24 －①	縦 1.1　横 1.7 厚 0.75　重 1.4g			
109	鉄滓		SX24 －①	縦 1.1　横 1.7 厚 0.55　重 1.6g			
110	鉄滓		SX24 上層	縦 1.0　横 1.2　厚 4.5 重 0.7g			
111	鉄滓		SX24 上層	縦 0.9　横 0.8　厚 0.7 重 0.3g			
112	鉄滓		SX24 上層	縦 0.9　横 1.0　厚 0.6 重 0.8g			
113	鉄滓		SX24 上層	縦 1.2　横 0.7　厚 0.5 重 0.9g			
114	鉄滓		SX24 上層	縦 0.95　横 0.9 厚 0.8　重 0.8g			
115	鉄滓		SX24 －①	縦 1.2　横 1.2 厚 0.75　重 1.2g			
116	鉄滓		SX24 上層	縦 0.8　横 0.9　厚 0.5 重 0.4g			
117	礫(石)		SX24	縦 10.1　横 7.4 厚 4.15　重 310g			花崗岩。

表５　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
118	土師器	小皿	SP292 上蓋	①9.4　②1.5	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ後ナデ、1/2 回転ナデ	A:やや粗。微細な長石粒多く、1～4 mmの石英粒・1 mm大の白色粒を含む。B:良いがもろい。C:内．淡黄 2.5YR8/3　外．浅黄橙 10YR8/4	板状圧痕あり。
119	土師器	小皿	SP292 下身	①9.2　②1.3　③7.2	外面2/3回転ヘラ切り後ナデ、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:精。0.5～1 mmの長石粒を含む。B:良好。C:淡黄 2.5Y8/4　内面中央．一部黒変 2.5Y4/1	
120	須恵器	杯蓋	SP359 上蓋	①14.2　②2.25 つまみ径 2.35	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、1/2 つまみ貼付時の粘土、内面回転ナデ	A:やや粗。0.5～1mm の白色砂粒、1～2mm 大石英粒を含む。B:良好。C:内．灰白 N8/～6/　外．灰白 N7/～灰 N6/	
121	須恵器	杯身	SP359 下身	①14.0　②4.3(平均) ③10.6	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:粗。0.5～1mm の長石粒・白色砂粒、0.5～2mm 大石英粒を含む。B:良好。C:内．青灰色 5PB6/1　外．明青灰 5PB7/1、一部暗青灰 5PB4/1	
122	須恵器	杯身	SC04 西ベルト中	①(11.3)　②(2.4) 受部径(12.6)	受部回転ナデ、外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、内面摩滅のため不明	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:不良。C:内．褐灰 10YR5/1、にぶい黄 2.5Y6/4～明黄褐 2.5Y6/6　外．にぶい黄橙 10YR7/4～明黄褐 10YR7/6～6/6	
123	須恵器	高杯	SC04 西ベルト中	②(4.1) 受部径(16.3)	受部回転ナデ、外面回転ヘラケズリ、内面上半回転ナデ、下半不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内外．青灰 5B6/1～5/1	
124	土師器	甕	SC04(北西部分)	①(15.7)　②(7.3)	口縁部ナデ(一部ハケメを切る)、外面ハケメ、内面指オサエ(接合痕が残る)	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR7/4～浅黄橙 10YR8/4　外．にぶい橙 5YR6/4～にぶい赤褐 5YR5/4	口縁部に煤付着。
125	鉄滓		SC04 南西部	縦2.9　横4.3　厚2.9 重 18.9g		A:1～3mm 程の白色砂礫を多く含む。	メタルほとんどなし。
126	鉄滓		SC04 南西部	縦2.2　横2.8　厚1.6 重 4.9g			メタルほとんどなし。
127	鉄滓		SC04 南西部	縦1.35　横2.35 厚1.2　重3.5g			メタルほとんどなし。
128	石器	打製石鏃	SC01(北西部分)	長(2.3)　幅(1.4) 厚 0.37　重 1.0g 抉残長 0.15　刃角約 24°	一部自然面・素材面を残す。刃部の剥離精緻		黒曜石。凹基式。
129	須恵器	杯蓋	SC05 No.1	①12.95　②2.95 つまみ径 2.2 つまみ高 0.9	つまみナデ、外面 1/3 回転ヘラケズリ、2/3 回転ナデ、天井部内面不定方向のナデ、内面 1/3 回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内．灰白 2.5Y8/1～8/2 外．灰白 2.5Y8/1～7/1	全体的に器表面の摩滅激しい。
130	須恵器	杯蓋	SC05 北西部	①(15.0)　②1.5 つまみ径(2.7) つまみ高 0.4	つまみ回転ナデ、外面回転ヘラケズリ、口縁部内外面回転ナデ、内面不定方向のナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内外．灰白 N7/～灰 N6/	焼き歪む。
131	須恵器	杯蓋	SC05 北西部	①(16.0)　②1.5 つまみ径 2.55 つまみ高 0.55	つまみ回転ナデ、外面回転ナデ、天井部外面ヘラ切り後ナデ、天井部内面不定方向ナデ、内面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰白 N7/、灰 N4/　外．灰白 N7/、灰 N5/	全体的に摩滅大きく歪む。
132	須恵器	杯蓋	SC05 No.3	①(17.8)　②2.35 つまみ径 2.95 つまみ高 0.55	つまみナデ、外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、天井部内面不定方向のナデ	A:密。1～3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外．灰白 N7/	若干歪む。
133	須恵器	杯蓋	SC05 No.2	①15.6　②3.8 つまみ径 2.4 つまみ高 0.4	つまみナデ、外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ、天井部内面不定方向のナデ、内面 1/2 回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白 N8/～7/　外．灰白 N8/～7/、灰 N6/、灰 N4/	大きく歪む。
134	須恵器	杯蓋	SC05 カマド２層	①(13.1)　②(1.45)	外面回転ナデ、内面 1/5 不定方向のナデ、4/5 回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:やや不良。C:内．灰白 2.5Y8/2、灰黄褐 10YR6/2　外．にぶい黄橙 10YR6/3、7/4	
135	須恵器	杯蓋	SC05 北ベルト	①(20.6)　②(2.2)	天井部外面回転ヘラケズリ、口縁部内面～外面回転ナデ、内面不定方向のナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白 N8/～7/　外．灰白 N7/～灰 N6/	
136	須恵器	杯身	SC05 北西部	②(1.3)　高台径 8.6 高台高 0.4	底部ヘラ切り、外面回転ナデ、内面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:密。2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰白 N7/～灰 N6/　外．灰 N6/、灰 N4/、灰白 N7/	
137	須恵器	杯身	SC05 東西ベルト(貼床内)	②(1.3)　高台径(10.8) 高台高 0.55	底部回転ナデ、外面回転ナデ、内面不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:不良。C:内．灰白 2.5Y8/2　外．灰白 2.5Y8/1～8/2	
138	須恵器	高杯？	SC05 南東部	②(2.4)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 5Y6/1～5/1　外．灰 5Y5/1～4/1	外面に墨付着？
139	須恵器	椀？	SC05 粘土下層	①(19.6)　②(4.0)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外．明青灰 5PB7/1、灰白 N7/	
140	土師器	甕	SC05 北西部	②(2.05)	内外面ナデ	A:密。1～2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR7/4 外．橙 7.5YR6/6	
141	瓦	平瓦？	SC05 南東部	長(7.1)　幅(11.2) 厚 2.2		A:密。1～4mm 程の白色砂礫を多少含む。B:やや不良。C:凹凸．灰白 2.5Y8/1	
142	鉄器	棒状鉄器	SC05 No.4	長(6.4)　幅(1.05) 厚(0.6)　重(6.4g)			全体的に腐食ひどく、メタルはほとんど残らない。
143	鉄器	長頸鏃	SP429(SC05 上)	長(5.1)　幅0.6(鏃身) 0.35(茎)			

表６　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
144	須恵器	把手	SD12-6	②(4.5)	外面指頭圧痕、内面ナデ	A:密。B:良好。C:内外．灰白 N7/	
145	土師器	小皿	SD12-6	①8.5　②1.3 ③(6.4)	底部糸切り、外面回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:やや粗。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR7/2 ～灰黄橙 10YR6/2　外．にぶい黄橙 10YR7/3	
146	土師器	小皿	SD12-3	②(1.0)　③(6.0)	底部切り離し後ナデ、ヘラ糸不明、内外面回転ナデ	A:良。B:良好。C:内外．にぶい黄橙 10YR6/3	
147	土師質土器	鉢	SD12-2	②(2.7)	内外面回転ナデ	A:良。B:良好。C:内．にぶい橙 7.5YR7/4 外．橙 7.5YR6/6 ～にぶい褐 7.5YR5/3	
148	土師質土器	鉢	SD12-5	②(3.1)	内外面器面摩滅により不鮮明	A:粗。B:良好。C:内外．にぶい黄橙 10YR7/3	
149	瓦質土器	土釜	SD12-1	①(21.6)　②(3.9)	口縁部ナデ、外面ナデ、内面ケズリ	A:精良。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR6/3　外．黄褐 2.5Y5/3 ～黄灰 2.5Y5/1	肩部に直径1.5cm程の連続する円形の文様あり。
150	瓦質土器	羽釜	SD12-5	②(2.0)	内外面ナデ	A:密。B:良好。C:内．灰白 5Y7/1　外．灰白 5Y7/1 ～黒褐 2.5Y3/2	
151	陶器	椀？	SD12-1	②(1.8)	内外面施釉	A:精良。B:良好。C:内．オリーブ灰 2.5GY5/1　外．暗オリーブ灰 2.5GY4/1	
152	陶器	不明	SD12-3	②(2.1)	内外面施釉	A:密。B:良好。C:内外．灰白 10Y8/1 ～オリーブ灰 10Y6/2	
153	青磁	椀	SD12-2	①(16.4)　②(3.8)	内外面施釉	A:密。B:良好。C:内外．オリーブ灰 10Y5/2	
154	青磁	壺	SD12-5	②(2.1)　高台径(8.0)	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A:密。B:良好。C:内．灰白 N7/　外．浅黄 2.5Y7/3	越州窯系。
155	白磁	椀	SD12-5	②(4.6)	内外面施釉	A:密。B:良好。C:内．灰白 7.5Y7/1　外．灰白 7.5Y7/1 ～灰白 5Y8/1	
156	白磁	椀	SD12-2	②(2.0)	内外面施釉	A:密。B:良好。C:内外．灰オリーブ 7.5Y6/2	
157	白磁	皿	SD12-5	②(0.95)　③3.7	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ、1/4 回転ナデ、1/4 施釉、内面施釉	A:密。B:良好。C:内．灰白 5Y7/2　外．浅黄 5Y7/4 ～灰白 5Y7/1	
158	磁器	水注？	SD12-5	②(4.05)	内外面施釉	A:密。B:良好。C:内外．灰オリーブ 7.5Y4/2	
159	瓦	平瓦？	SD12-6	長 10.7　幅 4.15 厚 1.9	格子目タタキ	A:やや粗。0.5 ～ 1mm 大長石粒、2mm 大石英粒含む。B:良。C:凹凸.明青灰 5B7/1	
160	石器	打製石鏃	SD12-2	長(1.6)　幅(1.15) 厚(0.4)　重(0.8g) 抉 0.4			安山岩。凹基式。
161	石製品	円礫	SD12-1	長 2.45　幅 3.55 厚 0.9			
162	須恵器	杯蓋	SD13	①(13.0)　②4.0	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/3 不定方向のナデ、2/3 回転ナデ	A:粗。B:良好。C:内．灰 N5/　外．灰 N6/ ～ 4/	
163	須恵器	杯蓋	SD13(SC05 内～西側)	②(2.3)	内外面回転ナデ	A:良。B:良好。C:内外．灰 N5/	
164	須恵器	杯蓋	SD13-2 西側	②(1.35)	内外面回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰 5Y6/1　外．黄灰 2.5Y6/1	
165	須恵器	杯身	SD13-2 西側	①(11.5)　②3.65 受部径(13.8)	底部回転ヘラケズリ、外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/4 シッタ痕、1/4 ナデ	A:粗。B:良好。C:内外．灰 N5/	
166	須恵器	杯蓋	SX35 ベルト内	①(13.0)　②2.3 つまみ径 2.1 つまみ高 0.4	つまみナデ、外面回転ヘラケズリ、口縁部内外面回転ナデ、天井部内面不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 N6/、明オリーブ灰 2.5GY7/1　外．灰 N6/、明青灰 5B7/1	
167	須恵器	杯蓋	SX35 No.7	①(15.4)　②2.5 つまみ径 2.4	つまみナデ、内外面摩滅のため調整不明	A:精良。微細な長石粒、1mm 大の白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外．浅黄橙 10YR8/4	
168	須恵器	杯蓋	SX35 No.18	①(15.6)　②3.5 つまみ径 2.3	つまみ貼付後ナデ、外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰白 7.5Y7/1 外．灰白 7.5Y7/1 ～灰 N6/	
169	須恵器	杯蓋	SX35 No.8	①(21.0)　②(2.6)	内外面摩滅のため調整不明	A:精良。1mm 大長石粒、1 ～ 3mm 大石英粒を少量含む。B:不良。C:内．淡黄 2.5Y8/4 外．淡黄 2.5Y8/3、口縁～中程にかけて一部灰 N4/	
170	須恵器	杯蓋	SX35 No.22	①(24.8)　②(1.8)	外面 1/3 回転ナデ、2/3 回転ヘラケズリ、内面 1/4 回転ヘラケズリ、3/4 不定方向のナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰白 5Y7/1　外．灰 5Y6/1	つまみ貼付痕あり。
171	須恵器	杯蓋	SX35 No.22	①(20.1)　②(1.9)	外面 1/3 回転ナデ、2/3 器表摩滅のため調整不明、内面 1/3 回転ナデ、2/3 器表摩滅のため調整不明	A:精良。B:良好。C:内．灰白 2.5Y8/2 ～黒褐 2.5Y3/1　外．灰白 2.5Y8/2 ～黄褐 2.5Y5/3	内面に灯明痕あり。
172	須恵器	杯身	SX35 No.14 SX35 埋土中	① 10.0 ～ 10.5 ②3.5(平均) 高台径 6.8	体部内外面回転ナデ、底部内面ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	A:やや粗。微細な長石粒、1 ～ 2mm 大長石粒、1 ～ 5mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:内．灰白 N7/　外．灰白 N7/ ～灰 N4/	
173	須恵器	杯身	SX35 No.29	①(11.3)　②3.3 高台径 7.9	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰 N 5/ ～灰 10YR6/1　外．灰白 10Y7/1 ～灰 10Y6/1	底部外面ヘラ記号あり。
174	須恵器	杯身	SX35 No.13 SX35 No.5	① 13.4 ～ 13.7 ②4.15(平均) 高台径 9.6 ～ 9.8	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	A:密。微細な長石粒、白色砂粒を含む。B:良好。C:内．灰白 N7/　外．灰 N6/ ～ 5/	底部外面に火襷痕あり。

表７　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
175	須恵器	杯身	SX35 No.1	①(14.2)　②3.35 高台径(9.0) 高台高 0.3	外面回転ナデ、内面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ、底部ヘラ切り	A:密。1mm 以下の白色粗砂僅かに含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/ ～灰 N6/　外 . 灰白 N7/	
176	須恵器	杯身	SX35 ベルト内	①(14.2)　②4.4 高台径(10.1) 高台高 0.6	外面回転ナデ、内面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 青灰 5B6/1 ～ 5PB6/1　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/	焼き歪む。
177	須恵器	杯身	SX35 No.4	①(14.0)　②4.4 ③(9.2)	内外面回転ナデ、高台のみナデ	A:精良。微細な長石粒を多く含む。B:やや不良。C:内・底部外面 . 灰白 5Y8/1　外(体部) . 灰白 5Y7/1	
178	須恵器	杯身	SX35 No.5 SX35 No.10	①(15.0)　②4.3 高台径(10.8)	器表摩滅のため調整不明	A:精良。0.5mm 大の長石粒を含む。B:不良。C:内 . 灰白 2.5Y8/2　外 . 灰白 2.5Y7/1	
179	須恵器	杯身	SX35 No.19 SX35 No.15 SX35 埋土中	① 18.5　②5.9 高台径 12.7	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部 2/5 回転ナデ、3/5 ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内 . 褐灰 10YR5/1 ～褐灰 7.5YR6/1　外 . 褐灰 7.5YR5/1 ～浅黄橙 10YR8/3 ～灰 N5/	
180	須恵器	杯身	SX35 No.4 SX35 No.5 SX35 埋土中	①(17.4)　②(4.9)	内外面回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/	
181	須恵器	杯	SX35 No.23 ベルト内	① 14.3　②4.1 ③ 10.7	外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰白 5Y7/1 ～にぶい黄 2.5Y6/4	
182	須恵器	杯	SX35 No.21 SX35 No.20 SX35 No.22 SX35 埋土中	①(13.4)　②4.0 ③(9.9)	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、内面 1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	
183	須恵器	杯	SX35 No.30	①(14.2)　②(3.9)	外面 1/3 ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	
184	須恵器	皿	SX35 No.36	①(20.2)　②2.85 ③(18.0)	外面回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、2/3 不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。砂粒をほとんど含まない。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2	
185	須恵器	高坏	SX35 No.36	①(21.2)　②(1.9)	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1mm 以下の白色粗砂をごく僅かに含む。B:やや良好。C:内 . 灰白 N7/　外 . 灰白 N8/ ～ 7/	
186	須恵器	高杯	SX35 No.26	②(7.4)	杯部内面ナデ、脚部外面回転ナデ、脚部内面 1/2 回転ナデ、1/2 ナデ	A:密。B:良好。C:内外 . にぶい褐 7.5YR6/3 ～褐灰 7.5YR6/1	
187	須恵器	鉢	SX35 No.3 SX35 No.4	①(28.6)　②15.1 ③(15.4)	内外面摩滅のため調整不明	A:精良。微細な長石粒を少量含む。B:不良。C:内 . 淡黄 2.5Y8/2　外 . 淡黄 2.5Y8/3、底部付近のみ灰 2.5Y6/1	
188	須恵器	鉢	SX35 No.9 SX35 No.15 SX35 埋土中	① 22.3 ② 11.1(平均)	外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面ナデ	A:密。微細な長石粒、1 ～ 2mm 大長石粒を少量含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB5/1、一部灰赤 7.5R6/2　外 . 青灰 5PB6/1 ～ 5PB5/1	内面に一部降灰。
189	須恵器	短頸壺	SX35 No.17	②(8.7) ④ 13.9	底部回転ヘラケズリ、体部上半カキメ、他は回転ナデ	A:密。0.5 ～ 1mm 大長石粒含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1　外 . 暗青灰 5PB4/1	体部上半外面に連続刺突文。
190	須恵器	短頸壺	SX35 No.12	②(11.2) 高台径 12.2	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。微細な長石粒、1mm 大白色砂粒、1 ～ 2mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:内 . 灰白 N8/　外 . 灰白 N7/	
191	土師器	甕	SX35 No.33	①(24.8)　②(3.4)	外面 1/2 ハケメ、他器表摩滅のため調整不明	A:粗。B:良好。C:内 . にぶい黄褐 10YR5/4 ～暗褐 10YR3/3　外 . にぶい黄橙 10YR6/4 ～明赤褐 5YR5/6	赤色顔料。
192	焼土塊		SX35 埋土中	縦 3.05　横 3.7 厚 2.1　重 18.6g		A:雲母を多く含む。	
193	焼土塊		SX35 埋土中	縦3.9　横4.5　厚3.1 重 58.7g		A:径 1 ～ 3mm の白色粗砂と炭を含む。	鉄のようなものが付着するが磁力には反応なし。
194	須恵器	杯身	SP483　No.3	①(12.2)　②3.6 ③(11.2)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:精。微細な長石粒を含む。B:不良。C:内 . 灰白 2.5Y8/2　外 . 灰白 2.5Y7/1	生焼け。
195	須恵器	蓋	谷部西側上層褐灰色土 谷部上層褐灰色土 谷部(6 層) 谷部中層(3・4 層) 谷部下層(5 層) 谷部中層(3 層)	①(15.4)　②2.7	外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 N8/1 ～ 8/2　外 . 灰褐 7.5YR6/2 ～ 5/2	
196	須恵器	甕	谷部掘り下げ上層 谷部中層	②(5.9)	体部下半外面回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	体部外面に連続刺突文あり。
197	須恵器	壺？	谷部西側上層 褐灰色土	①(7.6)　②(4.7)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/、暗灰 N3/	
198	須恵器	水瓶？	谷部上層 褐灰色土層	②(4.7)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内 . 赤灰 5R6/1　外 . 灰 N6/ ～ 5/	内面にシボリ痕。
199	須恵器	横瓶？	谷部上層(1・2 層) 谷部西側上層褐色土	②(9.4)	外面 1/4 カキメ、3/4 斜格子状のタタキ、内面ナデ	A:粗。B:良好。C:内 . 灰黄褐 10YR5/2 ～褐灰 10YR4/1　外 . 浅黄橙 10YR8/4 ～にぶい橙 7.5YR6/4	
200 201	須恵器	壺？	谷部掘り下げ上層	②上部(4.85)、下部(11.5)　③(11.9)	上部内外面回転ナデ、下部外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰 N6/ ～ 4/	
202	土師器	小皿	谷部ベルト上層(2 層)	① 8.55　② 1.0 ③ 6.7	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:やや良。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	

表８　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表⑧

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
203	土師器	丸底杯	谷部西側上層 褐灰色土	①15.5　②3.6 短径(13.5～)	外面回転ナデ、内面1/4回転ナデ、3/4不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	A:密。1～2mmの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内.灰白10YR8/1～8/2～7/1 外.黄灰2.5Y6/1～灰黄2.5Y6/2	焼き歪む。
204	土師器	椀	谷部上層 褐灰色土層	①(12.6)　②(3.1)	外面回転ナデ、内面3/4回転ナデ、1/4不定方向のナデ	A:密。1～2mmの白色粗砂を含む。B:やや良。C:内.灰白2.5Y8/2　外.灰白10YR8/2	
205	土師器	椀	谷部西側上層 褐灰色土	②(2.65)　高台径8.4 高台高1.2	外面回転ナデ、内面不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:密。1mm程の白色粗砂をごく僅かに含む。B:良好。C:内外.灰白2.5Y8/2	
206	土師器	椀	谷部ベルト上層(2層)	②3.2　高台径(9.6)	全面器表摩滅のため調整不明	A:良。B:良好。C:内.にぶい黄橙10YR7/4～にぶい橙7.5YR7/4　外.にぶい橙5YR7/4～褐灰7.5YR5/1	先端部にしわあり。
207	土師器	鉢	谷部西側上層 褐灰色土	①(19.6)　②(4.4)	外面ケズリ、内面ナデ	A:密。1～2mmの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外.灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3	外面一部黒変。
208	土師器	甑把手	谷部掘り下げ上層		ナデ、指頭圧痕	A:密。1～4mmの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:橙7.5YR7/6、灰白2.5Y8/2	
209	土師器	甕	谷部ベルト上層(2層)	②(7.65)	内外面器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。B:良好。C:内.灰白10YR8/2～灰黄褐10YR6/2　外.灰黄褐10YR6/2～褐灰10YR4/1	
210	黒色土器B類	椀	谷部西側上層 褐灰色土	②(1.8)　高台径6.7 高台高0.8	内面ミガキ、底部ヘラ切り後ナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外.黒2.5Y2/1	
211	土師器	椀	谷部掘り下げ上層	②(4.0) 高台径(6.55)	内外面器表摩滅のため調整不明	A:良。B:やや良。C:内.灰黄褐10YR5/2～黒褐10YR3/2　外.灰白10YR8/2～灰黄褐10YR6/2～黒褐10YR3/2	
212	土師器	脚付椀の脚？	谷部上層褐灰土 ＋後代の盛土		全面ナデ？	A:やや密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1	
213	土師器	脚付椀の脚？	谷部西側上層 褐灰色土		全面ナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3	
214	土師器	脚付椀の脚？	谷部上層(1層)	②(3.8)	摩滅のため調整不明	A:やや粗。B:良好。C:灰白2.5Y8/2～灰N4/	
215	土師器	脚付椀の脚？	谷部掘り下げ上層		全面ナデ？	A:やや密。1～2mmの白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:灰白10YR5/2～浅黄橙10YR8/3	
216	土師器	脚付椀の脚？	谷部上層(1層)	②(4.35)	摩滅のため調整不明	A:やや粗。B:良好。C:浅黄橙10YR8/3	
217	土師器	脚付椀の脚？	谷部上層(1層)	②(3.2)	摩滅のため調整不明	A:やや粗。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
218	土師器	土釜脚部？	谷部西側上層 褐灰色土		全面ナデ？	A:密。1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:灰白2.5Y8/1～8/2	
219	白磁	椀	谷部上層(1・2層)	②(2.35) 高台径(6.9)	内外面施釉、底部回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内(釉).灰白7.5Y7/2 外(釉).灰白7.5Y7/2～灰白5Y7/1	
220	白磁	椀	谷部掘り下げ上層	①(15.8)　②(5.4)	内外面回転ナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外.灰白7.5Y7/1～7/2 露胎.灰白2.5Y8/2	内面釉だれによって泡状になった釉が付着。
221	青磁	椀	谷部西側上層 褐灰色土	①(16.2)　②5.45 高台径(8.6) 高台高(1.0)	内外面回転ナデ、底部削り出し	A:精良。1mm程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内.灰オリーブ7.5Y5/2～5/3 外.灰オリーブ7.5Y5/3、底部露胎、にぶい褐7.5YR5/3	越州窯系。
222	土製品	棒状土製品	谷部ベルト上層(2層)	長(13.0) 最大幅(4.1)		A:粗。B:やや良。C:淡黄2.5Y8/3	
223	土製品	棒状土製品	谷部掘り下げ上層	長(10.65)　幅4.7 厚4.5	全面ナデ	A:密。1～3mm程の白色砂礫を多く含む。B:良好。C:灰黄2.5Y6/2、にぶい黄橙10YR6/4	
224	土製品	土玉	谷部上層(1・2層)	最大長1.9 最大幅1.8 最大厚1.8	器表摩滅のため調整不明	A:精良。B:やや良好。C:灰白2.5Y8/2	
225	石器	打製石鏃	谷部上層 褐灰色土	長2.9　幅1.8(復元1.9) 厚0.45　重1.6g 抉長0.4			安山岩。凹基式。
226	石器	縦長剥片	谷部掘り下げ上層	縦4.9　幅2.3　厚0.7 重6.9g			白色の縞状模様が入る。黒曜石。
227	須恵器	杯蓋	谷部中層	①(14.7)　②1.8 つまみ径2.6	つまみナデ、外面2/3回転ヘラケズリ、1/3回転ナデ、内面不定方向のナデ	A:密。微細な長石粒、2～3mm大石英粒を少量含む。B:良好。C:内外.青灰5PB5/1	外面降灰あり。
228	須恵器	杯蓋	谷部中層(下部)	①(20.4)　②(1.8)	外面1/3ヘラ切り後ナデ、2/3回転ナデ、内面1/3不定方向のナデ、2/3回転ナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内.灰白10YR7/1、灰白N7/～灰N6/　外.明褐灰5YR7/2、灰白N7/、褐灰5YR5/1	やや焼き歪む。
229	須恵器	杯身	谷部中層(下部) 谷部灰色砂質土	①(9.8)　②4.1 高台径6.0	外面回転ナデ、内面3/4回転ナデ、1/4不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内外.灰N6/	
230	土師器	杯身	谷部中層 灰色砂質土層 谷部中層(下部)	①(11.8)　②3.9 高台径(7.7)	外面回転ナデ、内面3/4回転ナデ、1/4摩滅のため調整不明、底部調整不明	A:密。B:良好。C:内.黄灰2.5Y6/1　外.灰5Y6/1	
231	須恵器	杯身	谷部灰色砂質土	①11.65　②3.05 高台径7.4　高台高0.4	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ、1/2不定方向ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内.灰白N7/～灰N6/　外.灰白N7/	

表９　本堂遺跡１次調査出土遺物観察表⑨

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
232	須恵器	杯身	谷部中層 谷部中層(3 層) 谷部４層 谷部中層灰色土	①(11.8)　②3.8 ③(7.7)	内外面回転ナデ	A:密。微細な白色粒を少量含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/　外 . 灰 N6/	
233	須恵器	杯身	谷部中層(下部)	①13.8　②3.9～4.3 高台径 8.4	内外面回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内 . 灰 N6/　外 . 灰 N6/～暗灰 N3/	
234	須恵器	杯身	谷部中層灰色土	①(14.0)　②3.9 ③(8.2)	内外面回転ナデ、底部ナデ	A:密。0.5～3mm 大白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 暗青灰 5PB4/1	板状圧痕？あり。
235	須恵器	杯身	谷部中層(下部)	①(18.4)　②5.1 高台径(10.4) 高台高 0.5	外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ、底部ヘラ切り	A:密。1～2mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内 . 灰白 N8/　外 . 灰白 N8/～灰 N6/、灰 N4/	
236	須恵器	杯身	谷部灰色砂質土 谷部中層灰色砂質土	①(18.3)　②5.8 高台径 10.9 高台高 0.5	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面 1/3 不定方向ナデ、2/3 回転ナデ	A:やや粗。1～2mm の白色粗砂を少し含む。B:不良。C:内 . 浅黄橙 10YR8/3、にぶい橙 7.5YR7/4　外 . 橙 5YR6/6、灰白 2.5Y8/2、黄灰 2.5Y4/1～黒褐 2.5Y3/1	底部外面黒変。
237	須恵器	杯身	谷部中層(下部)	①(21.0)　②6.7 高台径(12.2) 高台高 0.7	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1～2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 明青灰 5PB7/1　外 . 灰 N6/～5/	
238	須恵器	皿	谷部中層(下部) 谷部中層 谷部灰色砂質土	①(9.4)　②1.6 ③(6.8)	内外面回転ナデ、底部回転ナデ、一部不定方向のナデ	A:やや良。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	
239	須恵器	皿	谷部中層 谷部中層(下部)	①(13.2)　②1.85 ③(10.4)	外面回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、2/3 不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。1～2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/～5/　外 . 灰白 N7/～灰 N6/～5/	
240	須恵器	皿	谷部灰色砂質土 谷部中層(下部)	①(14.4)　②2.05 ③(11.8)	外面 1/2 回転ヘラ切り後ナデ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/、灰 N6/～5/　外 . 灰白 N7/	
241	須恵器	皿	谷部中層(下部)	①(17.8)　②2.05 ③14.4	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/～灰 N6/	
242	須恵器	皿	谷部中層	①(18.4)　②(2.7)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。微細な長石粒、0.5～1.5mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:内･口縁部内外面 . 青灰 5PB5/1　外 . 青灰 5PB6/1	内面重ね焼き痕あり。
243	須恵器	鉢？	谷部中層(3・4 層) 谷部(6 層)	①(13.8)　②5.05	内外面回転ナデ	A:密。1～3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/～灰 N6/　外 . 灰 N4/～暗灰 N3/	
244	須恵器	鉢？	谷部中層 谷部ベルト上層(2 層) 谷部中層灰色土	①(19.6)　②(8.1)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内 . にぶい赤褐 2.5YR5/3 外 . 灰赤 2.5YR5/2	
245	須恵器	壺	谷部中層灰色砂質土層	①(8.4)　②(2.5)	内外面回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内 . 褐灰 7.5YR6/1 外 . 灰白 10YR8/2	
246	須恵器	壺	谷部中層(3・4 層)	②(4.4)　③(10.6)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	
247	須恵器	壺	谷部中層 谷部下層(4 層)	②(7.3)　高台径(10.6) 高台高 0.7	外面回転ヘラケズリ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。1～3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 明青灰 5PB7/1～青灰 5PB6/1　外 . 明青灰 5PB7/1～青灰 5PB6/1～5/1	底部に凹みあり。(ヘラか何かの当たり？)
248	須恵器	壺	谷部中層	②(6.1)	外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。1～2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1～5/1　外 . 灰白 N7/～灰 N6/～5/	外面に連続刺突文。
249	須恵器	甕	谷部中層(3・4 層)	②(5.25)　つまみ径 2.1	つまみナデ、外面カキメの上から平行タタキ、内面同心円文当て具痕	A:精良。B:良好。C:内 . 黄灰 2.5Y6/1 外 . 灰白 N7/　自然釉 . 灰オリーブ 7.5Y5/2	
250	須恵器	把手	谷部中層(下部)	②(3.6)		A:密。B:良好。C:灰白 N7/～灰 N4/	降灰。
251	須恵器	蓋(つまみ)	谷部中層	②(2.0) つまみ径 4.3～4.4 つまみ高 1.2	つまみ回転ナデ、内面ナデ	A:密。0.5～1.5mm 大長石粒、1mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1　外 . 青灰 5PB5/1	
252	須恵器	把手付甕	谷部中層灰色土 谷部６層 谷部下層(4 層) 谷部下層 灰色砂質土	①(34.5)　②(25.2)	口縁回転ナデ、外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕	A:密。1mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内 . 青灰 5B5/1　外 . 青灰 5B6/1～5/1	
253	土師器	小皿	谷部中層 灰色砂質土層	①(9.6)　②1.7 ③(6.8)	外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 調整不明、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2～淡橙 5YR8/3	
254	土師器	小皿	谷部中層 灰色砂質土層	①(10.0)　②(1.3)	内外面器表摩滅のため調整不明だがおそらくナデ	A:やや良。B:良好。C:内外 . 灰黄 2.5Y7/2	
255	土師器	小皿	谷部中層 灰色砂質土層	①(9.0)　②0.8 ③(6.8)	内外面器表摩滅のため調整不明	A:精良。B:良好。C:内外 . にぶい黄橙 10YR7/3	
256	土師器	小皿	谷部中層	①(9.2)、9.0(図上) ②1.05(平均) ③(6.0)	内外面回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。1～1.5mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2～淡黄 2.5Y8/3 の中間	
257	土師器	杯	谷部４層	①(10.3)　②2.3 ③5.0	外面回転ナデ、内面器表摩滅のため調整不明、底部器表摩滅のため調整不明	A:精良。B:良好。C:内 . にぶい黄橙 10YR7/3～褐灰 10YR5/1　外 . 淡黄 2.5Y8/3～にぶい黄橙 10YR7/3	
258	土師器	椀	谷部下層(4 層)	②(2.8)　高台径 7.7 高台高 1.3	外面回転ナデ、内面不定方向のナデ、底部摩滅のため不明	A:やや粗。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/2	
259	土師器	椀	谷部中層 谷部上層	②(1.9)　③8.0	内外面ナデ、底部ナデ	A:精良。0.5mm 大長石粒、1～2.5mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:淡黄 2.5Y8/3	
260	土師器	椀	谷部上層(4 層)	①(13.6)　②4.3	内外面器表摩滅のため調整不明	A:粗。B:良好。C:内 . 浅黄橙 10YR8/4～橙 5YR7/6　外 . 浅黄橙 10YR8/3	

表10　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑩

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
261	土師器	高台付小皿	谷部中層(3・4 層)	①(10.9)　②2.6 高台径 6.4　高台高 1.2	外面一部回転ナデ、他は器表摩滅のため調整不明	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 10YR8/2　外 . 灰白 10YR8/2、灰白 2.5Y8/2	
262	土師器	高台付小皿	谷部中層灰色土	①11.2　②2.0(平均) ③7.3	内外面回転ナデ、底部回転ナデ	A:精良。微細な長石粒、2mm 大石英粒を極少量含む。B:良好？もろい。C:浅黄橙 7.5YR8/3	内面一部変色、褐灰白 10YR6/1。
263	土師器	鉢	谷部中層(3 層)	①(21.4)　②(7.0)	内外面摩滅しているがおそらくナデ	A:粗。B:良好。C:内外 . にぶい黄橙 10YR 7/3	
264	土師器	器台	谷部中層	②(7.5)　孔径 1.1	内面ナデ、外面 1/2 ナデ、1/2 指オサエ	A:やや粗。0.5 ～ 1mm 大長石粒、1 ～ 2mm 大石英粒を含む。B:不良。C:淡黄 2.5Y8/3	
265	土師器	器台	谷部中層(2・3 層)	②(15.2)		A:やや粗。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2 ～にぶい橙 7.5YR7/4	
266	土師器	甑	谷部中層(3・4 層)		下面ヘラケズリ状の痕跡、他は指ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2、黄灰 2.5Y6/1	把手のみ。
267	土師器	甑	谷部中層		指ナデ	A:粗。1 ～ 5mm 大の角閃石・石英粒、0.5mm 大長石粒を含む。B:良好。C:にぶい黄橙 ～ 褐灰 10YR7/3 ～ 5/1、先端部は赤橙 2.5YR6/8	把手のみ。
268	土師器	甕	谷部中層 灰色砂質土層	①(26.6)　②(9.5)	胴部外面タタキ、他はナデ	A:粗。B:良好。C:内 . 灰黄褐 10YR5/2 ～黒褐 10YR3/1　外 . にぶい黄橙 10YR6/3 ～黒褐 10YR3/1	口縁部内面～外面煤付着。
269	土師器	脚付椀の脚？	谷部中層灰色土	高さ(3.0)	全面ナデ	A:粗。1 ～ 3mm 大石英粒・白色砂粒、0.5mm 大長石粒、7mm 大石英粒を含む。B:良好。C:淡黄 2.5YR8/3	
270	土師器	脚付椀の脚？	谷部中層	②(3.3)		A:やや粗。0.5 ～ 2mm 大長石粒、1mm 大石英粒を含む。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2	
271	土師器	脚付椀の脚？	谷部中層(2・3 層)	②(3.75)		A:やや良。B:良好。C:灰黄 2.5Y7/2	
272	土師器	脚付椀の脚？	谷部中層灰色砂質土層	②(5.2)		A:やや粗。B:良好。C:浅黄 2.5Y7/3	
273	土師器	脚付椀の脚？	谷部中層	長(3.6)	ナデ・オサエ	A:粗。3mm 以下の石英・長石・雲母を多く含む。B:良好。C:浅黄橙 2.5Y7/3	
274	土師器	土釜の脚？	谷部中層灰色土	長(9.55)	ナデ	A:粗。1 ～ 3mm 大長石粒、1 ～ 4mm 大石英粒を多く含む。B:良好。C:浅黄橙 10YR8/4　黒変部 . 黒 N2/ その縁辺 . 灰白 2.5Y8/2	
275	黒色土器Ａ類	椀	谷部中層	②(2.5)　③8.2	外面回転ナデ、内面 1/3 強い指ナデ、2/3 ナデ後ヘラミガキ？、底部ナデ、切り離し不明	A:やや粗。0.5 ～ 1mm 大長石粒、1 ～ 5.5mm 大石英粒を含む。B:良好。C:内 . 炭素吸着か？灰 N4/　外 . 淡黄灰 2.5Y8/3	
276	黒色土器Ａ類	椀	谷部中層灰色土	②(4.8)　③7.2 ～ 7.4	外面回転ナデ、内面ナデ後ヘラミガキ、底部回転ナデ	A:やや粗。0.5mm 大長石粒、1mm 大白色砂粒、1 ～ 2mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:内 . 暗灰 N3/　外 . 淡黄 2.5Y8/3	
277	黒色土器Ｂ類	甕	谷部中層 谷部ベルト上層(2 層)	①(9.4)　②(5.0)	内外面ミガキ？	A:精良。B:良好。C:内 . 黒 10YR2/1　外 . 黒 N2/	
278	土師質土器	鉢	谷部中層(3・4 層)	②(4.6)	全面摩滅のため調整不明だが回転ナデか？	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰黄褐 10YR4/2、灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 10YR8/3　外 . にぶい橙 7.5YR7/4 ～橙 7.5YR7/6、灰黄褐 10YR6/2	
279	土師質土器	鉢	谷部中層灰色砂質土層	①(30.4)　②6.85 ③(15.6)	内外面摩滅しているがおそらくナデ	A:やや粗。B:良好。C:内 . 灰黄褐 10YR5/2 ～褐灰 10YR4/1　外 . にぶい黄橙 10YR7/3 ～黒褐 10YR3/1	傾きに難あり。
280	弥生土器	蓋	谷部中層	①(19.2)　②(3.8)	内外面ナデ？、やや摩滅	A:粗。0.5 ～ 1mm 大白色砂粒・石英粒、微細な雲母(白黒)を含む。B:良好。C:内 . 褐 7.5YR4/ ～暗褐 7.5YR3/1、にぶい橙 7.5YR7/3　外 . 灰褐 7.5YR4/2 ～黒褐 7.5YR3/1	外面煤付着。
281	弥生土器	壺	谷部中層灰色砂質土層	②(3.5)　③(6.6)	内外面器表摩滅のため調整不明	A:粗。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3 ～にぶい橙 5YR7/4	
282	白磁	椀	谷部中層	①(17.8)　②(5.3)	内外面施釉	A:密。乳白 5Y8/2、微細な黒色粒少量あり。B:良好。C:緑を帯びた灰白 10Y8/1	
283	瓦	平瓦	谷部中層	長 11.8+α 幅 7.2+α　厚 2.0		A:粗。1 ～ 4mm 大石英・白色粒を多く、0.5mm 大長石粒を含む。B:不良。C:褐灰 10YR4/1	
284	瓦	平瓦	谷部中層(3・4 層)	残長 13.45 残幅 11.6　厚 2.3		A:密。1 ～ 3mm の白色砂礫を多少含む。B:やや不良。C:凹 . 灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2 凸 . 灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2、灰白 N7/	
285	土製品	鞴羽口	谷部中層灰色土	長(6.4)　幅(6.7)	ナデ	A:とても粗い。1mm 大長石粒、1 ～ 7mm 大石英粒を多く含む。C:内 . 青黒 5PB2/1、ピンク・にぶい赤橙 10R6/4 ～淡黄に近い灰白 2.5Y8/2　外 . 灰白 N7/、灰白 N8/ ～ 2.5GY8/1、黒 N2/	
286	鉄滓	炉底滓？	谷部中央(3・4 層)	縦 5.8　横 4.25 厚 2.1　重 39.9g		A:1 ～ 4mm の白色砂礫(石英・長石)を非常に多く含む。	わずかに磁力に反応する。
287	鉄滓	椀形滓	谷部中層	縦 2.8　横 2.6　厚 1.7 重 18.6g			
288	石器	石鏃	谷部中層	長(1.9)　幅(1.8) 厚 0.45　抉 0.4 重(1.0)g			黒曜石。凹基式。
289	石器	石匙	谷部中層(下部)	残縦 4.65　残横 3.8 厚 1.0　重 12.8g			安山岩。

表11　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑪

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
290	石器	敲石	谷部中層(3・4 層)	残縦 10.6　残横 5.3 残厚 7.2　残重 535.5g		角閃石を多く含む。	凝灰岩。
291	石器	被熱の痕跡がある石	谷部中層(3・4 層)	残縦 16.2　残横 9.7 残厚 7.8　残重 1540g			花崗岩。
292	須恵器	杯蓋	谷部下層Ⅰ(6 層) 谷部 6 層	①13.3　②2.4 つまみ径 2.3 つまみ高 0.4	つまみ回転ナデ、外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N4/ ～暗灰 N3/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 5/、暗灰 N3/	
293	須恵器	杯蓋	谷部下層Ⅰ 谷部下層Ⅱ	①(19.6)　②(2.65)	内外面全体的に摩滅しており調整不明	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内 . 灰白 N8/、浅黄橙 7.5YR8/4　外 . 浅黄橙 7.5YR8/4、灰白 7.5Y8/1	つまみ剥落。
294	須恵器	杯蓋	谷部下層(8 層)	②(1.7)　つまみ径 2.5 つまみ高 0.7	つまみ回転ナデ、外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面不定方向ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内外 . 灰白 N8/ ～ 7/	転用硯。
295	須恵器	杯蓋	谷部(6 層)	①(16.3)　②(1.4)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 2/3 不定方向のナデ、1/3 回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/	転用硯。
296	須恵器	杯身	谷部下層(6 層)	①9.75　②3.95 高台径 6.2　高台高 0.5	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:密。1 ～ 3mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N4/　外 . 灰 N6/ ～ 4/、暗灰 N3/	
297	須恵器	杯身	谷部下層(8 層)	①12.7　②4.85 高台径 8.75 高台高 0.55	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 N8/ ～ 7/　外 . 灰白 N8/ ～ 7/ ～灰 N6/	
298	須恵器	杯身	谷部下層Ⅰ(6 層)	①14.05　②4.15 高台径 9.2 高台高 0.3	外面回転ナデ、内面 2/5 不定方向のナデ、3/5 回転ナデ、底部ヘラ切り	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 5/	
299	須恵器	杯身	谷部下層Ⅱ 谷部 6 層	①(15.1)　②4.05 高台径(11.2) 高台高 0.5	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面 1/3 不定方向ナデ、2/3 回転ナデ	A:密。ほとんど砂粒を含まない。B:良好。C:内 . 灰白 N7/ ～灰 N6/　外 . 灰 N6/ ～ 4/	
300	須恵器	杯身	谷部下層Ⅱ	①(16.55)　②5.9 高台径(12.4) 高台高 0.5	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂をごく僅かに含む。B:やや良。C:内 . 灰白 2.5Y8/1　外 . 灰白 2.5Y7/1	
301	須恵器	杯身	谷部下層Ⅱ	①17.7　②(5.2)	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/、灰 N5/	
302	須恵器	杯身	谷部下層Ⅱ 谷部 13-2 層 谷部下層Ⅳ(最下層)	①13.35　②4.7 受部径 15.2	底部回転ヘラケズリ、外面回転ナデ、内面 2/3 不定方向ナデ、1/3 回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/ ～灰 N6/　外 . 明青灰 5PB7/1 ～青灰 5PB6/1 ～ 5/1	
303	須恵器	杯身	谷部下層Ⅰ	①12.3　②4.1 受部径 14.45	外面 3/4 回転ヘラケズリ、1/4 回転ナデ、内面 2/3 不定方向のナデ、1/3 回転ナデ	A:密。1 ～ 4mm の白色砂礫を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/ ～灰 N6/　外 . 灰白 N7/	外面ヘラ記号。多少焼き歪む。
304	須恵器	杯	谷部東側下層灰色粘質土	①(10.3)　②2.55 ③8.5	外面回転ナデ、内面回転ナデ、一部不定方向のナデ、底部ヘラ切り、一部ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/ ～ 4/	
305	須恵器	皿	谷部下層Ⅰ(6 層)	①(14.0)　②1.95 ③(11.0)	外面回転ナデ、内面 2/5 回転ナデ、3/5 不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/	
306	須恵器	杯	谷部下層Ⅰ	①14.2　②4.8 ③9.9	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り？	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内 . 灰白 2.5Y8/1 ～ 7/1　外 . 灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2	
307	須恵器	盤	谷部下層	①(22.2)　②4.1 ③(17.8)	外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ、底部ヘラ切り後粗い指ナデ	A:密。1 ～ 4mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/ ～ N5/	内面にヘラ記号。
308	須恵器	壺類	谷部下層Ⅰ	①(9.2)　②(5.05)	内外面回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/	
309	須恵器	甕？	谷部下層Ⅲ 谷部下層(8 層)	①(16.3)　②4.1	回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 黄灰 2.5Y6/1、暗灰 N3/　外 . 灰白 N7/、灰 N6/	
310	須恵器	長胴甕	谷部下層Ⅰ	①(23.3)　②(6.7)	内外面回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内 . 灰褐 5YR6/2 ～にぶい橙 5YR6/5　外 . にぶい橙 5YR6/3 ～ 6/4	
311	須恵器	甑	谷部下層Ⅰ	②(10.0)	外面回転ナデ、指ナデ、内面指頭圧痕、ケズリ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内外 . 灰褐 7.5YR6/2 ～にぶい褐 7.5YR6/3	
312	土師器	甕	谷部下層(8 層)	①(11.9)　②(6.6)	体部外面 2/3 ハケメ、口縁部内外面 1/3 ナデ、体部内面ケズリ	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . にぶい橙 5YR5/4、にぶい黄橙 10YR7/3 ～ 7/2　外 . 灰白 10YR7/1 ～にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3	
313	石器	二次加工のある剥片	谷部(6 層)	縦 3.2　横 6.5　厚 0.6 重 14.6g			安山岩。
314	石器	凹み石	谷部下層Ⅰ(6 層)	縦 12.9　横 7.2 厚 3.95　重 567.0g			花崗岩。
315	須恵器	杯蓋	谷部下層Ⅳ 谷部灰色砂質土	①12.9　②4.0	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 不定方向ナデ、1/2 回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を僅かに含む。B:やや良。C:内 . 灰 10Y6/1　外 . 灰黄褐 10YR6/2 ～にぶい黄橙 10YR6/3、灰 N 6/、灰白 10YR7/1	天井部外面にヘラ記号。
316	須恵器	杯蓋	谷部下層青灰色土 13-1 層		外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒を少量含む。B:不良(赤焼け)。C:内 . 赤褐 10R4/3　外 . 暗赤灰 10R4/1、天井部は 10YR8/4	外面にヘラ記号。

表12　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑫

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
317	須恵器	杯蓋	谷部下層Ⅳ 谷部下層Ⅳ(最下層)	①12.9　②4.2	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/3 不定方向ナデ、2/3 回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を僅かに含む。B:やや不良。C:内 . 灰白 N8/　外 . 灰白 N8/ ～ 7/	外面にヘラ記号。
318	須恵器	杯蓋	谷部下層青灰色土 13-1 層	①(13.0)　②3.9	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒・長石粒を含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB5/1　外 . 暗青灰 5PB4/1 天井部 . 明青灰 5PB7/1	外面にヘラ記号。
319	須恵器	杯蓋	谷部下層Ⅳ	①14.5　②4.7	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ、1/2 回転ナデ	A:密。1 ～ 5mm の白色砂礫を多少含む。B:やや不良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	外面にヘラ記号。
320	須恵器	杯蓋	谷部下層青灰色土 13-1 層	①(14.2)　②4.4	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒・1 ～ 3mm の石英粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 暗青灰 5PB4/1、外面一部赤みあり暗赤灰 7.5R3/1	外面にヘラ記号。
321	須恵器	杯蓋	谷部下層Ⅳ	①14.0　②4.7	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/3 不定方向ナデ、2/3 回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N4/ ～ 5/　外 . 灰 N4/ ～ 5/、灰白 7.5Y7/1	外面にヘラ記号。
322	須恵器	杯蓋	谷部下層青灰色土 13-1 層	②(2.3) つまみ径 1.1	つまみ回転ナデ、外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。0.5mm の長石･白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 青灰 5PB5/1	
323	須恵器	杯蓋	谷部 13 層	①16.5　②2.9 つまみ径 2.5 つまみ高 0.7	つまみ回転ナデ、外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面 2/3 不定方向のナデ、1/3 回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を僅かに含む。B:やや不良。C:内 . 黄灰 2.5Y6/1、橙 5YR7/6　外 . 橙 5YR6/6、橙 7.5YR6/6、灰白 10YR7/1 ～褐灰 10YR6/1	
324	須恵器	杯身	谷部下層Ⅳ 谷部下層Ⅱ	①11.2　②3.7 受部径 13.15	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 不定方向ナデ、1/2 回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1 ～ 5/1 ～暗青灰 5PB4/1　外 . 灰白 N7/、暗青灰 5PB4/1	
325	須恵器	杯身	谷部下層青灰色土 13-1 層	①(11.6)　②4.1 受部径 13.5	内外面回転ナデ、底部ヘラケズリ	A:密。微細な白色砂粒・0.5mm の石英粒を含む。B:不良(赤焼け)。C:内 . にぶい橙 7.5YR6/4　外 . にぶい赤褐 5YR5/4	外面にヘラ記号。
326	須恵器	杯身	谷部下層Ⅳ(最下層) 谷部下層Ⅲ	①11.3　②4.1 受部径 13.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/4 回転ナデ、3/4 不定方向ナデ	A:精良。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1 外 . 青灰 5PB6/1 ～青灰 5PB5/1	外面にヘラ記号。
327	須恵器	杯身	谷部下層Ⅳ(最下層)	①11.0　②3.85 受部径 13.5	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/4 回転ナデ、3/4 不定方向ナデ	A:密。B:良好。C:内 . 灰白 5Y7/1　外 . 灰白 10Y7/1	
328	須恵器	杯身	谷部下層Ⅳ 谷部下層Ⅳ(最下層) 谷部 13-2 層	①11.8　②4.1 受部径 13.7	外面 1/5 ヘラ切り、2/5 回転ヘラケズリ、2/5 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。1mm ほどの白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内 . 灰 N6 ～ 4/　外 . 灰白 N8/ ～ 7/ ～灰 N6 ～ 4/ ～暗灰 N3/	外面中央ヘラ記号。
329	須恵器	杯身	谷部下層Ⅳ(最下層)	①9.5 ～ 11.3 ②3.1 ～ 4.0 受部径 12.0 ～ 13.4	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向ナデ	A:精良。B:良好。C:内外 . 暗青灰 5PB4/1	外面ヘラ記号。
330	須恵器	杯身	谷部下層Ⅳ(最下層)	①11.2　②3.7 受部径 13.8	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内 . 灰 N5/　外 . 明青灰 5PB7/1 ～青灰 5PB6/1	
331	須恵器	杯身	谷部下層青灰色土 13-1 層	①(12.7)　②4.4 受部径(14.7)	外面 1/2 回転ナデ、1/2 ヘラケズリ、内面回転ナデ、不定方向のナデ	A:密。微細な白色砂粒を多く、1 ～ 3mm の石英粒を少量含む。B:良好。C:内 . 灰白 2.5Y7/1　外 . 青灰 5PB6/1	外面にヘラ記号。
332	須恵器	杯身	谷部 13 層	①(12.2)　②3.7 受部径(14.2)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面不定方向ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂と黒色粒子を多少含む。B:やや良。C:内外 . 灰白 N8/	底部に穿孔。
333	須恵器	杯身	谷部下層青灰色土 13-1 層	①(12.6)　②4.95 ③(8.0)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ？	A:密。微細な白色砂粒、0.5mm の石英粒少量を含む。B:良好。C:内 . 青灰 5B5/1 外 . 暗青灰 5B4/1	
334	須恵器	高杯蓋	谷部下層Ⅳ	①12.4　②4.2 つまみ径 2.2 つまみ高 0.8	外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/3 回転ナデ、2/3 不定方向ナデ	A:密。3mm 以下の白色砂礫を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N4/ ～暗灰 N3/、暗青灰 5PB3/1　外 . 灰 N4/ ～暗灰 N3/	やや焼き歪む。
335	須恵器	高杯蓋	谷部下層青灰色土 13-1 層	①(13.1)　②(3.7)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ、天井部内面ナデ	A:密。微細な白色砂粒を少量含む。B:良好 C:内 . 灰白 7.5Y8/ ～ 7/ の中間　外 . 灰白 5Y7/1	外面にヘラ記号。
336	須恵器	高杯蓋	谷部下層青灰色土 13-1 層	①(15.2)、14.6(図上) ②(5.9)	外面 1/4 カキメ、1/4 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒、0.5 ～ 2mm の長石・石英粒を含む。B:良好。C:内 . 灰白 7.5Y7/　外 . 灰白 N7/	外面にヘラ記号。
337	須恵器	高杯	谷部 13 層	①11.6　②9.05 杯部高 3.9 受部径(13.3) 脚裾部径(11.4)	外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ、杯部内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、脚部内外面回転ナデ、底部不定方向のナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 5Y8/1 ～ 7/1　外 . 灰白 N7/ ～ 6/	
338	須恵器	短頸壺	谷部 13 層	①(9.8)　②17.35 ④21.45	外面 2/3 カキメ後指頭圧痕、1/3 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向ナデ	A:密。1 ～ 3mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 明青灰 5PB7/1 ～青灰 5PB6/1 ～ 5/1 ～暗青灰 5PB4/1	外面にヘラ記号。
339	須恵器	壺	谷部下層青灰色土 13-1 層	①8.0(図上復元) ②(11.2) ④12.8	内外面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒を多く、0.5 ～ 1mm の石英粒を含む。B:良好。C:内 . 暗青灰 5PB4/1　外 . 暗青灰 5PB3/1	口縁部内面にヘラ記号。体部外面上半降灰。
340	須恵器	壺	谷部下層Ⅳ	①(9.2)　②17.3	内外面回転ナデ、口縁部カキメ、底部回転ヘラケズリ	A:密。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1 ～ 5/1 外 . 灰白 N7/ ～青灰 5PB6/1	
341	須恵器	壺	谷部下層(最下層) 谷部 13-2 層 谷部下層Ⅳ(最下層)	②(15.5) ④(18.5)	外面回転ナデ、1/2 カキメ、内面回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 5/	
342	須恵器	甕	谷部下層Ⅳ 谷部下層Ⅱ	②(12.2)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:良。B:良好。C:内 . 灰 N6/　外 . 灰 N5/	

表13　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑬

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
343	須恵器	甕	谷部下層Ⅳ	②(12.7)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	底部外面にヘラ記号。
344	須恵器	提瓶	谷部下層Ⅳ	②(15.0)	外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ、内面回転ナデ	A:良。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	
345	須恵器	横瓶？	谷部下層Ⅳ 谷部下層Ⅲ 谷部 13-2 層 谷部灰色砂質土層 谷部東側・下層灰色粘土	②(26.8)	外面カキメ、1/3 回転ヘラケズリ、内面 4/5 回転ナデ、1/5 ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N5/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 5/	仕切りをもつ。
346	土師器	甕	谷部下層　青灰色土 13-1 層 谷部最下層 13-2 層 黒色砂質土	②(7.8) ③ 7.5(平均)	外面ハケメ、内面ナデ、一部ケズリ？、底部ハケメ後ナデ	A:やや粗。0.5mm の長石粒、1 ～ 2.5mm の石英粒を含む。B:良好。C:内 . 灰黄 2.5Y7/2　外 . にぶい赤褐 5YR5/3、底部は褐灰 5YR4/1	内面にコゲ、外面に煤付着。煮炊具か？
347	土師器	甕	谷部下層青灰色土 13-1 層	① 15.4　②(14.4) ③(8.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	A:粗。0.5mm の長石粒を多く、1 ～ 4mm の石英粒を含む。B:良好。C:内 . 黄灰 2.5YR5/1　外 . にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3	
348	土師器	甕	谷部 13 層	①(23.5)　②(6.7)	外面 1/3 ハケメ、2/3 ナデ、内面 1/3 ナデ、2/3 ケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . にぶい黄橙 10YR7/3 ～ 6/3　外 . にぶい黄橙 10YR6/3、橙 5YR6/6	内面に褐灰(10YR4/1) の煤？が斑状に付着。
349	土師器	把手付甕？	谷部下層青灰色土		外面ナデ、内面ケズリ	A: 粗。0.5mm の長石粒、1 ～ 2.5mm の石英粒を多く含む。B:良好。C:にぶい黄橙 10YR7/3	
350	土師器	把手付甕？	谷部下層Ⅳ(最下層)	②(11.9) ④(把手部の径)53.8	外面 2/5 ハケメ、3/5 指ナデ、内面横方向のケズリ	A:やや密。1 ～ 4 mmの白色粗砂礫を多少含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/4　外．浅黄 2.5Y7/3	外面煤付着。
351	木製品	杭	谷部出土杭 8	長 66.6　幅 5.3 厚 5.25	先端部横断面約 1/3 を削り加工		芯持材。
352	木製品	杭	谷部出土杭 9	長 60.0　幅 7.1 厚 3.6	先端部を削り加工。半裁される		芯持材。
353	木製品	杭	谷部出土杭 10	長 55.0　幅 4.9 厚 5.15	先端部を削り加工		芯持材。
354	木製品	杭	谷部出土杭 11	長 50.4　幅 4.5 厚 5.1	先端部横断面約 1/2 を削り加工		芯持材。
355	木製品	杭	谷部出土杭 12	長 62.0　幅 7.2 厚 4.5	先端部を削り加工。半裁される		芯持材。
356	木製品	杭	谷部出土杭 13	長 52.8　幅 6.25 厚 6.15	先端部横断面約 1/2 を削り加工		芯持材。
357	木製品	杭	谷部出土杭 14	長 69.5　幅 7.0 厚 6.4	先端部横断面約 1/2 を削り加工		芯持材。
358	木製品	橋材	谷部橋桁の木根部	高 20.4 幅 12.0 ～ 12.7	先端部を削り加工。半裁される		
359	木製品	板材	谷部最下層(13 層)	長 20.15 ＋α 幅 2.3　厚 0.5	全面削り加工		
360	木製品	板材	谷部最下層(13 層)	長 18.4　幅 1.9 厚 0.5	全面削り加工。1 ヵ所に穿孔		
361	木製品	板材	谷部最下層(13 層)	長 28.75 ＋α 幅 2.4　厚 0.65	全面削り加工		
362	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(12.0)　②3.5	外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ？、内面回転ナデ	A:密。1 mmの石英粒・3 mmの石英粒を少量含む。B:良好。C:内．青灰 5PB6/1　外．青灰 5PB5/1	外面にヘラ記号。
363	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	① 12.3 ～ 12.6 ②3.9	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。やや粗い 1 mmの長石粒少量、0.5 ～ 2 mm大の石英粒を含む。B:良好。C:内．青灰 5PB5/1　外．青黒 5B2/1　外面頂部付近．青灰 5PB5/1	外面にヘラ記号。
364	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(11.6)　②4.3	外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面 3/4 回転ナデ、1/4 不定方向ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内 . 灰白 N8/ ～ 7/　外 . 灰白 5Y7/1	
365	須恵器	杯蓋	谷部最下層 13-2 層 黒色砂質土	①(12.45)　②3.55	外面 2/5 回転ヘラケズリ、3/5 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N5/　外 . 灰 N6/ ～ 4/	外面にヘラ記号。
366	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(12.2)　②4.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。0.5 mmの長石粒を含む。B:不良。C:内．灰白 2.5Y8/1 ～ 7/1　外．灰 N6/	天頂部ヘラ切り後未調整。
367	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(12.5)　②4.4	回転ナデ	A:密。1 mmの長石・石英粒、2 ～ 3 mm大の白色砂粒を含む。B:良好。C:内．暗青灰 5PB4/1　外．暗青灰 5PB4/1、青灰 5PB6/1	外面にヘラ記号。
368	須恵器	杯蓋	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土 谷部 13-2 層	① 12.6　②4.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 5Y6/1・暗灰黄 2.5Y5/2　外 . 黄灰 2.5Y6/1・灰 7.5Y6/1	外面にヘラ記号。
369	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	① 13.15　②3.7	外面 3/5 回転ヘラケズリ、2/5 回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1 ～ 5/1　外 . 明青灰 5PB7/1 ～青灰 5PB6/1 ～ 5/1	外面にヘラ記号。
370	須恵器	杯蓋	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	①(13.2)　②3.5	外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 10YR7/1　外 . 灰 N4/・灰白 N7/	外面にヘラ記号。
371	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(12.9)　②4.0	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . N6/　外 . 灰白 5Y7/1 ～灰 5Y6/1 ～ 5/1	外面にヘラ記号。

表14　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑭

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
372	須恵器	杯蓋	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	①(13.3)　②3.75	外面 3/4 回転ヘラケズリ、1/4 回転ナデ、内面回転ナデ、一部不定ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰 N6/ ～ 5/・灰白 5Y8/1	外面にヘラ記号。
373	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	① 13.5　②4.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 3/4 回転ナデ、1/4 不定ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰 N6/ ～ 4/	外面にヘラ記号。
374	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(14.0)　②3.2	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。粗い 0.5 ｍｍ大の長石粒少量、0.5 ～ 1 ｍｍ大の石英粒、3 ～ 5 ｍｍ大の白色砂粒を含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1　外 . 暗灰 5PB3/1	外面にヘラ記号。
375	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(14.0)　②4.6	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 3/5 回転ナデ、2/5 不定方向のナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 5Y5/1　外 . 灰 N4/ ～暗灰 N3/	外面にヘラ記号。
376	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(13.8)　②3.9	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/3 不定方向ナデ、2/3 回転ナデ	A:密。1 ～ 2 mmの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 N7/ ～灰 N6/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 4/	
377	須恵器	杯蓋	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土 谷部 13-2 層	① 13.8　②4.45	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:やや不良。C:内 . 灰黄褐 10YR6/2 ～ 5/2　外 . 褐灰 10YR6/1 ～ 5/1	外面にヘラ記号。全体的に摩滅激しい。
378	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層 谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	①(14.1)　②4.9	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 7/8 回転ナデ、一部不定ナデ	A:密。1 ～ 3 mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 褐 灰 5YR6/1、褐 灰 10YR6/1　外 . 灰 N6/ ～ 5/、灰褐 5YR6/2	
379	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	① 14.0　②4.5	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定ナデ	A:密。1 ～ 3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰 N6/ ～ 4/、暗灰 N3/	内面に当て具痕あり。
380	須恵器	杯蓋	谷部 13-2 層	①(15.25)　②3.8 つまみ径 3.0 つまみ高 1.1	つまみ回転ナデ、外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内 . にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3 ～ 6/3　外 . にぶい褐 7.5YR6/3、灰黄褐 10YR6/2、にぶい黄橙 10YR7/2、灰白 10YR8/1	外面にヘラ記号。
381	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	① 10.9　②3.6 受部径 12.8	外面 2/3 回転ヘラケズリ？、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な白色粗砂粒を含む。B:良好。C:内外．暗青灰 5PB4/1	
382	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	①(10.9)　②3.8 受部径(13.1)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/5 不定方向ナデ、4/5 回転ナデ	A:密。1 ～ 2 mmの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰白 N7/　外．灰白 N7/ ～灰 N6/	
383	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	① 11.15　②3.5 受部径 12.9	外面回転ナデ、内面 3/4 回転ナデ、1/4 不定ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1 ～ 5/1　外 . 灰 N6/ ～ 4/、暗灰 N3/	外面にヘラ記号。
384	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	①(11.2)　②3.8 受部径 13.1	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 暗青灰 5PB4/1　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 4/ ～暗灰 N3/	外面にヘラ記号。底部に穿孔あり。
385	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	① 10.8　②4.05 受部径 13.4	外面回転ナデ、内面 4/5 回転ナデ、1/5 不定ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1　外 . 灰 N6/ ～ 4/	外面にヘラ記号。
386	須恵器	杯身	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	① 11.8　②3.6 受部径 13.5	外面降灰のため調整不明、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N5/　外 . 暗 灰 N3/・灰 N6/・灰オリーブ 7.5Y5/2	外面にヘラ記号。
387	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	① 11.2　②4.2 受部径 13.5	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒・1 ～ 2 mm大の長石粒を含む。B:良好。C:内 . 暗青灰 5PB4/1　外 . 暗青灰 5PB3/1	
388	須恵器	杯身	谷部最下層黒色砂質土	① 11.1　②3.6 受部径 13.5	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 4mm の白色砂礫をやや多く含む。B:良好。C:内 . 灰 N4/ ～ 5/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/	外面にヘラ記号。
389	須恵器	杯身	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	①(11.5)　②3.4 受部径(13.4)	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 4mm の白色砂礫を多少含む(特に外面側)。B:良好。C:内 . N6/　外 . 灰 N4/・灰白 N7/	
390	須恵器	杯身	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土 谷部 13-2 層 谷部下層青灰色土 13-1 層	①(11.7)　②3.7 受部径 13.6	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 5/	外面にヘラ記号。
391	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	① 11.8　②4.4 受部径 13.8	外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内．灰白 2.5Y8/1　外 . 灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2 ～ 7/1	外面にヘラ記号。
392	須恵器	杯身	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	① 11.2　②3.75 受部径 13.9	外面回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、2/3 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 3mm の白色砂礫を多少含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/ ～ 4/	外面にヘラ記号。
393	須恵器	杯身	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土 谷部 13-2 層	① 13.2　②4.4 受部径 14.6	外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰 N5/ ～ 4/	
394	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	①(12.4)　②3.9 受部径(14.9)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ヨコナデ、内面回転ヨコナデ	A:密。0.5 mmの長石粒を含む。B:良好。C:口縁部～内．灰白N 8/ と N7/ の間　外(受部以下)．青灰 5PB6/1	
395	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	①(12.0)　②4.35 受部径 14.3	外面回転ナデ、内面 2/5 回転ナデ、3/5 不定ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB5/1　外 . 灰 N4/ ～ 6/	
396	須恵器	杯身	谷部 13-2 層	①(11.9)　②4.1 受部径 15.5	外面回転ナデ、内面 3/5 同心円文当て具痕、2/5 回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。粗砂は少ない。B:やや不良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/2、灰黄 2.5Y7/2、暗灰黄 2.5Y5/2	

表15　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑮

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
397	須恵器	蓋 or 杯身	谷部 13-2 層	②(1.7)	外面回転ヘラケズリ、内面不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB5/1　外 . 灰白 N7/、青灰 5PB6/1 ～ 5/1	外面にヘラ記号多数。
398	須恵器	椀	谷部 13-2 層	①(10.1)　②6.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内 . 灰 N5/　外 . 灰 N4/ ～ 5/	
399	須恵器	椀	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土 谷部 13-2 層	①(10.5)　②(5.55)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内 . 灰黄 2.5Y7/2　外 . 灰白 2.5Y8/2 ～灰黄 2.5Y7/2	外面にヘラ記号。
400	須恵器	椀？	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	②(6.5) 高台径 5.2 高台高 1.15	外面カキメ、内面回転ナデ、底部ナデ	A:密。1mm の白色粗砂を多少含む。B:やや不良。C:内 . 灰白 5Y7/1 ～灰 5Y6/1　外 . にぶい橙 7.5YR7/4・にぶい黄橙 10YR7/4	
401	須恵器	高杯蓋	谷部 13-2 層	① 15.1　②6.1 つまみ径 3.3 つまみ高 1.0	つまみ回転ナデ、外面 1/2 カキメ、1/2 回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定ナデ	A:密。1 ～ 4mm の白色砂礫を多少含む。B:やや良。C:内 . にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3　外 . 灰白 2.5Y8/2	
402	須恵器	高杯	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	②(6.6) 脚裾部径(7.4) 脚部高 3.2	外面回転ナデ、杯部内面 4/5 不定方向のナデ、1/5 回転ナデ、脚部内外面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N5/　外 . 灰白 N7/ ～灰 N5/・暗灰 N3/	
403	須恵器	高杯	谷部 13-2 層	①(13.0)　②7.85 脚裾部径(8.9) 脚部高 4.2	外面回転ナデ、杯部内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、脚部内外面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 5/　外 . 灰白 N8/ ～ 7/ ～灰 N6/ ～ 4/ ～暗灰 N3/	
404	須恵器	高杯	谷部 13-2 層	①(11.6)　②9.45 脚裾部径(10.5) 受部径 13.9	外面 2/5 回転ヘラケズリ、3/5 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、脚部内外面回転ナデ	A:密。1 ～ 3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB6/1　外 . 灰 7.5Y4/1、灰 N5/ ～ 4/	
405	須恵器	高杯	谷部 13-2 層	②(4.9) 脚裾部径 9.1	回転ナデ	A:密。径 1 ～ 2 mmの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰N 6/ ～ 5/　外 . 青灰 5PB 5/1	
406	須恵器	高杯	谷部 13-2 層	②(4.7) 脚裾部径 10.45	脚部内外面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂、赤色粒子を少し含む。B:やや不良。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3、にぶい黄橙 10YR6/3	
407	須恵器	高杯	谷部 13-2 層	②(11.4) 脚裾部径(11.3)	脚部外面回転ナデ、脚部内面 3/4 回転ナデ、1/4 シボリ痕	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/ ～ 5/ ～灰白 N7/	
408	須恵器	短頸壺蓋	谷部 13-2 層	①(9.9)　②3.35	外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/3 不定方向ナデ、2/3 回転ナデ	A:密。1 ～ 2 mmの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 N4/ ～ 5/　外．灰 N6/ ～ 4/	外面にヘラ記号。
409	須恵器	短頸壺蓋	谷部 13-2 層	①(11.5)　②2.9 ③(7.2)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。粗砂ほとんどなし。B:やや良。C:内 . 灰白 N8/　外 . 灰白 2.5Y7/1 ～ 黄灰 2.5Y6/1	
410	須恵器	短頸壺	谷部 13-2 層	②(9.7) ④(15.8)	外面 2/5 カキメ、1/5 回転ヘラケズリ、2/5 回転ナデ、内面 3/4 回転ナデ、1/4 不定方向ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 N5/ ～ 4/　外．灰 N4/ ～暗灰 N3/	外面に斜線文。
411	須恵器	甕	谷部 13-2 層	①(11.2)　②(14.6)	内外面回転ナデ	A:密。1 ～ 3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N5/ ～ 6/　外 . 灰 N6/	頸部外面にヘラ記号。体部上半に貝殻斜線文。
412	須恵器	横瓶	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	① 12.3　②(6.7)	口縁部回転ナデ、外面タタキ、内面同心円文当て具痕	A:密。1mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5PB5/1 ～ 6/1　外 . 青灰 5PB5/1	
413	須恵器	鉢？	谷部 13-2 層	①(26.0)　②4.7	外面 2/3 擬格子タタキ、1/3 ヨコナデ、内面 1/2 当て具痕、1/2 ヨコナデ	A:粗。0.5 ～ 1.5 mmの長石･石英粒を含む。B:良好。C:内. 黒褐 10YR3/1　外. 黄灰 2.5Y 4/1	
414	須恵器	甑	谷部 13-2 層 谷部中層灰色砂質土層 谷部 8 層	①(8.2)　②(12.7)	外面 1/6 回転ナデ、3/6 擬格子タタキ､2/6 カキメ､内面縦･斜め方向ミガキ	A:密。微細な長石粒と 1 ～ 2 mm大の白色粗砂粒を少量含む。B:不良。C:内．赤褐 10R4/3　外 . にぶい赤褐 2.5YR4/3	
415	須恵器	甕	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	①(23.7)　②(7.85)	口縁部回転ナデ、外面タタキ、内面同心円文当て具痕	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 灰 N4/ ～ 6/ ～灰白 N7/　外 . 青灰 5PB6/1 ～明青灰 5PB7/1	
416	須恵器	甕	谷部 13-2 層	①(23.5)　②(16.6)	口縁部回転ナデ、外面 1/5 擬格子タタキ、4/5 擬格子タタキ後回転ナデ､カキメ、内面同心円文当て具痕	A:密。1 ～ 3 mmの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白 2.5Y7/1､黄灰 2.5Y6/1､灰黄 2.5Y6/2　外．灰白 2.5Y7/1	頸部外面にヘラ記号。
417	須恵器	甕	谷部 13-2 層	①(21.2)　②(44.5) ④39.7 頸部径(15.0)	外面 9/12 タタキ後カキメ、1/12 平行タタキ後ナデ、2/12 回転ナデ、内面 5/7 同心円文当て具痕、2/7 回転ナデ	A:密。微細な長石粒、2 mmの白色砂粒少量を含む。B:良好。C:内．頸～口縁部明青灰 5PB7/1　頸～口縁部以外．暗青灰 5PB3/1　外．口縁～肩部付近．明青灰 5PB7/1(内面より青みがある)　胴部～底部付近．暗青灰 5PB3/1 ～ 4/1・明青灰 5PB7/1	
418	須恵器	甕	谷部 13-2 層 谷部 13 層 谷部下層Ⅳ最下層	②(41.6) ④45.9	外面平行タタキ、内面同心円文当て具痕	A:密。1 mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白 N7/ ～灰 N6/　外．灰 N5/ ～ 4/ ～暗灰 N3/	
419	須恵器	大甕	谷部 13-2 層	①(40.6)　②(7.15)	内外面回転ナデ、外面一部波状文	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . 青灰 5B6/1　外 . 灰 N6/ ～ 4/	
420	須恵器	大甕	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	①(40.0)　②(11.85)	内外面回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 4/ ～灰白 N7/　外 . 灰 N6/	
421	須恵器	大甕	谷部 13-2 層＋ 13 層	①36.15　②57.7 ④49.3 重 15.35kg	口縁部回転ナデ、外面格子タタキ、内面同心円文当て具痕	A:密。0.5mm の長石粒、0.5 ～ 2mm の石英粒を含む。B:良好。C:内．口縁部は暗青灰 5PB3/1　外．暗青灰 5PB3/1、他は暗青灰 5PB4/1	

表16　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑯

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
422	須恵器	切削物	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	縦 1.1　横 3.35 厚 1.0		A:密。B:良好。C:灰 N6/ ～ 5/	
423	土師器	甑	谷部 13-2 層	①(35.0)　②(8.0)	口縁部ナデ、外面ハケメ、内面ケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3 ～ 6/3　外 . 灰黄褐 10YR6/2、にぶい黄橙 10YR7/3、灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 10YR8/3	
424	土師器	甑	谷部 13-2 層		外面ナデ、内面ケズリ	A:やや粗。0.5 ～ 2 mmの石英粒を含む。B:良好。C:内外．灰黄 2.5Y6/2	把手のみ。
425	土師器	壺	谷部 13-2 層	①(14.2)　②(9.2)	外面 1/6 ハケメ、3/6 タタキ後ナデ、2/6 ヨコナデ、内面 1/2 指オサエ・ナデ、1/2 ヨコナデ	A:やや粗。微細な長石粒を多く、1 mm大の長石・石英、2 ～ 3 mm大の石英粒を含む。B:良好。C:内．灰黄 2.5Y7/2　外．浅黄 2.5Y7/3　黒変部 . 青黒 5PB2/1	
426	土師器	甕	谷部 13-2 層	①(18.4)　②(6.35)	口縁部ナデ、外面ハケメ、内面ケズリ	A:密。1 ～ 5mmの白色砂礫を多少含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2 ～にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3	
427	土師器	甕	谷部 13-2 層	①(20.8)　②(9.8)	口縁部ナデ、外面ハケメ、内面ケズリ	A:密。1 ～ 4mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . にぶい橙 7.5YR7/3、にぶい黄橙 10YR7/2　外 . にぶい橙 7.5YR7/3、にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3	外面僅かに煤付着。
428	土師器	甕	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	②(25.1)　③(10.8) ④(27.5)	外面ハケメ、内面ヘラケズリ、底部ナデ	A:密。1 ～ 4mmの白色砂礫を多少含む。B:良好。C:内 . 灰白 10YR8/1 ～ 8/2　外．にぶい黄褐 10YR5/3 ～ 5/4・浅黄 2.5Y7/3・灰白 10YR8/1	
429	土師器	甕	谷部 13-2 層	①(15.5)　②(8.5)	口縁部ナデ、外面ハケメ、内面ケズリ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . にぶい黄橙 10YR7/4　外．にぶい橙 7.5YR6/4	外面煤付着。
430	土師器	甕	谷部 13-2 層	②(3.25)	口縁部ナデ、外面ハケメ、内面ケズリ	A:やや密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰黄褐 10YR6/2 ～ 5/2、黒 10YR2/1　外 . 灰黄褐 10YR5/2、黒褐 10YR3/1	
431	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ 土器 甕？	谷部 13-2 層	②(5.45)　③1.8	外面ナデおよび指頭圧痕、内面 2/3 指頭圧痕、1/3 ナデ	A:やや密。径 1 ～ 3mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．黄灰 2.5Y6/1 ～ 5/1　外．灰黄 2.5Y7/2 ～ 7/3 ～暗灰黄 2.5Y5/2	
432	弥生土器	壺	谷部 13-2 層	②(2.2)	ナデ	A:やや粗。0.5 ～ 1mm の長石粒と 1 ～ 2.5mm の石英粒を多く含む。B:良好。C:内 . 口縁部 . 浅黄 2.5Y7/3　外 . 灰黄 2.5Y6/2　丹 . 赤 10R4/6	
433	石器	扁平打製石斧	谷部 13-2 層	長 13.75　幅 6.2 厚 2.4　重 220.5g			玄武岩。
434	石製品	不明	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	縦 3.75　横 6.3 厚 2.2　重 72.0g			玄武岩。
435	石器	凹み石	谷部 13-2 層	縦 6.9　横 5.8 厚 4.6　重 262.9g			泥岩。
436	石器	スクレイパー	谷部最下層 13-2 層黒色砂質土	縦 4.5　横 7.85 厚 1.0　重 44.1g			安山岩。
437	石器	縦長剥片	谷部 13-2 層	長 2.4　幅 1.4 厚 0.45　重 1.2g			チャート。
438	須恵器	杯蓋	谷部杭列周辺 No.6	① 13.0　② 3.7	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。0.5mm 大長石・白色砂粒、1 ～ 3mm 大石英粒少量を含む。B:良好。C:内 . 暗青灰 5PB6/1　外 . 暗青灰 5PB4/1	外面にヘラ記号。
439	須恵器	杯蓋	谷部杭列出土 No.3	① 13.1　② 3.6	外面 1/3 ヘラ切り、1/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。0.5mm 大長石・白色砂粒、1.5 ～ 2mm 大石英粒を含む。B:良好。C:内 . 暗青灰 5PB4/1　外 . 暗青灰 5PB3/1、天井部は青灰 5B6/1、一部にぶい橙 5YR6/2	外面にヘラ記号。
440	須恵器	杯身	谷部杭列出土 No.4	①(12.2)　② 3.5 受部径(14.1)	外面調整不明、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒を多く、1 ～ 3mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:口縁～内面 . 青灰 5PB6/1　他 . 青灰 5PB5/1　降灰 . 灰白 5Y7/1	
441	須恵器	杯身	谷部杭列周辺 No.9	① 11.2　② 3.5 受部径 13.2	外面降灰、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒を多く含む。B:良好。C:内～口縁部 . 明青灰 5PB7/1　受部端部 . 暗青灰 5PB4/1　天井外面灰かぶり . 灰白 N7/	外面降灰。 口縁打ち欠く。
442	須恵器	提瓶	谷部杭列周辺出土 No.5	① 7.5　長 19.5 ④ 14.6 高 10.8	外面回転ナデ、一部回転ヘラケズリ、内面ナデ	A:密。微細な長石・白色砂粒を多く、1mm 大白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内 . 暗青灰 5PB5/1　外 .(凸面側)灰白 N7/、(平坦面側)暗青灰 5PB4/1	
443	須恵器	蓋	谷部出土土器　No.13	① 21.9　② 7.7 受部径 26.2	外面 1/2 回転ナデ、1/2 回転ヘラケズリ、つまみナデ、内面 1/3 不定方向ナデ、指頭圧痕多数あり、2/3 回転ナデ	A:密。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y7/1	つまみにスレあり。
444	須恵器	甕	谷部出土土器　No.11	① 20.8　②(7.4)	外面 1/3 擬格子タタキ、2/3 回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 同心円文当て具痕	A:精良。B:良好。C:内 . 灰 N6/ ～ 赤灰 5R5/1　外 . 灰 N4/	
445	土師器	甕	谷部杭列周辺 No.8	②(12.6)	外面 1/2 ハケメ、1/2 ナデ、内面ケズリ	A:とても粗い。1 ～ 2mm 大長石粒、1 ～ 4mm 大石英粒、2 ～ 3mm 大方解石粒？を多く含む。B:良好。C:内 . にぶい橙 7.5YR7/3 ～橙 7.5YR7/6　底部中央 . にぶい褐　外 . にぶい黄橙 10YR7/2、赤変部、赤 10R5/8 ～橙 5YR7/8	
446	須恵器	平瓶	谷部包含層内	①(8.6)　②(1.8)	外面ナデ、内面回転ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内外．灰白 N8/ ～ 7/	

表17　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑰

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
447	土師器	高台付小皿	谷部包含層内	①(11.8)　②(1.6) 高台径(7.2) 高台高(0.6)	摩滅のため調整不明	A:やや粗。1 mmほどの白色粗砂・赤色粒子を少し含む。B:やや不良。C:内外．灰白 10YR8/2	
448	瓦	軒丸瓦	谷部南側検出面	残長 2.1　残幅 9.0 残高 4.75　径約 15.0	凸面ナデ、凹面ナデ？ヘラケズリ？	A:密。径 1 ～ 2mm の白色粗砂・黒色粒子を多く含む。B:良好。C:凹．灰白 N7/ ～灰 N6/　凸．灰白 10YR8/1 ～ 8/2、灰白 N7/ ～灰 N6/	
449	須恵器	杯蓋	谷部	① 15.9　② 1.95 つまみ径 2.2 つまみ高 0.5	つまみ回転ナデ、外面 2/3 回転ヘラ切り、1/3 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。0.5mm 大白色砂粒・長石粒、0.5 ～ 1mm 大石英粒を少量含む。B:良好。C:口縁部．青灰 5PB6/1 と 5/1 の中間　他．灰 N7/	墨書「識」あり。
450	須恵器	不明	谷部カクラン (ユンボ埋土)	②(2.6)	回転ナデ	A:密。径 1mm 以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内．青灰 5PB5/1　外．青灰 5PB5/1 ～暗青灰 5PB4/1	
451	白磁	壺？	谷部カクラン (ユンボ埋土)	②(4.1)　高台径(8.4) 高台高 1.05	外面施釉、内面回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰白 2.5Y8/1　外．灰白 5Y8/2	
452	石器	打製石鏃	谷部内	長 1.4　幅 1.25 厚 0.4　重 0.7g			安山岩。
453	須恵器	杯蓋	SX07	①(14.7)　② 1.8	外面 1/2 回転ヘラ切り後ナデ、1/2 回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、天井部内面不定方向のナデ	A:密。1 ～ 3mm 程の白色砂礫をやや多く含む。B:良好。C:内．灰 N6/ ～ 5/　外．灰 N5/ ～ 4/、黄灰 2.5Y5/1	少し歪む。つまみ貼付痕あり？
454	須恵器	杯身	SX11	①(11.2)　② 3.7 高台径(7.7) 高台高 0.5	底部ヘラ切り、外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内．灰黄 2.5Y7/2　外．灰白 2.5Y8/1 ～ 7/1	
455	土師器	小皿	SX10	①(8.1)　② 0.9 ③(5.2)	底部回転ヘラ切り、体部内外面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:やや密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内．灰白 2.5Y8/2、浅黄橙 7.5YR8/4　外．灰白 2.5Y8/2、橙 2.5YR 7/6	
456	土師器	小皿	SX10	①(8.4)　② 0.85 ③(6.4)	底部回転ヘラ切り、体部内外面回転ナデ、底部内面不定方向のナデ	A:やや密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内．灰白 10YR7/1 ～褐灰 10YR6/1　外．灰白 10YR8/2 ～にぶい黄橙 10YR7/2	
457	土師器	丸底杯	SX10	①(15.0)　② 2.8	内外面器面摩滅のため不明瞭だが、回転ナデか	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。内．灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 10YR 8/3　外．浅黄橙 10YR8/3	
458	瓦器	椀	SX10	①(14.7)　② 5.15 高台径(6.0) 高台高 0.6	外面摩滅のため不明瞭だが回転ナデか、内面・底部摩滅のため不明瞭	A:密。1mm 以下の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰白 2.5YR8/1　外．浅黄橙 10YR8/3、灰白 10YR7/1	
459	土師器	椀？	SP51		不定方向ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰白 2.5Y8/2・黄灰 2.5Y6/1 ～ 5/1　外．灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 10YR 8/3	墨書？
460	土師器	杯	SP52	①(13.1)　② 2.5 ③(8.3)	外面 1/2 回転ヘラ切り、1/2 摩滅のため調整不明だが回転ナデか、内面摩滅のため調整不明	A:密。1 ～ 3mm の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内外．灰白 2.5Y8/2	
461	土師器	椀	SP52	②(4.5)	摩滅のため調整不明だがナデ？	A:密。1 mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内外．灰白 2.5Y8/2	
462	土師器	椀	SP53	②(1.8) 高台径(7.4) 高台高 1.0	摩滅のため調整不明だが底部ナデ？、外面回転ナデ？、内面ナデ？	A:密。粗砂ほとんどなし。B:やや良。C:内外．灰白 2.5Y8/2	
463	須恵器	甕	SP72	①(33.3)　②(4.15)	回転ナデ	A:密。1 ～ 2 mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰白 N7/ ～灰 N6/　外．灰 N6/ ～ 5/	
464	土師器	皿	SP82	①(11.1)　② 1.4 ③ 7.1	摩滅のため調整不明だが外面回転ナデ？、内面不定方向ナデ？	A:やや密。粗砂ほとんどなし。B:良好。C:内．浅黄橙 10YR8/3 ～灰白 10YR8/2　外．灰白 10YR8/2	
465	土師器	椀	SP82	②(2.15) 高台径(8.4) 高台高 1.0	外面回転ナデ、内面不定方向ナデ	A:密。1mm ほどの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR7/3・褐灰 10YR5/1　外．にぶい黄橙 10YR7/2・にぶい橙 7.5YR7/3	
466	黒色土器Ａ類	椀	SP98	②(2.15) 高台径 7.3 高台高 1.1	底部ヘラ切り後ナデ、摩滅のため調整不明	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．黄灰 2.5Y4/1　外．灰白 2.5Y 8/1 ～ 7/1	
467	黒色土器Ａ類	椀	SP98	②(2.3) 高台径 7.3 高台高 0.9	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面不定方向ナデ	A:密。1mm ほどの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2　外．灰白 2.5Y8/2 ～淡黄 2.5Y8/3・黄灰 2.5Y6/1	
468	土師器	小皿	SP149	①9.0　②1.2　③6.8	摩滅のため調整不明だが、底部回転ヘラ切り？、内面不定方向ナデか？	A:やや粗。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内．灰白 2.5Y8/2・灰黄 2.5Y7/2　外．灰白 2.5Y8/2	
469	炉壁		SP149	高 7.4　幅 9.7		A:やや粗。1 ～ 4mm 程の白色砂礫を多く含む。B:良好。C:被熱部．にぶい褐 7.5YR6/3 ～灰褐 7.5YR6/2　非被熱部．橙 5YR7/6 ～ 7/8	擦過痕あり。
470	石器	打製石鏃	SP208	長 3.15　幅 2.1 厚 0.45　重 2.8g			安山岩。
471	須恵器	皿	SX21 SP295	①(17.9)　② 1.95 ③(14.2)	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、2/3 不定方向のナデ	A:密。1 ～ 3mm 程の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰白 N7/ ～灰 N6/ ～ 4/　外．灰 N6/	
472	石器	石包丁	SX21	縦(5.1)　横(8.7) 厚(0.5)　重(34.4g) 内孔 0.7　外孔 1.6 孔間 2.1　背孔 2.2			頁岩質砂岩。未成品。風化激しい。

表18　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑱

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
473	須恵器	杯蓋	SP278	①(14.2)　②3.9	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ、1/2 不定方向ナデ	A:密・やや粗。0.5 ～ 1.5 mmの長石粒・1 ～ 3 mm大の石英粒を含む。B:やや不良。C:内. 褐灰 7.5YR6/1　外. にぶい赤褐 7.5R 4/3	外面にヘラ記号。
474	須恵器	杯身	SP293	①(10.8)　②3.8 受部径(11.2)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。微細な白色砂粒・1 ～ 3 mm大の石英粒少量含む。B:良好。C:内. 暗赤灰 5R5/1 外. 灰 N5/	
475	石製品	砥石	SP322	残長 6.5　残幅 6.8 残厚 4.95　重 273.5g			砂岩。
476	石器	石鏃	SP350	長 2.2　幅 1.6 厚 0.3　重 0.6g			安山岩。
477	須恵器	杯蓋	SP351	①(13.0)　②4.2	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面回転ナデ	A:やや粗。0.5 ～ 1mm の長石粒・1 ～ 2mm 大石英粒を含む。B:やや良。C:内 . にぶい赤褐 2.5YR5/4　外 . にぶい橙 7.5YR6/4	
478	須恵器	杯身	SP375 SP376	②(2.6)　③(9.6)	外面回転ナデ、内面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:灰白 7.5Y7/1	
479	鉄滓	板状滓？	SP402	縦 2.5　横 2.6 厚 1.0　重 9.9g			
480	鉄滓	流出孔滓？	SP402	長 3.1　幅 2.6 重 16.7g			
481	石器	細石刃	SP402	長(1.9)　幅 0.9 厚 0.2　重 0.4g			黒曜石(腰岳)。
482	土師器	脚付椀の脚	SX27		ナデ調整	A:密。赤色粒子を僅かに含む。B:良好。C:灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2	
483	石製品	砥石	SX29	縦(4.4)　横 4.0 厚 1.05　重 26.9g	砥磨痕あまり明確でない		砂岩。
484	須恵器	杯蓋	SX30	①(15.6)　②1.75 つまみ径 2.0 つまみ高 0.4	つまみナデ、外面 5/6 ヘラ切り後ナデ、1/6 回転ナデ、内面 3/4 不定方向のナデ、1/4 回転ナデ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内 . 灰白 2.5Y8/2、黄灰 2.5Y6/1　外 . 褐灰 10YR6/1、にぶい橙 7.5YR7/4、灰白 10YR8/2	
485	須恵器	杯身	SX30	②(1.65) 高台径(8.9) 高台高(0.2)	外面回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ、2/3 不定方向のナデ、底部ヘラ切り	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰白 2.5GY8/1 ～明オリーブ灰 2.5GY7/1、灰 N6/　外 . 灰 N6/、明オリーブ灰 2.5GY7/1	
486	須恵器	杯身	SX30	②(3.75) 高台径(10.9) 高台高(0.5)	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N5/　外 . 灰白 N7/、灰 N4/	
487	土師器	椀	SX30	①(14.95)　②(4.85) 高台径 6.4 高台高 0.6	外面回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3 ～ 8/4	
488	土師器	椀	SX30	①(15.4)　②4.6 高台径(7.1) 高台高 0.7	外面回転ナデ、内面摩滅のため不鮮明、底部ヘラ切り後ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂、赤色粒子を多少含む。B:良好。C:内 . 浅黄橙 10YR8/4 外 . 浅黄橙 10YR8/3	
489	黒色土器 A 類	椀	SX30	①(14.45)　②(5.3) 高台径(6.8) 高台高 0.8	外面回転ナデ？、内面ミガキ、底部外面不定方向のナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 暗灰 N3/ ～黒 N2/　外 . 灰白 2.5Y8/2	
490	黒色土器 B 類	椀	SX30	①(15.4)　②4.6	外面 2/3 摩滅のため不鮮明、1/3 ミガキ、内面ミガキ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内 . オリーブ黒 5Y3/1　外 . 灰白 2.5Y8/1 ～黄灰 2.5Y4/1	
491	黒色土器 B 類	椀	SX30	②(2.0) 高台径(8.8) 高台高 1.1	外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り、内面ミガキ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 黒褐 2.5Y3/1 ～黄灰 2.5Y4/1 外 . 黒褐 2.5Y3/1	
492	須恵器	杯蓋	SX31	①(10.5)　②2.5 つまみ径 1.8 つまみ高 0.9	つまみナデ、外面 2/3 回転ヘラケズリ、1/3 回転ナデ、内面 2/3 不定方向のナデ、1/3 回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N4/　外 . 灰 N5/ ～ 4/	
493	須恵器	甕	SX31	②(5.1) 頸部径(28.9)	外面 1/3 回転ナデ、2/3 格子タタキ、内面 1/2 回転ナデ、1/2 当て具痕？	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . にぶい赤褐 2.5YR5/4　外 . 灰 N6/ ～ 7/	
494	土師器	椀	SX31	②(2.1)　高台径(7.4) 高台高 1.1	外面回転ナデ、内面摩滅のため不鮮明、底部摩滅のため不鮮明	A:やや密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内 . 灰白 10YR8/2、褐灰 10YR6/1　外 . にぶい黄橙 10YR7/2 ～灰黄褐 10YR5/2	
495	土師器	脚付椀の脚	SX31	高 3.2	全面ナデ？	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:灰白 10YR8/2 ～浅黄橙 10YR8/3	
496	鉄滓		SX31	縦 2.5　横 3.1　厚 2.3 重 19.3g			
497	鉄器	鉄鏃	SP478	長(3.4) 幅 0.1 ～ 0.25mm			
498	須恵器	短頸壺？	SP546	②(3.2)　高台径(10.6) 高台高 1.3	外面回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ、1/3 不定方向のナデ、底部回転ナデ	A:密。B:良好。C:内 . 青灰 10BG5/1 外 . 灰 N6/ ～ 4/	
499	須恵器	杯蓋	南 0 面除去時包含層中	①(13.2)　②3.6	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ内面、1/2 不定方向ナデ、1/2 回転ナデ	A:密。1 ～ 3 mmの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内. 灰 N5/ ～ 6/　外. 灰 N4/ ～ 6/	外面にヘラ記号。
500	須恵器	杯蓋	南 0 面除去時包含層中	①5.4　②2.3 つまみ径 2.25 つまみ高 0.4	つまみ回転ナデ、外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 2/3 不定方向ナデ、1/3 回転ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内. 灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2 外. 灰白 2.5Y8/2・7/1	

表19　本堂遺跡 1 次調査出土遺物観察表⑲

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
501	須恵器	杯蓋	南 0 面除去時包含層中	① 15.8　② 1.9 つまみ径 2.5 つまみ高 0.35	つまみ回転ナデ、外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 不定方向ナデ、1/2 回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内外．灰白 2.5Y8/2・7/1、にぶい黄橙 10YR7/2	
502	須恵器	杯蓋	第 2 面表土剥ぎ中	①(19.2)　②3.25 つまみ径 2.45 つまみ高 0.7	つまみ回転ナデ、外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 不定方向ナデ、1/2 回転ナデ	A:密。1mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内．橙 5YR7/6　外．浅黄 7.5YR8/3 ～ 8/4	
503	須恵器	杯身	第 2 面表土剥ぎ中	①(18.9)　②6.7 高台径 10.5 高台高 0.5	底部ヘラ切り後ナデ、2/3 外面回転ナデ？摩滅のため調整不明瞭	A:密。1 ～ 2mm 程の白色粗砂を少し含む。B:不良。C:内．浅黄橙 7.5YR8/4 ～ 8/6　外．橙 5YR7/6・浅橙 5YR8/4	
504	須恵器	高杯	南 0 面除去時包含層中	②(9.25) 脚裾部径 8.5	外面脚部回転ナデ、内面脚部 1/2 回転ナデ、1/2 シボリ痕、内面杯部回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内．灰褐 7.5YR5/2 ～にぶい褐 7.5YR5/3・青灰 5PB6/1　外．灰 N6/ ～ 4/ ～ 灰 白 N8/ ～ 7/・灰 褐 7.5YR5/2 ～ 6/2	金属器模倣。
505	須恵器	甕	表土剥ぎ包含層中	②(4.0)	全面ナデ	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰黄褐 10YR5/2　外．灰黄 2.5Y7/2 ～浅黄 2.5Y7/3	
506	須恵器	甕	表採		全面指ナデ	A:密。2mm 以下の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．褐灰 7.5YR6/1 ～灰褐 7.5YR6/2 ～にぶい褐 7.5YR6/3　外．灰褐 7.5YR5/2 ～にぶい褐 7.5YR5/3	
507	土師器	丸底杯	南 0 面除去時包含層中	① 15.5　② 3.85	外面 1/2 板状圧痕？ナデ?、摩滅のため調整不明	A:密。1 ～ 2mm の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外．灰白 2.5Y8/2 ～淡黄 2.5Y8/3・黄灰 2.5Y6/1	
508	土師器	脚付皿	SP416	②(1.7)　③(6.4)	外面 1/2 回転ナデ、1/2 ケズリ、内面回転ナデ、底部回転ナデ	A:精。0.5 ～ 1mm 大の長石粒・1mm 大の石英粒を含む。B:良好。C:内．にぶい黄橙 10YR6/3、黒変箇所は黒褐 10YR3/ ～黒 10YR2/1　外．浅黄橙 10YR8/3、黒変箇所は褐灰 10YR5/1	灯明皿？
509	土師器	移動式竈	表土剥ぎ時包含層中	②(9.8)	外面ナデおよび縦位のハケメ、内面ナデおよびヘラケズリ、裾部ヘラケズリ	A:やや粗。1 ～ 2mm の石英粒・0.5 ～ 2mm 大の長石粒・1 ～ 2mm 大の角閃石を含む。B:やや良。C:内．にぶい橙 7.5YR7/4 ～橙 7.5YR7/6　外．橙 7.5YR7/6	
510	瓦器	椀	表土剥ぎ(谷部上面)	①(16.1) ② 4.7 ～ 6.05 高台径 6.4 高台高 0.6	底部ナデ、外面横方向のミガキ、内面 2/3 不定方向のミガキ、1/3 横方向のミガキ	A:精良。砂粒ほとんどなし。B:良好。C:内外．灰白 N8/ ～ 7/、灰 N6/ ～ 4/	著しく焼き歪む。
511	瓦	平瓦	表土剥ぎ包含層中	残長 17.5　残幅 13.1 残厚 2.0	凸面縄目？タタキ(摩滅のため不明瞭)、凹面模骨痕・布目痕	A:やや密。1 ｍｍ以下の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:凹．灰白 N8/・灰 N4/　凸．灰白 2.5Y8/1・灰 N4/	
512	土製品	埒	南 0 面除去時包含層中	残長 11.7 残幅 10.25　残厚 7.4	全面ナデ？	A:密。1 ～ 4 ｍｍほどの白色砂礫を多く含む。B:良好。C:灰白 2.5Y8/1 ～ 8/2 ～淡黄 2.5Y8/3・黄灰 2.5Y6/1	
513	鉄滓	椀形滓？	第 2 面遺構検出面	縦 5.3　横 5.1　厚 2.4 重 64.7g			表面に砂礫が多く付着。
514	石器	打製石鏃	南 0 面除去時包含層中	長 2.45　残幅 1.75 厚 0.35　重 0.7g			黒曜石。

表20　本堂遺跡９次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
515	須恵器	杯身	SX01	②(2.5)	口縁部回転ナデ、体部外面回転ヘラケズリ	A:密。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N4/	
516	土師器	小皿	SX01 粘質土内	①(9.7)　②1.6 ③7.2	回転ナデ後に底部内面不定方向ナデ、底部ヘラ切りか？	A:やや粗。1㎜以下の白色砂、赤色粒子多い。B:やや不良。C:内．灰黄2.5Y6/2　外．黄灰2.5Y6/1	
517	土師器	丸底杯	SX01 粘質土内	①13.0　②3.5	内外面回転ナデ、特に口縁部は強い回転ナデ、底部ヘラ切り	A:やや粗。1㎜の白色砂やや含む。B:不良。C:内外．灰白2.5Y8/1～8/2	
518	土師器	丸底杯	SX01	①15.0	内外面回転ナデ	A:密。白色砂少量含む。B:やや不良。C:内．灰黄2.5Y5/1　外．灰5Y5/1～灰白2.5Y8/1～8/2	
519	土師器	小椀	SX01 粘質土内	②1.2+α　③6.5	内外面回転ナデ、底部ヘラ切り	A:やや粗。1㎜以下の白色砂やや多く含む。B:不良。C:内外．灰白2.5Y8/1～8/2	
520	黒色土器A類	椀	SP014	①15.5　②6.4 高台径6.6 高台高1.2	高台はナデ、他は摩滅のため不明	A:密。1～3㎜の白色砂を少量含む。B:やや良好。C:内．黒褐10YR3/1～黒10YR2/1　外．灰白2.5Y8/1	
521	須恵器	杯身	SD01 E区褐灰色層	①(14.0) 受部径(16.8) ②4.6　③(9.4)	口縁部回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ、底部内面にシッタ痕	A:精良。B:良好。C:内外．灰N6/	
522	須恵器	杯身	SD01 E区褐灰色層	①13.0　②3.9 ③9.1	体部～口縁部回転ナデ、底部内面は回転ナデ後不定方向ナデ	A:精良。B:良好。C:内外．灰N5/　外．灰N6/～暗灰N3/	板状圧痕。
523	須恵器	甕	SD01 C区上層	②(12.3)	内外面回転ナデ。頸部上半はカキメ後2条1組の沈線・波状文を2段施す	A:良。0.5～1㎜の黒色砂粒を含む。B:良好。C:内．灰N4/～灰白N7/　外．灰N5/～灰白N7/～灰黄2.5Y7/2	
524	土師器	小皿	SD01 A区褐灰色層	①(9.8)　②1.3 ③(7.0)	内外面回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/3　外．灰白2.5Y8/2～橙5Y6/6	
525	土師器	小皿	SD01 A区褐灰色層	①(10.6)　②0.9 ③8.6	摩滅のため調整不明	A:やや粗い。B:良好。C:内外．灰白2.5Y8/2	
526	土師器	小皿	SD01 A区茶褐色層	①(11.0)　②0.8 ③8.2	内外面回転ナデ、底部ヘラ切り	A:精良。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/2　外.灰白2.5Y8/2～黄褐2.5Y5/3	小片のため口径・傾きに難あり。
527	土師器	丸底杯	SD01 A区褐灰色層	①(15.2)　②3.5	口縁部外面～体部外面は回転ナデ、底部外面ヘラ切り後ナデ、内面は摩滅	A:密。B:良好。C:内．灰白10YR8/2～褐灰10YR5/1　外．にぶい黄橙10YR7/3	
528	土師器	丸底杯	SD01 A－B区ベルト	①14.8～15.2 ②3.2～3.7	内外面摩滅、口縁部外面は回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内．橙7.5YR7/6 外.浅黄橙7.5YR8/4～橙7.5YR7/6	
529	土師器	椀	SD01 A区褐灰色層	③7.2	体部外面は回転ナデ、他は摩滅のため不明	A:やや粗。B:良好。C:内．灰白2.5YR8/1 外．にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙7.5YR7/4	
530	土師器	椀	SD01 A区褐灰色層	③(6.2)	摩滅のため調整不明	A:精良。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/3～褐灰10YR5/1　外．灰白10YR8/2	
531	土師器	鉢	SD01 B区	①(25.6)	口縁部内外面回転ナデ、体部外面回転ヘラケズリ、体部内面不定方向ナデ	A:良。赤色砂粒少し含む。B:良好。C:内外．浅黄橙10YR8/2～灰黄褐10YR5/2	
532	土師器	不明	SD01 B区	③(10.6)	内外面摩滅、内面はヘラ状工具による調整痕あり	A:粗い。B:良好。C:内.灰白2.5Y8/2　外.淡黄2.5Y8/3～にぶい橙7.5YR7/4	
533	土師器	不明	SD01 E区茶褐色層	③(10.0)	内外面摩滅、内面はヘラ状工具による調整痕あり	A:粗い。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/4　外．灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y4/1	
534	土師器	鍋？	SD01 C－D区ベルト	①(39.2)	口縁部ヨコナデ、他は摩滅のため調整不明	A:粗。1～2㎜の砂粒多く含む。B:良好。C:内．灰白10YR8/2　外．浅黄橙10YR8/3～灰黄褐10YR5/2	
535	土師器	不明	SD01 A区褐灰色層	②(6.8)	外面ナデ、内面ヘラナデか？	A:やや粗い。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR6/4　外．にぶい黄橙10YR6/3	
536	土師器	脚付皿	SD01 C区	②(2.9)	器面摩滅	A:粗。B:良好。C:内外．灰白2.5YR8/2	
537	黒色土器A類	鉢	SD01 A区茶褐色層	①(24.0)	内面横方向のミガキ、外面ヨコナデ	A:やや粗。B:良好。C:内．暗灰N3/　外．灰白10YR8/2～灰N4/	
538	黒色土器B類	椀	SD01 C区	②(3.0)	内外面ミガキ、口縁端部内面に沈線	A:精良。B:良好。C:内外．黒2.5Y2/1	楠葉型か？
539	黒色土器B類	椀	SD01 C区	③(7.0)	器面摩滅のため調整不明	A:良。B:良好。C:内外．黒2.5Y2/1	
540	黒色土器B類	椀	SD01 A区褐灰色層	③(6.8)	内面ミガキ、外面回転ナデ、底部外面不定方向ナデ、底部外面に板状圧痕がつく	A:精良。B:良好。C:内．灰N4/～暗灰N3/　外．褐灰10YR4/1	板状圧痕。
541	瓦器	椀	SD01 A区褐灰色層	①(17.0)　②5.7 ③7.8	摩滅のため調整不明	A:精良。B:良好。C:内．灰N5/～4/　外．灰N4/～灰黄2.5Y7/	
542	瓦器	椀	SD01 A－B区ベルト	①15.7　②5.8 ③6.2	摩滅のため調整不明	A:精良。B:良好。C:内．暗灰N3/　外．暗灰N3/～灰白N7/～灰白5Y7/1	
543	弥生土器	甕	SD01 A区茶褐色層	②(3.3)	内外面ナデ	A:粗。B:良好。C:内．黄灰2.5Y5/1 外．にぶい黄2.5Y6/3	小片のため傾き不明。
544	弥生土器	甕	SD01 A区茶褐色層	②(3.7)	内面ナデ、外面は摩滅	A:やや良。B:良好。C:内．浅黄橙7.5YR8/4　外.にぶい橙7.5YR7/3～褐灰7.5YR4/1	

表21　本堂遺跡９次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
545	土製品	棒状土製品	SD01 E区褐灰色層 SD01 E区東側包含層	最大長14.2　最大幅3.6 最大厚3.5　重207.6g	器面摩滅のため調整不明	A:粗。B:良好。C:内外．浅黄橙 10YR8/3 ～にぶい黄橙 10YR7/3	
546	鉄滓		SD01 C区	最大長7.8　最大幅6.9 最大厚3.6　重222.4g			
547	鉄滓		SD01 E区(褐灰色層)	最大長6.3　最大幅4.2 最大厚2.1　重69.7g			
548	石製品	石鍋	SD01 A区褐灰色層	残存長4.3　残存厚1.6	内外面ケズリ、外面に煤付着、割れ口に被熱痕あり		滑石。
549	石器	スクレイパー	SD01 A区褐灰色層	最大長2.7　最大幅4.8 最大厚0.75　重9.6g	縁辺部に微細な剥離あり		安山岩。
550	石製品	剥片	SD01 C区	最大長1.45　最大幅3.5 最大厚1.2　重4.9g	縁辺部全面に微細な剥離痕あり		姫島産黒曜石。スクレイパーか？
551	石製品	砥石	SD01 E区褐灰色土	残存長11.1　残存幅5.5 厚4.45　重445.0g			花崗岩。3面の使用面残存。
552	石製品	被熱のある石	SD01 E区褐灰色土	残存長8.35　残存幅5.0 厚4.0　重262.8g			花崗岩。
553	須恵器	杯蓋	SB01(SP090)	①(13.0)　②4.4	口縁部回転ナデ、天井部内面不定方向ナデ、天井部外面回転ヘラケズリ	A:密。1～2㎜の白色粗砂少量含む。B:良好。C:内．にぶい橙 7.5YR6/4　外．明オリーブ灰 2.5GY7/1	
554	須恵器	杯蓋	SB01(SP095 掘方)	①(14.0) 受部径(16.2)	口縁部回転ナデ	A:密。1～2㎜の白色砂少量含む。B:良好。C:内．青灰 5PB6/1　外．灰 N6/	小片のため口径・傾きに難あり。
555	須恵器	杯蓋	SB01(SP095 掘方)	①(14.4) 受部径(17.1)	口縁部回転ナデ	A:密。B:良好。C:内．灰 N5/1　外．灰白 7.5Y7/1 ～灰 N5/	小片のため口径・傾きに難あり。
556	須恵器	杯蓋	SB01(SP112 柱痕)	①(14.0)　②1.1	内面～口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラ切り後ナデ	A:密。1㎜以下の白色砂・黒色粒子少量含む。B:良好。C:内外．灰 N6/	
557	須恵器	杯蓋	SB01(SP039)	①(17.5)　②1.2	内面～口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ	A:密。1㎜の白色砂粒少量含む。B:良好。C:内．灰白 N7/ ～灰 N6/　外．灰 N6/	小片のため口径に難あり。
558	須恵器	杯身	SB01(SP114)	①(15.0)　②3.7 ③(9.45)	底部不定方向ナデ、口縁部回転ナデ	A:密。1㎜の白色砂粒少量含む。B:やや不良。C:内．灰白 5Y8/2　外．5Y8/1 ～7/1	
559	須恵器	杯身	SB01(SP097)	③(9.8)	外面回転ナデ、内面回転ナデ後底部に不定方向ナデ、底部外面回転ヘラ切り	A:密。1㎜以下の白色砂粒少量含む。B:良好。C:内．灰 N6/　外．N5/	
560	鉄滓		SB01(SP039)	最大長2.6　最大幅3.6 厚1.7　重14.0g			
561	石器	打製石鏃	SB01(SP090)	最大長1.92 最大幅1.5 厚0.37 重0.7g			安山岩。凹基式。
562	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径3.2×3.25 厚0.45　重5.1g	てづくね成形	A:密。1㎜以下の白色砂粒少量含む。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2	
563	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径2.65×2.65 厚0.65　重4.8g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y7/1	黒斑あり。
564	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径3.3×2.95 厚0.45　重4.0g	てづくね成形	A:密。1～2㎜の白色砂粒わずかに含む。B:良好。C:灰白 10YR8/2	
565	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径3.1×3.1 厚0.5　重4.6g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y7/1	
566	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径2.35×2.25 厚0.5　重2.6g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y8/1	
567	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径2.25×2.3 厚0.6～0.82 重3.4g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2	表面に粘土付着する。
568	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径3.2　厚0.52 重5.1g	てづくね成形	A:やや粗。B:良好。C: 灰白 2.5Y8/1	
569	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径3.05　厚0.4 重3.2g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y8/1～8/2	
570	土製品	円盤状土製品	SB01(SP089)	径2.9　厚0.4 重2.6g	てづくね成形	A:やや粗。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2～灰黄 2.5Y7/2	
571	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径3.1×3.0 厚0.52　重3.7g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:橙 5YR6/8～灰白 2.5Y 8/2	
572	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径3.15×3.35 厚0.55　重5.0g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2	
573	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径3.2 厚0.42　重4.2g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2	
574	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径3.1×3.45 厚0.45　重5.3g	てづくね成形	A:密。2～3㎜の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:淡黄 2.5Y8/3	
575	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径3.1×3.25 厚0.5　重4.4g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2	
576	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径3.3×3.2 厚0.5　重4.6g	てづくね成形	A:密。2～3㎜の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:灰白 2.5Y8/2	
577	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径2.9×3.1 厚0.45　重4.0g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰黄 2.5Y7/2	

表22　本堂遺跡９次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
578	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.9 × 3.15 厚 0.5　重 4.9g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
579	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.9 × 3.15 厚 0.45　重 4.0g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2 ～黄灰 2.5Y6/1	
580	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.1 × 3.3 厚 0.7　重 4.5g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2 ～灰黄 2.5Y7/2	
581	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.95 × 3.15 厚 0.47　重 4.6g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y7/1 ～黄灰 2.5Y6/1	
582	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.1 × 2.95 厚 0.6　重 5.6g	てづくね成形	A：密。角閃石わずかに含む。B：良好。C：灰白 2.5Y7/1	
583	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.0 × 3.15 厚 0.4　重 3.3g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
584	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.0 × 3.0 厚 0.43　重 3.5g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
585	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.05 × 3.0 厚 0.43　重 3.4g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
586	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.7 厚 0.68　重 5.1g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：にぶい黄橙 10YR7/2	
587	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.2 × 3.05 厚 0.37　重 3.3g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：淡黄 2.5Y8/3	
588	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.9 厚 0.48　重 3.3g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 10YR8/2	
589	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.95 × 3.2 厚 0.5　重 4.6g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
590	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.65 × 2.9 厚 0.35　重 2.6g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2 ～黄灰 2.5Y5/1	黒斑あり。
591	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.2 × 3.3 厚 0.55　重 5.6g	てづくね成形	A：密。1㎜以下の白色粗砂わずかに含む。B：良好。C：灰白 2.5Y7/1	
592	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.85 × 2.9 厚 0.4　重 3.2g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2 ～灰白 10YR8/2	黒斑あり。
593	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.95 × 3.05 厚 0.62　重 5.6g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2 ～灰白 10YR8/2	
594	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.85 × 3.1 厚 0.46　重 3.4g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
595	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.6 × 2.6 厚 0.7　重 3.8g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰黄 2.5Y7/2	中央凹む。
596	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.75 × 3.0 厚 0.43　重 2.4g	てづくね成形、表面に棒状工具による擦痕	A：密。B：良好。C：灰黄 2.5Y7/2	黒斑あり。
597	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.25 × 3.45 厚 0.43　重 4.4g	てづくね成形、一部指オサエ	A：密。1 ～ 2㎜の白色粗砂わずかに含む。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	黒斑あり。
598	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.9 × 3.1 厚 0.33　重 2.6g	てづくね成形	A：密。1㎜以下の白色粗砂わずかに含む。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
599	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 3.35 × 3.35 厚 0.44　重 3.6g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰黄 2.5Y7/2	
600	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.75 × 2.95 厚 0.43　重 2.9g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
601	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.35 × 2.4 厚 0.52　重 2.4g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2 ～灰黄 2.5Y7/1	
602	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.3 × 2.5 厚 0.56　重 3.5g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：淡黄 2.5Y8/3	
603	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.9 × 3.05 厚 0.6　重 3.1g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	表面やや赤化。
604	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.68 × 2.8 厚 0.65　重 4.7g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
605	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)	径 2.9 × 2.95 厚 0.42　重(3.1)g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
606	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4 層最下層	径 3.1 ×(2.8) 厚 0.55　重(3.9)g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
607	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4 層最下層	径 2.95 ×(2.7) 厚 0.45　重(3.2)g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
608	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4 層最下層	径 2.8 ×(2.75) 厚 0.45　重(3.1)g	てづくね成形	A：密。長石粒 1 つ含む。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	
609	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4 層最下層	径(2.3)×(2.15) 厚 0.55　重(2.6)g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰黄 2.5Y7/2	
610	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4 層最下層	径 3.0 ×(2.85) 厚 0.5　重(4.1)g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：黄灰 2.5Y6/1、灰白 2.5Y8/2	一面に薄く黒斑あり。
611	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4 層最下層	径 3.15 ×(2.6) 厚 0.55　重(4.1)g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2 ～ 7/1	
612	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4 層最下層	径 3.15 ×(3.1) 厚 0.45　重(4.6)g	てづくね成形	A：密。B：良好。C：灰白 2.5Y8/2	

表23　本堂遺跡９次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※(　)は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
613	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径3.2×(2.85) 厚0.43　重(3.4)g	てづくね成形	A:密。1㎜程の白色粗砂少し含む。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
614	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径2.5×(2.15) 厚0.55　重(2.8)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
615	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径3.5×(2.45) 厚0.65　重(5.1)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
616	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(3.2)×(2.15) 厚0.45　重(2.7)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰2.5Y8/2	全体的に摩滅。
617	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径2.9×(2.9) 厚0.36　重(2.6)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2～7/1	黒斑あり。
618	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径2.95×2.85 厚0.5　重(2.9)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
619	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.5)×(2.55) 厚0.5　重(2.9)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
620	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径3.05×(2.0) 厚0.5　重(2.9)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
621	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.4)×(2.1) 厚0.45　重(2.3)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
622	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径3.05×2.95 厚0.6　重4.7g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	周縁僅かに欠損。
623	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径2.95×2.8 厚0.55　重(3.4)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	僅かに黒斑あり。
624	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.55) 厚0.36　重(1.1)g	てづくね成形	A:密。1㎜程の粗砂少し含む。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
625	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.55) 厚0.33　重(1.8)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
626	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.25) 厚0.45　重(1.8)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2	
627	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径3.1×(2.75) 厚0.4　重(2.3)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
628	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径3.3×(2.15) 厚0.4　重(2.7)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2、灰黄2.5Y7/2	
629	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.75) 厚0.41　重1.7g	てづくね成形	A:密。微細な白色粗砂少し含む。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
630	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.45) 厚0.52　重(1.8)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
631	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径2.8×(2.0) 厚0.42　重(2.38)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
632	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.75) 厚0.41　重(1.7)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰黄2.5Y7/2	
633	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径(2.65) 厚0.5　重(1.6)g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	
634	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径3.1×(2.55) 厚0.65　重3.7g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	粘土塊付着。
635	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径2.95×2.2 厚0.5　重3.0g	てづくね成形	A:密。B:良好。C:灰白2.5Y8/2	表面やや黒斑あり。
636	土製品	円盤状土製品	SB01(SP095)4層最下層	径1.9、2.65 厚0.55、0.4 重3.7g	てづくね成形	A:密。1㎜程の白色粗砂わずかに含む。B:良好。C:灰2.5Y8/2	2個体が重なる。
637	須恵器	杯蓋	SB02(SX12)	①(13.7)　②4.5	口縁部回転ナデ、天井部内面回転ナデ後ナデ、天井部外面回転ヘラケズリ	A:密。2㎜以下の石英・長石・雲母・黒色粒子少量含む。B:良好。C:内. 灰N4/　外. 灰N5/～灰N4/	
638	須恵器	杯蓋	SB02(SP076)	①(11.3) 受部径(13.8) ②2.25	内外回転ナデ、天井部はヘラ状工具による調整と考えられる段がある	A:密。1㎜の白色粗砂少量含む。B:不良。C:内. 橙5YR7/6　外. にぶい橙5YR6/4～橙5YR6/6	小片のため口径に難あり。
639	須恵器	杯蓋	SB02(SX05)	①(12.2) 受部径(14.4)	内外回転ナデ	A:密。1㎜以下の石英・長石・雲母を少量含む。B:良好。C:内外. 灰N6/	小片のため口径に難あり。
640	須恵器	杯蓋	SB02(SP076下層)	①(12.4) 受部径(14.75)	内外回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A:密。1㎜以下の白色粗砂少量含む。B:やや不良。C:内. 灰白5Y8/1　外. 黄灰2.5Y6/1～4/1	
641	須恵器	杯蓋	SB02(SP051)	①(13.0) 受部径(15.8)	内外面回転ナデ	A:密。1㎜程の白色粗砂少量含む。B:良好。C:内外. にぶい橙5YR6/4	小片のため口径に難あり。
642	須恵器	杯蓋	SB02(SP056下層)	①(14.6) 受部径(17.4)	内外面回転ナデ	A:密。B:良好。C:内. オリーブ灰2.5GY5/～灰N5　外. オリーブ灰2.5GY6/～灰N6/	小片のため口径に難あり。
643	須恵器	杯蓋	SB02(SP056柱抜取穴)	①(15.1)	内面と口縁部は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A:密。B:良好。C:内. 灰N5/　外. 灰N6/～暗灰N3/	
644	須恵器	杯身	SB02(SX12)	①(10.9) 受部径(13.1)	内面と口縁部は回転ナデ、外面は降灰のため調整不明	A:密。1㎜以下の石英･長石･雲母少量含む。B:良好。C:内. 灰N5/　外. 灰白N7/	

表24　本堂遺跡９次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
645	須恵器	杯身	SB02(SX05)	受部径(14.1)	内外面回転ナデ	A:密。1㎜以下の石英・長石・雲母少量含む。B:良好。C:内．灰白 7.5Y7/1　外．灰 7.5Y6/1	
646	須恵器	甕	SB02(SX05)	②(5.5)	内外面回転ナデ、外面に沈線・波状文を施す	A:やや粗い。1.5㎜以下の石英・長石・雲母・黒色粒子を多く含む。B:良好。C:内．灰 N5/　外．灰 N7/	
647	土師器	甕	SB02(SP056 柱抜取穴)	①(16.1)　②(5.4)	口縁部ナデ、外面ハケ、内面ヘラケズリ	A:やや粗い。1 ～ 3㎜の白色粗砂多く含む。B:良好。C:内．赤褐 5YR4/6 ～ 灰褐 5YR4/2　外．橙 2.5YR6/8	
648	石器	スクレイパー	SB02(SX12)	最大長 9.6 最大幅 9.35　厚 2.3 重 64.1g			安山岩か？
649	須恵器	杯蓋	SC01(北側ベルト３層)	①(14.2)	内面と口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ	A:密。1 ～ 2㎜の白色粗砂少量含む。B:良好。C:内．灰白 N7/　外．灰 N4/ ～暗灰 N3/	
650	須恵器	杯身	SC01(北側ベルト４層)	①(12.2) 受部径(14.2)	内外面回転ナデ	A:密。1 ～ 2㎜の白色粗砂少量含む。B:良好。C:内．青灰 5PB5/1　外．灰 N4/	
651	土師器	甕	SC01(北側ベルト２層)	①(29.4)	内面摩滅のため調整不明、外面口縁部ナデ、口縁部付根ハケメ	A:やや粗い。1 ～ 2㎜の白色粗砂多く含む。B:良好。C:内．浅黄橙 10YR8/3　外．灰白 2.5Y8/2	
652	弥生土器	壺	SC01(東西ベルト２層)		内面摩滅、外面ナデ後２条の沈線と斜線文を施す	A:1 ～ 2㎜の白色粗砂多く含む。B:やや不良。C:内．橙 5YR6/8　外．にぶい黄橙 10YR7/2 ～ 7/3	
653	弥生土器	壺	SC01(炉跡内埋土)		外面ナデ後断面三角形の刻目突帯を施す、刻目はやや不明瞭、内面ヘラナデ？	A:1 ～ 4㎜の白色粗砂多く含む。B:良好。C:内．黒褐 10YR3/1 ～黒 10YR2/1　外．褐灰 10YR6/1 ～ 5/1	
654	弥生土器	壺	SC01(東西ベルト３層)	③6.8	内外面摩滅するが、外面に縦方向のハケメ残る	A:1 ～ 2㎜の白色粗砂多く含む。B:良好。C:内．明赤褐 5YR5/8、浅黄橙 7.5YR8/5　外．明赤褐 5YR5/8、浅黄橙 7.5YR8/4	底部外面に籾圧痕と考えられる痕跡あり。
655	石器	石庖丁	SC01(北東区壁溝内)	最大長 6.7 最大幅 15.2　厚 0.8	不明確であるが、全面研磨。孔は、回転穿孔		頁岩質砂岩。
656	石器	スクレイパー	SC01(南東区壁溝内)	最大長 3.7 最大幅 5.35　厚 1.55 重 20.1g	微細な剥離により刃部を形成		安山岩。
657	鉄製品	不明	SC01(南東区)	最大長 3.4 最大幅 5.8　厚 1.6 重 46.6g			
658	鉄滓		西側１面包含層	最大長 3.5 最大幅 2.9　厚 2.3 重 26.0g			
659	鉄製品	棒状鉄製品	西側１面包含層	残存長 3.05 最大幅 0.7　厚 0.7			
660	鉄滓		西側２面包含層	最大長 2.3 最大幅 1.9　厚 1.3 重 4.8g			
661	鉄滓		西側２面包含層	最大長 4.2 最大幅 2.7　厚 2.1 重 27.7g			
662	鉄滓		西側２面包含層	最大長 2.6 最大幅 2.7　厚 1.5 重 12.6g			
663	鉄滓		西側２面包含層	最大長 2.7 最大幅 3.0　厚 2.8 重 17.2g			
664	鉄滓		西側２面包含層	最大長 2.5 最大幅 2.5　厚 1.3 重 7.5g			
665	石器	石庖丁	西側２面包含層	残存長 4.2 残存幅 4.55　厚 0.65	全体的に摩滅する、孔は回転穿孔		頁岩質砂岩。
666	石器	石鏃	西側２面包含層	最大長 2.05 最大幅 1.55　厚 0.45 重 0.7g			安山岩。
667	白磁	椀	SD01(検出時)	①(16.2)	内外面施釉	A:密。B:良好。C:内外．灰 5Y6/1	太宰府分類白磁椀Ⅳ類。
668	白磁	椀	SD01(検出時)	①(16.0)	内外面施釉	A:密。B:良好。C:内外．灰オリーブ 5Y6/2	
669	鉄滓		SD01(検出時)	最大長 3.3 最大幅 3.4　厚 3.3 重 16.9g			
670	鉄滓		SD01(検出時)	最大長 5.1 最大幅 2.8　厚 1.3 重 24.4g			
671	石器	縦長剥片	SD01(検出時)	最大長 4.65 幅 4.0　厚 0.95 重 15.1g	側縁部に微細な剥離あり		安山岩。

表25　本堂遺跡９次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
672	須恵器	杯身	東側包含層	①(12.0)　②3.55 受部径(13.8)	内外面回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:灰 N4/	底部外面にヘラ記号。
673	須恵器	高杯	東側包含層	②(10.9)	内外面ともに回転ナデ、脚部に未貫通の２段透かしを施す	A:密。B:良好。C:灰白 N7/ ～暗灰 N3/	
674	土師器	小皿	東側包含層	①(8.4)　②1.0 ③(5.6)	口縁部回転ナデ、底部内面不定方向ナデ、底部はヘラ切り	A: 精良。B: 良好。C: 内．にぶい黄橙 10YR7/2　外．にぶい黄橙 10YR7/2 ～灰黄褐 10YR5/2	
675	弥生土器	甕	東側包含層	①(25.8)	口縁部回転ナデ、内面ナデ、外面は摩滅する	A:粗い。1～3㎜の白色･透明砂粒多く含む。B:良好。C:内．黒 7.5YR2/1　外．にぶい橙 7.5YR6/4 ～黒 7.5YR2/1	
676	鉄滓		東側包含層	最大長 4.6 最大幅 4.3　厚 2.2 重 56.3g			
677	鉄滓		東側包含層	最大長 3.4 最大幅 2.9　厚 2.3 重 29.6g			
678	須恵器	杯蓋	SX02(二段下)	①(14.1)　②3.6	内面～口縁部外面回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ	A:密。2㎜以下の石英・長石少量含む。B:良好。C:内．灰 N5/　外．N5/ ～ 4/	
679	土師器	小皿	SX02(一段下)	①(9.4)　②0.8 ③(6.9)	底部ヘラ切り、口縁部回転ナデ、他は摩滅する	A:密。3㎜以下の石英・長石・雲母を少量含む。B:良好。C:内．灰白 2.5Y8/2　外．淡黄 2.5Y8/3	
680	土師器	小皿	SX02(一段下)	①(10.9)　②1.0 ③(8.4)	全体に摩滅する、口縁部回転ナデ、底部はヘラ切りか	A:密。2㎜以下の石英・長石・角閃石・雲母をやや多く含む。B:良好。C:内．浅黄 2.5Y7/3 ～灰白 2.5Y8/2　外．灰白 2.5Y8/2	
681	土師器	椀	SX02(一段下)	③(7.6)	器面摩滅のため調整不明	A:密。1㎜以下の石英・長石・雲母を極少量含む。B:良好。C:内．灰黄 2.5Y7/2　外．浅黄橙 10YR8/4 ～浅黄 2.5Y8/3	
682	土師器	脚付皿?	SX02(一段下)	②(2.95) 厚 1.65	全体的に丁寧なナデを施す	A:密。1㎜以下の石英・長石・雲母を極少量含む。B:良好。C:内外．淡黄 2.5Y8/4	
683	黒色土器B類	台付椀	SX02(一段下)	③7.1	外面回転ナデ、内面ミガキ？	A:密。1㎜以下の石英・長石・雲母を少量含む。B:良好。C:内外．黄灰 2.5Y4/1	
684	弥生土器	甕	SX02	②(6.3)	内面ナデ、口縁部はヨコナデ、外面の口縁部下は板ナデ後ナデを施す	A:密。2㎜以下の石英･長石･雲母少量含む。B:良好。C:内．黄灰 2.5Y4/1　外．暗黄灰 2.5Y5/2 ～にぶい黄橙 10YR6/3	内面から口縁部にかけて煤付着。
685	須恵器	甕?	SX03	②8.2＋α　④8.55	外面胴部下半～底部は回転ヘラケズリ、胴部上半～頸部は回転ナデ、内面は頸部下半はシボリ痕、上半は回転ナデを施す	A:密。3㎜以下の石英・長石・雲母・黒色粒子を少量含む。B:良好。C:内外．灰 N6/	
686	黒色土器A類	椀	SX03	③(10.05)	体部外面回転ナデ、他は内外面ともに回転ナデ後ナデ	A:密。2㎜以下の石英･長石･雲母少量含む。B:良好。C:内．黄灰 2.5Y4/1　外．灰白 2.5Y8/2 ～黄灰 2.5Y6/1	
687	弥生土器	甕	SX03	③(9.2)	器面摩滅のため調整不明	A:粗。6㎜以下の石英・長石・雲母・赤色粒子を多量に含む。B:良好。C:内．灰白 2.5Y7/1 ～にぶい黄橙 10YR7/4　外．にぶい黄橙 10YR7/4 ～橙 7.5YR7/6	
688	須恵器	高杯	SX04	①(22.0)	内外面回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:内．灰 N6/　外．灰白 N7/	
689	土師器	甑	SX04	②(5.0) 幅 4.6	器面摩滅するが、全体的に成形時のナデの痕跡が残る	A:精良。B:良好。C:明黄褐 10YR6/6 ～明褐 7.5YR5/6 ～黒褐 7.5YR3/1	
690	鉄器	鉄鏃	SP026	残存長 8.55　幅 2.4 刃長 5.95　茎幅 0.4 刃厚 0.25　茎厚 0.4 残重 24.0g			方頭斧箭式。
691	鉄製品	鉄鏃茎部か?	SP026	残存長 2.45 幅 0.55　厚 0.4 重 1.6g			
692	鉄製品	鉄鏃茎部か?	SP026	残存長 3.4　幅 0.65 厚 0.45　重 2.4g			
693	瓦器	椀	SP040	①(16.4)	摩滅のため調整不明	A:密。1～3㎜の白色砂を少量含む。B:やや良好。C:内．黒褐 2.5Y3/1　外．灰 N5/ ～ 4/	
694	鉄滓		SP068	最大長 3.55 最大幅 5.0　厚 2.85 重 47.5g			
695	鉄滓		SP075	最大長 2.2 最大幅 2.7　厚 1.6 重 12.3g			
696	鉄滓		SP075	最大長 1.2 最大幅 2.0　厚 1.2 重 2.7g			
697	鉄製品	釘	SP086	残存長 6.2 幅 1.1　厚 0.9 重 10.6g			

表26　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
698	須恵器	杯蓋	1区SX01No.1	①13.25　②4.3	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面1/3回転ナデ後ナデ、2/3回転ナデ	A:密。径5mm以下の石英・長石・雲母・黒色細粒等を少し含む。B:良。C:内．にぶい黄橙10YR7/2～灰7.5Y6/1　外．灰褐7.5YR6/2～にぶい黄橙10YR7/2	外面にヘラ記号。
699	須恵器	杯蓋	1区SX01東半	②(1.4)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰10Y6/1 外．灰白10Y7/1	
700	須恵器	椀？	1区SX01東半	②(3.25)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内．灰5Y5/1　外．灰黄褐10YR6/2	
701	須恵器	短頸壺	1区SX01No.2	①(11.5)　②(7.65)　④18.8	外面カキメ、内面回転ナデ	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母・黒色細粒等を少し含む。B:良好。C:内．灰N5/　外．灰N5/・灰白7.5Y7/1・暗灰N3/	
702	黒色土器B類	椀	1区SX01No.3	①(13.4)　②(2.9)	外面ヘラミガキ(摩滅気味)、内面ヘラミガキ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内外．褐灰10YR4/1	
703	須恵器	皿	1区SX02	②(2.8)	底部回転ヘラ切り？、内外面回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白N7/　外．灰白5Y7/1～2.5Y7/1	
704	須恵器	杯蓋	1区SX03	①(13.5)　②(2.0)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白5Y7/1　外．5Y7/1～2.5Y7/1	
705	須恵器	杯身	1区SX03	①(12.0)　②(2.65)　受部径(14.0)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内．灰白5Y7/1　外．灰白5Y5/1～灰5Y6/1	
706	須恵器	杯身	1区SX03	①12.8　②(2.75)　受部径(14.9)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・黒色粒子等を少し含む。B:やや不良。C:内．灰白5Y7/1　外．灰白7.5Y7/1	
707	須恵器	杯身	1区SX03	②(1.55)　高台径(10.0)	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白5Y7/1～灰N5/	
708	鉄製品	釘	1区SX03	残存長4.45　残存幅0.9　厚0.8			
709	土師器	丸底杯	1区SX04	①(16.0)　②(4.1)	器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良。C:内．灰白2.5Y8/2～浅黄橙10YR8/3　外．淡黄2.5Y8/3～黄灰2.5Y5/1	
710	土師器	椀	1区SX04	②(1.5)　高台径(6.6)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内．にぶい黄橙10YR7/3　外．灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3	
711	黒色土器B類	椀	1区SX04	①(14.0)　②(3.7)	内外面ヘラミガキ、器表摩滅のため不鮮明	A:やや粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良。C:内外．黄灰2.5Y4/1	
712	須恵器	杯蓋	1区SX04・05	①(17.8)　②(1.9)	回転ナデ、器表摩滅のため不鮮明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内．灰白5Y8/2　外．灰白5Y8/1～灰黄2.5Y7/2	
713	須恵器	杯身or高杯	1区SX04・05 1区調査区東壁際トレンチ	①(12.7)　②(3.55)　受部径(14.9)	外面1/2カキメ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:粗。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を多く含む。B:良好。C:内．灰N5/～6/　外．灰5Y6/1～5/1	
714	須恵器	杯身	1区SX04・05 1区第2面包含層Ⅲ	①(13.55)　②(3.75)　高台径9.15	外面回転ナデ、内面1/3回転ナデ後ナデ、1/3回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰7.5Y6/1	
715	須恵器	杯身	1区SX04・05	②(1.6)　高台径(8.9)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母・角閃石等を少し含む。B:不良。C:内．灰白N8/～浅黄2.5YR7/3　外．浅黄橙7.5YR8/6	
716	須恵器	皿	1区SX04・05	①(15.0)　②(1.9)　③(11.8)	内外面回転ナデ、底部ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白7.5Y7/1～灰N6/	
717	須恵器	不明	1区SX04・05	②(5.0)	外面ヘラケズリ後ナデ、内面回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石等を少し含む。B:やや不良。C:内．灰白7.5Y8/1　外．灰白5Y7/1	
718	土師器	椀	1区SX04・05	②(1.5)　高台径(8.6)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内．淡黄2.5Y7/4　外．明黄褐2.5Y7/6～橙5YR7/6	
719	土師器	椀	1区SX04・05	②(1.85)　高台径(9.4)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内外．淡黄2.5Y8/3	
720	青磁	椀	1区SX04・05	①(12.5)　②(3.0)	施釉	A:緻密。灰黄2.5Y7/2。B:良好。C:釉．黄褐2.5Y5/4	越州窯系。
721	鉄滓	椀形滓？	1区SX04・05	長4.0　幅6.15　厚2.3　重57.6g			
722	須恵器	杯身	1区SX05東半	②(1.9)　高台径(8.7)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内外．明黄褐10YR7/6	
723	土師器	椀	1区SX05東半	②(1.55)　高台径(7.6)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内．灰白2.5Y8/1～灰黄2.5Y7/2　外．灰白10YR8/2～浅黄橙10YR8/3	

表27　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
724	須恵器	杯蓋	1区SX06	①16.3　②2.6 つまみ径2.3	外面1/2回転ヘラ切り後回転ナデ、1/2回転ナデ、内面2/3回転ナデ後ナデ、1/3回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白5Y8/1～7/1	
725	須恵器	杯身	1区SX06	①(17.2)　②(4.4)	回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1　外．オリーブ灰2.5GY6/1	
726	須恵器	高杯	1区SX06	①(21.0)　②(2.9)	回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白5Y7/1	
727	須恵器	杯蓋	1区SX08東半 1区第2面包含層Ⅲ	①(14.8)　②(4.3)	外面1/3回転ヘラケズリ、2/3回転ナデ、内面回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N5/　外．灰N4/	
728	須恵器	高杯	1区SX08東半	①(14.0)　②(4.5) 受部径(16.8)	外面1/2回転ヘラケズリ、内面3/5回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N5/　外．灰10Y6/1	
729	土師器	甕or甑	SX08No.2・3・4	①(30.0)　②(13.5)	外面ナデ、内面ヘラケズリ	A:粗。径1～5mmの大きい白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:内．淡黄2.5Y8/3 外．灰白10YR8/1～浅黄橙10YR8/3	
730	土師器	甑	SX08東半 SX08No.1	②(13.2)	ナデおよび指頭圧痕	A:粗。径1～5mmの大きい礫を多く含む。B:やや不良。C:内．黄橙10YR8/6　外．橙7.5YR7/6	
731	礫	円礫	SX08東半	長1.6　幅1.3 厚0.45　重1.4g			蛇紋岩。
732	土師器	小皿	1区SP03	①(10.2)　②1.0	底部ヘラ切り、内面2/3不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:やや粗。1mm程の粗砂を少し含む。B:やや良。C:内．灰白2.5Y8/2　外．灰白2.5Y8/1～8/2	
733	土師器	小皿	1区SP03	①(10.7)　②0.9	底部ヘラ切り、内面1/2不定方向ナデ、他は回転ナデ	A:やや粗。1mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内外．灰白2.5Y8/2・灰黄2.5Y6/2	
734	土師器	椀	1区SP03	②(3.8)　高台径7.2 高台高1.45	外面回転ナデ、内面ナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂・金雲母を少し含む。B:やや良好。C:内外．灰白2.5Y8/2	
735	土師器	椀	1区SP03	②(4.2)　高台径(7.7) 高台高1.6	外面回転ナデ、内面2/3不定方向ナデ？1/3回転ナデ？、底部ヘラ切り後ナデ？	A:やや粗。1mm以下の白色粗砂・角閃石を多少含む。B:やや良。C:内．灰白2.5Y8/2 外．灰白2.5Y8/1～8/2	
736	礫	円礫	1区SP19	縦1.5　横1.75 厚0.77　重2.3g			砂岩。
737	礫	円礫	1区SP15	縦2.3　横2.7 厚0.93　重8.0g			砂岩。
738	須恵器	杯蓋	1区表土剥ぎ時 1区SX03 1区第2面包含層Ⅲ	①(12.4)　②3.4	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:やや粗。径5mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N6/～4/	天井部外面にヘラ記号。
739	須恵器	高杯	1区表土剥ぎ時	②(4.25)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内外．淡黄2.5Y8/3	
740	須恵器	杯身	1区調査区東壁際トレンチ	①(11.2)　②3.5 受部径12.6	外面2/3回転ヘラケズリ、1/3回転ナデ、1/2回転ナデ後不定方向ナデ、1/2回転ナデ	A:やや粗。径1～3mmのやや大粒の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N5/　外．灰N4/	底部外面にヘラ記号。
741	土師器	甑or甕	1区表土剥ぎ時	②(9.1)		A:粗。径5mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内．浅黄橙10YR8/3　外．浅黄橙10YR8/4～にぶい黄橙10YR7/2	
742	黒色土器B類	椀	1区調査区東壁際トレンチ	②(2.1)　高台径6.4 高台高1.0	外面回転ナデ、高台貼付ナデ、内面ミガキ？	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外．黒2.5Y2/1	
743	山茶椀	小椀	1区調査区東壁際トレンチ	①(9.4)　②(2.5)	内面～口縁端部施釉、外面回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰白5Y7/2～灰オリーブ5Y6/2　外．灰白5Y7/1	
744	白磁	椀	1区調査区東壁際トレンチ	②(2.8)　高台径(6.3) 高台高1.2	施釉	A:密。B:良好。C:内外．灰白7.5Y8/1 釉．灰白10Y8/1	
745	須恵器	杯身	1区1面目遺構検出時	②(1.2)　高台径(7.6)	外面回転ナデ、内面回転ナデ後1/2ナデ、底部は回転ヘラ切り後ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白2.5Y8/1 外．灰N3/～灰白2.5Y8/1	
746	白磁	椀	1区1面目遺構検出時	②(2.45)	施釉	A:やや粗。黄色味を帯びた灰白。小さな空洞がわずかにみられる。B:堅緻。C:灰白5Y8/2～浅黄5Y7/3	
747	須恵器	杯蓋	17次SP360掘方	①(11.3)　②1.5＋α	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/2回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:0.5～1mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内.灰白N7/　外.灰白7.5Y7/1	
748	須恵器	杯身	1区SP117掘方	①(12.0)　②4.45 高台径(9.6) 高台高0.4	内外面回転ナデ、底部回転ナデ	A:密。B:良好。C:内外．灰白N7/～灰N4/	
749	礫	円礫	1区SP117掘方	縦5.3　横4.1 厚1.45　重40.2g			砂岩。
750	瓦	平瓦	1区SP12	残存長13.4 残存幅17.6　厚2.0	凸面縄目タタキ、凹面布目痕あり、後にヘラケズリ	A:密。1～3mm程の白色粗砂を多く含む。B:やや良好。C:凸．灰白2.5Y8/1・暗灰N3/　凹．灰白2.5Y8/1	
751	須恵器	杯身	1区SP25	①(10.7)　②(2.6) 受部径(13.2)	回転ナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．暗灰N3/　外．灰白N8/・暗灰N3/	

表28　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
752	須恵器	杯身	1区 SP25	②(0.9)　高台径(9.0) 高台高 0.3	外面回転ナデ、内面不方向ナデ	A:密。1～3 mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 N5/　外．灰 N4/	
753	土師器	甕 or 甑	1区 SP25	②(7.35)	外面ナデおよび指頭圧痕、内面ナデ	A:やや粗。1～5 mm程の白色砂礫を多く含む。B:良好。C:内．浅黄橙 7.5YR8/4 外．灰白 7.5YR8/1～浅黄橙 7.5YR8/4	
754	須恵器	杯蓋	2区 SP49	③(14.6)　②(1.5)	外面 1/6 回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内．灰 N6/　外．灰白 N8/	
755	須恵器	杯蓋	2区 SP49	①(17.2)　②(1.2)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/2 不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。1 mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白 5Y7/1　外．灰白 N7/	
756	須恵器	杯身	2区 SP49	①(13.2)　②(2.8) 受部径(14.4)	外面 2/3 回転ナデ、他摩滅のため不明	A:密。1 mm程の白色粗砂を僅かに含む。B:不良。C:内．灰白 2.5Y8/2～淡黄 2.5Y8/4　外．淡黄 2.5Y8/3～8/4	
757	須恵器	杯身	2区 SP49	②(0.7)　高台径(8.2) 高台高 0.4	内面 1/2 不定方向ナデ、底部ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰白N 7/　外．灰白 N6/	
758	礫	円礫	2区 SP49 柱痕	縦 1.47　横 1.55 厚 0.55　重 1.5g			泥岩。
759	礫	円礫	2区 SP49 柱痕	縦 1.25　横 1.5 厚 0.55　重 1.5g			泥岩。
760	鉄滓		2区 SP49 掘方	長 2.65　幅 2.65 厚 1.65　重 16.0g			
761	須恵器	高杯	2区 SP65 掘方 2区 SD01 内直上包含層	①(22.9)　②(1.75)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/2 不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．赤灰 2.5YR5/1･灰 N4/　外．暗灰 N3/	
762	須恵器	杯蓋	2区 SP70	①(13.5)　②(3.2)	回転ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内．褐灰 5YR5/1　外．灰 N5/・にぶい赤褐 2.5YR5/3	
763	須恵器	杯身	2区 SP70 掘方	①(10.3)　②(2.0) 受部径(12.7)	回転ナデ	A:密。1～2 mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰 N6/～5/　外．灰 N6/～5/	
764	須恵器	杯身	2区 SP70 掘方	②(2.1)	回転ナデ	A:密。径 1～3 mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．黄灰 2.5Y5/1　外．灰 5Y6/1	
765	須恵器	杯身	2区 SP70 掘方	②(3.6)	外面 1/3 回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1 mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰 N5/～4/　外．灰 N6/	
766	礫	円礫	2区 SP70 掘方	縦 2.4　横 3.1 厚 0.65　重 6.0g			泥岩
767	鉄滓		2区 SP161 掘方	長 3.15　幅 2.8 厚 2.3　重 19.4g			炭化物をかんでいた痕跡あり。
768	須恵器	杯蓋	2区 SP169 掘方	①(15.0)　②(1.95)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/2 不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。1 mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 N6/～4/　外．灰白 N7/～灰 N6/	
769	礫	円礫	2区 SP169	縦 1.4　横 1.5 厚 0.56　重 1.6g			砂岩。
770	礫	円礫	2区 SP169	縦 1.3　横 1.55 厚 0.5　重 1.2g			砂岩。
771	礫	円礫	2区 SP169	縦 1.3　横 1.5 厚 0.68　重 1.8g			石英。
772	礫	円礫	2区 SP169 柱痕	縦 1.2　横 1.5　厚 0.6 重 1.6g			砂岩。
773	須恵器	杯蓋	2区 SP172	①(11.0)　②2.25 受部径(13.0)	天井部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径 1 mm内の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外．橙 5YR6/6	外面にヘラ記号。
774	土師器	甕	2区 SP172	①(28.0)	摩滅のため調整不明、内面指頭圧痕	A:密。径 1～2 mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内．にぶい橙 7.5YR7/4 外．橙 7.5YR7/6	
775	須恵器	杯蓋	2区 SD01 内遺構検出時	①13.1　②2.55 つまみ径 2.15	天井部回転ヘラ切り後回転ナデ、内面 2/3 回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径 2mm 以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰 N5/	
776	須恵器	杯身	2区 SD01 内遺構検出時	①(11.0)　②(2.8) 受部径(12.8)	回転ナデ	A:密。径 1mm 以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．黄灰 2.5Y5/1　外．灰白 2.5Y7/1	
777	須恵器	杯蓋	2区 SD01-2 上下層 SX13	①(14.0)　②(4.1)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:やや粗。径 1～3mm の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰 N5/　外．暗灰 N3/	
778	須恵器	杯蓋	2区 SD01-4 上層	①(12.1)　②(1.65) 受部径(14.1)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。径 1mm 以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白 5Y7/1	
779	須恵器	杯蓋	2区 SD01-3②下層 2区 SD01・SX11 検出時	①(12.2)　②(2.25) 受部径(14.8)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 2/3 回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径 1mm 以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白 7.5Y7/1	
780	須恵器	杯蓋	SX11 検出時 2区 SD01-2・3区間ベルト 2区中央ベルト	①15.6　②1.45 つまみ径 2.4 つまみ高 0.6	外面回転ナデ、つまみ貼付ナデ、内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ	A:密。径 1mm の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内．灰白 5Y8/1　外．灰白 7.5Y8/1	
781	須恵器	杯蓋	1･2区境 SX11 遺構検出時 1･2区境 SX11 東半 2区 SD01-SX11 検出時 2区 SD01-2 上下層	①15.7　②2.0 つまみ径 2.4 つまみ高 0.7	外面 1/2 回転ヘラ切り、1/2 回転ナデ、つまみ貼付ナデ、内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ、1/3 回転ナデ	A:密。径 1～2mm の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰 7.5Y8/1　外．灰白 7.5Y7/1	内面に赤色顔料。

表29　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
782	須恵器	杯蓋	2区SD01-8上層	①(16.0)　②(1.3)	外面2/3回転ヘラケズリ?、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。径1mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰N5/　外．灰N6/～暗灰N3/	
783	須恵器	杯蓋	2区SD01-6上下層 2区SD01-6・7間上層	①(17.4)　②(1.5)	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰白N7/　外．灰白7.5Y7/1	
784	須恵器	杯蓋	2区SD01-3上層 2区中央トレンチ	①(21.5)　②2.85 つまみ径2.8	外面2/3回転ヘラ切り後回転ナデ、つまみ回転ナデ、内面2/3回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径4mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内外．灰10Y5/1	
785	須恵器	杯身	2区SD01-2上下層 SD01内遺構検出時 2区SP166 1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ	①(11.0)　②(3.9) 受部径(13.0)	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．黄灰2.5Y4/1　外．灰10Y4/1	
786	須恵器	杯身	2区SD01-6・7間上下層	①(12.0)　②(3.3) 受部径(14.0)	外面1/2回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．暗灰N3/	外面にヘラ記号?
787	須恵器	杯身	2区SD01-2・3間ベルト	①(13.2)　②(3.9) 受部径(15.7)	外面1/5回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を含む。B:良好。C:内外．灰10Y6/1	
788	須恵器	杯身	2区SD01-3上層	②3.8　高台径7.5	外面底部ヘラ切り後回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白2.5Y7/1　外．灰白5Y7/2～灰オリーブ5Y6/2	
789	須恵器	杯身	2区SD01-5上下層 2区SD01-6・7間ベルト	①(10.3)　②3.75 高台径(6.5)	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良。C:内．灰7.5Y6/1　外．灰7.5Y6/1～N6/	
790	須恵器	杯身	2区SD01-3①南西段上	②(3.4)　高台径6.5	外面底部回転ヘラ切り後ナデ、内面1/2回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰5Y6/1～5/1	
791	須恵器	杯身	2区SD01-7上下層 SP139 SP189 杭A下包含層-3	①13.8　②4.05 高台径10.0 高台高0.45	底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰白N8/　外．灰N6/	
792	須恵器	杯身	2区SD01-4上層 2区SD01-4・5間ベルト下層 2区SD01内直上包含層	①(13.95)　②(3.95) 高台径(9.2)	底部外面回転ヘラ切り、底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰N6/	
793	須恵器	杯身	2区SD01-6上層	①(14.6)　②4.15 高台径(9.9) 高台高0.5	底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y8/1　外．灰10Y6/1～5/1	
794	須恵器	杯身	2区SD01-6上下層 SD01-6・7間上層 SD01-7上下層 SD02-03直上包含層	①14.5　②4.3 高台径9.5 高台高0.6	底部回転ヘラ切り、高台貼付ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、他回転ナデ	A:やや粗。径3～4mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外．灰10Y6/1	
795	須恵器	杯身	2区SD01-7上下層	①(15.15)　②4.0 高台径9.2 高台高0.55	底部外面回転ヘラ切り、底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰7.5Y6/1　外．灰赤2.5YR5/2～赤灰2.5YR4/1	
796	須恵器	杯身	2区SD01-4 2区SD01内直上包含層	①(21.3)　②6.05 高台径(14.8)	回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内．灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/3　外．灰白2.5Y8/1～7/1	
797	須恵器	皿	2区SD01-6・7間上層	①(16.0)　②1.8 ③(13.2)	底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白5Y7/1	
798	須恵器	高杯	2区SD01-6上下層 SD01直上包含層	①(20.0)　②(2.5)		A:密。径1mm内の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰7.5Y6/1	
799	須恵器	高杯	2区SD01-5下層	②(11.85) 脚裾部径(12.9)	脚部外面1/3カキメ、他は回転ナデ	A:やや粗。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等をやや多く含む。B:やや不良。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白7.5Y7/1～灰7.5Y6/1	
800	須恵器	器台?	2区SD01-6・7間上層	②(7.0)	回転ナデ?摩滅のため不明瞭	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:内．灰白2.5Y8/2　外．浅黄2.5Y7/3	
801	須恵器	鉢	2区SD01-3上層	①(14.45)　②(7.9)	外面1/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。径4mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白5Y7/1～灰5Y6/1　外．灰白5Y7/2～灰オリーブ5Y6/2	
802	須恵器	鉢	2区SD01-4上層	①(30.4)　②(7.05)	外面1/2格子目タタキ、内面1/2同心円文当て具痕、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内．灰7.5Y5/1　外．灰白5Y7/1～7/2	
803	須恵器	壺	2区SD01-6上下層 SD01内直上包含層	②(4.0)　③(8.0)	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外．灰N4/	
804	須恵器	壺	2区SD01-3上層 2区SD01-3②下層 2区SD01-3・4間ベルト下層 2区SD01内直上包含層	②(9.1)　④13.75	外面1/2回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰5N/　外．灰7.5Y6/1～暗オリーブ灰2.5GY4/1	
805	須恵器	甕	2区SD01-5・6間ベルト上層	①(23.4)　②(5.8)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内外．黄橙7.5YR7/8～10YR8/6	

表30　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　　考
806	土師器	甕 or 甑	2区SD01-3 ②下層	②(6.25)	ナデ及び指頭圧痕	A:粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内．淡黄2.5Y8/3 外．にぶい黄橙10YR7/3 ～浅黄橙10YR8/4	
807	瓦	平瓦	2区SD01-8 下層	残存長8.5　幅5.55 厚2.0	摩滅のため調整不明	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:凸．淡黄2.5Y8/3 凹．にぶい黄橙10YR7/3	
808	瓦	平瓦	2区SD01-8・9間上下層	残存長4.35　幅3.85 厚1.5	摩滅のため調整不明	A:密。1～2mm以上の粗砂をほとんど含まない。B:不良。C:凹凸．浅黄橙7.5YR8/6～10YR8/4	
809	鉄製品	釘	2区SD01-5・6間ベルト上層	残存長3.0　幅1.5 厚1.5～1.2			810と同一個体か。
810	鉄製品	釘	2区SD01-5・6間ベルト上層	残存長6.1 幅1.0～0.85 厚1.0～0.8			809と同一個体か。
811	礫		2区SD01-6	残存長14.0 残存幅13.3 重1260g			花崗岩。被熱痕あり。
812	礫	円礫	2区SD01-1 上下層	全長1.3　幅1.05 厚0.5　重1.0g			砂岩。
813	礫	円礫	2区SD01-6・7間上層	全長1.65　幅1.2 厚0.75　重1.9g			石英。
814	礫	円礫	2区SD01-3・4間ベルト上層	長1.9　幅1.6 厚0.7　重2.7g			砂岩。
815	礫	円礫	2区SD01-1 上下層	全長2.1　幅1.95 厚0.55　重3.4g			部分的に赤色顔料？砂岩。
816	礫	円礫	2区SD01-3 上層	長2.75　幅1.75 厚0.9　重7.0g			泥岩。
817	礫	円礫	2区SD01-3 上層	長3.5　幅2.65 厚1.4　重15.3g			泥岩。
818	礫	円礫	2区SD01-2・3間ベルト	全長3.2　幅2.35 厚0.6　重6.1g			部分的に赤色顔料？砂岩。
819	礫	円礫	2区SD01-3・4間ベルト上層	長4.3　幅3.4　厚1.6 重36.0g			砂岩。
820	礫	円礫	2区SD01-3 上層	長さ4.2　幅2.8 厚1.45　重25.5g			花崗岩。
821	鉄滓		2区SD01-6 下層	長2.6　幅1.8　厚1.0 重4.9g			
822	鉄滓		2区SD01-8 上層	長2.5　幅2.75 厚2.05　重9.9g			
823	鉄滓		2区SD01-6・7間上層	長2.3　幅3.5　厚2.0 重18.0g			
824	鉄滓		2区SD01-4	長2.8　幅4.6　厚2.1 重20.2g			
825	鉄滓		2区SD01-5 上層	長3.4　幅5.2　厚1.7 重38.7g			
826	鉄滓		2区SD01-4・5間ベルト下層	長3.6　幅5.1 厚3.15　重63.6g			炭化物をかんでいた痕跡あり。
827	鉄滓		2区SD01-2・3間ベルト	長5.1　幅5.9　厚4.5 重62.7g			
828	鉄滓	製錬滓(流動滓)	2区SD01-2・3間ベルト	長5.1　幅7.1　厚5.7 重158.8g			
829	須恵器	杯身	2区SD01・SX11検出時 SD01-2・3区間ベルト	①(10.9)　②(3.3) 受部径(13.2)	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。径1mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰N5/　外．灰N4/	
830	須恵器	杯身	2区SD01・SX11検出時	②(3.7)　高台径(9.3) 高台高0.35	体部外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y8/1　外．灰白5Y7/1～灰N5/	
831	鉄滓	椀形鍛冶滓片	2区SD01・SX11検出時	長4.3　幅5.15 厚2.4　重55.2g			
832	鉄滓	椀形滓	2区SD01・SX11検出時	長5.2　幅4.1　厚3.3 重62.0g			
833	須恵器	杯	1・2区境SX11東半	①(10.8)　②(2.55) ③(8.0)	外面1/2回転ヘラ切り、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。径1mmの白色粗砂を少量含む。B:不良。C:内外．灰白5Y8/1	
834	須恵器	高杯	1・2区境SX11東半 2区中央トレンチ 2区SD01-3	①(20.0)　②(7.4)	杯部内面2/3回転ナデ、1/3回転ナデ、杯部外面2/3回転ヘラ切り、1/3回転ナデ、脚部回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外．灰7.5Y7/1～暗灰N3/	
835	須恵器	甕	1・2区境SX11東半	①(18.0)　②(5.3)	回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内．灰5Y7/1　外．灰5Y7/2	
836	土製品	土錘	1・2区境SX11東半	全長6.9　径2.05 孔径0.5　重26.6g	ナデ	A:やや粗。径1mmの白色粗砂を少量含み、角閃石・雲母を微量に含む。B:良好。C:内外．明黄褐10YR6/6～橙5YR6/6	
837	鉄滓		1・2区境SX11遺構検出時	長6.05　幅7.3 厚4.6　重310.0g			

表31　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
838	鉄滓		1・2区SX11遺構検出時	長5.5　幅6.2　厚2.8 重63.4g			炭化物をかんでいた痕跡多数あり。
839	須恵器	杯蓋	2区SD02	①(14.3)　②(2.3) 受部径(16.8)	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂をやや含む。B:やや不良。C:内外．灰白7.5Y8/1	
840	須恵器	杯蓋	2区SD02遺構検出時 2区SD02東側遺構面検出時	①(16.0)　②(1.45)	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:やや粗。径1～2mm以下の白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:内外．灰白7.5Y7/1	
841	須恵器	杯	2区SD02検出時	①(11.8)　②3.5 ③(7.0)	外面1/2回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内．灰白7.5Y7/1外．灰白5Y7/1	
842	須恵器	杯身	2区SD02	②(2.7)　高台径(8.6) 高台高(1.0)	底部外面回転ヘラ切り、底部内面回転ナデ？、他は回転ナデ	A:密。径1mm以内の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内．黄橙7.5YR8/8　外．浅黄橙10YR8/4	
843	須恵器	杯身	2区SD02 2区SD02東側遺構検出時	①(12.8)　②3.8 高台径7.8 高台高0.3	底部外面回転ヘラ切り後ナデ、底部内面回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰白N7/　外．灰N6/	
844	須恵器	杯身	2区SD02 2区SD03-2南側包含層	①14.2　②4.3 高台径9.35 高台高0.4	底部外面回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰白N7/　外．灰白5Y8/1～7/1・灰N6/	
845	須恵器	高杯	2区SD02	②(2.0) 脚裾部径(10.0)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰7.5Y6/1　外．灰5Y6/1	
846	土師器	椀	2区SD02検出時	②(2.1)　高台径(6.0) 高台高(1.4)	回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:内外．浅黄橙10YR5/4	
847	瓦	平瓦	2区SD02	残存長8.2 残存幅5.2 厚1.95	凹面不明、凸面平行タタキ	A:良。B:良好。C:凹凸．橙7.5YR7/6	
848	瓦	平瓦	2区SD02	残存長8.2 残存幅9.3 厚1.5	凹面当て具痕、凸面平行タタキ、側縁ヘラ切り	A:やや良。B:良好。C:凹凸．明黄褐10YR7/6～橙7.5YR6/6	
849	石製品	臼玉	2区SD02-SP02埋土	長0.9 幅0.9 厚0.6　重0.8g	研磨		滑石。
850	石製品	不明	2区SD02	長3.7 幅5.3 厚1.1　重26.9g			滑石。
851	鉄滓		2区SD02	長1.95　幅2.05 厚1.5　重6.0g			
852	鉄滓		2区SD02	長1.9　幅2.8　厚1.2 重5.7g			
853	須恵器	杯蓋	2区SD03-3下層	①(9.2)　②2.8 受部径(10.8) つまみ径1.5	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/3不定方向のナデ、つまみ部ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外．灰N4/	
854	須恵器	杯蓋	2区SD03-4上層	①(13.2)　②(1.7) 受部径(15.4)	内外面回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N4/　外．暗オリーブ灰2.5GY4/1	
855	須恵器	杯蓋	2区SD03-5上層	①(14.0)　②1.5 つまみ径(2.7) つまみ高0.5	回転ナデ、つまみ部ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外．灰N4/	
856	須恵器	杯蓋	2区SD03-1上層 2区SD02･03境包含層	①(16.8)　②2.4 受部径(17.0)	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/3不定方向のナデ、他回転ナデ	A:精良。B:やや良。C:内外．にぶい褐7.5YR5/4～橙7.5YR7/6	
857	須恵器	杯身	2区SD03-1･2間ベルト6層	①(8.4)　②(2.8) 受部径(10.2)	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰白5Y7/1　外．灰7.5Y6/1	外面にヘラ記号。
858	須恵器	杯身	2区SD03-5北段	①(10.3)　②3.2 受部径(12.0)	内面1/2不定方向ナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径1mm内の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外．灰白N7/	外面にヘラ記号？
859	須恵器	杯身	2区SD03-5上層	①(13.6)　②(3.7) 受部径(16.0)	底部回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．青灰5PB6/1外．灰7.5Y6/1～オリーブ黒10Y3/1	
860	須恵器	杯身	2区SD03-5上層	②(3.4)高台径(8.2) 高台高0.9	回転ナデ、底部回転ヘラ切り、高台部ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内外．灰白7.5Y8/1～7/1	
861	須恵器	杯身	2区SD03-5北段	②(2.0)　高台径(9.9) 高台高0.9	外面回転ナデ？、内面回転ナデ後不定方向ナデ、底部回転ヘラ切り	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N5/	外面にヘラ記号。
862	須恵器	杯身	2区SD03-4上層	①(14.4)　②5.05 高台径10.35 高台高1.0～1.2	内外面回転ナデ？、底部回転ヘラ切り？	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:不良。C:内．灰黄2.5Y7/2　外．灰白5Y7/2～8/2	
863	須恵器	杯身	2区SD03-2南側包含層	①(17.5)　②(6.25) 高台径(13.3) 高台高(0.95)	内外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内外．灰5Y8/1～7/1	
864	須恵器	杯	2区SD02 2区SD03-1上層 2区SD03南側包含層	①11.1 ②3.35～3.5　③4.3	外面1/2ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ	A:良。B:良好。C:内．灰N5/　外．灰N6/～灰N5/	
865	須恵器	高杯	2区SD03-2上層	①(25.6)　②(4.7)	外面3/4器面の摩滅により調整不明、内面2/3不定方向ナデ、他回転ナデ	A:良。B:良好。C:内．灰褐7.5YR4/2外．にぶい黄褐10YR5/3	

表32　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑦

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
866	須恵器	高杯	2区SD03-3下層	①(22.4)　②(1.6)	回転ナデ	A:密。B:良好。C:内外．灰N5/	
867	須恵器	高杯	2区SD03-2南側包含層	②(5.7) 脚裾部径(11.5)	脚部内外面回転ナデ	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内外．灰白5Y7/1	
868	須恵器	高杯	2区SD03-4上層	②(5.5)	外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A:密。径2mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰10Y6/1　外．灰7.5Y6/1～N6/	
869	須恵器	盤	2区SD03-1検出時	①(21.4)　②4.0	内外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰7.5Y6/1	
870	須恵器	椀	2区SD03-5	①(10.1)　②(5.3)	回転ナデ	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰白N7/	
871	須恵器	鉢	2区SD02 2区SD03-1検出時	①(23.8)　②(3.0)	器面が摩滅しているがおそらくナデ	A:良。B:やや良。C:内外．灰黄2.5Y7/2	
872	須恵器	平瓶or壺？	2区SD03-3･4間ベルト上層	②(2.6)	外面1/4ナデ、1/4刺突文、1/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:良。B:良好。C:内外．緑灰10GY6/1	
873	須恵器	壺？	2区SD03-1上層 2区SD03南側包含層 2区SD02･03境包含層	②(4.4)　③7.4	底部外面1/2ヘラ切り、底部内面不定方向ナデ、他回転ナデ	A:良。B:良好。C:内．灰7.5Y6/1　外．灰白N7/～灰7.5Y5/1～灰N4/	
874	須恵器	壺？	2区SD03-2下層	②(1.9) 高台径(10.4)	内面回転ナデ、底部ヘラケズリ	A:精良。B:良好。C:内．青灰5PB6/1　外．灰N6/～灰N5/	
875	須恵器	甕	2区SD03-4上層	②(7.3)	内外面回転ナデ、外面波状文あり	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰7.5Y6/1　外．灰N4/	
876	土師器	小皿	2区SD03-5下層	①(6.6)　②1.25 ③(4.4)	内外面回転ナデ、底部回転糸切り	A:密。径1mm以内の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内．浅黄橙10YR8/4、にぶい黄橙10YR7/3	
877	土師器	杯蓋	2区SD03-1上層 2区SD02･03境包含層	①14.2　②2.5 受部径16.4 つまみ径2.5	外面2/3回転ヘラケズリ、1/3回転ナデ、内面1/2不定方向ナデ、他回転ナデ	A:やや粗。B:やや良。C:内外．橙7.5YR6/6	
878	土師器	杯	2区SD03-2上層	①(14.2)　②4.25 ③7.0	外面回転ナデ、内面器面の摩滅により調整不明、底部ヘラ切り後ナデ	A:良。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR6/1　外．にぶい黄橙10YR6/3～にぶい橙7.5YR6/4	
879	弥生土器	甕	2区SD03-2上層	②(2.15)　③(8.2)	外面ハケメ？、内面ナデ、底部器面の摩滅により調整不明	A:粗。B:良好。C:内．にぶい黄橙10YR7/4外．浅黄橙10YR8/3～にぶい橙7.5YR7/4	
880	白磁	椀	2区SD03-5下層	①(13.0)　②(2.5)	施釉	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:灰白7.5Y8/2	
881	白磁	椀	2区SD03-5下層	②(2.4)高台径(6.65) 高台高1.4	内外面施釉、底部削り出し	A:密。B:良好。C:釉．灰白2.5Y8/2　胎土．淡黄2.5Y8/3	
882	青磁	椀	2区SD03-5上層	②(1.5)	施釉	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:青みを帯びた緑	龍泉窯系。
883	瓦	丸瓦	2区SD03-5北段	残存長9.7　幅4.25 厚1.1	凸面タタキ痕、凹面ナデ、側縁部ヘラケズリ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:凸．にぶい赤褐2.5YR5/3　凹．赤灰2.5YR6/1～5/1	
884	瓦	丸瓦	2区SD03-4上層	残存長10.45 残存幅9.35　厚1.4	凸面平行タタキ？、凹面板目か布目の痕？	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:凸．淡黄2.5Y8/5　凹．灰白5Y8/2	
885	瓦	平瓦	2区SD03-5上層	残存長4.9 残存幅3.9　厚1.55	凸面ヘラケズリ、凹面布目痕	A:密。径1mm以内の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:凸．にぶい赤褐5YR5/3　凹．灰褐5YR6/2	887と同一個体か？
886	瓦	平瓦	2区SD03-5	残存長8.45 残存幅8.85　厚2.15	凹面ナデ、凹面1/3模骨痕？およびナデ、凸面ナデ	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:凹凸．灰白7.5Y8/1～10Y7/2	
887	瓦	平瓦	2区SD03-5上層	残存長4.8 残存幅5.5　厚1.5	凸面平行タタキ、凹面布目痕およびタタキ痕	A:密。径1mm以内の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:凸．にぶい赤褐5YR5/3　凹．灰褐5YR6/2	885と同一個体か？
888	瓦	平瓦	2区SD03-5北段	残存長6.05 残存幅10.45　厚1.5	凹面模骨痕・布目痕？、摩滅のため不鮮明、凸面タタキ？摩滅の為不鮮明、側縁部ヘラケズリ？	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:不良。C:凹凸．灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3	
889	瓦	平瓦	2区SD03-5下層	残存長8.9 残存幅9.0　厚1.7	凹面器表摩滅のため調整不明、凸面平行タタキか？、摩滅のため不鮮明、上端部ナデおよび面取り	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:凹凸．浅黄橙7.5YR8/6～灰白10YR8/6	
890	鉄滓		2区SD03-5上層	長2.9　幅3.8　厚2.3 重31.4g			
891	鉄滓		2区SD03-4上層	縦1.85　横2.5 厚1.5　重5.4g			
892	須恵器	杯蓋	2区SD04 SD01・SX11検出時	①(13.2)　②2.4 受部径(15.4) つまみ径(2.6) つまみ高1.0	外面1/2回転ナデ、天井部回転ヘラ切り、つまみ部ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A:密。1mm以内の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白7.5Y7/1～灰N4/	
893	須恵器	杯身	2区SD04	①13.1　②(3.3) 受部径(14.7)	器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:内．淡黄2.5Y8/4～黄2.5Y8/6　外．灰白2.5Y8/2	

表33　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑧

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
894	須恵器	高杯	2 区 SD04	②(12.7) 脚裾部径(16.0)	外面 1/2 カキメ、他回転ナデ	A:やや粗。1 ～ 2 mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内 . 灰N6/～N5/　外 . 灰N5/～暗灰 N3/	
895	須恵器	杯蓋	1 区 SX09-1 層	①(12.4)　②(2.5)	端部形成ナデ、回転ナデ	A:やや粗。径 1 ～ 2mm の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．N5/　外．暗灰 N3/	
896	須恵器	杯蓋	1 区 SX09	①(14.9)　②(3.9)	外面 1/5 回転ヘラケズリ？、2/5 沈線または強い回転ナデ、2/5 回転ナデ、内面 1/3 回転ナデ後不定方向ナデ、2/3 回転ナデ	A:密。径 1 ～ 2mm の白色粗砂を含む。B:良好。C:内．灰白 N7/　外．灰 N6/	
897	須恵器	高杯蓋	1 区 SX09-1 層(No.1) SX08 東半	① 12.0　②(4.9) つまみ径(2.6) つまみ高(0.9)	外面 1/2 カキメ、1/2 回転ナデ、内面 1/3 ナデ、2/3 回転ナデ	A:やや粗。径 1 ～ 4mm のやや大粒の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰 N5/　外．暗灰 N3/	
898	須恵器	杯身	1 区 SX09	①(13.0)　②(3.8) 受部径(14.8)	外面 4/5 回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:やや粗。径 1 ～ 3mm のやや大粒の白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰 N5/(口縁部外面まで)灰 N6/(重ね焼き)　外．黒 N2/	
899	須恵器	椀	1 区 SX09	①(11.4)　②(5.1)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/2 回転ナデ、内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ、1/2 回転ナデ	A:密。径 1mm 以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰 N6/　外．灰 N5/	
900	須恵器	皿？	2 区 SX13	②2.3	回転ナデ	A:密。径 1 ～ 2mm の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰N 4/　外．灰白 7.5 Y 7/1	
901	須恵器	高杯	2 区 SX13 2 区 SX13 焼土塊中	① 11.7　受部径 14.0 ②5.0	杯部外面 1/2 回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A:密。径 1 ～ 2mm の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外．灰N 6/	
902	須恵器	高杯	2 区 SX13	②2.2 脚裾部径(12.7)	回転ナデ	A:密。径 1mm 程の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰N 6/　外．灰N 4/	
903	須恵器	杯蓋	1 区 SP19	①(10.8)　②(2.2)	回転ナデ	A:密。1mm 以下の白色粗砂を少し含む。B:やや良好。C:内 . 灰 N6/　外 . 灰 7.5Y6/1	
904	須恵器	杯身	1 区 SP19	①(12.5)　②(3.0) 受部径(15.1)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1 mm 程の白色粗砂を少し含む。B:やや良。C:内 . にぶい黄橙 10YR6/3　外 . 橙 5YR6/6	
905	須恵器	椀	1 区 SP20	①(11.1)　②5.1	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/2 不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。1 ～ 3 mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや不良。C:内 . 灰白 N7/・灰 N5/　外 . 明青灰 5PB7/1	底部外面にヘラ記号。
906	須恵器	杯蓋	1 区 SP23	①(13.0)　②(0.8)	回転ナデ	A:密。B:良好。C:内 . 灰 N4/　外 . 灰 N6/・暗灰 N3/	
907	須恵器	杯身	1 区 SP23	②(2.4)　高台径(9.1) 高台高 1.0	外面高台貼付後回転ナデ、内面 1/2 不定方向ナデ、底部外面ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1 ～ 2 mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内 . 灰 N6/～5/　外 . 灰 N4/～暗灰 N3/	
908	鉄滓		1 区 SP31	長3.2　幅2.1　厚1.5 重 9.3g			
909	須恵器	鉢	1 区 SP43	②(13.5)	回転ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂・赤色粒子を少し含む。B:やや不良。C:内 . 灰白 5Y7/1　外 . にぶい赤褐 5YR5/4・灰白 10YR8/2	
910	礫	円礫	2 区 SP53・54	縦 1.45　横 1.7 厚 0.55　重 1.9g			砂岩。
911	礫	円礫	2 区 SP55	縦 1.4　横 1.65 厚 0.56　重 1.5g			蛇紋岩。
912	礫		2 区 SP62	長 13.1　幅 11.5 厚 10.0　重 1770g			花崗岩。被熱痕あり。
913	須恵器	杯身	2 区 SP66	高台径(8.4) 高台高 0.9	回転ナデ	A:密。1 mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内 . 灰白 7.5Y7/1　外 . オリーブ灰 2.5GY6/1	
914	須恵器	杯身	2 区 SP66	②1.3　高台径(11.6) 高台高 0.4	内面 1/2 不定方向ナデ、底部ヘラ切り？、他回転ナデ	A:密。1 mm以下の白色粗砂をごく僅かに含む。B:やや不良。C:内外 . 灰白 7.5Y8/1 ～ 7/1	
915	須恵器	鉢	2 区 SP66	①(22.6)　②(3.9)	回転ナデ	A:密。1 ～ 2 mm程の白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:内 . 灰黄 2.5Y7/2 ～ 6/2　外 . にぶい橙 2.5YR6/3・灰 5Y6/1	
916	土師器	甑？	2 区 SP81	①(27.0)　②(6.5)	摩滅のため調整不明	A:粗。B:良好。C:内 . にぶい黄橙 10YR 7/4。外 . 浅黄橙 10YR8/3 ～にぶい黄橙 10YR6/3 ～黒褐 10YR3/1	
917	須恵器	杯身	2 区 SP102 柱痕	①(11.6)　②2.9 ③(4.2) 受部径(12.8)	底部回転ヘラケズリ、内面 1/5 不定方向ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	外面にヘラ記号。
918	須恵器	杯身	2 区 SP102 掘方 2 区 SP102 2 区 SP102 柱痕	①(14.5)　②4.15 高台径(20.2) 高台高 0.3	底部ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外 . 灰白 10Y7/1	
919	須恵器	杯身	2 区 SP105 柱痕	①(9.2)　②2.85 受部径(11.4)	内面 1/3 不定方向ナデ、底部ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内 . 灰 N6/　外 . 灰 N5/	
920	土師器	小皿	SP111	①(10.8)　②1.35 ③7.5	器面の摩滅により調整不明	A:良。B:やや良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/2 ～灰白 2.5Y7/1	
921	瓦	平瓦	2 区 SP112	残存長 6.1 残存幅 6.75 厚 1.8	凸面タタキ	A:やや粗。B:不良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/2 ～浅黄 2.5Y7/4　断面 . 橙 2.5Y7/4	

表34　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑨

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
922	須恵器	鉢	2区SP129掘方	①(17.5)　②7.3 ③(9.0)	外面2/3静止ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、底部1/2不定方向ナデ、1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:良。B:良好。C:内．灰N4/　外．灰N6/～暗灰N3/	
923	須恵器	杯蓋	2区SP142	①(12.8)　②(2.35) 受部径(15.0)	回転ナデ	A:良。B:やや良。C:内外．灰7.5Y6/1	
924	須恵器	杯身	2区SP142	②(2.1)	回転ナデ	A:密。B:良好。C:内．紫灰5P6/1　外．灰白N7/～灰N4/	
925	土師器	丸底杯	2区SP142	①(15.9)　②3.5 ③(5.0)	器面の摩滅により調整不明	A:粗。B:良好。C:内．灰白2.5Y8/2　外．淡黄2.5Y8/3	
926	須恵器	杯蓋	2区SP153	①(12.0)　②(2.8)	回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外．灰N5/	
927	須恵器	椀	2区SP153	②(4.75)　③7.6	内外面回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:粗。B:良好。C:内外．灰白5Y7/1～暗灰N3/	
928	須恵器	杯身	2区SP154	①8.5　②4.05 受部径10.7	内面2/3器面の摩滅の為調整不明、底部ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:やや良。C:内．明黄褐10YR6/6～灰黄褐10YR4/2　外．明黄褐10YR7/6～褐灰10YR4/1	
929	須恵器	鉢	2区SP154	①(18.0)　②6.5	外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ、他不定方向ナデ	A:精良。B:良好。C:内．灰10Y6/1　外．灰白7.5Y7/1～灰10Y5/1	
930	土師器	甕	2区SP154	①(30.3)　②(10.6)	外面ハケメ、内面ヘラケズリ、口縁部ナデ	A:粗。B:良好。C:内外．橙7.5YR7/6	
931	礫		2区SP64	長14.4　幅16.4 厚9.8　重2430g			花崗岩。被熱痕あり。
932	須恵器	杯身	2区SP166	①(15.4)　②(3.45)	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B:やや良好。C:内外．灰白N7/	
933	須恵器	椀	2区SP170柱痕 2区SP170掘方(上)	①(10.3)　②(4.1)	回転ナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰N4/　外．暗灰N3/	
934	礫	円礫	2区SP170掘方	縦1.2　横1.45 厚0.37　重1.0g			砂岩。
935	須恵器	杯蓋	2区SP173柱痕	①(12.0)　②3.3	外面1/4回転ヘラ切り、3/4回転ナデ、他強い回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰N6/～N4/　外．灰N5/	
936	須恵器	高杯	2区SP176	①(9.7)　②(3.1)	外面1/3強い回転ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰N4/～10Y6/1　外．灰10Y5/1	
937	須恵器	杯蓋	2区SP180	①(14.4)　②3.4 つまみ径2.65 つまみ高0.9	外面1/3回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、つまみ回転ナデ、他回転ナデ	A:密。B:良好。C:内．にぶい褐7.5YR5/4～褐灰7.5YR5/1　外．黄灰2.5Y6/1～にぶい褐7.5YR5/4～にぶい黄橙10YR6/3	
938	礫	円礫	2区SP188	最大長2.5　幅1.8 厚1.1　重4.6g			砂岩。
939	鉄滓		2区SP180掘方	長3.1　幅1.65 厚1.65　重7.4g			
940	土師器	甑	2区SP181	②(4.0)　③(22.0)	摩滅のため調整不明	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:不良。C:内外．橙7.5YR6/8	
941	鉄滓		2区SP181	長3.15　幅2.0 厚2.1　重11.8g			
942	石器	打製石鏃	2区SP185	残存長1.4 残存幅1.5　厚0.3 抉長0.7　残重0.4g			安山岩。
943	須恵器	杯蓋	2区SP187	①(11.8)　②(1.65) 受部径(14.0)	回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:内外．灰白N7/	
944	須恵器	杯蓋	2区SP188 2区杭A下包含層-3	①(14.0)　②2.15 つまみ径1.5 つまみ高0.8	外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、つまみ部ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰N6/	
945	須恵器	杯蓋	2区SP195	①(12.5)　②3.75	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N4/	
946	土師器	甑	2区SP195	①(22.0)　②(7.9)	内面2/3ヘラケズリ、外面摩滅の為調整不明	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内．黄橙10YR8/6～橙7.5YR7/6　外．橙7.5YR7/6	
947	土師器	甕or甑	2区SP197	②(7.8)	ナデおよび指頭圧痕	A:粗。径5mm以下の大粒の白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:内．橙7.5YR6/6　外．橙7.5YR7/6	
948	須恵器	杯身	2区SP205	①(14.8)　②(4.2)	内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:やや不良。C:内．灰白10Y7/1　外．灰褐5YR6/2～にぶい黄褐10YR7/3	高台欠損。
949	鉄滓		2区SP209	長2.65　幅2.2 厚2.15　重15.6g			
950	須恵器	杯蓋	2区SD02周辺土器群No.5 2区SD02周辺土器群No.6	①(14.8)　②2.5 受部径(17.6)	外面1/2回転ヘラケズリ、内面2/3不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。B:良好。C:内．灰N5/～N6/　外．灰N4/～暗灰N3/	天井部外面に竹管文あり。
951	須恵器	杯身	2区SD02周辺土器群No.17	①(18.65)　②5.8 高台径12.5 高台高0.5	内面1/2不定方向ナデ、底部ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B:不良。C:内．灰白5Y8/1　外．灰白N8/	
952	須恵器	杯身	2区SD02周辺土器群No.16	①11.55　②3.8 高台径8.0 高台高0.55	内面1/2不定方向ナデ、底部ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1mmほどの白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内外．灰白N7/	

表35　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑩

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
953	須恵器	杯身	2区SD02 周辺土器群 No.13	①(14.3)　②(3.1)	回転ナデ	A:密。1mmほどの白色粗砂を僅かに含む。B:不良。C:内外．灰白 N8/	
954	瓦	平瓦	2区SD02 周辺土器群 No.26	残存長 19.8 残存幅 16.7　厚 1.7	凸面平行タタキ、凹面布目、模骨痕、側縁部ヘラ切り	A:やや密。1～3mm程の白色粗砂・雲母片を多少含む。B:やや良。C:凸．橙 5YR6/8・7/8　凹．橙 5YR6/8・7/8、明赤褐 5YR5/6	
955	瓦	平瓦	2区SD02 周辺土器群 No.24	残存長 13.2 残存幅 17.0　厚 1.8	凸面平行タタキ、凹面模骨痕、側縁部ヘラ切り	A:白色石粒を僅かに含む。B:不良。C:凹凸．浅黄橙 7.5YR8/4～橙 5YR7/8	
956	瓦	平瓦	2区SD02 周辺土器群 No.28	残存長 10.7 残存幅 12.2　厚 1.5	凸面平行タタキ、凹面ヘラケズリ、上端部ヘラ切り	A:やや密。B:やや良。C:凸．橙 7.5YR7/8 凹．橙 7.5YR7/6・浅黄橙 7.5YR8/4	
957	土製品	長方形塼	2区SD02 周辺土器群 No.1	残存長 20.6 残存幅 13.5　厚 5.4	ナデ、一部ヘラケズリ	A:密。1～4mm程の白色砂礫を多く、金雲母を多少含む。B:良好。C:灰白 10YR8/1・浅黄 2.5Y7/3	
958	鉄製品	釘？	2区SD02 周辺土器群 No.1の下	残存長 3.75 残存幅 5.5　厚 0.4			
959	須恵器	杯蓋	2区SD02 北側 No.1	①7.7～10.5　②3.4 受部径 9.85～12.0	天井部回転ヘラ切り、内面1/2回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良好。C:内外．灰 N5/～暗灰 N3/	歪みが著しい。外面にヘラ記号。
960	須恵器	杯蓋	2区SD02 北側土器群 No.53	①(12.6)　②4.05 受部径(15.0) つまみ径 2.85 つまみ高 0.95	外面1/3回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 N4/　外．灰 N4/～暗灰 N3/	
961	須恵器	杯蓋	2区SD02 北側土器群 No.50	①(13.4)　②3.7 受部径 15.1 つまみ径 2.55 つまみ高 1.1	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、他回転ナデ	A:やや粗。1～2mmの白色粗砂を少し含む。B:不良。C:内．橙 5YR6/8　外．橙 5YR7/8～6/8	
962	須恵器	杯身	2区SD02 北側 No.14	①9.75　②3.0 受部径 11.7	内面2/3回転ナデ後ナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰 5Y5/1　外．5Y6/1～5/1	外面にヘラ記号。
963	須恵器	杯身	2区SD02 北側包含層 ベルト	①(9.2)　②(3.4) 受部径(11.3)	底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰 N6/　外．灰白 N7/	外面にヘラ記号。
964	須恵器	杯身	2区SD02 北側包含層 ベルト	①(13.3)　②3.7 高台径 8.9 高台高 0.7	内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を含む。B:良好。C:内．灰 N6/　外．灰 N5/	底部外面にヘラ記号。
965	須恵器	杯身	2区SD02 北側包含層 ベルト	①13.9　②4.2 高台径 8.1 高台高 0.8	内面1/2回転ナデ後不定方向ナデか？、底部回転ヘラ切り後不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内．黄灰 2.5Y4/1　外．灰黄褐 10YR4/2～にぶい黄褐 10YR5/4	底部外面にヘラ記号。
966	須恵器	杯身	2区SD02 北側土器群 No.48 2区SD03-2 直上包含層	①13.75　②4.3	内面1/2不定方向ナデ、底部ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。1～3mmの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰 N6/　外．暗灰 N3/	外面にヘラ記号。
967	須恵器	杯身	2区SD02 北側土器群 No.59	①15.45　②6.8 高台径 8.1 高台高 0.95	外面1/3回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、底部ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。1～4mm程の白色砂礫を多少含む。B:良好。C:内．灰赤 2.5YR5/2　外．暗緑灰 7.5GY4/1	
968	須恵器	杯身	2区SD02 北側 No.16	①(14.1)　②7.4 高台径(9.4)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ナデ、底部内面回転ナデ後ナデ	A:密。径4mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰 N5/　外．灰白 7.5Y6/1～灰 N5/	
969	須恵器	杯身	2区SD02 北側 No.6 2区SD02･03 境包含層 2区SD03 南側包含層	②(4.4) 高台径(10.6)	内面1/2回転ナデ後ナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径4mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内．にぶい橙 5YR6/4　外．にぶい橙 5YR6/3～7.5YR7/4	
970	須恵器	杯身	2区SD02 北側 No.26 2区SD02 北側 No.17 2区SD03-1 直上包含層	①(14.7)　②(5.15) 高台径(9.3)	器表摩滅のため調整不明	A:やや粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:不良。C:内外．浅黄 2.5Y7/3	
971	須恵器	杯	2区SD02 北側土器群 No.66	①12.9　②3.35 ③9.2	内面1/2不定方向ナデ、底部ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。1～2mmほどの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰 N6/　外．灰 N6/～N5/	外面にヘラ記号。
972	須恵器	杯	2区SD02 北側土器群 No.49 2区SD03-2 上層 2区SD03-2 直上包含層 2区SD02 北側土器群 No.53	①13.8　②5.6 ③7.6	内面1/2不定方向ナデ、底部ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。1～3mmの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内外．灰白 N7/	外面にヘラ記号。
973	須恵器	高杯	2区SD02 北側 No.4 2区SD02･03 境包含層	①(14.9)　②8.95 脚裾部径 9.15	杯部外面1/2回転ヘラ切り後回転ナデ、杯部内面1/2回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:やや粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良好。C:杯内．灰 N6/　脚内．灰 N5/　外．灰白 N7/～灰 N5/	
974	須恵器	皿	2区SD02 北側 No.29 2区SD02 北側 No.57	①22.1　②4.05	器表摩滅のため調整不明	A:密。径5mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内．淡黄 5Y8/3～淡黄 2.5Y7/4　外．淡黄 5Y8/3	
975	須恵器	壺蓋	2区SD02 北側土器群 No.62	①(6.6)　②2.6	外面1/2ヘラ切り後不定方向ナデ、内面1/5不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。1mmほどの白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．青灰 5PB6/1～5/1　外．灰 N6/～N5/	
976	須恵器	盤	2区SD02 北側土器群 No.61 2区SD03-2 南側包含層	①(19.4)　②5.2 高台径 11.1 高台高 1.55	内面2/3不定方向ナデ、高台貼り付け後ヨコナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:粗。1～3mm程の白色粗砂・石英を多く含む。B:不良。C:内．灰オリーブ 5Y6/2～オリーブ黄 5Y6/3　外．黄褐 2.5Y5/3	金属器模倣。
977	須恵器	大甕	2区SD02 北側土器群 No.52	①(40.9)　②(9.5)	摩滅のため調整不明、外面に波状文あり	A:密。1～2mm以下の白色粗砂多少、および赤色粒子を僅かに含む。B:不良。C:内．にぶい黄橙 10YR7/3～7/4　外．浅黄 2.5Y7/3・灰白 2.5Y8/2	

表36　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑪

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
978	土師器	甕	2区SD02北側No.19	①(14.3)　②(4.85)	外面器表摩滅のため調整不明、内面ヘラケズリ、口縁部内面ハケメ	A:粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内．にぶい黄橙10YR7/4　外．にぶい黄橙10YR7/4～橙5YR6/6	内面煤付着。
979	土師器	甕or甑	2区SD02北側No.15	②(7.4)	外面ナデ及び指頭圧痕、内面ヘラケズリ後ナデ	A:やや粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良。C:内外．橙2.5YR6/8	
980	瓦	丸瓦	2区SD02北側No.31	残存長12.6 残存幅8.6 残存厚7.85	凸面格子目タタキ、凹面ナデ及び指頭圧痕	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:凹．にぶい褐7.5YR6/3　凸．にぶい褐7.5YR6/3～橙7.5YR6/8	
981	瓦	丸瓦	2区SD02北側土器群No.54	残存長14.0 残存幅5.8 残存厚1.3	凸面平行タタキ、凹面布目痕	A:やや粗。1～2mm程の白色粗砂を少し含む。B:不良。C:凹．灰白5Y8/1～7/1 凸．灰白2.5Y8/1～7/1	
982	瓦	平瓦	2区SD02北側No.21	残存長8.8 残存幅15.9　厚3.6	凸面平行タタキ、凹面ヘラケズリ？、および指頭圧痕か？摩滅のため不明瞭	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凹．淡黄2.5Y8/3～にぶい黄橙10YR6/4　凸．淡黄2.5Y8/3	
983	瓦	平瓦	2区SD02北側No.2	残存長22.3 残存幅19.35 厚3.4	凸面平行タタキ、凹面ヘラケズリ	A:やや粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:やや不良。C:凹．浅黄2.5Y7/4～にぶい黄橙10YR7/4　凸．淡黄2.5Y 8/3～浅黄橙10YR8/3	
984	瓦	平瓦	2区SD02北側No.27	残存長9.55 残存幅9.2　厚2.8	凸面平行タタキ、凹面器表摩滅のため調整不明	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凹凸．灰白5Y8/2～橙7.5YR6/6	
985	瓦	平瓦	2区SD02北側土器群No.45	残存長7.3 残存幅7.4　厚1.4	凸面平行タタキ？、凹面布目痕？	A:やや密。B:やや不良。C:凸．浅黄橙10YR8/4･灰白10YR8/1　凹．橙7.5YR7/6	
986	瓦	平瓦	2区SD02北側土器群No.60	残存長10.5 残存幅9.5 厚2.0	凸面平行タタキ、凹面摩滅しているが布目痕？	A:やや粗。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや不良。C:凸．橙5YR7/6～6/6　凹．橙7.5YR7/6	
987	瓦	平瓦	2区SD02北側土器群No.33	残存長9.4 残存幅9.0 厚1.7	凸面平行タタキ、凹面模骨痕･布目痕、側縁部面取り	A:やや密。1～2mmの白色粗砂を多少含む。B:やや不良。C:凹．橙5YR6/8　凸．橙7.5YR7/6	
988	須恵器	杯蓋	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ	①(12.6)　②4.0	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面1/2回転ナデ後ナデ、1/2回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内．灰白5Y7/1　外．灰白7.5Y7/1～灰N6/	外面にヘラ記号？
989	須恵器	杯蓋	1区第2面包含層Ⅱ・Ⅲ間ベルト 1区第2面包含層Ⅱ	①(12.95)　②(2.1) つまみ径(2.1)	外面1/2回転ナデ、1/2回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面1/2回転ナデ後ナデ、1/2回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白N7/～灰N6/	
990	須恵器	杯蓋	1区第2面包含層Ⅱ 1区第2面包含層Ⅰ	①(14.8)　②(2.5)	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面1/2回転ナデ後ナデ、1/2回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰白N7/～灰N5/　外．灰白N7/～灰N6/	
991	須恵器	杯蓋	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱベルト1層	①15.9　②3.4 つまみ径2.8	外面1/2回転ナデ、1/2回転ヘラケズリ、内面2/3回転ナデ後ナデ、1/3回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白N7/～灰N6/	
992	須恵器	杯蓋	1区第2面包含層Ⅱ	①(16.8)　②(1.8)	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面1/3回転ナデ後ナデ、2/3回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白5Y7/1	
993	須恵器	杯蓋	1区第2面包含層Ⅲ	①(19.0)　②(1.5)	回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:やや不良。C:内外．灰白5Y8/1～7/1	
994	須恵器	杯身	1区第2面包含層Ⅲ	①(10.4)　②3.3 受部径(12.2)	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、1/2回転ナデ	A:密。径1～3mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内．灰白5Y8/1　外．灰白5Y7/1	
995	須恵器	杯身	1区第2面包含層Ⅰ	①(10.9)　②4.0 受部径(12.7)	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ、1/3回転ナデ	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．灰白N7/　外．灰N6/	外面にヘラ記号。
996	須恵器	杯身	1区第2面包含層Ⅲ	①(10.8)　②3.2 受部径(13.3)	外面1/3回転ヘラケズリ、2/3回転ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、1/2回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N5/	
997	須恵器	杯身	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ	①(12.6)　②3.7 受部径(14.6)	外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:粗。径4mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良好。C:内．灰黄褐10YR6/2～褐灰10YR5/1　外．灰10Y5/1	外面にヘラ記号。
998	須恵器	杯身	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ 1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ間ベルト1層	①(14.1)　②3.85 高台径(9.1)	底部1/2回転ヘラ切り後ナデ、外面1/2回転ナデ、内面ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰N5/	外面にヘラ記号。
999	須恵器	杯身	1区第2面包含層Ⅰ	②(1.2) 高台径(10.0) 高台高0.5	底部回転ヘラ切り、他は回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白N7/	
1000	須恵器	杯	1区第2面包含層Ⅰ	①11.0　②3.1 ③8.1	底部1/2回転ヘラ切り、外面1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外．灰白5Y8/1～7/1	
1001	須恵器	杯	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ	①10.9　②2.2 ③8.8	底部1/2回転ヘラ切り後ナデ、外面1/2回転ナデ、内面1/3回転ナデ後ナデ、2/3回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N6/～灰白N5/	
1002	須恵器	杯	1区第2面包含層Ⅰ	①11.0　②2.7 ③7.7	底部1/2回転ヘラ切り、外面1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内外．灰白2.5Y8/1	

表37　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑫

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1003	須恵器	高杯	1区第2面包含層Ⅰ 1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ 1区SX03	②(7.2) 脚裾部径(16.9)	回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白7.5Y8/1～灰7.5Y6/1	
1004	須恵器	壺	1区第2面包含層Ⅲ	底径(9.7)　②(6.6)	体部外面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り後ナデ?、内面回転ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:やや不良。C:内．灰白7.5Y8/2・5Y7/1　外．灰白7.5Y7/1・10Y7/1	
1005	須恵器	壺	1区第2面包含層Ⅰ	②(3.5)	回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外．灰N6/	
1006	須恵器	水瓶	1区第2面包含層Ⅲ	①(3.0)　②(3.2)	回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N4/	
1007	須恵器	瓶類?	1区第2面包含層Ⅲ	②(4.2)	ナデ	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:灰N6/	
1008	黒色土器B類	椀	1区第2面包含層Ⅱ・Ⅲ間ベルト	①(14.6)　②6.15 高台径6.9	外面1/2ヘラミガキ、1/2器表摩滅のため調整不明、内面1/2ヘラミガキ、1/2器表摩滅のため調整不明	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．黄灰2.5Y4/1～灰黄2.5Y7/2　外．灰5Y4/1～灰白2.5Y7/2	
1009	土師器	器台	1区第2面包含層Ⅱ・Ⅲ間ベルト	②(7.1)	外面ナデ及び指頭圧痕	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内外．灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1	
1010	土師器	甕or甑	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ	残存長3.4 残存幅4.7	ナデおよび指頭圧痕	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良。C:内．浅黄橙10YR8/3　外．にぶい黄橙10YR7/3～6/3	
1011	土師器	甑	1区第2面包含層Ⅱ・Ⅲ間ベルト 1区第2面包含層Ⅱ	②(10.2) 裾部径(26.0)	器表摩滅のため調整不明	A:粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良好。C:内．橙5YRY7/8～にぶい橙7.5YR6/4　外．浅黄橙10YR8/3～橙7.5YR7/6	
1012	弥生土器	甕	1区第2面包含層Ⅰ	②(3.2)	ナデ、口縁端部に刻目	A:やや粗。径3mm以下の石英・長石をやや多く含み赤色粒子を少量含む。B:良好。C:内．黒褐10YR3/1　外．にぶい黄橙10YR6/3	
1013	弥生土器	甕	1区第2面包含層Ⅰ	②(3.9)	外面ナデ、内面ナデか?、摩滅のため不鮮明、口縁端部に刻目	A:やや粗。径1～3mmの石英・長石をやや多く含む。B:良好。C:内．褐灰10YR6/1　外．にぶい黄橙10Y7/3	
1014	弥生土器	甕	1区第2面包含層Ⅰ	②(3.6)	ナデ、口縁端部・突帯に刻目	A:やや粗。径1～3mmの石英・長石をやや多く含む。B:良好。C:内．橙7.5YR7/6　外．灰黄褐10YR5/2～黒褐10YR3/1	
1015	弥生土器	甕	1区第2面包含層Ⅱ	②(3.15)　③(6.7)	外面器表摩滅のため調整不明、内面ナデ	A:粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内．灰黄褐10YR6/2　外．にぶい黄橙10YR7/2～橙5YR6/6	
1016	弥生土器	甕	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ間ベルト1層	②(5.4)　③7.5	底部ナデ?、外面器表摩滅のため調整不鮮明、内面ナデ及び指頭圧痕	A:粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内．にぶい黄橙10YR7/2～褐灰10YR5/1　外．にぶい黄橙10YR7/4～橙2.5Y7/8	
1017	弥生土器	甕	1区第2面包含層Ⅰ・Ⅱ	②(6.05)　③(7.8)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径4mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内．浅黄橙10YR8/3～灰黄褐10YR4/2　外．橙2.5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/3	
1018	弥生土器	甕	1区第2面包含層Ⅰ	②9.3　③(8.0)	ナデ	A:粗。3～5mmの石英・長石を多く含む。B:やや不良。C:内．灰黄褐10YR4/2　外．橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR7/4	
1019	弥生土器	壺	1区第2面包含層Ⅱ	②(6.1)　③(3.8)	体部外面1/5ヨコナデ、4/5ナデ、底部外面ナデ、内面ナデ及び指頭圧痕	A:粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良。C:内．明黄褐10YR6/6　外．明黄褐10YR6/6～にぶい黄橙10YR6/3	
1020	石器	二次加工のある剥片	1区第2面包含層Ⅱ	長5.95　幅3.7 厚1.25　重25.3g			安山岩。
1021	須恵器	杯蓋	2区SD01内直上包含層	②(2.6) つまみ径1.8	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/2回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:良好。C:内．灰10Y5/1～7.5Y6/1　外．灰白7.5Y7/1	
1022	須恵器	杯蓋	2区SD01内直上包含層	①(13.5)　②(1.9) 受部径(16.4)	回転ナデ	A:やや粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良好。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰7.5Y6/1	
1023	須恵器	杯蓋	2区SD01内直上包含層 2区耕作土溝4	①(15.0)　②(1.25)	外面2/3回転ヘラケズリ、内面1/2回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内外．灰白5Y8/1	
1024	須恵器	杯蓋	2区SD01直上包含層 2区SD01-6上層	①(16.7)　②(1.3) つまみ径(2.4)	天井部回転ヘラ切り後回転ナデ、内面3/4回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N4/～灰白N7/	
1025	須恵器	杯身	2区SD01内直上包含層	①(10.3)　②3.65 受部径(12.5)	内面1/2回転ナデ後ナデ、底部回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰白N7/	
1026	須恵器	杯身	2区SD01内直上包含層	①(14.5)　②4.15 高台径(11.2)	底部外面摩滅のため不明、底部内面回転ナデ?、摩滅のため不鮮明、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内．灰白2.5Y8/2　外．灰白5Y8/1	
1027	須恵器	高杯	2区SD01内直上包含層 2区SD01-6上層	①(20.2)　②(3.6)	外面1/3回転ヘラケズリ、内面2/3回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内．灰白N7/　外．灰7.5Y6/1	焼き歪む。

表38　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑬

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1028	須恵器	鉢(鉄鉢)	2区SD01内直上包含層	①(21.2)　②(9.3)	外面2/3回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面1/2回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内.灰白5Y7/1　外.灰白N7/	
1029	須恵器	甕	2区SD01内直上包含層	①(19.0)　②(6.05)	内外面回転ナデ、体部内面同心円文当て具痕あり	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外.灰白5Y7/1～灰N4/	頸部外面にヘラ記号。
1030	須恵器	把手	2区SD01内直上包含層	②(6.95)	外面ナデ及び指頭圧痕、内面同心円文当て具痕	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内外.灰白5Y7/1	
1031	黒色土器A類	椀	2区SD01内直上包含層	②(1.3)　高台径(6.6)	器表摩滅のため調整不明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内.灰白5Y7/1　外.灰白2.5Y8/2	
1032	青磁	椀	2区SD01内直上包含層	②(2.8)	施釉	A:緻密。B:堅緻。C:釉.灰オリーブ5Y8/1　胎土.灰白5Y8/1	
1033	瓦	平瓦	2区SD01内直上包含層	残存長9.4 残存幅5.4 残存厚2.15	凸面平行タタキ?、凹面布目痕、上端部摩滅のため不明	A:粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:不良。C:凸.淡黄2.5Y8/3　凹.淡黄2.5Y8/3～にぶい黄橙10YR7/4	
1034	鉄滓		2区SD01内直上包含層	長4.3　幅6.3　厚3.4 重72.4g			
1035	鉄滓		2区SD01内直上包含層	長3.3　幅4.2　厚2.2 重44.8g			
1036	鉄滓		2区SD01内直上包含層	長2.7　幅3.6　厚2.0 重22.1g			
1037	須恵器	杯蓋	2区SD02･03境包含層	①(10.3)　②2.9 つまみ径2.4 つまみ高0.9	つまみ貼付後ナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/3不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:密。B:良好。C:内.灰N5/　外.暗灰N3/	
1038	須恵器	杯蓋	2区SD02･03境包含層	①(12.6)　②4.6	外面1/2静止ヘラケズリ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:良。B:良好。C:内.灰N4/　外.灰N6/～灰4/	
1039	須恵器	杯蓋	2区SD02東側包含層	①(11.0)　②3.65 受部径(12.8)	つまみ回転ナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、一部回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面1/2回転ナデ後ナデ、1/2回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内.灰N5/　外.灰7.5Y6/1～N5/	
1040	須恵器	杯蓋	2区SD02東側遺構面検出時	①(12.5)　②(1.7) 受部径(14.3)	外面1/3擦過痕か?、2/3回転ナデ、内面1/3回転ナデ後ナデ、2/3回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内.灰7.5Y6/1　外.灰10Y5/1	
1041	須恵器	杯蓋	2区SD02・03境包含層 2区SD02遺構検出時 2区SD03南側包含層	①12.5　②3.7 受部径15.3 つまみ径2.8 つまみ高0.85	つまみ貼付後ナデ、外面2/3回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:良。B:良好。C:内.灰N6/～灰N5/　外.青灰5B5/1～暗オリーブ灰2.5GY4/1	著しく焼き歪む。
1042	須恵器	杯蓋	2区SD02･03境包含層 2区SD02･03直上包含層 2区SD03-2直上包含層	①(15.1)　②4.0 つまみ径2.25 つまみ高1.2	つまみ貼付後ナデ、外面3/5回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内.灰N6/　外.灰白N7/～灰N4/	外面にヘラ記号。
1043	須恵器	杯蓋	2区SD02西側包含層	①(13.6)　②(1.8) 受部径(15.8)	外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、1/2回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内.灰N6/　外.灰白5Y7/1～灰黄(降灰)2.5Y7/2	歪みのための傾き難あり。
1044	須恵器	杯蓋	2区SD02･03境包含層	①12.3　②2.15 受部径15.2	天井部ヘラ切り後未調整、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:良。B:やや良。C:内.灰白2.5Y8/1～灰白N7/　外.灰白2.5Y7/1～灰白N7/	外面にヘラ記号あり。
1045	須恵器	杯蓋	2区杭A下包含層-4	①(13.9)　②(2.5) 受部径(16.4)	天井部回転ヘラ切りか?、かえり部貼付け後ナデ?、他回転ナデ	A:密。径1mm内の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外.灰白7.5Y7/1	
1046	須恵器	杯蓋	2区杭A下包含層-4	①(14.5)　②2.5 受部径(16.4)	外面1/3回転ヘラケズリ、内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ、かえり部貼付け後ナデ、他回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を含む。B:やや不良。C:内外.灰白7.5Y7/1	
1047	須恵器	杯蓋	2区SD02･03境包含層	①(14.6)　②3.1 受部径(17.2) つまみ径3.1 つまみ高1.0	つまみ貼付後ナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内.青灰5B5/1　外.暗青灰5B4/1	
1048	須恵器	杯蓋	2区SD02･03境包含層	②(2.4) つまみ径1.4 つまみ高0.85	つまみ貼付後ナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、内面2/3不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内.青灰5B5/1　外.暗灰N3/	
1049	須恵器	杯蓋	2区SD02東側遺構面検出時 2区SD02遺構検出時	①14.4　②2.4 つまみ径2.3	つまみ回転ナデ、外面2/3回転ヘラケズリ、1/3回転ナデ、内面4/5回転ナデ後ナデ、1/5回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内.灰5Y5/1～N6/　外.灰N6/	焼き歪む。
1050	須恵器	杯蓋	2区SD02西側包含層 2区SD02東側遺構面検出時	①(14.8)　②(1.9)	天井部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径1mm内の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外.灰白N7/～灰N6/	
1051	須恵器	杯蓋	2区杭A下包含層-3	①(15.5)　②2.6 つまみ径2.6 つまみ高0.6	天井部回転ヘラ切りか?、つまみ貼付け後回転ナデ?、他回転ナデ?	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:不良。C:内外.灰白5Y8/1～8/2	
1052	須恵器	杯蓋	2区SD02東側遺構面検出時	①(16.8)　②(2.6)	外面1/2回転ヘラケズリ後回転ナデ、1/2回転ナデ、内面2/3回転ナデ後ナデ、1/3回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外.灰白5Y7/1～N7/	

表39　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑭

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1053	須恵器	杯蓋	2区SD02・03直上包含層	①(16.6)　②2.1 つまみ径(2.8) つまみ高0.5	外面1/3回転ヘラケズリ後回転ナデ、1/3回転ヘラケズリ、内面1/2回転ナデ後ナデ、他回転ナデ	A:やや粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰N6/～7.5Y6/1	
1054	須恵器	杯蓋	2区SD02･03境包含層	①(17.0)　②(1.6)	外面3/4回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向のナデ、他は回転ナデ	A:良。1～2mm程度の白色石粒を含む。B:良好。C:内外．灰N 6/～N 5/	口縁外面に何か当たってできた傷が二カ所あり。
1055	須恵器	杯身	2区SD02･03境包含層	①(10.0)　②(2.9) 受部径(12.3)	外面1/2回転ヘラ切り、1/2ヘラ痕、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰N6/	
1056	須恵器	杯身	2区SD02西側包含層	①(9.8)　②4.15 高台径(7.1) 高台高0.9	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少し含む(高台部のみ白色粗砂が‘やや多い)。B:やや不良。C:内．灰白7.5Y7/1　外．灰白5Y7/1	
1057	須恵器	杯身	2区SD02西側包含層	①(12.5)　②(4.45) 高台径(7.8) 高台高1.0	内外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内．暗灰N 3/　外．灰N 6/	
1058	須恵器	杯身	2区SD02北側No.30 2区SD02・03境包含層	①13.95　②4.1 高台径10.45	内面1/2回転ナデ後ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ナデ、他回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内．灰5Y6/1　外．灰7.5Y6/1	
1059	須恵器	杯身	2区SD02･03境包含層	①(13.2)　②3.9 ③(8.0)	内外面回転ナデ、内面1/2不定方向のナデ、底部ヘラケズリ	A:粗。B:良好。C:内．緑灰10G5/1　外．灰白N 6/	高台が外れた痕跡あり。
1060	須恵器	杯身	2区SD02･03境包含層	①(13.8)　②4.4 高台径9.6	内外面回転ナデ、内面1/2不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:精良。B:良好。C:内外．灰白N 7/	
1061	須恵器	杯身	2区杭A下包含層-3	②(4.0) 高台径(10.1) 高台高0.55	内面2/3回転ナデ後不定方向ナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:やや粗。径1mm内の白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内．灰白5Y7/1 外．灰白N7/～灰N6/	
1062	須恵器	杯身	2区SD02･03境包含層 2区SD02 2区SD03-1上層	①(15.1)　②5.9 高台径(10.7)	内外面回転ナデ、内面1/2不定方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ	A:良。B:良好。C:内外．褐灰7.5YR4/1	底部内面に長さ5cm程度のひも状のもの？が埋まっていた痕跡。
1063	須恵器	杯身	2区SD02･03境包含層	①15.6 ②4.6～4.85 高台径12.0	内外面回転ナデ、内面1/2不定方向のナデ、底部ヘラ切り離し後ナデ、一部回転ナデ	A:良。B:良好。C:内．黄灰2.5Y6/1 外．黄灰2.5Y6/1～褐灰10YR4/1～灰褐7.5YR6/2	
1064	須恵器	杯	2区SD02･03境包含層	①(14.5)　②3.9	内外面回転ナデ、底部内外面器面の摩滅により調整不明	A:良。B:やや良。C:内外．灰5Y6/1～灰5Y5/1	
1065	須恵器	杯	2区SD02･03境包含層	①(14.0)　②3.75 ③(10.2)	内外面回転ナデ、内面1/2不定方向のナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、底部ヘラ切り後不定方向のナデ	A:良。0.5～2mm程度の白色砂粒を含む。B:良好。C:内．にぶい赤褐2.5YR5/4 外．にぶい赤褐5YR5/4～褐灰5YR4/1	
1066	須恵器	皿	2区SD02･03境包含層	①(13.35)　②1.65 ③(10.0)	内外面回転ナデ、内面2/3不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内外．灰白N 7/	
1067	須恵器	皿	2区SD02･03境包含層	①(15.9)　②2.5 ③10.5	内外面回転ナデ、内面2/3不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1mm以下の白色粗砂ごく僅かに含む。B:良好。C:内．青灰10BG5/1　外．灰白10Y7/1	
1068	須恵器	皿	2区SD02･03境包含層	①(21.4)　②3.3 ③(18.0)	内外面回転ナデ、内面2/3不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:良。1～2mmの白色石粒を含む。B:良好。C:内．灰N 5/　外．灰N 5/～灰褐5YR5/2	
1069	須恵器	皿	2区杭A下包含層-3	①(24.4)　②1.8 ③(19.6)	底部回転ヘラ切り後不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。径1mm内の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内外．灰N6/～5/	
1070	須恵器	椀	2区SD02･03境包含層	①(12.6)　②(4.4)	回転ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内外．灰N6/～5/	
1071	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層	①(9.8)　②(4.2)	内外面回転ナデ、内面1/2不定方向のナデ、外面1/2回転ヘラケズリ後カキメ、1/2回転ナデ	A:密。1～2mmの白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰白N 7/　外．灰N 4/・にぶい橙2.5YR6/3	
1072	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層	①10.1　杯部高3.6	内外面回転ナデ、内面1/3不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．青灰5PB5/1・暗青灰5PB3/1　外．暗灰N 3/	
1073	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層	①(14.1)　杯部高3.7	内面1/2回転ナデ、1/2不定方向のナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、脚部内外面回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰N 4/　外．青灰5B6/1	
1074	須恵器	高杯	2区SD02･03直上包含層 2区SD02･03境包含層	①(14.6)　②(3.7)	底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外．灰白N7/	
1075	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層	①(15.8) 杯部高(3.6)	内外面回転ナデ、内面1/2不定方向のナデ、底部回転ヘラケズリ	A:密。1～3mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰N 6/　外．灰白N 7/	
1076	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層	②(6.5)	脚部内面2/3シボリ痕、1/3ヨコナデ、外面ナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内．灰N6/　外．灰白5Y7/1	
1077	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層	②(3.3) 脚裾部径6.7	脚部内外面回転ナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内．灰N 6/～4/　外．暗灰N 3/	
1078	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層	②(0.65) 脚裾部径(7.6)	回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内．灰10YR6/1　外．灰10Y4/1	
1079	須恵器	高杯	2区SD02･03境包含層 2区SD02･03直上包含層	②(3.6) 脚裾部径10.05	脚部内外面回転ナデ、杯部内面不定方向のナデ	A:密。1mm程の白色粗砂を少し含む。B:良好。C:内外．灰N 4/	

表40　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑮

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
1080	須恵器	鍔付鉢	2区SD02･03境包含層	①(23.0)　②20.1 高台径(19.2) 高台高1.15 鍔部径(36.9)	外面1/2回転ナデ、1/2回転ヘラケズリ、内面3/5同心円文当て具痕、1/5回転ナデ、1/5不定方向のナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内.灰白N 7/　外.灰白N 8/・灰N 5/	
1081	須恵器	すり鉢	2区SD02・03境包含層	②(2.9)　③(9.0)	内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ	A:密。1～3mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内.青灰5PB5/1　外.灰N6/	
1082	須恵器	壺	2区SD02・03境包含層	②(4.4)　頸部径4.8	内面1/3不定方向ナデ、他回転ナデ	A:密。1mm以下の白色粗砂を僅かに含む。B:良好。C:内.灰白N7/・灰N5/　外.灰N4/	
1083	須恵器	短頸壺	2区SD02・03境包含層	①(8.8)　②(3.2)	回転ナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多く含む。B:良好。C:内.灰N6/・5/　外.灰N6/	
1084	須恵器	壺	2区SD02・03境上包含層 2区SD02・03境包含層 2区SD03-1上層 2区SD03-1南側包含層	②(5.2)　③(4.1) ④(9.4)	外面1/2回転ヘラケズリ後回転ナデ、1/2回転ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:やや粗。径2mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良好。C:内.灰N6/　外.灰白7.5Y7/1～灰N6/	
1085	須恵器	紡錘車	2区遺構直上包含層	長6.8　幅6.8　厚3.6 重197.9g	ナデ	A:やや粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。B:良好。C:灰N6/～5/	
1086	須恵器	壺	2区SD02・03境包含層	長8.8　幅4.8　厚3.5	ナデ	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:内外.灰N4/	
1087	須恵器	中空硯把手	2区遺構面直上包含層	残存長9.85 残存幅3.95 残存厚4.8	器表はヘラケズリ、中空部はナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内.灰N6/　外.灰7.5Y6/1～灰白N7/	
1088	土師器	椀	2区SD02･03境包含層	②(1.8)　高台径(9.4)	内外面器面の摩滅により調整不明	A:良。B:やや良。C:内.淡黄2.5Y8/3　外.浅黄2.5Y7/4	
1089	土師器	甑	2区SD02東側包含層	残存長8.9 残存幅5.2 残存厚1.7	ナデおよび指頭圧痕	A:密。径1mm内の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内外.橙5YR6/8	
1090	土師器	甕	2区SD02・03境包含層	①(19.0)　②(6.3)	外面摩滅の為不明瞭だがナデ?、内面ヘラケズリ、口縁部外面ナデ、口縁部内面ヘラミガキ	A:やや密。1～5mm程の白色砂礫を多く含む。B:良。C:内.橙5YR6/6～6/8　外.橙5YR6/6	
1091	土師器	把手付甕	2区SD02・03境包含層	①(12.5)　②(8.4)	内面ヘラケズリ、他ナデ	A:密。1～3mm程の白色砂礫を多く含む。B:良好。C:内.橙7.5YR7/6　外.橙5YR7/6	
1092	土師器	甕	2区SD02･03境包含層	①21.4　④(25.6) 頸部径18.35	口縁部摩滅しているが回転ナデか?、外面摩滅が激しく不明瞭だがハケメ、内面摩滅激しいがヘラケズリか?	A:やや粗。1～3mm程の白色粗砂を多少含む。B:やや良。C:内.橙7.5YR7/6　外.黄橙7.5YR7/8	
1093	土師器	甕	2区SD02･03境包含層 2区SD北側No.4	①(27.0)　②(30.4)	口縁内外面ナデ、体部外面ハケメ後ナデ、体部内面ヘラケズリ	A:粗。0.5～5mmの石英・長石等を含む。B:良。C:内.浅黄橙10YR8/4　外.淡黄2.5Y8/3～にぶい黄2.5Y6/3・赤橙10R6/6・黒7.5YR2/1～2.5Y 2/1	
1094	陶器	鉢	2区SD02・03境包含層	①(18.4)　②(2.6)	回転ナデおよび施釉	A:密。B:良好。C:内.褐10YR4/4～4/6・黒褐10YR2/2　外.褐10YR4/4～4/6	
1095	白磁	椀?	2区杭A下包含層-3	②(2.1)	施釉	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内.灰白7.5Y8/2　外.灰白10Y7/1	
1096	青磁	椀	2区SD02・03境包含層	②(2.6)		A:密。黒色粒子を多少含む。B:良好。C:内外.灰白5Y7/2	
1097	青磁	椀	2区SD02・03境包含層	①(16.4)　②(1.65)	回転ナデ、施釉	A:密。B:良好。C:内外.明オリーブ灰2.5GY7/1	龍泉窯系。
1098	土製品	鞴羽口	2区SD02・03境包含層	残存長17.55	ナデ	A:やや粗。1～5mm程の白色砂礫を多く含む。B:やや良好。C:内.橙5YR7/6～7/8　外.橙5YR7/6　被熱部.灰白2.5Y 8/1～7/1	
1099	瓦	丸瓦	2区杭A下包含層-4	残存長4.5 残存幅6.2 厚1.0	凸面～側縁部1/2ヘラによる面取り、凸面1/2平行タタキ、凹面布目痕	A:密。径1mm以下の白色粗砂を含む。B:やや不良。C:凹.灰黄2.5Y7/2　凸.灰白10YR8/1～2.5Y8/1	
1100	瓦	丸瓦	2区SD02･03境包含層	残存長8.4 残存幅3.0 厚1.45	凸面平行タタキ、凹面模骨痕あり、調整は摩滅の為不明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凹凸.灰白2.5Y8/2	
1101	瓦	丸瓦	2区SD02・03境包含層	残存長11.2 残存幅6.8　厚1.3	凸面平行タタキ、凹面模骨痕、下端部ヘラ切り	A:密。白色砂粒を僅かに含む。B:不良。C:凹凸.橙7.5YR7/6～浅黄橙10YR8/4	
1102	瓦	平瓦	2区杭A下包含層-1	残存長8.7 残存幅5.5 厚1.2	凸面平行タタキ、凹面ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:凹凸.浅黄橙10Y8/3～灰白10YR8/2	
1103	瓦	平瓦	2区SD03南側土器溜	残存長14.9 残存幅14.3　厚1.6	凸面平行タタキ、凹面ヘラケズリ?凹凸面ともに器表摩滅のため調整不明瞭、側縁部面取り	A:やや密。1～2mmほどの白色粗砂を少し含む。B:やや不良。C:凸.灰白N8/・橙5YR7/8～浅黄橙7.5YR8/6　凹.浅黄橙7.5YR8/4～8/6・灰白N8/	
1104	瓦	平瓦	2区SD02・03境包含層	残存長15.7 残存幅11.65 厚2.0	凹面平行タタキ?、凸面～側縁部器表摩滅のため調整不明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凹凸.にぶい黄橙10YR7/3～灰白2.5Y8/2	
1105	瓦	平瓦	2区杭A下包含層-3	残存長6.2 残存幅7.2 厚1.7	凸面平行タタキ、凹面布目痕およびナデ?	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:凸.にぶい赤褐5YR5/4　凹.橙5YR7/6	

表41　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑯

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備考
1106	瓦	平瓦	2区SD02・03境包含層	残存長10.5 残存幅10.4 厚1.8	凸面平行タタキ、凹面ハケメ?、側縁部面取りおよびナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凸.淡黄2.5Y8/3～橙5YR7/6　凹.灰白2.5Y8/2～浅黄2.5Y7/4	
1107	瓦	平瓦	2区SD02・03境包含層	残存長12.25 残存幅10.8 厚2.25	凹面平行タタキ後ナデ、凸面器表摩滅のため調整不明、下端部ナデ	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凹凸.橙7.5YR7/6～浅黄橙10YR8/3	
1108	瓦	平瓦	2区杭A下包含層-4	残存長6.2 残存幅4.7 厚1.4	摩滅のため調整不明	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:不良。C:凹凸.灰白5Y8/1	
1109	瓦	平瓦	2区SD02・03境包含層	残存長9.7 残存幅8.55 厚2.0	凹面模骨痕?、摩滅のため不鮮明、凸面平行タタキ、上端部摩滅のため調整不明	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凹凸.浅黄橙10YR8/4～明黄褐10YR7/6	
1110	瓦	平瓦	2区杭A下包含層-3	残存長9.0 残存幅7.95 厚1.45	凸面平行タタキ、凹面摩滅のため調整不明布目痕か?	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:凹凸.にぶい橙7.5YR7/4～橙7.5Y7/6	
1111	瓦	平瓦	2区SD02・03境包含層	残存長12.05 残存幅6.3　厚1.45	凸面摩滅のため不明、凹面布目痕、側縁部面取り	A:やや密。1～4mm程の白色砂礫をやや多く含む。B:やや不良。C:凸.浅黄橙10YR8/4　凹.浅黄橙10YR8/4・にぶい橙7.5YR7/4	
1112	瓦	平瓦	2区SD02･03境包含層	残存長13.0 残存幅9.3 厚1.5	器表摩滅のため調整不明、凹面にかすかに模骨痕あり	A:密。径1mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:凹凸.浅黄橙10YR8/4～灰白2.5Y8/1	
1113	瓦	平瓦	2区SD02・03境包含層	残存長10.3 残存幅9.7　厚2.3	凸面縄目タタキ後ナデ、凹面ヘラケズリ、側縁部面取り	A:密。1～2mm程の白色粗砂を多少含む。B:良好。C:凹凸.灰白N8/～7/	
1114	石器	磨石 敲石	2区杭A下包含層-3	長10.5　横7.0 厚4.4　重500.0g			石英斑岩。
1115	石器	磨石	2区杭A下包含層-3	縦9.25　横7.85 厚5.0　重502.7g			凝灰岩。
1116	礫	円礫	2区杭A下包含層	縦2.7　横4.8 厚1.46　重27.3g			凝灰岩。
1117	鉄滓		2区杭A下包含層-4	長2.3　幅3.05 厚1.55　重10.6g			
1118	鉄滓		2区杭A下包含層-4	長8.15　幅7.65 厚3.75　重270.0g			
1119	須恵器	杯蓋?	2区SD03南側包含層	①(8.6)　②3.3 受部径(10.8) つまみ径2.7 つまみ高0.5	つまみ貼付ナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面回転ナデ	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内.灰N5/　外.灰白7.5Y7/1～オリーブ黒10Y3/1	外面にヘラ記号。
1120	須恵器	杯蓋	2区SD03南側包含層 2区SD03-2南側包含層 2区SD02北側No.40	①(12.1)　②2.3 つまみ径1.8 つまみ高1.7	つまみ貼付ナデ、外面1/2回転ヘラケズリ、1/2回転ナデ、内面1/2回転ナデ、1/2回転ナデ後不定方向のナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内.灰N5/　外.灰N4/	
1121	須恵器	杯蓋	2区SD03-2南側包含層	①(13.0)　②(1.7)	つまみ貼付?ナデ、天井部回転ヘラ切り、内外面回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内.灰N5/　外.灰N4/	
1122	須恵器	杯身	2区SD03南側包含層	①(14.4)　②4.8 高台径10.2 高台高1.1	内外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。径1～3mmの白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内.灰褐5Y R6/2　外.灰褐7.5Y R6/2	
1123	須恵器	杯身	2区SD03南側包含層 2区SD02･03境包含層 2区SD02･03直上包含層	①(14.2)　②(3.8)	内外面回転ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、底部外面回転ヘラ切り、高台部剥離	A:粗。径1～3mmの白色粗砂を多く含む。B:良好。C:内.灰10Y6/1　外.灰白5Y7/1～N7/	高台剥離。底部にヘラ記号。
1124	須恵器	杯	2区SD03南側包含層	①(13.1)　②4.3 ③(6.0)	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内外.灰白5Y7/1	
1125	須恵器	高杯	2区SD03-2南側包含層 2区SD02 2区SD02･03境包含層	①(14.1)　②(3.4)	内面1/3不定方向のナデ、底部2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内.灰N6/　外.灰白2.5Y7/1～暗灰N3/	
1126	須恵器	短頸壺	2区SD03-1直上包含層	②(10.6)	外面1/2手持ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、他回転ナデ	A:粗。1～3mm程度の白色石粒を多く含む。B:良好。C:内.灰10Y5/1　外.灰10Y5/1～灰N5/	
1127	須恵器	平瓶	2区SD03-2南側包含層 2区SD02･03境包含層	②(4.5)　③5.6	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り	A:密。径1～2mmの白色粗砂を少量含む。B:良好。C:内.灰N5/　外.灰N6/～N4/	底部ヘラ記号。
1128	須恵器	甕	2区SD03南側包含層	②(7.7)	口縁部回転ナデ、外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具痕	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:内外.黄橙7.5YR7/8	
1129	須恵器	甕 or 甑	2区SD03南側包含層	②(4.7)	ナデおよび指頭圧痕	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内外.灰N4/～暗灰N3/	
1130	弥生土器	甕	2区SD03南側包含層	②(3.0)　③(9.4)	内面ナデ	A:粗。径1～2mmの白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:内.黄橙7.5YR7/8　外.橙5YR6/8	
1131	土製品	鞴羽口	2区SD03南側包含層	外径(6.3) 内径(2.6)	ナデおよび指頭圧痕	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:やや不良。C:内外.淡黄2.5Y8/4	
1132	瓦	平瓦	2区SD03南側包含層	残存長10.75 残存幅7.6 厚0.95	凹面～上端部摩滅のため調整不明、凸面タタキ痕あり	A:密。径1mm以上の粗砂をほとんど含まない。B:不良。C:凹凸.灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3	

表42　本堂遺跡12次調査出土遺物観察表⑰

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径 ②器高③底径④最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1133	鉄滓	鍛冶滓	2区SD03南側包含層	長6.45　幅8.65 厚5.9　重340.0g			炭化物をかんでいた痕跡あり。
1134	鉄滓		2区SD03南側包含層	長3.4　幅4.4　厚3.1 重26.1g			炭化物をかんでいた痕跡あり。
1135	鉄滓	再結合滓	2区SD03南側包含層	長5.1　幅6.1　厚4.3 重70.0g			炭化物をかんでいた痕跡あり。
1136	鉄滓		2区SD03南側包含層	長6.0　幅6.8 厚4.85　重143.4g			炭化物をかんでいた痕跡あり。
1137	須恵器	杯身	2区中央トレンチ	①(11.1)　②3.5 受部径(12.9)	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A:密。径3mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:不良。C:内.灰白7.5Y7/1 外.灰白5Y8/1～灰黄2.5Y6/1	外面に竹管文。
1138	須恵器	杯身	2区中央トレンチ	①(15.3)　②4.25 高台径(10.2)	底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母等を少し含む。B:良好。C:内外.灰7.5Y6/1	
1139	須恵器	高杯	2区中央トレンチ	②(1.6) 脚裾部径(13.3)	回転ナデ	A:密。径2mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒子等を少し含む。B:良好。C:内.灰10Y4/1～N6/　外.灰N6/	
1140	白磁	皿	2区中央トレンチ	②(2.0)	施釉	A:緻密。径1mm以下の雲母・暗褐色粒子等を僅かに含む。B:堅緻。C:釉.灰白5Y7/1～7/2	
1141	瓦	丸瓦	2区中央トレンチ西肩	残存長10.6 残存幅8.15 厚2.5	凸面縄目タタキ、凹面布目痕、上端部ナデ、玉縁部ヨコナデおよびナデ	A:粗。径3mm以下の石英・長石・雲母等を多く含む。B:不良。C:凸.淡黄2.5Y8/3～灰白5Y7/1　凹.灰白5Y7/1	
1142	鉄滓		2区中央トレンチ	長4.4　幅6.75 厚2.6　重52.9g			炭化物をかんでいた痕跡あり。
1143	須恵器	杯蓋	2区表採	①(10.1)　②2.1 つまみ径2.1 つまみ高0.75	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、つまみ部ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内.暗青灰5PB4/1 外.青灰5B5/1	
1144	須恵器	杯蓋	2区表採	①(13.0)　②2.8 受部径(15.1) つまみ径2.45 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/3不定方向ナデ、つまみ部ナデ、他回転ナデ	A:良。B:やや良。C:内.灰N6/　外.灰N6/～N5/	
1145	土師器	甕or甑	2区SP163付近表採	②(9.4)	外面2/3ナデおよび指頭圧痕、1/3ハケメ、内面ヘラケズリ？	A:粗。径1～4mmのやや大粒の白色粗砂を多く含む。B:やや不良。C:内.橙7.5YR6/6　外.明黄褐10YR7/6	
1146	礫	円礫	2区SP49周辺表採	長1.5　幅1.0　厚0.5 重1.3g			砂岩。
1147	須恵器	杯蓋	2区撹乱2	①(19.6)　②2.7 つまみ径2.8 つまみ高0.6	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/2不定方向ナデ、つまみ部ナデ、他回転ナデ	A:精良。B:良好。C:内外.灰白5Y7/1	
1148	須恵器	杯身	2区耕作土溝1	①14.4　②5.2 高台径10.3 高台高1.4	内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ、底部回転ヘラ切り、他回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:内.赤灰10R5/1 外.暗灰N3～灰赤2.5R5/2	焼き歪む。
1149	須恵器	甕	2区耕作土溝2	①(21.0)　②(6.45)	外面2/3カキメ、他回転ナデ	A:やや粗。径1～2mmの白色粗砂をやや多く含む。B:良好。C:内.灰N6/～暗赤褐5YR3/2　外.灰N6/	
1150	土師器	甕or甑	2区耕作土溝1	②(6.2)	ナデおよび指頭圧痕	A:やや粗。径1～3mmの白色粗砂をやや多く含む。B:不良。C:内.橙7.5YR7/6 外.浅黄橙7.5YR8/6	
1151	土師器	小皿	2区耕作土4	①(9.0)　②(1.25) ③(6.7)	底部回転糸切り？、他回転ナデ	A:密。径1mm以下の白色粗砂を少量含む。B:やや不良。C:内外.浅黄橙10YR8/3	
1152	白磁	椀	2区耕作土溝4	②(2.7)	施釉	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:釉.灰白5Y8/1	
1153	白磁	皿	2区撹乱3	②(1.05) 高台径(4.0) 高台高0.4	底部露胎回転ナデ、他施釉	A:密。B:良好。C:内.明緑灰7.5GY8/1 外.明緑灰7.5GY8/1～灰白5Y8/2	
1154	白磁	皿	2区耕作土溝4	②(1.0)　③(4.8)	外面回転ナデ、内面施釉、底部回転ヘラ切り	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:内.灰白2.5Y8/2　外.灰白5Y8/1	
1155	白磁	湯のみ	2区撹乱3	①(7.4)　②(6.5)	施釉	A:密。B:良好。C:釉.灰白N8/	軍用食器。
1156	青磁	椀	2区耕作土溝1	②(1.7)	施釉	A:密。粗砂をほとんど含まない。B:良好。C:釉.オリーブ灰10Y6/2	龍泉窯系。
1157	瓦	平瓦	2区耕作土溝1	残存長11.3 残存幅10.8 厚1.9	摩滅のため調整不明	A:粗。径1～5mmのやや大粒の白色粗砂・礫を多く含む。B:やや不良。C:凹.灰白5Y7/1　凸.灰白2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/3	
1158	白磁	皿？	1区　調査区東辺客土	②(1.4)	口禿。体部は施釉	A:密。B:良好。C:釉.灰白10Y8/1	
1159	石器	スクレイパー	1区　調査区東辺客土	残存長3.4 残存幅5.05 厚1.1 重15.7g			安山岩。

表43　本堂遺跡16次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　考
1160	瓦質土器	釜	SD02-1･2 間ベルト 3 層	②1.1+ α	ヨコナデ成形、下面に煤付着	A:微細な砂粒を少量、雲母を微量含む。B:良好。C:外 . にぶい褐 7.5YR5/3　内 . にぶい褐 7.5YR5/3　断面にぶい橙 7.5YR7/4 断面芯 . 黒褐 10YR3/1	
1161	瓦質土器	釜	SD02-3 区	②4.7+ α	回転ナデ成形後、外面に菱形文のスタンプを施す	A:0.5mm の砂粒をやや多量、雲母を微量含む。B:良好。C:外 . 灰褐 7.5YR5/2　内 . にぶい褐 7.5YR6/3	
1162	白磁	椀	SD02-3 区(西側 1 段下げ)	②1.6+ α　④(6.8)	底部削り出し、内面に薄く施釉	A:浅黄橙 10YR8/3。0.5mm の白色砂粒を微量含む、密。B:良好。C:釉 . 灰黄 2.5Y7/2、やわらかな光沢のある透明釉を薄く施釉。	太宰府分類 XI 類か？
1163	陶器	壺	SD02-3 区 SD02-3 区 東側 1 段下げ	②2.9+ α　③(8.6)	回転ナデ成形後、外面にのみ薄く施釉、底部内面の一部に釉が付着、底部外面に重ね焼き痕あり	A:灰褐 7.5YR5/2。0.5 ～ 5mm の砂粒を多量含む。B:良好。C:釉 . 褐 7.5YR4/3、光沢なし。	体部外面に薄く施釉。中国製。
1164	鉄製品	釘	SD02-3 区	長 5.1+ α　幅 2.1 厚 0.5			
1165	石器	石鏃	SD02-2 区(1 段下げ時)	長 1.5　幅 1.4　厚 0.3 重 1.4g	全体を丁寧な押圧剥離で作出		黒曜石。
1166	瓦質土器	釜	SD03-1 区	②4.8+ α	回転ナデ成形後、ヨコハケ、外面の段部分にのみタテハケが見られる	A:微細な砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 2.5Y8/1 ～灰 N5/　内 . 灰白 2.5Y8/1 ～灰 N5/	
1167	土師質土器	鉢	SD03-1 区	①(33.4)　②5.5+ α	摩滅のため、調整不明、一部にハケメあり	A:0.5 ～ 2mm の砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 10YR8/3　内 . 浅黄橙 10YR8/3　断面芯 . 黒褐 2.5Y3/1	
1168	陶器	甕	SD03-3 区	②5.9+ α	体部はヨコナデ成形、外面はその後粗い縦方向のナデを行う、外全面に施釉	A:細かい砂粒を少量含む、密。B:良好。C:釉 . にぶい赤褐 2.5Y4/3、光沢のある釉を薄く施釉。	底部外面に目跡あり。
1169	青磁	杯	SD03-1･2 区間ベルト 1･2･3 層	②3.6+ α　③(7.0)	型押し成形後施釉、内面見込に花文あり、底部は削り出しで、底部外面中央部分の釉を掻き取る、目跡あり	A:灰白 2.5Y8/1。混入物はほとんどないがやや粗い。B:良好。C:釉 . 暗オリーブ 7.5Y4/3、透明釉を厚く施釉。	龍泉窯系。
1170	青磁	椀	SD03-2 区(1 段下げ)	①(14.8)　②7.9 ④(5.5)	外面に片彫り連弁文を施す、高台は削り出し内面途中まで施釉、端部の釉は拭き取る	A:灰白 2.5Y7/1、黒色粒子を微量含む、密。B:良好。C:釉 . やや青味がかった緑色。光沢のある透明釉を施釉。	龍泉窯系。上田分類 B-Ⅲ-a 類(15C 中頃)か？大小の貫入あり。
1171	石製品	砥石	SD03-1 区 SD02-3 区 SD03-2･3 間ベルト 3 層	長 4.8　幅 4.8 厚 3.78　重 102.1g			4 面を使用している。
1172	石製品	カマド石？	SD03-1 区	長 11.9　幅 8.6 厚 7.8　重 1130g	表面は滑らか		一部に被熱痕あり。花崗岩。
1173	鉄製品	不明	SD03-2 区(一段下げ)	長 2.2　幅 2.3 厚 0.65			
1174	鉄滓	炉底滓？	SD03-4 区(下層)	長 4.9　幅 3.9　厚 2.0 重 46.3g			メタルあり。
1175	石製品	石鏃	SD03-2 区(1 段下げ)	長 2.1　幅 1.6　厚 0.4 重 0.8g			二等辺三角形。抉りは浅い。黒曜石。
1176	土師器	杯	SX04-2 区	①(11.9)　②3.0 ③(6.9)	体部は回転ナデ、底部は糸切り	A:2.5mm 以下の砂粒を多量含み、赤褐色粒をやや多量含む。B:良好。C:外 . にぶい黄橙 10YR7/3 ～褐灰 10YR5/1　内 . にぶい黄橙 10YR7/3	
1177	土師器	杯	SX04-2 区	②1.8+ α　③(9.0)	摩滅のため、調整不明、底部は糸切り	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	
1178	土師質土器	鍋	SX04-3 区(2 段下げ時)	②2.8+ α	ヨコナデ成形後、内面はヨコハケ	A:0.5mm の砂粒をやや多量、雲母を少量含む。B:良好。C:内外 . 明赤褐 5YR5/6	外面に煤付着。
1179	土師質土器	擂鉢	SX04-2 区	①(26.6)　②9.3+ α	ヨコナデ成形後、外面はヨコハケ、内面はヨコハケ後、擂目を施す	A:1 ～ 2.5mm の砂粒をやや多量含み、5mm の礫を微量含む。B:不良。C:内外 . 灰白 7.5YR8/2	
1180	陶器	天目椀	SX04-2 区	①(12.0)　②3.5+ α	内外面に天目釉を施す	A:灰黄 2.5Y7/2。微細な黒色粒子を微量含む。B:良好。C:釉 . にぶい赤褐 2.5YR4/3 ～にぶい黄褐 10YR5/4 ～黒 7.5YR2/1	SX02-2・3 間ベルト 1･2･3 層より同一個体と思われる破片出土。
1181	青磁	椀	SX04-2 区	②3.0+ α	内外面に施釉、口縁内面に片彫りで 2 本の線を施す、内面には輪花と片彫りのための設計線と思われる白堆線が見られる	A:灰白 10YR8/1、密で精良な素地。B:良好。C:釉 . オリーブ灰 10Y5/2	龍泉窯系。太宰府分類Ⅰ-4c 類か？光沢のある透明釉を薄く施釉、大小の貫入あり。
1182	瓦	丸瓦	SX04-2 区	長 4.7+ α　幅 8.3+ α 最大厚 3.2	凸面はナデ、凹面にはシボリ痕あり	A:1 ～ 2.5mm の砂粒を多量含む。B:不良(軟質)。C:内外 . 灰白 5Y8/1 ～灰 N4/	
1183	石器	縦長剥片	SX04-2 区	長 2.1　幅 1.5　厚 0.5 重 1.2g	一方の側縁には刃潰し加工あり		黒曜石。
1184	土師器	杯	SP07	②1.0+ α	摩滅。底部糸切り、底部内面は不定方向のナデか？	A:0.5 ～ 1.5mm の砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . にぶい橙 7.5YR7/4	
1185	石器	磨製石斧	SP11	長 13.4　幅 6.7 厚 2.6　重 394.1g	両側縁を敲打、表裏面は丁寧なミガキ、刃部を研磨している		
1186	白磁	皿	SP49（1 段下げ）	①(14.2)　②1.9+ α	光沢のある透明釉を薄く施釉、口縁端部内面で厚くたまる	A:灰白 7.5Y8/1。精良。B:良好。C:釉 . 灰白 7.5Y8/1	光沢のある透明釉。
1187	鉄製品	不明	SP84	長 2.9+ α 厚 0.2 ～ 0.35			

表44　本堂遺跡16次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A：胎土　B：焼成　C：色調	備　　考
1188	土師器	杯	SP91	②1.7+ α　③7.2	摩滅、底部はナデ、体部は回転ナデか?	A:0.5 ～ 2mm の砂粒をやや多量、赤褐色粒を多量含む。B:良好。C:外 . にぶい褐 7.5YR6/3 ～浅黄橙 10YR8/3　内 . にぶい橙 7.5YR7/4 ～浅黄橙 10YR8/3	
1189	鉄製品	不明	SP94	長3.3　幅5.4　厚0.7			
1190	石器	石鏃	SP95	長1.9　幅1.3　厚0.3 重 0.7g			黒曜石。
1191	土師器	杯	SP100	②1.2+ α　③(8.6)	摩滅、底部はナデ、体部は回転ナデか?	A:0.5mm の砂粒を少量、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . にぶい橙 7.5YR6/4	
1192	石製品	カマド袖石	SP51	長 19.6　幅 20.6 最大厚 6.8　重 3650g	粗割り成形		花崗岩。煤付着。一部に被熱痕あり。

表45　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表①

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　　考
1193	須恵器	杯	SP121 掘方	①(14.8)　②4.5+ α ③(11.4)	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:不良。C:外 . 黄灰 2.5Y6/1、橙 5YR6/6　内 . 黄灰 2.5Y6/1	
1194	土師器	甕	SP122	①(11.2)　②4.5+ α	口縁部ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面ナデ・ヘラケズリ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母を多量含む。赤褐色粒を含む。B:良好。C:外 . 橙 5YR6/8、 にぶい黄橙 10YR6/4　内 . 橙 7.5YR6/6、にぶい橙 7.5YR7/4	
1195	土師器	甕	SP126	②3.65+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母を少量含む、赤褐色粒を含む。B:良好。C:外 . 橙 2.5YR6/6、 明 赤 褐 2.5YR5/6　内 . 橙 7.5YR6/8、暗褐 7.5YR3/3	内面に煤付着？
1196	須恵器	杯蓋	SP187 掘方	②1.9+ α	口縁部回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N5/　内 . 灰白 N7/	焼き歪む。
1197	須恵器	杯身	SP187 掘方	②2.0+ α　④(11.6)	底部外面中央部ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、灰 N6/　内 . 灰 N4/	高台部に降灰。
1198	須恵器	短頸壺蓋	SP187 掘方	①(15.2) ②2.95+ α	天井部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰白 N7/、灰 N5/	
1199	須恵器	杯蓋	SP206 掘方	①15.6　②1.85 つまみ径 2.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 2/3 回転ナデ後ナデ、他は回転ナデ、口縁部外面 1 条沈線。	A:0.5～ 1.5mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～黄灰 2.5Y6/1　内 . 青灰 5PB6/1	焼き歪む。
1200	須恵器	短頸壺	SP206 掘方	②8.8+ α　⑤(20.7)	体部上位外面回転ナデ、中位回転ヘラケズリ後回転ナデ、下位回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。	A:0.5～ 1.5mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～灰黄褐 10YR6/2 内 . 褐灰 10YR6/1	
1201	須恵器	杯身	SP221	①(13.5)　②3.1 ④(8.2)	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ、体部下位外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 明青灰 5PB7/1 ～青灰 5PB5/1　内 . 青灰 5PB5/1	
1202	鉄滓		SP283	長 1.95　幅 1.5 厚 1.3　重 3.0g			
1203	鉄滓		SP283	長 3.4　幅 2.8 厚 2.2　重 23.4g			
1204	須恵器	杯身	SP285	②3.4+ α　④(11.0)	体部下位外面回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 灰 N6/	
1205	須恵器	杯蓋	SP04 柱痕	①(13.0) ②1.75+ α	外面 1/3 回転ヘラケズリ。内面 1/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 3mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰 N6/ ～ 4/	
1206	須恵器	杯蓋	SP81	①(16.1) ②1.95+ α 受部径(19.0)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . オリーブ黒 10Y3/1	焼き歪む。
1207	須恵器	杯蓋	SP88-1 掘方	①(12.8)　②3.4+ α	外面 1/3 回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/、オリーブ黒 10Y3/1　内 . 灰 N5/　胎土 . 灰赤 10R4/2	天井部外面にヘラ記号。
1208	須恵器	杯蓋	SP88 掘方	②2.1+ α	外面 1/3 回転ヘラケズリ、内面 1/2 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 7.5Y4/1　内 . 灰 N4/	
1209	須恵器	杯身	SP89 掘方	②1.3+ α　④(8.8)	底部外面中央部ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰黄 2.5Y7/2、灰 N6/　内 . 灰 N6/	
1210	須恵器	鉢	SP89	①(10.8) ②3.75+ α	体部下位～底部外面ヘラ切り。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	
1211	土師器	甕	SP89	②5.7+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 明褐 7.5YR5/6	底部外面に黒斑。
1212	土師器	甑	SP89	②12.4+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母を少量含む。B:良好。C:内外 . 明赤褐 5YR5/6	

表46　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表②

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1213	瓦	平瓦	SP89	長 11.8+ α 幅 9.0+ α　厚 1.8+ α	凹面布目痕。凸面平行タタキ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:凹凸 . 橙 5YR6/8、淡黄 2.5Y8/3	土師質に焼成。
1214	須恵器	杯身	SP110 掘方	①(13.6)　②3.6 ④(9.6)	底部内外面ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/　内 . 灰 N4/	
1215	須恵器	皿	SP110 掘方	②2.4+ α　③(17.2)	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	底部外面にヘラ記号。
1216	須恵器	高台付皿	SP110 掘方	①(18.4)　②2.9 ④(12.8)	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 0.5mm 程の白色砂粒、雲母を少量含む。B:良好。C:外 . 橙 7.5YR6/8、にぶい黄橙 10YR7/4　内 . 明赤褐 5YR5/6	体部下位～底部外面に黒斑。
1217	須恵器	杯身	SP124 掘方	①(11.8)　②3.25 ④(8.0)	口縁～体部外面降灰のため調整不明。底部外面回転ヘラケズリ後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～ 5/　内 . 灰 N6/	口縁～体部外面に降灰。
1218	須恵器	皿	SP124 掘方	①(20.0)　②2.5+ α ③(16.2)	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N6/　内 . 灰白 N7/	
1219	須恵器	杯身	SP145･SP146 検出時	②1.6+ α　④(11.1)	摩滅のため調整不明。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒、赤褐色粒を含む。B:不良。C:外 . 灰白 5Y8/1、5Y8/2 内 . にぶい橙 7.5YR7/4	
1220	須恵器	杯身	SP145 掘方	②1.3+ α　④(10.0)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N8/　内 . 灰白 2.5Y8/1	
1221	須恵器	杯	SP145 掘方	①(14.4)　②3.4 ③(12.4)	外面 2/3 ヘラ切り後ナデ、内面 1/2 ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:外 . 浅黄橙 7.5YR8/3 、灰白 10YR8/2、5Y8/1　内 . 浅黄橙 10YR8/3、橙 7.5YR7/6	
1222	須恵器	杯蓋	SP153	②1.8+ α つまみ径 2.3	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:不良。C:外 . 灰白 5Y8/1　内 . 浅黄橙 10YR8/4	
1223	須恵器	鉢	SP153	②2.0+ α　③(15.4)	底部外面ヘラ切り後一定方向のヘラケズリ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 5Y5/1、灰白 5Y7/1　内 . 灰白 10Y7/1	
1224	須恵器	杯蓋	SP154 掘方	②1.7+ α つまみ径 1.75	外面 2/3 回転ヘラケズリ、つまみ部周囲回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:外 . 灰白 2.5Y7/1　内 . 灰 5Y6/1	
1225	須恵器	杯蓋	SP154 掘方	②1.9+ α	外面 4/5 回転ヘラケズリ・ナデ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 10Y5/1　内 . 灰 N4/	
1226	須恵器	杯蓋	SP154 掘方	②2.45+ α	内面 2/3 ナデ、1/3 回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～ 0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:不良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	
1227	須恵器	杯身	SP154 掘方	②2.5+ α　④(8.8)	体部内面回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	
1228	須恵器	皿	SP154 掘方	②1.5+ α　③(17.9)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:内外 . 灰 5Y6/1	
1229	須恵器	杯蓋	SP177 柱痕	①(15.0) ②2.25+ α	外面 1/3 回転ヘラケズリ、内面 3/4 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、黒 N2/　内 . 灰白 N7/、灰 N4/	焼き歪む。
1230	須恵器	杯身	SP177 掘方	②3.4+ α　③(10.6)	底部外面ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:やや不良。C:外 . 灰白 N7/、灰 N6/　内 . 灰白 N7/	
1231	須恵器	皿	SP177 掘方	①(16.0) ②2.25+ α ③(14.6)	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:外 . 灰黄 2.5Y6/2、灰白 5Y8/1　内 . 灰白 5Y8/1	
1232	須恵器	蓋	SP115 カ 1B-10	②2.2+ α	外面 1/5 回転ヘラケズリ。内面当て具痕。他は回転ナデ。	A:微細～ 0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/ ～ 4/　内 . 灰 N5/	
1233	須恵器	杯身	SP115	②2.4+ α　④(7.2)	底部内外面ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 暗灰 N3/	外面全面に降灰。
1234	須恵器	杯身	SP115	②1.8+ α　④(7.6)	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/　内 . 灰 N6/	
1235	土師器	甑	SP115	②3.65+ α	把手部ナデ・指頭圧痕。体部内面ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を多量含む、赤褐色粒を含む。B:良好。C:外 . 明赤褐 2.5YR5/6、にぶい黄橙 10YR7/4　内 . 橙 7.5YR7/6	把手貼付式。
1236	須恵器	杯蓋	SP132 掘方	①(14.7)　②2.2+ α	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 4/5 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微砂粒を微量含む。B:不良。C:内外 . 灰白 2.5Y7/1	焼き歪む。
1237	須恵器	杯身	SP132 掘方	②1.6+ α　④(9.6)	底部外面中央部ヘラ切り、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N8/、灰 10Y4/1　内 . 灰白 N8/	高台に別個体釉着。
1238	須恵器	杯身	SP132 掘方	②2.6+ α　④(8.4)	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。内面 1 条沈線。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N6/　内 . 灰白 N7/	
1239	鉄滓		SP132 掘方	長 2.1　幅 2.05 厚 1.2　重 5.8g			
1240	須恵器	杯蓋	SP135 掘方	②2.2+ α	口縁部回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N4/　内 . 灰 N6/	
1241	須恵器	杯蓋	SP135 掘方	②1.15+ α つまみ径 1.55	天井部外面回転ナデ、内面ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰白 N8/	
1242	須恵器	杯蓋	SP135 掘方	②1.15+ α	外面 1/2 ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	
1243	須恵器	杯身	SP135 掘方	②2.5+ α	体部～底部回転ナデ。	A:微砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N6/　内 . 灰白 N7/	
1244	土製品	鞴羽口	SP135 掘方	縦 3.9+ α 横 4.55+ α 厚 2.4+ α	外面ナデ・指頭圧痕。内面摩滅のため調整不明。	A:0.5～3mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/、5Y8/1、2.5Y8/2、浅黄橙 10YR8/4、橙 5YR7/6、赤灰 2.5YR6/1	一部に煤付着。

表47　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1245	須恵器	杯身	SP150 掘方	②1.55+ α ④(10.0)	底部外面中央部ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、明オリーブ灰 2.5GY7/1　内 . 灰 N6/	
1246	須恵器	杯身	SP150 掘方	②1.7+ α	底部外面ヘラ切り、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 灰 N6/	
1247	須恵器	高杯	SP150 掘方	②4.65+ α 脚部径(11.0)	内外面回転ナデ。外面シボリ痕。	A:微細～ 1mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N4/　内 . 灰 N6/～ 5/	焼き歪む。
1248	瓦	平瓦	SP150 掘方	長 8.85+ α 幅 11.6+ α　厚 1.5	凹面コビキ痕。凸面平行タタキ。側面ヘラ切り。	A:微細な白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:凹 . 浅黄橙 10YR8/3、橙 5YR6/6 凸 . 灰白 10YR8/2、橙 7.5YR6/6	
1249	須恵器	杯身	SP155 掘方	①(13.9)　②3.8 ④(9.0)	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰白 N7/	
1250	須恵器	皿	SP155 掘方	①(17.9)　②1.9 ③(15.0)	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:内外 . 灰白 5Y8/1	体部外面～口縁部内面に焼きムラ。
1251	須恵器	皿	SP155 掘方	①(18.8)　②2.4+ α ③(14.6)	内外面回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 灰 N5/～ 4/	
1252	土師器	甕	SP155 掘方	①(16.3)　②10.95	口縁部ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面斜め方向のヘラケズリ。底部外面ハケメ後ナデ、内面ナデ。	A:微細～ 3mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . にぶい赤褐 2.5YR5/4、にぶい黄橙 10YR7/3　内 . にぶい黄橙 10YR7/3、橙 2.5YR6/8	体部外面に破裂痕。体部～底部外面に煤付着。
1253	鉄滓		SP155	長 1.55　幅 1.15 厚 1.0　重 2.6g			
1254	須恵器	杯身	SP119 掘方	①(10.6)　②4.0+ α	底部外面ヘラ切り、内面ナデ。他は回転ナデ。外面 3 条沈線。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	
1255	須恵器	杯身	SP159･SP160 検出時	①(12.6) ②3.95+ α 受部径(15.0)	底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。口縁部内面 1 条沈線。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰白 N8/	体部内面にヘラ記号。
1256	須恵器	鉢	SP160 掘方	②5.9+ α	口縁部回転ナデ。体部外面カキメ、内面ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 黄灰 2.5Y4/1　内 . 暗灰 N3/ 胎土 . 褐 7.5YR4/4	
1257	鉄滓		SP163 掘方	長 1.95　幅 1.5 厚 1.0　重 2.8g			
1258	鉄滓		SP163 掘方	長 2.45+ α　幅 2.3 厚 1.3　重 5.4g			
1259	須恵器	杯蓋	SP183･SP184 検出時	①(16.8) ②1.35+ α	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰白 N7/、灰 N6/	
1260	須恵器	杯蓋	SP184	②1.9+ α	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:不良。C:内外 . 灰白 5Y8/1～ N7/	
1261	須恵器	高杯	SP183 掘方	②2.15+ α	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/～ 5/	
1262	須恵器	鉢	SP183･SP184 検出時	②8.7+ α	口縁部～体部回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N4/　内 . 灰白 N7/、灰 N4/～ 6/	
1263	鉄滓	椀形鍛冶滓	SP184	長 6.2　幅 5.4 厚 3.0　重 105.0g			
1264	須恵器	杯蓋	SP347	①(11.3)　②1.8+ α 受部径(14.0)	外面 1/3 回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . オリーブ灰 2.5GY5/1　内 . 灰 N6/	焼き歪む。
1265	須恵器	杯身	SP347	①(8.8)　②2.6+ α 受部径(10.8)	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	外面全面に降灰。
1266	須恵器	杯身	SP347	①(9.4)　②4.4+ α 受部径(11.8)	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	外面全面に降灰。受部に付着物あり。
1267	須恵器	高杯	SP347	②4.0+ α 脚裾部径 7.1	底部外面回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。体部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。脚部内外面回転ナデ。内面シボリ痕。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰白 N7/	
1268	須恵器	杯蓋	SD01-10･11 間土層 ベルト下層	①(17.6)　②1.5+ α	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を微量含む。B:不良。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	内外面に煤付着。灯明具？
1269	須恵器	蓋	SD01-11	①(23.8)　②2.6+ α 受部径(26.8)	天井部外面回転ヘラケズリ。内面ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/～ 5Y7/1	
1270	須恵器	杯身	SD01-10･11 間土層 ベルト下層	①(15.0)　②4.45 ④(10.0)	底部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰白 5Y8/1	
1271	須恵器	長頸壺	SD01-10･11 間土層 ベルト下層	②8.1+ α ⑤肩部(19.0)	肩部～体部回転ナデ。	A:1 ～ 2mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N4/　内 . 灰 N6/～ N5/	
1272	須恵器	杯身	SD02-1･2 間ベルト	②1.8+ α　④(9.2)	底部外面ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/～ 5/	
1273	須恵器	杯	SD02-1	②3.2+ α　③(8.9)	底部外面ナデ？内面ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰 N6/	
1274	土師器	小皿	SD02-4	①(8.0)　②0.8 ③(6.3)	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒、黒色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1275	土師器	丸底杯	SD02-4	①(15.4)　②2.8+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 7.5YR8/3　内 . 浅黄橙 7.5YR8/3、灰白 10YR7/1	

表48　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表④

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1276	土師器	丸底杯	SD02-2	②1.8+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2、にぶい黄橙 10YR7/2、明褐灰 7.5YR7/2	内面に煤付着。
1277	土師器	椀	SD02-2	②6.0+ α	摩滅のため調整不明。	A:1 ～ 2mm の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	
1278	土師質土器	鉢？	SD02-1	②4.7 ＋α	摩滅のため調整不明。	A:1 ～ 2mm の白色砂粒を多量含む。微細な雲母を少量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	
1279	土師器	甕？	SD02-1･2 間ベルト	②1.15+ α　④(7.2)	摩滅のため調整不明。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	
1280	黒色土器A類	椀	SD02-1	②1.3+ α　④7.05	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 10YR8/1、8/2　内 . 黒褐 10YR3/1	
1281	瓦器	椀	SD02-1	②1.9+ α　④6.9	高台部外面回転ナデ。底部外面ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 黒褐 10YR3/1、にぶい黄橙 10YR7/3 内 . 黒褐 10YR3/1	
1282	白磁	椀	SD02-1	①(17.0)　②4.2+ α	体部外面ケズリ。残存部全体施釉。	A:やや粗い。灰白 N8/。微細な黒色粒あり。B:良好。C：釉 . 灰白 10Y8/1	鈍い光沢。
1283	瓦	平瓦	SD02-2	長8.6+ α　幅8.3+ α 厚2.65+ α	凹面側面摩滅のため調整不明。凸面タタキ。	A:1 ～ 2mm の白色砂粒を多量含む。B:やや不良。C:凹凸面 . 灰白 5Y8/1	
1284	須恵器	杯蓋	SD03-9	②4.8+ α	外面 2/3 回転ヘラケズリ、一部に圧痕あり。内面 1/5 回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。外面 1 条沈線。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/、N4/　内 . 灰 N6/	天井部外面にヘラ記号。
1285	須恵器	杯蓋	SD03(12 次つづき)-6 北側中段炭混層	①(12.8)　②3.0+ α 受部径(15.4)	摩滅のため調整不明。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:不良。C:内外 . 橙 7.5YR7/6	
1286	須恵器	杯蓋	SD03-6 構内埋土	①(19.7)　②1.3+ α つまみ径(3.3)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 2/3 ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒､黒色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 2.5Y7/1、黒 2.5Y2/1 内 . 灰 N6/	外面全面に降灰。
1287	須恵器	杯蓋	SD03-8･9 間ベルト下層	②1.3+ α	口縁部回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N4/	
1288	須恵器	杯身	SD03(12 次つづき)-6 北側中段炭混層	②1.9+ α　④(8.6)	高台貼付の回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm の白色砂粒を含む。赤褐色粒を含む。B:不良。C:外 . 灰白 2.5Y8/2 内 . 浅黄橙 7.5YR8/4	
1289	須恵器	杯身	SD03-6 構内埋土	①(15.1)　②4.9 ④(9.7)	口縁部～底部回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 5Y6/1　内 . 明褐灰 7.5YR7/2	
1290	土師器	小皿	SD03-6 構内埋土	②1.0+ α　③(7.6)	底部外面糸切り、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1mm 前後の白色砂粒を含む。赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:外 . にぶい橙 7.5YR7/4　内 . にぶい橙 7.5YR6/4	内外面に煤付着。
1291	瓦質土器	鉢	12 次 ･SD03 直上(検出時)	②3.0+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:外 . 灰白 2.5Y8/2、暗灰 N3/　内 . 灰白 2.5Y8/2	
1292	土師器	丸底杯	SD04-1	①(14.8)　②3.2+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/4	内外面に煤付着。
1293	土師器	椀	SD04-1	②1.9+ α　④(7.3)	底部外面ナデ。他は回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を含む。B:良好。C:内外 . にぶい黄橙 10YR6/4	
1294	土師器	器台	SD04-1	②7.2+ α	摩滅のため調整不明。中央部穿孔。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を少量含む。赤褐色粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1295	土師器	甕	SD04-1	②2.1+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 3mm 程の白色砂粒、雲母を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 10YR8/2　内 . 橙 7.5YR6/8、黒 N2/	
1296	黒色土器A類	椀	SD04-1	②2.1+ α　④6.15	底部外面ナデ。内面ヘラミガキ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母を含む。B:良好。C:外 . 灰白 10YR8/2、黒 N2/ 内 . 黒 N2/	
1297	黒色土器A類	椀	SD04-1	②2.1+ α　④(8.3)	外面底部ヘラ切り後ナデ。内面ヘラミガキ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～2mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 10YR8/4、灰黄 2.5Y7/2 内 . 黒 N2/、灰黄 2.5Y7/2	底部外面に黒変。
1298	白磁	椀	SD04-3	①(15.2)　②5.3+ α	口縁部下位～体部外面ケズリ。内面～体部中位外面施釉。	A:精。灰白 N8/　B:良好。C:釉 . 灰白 7.5Y 7/1	貫入あり。
1299	白磁	皿	SD04-1 SD04-0･1 間ベルト 5 層	①10.7　②2.8 ③3.9	底部外面ケズリ。内面沈線。内面～体部施釉。	A:精。灰白 N8/　B:良好。C:釉 . 灰白 7.5Y 8/2	貫入あり。
1300	石製品	石鍋	SD04-1	②4.7 ＋α	体部ケズリ。把手削り出し。		外面に煤付着。滑石。
1301	石製品	温石	SD04-1	長5.6+ α　幅9.1 厚1.2	表裏面ケズリ。穿孔あり。表面中央敲打痕、擦痕あり。		部分的に黒化。滑石。
1302	石製品	砥石	SD04-2	長8.8+ α 幅10.3+ α 厚5.8+ α 重745.0g			4 面使用。
1303	土師器	小皿	SD05-5･6 間ベルト	①(8.7)　②1.1 ③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒、赤褐色粒を含む。B:良好。C:外 . 橙 5YR7/6　内 . にぶい黄橙 10YR7/3、橙 5YR7/6	板状圧痕。
1304	土師器	小皿	SD05-3	①(9.3)　②0.75 ③(7.2)	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、赤褐色粒を含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/4	
1305	土師器	小皿	SD05-2	①(9.4)　②1.1 ③(6.3)	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒、雲母を含む。B:良好。C:外 . にぶい黄橙 10YR7/3　内 . にぶい橙 7.5YR7/3、浅黄 2.5Y7/3	
1306	土師器	小皿	SD05-5･6 間ベルト	②0.9+ α　③(7.0)	体部内面回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。
1307	土師質土器	鉢	SD05-5	②4.0+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～4mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . にぶい褐 7.5YR6/3、にぶい橙 7.5YR7/3　内 . にぶい黄橙 10YR6/3	
1308	白磁	椀	SD05-1	①(15.0)　②5.5+ α	口縁部下位～体部外面ケズリ。内面～体部中位外面施釉。	A:精。灰白 5Y8/1　B:良好。C:釉 . 灰白 5Y7/2	貫入あり。厚く施釉。

表49　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑤

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1309	白磁	椀	SD05-2 SD05-2･3 間ベルト	①(16.6)②2.3+ α		A:精。灰白 N8/　B:良好。C:釉 . 灰白 10Y 8/1	玉縁口縁。
1310	鉄製品	不明	SD05-2	長3.0+ α　幅3.0+ α 厚0.7　重8.0g			
1311	鉄滓		SD05-3	長2.25+ α 幅2.7+ α　厚1.7 重10.6g			
1312	須恵器	杯蓋	SD06-3	①(12.0)　②3.1	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1 ～ 3mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～ N5/　内 . 灰 N5/	天井部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1313	須恵器	杯蓋	A-12･B-12 区(SD06-0)中層 A-12･B-12 区(SD06-0)上層 SD06-1	①12.2　②3.55	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 2/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N4/、灰白 7.5Y7/1　内 . 灰 N4/	天井部外面にヘラ記号。
1314	須恵器	杯蓋	SD06-1 1 層包含層 SD06-2 遺構検出時	①(13.8)　②4.4+ α	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を少量と黒色粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～灰 N5/　内 . 灰白 N7/	
1315	須恵器	杯蓋	A-12･B-12 区(SD06-0)上層 A-12･B-12 区(SD06-0)中層	①(14.0) ②4.45+ α	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面当て具痕。他は回転ナデ。口縁部内面 1 条沈線。	A:1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N4/	外面一部に降灰。
1316	須恵器	杯蓋	SD06-3	①(9.1)　②2.7 受部径(10.4) つまみ径 1.25	天井部～受部外面降灰のため調整不明。内面 6/7 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mm 程の白色砂粒、黒色粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰白 N8/	
1317	須恵器	杯蓋	A-12･B-12 区(SD06-0)上層 A-12･B-12 区(SD06-0)中層	①8.5　②2.75+ α 受部径 10.8	内面 1/3 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、灰 N5/　内 . 暗灰 N3/　胎土 . 暗紫灰 5PB4/1	天井部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1318	須恵器	杯蓋	A-12･B12(SD06-0)中層	①(11.5)　②2.3+ α 受部径 13.5	外面 1/3 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 暗灰 N3/	天井部外面ヘラ記号。
1319	須恵器	杯蓋	A-12･B-12 区(SD06-0)中層 A-12･B-12 区(SD06-0)上層	①10.1　②3.85 受部径 12.15 つまみ径 1.2	外面 1/4 回転ヘラケズリ。内面 1/2 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N4/	天井部外面にヘラ記号。焼き歪む。
1320	須恵器	杯蓋	SD06-3　1 層	②1.9+ α つまみ径 1.8	外面つまみ貼付の回転ナデ、ナデ。内面不定方向ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N8/　内 . 灰 5Y5/1	外面全面に降灰。
1321	須恵器	杯蓋	SD06-3　1 層	②2.35+ α つまみ径 2.55	外面 3/4 回転ヘラケズリ。内面 3/4 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒、黒色粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 10Y8/1　内 . 灰白 10Y7/1	
1322	須恵器	杯身	SD06-3 B-9 区遺構検出時	①(9.7)　②3.6+ α 受部径(11.4)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:0.5～2mm 程の白色砂粒、黒色粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 灰 N6/	体部～底部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。
1323	須恵器	杯身	A-12･B-12 区(SD06-0)中層	①9.4 ～ 10.6　②3.4 受部径 11.0 ～ 12.05	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、灰 N6/、灰白 N7/　内 . 灰 N4/	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。焼き歪む。
1324	須恵器	杯身	SD06-1 下層粘質土	①10.6　②3.5 受部径 12.8	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰 N5/　胎土 . 明赤灰 5R7/1	底部外面ヘラ記号。焼き歪む。
1325	須恵器	杯身	SD06-2 青灰色砂質土	①(10.4)　②4.1 受部径(12.4)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、5Y8/1　内 . 灰白 N8/	外面全面に降灰。
1326	須恵器	杯身	SD06-3　1 層	①(10.8) ②3.65+ α 受部径(12.8)	外面 1/3 ヘラ切り後ナデ、内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 7.5Y8/1	
1327	須恵器	杯身	SD06-3	①(10.1)　②3.95	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。外面 2 条沈線。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 灰 N6/　胎土 . 紫灰 5RP5/1	底部外面にヘラ記号。
1328	須恵器	杯身	SD06-3　1 層	①(10.8)　②3.9+ α	外面 1/2 回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。外面 1 条沈線。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	外面底部にヘラ記号。
1329	須恵器	杯身	SD06-1	①(12.7)　②3.35 ④(7.4)	底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～暗灰 N3/　内 . 灰 N6/	
1330	須恵器	杯身	A-12･B-12 区(SD06-0)上層 A-12･B-12 区(SD06-0)中層	①(13.0)　②4.55 ④(8.1)	外面一部ナデ、底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細粒を少量含む。B:良好。C:外 . 青灰 5PB5/1、暗灰 N3/　内 . 青灰 5PB5/1　胎土 . 暗紫灰 5RP3/1	外面一部に降灰。
1331	須恵器	杯	SD06-1	②3.5+ α　③7.2	外面摩滅のため調整不明。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、体部内面回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を多量と赤褐色粒を少量含む。B:不良。C:外 . 灰白 2.5Y8/1 ～浅黄橙 10YR8/3　内 . 灰白 5Y8/1	
1332	須恵器	椀	A-12･B-12 区(SD06-0)中層 SD06-1	①(8.8)　②4.55 ③6.6	外面 1/3 ヘラ切り。他は回転ナデ。外面 2 条沈線。	A:0.5 ～ 1.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/　内 . 灰 N4/、灰白 N7/	底部外面にヘラ記号。内面全面と外面一部に降灰。
1333	須恵器	椀	A-12･B-12 区(SD06-0)中層	①8.9　②6.85	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。底部中央部外面ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	
1334	須恵器	椀	A-12･B-12 区(SD06-0)中層 表採	①(11.6)　②7.0	底部外面降灰のため調整不明、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。外面 2 条沈線。	A:1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 7.5Y5/1、N6/　内 . 褐灰 7.5YR5/1	外面全面と内面の一部に降灰。焼き歪む。炉壁と別個体の一部釉着。
1335	須恵器	椀	SD06-1 下層粘質土	①(12.3)　②6.9	外面 2/5 手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:0.5～2mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、暗灰 N3/　内 . 暗灰 N3/　胎土 . 明赤灰 5R7/1	底部外面にヘラ記号。外面全面・口縁部・体部内面の一部降灰。焼き歪む。

表50　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑥

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1336	須恵器	高杯	SD06-3 B-9 区遺構検出時	①(11.1)　②11.4 脚裾部径 9.7	体部下位外面・脚部中位外面カキ目。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。脚部内面一部回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	透かし 3 カ所。杯部と脚部内面 1/2 に降灰。焼き歪む。
1337	須恵器	高杯	SD06-1	②5.4+ α 脚裾部径(7.2)	脚部内外面回転ナデ。内面にシボリ痕。外面 2 条沈線。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～暗灰 N3/　内 . 灰 N6/、暗灰 N3/　胎土 . 灰赤 10R4/2	外面一部に降灰。
1338	須恵器	高杯	SD06-1 上層 A-13・B-13 区	②2.8+ α 脚裾部径(8.8)	杯部底部外面ヘラ切り。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～ N5/　内 . 灰 N5/	杯底部外面にヘラ記号。
1339	須恵器	鉢	A-12･B-12 区(SD06-0)中層	②4.15+ α	口縁部回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:内外 . 灰白 5Y7/1	
1340	須恵器	鉢	SD06-1	①(18.2)　②9.2	底部外面中央回転ヘラケズリ後ナデ、1/3 回転ヘラケズリ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 5mm 程の白色砂粒を多量含む。B:やや不良。C:外 . 灰白 N7/、灰 N6/　内 . 灰白 N7/	体部内面にヘラ記号。
1341	須恵器	甕	A-12･B-12 区(SD06-0)上層	①(41.8) ②10.1+ α	口縁部回転ナデ、上位外面波状文施文後 2 ヵ所に 1 条・3 条沈線。頸部内面回転ナデ後ナデ。外面指頭圧痕。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:外 . オリーブ灰 2.5GY6/1　内 . 明オリーブ灰 2.5GY7/1	沈線間に波状文。
1342	須恵器	甕	A-12･B-12 区上層 A-12･B-12 区中層 A-12･B-12 区(SD06-0)上層 A-12･B-12 区(SD06-0)中層 006-1　北側遺構検出時 廃土中	①37.0　②78.2 ⑤63.8	口縁部回転ナデ後外面に波状文施文。その後 2 ヵ所に 2 条沈線。体部～底部外面擬格子タタキ、内面同心円文当て具後体部下位～底部カキメ。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N4/　内 . 灰 N5/	沈線間に波状文。外面降灰。
1343	須恵器	円面硯	A-12･B-12 区(SD06-0)上層	②3.35+ α	脚部回転ナデ。	A:微細粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	外面全面に降灰。
1344	須恵器	不明	A-12･B-12 区(SD06-0)上層	長 5.65+ α 幅 1.65+ α　厚 1.2	表面ナデ・指頭圧痕。側面・裏面ヘラケズリ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を少量含む。赤褐色粒を含む。B:良好。C:灰白 7.5Y7/1、灰 N4/、灰褐 7.5YR4/2	
1345	土師器	杯	SD06-1	①(10.6)　②3.1 ③(5.8)	口縁部～体部外面回転ナデ後回転ミガキ、内面回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ後回転ミガキ、内面不定方向ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 明赤褐 5YR5/6　内 . 橙 5YR7/6	
1346	土師器	甕	SD06-1 下層粘質土	①(23.5)　②5.4+ α	口縁部外面タテハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面ナデ。	A:0.5 ～ 3mm 程の白色砂粒、赤褐色粒、微細な雲母を少量含む。5 ～ 7mm 程の小石を微量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	
1347	土師器	甕	SD06-2 青灰色砂質土	②4.7+ α	摩滅のため調整不明。	A:1 ～ 3mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 10YR8/3　内 . 灰白 10YR8/2	口縁部内面に赤変。
1348	土師器	甕	SD06-3　1 層	②4.8+ α	口縁部ヨコナデ。体部外面ナデ・タテハケ、内面ナデ。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒、赤褐色粒、微細な雲母を含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	
1349	弥生土器	甕	SD06-2 青灰色砂質土	②2.8+ α	口縁～体部外面ヨコナデ、内面ナデ。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . にぶい黄橙 10YR7/2　内 . にぶい黄橙 10YR7/3、灰黄褐 10YR6/2	
1350	弥生土器	甕	SD06-2 青灰色砂質土	②5.2+ α　③(9.4)	摩滅のため調整不明。	A:1 ～ 5mm 程の白色砂粒をやや多量含む。B:良好。C:外 . 灰白 2.5Y8/1　内 . 灰白 5Y7/1	
1351	弥生土器	甕	SD06-2	②7.3+ α　③(9.9)	体部下位外面タテハケ。底部外面摩滅のため調整不明。内面工具ナデ、指頭圧痕。	A:0.5 ～ 3mm 程の白色砂粒、黒色粒を含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 10YR8/4、にぶい黄橙 10YR7/4、橙 2.5YR7/8　内 . 橙 5YR7/6	外面に赤変。
1352	瓦	平瓦	SD06-1	長 9.0+ α 幅 8.75+ α　厚 2.1	凹面布目？凸面縄目タタキ。側面ヘラ切り。	A:1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:凹面 . 灰白 N7/、暗灰 N3/　凸面 . 灰白 N7/、黒 N2/	
1353	鉄製品	不明	SD06-1	長 3.35+ α　幅 2.45 厚 1.5　重 13.0g			
1354	石器	石鏃	SD06-3	長 2.2+ α 幅 1.85+ α　厚 0.35 重 0.8g	全体に細部調整。		安山岩。
1355	石器	石鏃	SD06-1	長 2.75+ α 幅 1.8+ α　厚 0.45 重 1.4g	全体に細部調整。		
1356	石器	石核	SD06-2 遺構検出時	縦 4.65　横 3.2 厚 2.4　重 33.4g	尖端部に細部調整。		黒曜石。
1357	須恵器	蓋	SP200 南	②1.8+ α つまみ径 4.0	つまみ部降灰のため調整不明。内面ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 白色砂粒を含む。小石を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 5Y6/1　内 . 灰 N5/	つまみ部に降灰。
1358	須恵器	甕	SP200 南 SP200 ベルト下(中･下層)	①(23.8) ②4.75+ α	口縁部外面回転ナデ、体部上位外面平行タタキ。内面摩滅のため調整不明。	A:1mm 程の白色砂粒を微量含む。0.5 ～ 1.5mm 程の茶褐色粒、0.5mm 程の黒色粒を含む。B:不良。C:外 . 灰白 2.5Y8/2、5Y7/1　内 . 灰白 2.5Y7/1	
1359	土師器	小皿	SP200 北側上層　土器群	①8.95　②1.2 ③6.25	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。小石を少量含む。B:良好。C:内外 . 淡黄 2.5Y8/3	板状圧痕。
1360	土師器	小皿	SP200 北 SP 北側上層	①8.9　②1.45 ③6.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm 程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1361	土師器	小皿	SP200 北側上層　土器群	①9.0　②1.15 ③7.05	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 淡黄 2.5Y8/3	板状圧痕。
1362	土師器	小皿	SP200 北	①(9.8)　②1.3 ③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	

表51　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1363	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①(9.65) ②1.25+α　③7.8	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 10YR8/2	板状圧痕。
1364	土師器	小皿	SP200 北	①9.3　②1.15 ③7.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外．浅黄橙 10YR8/3　内．灰白 2.5Y8/2	
1365	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①9.85　②1.65 ③7.6	摩滅のため調整不明。	A:微細～1mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外．浅黄橙 10YR8/3	外面に黒斑。焼き歪む。
1366	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①9.35　②1.4 ③6.7	底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 2.5Y8/1	
1367	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①9.4　②1.3　③7.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 7.5YR8/2、2.5Y8/1	板状圧痕。
1368	土師器	小皿	SP200 北側上層　土器群	①9.2　②1.35 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 2.5Y8/2	板状圧痕。
1369	土師器	小皿	SP200 北側上層　土器群	①9.45　②1.6 ③7.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。雲母を微量含む。B:良好。C:外．浅黄橙 10YR8/3　内．浅黄橙 7.5YR8/3	
1370	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①9.3　②1.35 ③6.9	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:内外．浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。
1371	土師器	小皿	SP200 南	①9.75　②1.45 ③7.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。口縁部～体部内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外．灰黄 2.5Y7/2	板状圧痕。
1372	土師器	小皿	SP200 南 SP200 南上層 SP200 北	①9.55　②0.8 ③8.3	口縁部～体部外面摩滅のため調整不明。底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 10YR8/2	外面に赤色顔料？
1373	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①9.4　②1.55 ③7.0	摩滅のため調整不明。	A:微細粒、雲母を少量含む。B:良好。C:内外．淡黄 2.5Y8/3	板状圧痕。
1374	土師器	小皿	SP200ベルト下(中・下層) SP200 北側上層	①9.3　②1.45 ③7.4	摩滅のため調整不明。	A:微細粒、雲母を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 10YR8/2	板状圧痕。
1375	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①9.6　②1.6　③7.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外．にぶい黄橙 10YR7/3　内．浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。内外面に煤付着。
1376	土師器	小皿	SP200ベルト下(中･下層)	①8.4　②1.25 ③6.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。雲母を少量含む。B:良好。C:内外．灰黄 2.5Y7/2	板状圧痕。内面に煤付着。
1377	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層) SP200 南	①14.4　②3.1	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外．浅黄橙 10YR8/3	
1378	土師器	丸底杯	SP200 北	①14.6　②3.3	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 2.5Y8/2	
1379	土師器	丸底杯	SP200 上層	①15.3　②3.25	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 10YR8/2	
1380	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①17.5　②3.35	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。雲母、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外．橙 7.5YR6/6、浅黄橙 10YR8/3　内．にぶい橙 5YR7/4、浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。
1381	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層) SP200 南	①14.9　②3.4	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 3mm 程の白色砂粒を含む。雲母を少量含む。B:良好。C:内外．浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。
1382	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①15.05　②2.9	底部外面ヘラ切り。体部外面回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。雲母を少量含む。B:良好。C:内外．浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。
1383	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①15.45　②3.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、体部外面一部ナデ。底部内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:1mm の白色砂粒を少量含む。2～3mmの白色砂粒を微量含む。雲母、角閃石、赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:内外．灰白 2.5Y8/1～8/2	板状圧痕。底部内外面に黒斑。
1384	土師器	丸底杯	SP200 南上層 SP200 南	①15.6　②3.85	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:微細～1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外．灰白 10YR8/2　内．浅黄橙 10YR8/3	
1385	土師器	丸底杯	SP200 南上層 SP200 南	①15.6　②2.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面摩滅のため調整不明。体部内面ナデ、他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外．灰黄 2.5Y7/2	
1386	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層) SP200 南 SP200 下層	①15.8　②3.5	口縁部回転ナデ。内面コテ当て。他は摩滅のため調整不明。	A:微細粒を含む。B:良好。C:外．浅黄橙 7.5YR8/3　内．浅黄橙 7.5YR8/3・10YR8/3	板状圧痕。
1387	土師器	丸底杯	SP200 南上層	①16.0　②3.7	内面コテ当て。底部外面ヘラ切り後ナデ。口縁部摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:内外．浅黄橙 10YR8/3	
1388	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①16.0　②3.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。雲母を少量含む。B:良好。C:外．浅黄橙 10YR8/3、灰白 7.5YR8/2　内．浅黄橙 10YR8/3	
1389	土師器	丸底杯	SP200 北側上層　土器群	①(16.55)　②4.05	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面コテ当て。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外．淡黄 2.5Y8/3　内．灰白 2.5Y8/2	
1390	土師器	丸底杯	SP200 北	①15.3　②3.1	摩滅のため調整不明。中央部に穿孔。	A:微細～1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外．灰白 10YR8/2	
1391	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①15.25　②3.4	体部～底部外面摩滅のため調整不明。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母を少量含む。B:良好。C:外．灰白 2.5Y8/1、10YR8/2　内．灰白 10YR8/2	内面一部に煤付着。底部外面一部に黒斑。

表52　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑧

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1392	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①15.65　②3.25	底部外面ヘラ切り。口縁部内面回転ナデ、体部～底部内面コテ当て。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～2mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外.浅黄橙10YR8/3	内外面一部に煤付着。
1393	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①15.5　②3.2	摩滅のため調整不明。	A:1～2mmの白色砂粒を含む。雲母を微量含む。B:良好。C:内外.灰白2.5Y8/1、2.5Y7/1	内外面に煤付着。
1394	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層) SP200北側上層	①15.5　②3.4+α	口縁部～体部外面回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細～3mm程の白色砂粒を含む。雲母を少量含む。B:良好。C:外.灰白2.5Y8/2 内.灰白10YR8/2、橙2.5YR7/6	底部外面に破裂痕。内外面に煤付着。
1395	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層) SP200下層	①15.3　②3.4+α	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:0.5～1mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外.浅黄橙10YR8/3　内.浅黄橙10YR8/3、灰黄褐10YR5/2	底部外面に破裂痕。内外面に煤付着。
1396	土師器	丸底杯	SP200ベルト下(中・下層)	①15.55　②3.6	口縁部回転ナデ。体部外面ナデ。内面コテ当て。他は摩滅のため調整不明。	A:1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.浅黄橙7.5YR8/3、灰白2.5Y8/2 内.にぶい橙7.5YR7/4、灰白2.5Y8/2	内面にヘラによる文様。板状圧痕。
1397	土師器	椀	SP200上層	①(14.9)　②5.75 ④6.0	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:内外.灰白10YR8/2	
1398	土師器	椀	SP200ベルト下(中・下層)	①(16.2)　②5.7 ③6.95	口縁部～体部外面ミガキ。高台回転ナデ。底部外面回転ナデ後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:1～3mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外.浅黄橙10YR8/3	板状圧痕。
1399	土師器	甕	SP200北	②10.0+α	体部上位外面ヨコナデ、中位～下位摩滅のため調整不明。内面ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:外.にぶい黄橙10YR7/3　内.淡黄2.5Y8/3	外面に煤付着。
1400	土師器	甕	SP200北側上層　土器群	②2.75+α	口縁部外面ヨコナデ。内面摩滅のため調整不明。	A:1～2mm程の白色砂粒を含む。雲母を少量含む。小石を少量含む。B:良好。C:外.黒N2/　内.にぶい黄橙10YR7/3	外面に煤付着。
1401	黒色土器B類	椀	SP200下層	②1.4+α　④(6.5)	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を多量含む。雲母を少量含む。B:良好。C:内外.黒5YR1.7/1	
1402	黒色土器B類	椀	SP200南	②2.6+α　④6.8	体部～高台部外面回転ナデ。底部外面ナデ。内面ヘラミガキ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を含む。雲母を少量含む。B:良好。C:外.褐灰10YR4/1、灰黄褐10YR5/2　内.褐灰10YR4/1、黒10YR2/1	
1403	瓦器	椀	SP200南	①(14.4)　②4.3+α	外面摩滅のため調整不明。内面コテ当て。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:不良。C:外.灰5Y5/1、灰白5Y8/1　内.灰N5/、灰白2.5Y8/1	
1404	瓦器	椀	SP200南	②2.7+α　④(5.4)	摩滅のため調整不明。	A:微細～1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰白2.5Y7/1、暗灰N3/　内.灰白10YR7/1、灰黄褐10YR6/2	
1405	山茶椀	小椀	SP200北	①10.45　②3.35 ④5.2	底部外面中央部糸切り。他は回転ナデ。内面中央部を除き施釉。	A:1mm程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外.灰白5Y8/1	糸切り。底部内面に重ね焼きの痕跡？
1406	白磁	椀	SP200南	①(14.5) ②4.15+α	外面口縁部下位～体部ケズリ。残存部全体施釉。	A:微細な黒色粒を含む。灰白N8/　B:良好。C:釉.灰白10Y7/1	光沢のある釉を薄く施す。
1407	白磁	椀	SP200南	②3.1+α　④(7.5)	外面体部下位ケズリ。高台削り出し。内面・体部下位外面施釉。内面に沈線。	A:やや粗い。茶褐色粒を少量含む。淡黄2.5Y8/3　B:良好。C:釉.灰白2.5Y8/2、明赤褐2.5YR5/6	厚めに施釉。表面に気泡あり。
1408	白磁	椀	SP200ベルト下(中・下層)	②2.2+α	残存部全体に施釉。	A:灰白7.5Y8/1。B:良好。C:釉.灰白2.5Y7/2	釉に気泡が僅かに見られる。
1409	土製品	棒状土製品	SP200南	長10.7+α 幅4.3+α 厚3.65+α	摩滅のため調整不明。	A:1～4㎜程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:浅黄橙10YR8/3、にぶい黄橙10YR7/3	
1410	石製品	不明	SP200下層	長12.0+α 幅7.6+α　厚6.3 穿孔径(4.0) 重660.0g	中央部に穿孔。		砂岩。
1411	石製品	砥石	SP200ベルト下(中・下層)	長12.0+α 幅8.7+α　厚3.1+α 重288.0g			砂岩。3面使用。
1412	石製品	砥石	SP230南	長11.6+α 幅8.6+α 厚4.55+α 重438.8g			4面使用。
1413	石製品	不明	SP200ベルト下(中・下層)	長15.0+α 幅6.55+α 厚6.2+α 重1250.0g			緑色片岩。3面に煤付着。
1414	須恵器	杯蓋	SP230南	①16.0　②2.8 つまみ径2.15	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1.5mmの白色砂粒を多量含む。B:やや不良。C:外.灰白N7/～灰黄2.5Y7/2 内.灰白N7/～灰N5/	焼き歪む。
1415	須恵器	杯蓋	SP230南	②1.2+α	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/2ヘラ切り後回転ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.明紫灰5P7/1　内.灰白N7/～灰N5/	焼き歪む。
1416	須恵器	杯身	SP230ベルト5層	①(12.2)　②4.0 ④(9.5)	底部外面ヘラ切り、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外.灰N6/～N5/　内.灰N6/	焼き歪む。
1417	土師器	小皿	SP230南	①(9.3)　②0.95 ③(7.2)	底部外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒、赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:外.浅黄橙10YR8/4～橙7.5YR7/6　内.淡黄2.5Y8/3～浅黄橙10YR8/4	板状圧痕。
1418	土師器	把手付鉢	SP230北	②2.6+α　厚1.85	把手部ナデ。	A:0.5～1.5mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:淡橙5YR8/4～橙2.5YR6/6	把手のみ残存。
1419	黒色土器A類	鉢？	SP230北	②4.85+α	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ミガキ。内面ミガキ。	A:0.5～1.5mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.にぶい黄橙10YR7/2　内.暗灰N3/	

表53　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑨

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1420	白磁	椀	SP230 ベルト 3 層 SP200 ベルト 3 層	②3.6+ α　④(6.6)	体部外面ケズリ。高台削り出し。内面に沈線。内面・体部施釉。	A:やや粗。露胎 . 灰白 2.5Y8/2 ～浅黄橙 10YR8/3。B:良好。C : 釉 . 淡黄 2.5Y8/3	貫入あり。
1421	瓦	平瓦	SP230 北	長 8.35+ α 幅 7.65+ α　厚 1.8	凹凸面側面摩滅のため調整不明。	A:0.5mm の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:凹面 . 浅黄橙 10YR8/3 凸面 . 浅黄橙 10YR8/4	
1422	石製品	砥石	SP230 北	長 7.4+ α　幅 4.35 厚 2.3　重 98.6g			4 面使用。
1423	須恵器	把手付甕	SX02-1 上層	②7.1+ α	把手部ナデ・指頭圧痕。体部外面格子目タタキ、内面同心円状の当て具痕後ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰白 N8/	
1424	須恵器	甕	SX02 ベルト下層 SX05-12 下層深掘り時 SX05 ベルト上層	②16.0+ α	体部～底部外面平行タタキ後カキメ・ナデ、内面回転ナデ、同心円状の当て具痕後ナデ。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 7.5Y5/1　内 . 灰 7.5Y4/1 胎土 . 灰赤 10R6/2	体部上位外面・体部中位～底部内面に降灰。
1425	須恵器	獣脚	SX02-1 上層	②3.1+ α	一面のみヘラケズリ。他は工具によるナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:灰 5Y4/1、にぶい橙 7.5YR6/4　胎土 . 灰 N6/、にぶい褐 7.5YR5/3	
1426	土師器	小皿	SX02-2 下層	①(8.6)　②1.05 ③(6.9)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰黄褐 10YR5/2、10YR6/2	板状圧痕。
1427	土師器	小皿	SX02-1 下層	①(9.0)　②1.0 ③(7.6)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1428	土師器	小皿	SX02-2 上層	①9.5　②1.4 ③6.95	底部内外面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 3mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。
1429	土師器	小皿	SX02-1 下層	①9.5　②1.25 ③7.55	底部外面ヘラ切り。他は回転ナデ。	A:0.5mm 以下の白色砂粒を少量含む。0.5mm 程の黒色粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 橙 5YR7/6	
1430	土師器	小皿	SX02 ベルト下層	①9.8　②1.55 ③7.15	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 以下の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 7.5YR8/3　内 . 浅黄橙 10YR8/3	
1431	土師器	小皿	SX02 ベルト下層	①(10.1)　②1.3 ③(7.4)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 3mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/4	板状圧痕。
1432	土師器	小皿	SX02-2 下層	①10.2　②1.4 ③7.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/4 ～ 7.5YR8/6	板状圧痕。
1433	土師器	小皿	SX02-2 下層	①10.8　②1.7 ③9.0	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒、黒色粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 10YR8/4 ～ 7.5YR8/4　内 . 浅黄橙 10YR8/4	
1434	土師器	小皿	SX02 ベルト下層	①11.5　②1.6 ③9.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒、赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/4	
1435	土師器	丸底杯	SX02-2 上層	①(14.6) ②3.15+ α	底部外面ヘラ切り、内面ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 以下の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2、10YR7/1	
1436	土師器	丸底杯	SX02-2 下層	①15.2　②3.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒を含む。雲母、赤褐色粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 10YR8/3　内 . 灰白 10YR8/2	板状圧痕。
1437	土師器	丸底杯	SX02-2 下層 SX02-2 上層	①15.3　②3.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒、雲母、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y8/2 ～浅黄橙 10YR8/3	板状圧痕。
1438	土師器	丸底杯	SX02-1 下層	①15.4　②3.45	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を含む。微細な茶褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1439	土師器	丸底杯	SX02-2 下層 SX02 ベルト下層	①15.8　②3.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 7.5YR8/4 内 . 浅黄橙 7.5YR8/6	
1440	土師器	丸底杯	SX02-1 下層 SX02 ベルト下層	①15.9　②3.2	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 以下の白色砂粒を含む。0.5mm 程の茶褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 7.5YR8/4	
1441	土師器	丸底杯	SX02 ベルト下層	①16.2　②3.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:1mm 以下の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/4	板状圧痕。
1442	土師器	丸底杯	SX02-1 下層	①16.2　②3.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 以下の白色砂粒をやや多量含む。0.5mm 程の赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 7.5YR8/4	
1443	土師器	丸底杯	SX02 ベルト下層	①16.2　②2.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒をやや多量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1444	土師器	丸底杯	SX02 ベルト下層	①17.0　②4.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:1mm 以下の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 10YR8/2 内 .(口縁)灰白 10YR8/2、(体～底部)浅黄橙 7.5YR8/4	板状圧痕。
1445	土師器	椀	SX02-1 下層	①16.2　②5.1 ④7.25	底部外面ナデ、内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	
1446	土師器	椀	SX02-1 下層	①(16.3)　②5.95 ④6.55	摩滅のため調整不明。	A:0.5mm 以下の白色砂粒を多量含む。0.5mm 程の茶褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1447	瓦器	椀	SX02 ベルト上層	①(15.7)　②5.7 ④(6.2)	体部外面指頭圧痕。高台貼付の回転ナデ。内面ミガキ。他は摩滅のため調整不明。口縁部内面沈線。	A:白色の微砂粒を微量含む。B:不良。C:内外 . 黒 5Y2/1、灰 5Y6/1　胎土 . 灰白 2.5Y8/1	楠葉型。
1448	石製品	砥石	SX02-2 上層	長 8.5+ α 幅 6.6+ α　厚 2.4+ α 重 164.4g	一部欠損後再使用。		4 面使用。

表54　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑩

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1449	石製品	不明	SX02 ベルト下層	長 7.5+ α　幅 7.1+ α 厚 5.5+ α　重 16.0g			煤付着。被熱痕。
1450	土師器	椀	SP32 ベルト 1 層	②2.0+ α　④(7.0)	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒、雲母を含む。微細～1mm 程の黒色粒を含む。B:良好。C:外 . にぶい黄橙 10YR7/4、橙 5YR7/8　内 . にぶい黄橙 10YR7/4	
1451	土師器	鉢	SP32-2 下層 SP32 ベルト 5 層	②4.6+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～3mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2	
1452	須恵器	杯蓋	SX01-3 SX03-1	①(11.5)　②3.5	外面 1/2 回転ヘラケズリ。天頂部未調整。内面 1/2 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、オリーブ灰 2.5GY5/1　内 . 灰 N4/、暗紫灰 5P3/1	天井部外面にヘラ記号。
1453	須恵器	杯蓋	SX01-3	①(12.5)　②5.0	外面 1/2 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 2/5 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、灰 N4/、灰白 N8/　内 . 青灰 5PB5/1	天井部外面にヘラ記号。
1454	須恵器	杯蓋	SX01 南北ベルト 8 層 SX01 東西ベルト 11 層 SX01-2	①12.7　②3.8	外面 1/3 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。口辺部ナナメハケ、内面 1/2 不定方向ナデ、他は回転ナデ。	A:微細～2mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、灰 N4/　内 . 灰 N5/	天井部～体部外面にヘラ記号。
1455	須恵器	杯蓋	SX01 Ⅳ群	①12.9　②3.95	外面 1/2 回転ヘラケズリ、天頂部ハケメ状の痕跡。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～4mm 程の白色砂粒をやや多量含む。B:良好。C:外 . 黒 N2/、灰 N5/　内 . 灰 N6/	天井部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1456	須恵器	杯蓋	SX01 Ⅳ群	①12.7　②4.3	外面 1/3 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 1/4 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm 程の砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、暗灰 N3/　内 . 灰 N6/	天井部外面にヘラ記号。
1457	須恵器	杯蓋	SX01-2	①12.9　②3.7	外面 3/5 回転ヘラケズリ。内面 3/5 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N7/	天井部外面にヘラ記号。
1458	須恵器	杯蓋	SX01 東西ベルト 4 層	①(14.0)　②4.1+ α	天井部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:微細～1mm 程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰褐 5YR5/2、褐灰 7.5YR5/1　内 . にぶい赤褐 5YR5/3	
1459	須恵器	杯身	SX01 東西ベルト 4 層	①(8.2)　②2.8 受部径(10.6)	外面 1/3 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、暗灰 N3/　内 . 灰 N4/	底部外面にヘラ記号。板状圧痕。焼き歪む。
1460	須恵器	杯身	SX01 南北ベルト 8 層	①(10.2)　②3.6 受部径(11.9)	外面 1/4 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/2 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～1mm 程の白色砂粒をやや多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/　胎土 . 灰赤 2.5YR5/2	底部外面にヘラ記号。
1461	須恵器	杯身	SX01 Ⅳ群	①10.3　②4.15 受部径 12.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 1/2 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . にぶい赤褐 2.5YR5/4、2.5YR4/4　内 . にぶい赤褐 2.5YR4/4	天井部～体部外面にヘラ記号。
1462	須恵器	杯身	SX01-3	①10.2　②3.4 受部径 12.4	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/2 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～2mm 程の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/　胎土 . 灰白 N7/、灰 N4/	底部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。窯壁付着？
1463	須恵器	杯身	SX01-3 SX01 Ⅱ群	①(10.55)　②3.7 受部径(12.6)	外面 1/3 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 1/4 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/、N6/　内 . 青灰 5PB6/1	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。杯蓋破片釉着。
1464	須恵器	杯身	SX01 Ⅳ群	①10.8～11.7+ α ②4.0 受部径 13.1～14.0+ α	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～1mm 程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	底部外面にヘラ記号。外面全体に降灰。楕円形に焼き歪む。
1465	須恵器	杯身	SX01 カマド？遺構 Sec3･4 間 4 層	①11.8　②4.15 受部径 13.85	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:微細～1mm 程の白色砂粒を微量含む。B:不良。C:外 . 灰白 2.5Y8/1　内 . 灰白 2.5Y8/1、褐 7.5YR4/6	底部外面にヘラ記号。
1466	須恵器	杯身	SX01 Ⅱ群 SX01	①11.65　②3.9 受部径 14.0	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm 程の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N4/　内 . 灰白 N7/	体部外面にヘラ記号。外面全体に降灰。
1467	須恵器	杯身	SX01-3 SX01-4 SX01 Ⅱ群	①11.7　②3.8 受部径 14.0	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒と黒色粒をやや多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、暗灰 N3/　内 . 灰 N6/	底部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。杯蓋破片釉着。
1468	須恵器	杯身	SX01 南北ベルト 8 層 SX01 東西ベルト 4 層	①(12.0)　②3.1 受部径(14.4)	底部外面回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリ。内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N4/　内 . 灰白 N7/	天井部～体部外面にヘラ記号。
1469	須恵器	杯身	SX01 東西ベルト 7 層 SX01 東西ベルト 3 層 SX01 東西ベルト 5 層	①(13.0) ②4.25+ α 受部径(14.8)	天井部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、灰 N4/　内 . 灰 N5/	外面全面に降灰。
1470	須恵器	杯身	SX01-3	②1.6+ α	外面摩滅のため調整不明。底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:内外 . 灰白 N7/	
1471	須恵器	椀	SX01-4	①(11.1) ②4.45+ α	外面摩滅のため調整不明。内面回転ナデ。	A:微細～1mm 程の白色砂粒をやや多量含む。B:やや不良。C:外 . にぶい赤褐 2.5YR5/4　内 . 橙 5YR6/6	
1472	須恵器	高杯蓋	SX01-4 SX01 東西ベルト 5 層	①(13.4)　②5.0 つまみ径 2.8	外面 2/3 カキメ。他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/、暗灰 N3/　内 . 青灰 5B6/1	
1473	須恵器	高杯	SX01-4	①(11.0)　②11.95 受部径(13.9) 脚裾部径(11.5)	体部中位から下位外面回転ヘラケズリ後カキメ。脚部外面上位回転ナデ後カキメ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。脚部外面沈線 2 条。	A:0.5～1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 暗赤灰 5R3/1、灰 N4/、暗灰 N3/　内 . 暗赤灰 5R3/1、暗青灰 5PB4/1	
1474	須恵器	高杯	SX01 東西ベルト 7 層 SX01-3	①(9.9)　②4.35+ α	杯部内面 3/5 不定方向ナデ。他は回転ナデ。体部外面中位 2 条沈線。	A:微細～1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 暗灰 N3/	

表55　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑪

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1475	須恵器	高杯	SX01 Ⅳ群	①10.5　②4.9+ α	体部外面カキメ後回転ナデ。底部内面回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。外面2条沈線。	A:微細～1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N6/、暗灰N3/　内.灰N6/	
1476	須恵器	甕	SX01-4 SX01-4 北側 SX05 下層　深掘り時	①(22.6) ②10.15+ α	口縁部～頸部回転ナデ。体部外面平行タタキ後カキメ、内面同心円状の当て具痕。口縁部外面に1条沈線。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外.灰白N7/	
1477	須恵器	甕	SX01 Ⅳ群 SX01-4 SX05-1 下層 SX01 南北ベルト8層	①22.6　②8.2+ α	口縁部～頸部回転ナデ、体部外面擬格子状のタタキ後カキメ、内面同心円状の当て具痕。	A:0.5～1mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰赤2.5YR4/2　内.灰赤2.5YR4/2、にぶい橙7.5YR6/4	
1478	須恵器	大甕	SX01 Ⅳ群 A12･B12(SD06-0)中層	①(46.8) ②15.25+ α	口縁部回転ナデ。口縁部上位外面2ヵ所に1条沈線施文後波状文、下位外面平行タタキ後カキメ・頸部内面ナデ。体部外面平行タタキ、内面同心円状の当て具痕。	A:微細～3mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外.暗灰N3/､灰N6/､赤灰2.5YR5/1　内.灰N5/、N4/　胎土.赤灰7.5R4/2	沈線間に波状文。内面全面・外面一部に降灰。焼き歪む。
1479	須恵器	大甕	SX01 Ⅲ群 SX01-3 東西ベルト5層 SX01-4	①(37.2) ②11.4+ α	口縁部外面～頸部内面回転ナデ。口縁部外面カキメ後2ヵ所に1条・2条沈線。その後連続斜線文。頸部内面ナデ。	A:0.5～1.5mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外.灰N5/、暗灰N3/　内.灰N5/	沈線間に連続斜線文。焼き歪む。
1480	須恵器	大甕	SX01 Ⅳ群 C-8区(整地層) SX01-4 SX01-4 北側 SX05-1 上層 SX05-1 上層・下層	①38.65 ②26.8+ α	口縁部回転ナデ後外面カキメ。その後連続斜線文施文後2ヵ所に2条沈線。頸部内外面ナデ・指頭圧痕。体部外面擬格子状のタタキ、内面同心円状の当て具痕。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.黒N2/、灰N6/　内.灰N4/、暗灰N3/	沈線間に連続斜線文。外面全面と内面頸部まで降灰。
1481	土師器	椀？	SX01-3	①(15.6)　②3.7+ α	摩滅のため調整不明。	A:褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外.にぶい橙7.5YR7/3、浅黄橙7.5YR8/4	
1482	土師器	杯？	SX01-4	①(12.2)　②3.4+ α	摩滅のため調整不明。	A:1mm程の白色砂粒、赤褐色粒、雲母を少量含む。B:良好。C:内外.にぶい橙7.5YR7/3	
1483	土師器	甕	SX01-4	①(18.4) ②3.05+ α	体部内面縦方向のヘラケズリ。他は摩滅のため調整不明。	A:1～2mm程の白色砂粒と赤褐色粒を含む。B:良好。C:外.灰褐10YR6/2　内.灰黄褐10YR6/2、10YR4/2	口縁部に煤付着。二次焼成。
1484	土師器	甕	SX01 Ⅳ群	②10.4+ α	体部外面ヨコナデ・タテハケ後ナデ、内面ヨコナデ・縦方向のヘラケズリ。口縁端部摩滅のため調整不明。	A:0.5～4mm程の白色砂粒を多量含む。微細～1mm程の赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:外.橙7.5YR6/6、にぶい黄橙10YR6/3　内.にぶい褐7.5YR5/4、にぶい橙7.5YR6/4	外面に黒斑。
1485	土師器	甕	SX01-4 SX01 東西ベルト7層 SX01-3 SX01 Ⅳ群	②14.15+ α	口縁部ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面縦方向のヘラケズリ。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を多量、赤褐色粒、雲母、角閃石、4mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.にぶい黄橙10YR6/3、にぶい黄褐10YR5/4、灰黄褐10YR4/2　内.にぶい黄褐10YR5/4、灰黄褐10YR4/2	外面一部に煤付着。
1486	土師器	甕	SX01 Ⅰ群 SX01 Ⅱ群 SX01-1 SX01-2 SX01-3 SX01 東西ベルト4層 SX01 東西ベルト11層	①32.1 ②9.2+ α +21.3	口縁部外面タテハケ後ヨコナデ、内面摩滅。体部外面タテハケ。底部外面タテ・ナナメハケ後一部ナデ。体部～底部内面縦方向のケズリ。把手ナデ・指頭圧痕。	A:微細～5mm程の白色砂粒を多量含む。約1mm程の赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:外.にぶい黄橙10YR7/4、橙7.5YR6/6　内.灰黄2.5Y6/2、にぶい黄橙10YR7/4	口縁内面に黒斑。
1487	土師器	甕	SX01 Ⅳ群	②4.65+ α ③(12.8)	体部外面タテ・ナナメ方向のハケ、内面縦方向のヘラケズリ。底部外面ナデ、内面は摩滅のため不明。	A:微細～3mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.明褐7.5YR5/8、にぶい黄橙10YR7/4　内.橙5YR7/8、にぶい黄橙10YR7/3	外面に黒斑。
1488	土師器	甑	SX01 Ⅰ群	②25.7+ α ③(14.5)	体部上位外面タテハケ、下位タテハケ後ナデ。底部外面ヨコナデ、内面ナデ。体部内面縦方向ヘラケズリ。	A:0.5～5mm程の白色砂粒を含む。0.5mm程の雲母を少量含む。B:良好。C:外.橙7.5YR6/6、にぶい黄褐10YR7/4　内.明赤褐5YR5/6、橙7.5YR6/6	外面に黒斑。
1489	弥生土器	甕	SX01-4	②3.1+ α　③(7.8)	底部外面ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5～1mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外.灰黄褐10YR6/2　内.灰白10YR8/1	底部外面に黒斑。
1490	土師器	椀	SD07-2	②1.3+ α　④(6.2)	体部外面～高台回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5mm程の白色砂粒、微細な雲母を含む。B:良好。C:外.淡橙5YR8/3　内.灰白5YR8/2	板状圧痕。
1491	鉄滓		SD07-2	長4.25+ α 幅3.35+ α 厚2.6+ α　重32.4g			
1492	須恵器	杯蓋	B-9区(整地層)	①(12.6)　②4.2	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～2mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰白7.5Y7/1～灰N6/　内.灰白N7/	天井部外面にヘラ記号。
1493	須恵器	杯蓋	D-1･2区(整地層) D-9区覆土	①13.8　②4.55	外面1/3回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～2mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰白N8/～灰N6/　内.灰白N7/～灰N6/	
1494	須恵器	杯蓋	D-3区(整地層)	①13.8　②4.25	外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1.5mmの白色砂粒、赤褐色粒を含む。B:やや不良。C:外.灰白N8/～N7/　内.灰白N7/	天井部外面にヘラ記号。
1495	須恵器	杯蓋	C-7区(整地層) C-6･C-7区間ベルト SP202 SP203北 カ26-2	②4.3+ α	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/5ナデ。内面当て具痕。他は回転ナデ。外面1条沈線。	A:0.5mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外.灰白N7/、灰N6/　内.灰白N7/	外面全体に降灰。焼き歪む。

表56　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑫

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1496	須恵器	杯蓋	C-7 区(整地層)	① 13.5　② 3.45	外面 1/4 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 1/2 一定方向ナデ。内面当て具痕。他は回転ナデ。外面 1 条沈線。	A:1 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/、灰 N6/　胎土 . 暗赤灰 5R4/1	天井部外面にヘラ記号？
1497	須恵器	杯蓋	C-7 区(整地層)	① 13.0　② 4.15	外面 1/4 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面に当て具痕。他は回転ナデ。外面 1 条沈線。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N5/　内 . 灰 N6/	
1498	須恵器	杯蓋	C-7 区(整地層)	①(13.2)　② 4.4	外面 1/3 回転ヘラケズリ、未調整。内面当て具痕。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N8/	外面部分的に降灰。
1499	須恵器	杯蓋	C-8 区(整地層)	① 8.4　② 3.4 受部径 10.7 つまみ径 1.45	外面 1/4 カキメ、1/2 回転ヘラケズリ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	天井部外面にヘラ記号。
1500	須恵器	杯蓋	B-9 区(整地層)	② 1.75+ α つまみ径 1.5	外面 2/3 カキメ。内面 2/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N4/	外面全面に降灰。
1501	須恵器	杯蓋	B-8 区(整地層) SX05-1 上層・下層	① 10.2　② 2.7 受部径 12.4	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、N5/、灰黄褐 10YR6/2　内 . 青灰 5B6/1	天井部外面にヘラ記号。
1502	須恵器	杯蓋	B-9 区(整地層)	①(10.7)　② 2.2+ α 受部径(13.0)	外面 1/3 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	
1503	須恵器	杯蓋	C-8 区遺構検出時	①(10.4)　② 1.4+ α 受部径(13.0)	内外面回転ナデ。	A:0.5 ～ 3mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . にぶい橙 5YR7/3、褐灰 7.5YR5/1　内 . 灰 N5/	天井部外面に降灰。
1504	須恵器	杯蓋	B-8 区(整地層) B-8 区覆土	①(13.6)　② 3.95 受部径 16.4 つまみ径 3.15	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を多量含む。0.5 ～ 1mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N4/、にぶい赤褐 2.5YR5/4　内 . 暗灰 N3/、灰白 5Y7/2	天井部外面にヘラ記号。焼き歪む。
1505	須恵器	杯身	C-8 区(整地層) B-8 区遺構検出時 B-8 区(整地層)	① 9.45　② 3.0 受部径 10.8	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/3 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm の白色砂粒を少量含む。微細な黒色粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 10Y7/1、灰 N5/　内 . 灰 N6/	
1506	須恵器	杯身	B-9 区(整地層)	①(9.5)　② 2.8+ α 受部径(11.8)	外面 1/3 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/　内 . 青灰 5PB6/1 ～灰褐 5YR5/2　胎土 . 赤灰 5R6/1	底部内外面にヘラ記号。外面全面に降灰。
1507	須恵器	杯身	B-8 区(整地層) B-9 区(整地層)	①(9.95)　② 2.95 受部径(11.8)	外面 1/3 ヘラ切り。内面 1/2 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。0.5 ～ 4mm の白色砂粒を微量含む。B:やや不良。C:外 . 灰 5Y6/1　内 . 灰白 5Y7/1	底部外面にヘラ記号。
1508	須恵器	杯身	B-9 区(整地層)	①(10.4)　② 3.4 受部径(12.0)	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰白 10Y7/1 ～灰 N6/　内 . 赤灰 5R6/1	底部外面にヘラ記号。
1509	須恵器	杯身	B-8 区(整地層)	② 3.35 受部径 12.25	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 0.5mm 程の白色砂粒、黒色粒を含む。2mm 程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰 7.5Y6/1　内 . 灰 N5/	底部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。口縁端部使用痕か？
1510	須恵器	杯身	B-8 区(整地層)	① 9.6　② 3.4 受部径 12.0	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 0.5mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/、灰 N6/　内 . 灰 N4/	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。焼き歪む。口縁部外面に蓋破片の釉着。
1511	須恵器	杯身	C-8 区遺構検出時 SX05-1 上層・下層	①(10.15)　② 3.9 受部径 12.6	外面一部降灰のため調整不明、1/3 回転ヘラケズリ。内面 1/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm の白色砂粒を少量含む。微細な黒色粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、浅黄 2.5Y7/3　内 . 灰 N5/、灰黄 2.5Y7/2	底部外面にヘラ記号。ほぼ全面に降灰。
1512	須恵器	杯身	B-9 区(整地層)	① 11.2　② 3.45 受部径 12.6	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 紫灰 5P6/1　内 . 青灰 5PB5/1	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1513	須恵器	杯身	C-7 区(整地層)	①(10.3)　② 3.9+ α 受部径(12.8)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	底部～体部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。
1514	須恵器	杯身	C-8 区(整地層)	① 11.7　② 4.6 受部径 13.6	外面 1/2 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/3 回転ナデ後不定方向ナデ。内面当て具痕。他は回転ナデ。	A:微細～ 0.5mm の白色砂粒、黒色粒を含む。茶褐色粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/・N4/　内 . 灰 N6/	体部外面にヘラ記号。底部外面にヘラ書き文字？外面一部に降灰。受部外面に別個体釉着。
1515	須恵器	杯身	C-8 区(整地層) SX05-1 上層 SX05-1 下層	① 12.0　② 3.85+ α 受部径 14.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 2/3 回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。内面当て具痕。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	
1516	須恵器	杯身	C-8 区覆土 SD06-3 1 層 カ 34-1 C-8 区(整地層) B-8 区(整地層)	① 13.05　② 4.7 受部径(15.4)	外面2/3降灰のため調整不明、内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を含む。1 ～ 2mm の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N5/、灰黄 2.5Y7/2　内 . 灰 N6/	外面全面に降灰。外面に別個体釉着。
1517	須恵器	杯身	B-6 区(整地層)	①(11.3)　② 4.3 受部径(13.35)	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 1/3 一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	
1518	須恵器	杯身	B-9 区(整地層)	①(9.0)　② 4.3	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 1/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～ N4/　内 . 灰 N6/	底部外面にヘラ記号。
1519	須恵器	杯身	B-9 区(整地層)	①(11.0)　② 3.45	外面 1/3 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/5 回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。外面 3 条沈線。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	
1520	須恵器	杯身	C-8 区覆土 C-7 区(整地層)	① 11.4　② 3.8	外面 1/3 ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。外面 2 条沈線。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、7.5Y7/1　内 . 灰 N6/	

表57　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1521	須恵器	杯身	B-9区(整地層)	①(12.1)　②4.65	外面1/2回転ヘラケズリ、1/4カキメ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外.灰白N7/～10YR8/2　内.灰白2.5Y7/1	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1522	須恵器	杯身	B-8区(整地層)	①(12.05)　②4.9 ④(8.3)	外面1/3ヘラ切り後ナデ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を多量含む。微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外.灰白N7/、灰N4/　内.灰N5/	底部外面にヘラ記号。焼き歪む。
1523	須恵器	杯身	B-8区(整地層)	②3.8+α　④(8.4)	内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N5/　内.灰N6/	
1524	須恵器	椀	B-9区(整地層)	①(9.4)　②4.2	底部外面回転ヘラケズリ、中央部ナデ、底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰N5/　内.灰N6/	底部外面にヘラ記号。
1525	須恵器	椀	B-9区(整地層)	②2.4+α　③(4.3)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N6/　内.灰N4/	底部内外面にヘラ記号。
1526	須恵器	高杯蓋	D-1･2区(整地層)	①(13.0)　②4.45 つまみ径3.1	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.にぶい橙5YR6/3～褐灰5YR6/1　内.にぶい橙5YR6/4	
1527	須恵器	高杯	C-6･C-7区間ベルト C-7区(整地層) SP228南	②11.05+α 脚裾部径(8.6)	脚部外面回転ナデ後ナデ・カキメ。内面にシボリ痕。他は回転ナデ。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外.灰白N7/	透かし3ヶ所。
1528	須恵器	高杯	B-9区(整地層)	②4.1+α 脚裾部径(13.1)	脚部下半内外面回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N4/　内.灰N5/	
1529	須恵器	すり鉢	B-8区(整地層)	①(14.0)　②7.6+α	口縁部～体部回転ナデ。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外.灰白N8/	外面一部に降灰。
1530	須恵器	短頸壺蓋	B-8区(整地層)	①(9.2)　②3.2+α	天井部手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外.灰白N7/	天井部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1531	須恵器	壺？	B-9区(整地層)	②8.5+α　③8.05 胴部最大径(13.3)	体部上半外面カキメ、体部下半～底部外面摩滅のため調整不明。底部内面ナデ、体部内面回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:不良。C:外.灰白N8/、灰N6/　内.灰白N8/	
1532	須恵器	甕	C-8区(整地層)	②5.7+α	頸部外面回転ナデ、内面ナデ･シボリ痕。体部上位外面カキメ、中位外面2条沈線施文後連続刺突文。下位回転ヘラケズリ。体部内面回転ナデ。	A:0.5mm以下の白色砂粒を含む。微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外.黄灰2.5Y6/1　内.灰白7.5Y7/1　胎土.にぶい橙5YR7/3	沈線間に連続刺突文。
1533	須恵器	甑	B-8区(整地層)	②1.5+α	底部ナデ。	A:0.5～1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰10Y5/1　内.灰10Y6/1	
1534	須恵器	切削物	C-9区(整地層)	長5.85　幅1.8 厚1.15	外面タタキ。内面当て具痕。上面ナデ。下面ヘラ切り。	A:微細～1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外.灰白N7/	
1535	須恵質	棒状土製品	C-7区(整地層) B-6区(整地層)	長18.7+α 幅4.8+α厚4.7+α	摩滅のため調整不明。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:灰白10YR8/1	
1536	須恵器	不明	B-9区(整地層)	②3.35+α	体部回転ナデ。	A:微細～2mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰10Y4/1、10Y6/1　内.灰N5/、N4/	
1537	土師器	甑	B-7区清掃中	②7.75+α	把手外面ハケ・ナデ。体部内面縦方向のヘラケズリ。	A:0.5～3mm程の白色砂粒を多く含む。微細な雲母、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外.橙5YR7/6､浅黄橙10YR8/3　内.浅黄橙10YR8/3	把手のみ残存。
1538	土師器	甑	D-1･2区(整地層)	②3.8+α	摩滅のため調整不明。底部穿孔。	A:0.5～2.5mmの白色砂粒、赤褐色粒を多量含む。B:良好。C:外.橙5YR7/6　内.浅黄橙7.5YR8/4～橙5YR7/6	
1539	土師器	甕	B-9区(整地層)	①(22.2)　②7.7+α	口縁部端部ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面縦方向のヘラケズリ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5～2.5mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.浅黄橙7.5YR8/4　内.浅黄橙7.5YR8/3	
1540	土師器	甕	B-5区(整地層)	②8.25+α	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A:1～2mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.浅黄橙7.5YR8/4　内.浅黄橙10YR8/4	
1541	弥生土器	甕	C-7区(整地層)	②2.8+α　③(5.6)	摩滅のため調整不明。	A:1～3mm程の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外.にぶい黄橙10YR7/4　内.にぶい黄橙10YR7/2	
1542	弥生土器	甕	C-7区(整地層)	②2.0+α　③(8.0)	摩滅のため調整不明。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.橙5YR7/6　内.褐灰7.5YR5/1	
1543	鉄製品	不明	B-9区(整地層)	長8.9+α　幅1.3 厚0.9　重12.0g			
1544	石製品	凹石	B-9区(整地層)	長9.8　幅7.75 厚4.0　重511.4g			
1545	石器	磨石敲石	C-1区(整地層)	長6.7　幅10.5 厚4.1　重409.6g			花崗岩。
1546	石器	石鏃	D-1･2区(整地層)	長3.2　幅2.2+α 厚0.5　重2.2g	全体に細部調整。		安山岩。
1547	石製品	剥片	D-1･2区(整地層)	長3.25　幅3.0 厚1.4　重9.0g	全体に細部調整。		黒曜石。
1548	石製品	石斧未製品？	C-2区(整地層)	長10.6　幅8.3 厚4.65　重571.6g	全体に調整剥離。		
1549	石製品	不明	D-1･2区(整地層)	長3.85　幅2.75 厚1.3　重18.8g			
1550	石製品	不明	D-1･2区(整地層)	長3.0　幅2.55 厚1.4　重14.6g			
1551	石製品	砥石	D-1･2区(整地層)	長4.6+α　幅5.4+α 厚3.45　重79.0g			3面使用。
1552	石製品	砥石	D-1･2区(整地層)	長6.25+α 幅4.2+α　厚1.8 重67.4g			全面使用。側面は欠損後使用する面あり。

表58　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑭

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( ) は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1553	石器	不明	D-1･2 区(整地層)	長9.9　幅8.3　厚0.9 重61.0g	側縁部に細部調整。		安山岩。
1554	石器	不明	D-1･2 区(整地層)	長5.5　幅3.05 厚0.9　重16.4g			1553の一部。
1555	石器	不明	D-1･2 区(整地層)	長9.35　幅6.75 厚0.9　重44.6g			1553の一部。
1556	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層	①11.0　②3.6	外面1/2ヘラ切り後ナデ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰白N8/～N7/　内.灰白N7/	外面3ヶ所、内面1ヶ所焼きムラ？
1557	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層 C-8 区覆土	①(11.25)　②3.6	外面1/3ヘラ切り後ナデ、内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm程の白色砂粒を少量、黒色粒を微量含む。B:良好。C:外.灰N6/、N5/　内.灰N6/	外面体部にヘラ記号。
1558	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層	①(11.4)　②3.1+α	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:砂粒等をほとんど含まない。B:やや不良。C:外.灰白5Y7/1､暗オリーブ灰2.5GY4/1　内.灰白5Y7/1	天井部外面にヘラ記号。
1559	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層 SX05-1 上層・下層	①11.45　②3.85	外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外.暗オリーブ灰2.5GY4/1､暗灰N3/　内.青灰5PB5/1	天井部外面ヘラ記号。外面一部降灰。
1560	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層	①9.8～12.2　②4.1	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ･ヘラの痕跡。他は回転ナデ。	A:1mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N5/、N6/　内.灰N6/	天井部外面にヘラ記号。外面一部・内面に降灰。
1561	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層	①11.6　②4.0	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～2mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰7.5Y6/1～暗赤灰2.5YR3/1　内.灰赤2.5YR5/2～赤灰5R5/1	天井部外面にヘラ記号。
1562	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層	①(11.5)　②3.8	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:0.5～3mmの白色砂粒を含む。B:良好。C:外.灰白2.5Y7/1～灰N5/　内.灰N5/	天井部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。
1563	須恵器	杯蓋	C-6･C-7 区間ベルト SX05-1･2 下層深堀り時	①(12.4)　②3.55	外面1/4回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外.灰N5/、灰白N7/　内.灰白N7/	外面一部に降灰。天井部内面にシッタ痕？
1564	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層	①(12.1)　②4.55	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外.灰N6/	体部外面にヘラ記号。
1565	須恵器	杯蓋	SX05-1･2 下層深掘り時	①(12.9)　②4.1	外面1/4回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～2mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N5/、暗灰N3/　内.灰N5/、N4/	天井部～体部外面にヘラ記号。天井部内面にシッタ痕。
1566	須恵器	杯蓋	SX05-2 上層・下層 C-7 区(整地層)	①12.9　②4.25	外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～2.5mmの白色砂粒を含む。B:良好。C:外.青灰5PB6/1～5PB5/1　内.青灰5PB5/1	天井部外面にヘラ記号。
1567	須恵器	杯蓋	SX05-1･2 下層深掘り時	①13.35　②4.05	外面1/3回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～3mm程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰N6/、N5/、暗灰N3/　内.灰N5/	天井部外面にヘラ記号。
1568	須恵器	杯蓋	SX05-1･2 下層深掘り時	①(15.8)　②5.2	外面1/3回転ヘラケズリ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～1mm程の白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外.黒2.5Y2/1　内.灰N6/	天井部外面にヘラ記号。外面降灰？
1569	須恵器	杯蓋	SX05-1･2 下層深掘り時	①12.9　②4.5	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面1条沈線。	A:微細～1mm程の白色砂粒、黒色粒を含む。B:良好。C:内外.灰N6/	焼き歪む。
1570	須恵器	杯蓋	SX05-2 上層・下層 C-7 区(整地層)	①(12.8)　②4.2	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/2当て具痕。他は回転ナデ。	A:0.5～2.5mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰白N7/～灰N6/　内.青灰5PB6/1	
1571	須恵器	杯蓋	SX05-1･2 深掘り時	①(13.6)　②4.3+α	外面1/2回転ヘラケズリ。内面1/4ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面1条沈線。	A:微細～2mm程の白色砂粒、黒色粒を含む。B:良好。C:外.灰N5/、N4/　内.灰N5/	
1572	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層 C-7 区(整地層)	①(13.1)　②3.9	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒、黒色粒を微量含む。B:良好。C:外.灰N6/～N5/　内.灰白N7/～灰N5/	
1573	須恵器	杯蓋	C-8 区覆土 SX05-1 上層・下層 SX05 ベルト上層	①(14.0)　②5.5+α	外面1/2回転ヘラケズリ、内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。内面当て具痕。他は回転ナデ。外面1条沈線。口縁部内面1条沈線。	A:微細～1mmの白色砂粒を少量含む。微細な黒色粒を微量含む。B:良好。C:内外.灰N6/　胎土.灰N6/、明褐灰5YR7/2	天井部内面にシッタ痕。
1574	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層 3P 228 北 C-7 区(整地層) SX05-1･2 下層深掘り時	①(14.1)　②4.1	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。外面1条沈線。	A:0.5mmの白色砂粒を含む。B:良好。C:外.灰白N7/、灰N6/、暗オリーブ灰2.5GY4/1　内.灰白N7/	天井部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1575	須恵器	高杯蓋	C-8 区覆土 SX05-1 下層	①(13.2)　②5.55 つまみ径3.95	外面1/3回転ヘラケズリ、内面1/3回転ナデ後一定方向ナデ。内面当て具痕。他は回転ナデ。外面2条沈線。口縁部内面1条沈線。	A:微細～2mm程の白色砂粒を多量含む。微細な黒色粒を微量含む。B:良好。C:外.灰N6/、N5/　内.灰白N7/、灰N6/	
1576	須恵器	杯蓋	SX05-1 上層・下層	①(9.4)　②3.5 受部径(11.5)	外面1/3カキメ。内面1/3回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.暗オリーブ灰2.5GY3/1､灰N6/　内.灰N4/	外面全面に降灰。焼き歪む。
1577	須恵器	杯蓋	SX05-2 下層	①(10.1)　②2.6+α 受部径(11.9)	外面1/2回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:0.5～1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰白N7/～灰N6/　内.灰N5/	外面に降灰。
1578	須恵器	杯蓋	SX05-1 下層	①(8.8)　②3.2+α 受部径(10.6)	外面1/3カキメ。内面1/2回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰白N8/、灰N4/　胎土.灰褐7.5YR6/2　内.灰白N8/	底部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。
1579	須恵器	杯身	SX05-1 上層・下層	①(9.2)　②3.25+α 受部径(11.2)	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外.暗灰N3/、灰白N7/　内.灰N4/	底部外面にヘラ記号。外面全面に降灰。

表59　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑮

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1580	須恵器	杯身	SX05-1 上層・下層	①(9.1)　②3.2 受部径 11.5	外面 1/3 ヘラ切り後ナデ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰褐 7.5YR6/2 ～褐灰 7.5YR4/1　内 . 灰白 2.5Y7/1	底部外面にヘラ記号。
1581	須恵器	杯身	SX05-1 上層・下層	①(9.9)　②3.4 受部径(12.2)	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/3 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 暗オリーブ灰 2.5GY3/1、灰白 N7/　内 . 灰 N6/	外面全面に降灰。
1582	須恵器	杯身	SX05-1 上層 SX05-1･2 下層深掘り時	① 10.6　②3.7 受部径 12.7	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 .N5/	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1583	須恵器	杯身	SX05-1 上層 SX05-1 上層・下層	① 10.65　②4.3 受部径 13.05	外面 1/3 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/、暗灰 N3/　内 . 灰 N5/	底部～体部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。焼き歪む。
1584	須恵器	杯身	SX05-1･2 下層深掘り時	①(10.6)　②4.2 受部径(12.6)	外面 1/3 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . にぶい橙 7.5YR7/4、灰 N5/ 内 . にぶい橙 7.5YR6/4	
1585	須恵器	杯身	SX05-1･2 下層深掘り時	① 11.0　②4.2 受部径 13.2	外面 1/3 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:不良。C:外 . 灰黄 2.5Y7/2、灰 N6/　内 . 灰白 10YR8/2	体部～底部外面にヘラ記号。底部内面にシッタ痕？
1586	須恵器	杯身	SX05-1 下層(砂層) SX05-1 下層	①(10.7)　②3.2 受部径(13.1)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒を含む。黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N7/、暗オリーブ灰 2.5GY3/1　内 . 暗灰 N3/	体部外面にヘラ記号。
1587	須恵器	杯身	SX05-1 下層 SX05-1 上層・下層	①(10.8)　②4.2 受部径(13.35)	外面 1/3 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、紫灰 5RP5/1　内 . 灰 N6/	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1588	須恵器	杯身	SX05-1･2 下層深掘り時	① 11.9　②4.1 受部径 14.1	外面 1/3 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 黄灰 2.5Y6/1、灰 N5/　内 . 灰 N5/	天井部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。
1589	須恵器	杯身	SX05 ベルト上層	①(11.2)　②4.3 受部径(14.0)	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm の白色砂粒を少量含む。黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰白 N7/、灰N 6/。	底部外面にヘラ記号。
1590	須恵器	杯身	SX05-1 上層・下層 SX05 ベルト上層 C-7 区(整地層) C-8 区(整地層)	① 11.3　②4.45 受部径 13.5	外面 1/2 回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:0.5～ 1.5mm の白色砂粒、黒色粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 5Y8/1 ～ N7/　内 . 灰白 N7/	体部～底部外面にヘラ記号。
1591	須恵器	杯身	SX05-1･2 下層深掘り時	①(12.2)　②4.5 受部径(14.3)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:外 . 灰白 2.5Y8/1、灰 N6/、N5/　内 . 灰白 2.5Y8/1	
1592	須恵器	杯身	SX05-1 上層・下層 SX05-1･2 下層深掘り時	① 11.8　②4.5 受部径 14.2	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N8/ ～ N7/　内 . 灰白 N7/	体部～底部外面にヘラ記号。
1593	須恵器	杯身	SX05-2 上層・下層 C-7 区(整地層)	①9.7　②4.4 受部径 12.3	外面 1/2 回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2.5mm の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 青灰 5PB6/1	焼き歪む。
1594	須恵器	杯身	SX05-2 上層・下層	① 10.75 ～ 11.8 ②3.5 受部径(13.4) ～ 14.1	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 当て具痕後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2.5mm の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/ ～灰 N6/　内 . 灰 N6/	焼き歪む。
1595	須恵器	杯身	SX05-1･2 下層深掘り時	①(9.9)　②4.45 受部径(12.4)	外面 1/3 回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面 1/2 同心円当て具痕？後ナデ。他は回転ナデ。口縁部内面 1 条沈線。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/、N6/　内 . 灰 N5/	外面全面に降灰。
1596	須恵器	杯身	SX05-1･2 下層深掘り時	①(10.8)　②3.95 受部径(13.4)	外面 1/3 回転ヘラケズリ。内面 1/2 同心円当て具痕後ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N4/、灰白 N7/　内 . 灰 N4/　胎土 . 灰赤 2.5YR5/2、赤灰 10R6/1	
1597	須恵器	杯身	SX05-2 上層・下層	①(12.6)　②5.0 受部径(15.8)	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面一部当て具痕。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 青灰 5PB6/1	
1598	須恵器	杯身	SX05-1 下層	①(10.5)　②4.0+ α	底部外面ヘラ切り後ナデ？他は回転ナデ。体部中位外面 2 ～ 3 条沈線。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N4/、暗灰 N3/、黒 N2/　内 . 灰 N4/　胎土 . 灰白 N7/、灰 N4/	外面一部に降灰。
1599	須恵器	杯身	SX05-1･2 下層深掘り時	①(10.5)　②4.65	外面 1/2 回転ヘラケズリ、1/3 カキメ。内面 1/4 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	
1600	須恵器	杯類	SX05 ベルト上層	②1.15+ α　③(7.3)	外面 2/3 ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～ 1.5mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	底部外面にヘラ記号。
1601	須恵器	高杯蓋	SX05-1 上層・下層	②3.4+ α つまみ径 2.8	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N5/	
1602	須恵器	脚付椀	SX05-1 下層(砂層) SX05-1 下層 SX05-1 上層・下層	①(12.2)　②7.8+ α	底部外面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。体部外面 4 条沈線。	A:1 ～ 1.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . オリーブ黒 5GY2/1、灰白 N8/ 内 . 灰白 N8/、暗オリーブ灰 2.5GY4/1	内外面の一部に降灰。
1603	須恵器	高杯	SX05 ベルト上層	②4.9+ α 脚裾部径(7.8)	脚部内外面回転ナデ。内面にシボリ痕。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰 N5/	脚裾部外面に降灰。2 ヶ所に透かし。
1604	須恵器	高杯	SX05-1･2 下層深掘り時	②10.0+ α	底部内面不定方向ナデ。脚部上位外面カキメ。他は回転ナデ。外面 2 条沈線。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/ ～ N5/　内 . 黄灰 2.5Y 5/1 ～灰 N5/	脚部内面一部に降灰。
1605	須恵器	高杯	SX05-1 下層	②7.5+ α 脚裾部径 9.3	杯部外面カキメ。底部内面不定方向ナデ。脚部回転ナデ・シボリ痕。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N4/	脚部内面にヘラ記号。
1606	須恵器	盤	SX05-1 上層・下層 B･C-10 区覆土中 B-9 区(整地層) カクラン 24	①(17.6)　②3.85	底部外面回転ヘラケズリ、内面降灰のため調整不明。他は回転ナデ。	A:1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/、灰白 N7/	底部外面にヘラ記号。底部内面に降灰。

表60　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑯

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1607	須恵器	盤	SX05-1 上層・下層	②(21.3)　③5.1	底部外面手持ちヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒､赤褐色粒を微量含む。B:不良。C:外 . 浅黄橙 10YR8/3、にぶい赤褐 5YR5/4　内 . 浅黄橙 10YR8/3	
1608	須恵器	短頸壺	SX05-2 上層・下層	①(4.4)　②4.1 ③(4.8)　⑤(6.7)	体部下位外面ヘラケズリ。底部外面ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/ ～灰 N5/　内 . 灰白 N7/	体部外面に降灰。蓋破片釉着。
1609	須恵器	壺？	SX05-1･2 下層深掘り時	②5.65+ α	外面回転ヘラケズリ。体部内面回転ナデ、底部内面ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 2.5Y8/1 ～灰黄 2.5Y7/2 内 . 灰白 2.5Y7/1	
1610	須恵器	提瓶	SX05-1･2 下層深掘り時	①9.3　②12.65+ α	口縁～頸部回転ナデ。体部外面カキメ、一部タタキの痕跡。内面ヨコナデ一部ナデ・指頭圧痕。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N4/　胎土 . 灰黄褐 10YR6/2	口縁内面～体部外面に降灰。内面に布目痕。
1611	須恵器	甕	SX05-1･2 下層深掘り時	①(23.0) ②15.65+ α	口縁部回転ナデ。体部外面カキメ、内面ナデ。把手部ナデ･指頭圧痕・切り込み。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:内外 . 灰白 N8/ ～ 2.5Y8/1	
1612	須恵器	甕	SX05-1･2 下層深掘り時	①(20.5)　②8.3+ α	口縁部回転ナデ後口縁部中位外面タテハケ後回転ナデ。体部外面擬格子状のタタキ、内面同心円状の当て具痕。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒を微量含む。B:やや不良。C:内外 . 灰白 N8/	
1613	須恵器	甕	SX05-1･2 下層深掘り時 C-8 区覆土中 C-7 区(整地層)	①(14.0)　②30.85 ⑤胴部 27.8	口縁部回転ナデ。体部上位～中位外面擬格子タタキ後粗いカキメ、下位～底部擬格子状のタタキ。体部～底部内面同心円状の当て具痕。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/　内 . 灰 7.5Y5/1	外面全面・口縁部～頸部内面・底部内面一部に降灰。
1614	須恵器	甕	SX05-1･2 下層深掘り時	①19.6　②30.9+ α ⑤(34.8)	口縁部回転ナデ。体部外面平行タタキ、上位にカキメ。体部内面同心円状の当て具痕。口縁外面 1 条沈線。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/ ～黄灰 2.5Y6/1	
1615	須恵器	甕	SX05-1 下層 SX05-1 上層・下層 C-8(整地層) SX05-1 下層(砂層)	①(21.4) ②41.6+ α ⑤胴部(44.2)	口縁部回転ナデ。体部外面平行タタキ後カキメ。体部内面上位同心円状の当て具痕、中位同心円状の当て具痕後ナデ、下位同心円状・平行当て具痕後ナデ。	A:1 ～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰 N4/　胎土 . 赤灰 2.5YR5/1	口縁～体部上半外面・口縁～頸部内面・底部付近内面に降灰。
1616	須恵器	大甕	SX05-2 上層・下層	①(21.0)　②2.4+ α	口縁部回転ナデ後上位外面カキメ後波状文施文。口縁部外面に 1 条沈線。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰赤 2.5YR4/2　内 . 灰赤 2.5YR4/2、にぶい橙 7.5YR6/4。	口縁部上位外面に波状文。内外面に降灰。焼き歪む。
1617	須恵器	大甕	SX05-2 上層・下層 SX05-1･2 下層深掘り時カ 51 C-7(整地層)	①41.0　②13.4+ α	口縁部回転ナデ後外面カキメ。その後外面 1 ヵ所に列点文、2 ヵ所に波状文施文後 3 ヵ所に 1 条・3 条・2 条沈線。頸部外面指頭圧痕後回転ナデ、内面指頭圧痕後ナデ。	A:微細～ 5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 黒 N2/、灰 N4/　内 . 暗灰 N3/、灰 N5/。	口縁外面に列点文・波状文。口縁～頸部に降灰。
1618	須恵器	大甕	SX05-1･2 下層深掘り時	①(37.4) ②13.5+ α	口縁部回転ナデ。体部外面擬格子状のタタキ、内面同心円状の当て具痕。口縁部外面 2 ヵ所に 3 条・1 条沈線、沈線間に連続斜線文。	A:0.5 ～ 2mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/　内 . 灰白 N7/	沈線間に連続斜線文。口縁外面～頸部内面に降灰。焼き歪む。
1619	須恵器	大甕	SX05-1 上層・下層 B-9 区遺構検出時 C-8 区覆土中 C-8 区(整地層)	①(42.0) ②17.2+ α	口縁部外面回転ナデ後上位カキメ、中位 2 ヵ所に 2 条沈線、沈線間に連続斜線文、下位ハケメ後カキメ。口縁部内面回転ナデ後ナデ。頸部外面回転ナデ。体部外面擬格子状のタタキ、内面同心円状の当て具痕。	A:0.5～2mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、青灰 5B6/1　内 . 灰 N6/、明赤灰 5R7/1　胎土 . 明赤灰 2.5YR7/2	沈線間に連続斜線文。口縁～頸部外面・頸部下半内面に降灰。
1620	須恵器	大甕	SX05-1･2 下層深掘り時 SX05-1 上層・下層 SX05 ベルト上層 C-8 区覆土中	①31.4 ②33.75+ α ⑤(47.75)	口縁部回転ナデ。体部外面擬格子状のタタキ、内面同心円状の当て具痕。口縁部外面 2 ヵ所に 2 条沈線、沈線間に連続斜線文。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 黒 N2/、灰 N6/　内 . 灰 N6/、N5/	口縁部外面ヘラ記号、沈線間に連続斜線文。口縁～頸部内外面に降灰。
1621	須恵器	高杯？	SX05-1･2 下層深掘り時	②3.3+ α 脚裾部径(15.4)	脚部回転ナデ。外面 1 条沈線。	A:0.5～2.5mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 2.5Y7/1　内 . 灰白 N7/	全面に降灰。
1622	須恵器	権状製品	SX05-1 上層・下層	②3.3　③3.6 重 45.2g	全体にナデ・指頭圧痕。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良好。C:灰 N6/、暗灰 N3/、灰 5Y6/1	降灰。
1623	須恵器	切削物	SX05-2 上層・下層	長 1.5　幅 4.05 厚 0.4	内面当て具痕？	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒をやや少量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	
1624	土師器	壺	SX05-2 上層・下層	②6.9+ α	摩滅のため調整不明。	A:0.5 ～ 1.5mm の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:やや不良。C:外 . 浅黄橙 10YR8/3　内 . 浅黄橙 10YR8/3 ～灰 N6/	
1625	土師器	甕	SX05-1 下層	①(24.5)　②6.4+ α	体部内面ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:1mm 程の白色砂粒、角閃石を少量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/3	
1626	土師器	甕	SX05-1 上層	②14.6+ α	口縁部ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面縦方向のヘラケズリ。	A:1 ～ 3mm 程の白色砂粒を含む。赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 10YR7/1　内 . 浅黄橙 10YR8/3、灰白 10YR7/1	黒斑。煤付着。
1627	土師器	甕	SX05-1 上層・下層	②7.25+ α	口縁部ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面斜め方向のヘラケズリ。	A:1 ～ 2mm の白色砂粒を含む。赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 黒 N2/(黒斑部分のみ残存)　内 . 橙 5YR7/6、浅黄橙 10YR8/4	黒斑。
1628	土師器	甕	SX05-1･2 下層深掘り時	②4.4+ α	把手部ナデ・指頭圧痕。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒、雲母を微量含む。B:良好。C:黒褐 7.5YR3/2、褐 7.5YR4/3	把手。差込式。二次焼成。
1629	土師器	甕	SX05-1 上層・下層	②13.8+ α	把手ナデ・指頭圧痕。体部外面タテハケ、内面縦方向のヘラケズリ。	A:0.5 ～ 2.5mm の白色砂粒を多量、赤褐色粒を微量に含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 10YR8/4	

表61　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑰

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1630	土師器	甑	SX05-1 上層 SX05-1 上層・下層	②7.7+ α	把手外面ナデ、指頭圧痕。体部内面ナナメハケ後ナデ、指頭圧痕。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 浅黄橙 7.5YR8/4	把手。
1631	土師器	甕	SX05-1 下層	②7.0+ α	口縁部ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面ナデ・縦方向のヘラケズリ。	A:1 ～ 2mm 程の白色砂粒を多量含む。雲母を少量含む。B:良好。C:外 . 橙 7.5YR7/6 内 . 橙 7.5YR7/6、褐灰 7.5YR5/1	
1632	土師器	甕	SX05-1･2 下層深掘り時	②9.2+ α　③(10.4)	体部外面下位タテハケ後ナデ、内面縦方向ヘラケズリ。底部外面ナデ。	A:微細～ 5mm 程の白色砂粒を多量、微細～ 1mm 程の雲母､赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:外 . 灰黄褐 10YR5/2　内 . 黒褐 10YR3/2、にぶい黄橙 10YR7/3	外面に煤付着。
1633	土師器	甕	SX05 ベルト下層	①11.2　②11.5+ α	口縁部ヨコナデ。体部外面摩滅のため調整不明、内面工具によるナデ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 7.5YR8/6　内 . 褐灰 10YR6/1 ～にぶい橙 7.5YR7/4	外面に黒斑。
1634	土師器	鉢 or 壺	SX05-1 上層・下層	②5.35+ α　③4.0	体部外面タテハケ後ナデ、体部下位～底部ナデ。内面ナデ･指頭圧痕。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 橙 5YR6/6	
1635	弥生土器	甕	SX05-1 下層(砂層)	②5.6+ α　③(7.8)	体部下位～底部外面ナデ・指頭圧痕。内面摩滅のため調整不明。	A:1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	外面に黒斑。
1636	弥生土器	壺？	SX05-1 下層(砂層)	②3.7+ α　③(8.5)	体部下位～底部外面ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A:1 ～ 3mm の白色砂粒を多量含む。赤褐色粒､黒色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 明赤褐 2.5YR5/6　内 . にぶい褐 7.5YR5/4	
1637	土製品	紡錘車	SX05-2 上層・下層	長4.5　幅4.4　厚2.3 孔径 0.6　重 52.8g	全面ナデ・指頭圧痕。穿孔あり。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を多量含む。B:やや不良。C:にぶい黄橙 10YR7/2 ～浅黄橙 10YR8/3	全体の 1/2 強黒斑。
1638	土製品	土錘	SX05-1･2 下層深掘り時	長 4.55+ α　重 8.2g	側面部ナデ。中央部穿孔。	A:微細～ 0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 明赤褐 2.5YR5/8　内 . 橙 5YR6/8、7.5YR6/6	
1639	炉壁 or 窯壁		SX05-1 上層・下層	縦 6.2+ α　横 5.5+ α 厚 3.45+ α 重 92.8g		A:0.5 ～ 3mm 程の白色砂粒を多量、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 . にぶい赤褐 5YR4/3、黒褐 10YR3/1 ～褐灰 10YR4/1、灰白 10YR7/1、にぶい黄橙 10YR7/2	
1640	鉄製品	鎌	SX05-1 上層・下層	長 10.7+ α　幅 2.4 厚 1.0+ α　重 20.6g			
1641	鉄製品	釘	SX05-1 上層・下層	長 6.0+ α　幅 1.3+ α 厚 1.1+ α　重 8.4g			
1642	鉄滓		SX05-2 上層・下層	縦 2.5+ α　横 2.7+ α 厚 1.7+ α　重 9.4g			
1643	石器	石匙	SX05-1･2 下層深掘り時	長 3.35　幅 3.35+ α 厚 0.5+ α　重 4.8g	側縁部細部調整。		
1644	石器	石斧	SX05-1 上層・下層	長 6.25+ α 幅 5.35+ α 厚 3.8+ α 重 177.6g			
1645	石製品	不明	SX05-1･2 下層深掘り時	長7.3　幅5.4　厚3.4 重 24.6g			軽石。
1646	石製品	不明	SX05-1･2 下層深掘り時	長6.2　幅4.1　厚1.5 重 59.0g			
1647	須恵器	杯蓋	12 次･17 次調査区境 6 区	①12.3　②3.9	外面 1/3 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 1/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1.5mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 暗灰 N3/､灰白 N7/　内 . 暗灰 N3/	天井部外面にヘラ記号。
1648	須恵器	杯蓋	12 次･17 次調査区境 6 区	①(13.3)　②4.25	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 1/3 不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:やや不良。C:外 . にぶい赤褐 2.5YR5/3、灰白 7.5Y7/1、黒褐 7.5YR3/1　内 . 灰 N5/、にぶい赤褐 2.5YR5/3	天井部外面にヘラ記号。
1649	須恵器	杯身	12 次･17 次調査区境 2･3 区間ベルト 5 層	①9.6　②2.9 受部径 11.4	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 7.5Y7/1	底部外面にヘラ記号。
1650	須恵器	杯身	12 次･17 次調査区境 土堤 3 区(12 次 2 区東壁土層断面図 3 層) SP379	①(11.4)　②3.25 ③(8.6)	外面 1/2 ヘラ切り後ナデ。内面 1/2 ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/、赤灰 5R6/1　内 . 灰 N6/	
1651	須恵器	円面硯	12 次･17 次調査区境 土堤 2 区(12 次 2 区東壁土層断面図 3 層) SP18	②6.7+ α 脚部径(24.6)	内外面回転ナデ。	A:0.5 ～ 1mm の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 黄灰 2.5Y5/1	脚部に透かし 16 個？。内外面一部降灰。
1652	須恵器	甕	12 次･17 次調査区境 土堤 6 区	①20.65 ②10.25+ α	口縁部外面タタキ後回転ナデ、内面回転ナデ。体部外面擬格子状のタタキ後カキメ、体部内面同心円状の当て具痕後回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、N4/　内 . 灰 N5/、N4/	口縁部外面 2 ヶ所にヘラ記号。
1653	土師器	丸底杯	12 次･17 次調査区境 土堤 1 区(12 次 2 区東壁土層断面図 4 層)	①(12.8)　②3.55 ③9.0	摩滅のため調整不明。	A:0.5～ 1.5mm の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/2 ～にぶい黄橙 10YR7/3	
1654	土師器	椀	12 次･17 次調査区境 土堤 3 区(12 次 2 区東壁土層断面図 3 層)	②3.75+ α　④(6.1)	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y8/1	
1655	土師質土器	鉢	12 次･17 次調査区境 土堤 5 区(12 次 2 区東壁土層断面図 3 層)	②10.6+ α	摩滅のため調整不明。	A:微細～ 4mm 程の白色砂粒を多量含む。0.5 ～ 1mm 程の赤褐色粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 10YR8/2　内 . にぶい黄橙 10YR7/3、灰黄褐 10YR5/2	
1656	青磁	杯	12 次･17 次調査区境 土堤 2 区(12 次 2 区東壁土層断面図 3 層)	②1.6+ α	残存部全面施釉。口縁部は鋭く外反し、上端は凹面。	A:精。灰白 5Y8/1。B:良好。C:釉 . オリーブ灰 10Y5/2。	体部外面蓮弁文。貫入あり。

表62　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑱

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備考
1657	明青花	椀	12次・17次調査区境 土堤4区(12次2区東壁土層断面図3層)	②2.95+ α	内外面施釉。口縁部端反り。	A:スノウホワイトN9.5。精。B:良好。C:釉.明青灰10BG7/1 (文様) 外.紺6PB2.0/5.0　内.紺青6PB2.5/9.5	口縁部内外面に染付。
1658	陶器	皿?	12次・17次調査区境 土堤6区 下斜面検出中	②1.1+ α　④(4.1)	底部外面ケズリ、露胎。他は施釉。	A:胎土暗灰N3/、露胎灰褐7.5YR4/2。0.5mm程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:釉.浅黄2.5Y7/3	釉変不完全。
1659	瓦	平瓦	12次・17次調査区境 土堤5区(12次2区東壁土層断面図3層)	長9.55+ α 幅5.8+ α　厚2.25	凹面・側面摩滅のため調整不明。凸面平行タタキ。	A:微細～2mm程の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:不良。C:凹凸面.橙5YR6/8	
1660	瓦	平瓦	12次・17次調査区境 土堤1区 (12次2区東壁土層断面図4層)	長11.55+ α 幅4.65+ α 厚1.75+ α	凹面布目後ナデ一部タタキ。凸面タタキ。側面ヘラ切り。	A:0.5mm程の白色砂粒を含む。B:良好。C:凹面.にぶい赤褐5YR4/3　凸面.にぶい赤褐5YR5/3　胎土.オリーブ灰2.5GY5/1	
1661	瓦	平瓦	12次・17次調査区境 土堤2区(12次2区東壁土層断面図3層)	長14.3+ α 幅8.5+ α　厚2.7+ α	凹面布目(摩滅のため不明瞭)。凸面平行タタキ。側面摩滅のため調整不明。	A:微細～4mm程の白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:凹面.橙5YR6/8 凸面.明赤褐5YR5/6	凸面煤付着。土師質に焼成。
1662	焼土塊		12次・17次調査区境 5区1号溝	長3.5　幅2.4 厚1.6　重9.2g			
1663	鉄製品	不明	12次・17次境4区3層	長4.4+ α　幅1.85 厚1.4　重11.8g			
1664	鉄滓		12次・17次境4区3層	長2.8　幅2.8+ α 厚1.95　重21.0g			
1665	鉄滓		12次・17次境 1・2区間ベルト4層	長4.5　幅3.65 厚2.1　重47.0g			
1666	鉄滓		12次・17次境2区3層	長4.8　幅4.5 厚1.7　重51.2g			
1667	石器	石鏃	12次・17次調査区境 土堤3・4区間ベルト2層	長1.35　幅1.05 厚0.3　重0.2g	表面に細部調整。		黒曜石。
1668	石器	石鏃	12次・17次調査区境 土堤2区(12次2区東壁土層断面図3層)	長2.35+ α 幅2.3+ α　厚0.4 重1.4g			黒曜石。
1669	石製品	不明	12次・17次境3区3層	長4.85　幅4.45 厚1.6　重52.0g			
1670	石製品	碁石	12次・17次調査区境土堤2区 (12次2区東壁土層断面図3層)	長1.5　幅1.3　厚0.5 重1.4g			
1671	須恵器	杯蓋	B・C-10区覆土中	①(12.15)　②3.7	外面1/3回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5～2mm程の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外.黒7.5Y2/1、暗灰N3/　内.灰N4/	
1672	須恵器	杯蓋	C-9区覆土 SX05-1上層・下層	②4.35+ α	外面1/4回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。外面1条沈線。	A:0.5～2mmの白色砂粒を含む。微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外.灰白N7/、灰N4/　内.灰N6/	
1673	須恵器	杯蓋	C-8区覆土	①(13.4)　②4.55	外面1/2回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面1/4回転ナデ後不定方向ナデ。内面当て具痕。他は回転ナデ。外面1条沈線。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N6/、N4/　内.灰白N7/ 胎土.灰黄2.5Y7/2	内外面一部に降灰。
1674	須恵器	杯蓋	C-8区覆土	②1.45+ α つまみ径2.75	外面つまみ部ナデ。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外.灰白N7/、灰N4/　内.灰白N7/	
1675	須恵器	杯身	B-7区覆土	①(10.6)　②3.3 受部径(12.8)	摩滅のため調整不明。	A:0.5～1mm程の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:内外.灰白7.5Y8/1	
1676	須恵器	杯身	B・C-10区覆土中	①10.9　②3.6 受部径12.85	外面3/4回転ヘラケズリ。内面2/3不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外.灰N6/	底部外面にヘラ記号。外面全面に降灰?
1677	須恵器	杯身	C-8区覆土	②2.1+ α　④(9.4)	底部外面中央ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。内面回転ナデ後不定方向ナデ。	A:微細な白色砂粒を多量含む。0.5～2mmの白色砂粒と微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N5/　内.灰N6/	底部外面にヘラ記号。
1678	須恵器	杯身	B-7区覆土	①(10.8)　②4.3+ α	外面2/3回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	A:微砂粒を少量含む。B:良好。C:内外.灰白N7/	
1679	須恵器	杯身	C-8区覆土 C-9区覆土中	①(10.7)　②4.3	外面1/4回転ヘラケズリ、中央部未調整。内面1/2不定方向ナデ。他は回転ナデ。外面2条沈線。	A:微細～1mmの白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:外.灰N5/、暗灰N3/ 内.灰白N7/	底部外面にヘラ記号。外面一部に降灰。底部外面に別個体釉着。
1680	須恵器	高坏	B・C-10区覆土中	①(13.8)　②6.6+ α	体部中位外面カキメ、底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。外面2条沈線。	A:微細な白色砂粒を含む。B:やや不良。C:外.黄灰2.5Y6/1　内.褐灰10YR6/1	
1681	須恵器	高杯	C-8区覆土	②5.4+ α 脚裾部径7.8	脚部外面1/4カキメ、内面シボリ痕。他は回転ナデ。外面2条沈線。	A:微細～2mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外.灰N6/、黒N2/　内.灰N6/、暗灰N3/	脚部内面にヘラ記号。内外面一部に降灰。脚裾部焼き歪む。
1682	須恵器	短頸壺	C-8区覆土	②4.95+ α	体部下位～底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。外面1条沈線。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:不良。C:内外.灰白5Y7/1、にぶい黄橙10YR6/3	
1683	須恵器	鉢?	C-8区覆土	①(29.0)　②8.5+ α	体部内面ナデ。口縁部外面～体部外面回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を多量含む。0.5～2mmの白色砂粒を少量含む。微細な黒色粒を微量含む。B:やや不良。C:外.灰5Y6/1 内.灰黄2.5Y7/2	
1684	土師器	甑	B-8区覆土	②3.4+ α	内外面摩滅のため調整不明。底部穿孔。	A:0.5～1mm程の白色砂粒、赤褐色粒を含む。B:良好。C:外.橙5YR7/8　内.橙5YR7/6	穿孔2ヵ所残存。
1685	黒色土器A類	椀	B-6区覆土	②2.15+ α	摩滅のため調整不明。	A:1mm程の灰色砂粒を微量含む。微細な白色砂粒、雲母を含む。B:良好。C:外.黒10YR2/1、灰白2.5Y8/2　内.黒褐10YR3/1	
1686	瓦器	椀	B-6区覆土	②1.35+ α	高台回転ナデ。体部外面ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:良好。C:外.灰白2.5Y8/2　内.橙7.5YR6/6、黒褐7.5YR3/1	

表63　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑲

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1687	瓦器	椀	B-6 区覆土	②3.4+ α	口縁部～体部上位外面回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒、雲母を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 10YR8/2、暗灰 N3/　内 . 黒 N2/、浅黄橙 10YR8/3	
1688	瓦器	椀	B-6 区覆土	②3.3+ α	口縁部～体部上位外面回転ナデ後ミガキ。内面ミガキ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:外 . 黄灰 2.5Y6/1、灰白 2.5Y7/1　内 . 灰白 N7/	
1689	白磁	椀	C-2 区覆土	②1.65+ α	口縁部内面に沈線。玉縁口縁。残存部全体に施釉。	A:精。灰白 7.5Y8/1　B:良好。C:釉 . 灰白 7.5Y7/1、灰 7.5Y6/1	
1690	白磁	椀	B-8 区覆土	②2.6+ α	玉縁口縁。残存部全体施釉。	A:灰白 5Y8/1　B:良好。C:釉 . 灰白 7.5Y 8/2	
1691	白磁	小椀？	B-6 区覆土	②1.55+ α　③(2.6)	高台削り。高台部外面回転ナデ。口縁部～体部施釉。	A:やや粗い。灰白 2.5Y8/1 混入物なし。B:良好。C:釉 . 灰白 5Y8/1	貫入あり。釉垂れ。透明釉を薄く施釉。
1692	青磁	椀	C-1 区覆土	②1.9+ α　④(5.4)	高台削り出し。内面・体部～高台外面施釉。	A:精。灰白 10Y7/1　B:良好。C:釉 . 灰オリーブ 7.5Y6/2	光沢がない。
1693	磁器	椀？	C-2 区覆土	②1.05+ α　④(5.0)	高台内削り、高台回転ナデ。底部内面施釉。	A:灰白 2.5Y8/1。0.5mm 程の砂粒を微量含む。B:良好。C:釉 . 明緑灰 7.5GY7/1	
1694	染付磁器	皿	B-6 区覆土	①(8.9)　②2.55+ α	残存部全体に透明釉を厚く施釉。	A:灰白 10YR8/1。やや粗い。混入物なし。B:良好。C:釉 . 明オリーブ灰 2.5GY7/1 文様 . 藍色 3PB3.5/5.5	内外面に染付の圏線。貫入あり。
1695	土製品	不明	B-8 区覆土	長 8.0+ α 幅 2.95+ α 厚 2.7+ α	全面ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒、雲母、赤褐色粒を含む。B:良好。C:浅黄橙 10YR8/3	
1696	土製品	円盤状土製品	C-2 区覆土	径 3.0　厚 1.0	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:良好。C:オリーブ黄 5Y6/3、褐 10YR4/4	
1697	鉄滓		B-6 区覆土	長 2.5　幅 2.1 厚 1.65　重 10.2g			
1698	鉄滓		B-8 区覆土	長 2.5+ α　幅 3.1+ α 厚 2.25　重 22.8g			
1699	鉄滓		C-9 区覆土	長 4.15　幅 3.75 厚 1.6　重 33.8g			
1700	鉄滓		B-7 区覆土	長 5.05+ α 幅 3.1+ α　厚 1.85 重 33.4g			
1701	鉄滓		C-9 区覆土	長 3.75　幅 3.05 厚 2.65　重 45.6g			
1702	石器	剥片	B-5･B-6･B-7 区覆土	長 3.35　幅 3.6 厚 1.0　重 9.8g			黒曜石。
1703	石器	スクレーパー	C-3 区覆土	長 5.5　幅 9.4+ α 厚 1.5　重 58.2g	側縁部に細部調整。		安山岩。
1704	須恵器	杯蓋	カ 54-3	①(12.7)　②4.5	外面 1/4 回転ヘラケズリ、天頂部回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5 ～ 1.5mm 程の白色砂粒を含む。B:不良。C:内外 . 灰白 5Y7/1	天井部外面中央つまみ状の盛りあがり。
1705	須恵器	杯蓋	カ 51	①(12.6)　②4.2	外面 1/2 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面 1/3 回転ナデ後一定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:1 ～ 1.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 黒 N2/、灰 N4/　内 . 暗青灰 5B4/1　胎土 . 灰赤 2.5YR4/2	内面にシッタ痕。
1706	須恵器	杯蓋	E-7 区検出面 SX01-4	①11.95　②3.55	外面 2/3 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後ナデ。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 灰 N6/	天井部外面にヘラ記号。
1707	須恵器	鍔付鉢	カ 48-2	②1.0+ α	鍔部回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:灰白 N7/	鍔のみ残存。
1708	土師器	小皿	カ 3-8	①(8.5)　②1.0 ③(6.6)	底部外面ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。他は回転ナデ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 浅黄橙 10YR8/3　内 . 赤橙 10R6/6	外面に赤色顔料。
1709	土師器	丸底杯	カ 54-2	①(15.1)　②2.85	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:0.5 ～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 2.5Y8/2	板状圧痕。
1710	土師器	小皿	カ 44-3	②0.6+ α	底部外面ヘラ切り後ナデ。他は摩滅のため調整不明。	A:1mm 程の白色砂粒、褐色粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 10YR8/1	内外面一部に赤色顔料。
1711	土師器	不明	カ 20-2(墨書土器)	②2.4+ α	体部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	A:1mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰褐 7.5YR5/2	外面に墨書あり。
1712	瓦器	椀	C-5 区検出面	②2.3+ α　④(5.8)	体部上位外面回転ナデ後ミガキ。体部下位～底部外面回転ナデ。内面ミガキ。	A:0.5mm 程の白色砂粒を少量含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	高台畳付に板状圧痕。須恵質に焼成。
1713	瓦器	椀	D-3 区検出面	②5.2+ α　④7.4	摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:外 . 灰白 2.5Y8/1 ～橙 7.5YR7/6 内 . 暗灰 N3/	底部外面にヘラ記号。
1714	山茶椀	小椀	カ 30-2	②1.5+ α　④(5.4)	体部下位～高台回転ナデ。底部外面糸切り。内面施釉。	A:灰白 7.5Y7/1。0.5mm 程の白色砂粒、黒色粒を少量含む。B:良好。C:釉 . 灰オリーブ 5Y5/3	
1715	磁器	皿	カ 20-4	②1.1+ α　③(5.5)	底部外面ケズリ。内面沈線あり。内面・体部外面施釉。	A:灰白 10YR8/2。褐色粒を含む。B:良好。C:釉 . 灰オリーブ 5Y6/2	
1716	白磁	椀	カ 3-10･カ 33-2	①(15.2)　②6.05 ④6.0	口縁部下位～体部下位ケズリ。高台削り出し。内面に沈線。内面～体部外面施釉。	A:灰白 5Y7/1。微細な黒色粒を多量含む。B:良好。C:釉 . 灰白 5Y7/1	光沢のある釉を薄く施す。
1717	瓦	丸瓦	D-6 区検出面	長 7.25+ α 幅 10.3+ α　厚 1.5	凸面平行タタキ。凹面布目痕。	A:微細な白色砂粒、赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:凹凸 . 浅黄橙 10YR8/3	
1718	鉄滓		カ 38-5	長 2.85　幅 1.8 厚 1.8　重 6.8g			
1719	石器	石鏃	カ 38-5	長 1.45+ α 幅 1.2+ α　厚 0.4 重 0.6g	全体に細部調整。		黒曜石。
1720	石器	石鏃	カ 29-4･カ 30-4 検出時	長 1.4+ α　幅 1.4+ α 厚 0.35　重 0.6g	逆刺部に細部調整。		黒曜石。

表64　本堂遺跡17次調査出土遺物観察表⑳

遺物番号	種 類	器 種	出土地点	法量(cm)①口径②器高③底径④高台径⑤最大径 ※( )は復元	形態・技法の特徴	A:胎土　B:焼成　C:色調	備　考
1721	石製品	碧石	カ 35-1	長 2.1　幅 2.0 厚 0.7　重 4.6g			赤色顔料付着。
1722	須恵器	杯蓋	SP321	①(14.0)　②4.6+ α	外面中央部降灰のため調整不明、1/4 回転ヘラケズリ。内面当て具痕。他は回転ナデ。外面 1 条沈線。	A:微細～3mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	外面全面に降灰。別個体の破片釉着。
1723	須恵器	杯蓋	SP228 南 SP230	①13.9　②4.8	外面 1/2 回転ヘラケズリ。内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ、当て具痕。他は回転ナデ。口縁部内面 1 条沈線。	A:0.5 ～ 3mm の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外 . 明紫灰 5P7/1 ～青灰 5PB6/1　内 . 紫灰 5P6/1	天井部外面にヘラ記号。
1724	須恵器	杯蓋	SP328	①8.8　②3.6 受部径 11.1 つまみ径 1.0	外面 1/3 カキメ、内面 1/2 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰 N6/、暗灰 N3/　内 . 暗灰 N3/	天井部外面にヘラ記号。
1725	須恵器	杯蓋	SP169-2	①(11.0)　②2.95 受部径 13.4 つまみ径 2.1	外面 1/2 回転ヘラケズリ、内面 1/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外 . 灰 N5/　内 . 灰 N6/、N4/	天井部外面に線刻。
1726	須恵器	杯身	SP233 周辺遺構検出時	①(11.0)　②5.4+ α 受部径(13.6)	底部外面回転ヘラケズリ、内面当て具痕。他は回転ナデ。	A:微細～ 2mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰 N6/	焼き歪む。
1727	須恵器	甕	SP13	②9.15+ α	口縁部回転ナデ。体部外面カキメ・ナデ。体部上位内面指頭圧痕。他は摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:外 . 明赤褐 2.5YR5/8　内 . 橙 5YR6/8	
1728	白磁	小椀？	SP176 柱痕	②3.4+ α	小さな玉縁口縁。残存部全体施釉。	A:精。灰白 5Y8/1　B:良好。C:釉 . 灰白 5Y8/2	貫入あり。光沢のある釉を薄く施す。
1729	白磁	皿	SP175	①(10.0)　②2.3+ α	体部下位外面一部露胎。他は施釉。	A:精。灰白 5Y8/1　B:良好。C:釉 . 灰白 5Y8/2	貫入あり。薄く施釉。
1730	瓦	平瓦	SP117	長 4.5+ α 幅 4.15+ α　厚 1.6	凹面・側面摩滅のため調整不明。凸面平行タタキ。	A:微細な白色砂粒、赤褐色粒を含む。B:良好。C:凹面 . 灰白 10YR8/2、橙 7.5YR6/6 凸面 . 浅黄橙 10YR8/3	凹面に模骨痕。
1731	瓦	平瓦	SP148･SP149 検出時	長 5.4+ α 幅 6.55+ α　厚 1.45	凹面～側面摩滅のため調整不明。凸面タタキ。	A:0.5 ～ 2mm の白色砂粒を少量含む。微細な赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:凹凸面 . 橙 5YR7/8、灰白 7.5YR8/2	
1732	瓦	平瓦	SP169	長 7.1+ α　幅 8.3+ α 厚 1.3	凹面コビキ痕。凸面タタキ。側面摩滅のため調整不明。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:凹凸面 . 灰白 2.5Y8/2	
1733	瓦	平瓦	SP215	長 18.15+ α 幅 11.8+ α　厚 2.45	凹面コビキ痕。凸面平行タタキ。側面ヘラ切り。	A:0.5 ～ 3mm の白色砂粒を多量、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:凹凸面 . 灰白 2.5Y8/2 ～浅黄橙 7.5YR8/4	
1734	鉄滓		SP180	長 2.7　幅 2.6 厚 1.75　重 13.4g			
1735	鉄滓		SP147 掘方	長 2.8+ α 幅 2.25+ α　厚 1.4 重 8.2g			
1736	鉄製品	不明	SP10	長 4.55+ α 幅 2.5+ α　厚 1.3+ α 重 20.0g			錆化のため全形不明。
1737	石製品	碧石	SP148･SP149 検出時	長 1.4　幅 1.2 厚 0.7　重 1.8g			
1738	石器	石鏃	SP355	長 2.3+ α　幅 1.5+ α 厚 0.35　重 1.0g	全体に細部調整。		安山岩。
1739	石器	石鏃	SP188 掘方	長 1.75+ α　幅 1.7 厚 0.4　重 0.8g			安山岩。
1740	石器	石鏃	SP378･SP379 SP380･SP381 検出時	長 2.2+ α　幅 1.6 厚 0.4　重 1.0g	全体に細部調整。		安山岩。
1741	石器	敲石	SP340	長 4.85　幅 3.05 厚 2.8　重 44.2g			
1742	須恵器	杯蓋	SP38 下層 SP38	①(13.8)　②1.95 つまみ径 2.4	外面 1/4 ヘラ切り後ナデ。内面 2/3 回転ナデ後不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 3mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:内外 . 灰白 N7/	天井部内面煤付着。
1743	須恵器	杯蓋	SP38 下層	①(15.8)　②2.2+ α	外面 1/6 回転ヘラケズリ、天頂部未調整。内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細～ 1mm 程の白色砂粒を含む。B:良好。C:外 . 灰白 N7/、灰 N6/　内 . 灰白 N7/、赤褐 10R5/4	天井部焼き歪む。
1744	須恵器	杯身	SP38 下層	①(15.0)　②4.4 ④(10.8)	底部内面不定方向ナデ。他は回転ナデ。	A:微細な白色砂粒を含む。B:不良。C:内外 . 灰白 5Y8/1	
1745	鉄滓		SP38 下層	長 4.3+ α　幅 4.8+ α 厚 3.8+ α　重 64.2g			

Ⅲ．まとめ

１．はじめに

今回報告をおこなったのは、本堂遺跡１・９・12・16・17次調査の成果である。調査地はいずれも牛頸山から北側にのびる丘陵の東側斜面に位置し、工事の進行に対応せざるをえない状況で細切れに調査を実施することとなったが、本来は一連の遺跡群である。上大利北土地区画整理事業地内では、梅頭・本堂遺跡群としてとらえ、合計21ヶ所で調査をおこなっている。整理作業は順次進めているが、まだ未報告の調査地もあり、遺構の時期や遺物の内容など不明な点は多い。しかしながら、今回報告した調査地の中には12・17次調査で確認された大型の掘立柱建物や１次調査地谷部から出土した「識」と記された墨書土器など、これまで牛頸窯跡群内では確認されたことのない遺構・遺物を含んでいる。以下では、今回報告した調査地全体の遺構の時期と変遷を簡単にまとめた上で、重要な遺構･遺物を取り上げ、その意義と性格についてまとめておく。

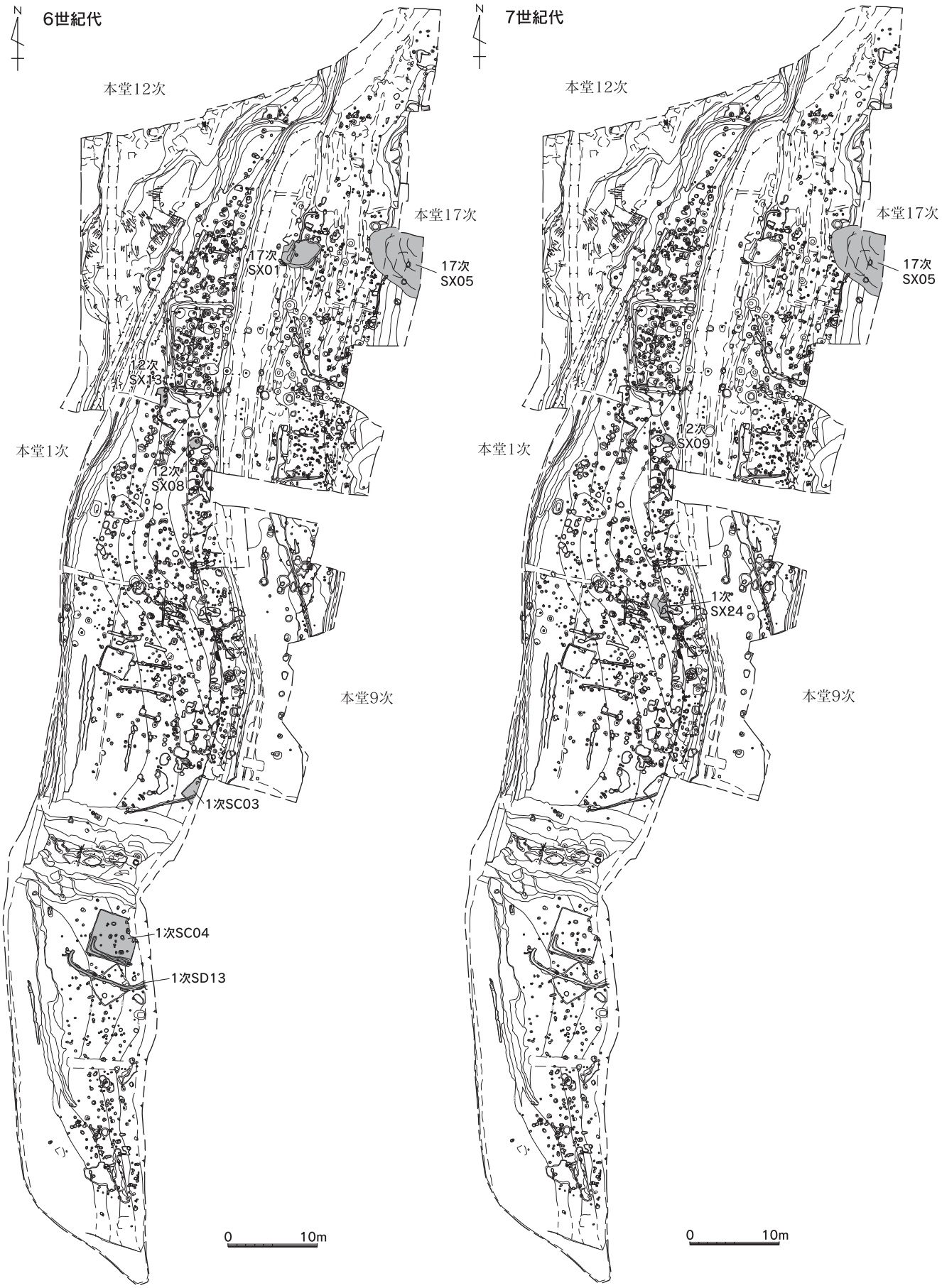
２．遺構の変遷

旧石器～縄文時代は遺物が散見されるが、明確な遺構に乏しい。９次ＳＣ01は弥生時代前期にあたるが、同時期の遺構は他に確認できなかった。北側に位置する２次調査地において早期の溝（ＳＤ08）が確認されているが（註１）、大規模な集落ではなく、中期以降も集落域からは外れた位置にあると考えられる。

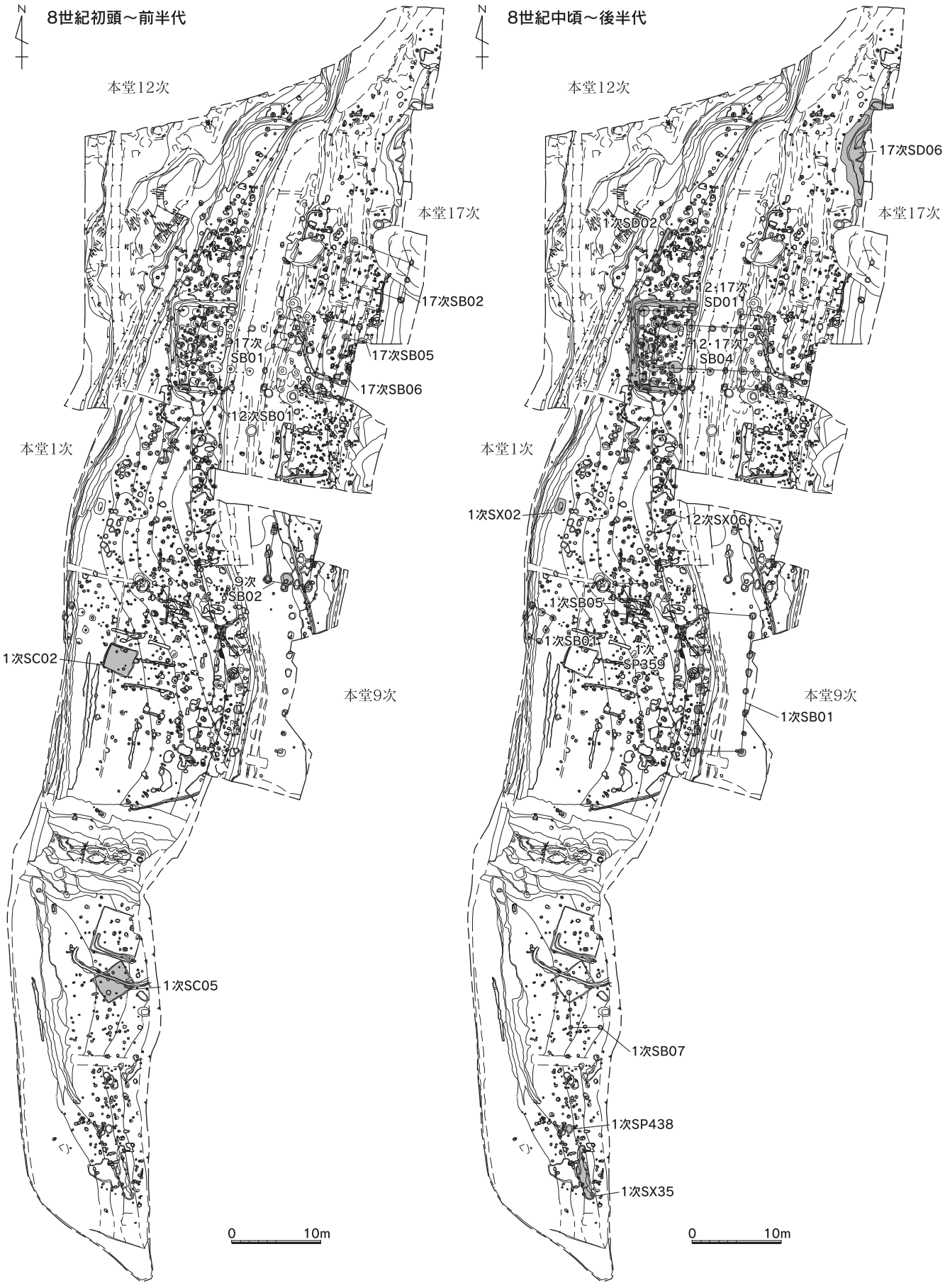
遺構・遺物が増加するのは古墳時代以降のことであるが、前期～中期のものは確認できず、牛頸窯跡群が操業を開始する６世紀代になってようやく開発が及ぶようである。まず確認されるのは、17次ＳＸ05などから出土する一群の須恵器である。杯蓋は天井部と体部の境に段や沈線を有し、口縁端部に段を巡らせ、杯身は立ち上がりが高く、口縁端部に段を有し、牛頸窯跡群で最古の野添６号窯跡と同時期ないしは遡りうるものを含んでいる。17次調査地の北側に隣接する本堂遺跡14次調査地で確認された灰原からは同じ特徴をもつ須恵器が出土しており、須恵器窯の操業とともに丘陵部に開発がおよぶことが明らかである。６世紀末ごろには工房と考えられる竪穴住居跡（１次ＳＣ04）や多量の遺物（１次谷部）が確認され、遺構は明確ではないが12次調査地からは７世紀後半の遺物が多数出土しており、盛んな操業の様子が伺える。また１次ＳＸ24や１次調査地内の各遺構やその他の調査地からも鉄滓が散漫ながらも出土しており、周辺に製鉄遺構があった可能性がある。

奈良時代に入ると、遺構の数は一気に増加する。８世紀前半～中頃にあたる１次ＳＣ02・05は、竪穴住居内から粘土や窯壁が出土する。また、８世紀中頃～後半の１次ＳＸ02やＳＰ486など粘土を貯留した土坑から、調査地はこのころまで須恵器工人集落の一部にあたる可能性が高い。

一方、掘立柱建物について主軸方向から分類すると（Ａ）正方位を意識するもの（17次ＳＢ04、９次ＳＢ01、１次ＳＢ05・07）、（Ｂ）主軸方向を東側にむけるものに大別できる。このうち、（Ｂ）については主軸方向により①やや東に向けるもの（９次ＳＢ02、１次ＳＢ04）、②主軸方向を①よりも東に向けるもの（17次ＳＢ01・02・05・06）、③主軸方向を②よりさらに東にむけるもの（１次ＳＢ01・12次ＳＢ01）に分けることができる。このうち出土遺物から時期が判明するものを挙げると、（Ａ）のうち17次ＳＢ04と９次ＳＢ01は８世紀後半、（Ｂ）－①は９次ＳＢ02が７世紀末



第221図　1・9・12・17次調査地遺構変遷図（1／600）（6・7世紀代）



第222図　1・9・12・17次調査地遺構変遷図（1／600）（8世紀代）

～８世紀初頭、②はいずれも８世紀前半～中頃、③は12次ＳＢ01は８世紀前半～中頃、１次ＳＢ01は８世紀中頃～後半に位置付けられる。時期ごとに並べなおすと、９次ＳＢ02→12次ＳＢ01・17次ＳＢ01・02・05・06→１次ＳＢ01→17次ＳＢ04・９次ＳＢ01となろう。これ以外の建物は出土遺物・柱穴の切り合いがなく、時期の確定は難しい。また、掘立柱建物は１・９・12・17次調査地に集中して営まれるが、ここでは７世紀後半に整地をおこなって建物を造営したようである。したがって、調査地内では８世紀を前後する時期から掘立柱建物が次々と建てられる状況がうかがえる。また、８世紀前半に確認される主軸方向を東にふる建物群（Ｂ）－②は須恵器工房と考えられる竪穴住居と並存し、主軸方向の決定にあたっては丘陵裾部という地形的な制約が働いたと考えられる。ところが、８世紀後半には整地・造成をともなう正方位を意識する建物が出現し、竪穴住居跡や粘土貯留土坑など工人集落的な様相は失われており、集落の性格が変化している事が分かる。

一方建物以外では、８世紀中頃前後とした１次ＳＸ35は仏鉢形の鉢を含む。こうした鉢は必ずしも寺院・祭祀遺構のみに伴う訳ではないが、一般集落から出土することはまれな遺物である（註１）。同様の竪穴状遺構は６次ＳＸ06が挙げられ、稜椀・鉢・瓶が出土している。また、１次ＳＰ359は地鎮遺構と考えられ、１次谷部からは「識」と墨書された須恵器杯蓋が出土する。これらのことからも、本堂遺跡群では須恵器工人集落と認識できた集落様相が８世紀中頃を境に変化がおきていることが分かる。

このように８世紀後半に成立する大型建物であるが、９世紀に入る頃にはすでに廃絶しているようであり、１・９・12・16・17次調査地内では９世紀代の遺物はまったく見られない。次に遺構・遺物が確認されるのは10世紀中頃～後半のことであり、この間調査地内は全くの無人と化していたようである。１・12・17次調査地で確認された第1面はこの時に形成されたようであり、第２面上に形成される包含層は整地というよりは流土によるものである可能性が高い。

11世紀後半～12世紀前半になると遺構の数は増加し、１次ＳＢ03や９次ＳＢ03など掘立柱建物が確認され、17次調査地内では井戸が多数確認される。17次ＳＰ200からは東海産山茶碗を含む多量の土師器が一括投棄され、１次調査地の西側に位置する本堂遺跡10次調査地ではこの時期に丘陵斜面を造成し、谷の奥には掘立柱建物を営むなど（註２）、いかなる性格をもつ集落であるのか極めて興味深い。

その後、13世紀に入る頃には１次谷部はほぼ埋没していたようであり、南北に長い緩傾斜面となるが、この時期以降の遺構・遺物は溝や土坑のみである。14世紀代から16世紀までの遺物が散発的に確認できるが数は少なく、集落の縁辺部になるようである。

３．17次調査地出土須恵器について

17次調査地から出土した遺物のうち、整地層・ＳＸ05からは牛頸窯跡群最古の野添６号窯跡より遡る可能性がある須恵器が出土している。これは先述したとおり、17次調査地の北側に隣接する14次調査で灰原が確認されていることに由来するものと思われる。14次灰原出土遺物に関してはいずれ報告書が刊行され、野添６号窯跡との前後関係については全体的な遺物像が明らかになった上で言及したいが、ここでは17次調査から出土した同種の遺物について気がついた点を指摘しておきたい。

17次調査地で確認される同種の遺物は調査区内各遺構より出土しており、細片化したものも相当存在する。器種としては、杯蓋・杯身・高杯があり、焼け歪むものを含むことから窯の焼成失敗品である可能性が高い。蓋杯の器形的特徴については前述したとおりであるが、これらの特徴を備えながら稚拙なつくりの一群がある。304は器壁が厚く、体部と立ち上がりの境が明確でなく口縁端部は丸いが、底部外面の回転ヘラケズリの範囲は広く、内面に当て具痕をともなうことから、この時期にあたるものと考えられる。また294に関しても、古い特徴を備えるが天井部の器壁が厚く、回転ヘラケズリが天頂部まで及ばないなど整形は極めて稚拙である。一方で292は器壁が薄く、ロクロ目も精緻であり、安定した技術をもつ。蓋杯で両者の技術差があることが指摘でき、これを工人差と考えておきたい。この工人差の内容について、前者を新たに工人に組み込まれた在地工人、後者を他所から来た外来指導工人とすることも可能と考えるが、結論は本堂遺跡14次調査の成果が明らかになるのを待ちたい。

また210は無蓋高杯で、杯部は杯蓋をひっくり返したようで、深く丸みがある。脚部は長脚化が進むが三角形の一段スカシが開けられ、脚裾部は屈曲した後に開き、端部は細く丸くなる。こうした特徴をもつ高杯脚部は野添６号窯跡の製品にも見られ、稲元日焼原２・３号窯跡でも脚端部に屈曲部をもつものが確認できる（註３）。一方で、新開・重留窯跡においては、管見の限りにおいてはこの種の高杯脚部は確認できないようである。

これまでの研究成果で、牛頸窯跡群の操業開始にあたって、陶邑窯跡群から工人の招来されたことが考えられている（註４）。ただし、考古遺物から陶邑窯跡群からの影響を認識できるのはそれほど多くはなく、操業開始段階では未解明の部分が大きい。陶邑窯跡群は列島最大の窯群であり、その影響は大きいものと考えるが、牛頸窯跡群では操業開始以来終了に至るまで陶邑窯跡群だけではなく、九州内の他の窯群の工人や在地で養成された工人の参加、あるいは半島からの工人の参加もあったと考えられる。今後、それらの諸特徴を整理し、時期ごとの工人系譜を明らかにすることで牛頸窯跡群の姿がより具体的になるものと思料される。今後の課題としたい。

４．大型建物の性格について

まず、９・12・17次調査で確認された大型建物（９次ＳＢ01、12・17次ＳＢ04）について確認できることをまとめてみたい。

９次ＳＢ01

① １（２？）間×７間の規模をもち、南北方向を主軸にとる。

② 柱筋はよく通るが、北側から４本目までの柱列とその南側４本の柱筋はわずかに異なる。

③ わずかに異なる柱列の南西隅の柱には、円盤状土製品が埋置される。

④ 柱掘方の平面プランは、東列は円形～不整円形に近いものが多く、西列は隅丸方形のものを含む。

12・17次ＳＢ04

① 主軸方向を東西にとり、西側で２間×２間の身舎に３間×４間の三面廂がつき、溝が巡らされる。

② 身舎の東側は５間のびており、東側で南北に１間×１間の廂がつく。

③　西側の身舎から、東側へのびる柱間・柱筋が揃わない。

④　柱穴はいずれも不整円形を基調とするが、西側と東側では掘方の大きさが異なる。

また、両者の建物の関連性について、９次ＳＢ01の東側柱列の延長上に17次ＳＢ04東側柱列がのることが確認でき、いずれの建物も８世紀後半と考えられ短期間で廃絶する共通性がある。

現状では、９次ＳＢ01は一連の建物と考えるが、柱筋の違いと円盤状土製品の出土から、南北に１×３間の建物が同時期に２棟並ぶ状況も考えられる。また、12・17次ＳＢ04は西側と東側の柱筋が通らないことから、先に西側にあった建物に対し東側に柱列をのばしたと考える方が妥当かもしれない。しかし、いずれの場合においても両者の建物は正方位を意識し、一連の企画の下に設計・建築されたことは間違いないであろう。

また、12・17次ＳＢ04の建物形式については、双堂型式の建物とも考えることができる。双堂とは、「桁行の同じ建物を２棟前後軒を接して並べ、内部を連続して使えるようにした堂」（註５）で、東大寺法華堂が最古の建物とされる。ＳＢ04はやや構造の異なる面があるが、同じ桁行の建物が東西に並列し、間が柱列でつなげられ、周囲に溝が巡らされることに大きな特徴があると考える。

このように、８世紀後半に出現する大型建物であるが、通常の集落を構成するものとは考えにくい。関東地区では、この時期以降に出現する四面廂建物に「寺」「佛」といった墨書土器の内容から建物の性格を仏堂としてとらえられている（註６）。本堂遺跡では、１次谷部から出土した「識」の墨書土器は同時期にあたり、「識」は「知識」と通じることから、12・17次ＳＢ04と９次ＳＢ01は寺である可能性を考えたい。この場合、ＳＢ04を仏堂と考え、西側の三面廂に囲まれる部分が正堂、東側は礼堂にあたり、ＳＢ01は僧坊にあたろうか。また１次ＳＢ05も正方位をとり、経蔵などの一連の施設である可能性がある。

今回確認された寺と推定される掘立柱建物は、牛頸窯跡群の中でも開窯以来盛んに操業をおこなう上大利地区に位置し、８世紀前半代までは須恵器工人集落が展開していた地域である。また、寺といっても七堂伽藍を備えるようなものではなく、村落社会に存在した「村落内寺院」（註７）と評価できるものである。こうした「村落寺院」は関東地方には広く認められ、様々な階層の仏教施設の存在が指摘されるものの、九州では事例の少ないものである（註８）。したがって、孕む問題は極めて大きい。今回報告した調査地の西隣には、同時期の墨書・墨画土器が多数出土した本堂遺跡７次調査地がある。両者は一連の遺跡であり、内容を合わせて検討することで、仏堂とした遺構の位置づけや信仰の内容がさらに明らかになると思われる。ここでは、村落寺院の存在を指摘するに止め、内容については今後の課題としたい。

註１　石木秀啓・早瀬賢・井上愛子2008『牛頸本堂遺跡群Ⅴ』大野城市文化財調査報告書第76集
註２　石木秀啓2007『牛頸本堂遺跡群Ⅳ』大野城市文化財調査報告書第75集
註３　伊崎俊秋1989『稲元日焼原』宗像市文化財調査報告書第22集
註４　渡辺正気1995「第３章第６節　倭国の形成と発展の中で」『春日市史』上巻
註５　鈴木嘉吉編1982『日本の美術』№196飛鳥・奈良建築　至文堂
註６　笹生　衛1994「古代仏教信仰の一側面」『古代文化』46巻12号
註７　須田　勉1985「平安初期における村落内寺院の存在形態」『古代談叢Ⅱ』早稲田大学出版部
　　須田　勉2006「古代村落寺院とその信仰」『古代の信仰と社会』国士舘大学考古会編
　　以下、氏に従い「村落寺院」の用語を用いることとする。
註８　宮田浩之2005「西国における在地仏教と仏教受容」『古代官衙・集落研究会　在地社会と仏教　研究報告資料』独立行政法人奈良文化財研究所

図　　版

（１）１次調査地調査前全景（北から）

（２）１次調査地北側調査区第１面全景（北西から）

図版２

（１）１次ＳＸ01全景
（北から）

（２）１次ＳＸ03全景
（南東から）

（３）１次ＳＸ03土層
（東から）

（１）１次調査地北側調査区第２面全景（北西から）

（２）１次ＳＢ01全景（北から）

図版４

（１）１次ＳＢ04全景（北東から）

（２）１次ＳＣ01全景（東から）

（１）１次ＳＣ02全景（西から）

（２）１次ＳＣ02遺物出土状況（西から）

図版６

（１）１次ＳＣ02カマド全景
（北から）

（２）１次ＳＣ02カマド
縦断面土層（北から）

（３）１次ＳＣ02土層
（北西から）

（１）１次ＳＣ03全景（東から）

（２）１次ＳＸ02全景（南東から）

図版８

（１）１次ＳＸ02粘土
検出状況（北東から）

（２）１次ＳＸ02土層
（南から）

（３）１次ＳＸ02粘土
断ち割り状況（南東から）

（１）１次ＳＸ23全景
（北から）

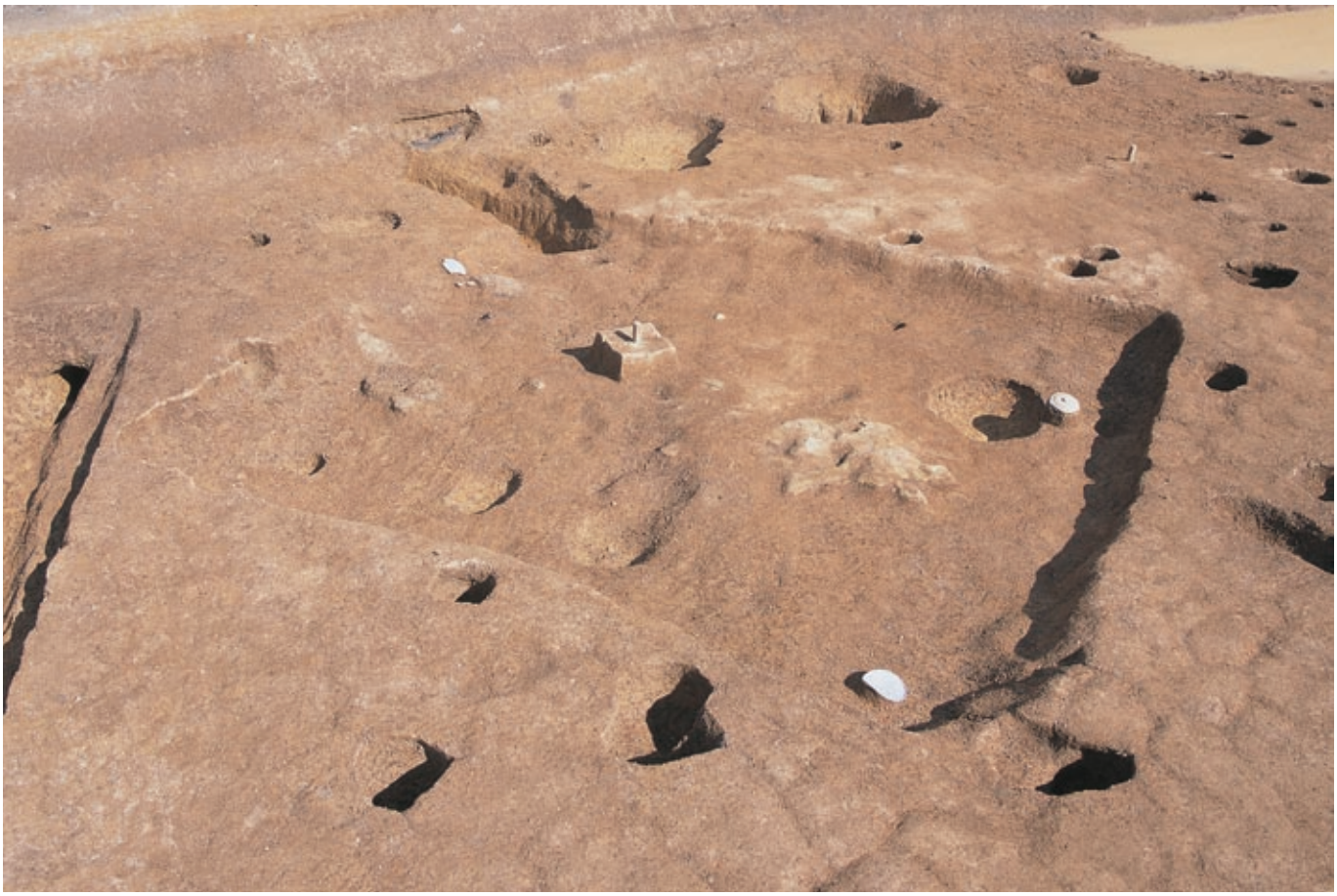
（２）１次ＳＰ292全景
（北東から）

（３）１次ＳＰ359全景
（北東から）

図版10

（1）１次調査地南側調査区全景（北から）

（2）１次ＳＣ04全景（北東から）



（1）１次ＳＣ05全景（西から）

（2）１次ＳＣ05床面粘土出土状況（北東から）

図版12

（1）１次ＳＣ05カマド
縦断面土層（北西から）

（2）１次ＳＣ05土層および
粘土検出状況（南東から）

（3）１次ＳＣ05貼床下土層
（北西から）

（1）１次ＳＤ13全景（西から）

（2）１次ＳＤ13土層（東から）

図版14

（1）１次ＳＸ35全景（北から）

（2）１次ＳＸ35遺物出土状況（東から）

（1）１次ＳＰ438粘土出土状況（北から）

（2）１次ＳＰ438遺物出土状況（北から）

図版16

1次谷部杭列検出状況（南東から）

（1）１次谷部杭列
検出状況（北東から）

（2）１次谷部内杭列
検出状況（東から）

（3）１次谷部完堀状況
（東から）

図版18

（1）１次谷部土層（南東から）

（2）１次谷部東側杭列（東から）

（3）１次谷部西側杭列遺物出土状況①（西から）

（4）同左②（西から）

（5）１次谷部土層サンプル採取状況（南東から）

（6）１次谷部柱状サンプル採取位置（北東から）

（7）１次北側調査区東側壁面土層（西から）

（8）１次南側調査区東壁面南側土層（西から）

（１）９次調査地遠景（北西から）

（２）９次調査地第１面全景（西から）

図版20

（1）９次ＳＸ01粘土検出状況（西から）

（2）９次ＳＸ01土層（東から）

（1）9次SD01全景（北西から）

（2）9次SD01A－A'間土層（北西から）

（3）9次SD01D－D'間土層（北西から）

図版22

（1）９次調査地第２面全景（西から）

（2）９次ＳＢ01全景（北西から）

（1）９次ＳＢ01東側柱列全景（北西から）

（2）９次ＳＢ01（ＳＰ95）円盤状土製品出土状況（南から）

図版24

（1）9次SB01（SP57）土層（東から）

（2）9次SB01（SP59）土層（北から）

（3）9次SB01（SP98）土層（北から）

（1）９次ＳＢ02全景（西から）

（2）９次ＳＣ01全景（北から）

図版26

（1）９次ＳＣ01石庖丁出土状況（南東から）

（2）９次調査区北側壁面土層①（南から）

（3）９次調査区北側壁面土層②（北西から）

（1）12次調査地遠景

（2）12次調査地１区第１面全景（北西から）

図版28

（1）12次ＳＸ01全景（南から）

（2）12次ＳＸ03全景（北西から）

（1）12次ＳＸ04・05全景（西から）

（2）12次ＳＸ06全景（北から）

図版30

（1）12次ＳＸ07全景（北から）

（2）12次ＳＸ08全景（西から）

（1）12次調査地１区第２面全景（北西から）

（2）12次調査地２区第２面全景（西から）

図版32

（1）12次ＳＢ04全景（西から）

（2）12次ＳＤ01－4・5間土層（南から）

（3）12次ＳＤ01－5・6間土層（北から）

（4）12次ＳＰ63土層（東から）

（5）12次ＳＰ65土層（東から）

（1）12次ＳＰ169土層（東から）

（2）12次ＳＰ70土層（東から）

（3）12次ＳＰ161土層（東から）

（4）12次ＳＰ172土層（南から）

（5）12次ＳＤ02全景（東から）

図版34

（1）12次ＳＤ03全景（北西から）

（2）12次ＳＤ03－1・2間土層（北から）

（3）12次ＳＤ03－2・3間土層（北から）

（4）12次ＳＤ03－3・4間土層（北から）

（5）12次ＳＤ03－4・5間土層（北から）

（1）12次ＳＸ09全景（北から）

（2）12次ＳＸ10全景（西から）

図版36

（1）12次ＳＸ12全景（西から）

（2）12次ＳＸ13全景（西から）

（1）12次ＳＰ154粘土
出土状況（東から）

（2）12次ＳＤ02周辺遺物
検出状況（東から）

（3）12次ＳＤ03南側遺物
検出状況（東から）

図版38

（1）12次ＳＤ03南側包含層土層（南から）

（2）12次１区第２面包含層Ⅰ・Ⅱ間土層（北から）

（3）12次１区第２面包含層Ⅱ・Ⅲ間土層（北から）

（4）12次調査区東壁土層（北）（西から）

（5）12次調査区東壁土層（中）（西から）

（6）12次調査区東壁土層（南）（西から）

（1）16次調査地全景（南から）

（2）16次ＳＤ02・03全景（北東から）

図版40

（1）16次ＳＤ02Ａ－Ａ'面
土層（南から）

（2）16次ＳＤ02Ｂ－Ｂ'面
土層（南から）

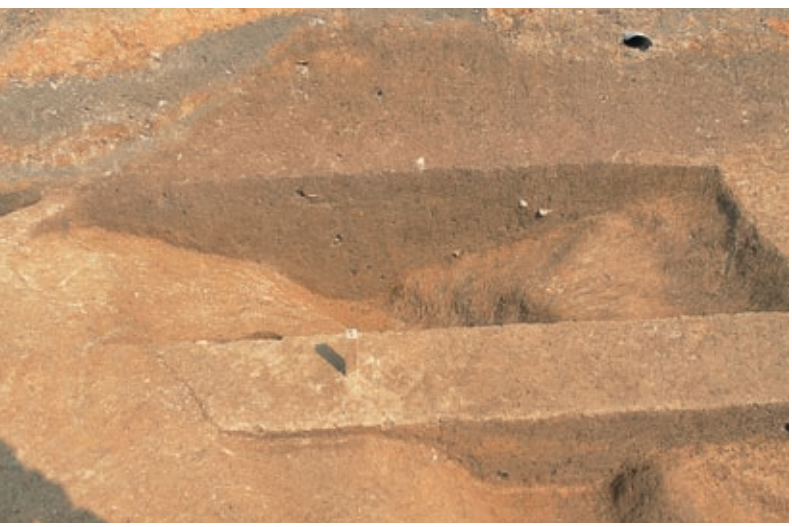
（3）16次ＳＤ02Ｃ－Ｃ'面
土層（南東から）

（1）16次ＳＤ03Ｇ－Ｇ'面土層（南西から）

（2）16次ＳＤ03Ｆ－Ｆ'面土層（北東から）

（3）16次ＳＤ02Ｄ－Ｄ'面土層①（西から）

（4）16次ＳＤ02Ｄ－Ｄ'面土層②（西から）



（5）16次ＳＤ02Ｅ－Ｅ'面土層①（西から）

（6）16次ＳＤ02Ｅ－Ｅ'面土層②（西から）

図版42

（1）16次ＳＸ04全景（南東から）

（2）16次ＳＸ04土層（南から）

（1）17次調査地全景（北西から）

（2）17次調査地第1面全景（真上から）

図版44

（1）17次ＳＢ01～06全景（真上から）

（2）17次ＳＢ01（ＳＰ121）土層（南から）

（3）17次ＳＢ01（ＳＰ143）土層（南から）

（1）17次ＳＢ02全景（真上から）

（2）17次ＳＢ02（ＳＰ187）
土層（北から）

図版46

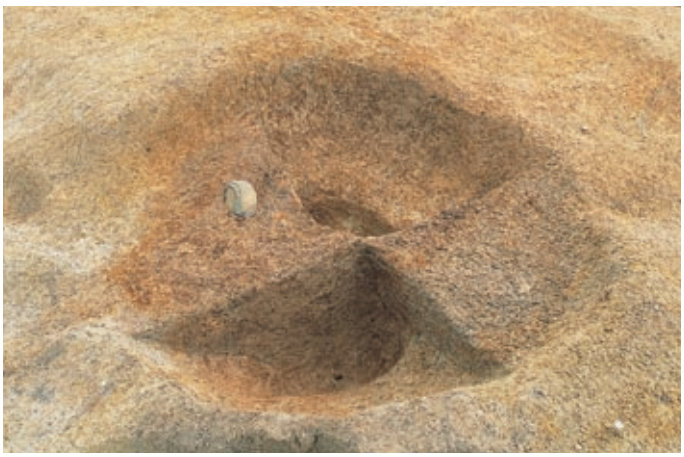
17次ＳＢ04全景（真上から）

（1）17次ＳＢ04全景（西から）

（2）17次ＳＢ04（ＳＰ104）土層（南東から）

（3）17次ＳＢ04（ＳＰ89）土層（北東から）

（4）17次ＳＢ04（ＳＰ123）土層（南東から）



（5）17次ＳＢ04（ＳＰ124）土層（南東から）

図版48

（1）17次ＳＤ01－10・11間
土層（東から）

（2）17次ＳＤ02・04土層
（北から）

（3）17次ＳＤ03－6・7間
土層（西から）

（1）17次ＳＤ06土層（北から）

（2）17次ＳＤ06北半部（北から）

図版50

（1）17次ＳＰ200全景（北から）

（2）17次ＳＰ200遺物出土状況（南から）

（1）17次ＳＰ230全景（北から）

（2）17次ＳＰ230土層（北から）

図版52

（1）17次ＳＸ02全景（西から）

（2）17次ＳＸ02土層（南から）

（1）17次ＳＰ32全景（北から）

（2）17次ＳＰ32土層（南から）

図版54

（1）17次ＳＸ01全景（北から）

（2）17次ＳＸ01遺物出土状況（北から）

（3）17次ＳＸ01カマド状遺構土層Ｅ－Ｅ’面（東から）

（4）17次ＳＸ01土層（東から）

（1）17次ＳＸ03全景（北から）

（2）17次ＳＸ03土層（南から）

図版56

（1）17次ＳＸ04全景（南西から）

（2）17次ＳＸ04ａ－ａ'面土層（南から）

（3）17次ＳＸ04ｂ－ｂ'面土層（南から）

（1）17次調査地第２面全景（真上より）

（2）17次調査整地層土層（南から）

図版58

（1）17次ＳＸ05全景（南西から）

（2）17次ＳＸ05土層（南から）

3

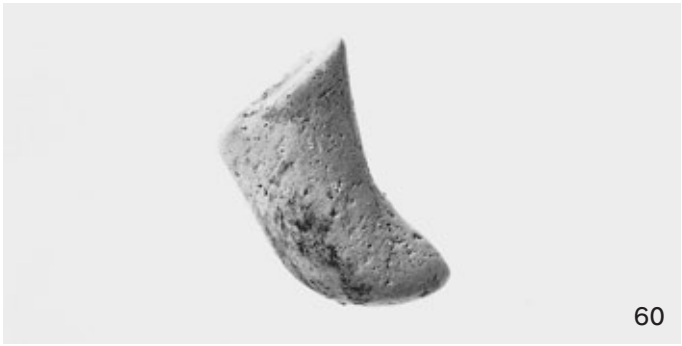
32

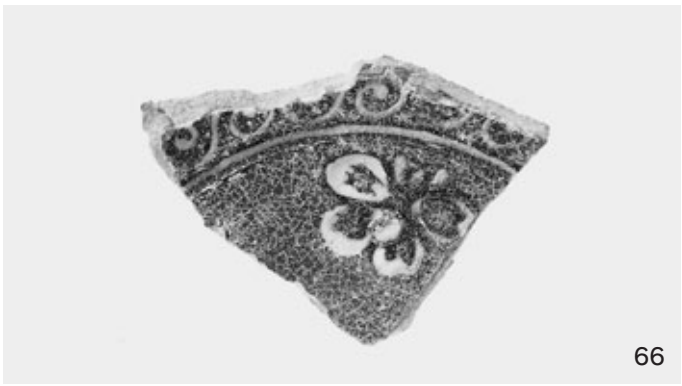
36

38

42

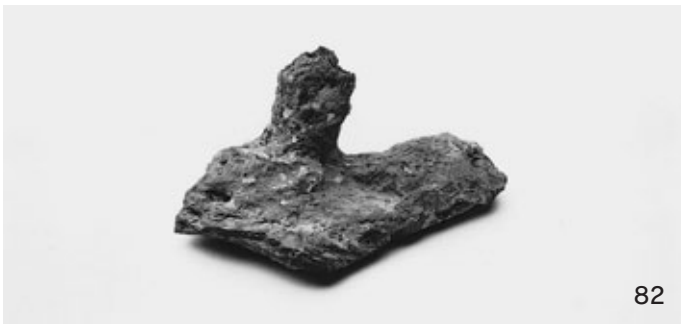
48


60


66

79表 79裏

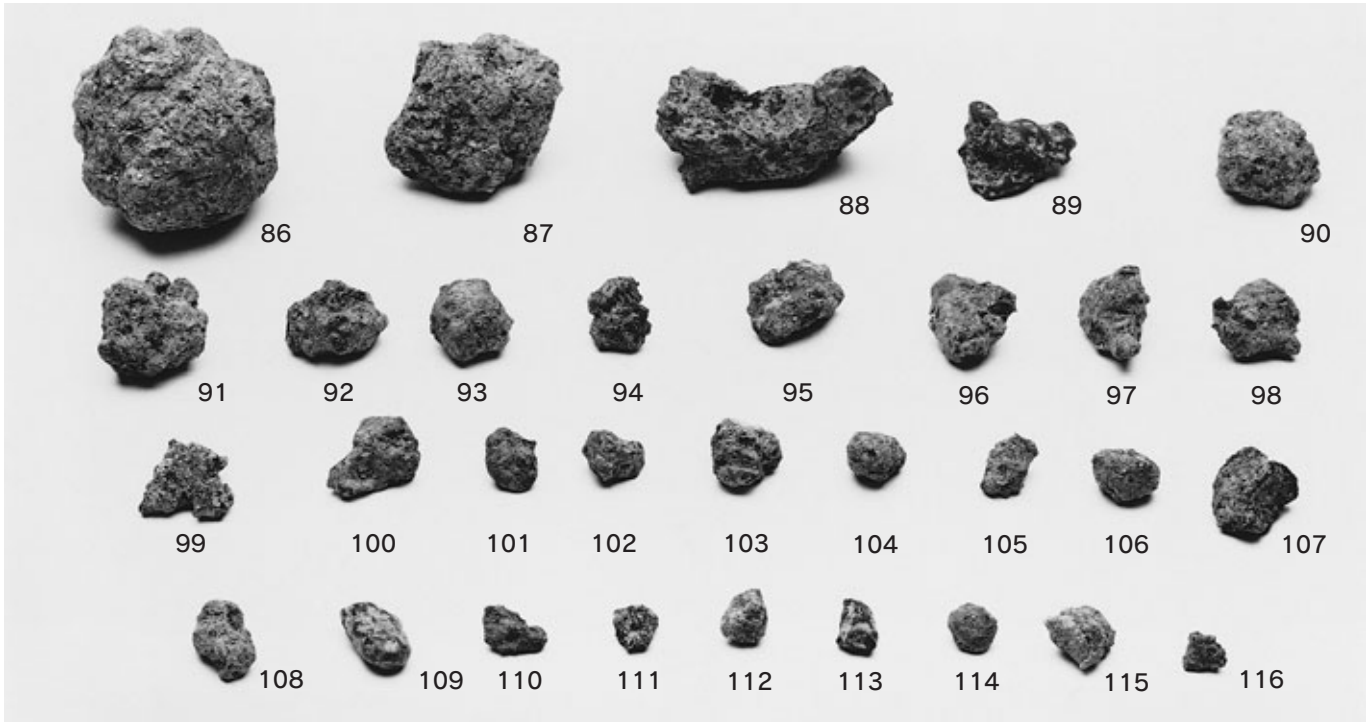
80

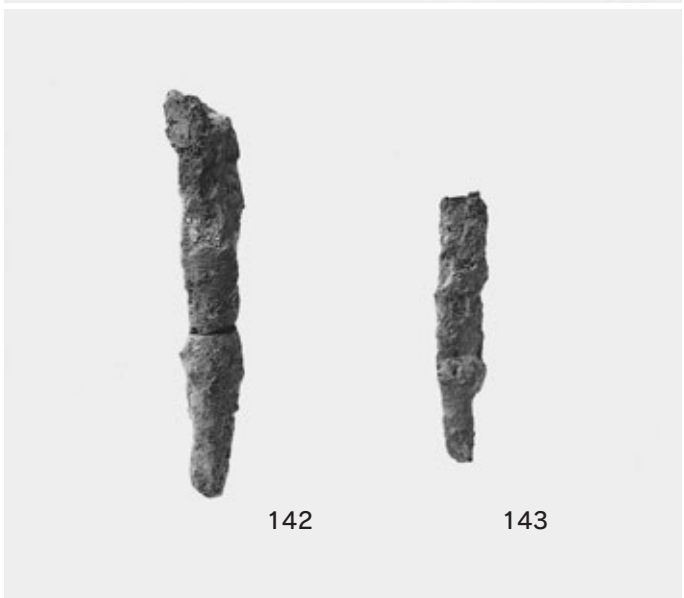

82

118

1 次調査出土遺物①

図版60





1次調査出土遺物②

149

159

172

174

179

181

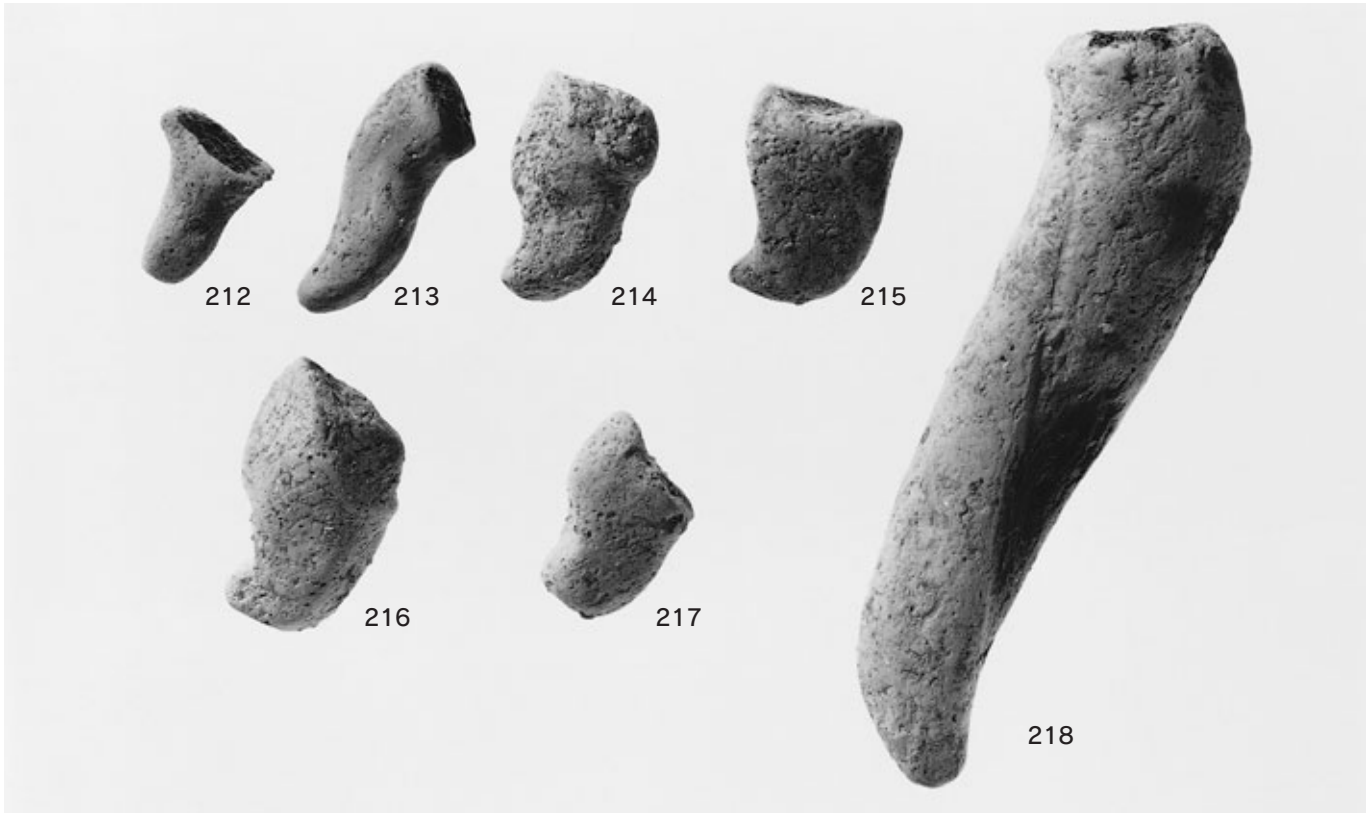
188

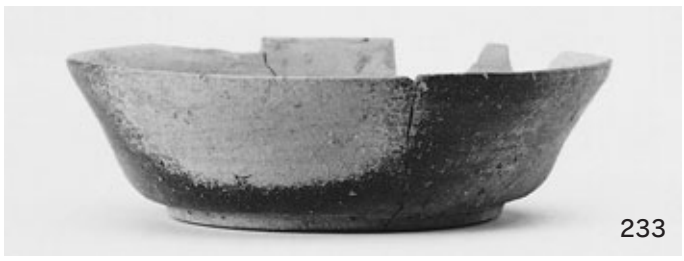
189

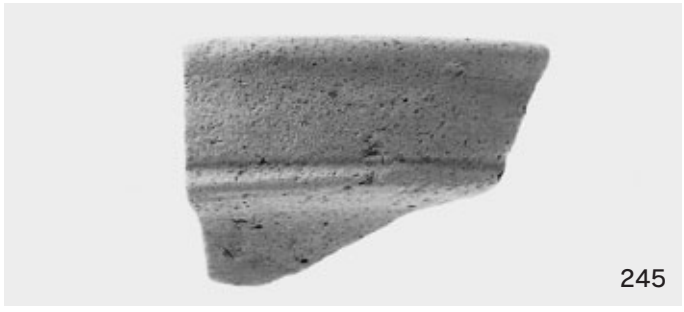
195

199

図版62

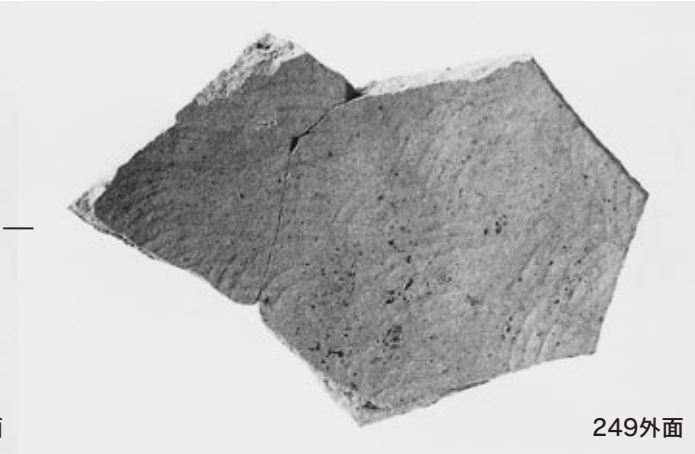






1次調査出土遺物④

249内面


249外面

252

261

262

269 270 271 272 273

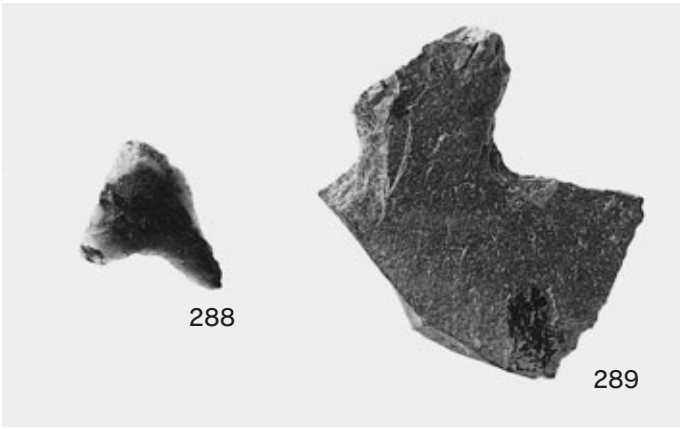
276

286 287

285

1 次調査出土遺物⑤

図版64


288
289

292

296

297

298

303

306

308

310

311

313

1次調査出土遺物⑥

314

316

319

321

323

327

328

329

330

334

337

図版66

338

342

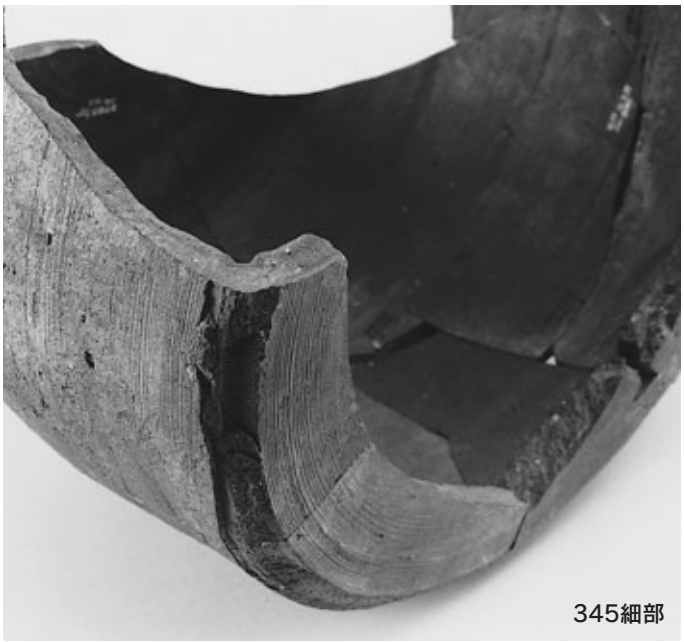
339

343

340

344

345


345細部

362

373

368

374

370

375

375

379

1次調査出土遺物⑨

383

385

386

387

388

390

391

396

396

400

401

403

404

414

433

434

436

411

421

438

439

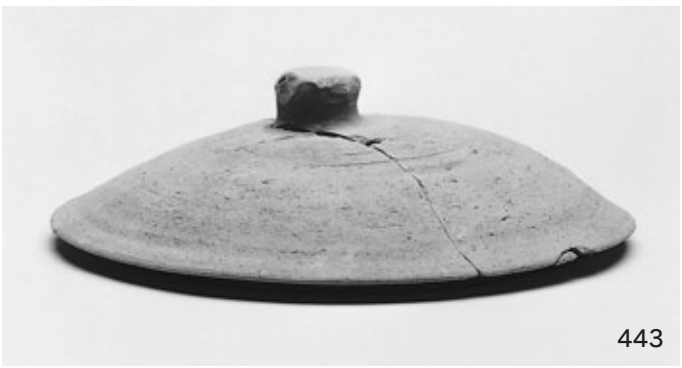
441

図版70

442

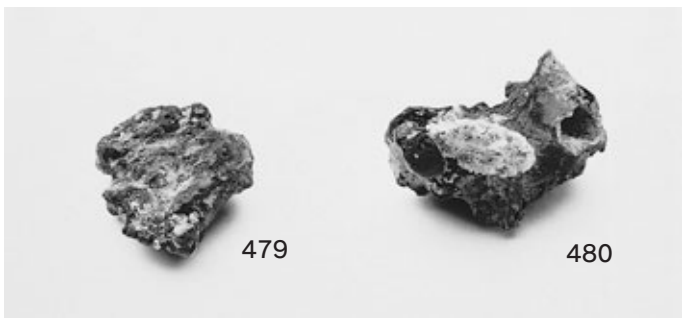
470

471


443

472

449


479 480

449（上から）

449墨書

1次調査出土遺物⑫

482

495

507

510

500

501

512

504

514

511凹面

511凸面

図版72

38

48

120

303

316

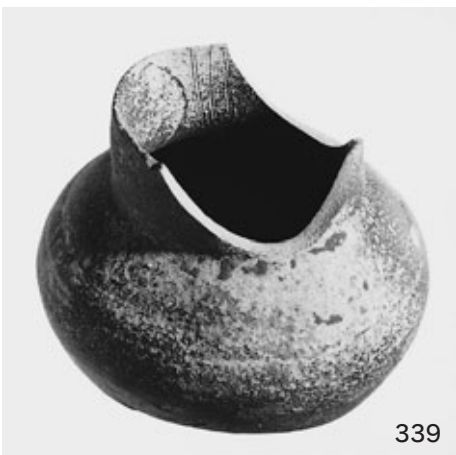
319

321

328

329

330


339

343

1次調査出土遺物ヘラ記号①

344

363

368

369

370

373

374

375

383

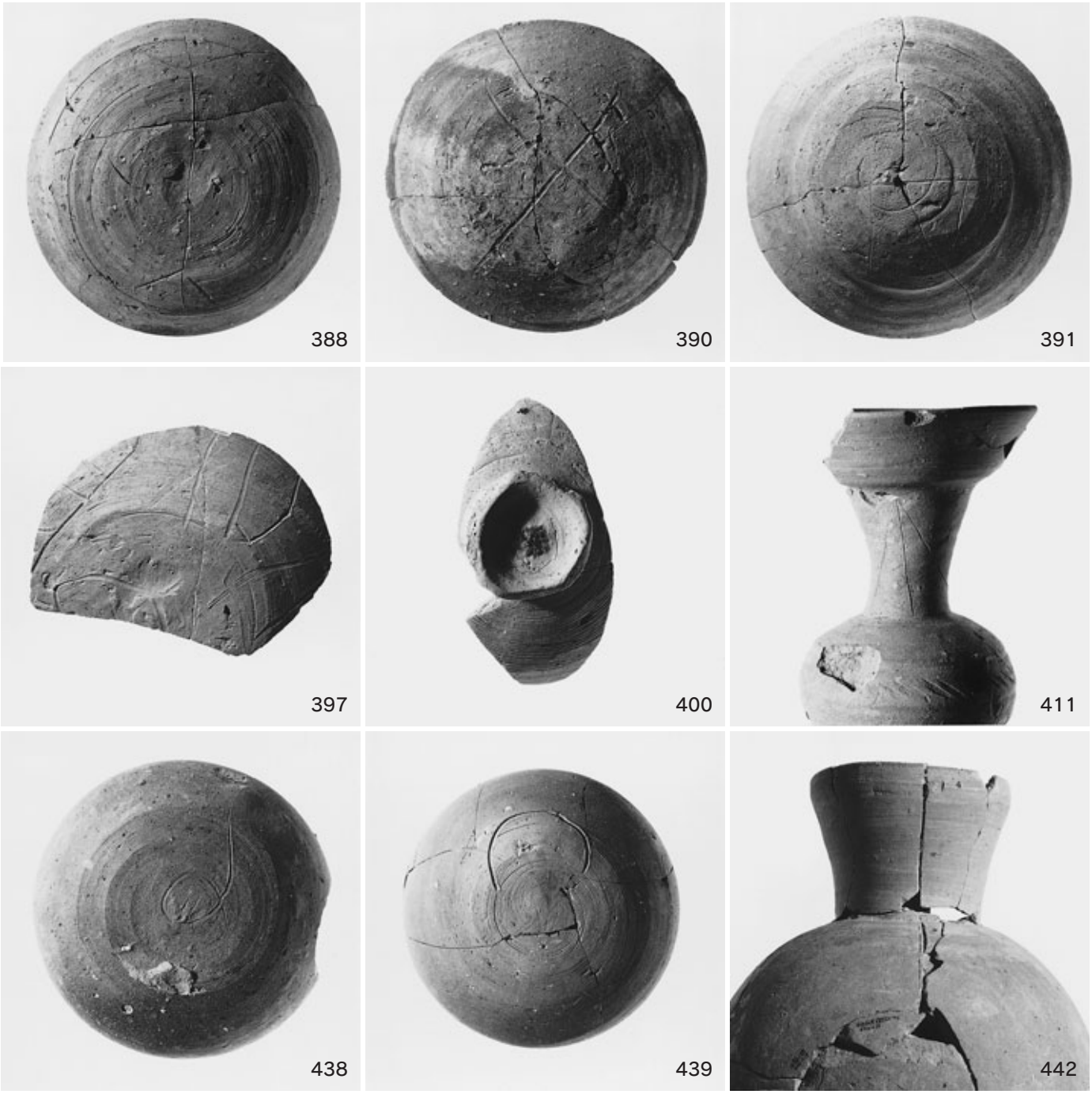
385

386

387

1 次調査出土遺物ヘラ記号②

図版74



1次調査出土遺物ヘラ記号③

517

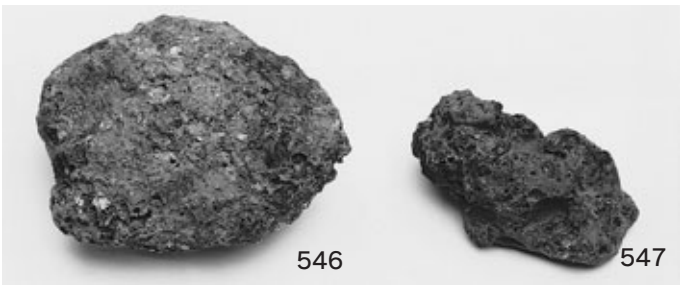
519

520

528

542

545


546 547

561

562～570

532内面

532外面

９次調査出土遺物①

図版76

571～636

637

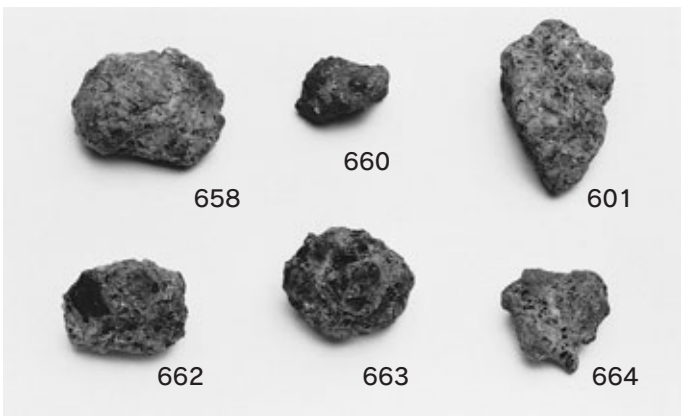
657

654

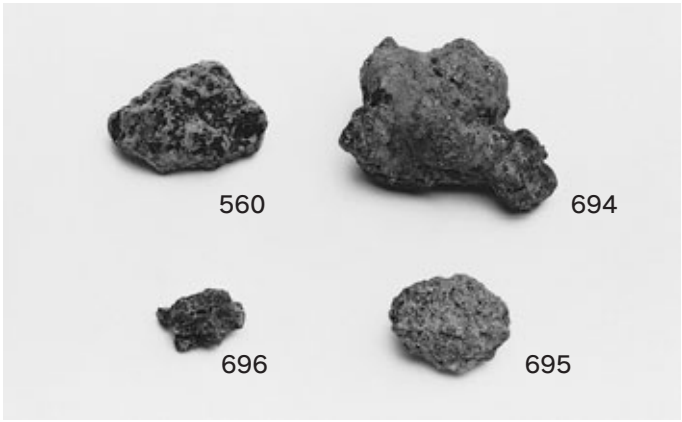
659

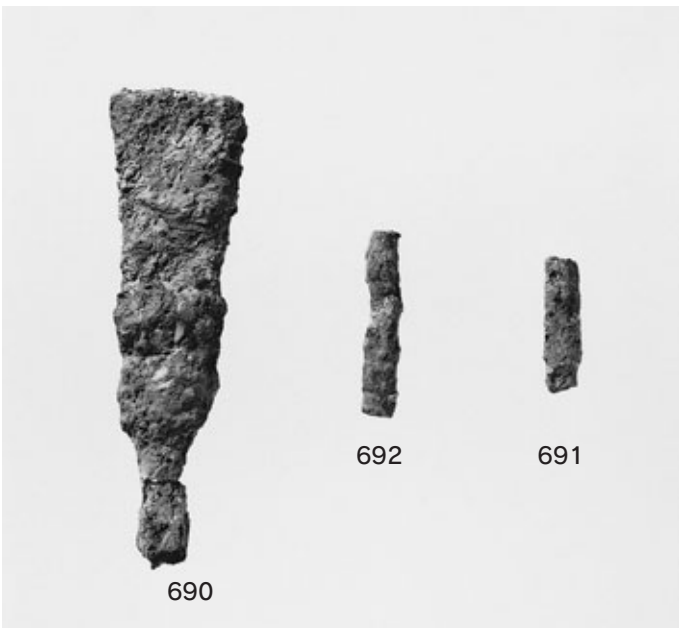
666

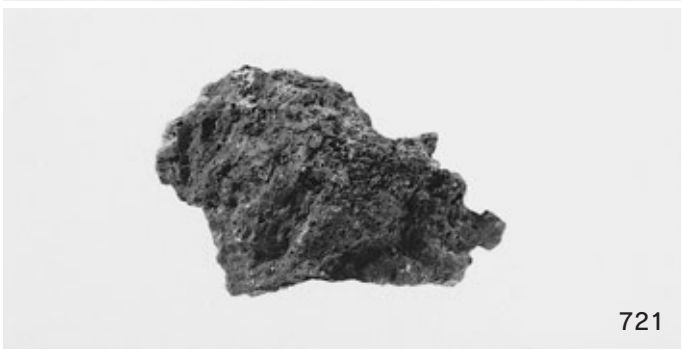
655


658
660
601
662
663
664

９次調査出土遺物②







9次調査出土遺物③・12次調査出土遺物①

図版78

720外面

720内面

724

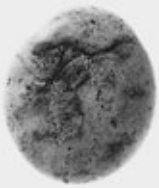
740

727

743

728

749



731

736

737

758

759

760

12次調査出土遺物②

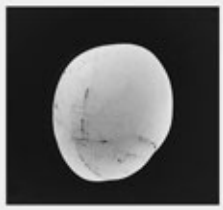
766

767

769

770

772


771

775

779

780

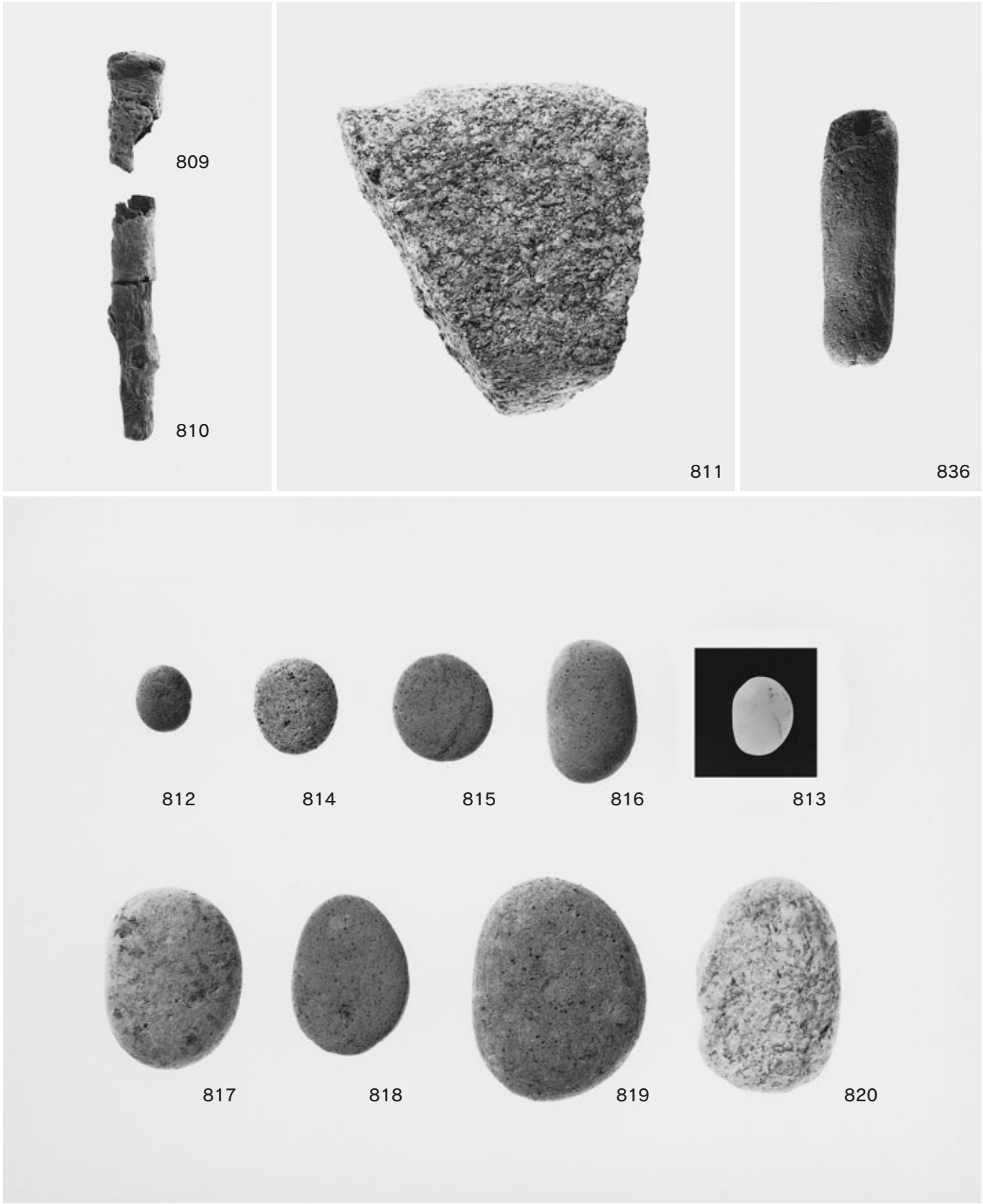
781

794

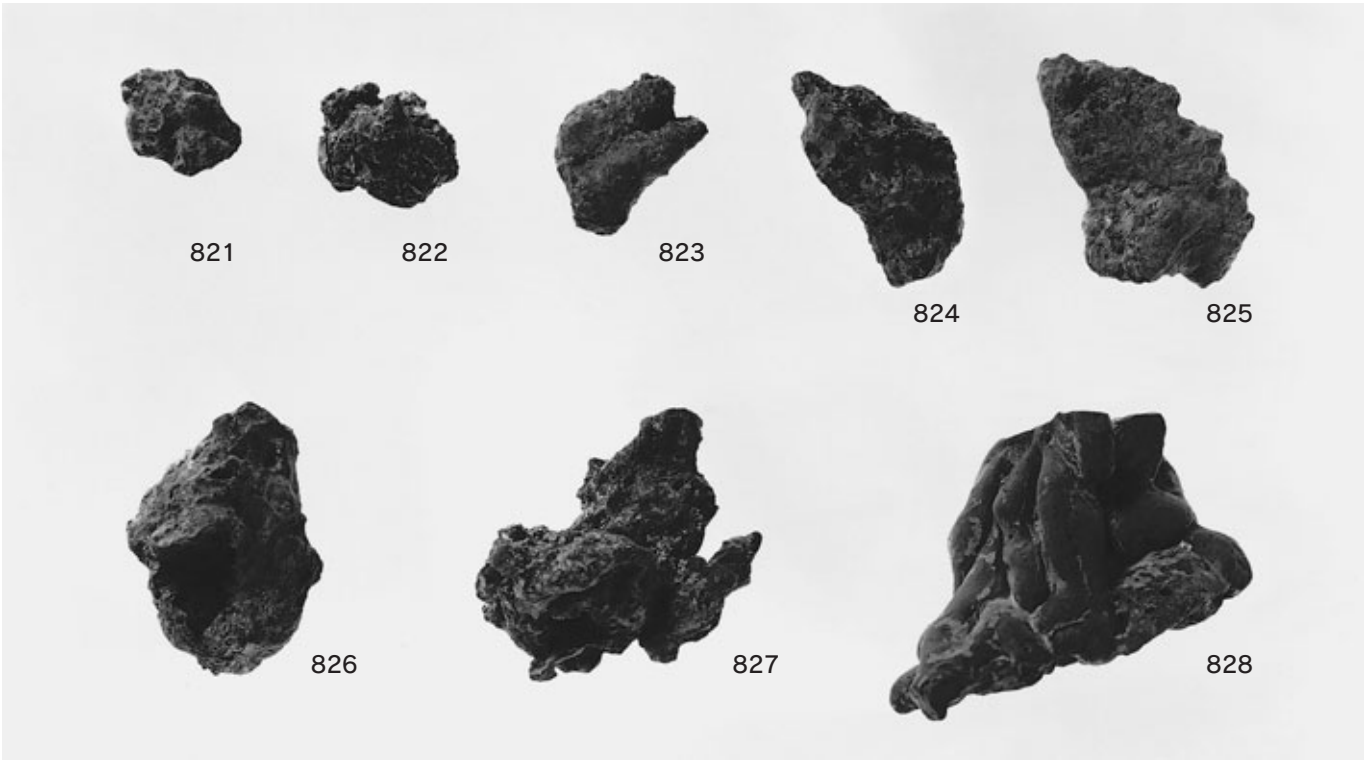
799

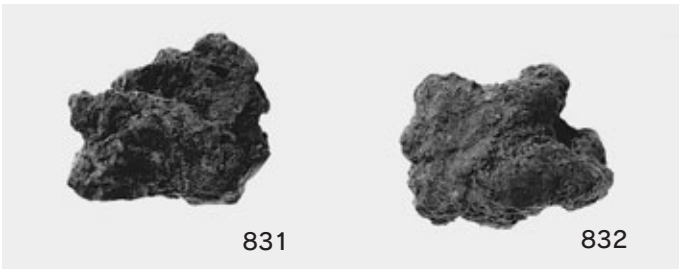
804

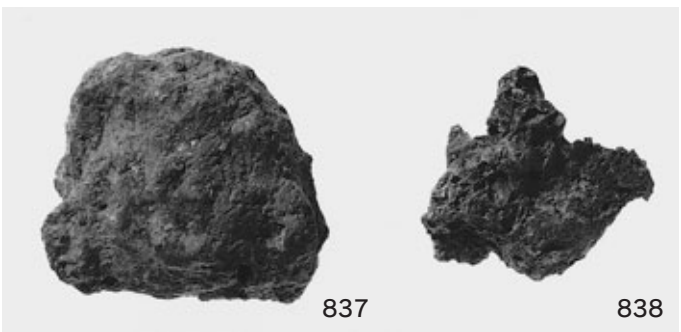
図版80



12次調査出土遺物④


821
822
823
824
825
826
827
828

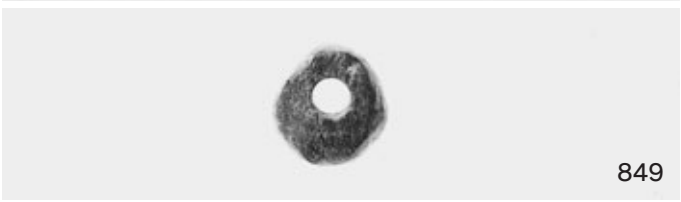

831
832


837
838

843

844

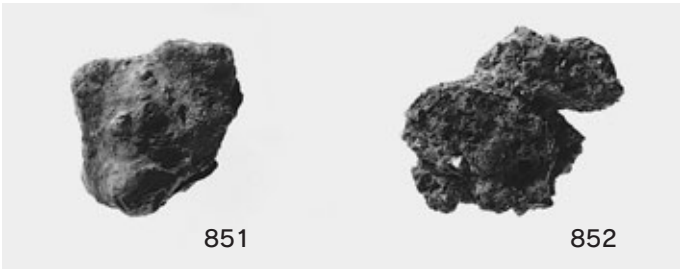
848


849

850

12次調査出土遺物⑤

図版82

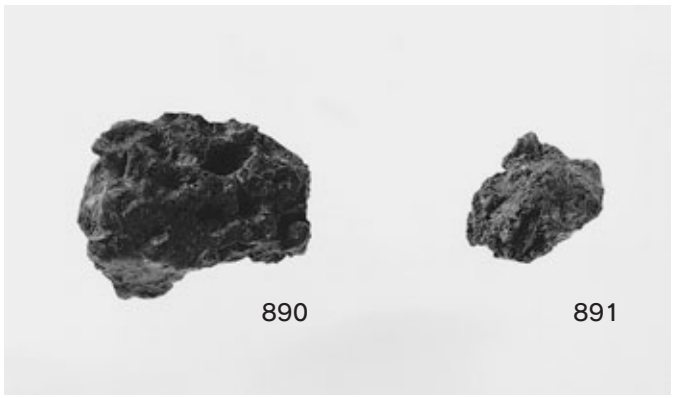


851　852

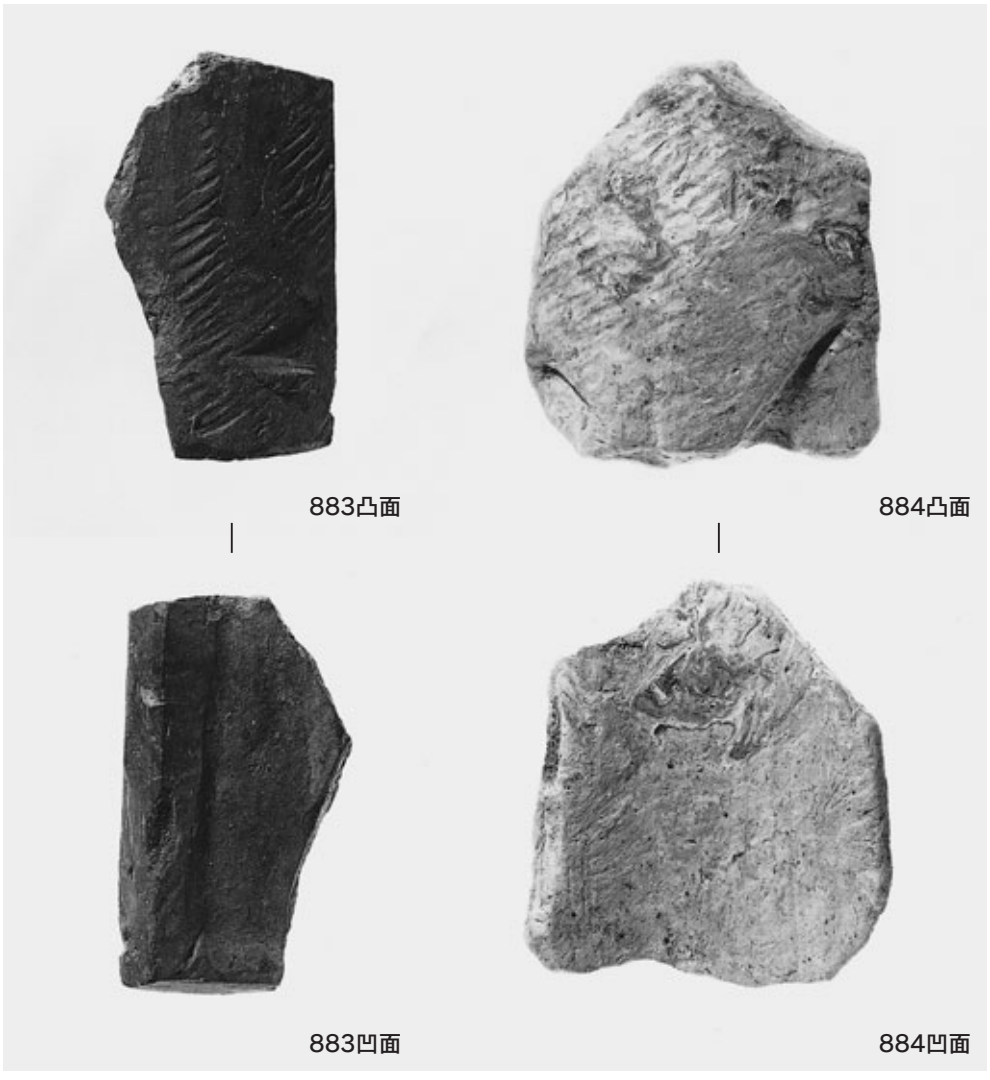
867

864

862



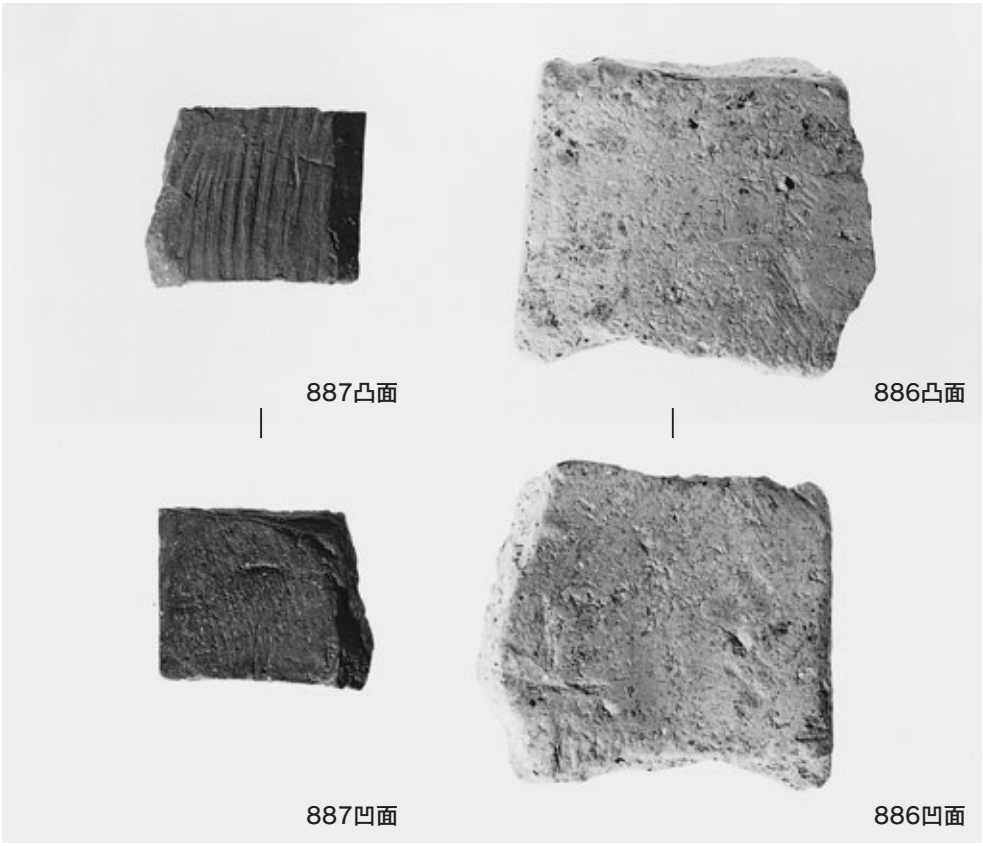
890　891

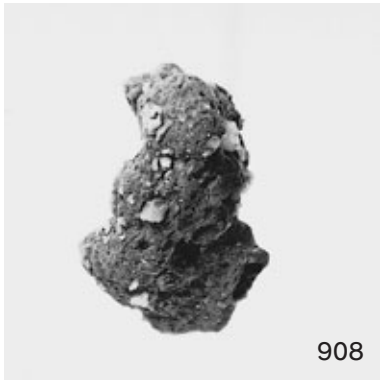


883凸面　884凸面

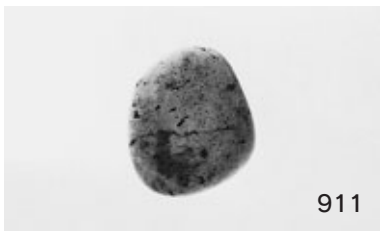
883凹面　884凹面

12次調査出土遺物⑥




908

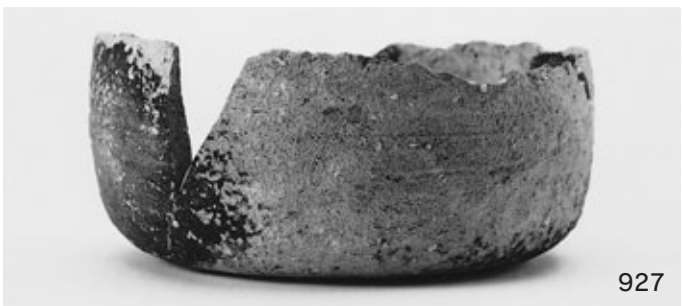
910


911

897

912

899

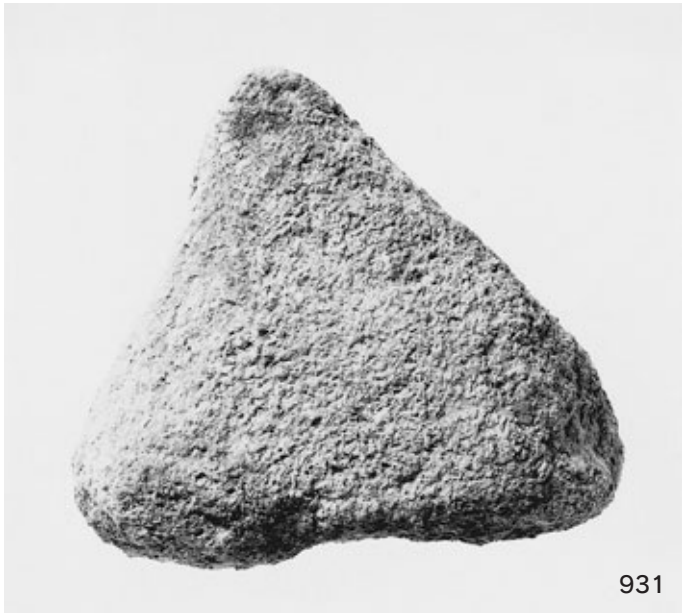

927

901

928

12次調査出土遺物⑦

図版84

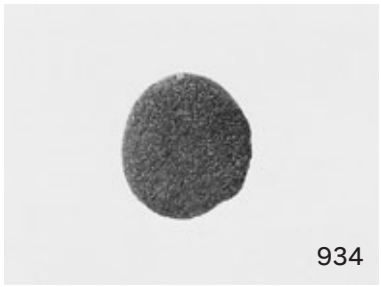

931

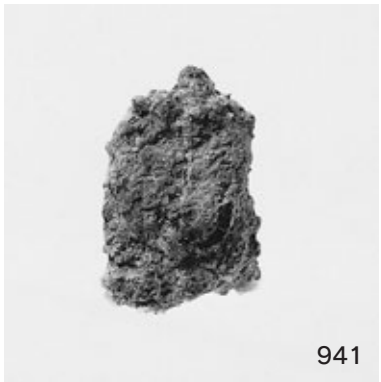
940

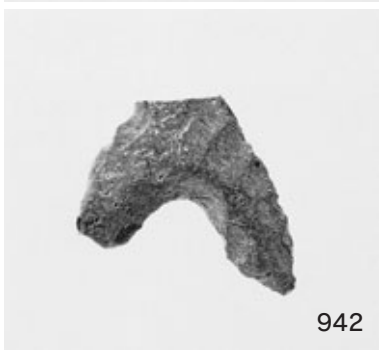
951

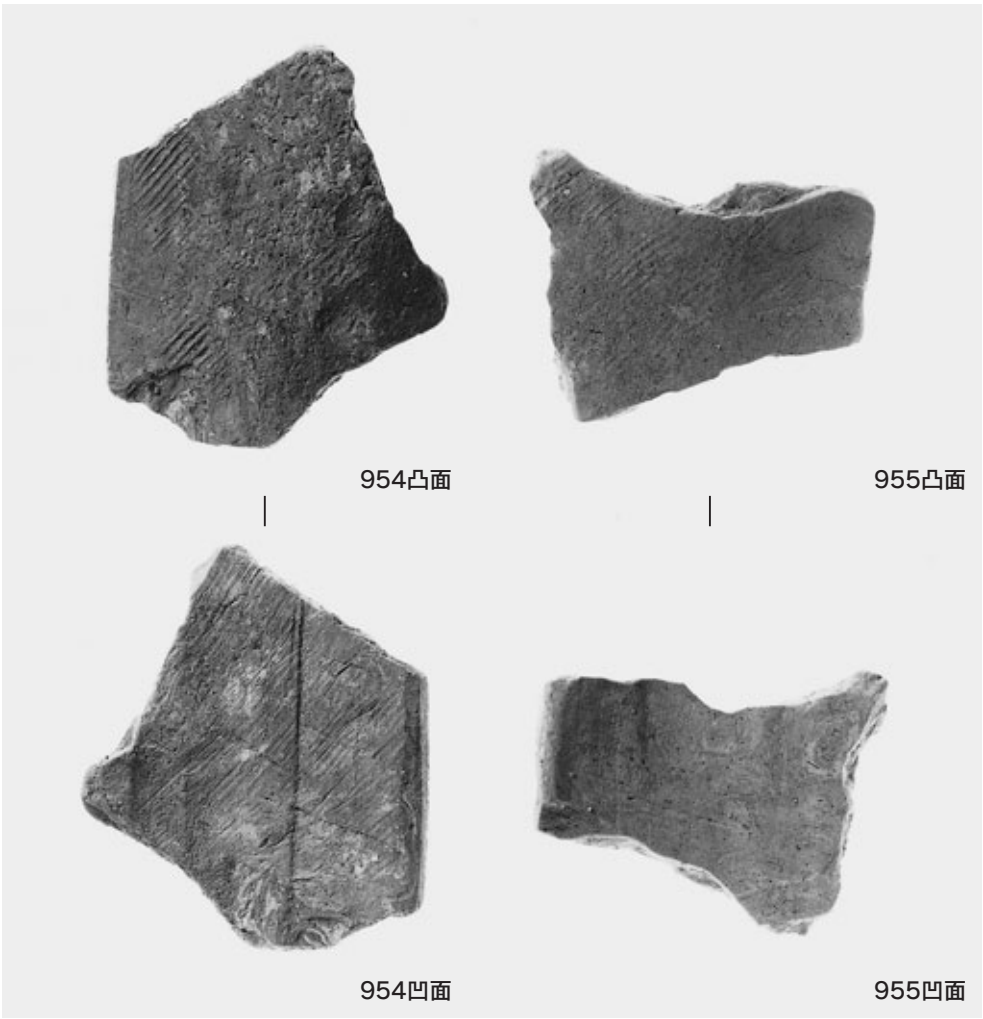
938 939

952


934


941


942


954凸面 955凸面 954凹面 955凹面

12次調査出土遺物⑧

957

958

959

961

962

963

965

966

967

968

971

972

12次調査出土遺物⑨

図版86

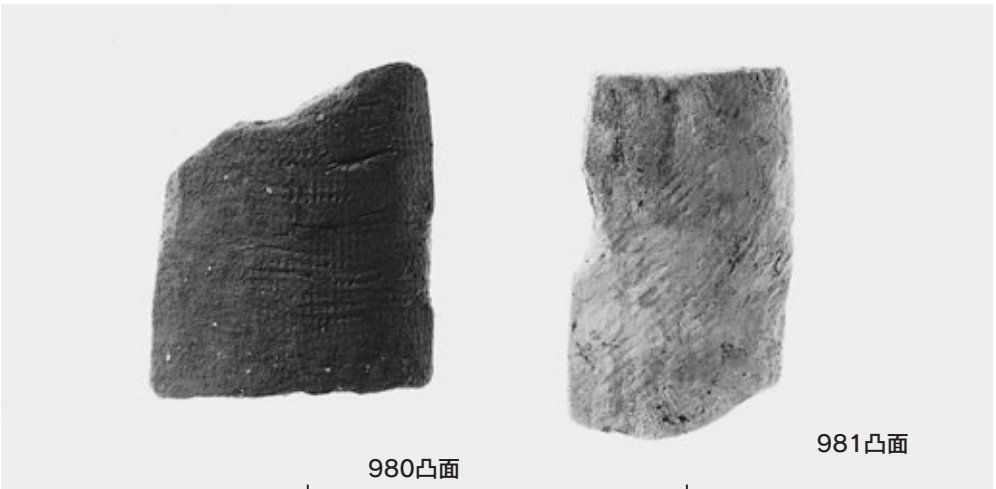
973

976

977

974

975


980凸面

981凸面

980凹面

981凹面

983凹面

983凸面

986凸面

987凸面

986凹面

987凹面

989

995

991

1000

12次調査出土遺物⑪

図版88

1001

1002

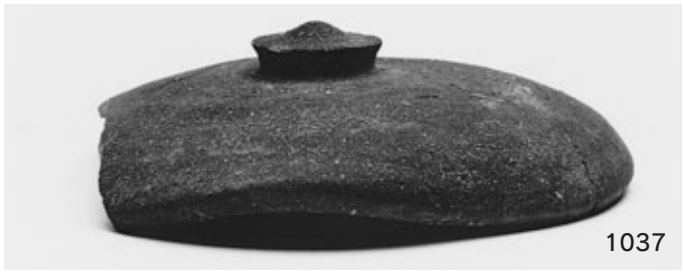
1003

1007

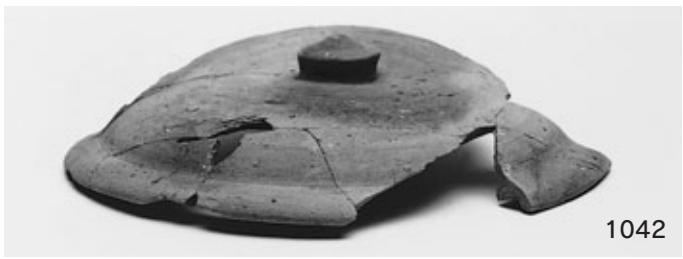
1008

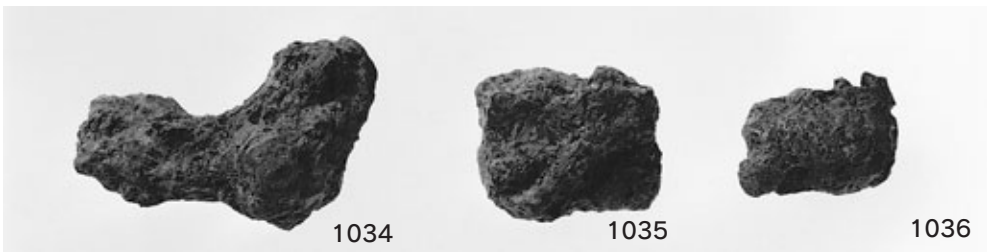
1020

1030


1037

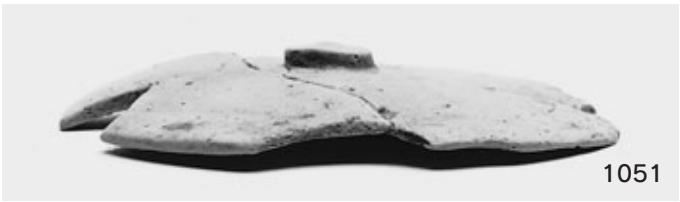
1038


1042


1034 1035 1036

12次調査出土遺物⑫

1046


1051

1053

1056

1058

1062

1063

1072

1073

1077

1079

1080

12次調査出土遺物⑬

1085

1086　1086

1087

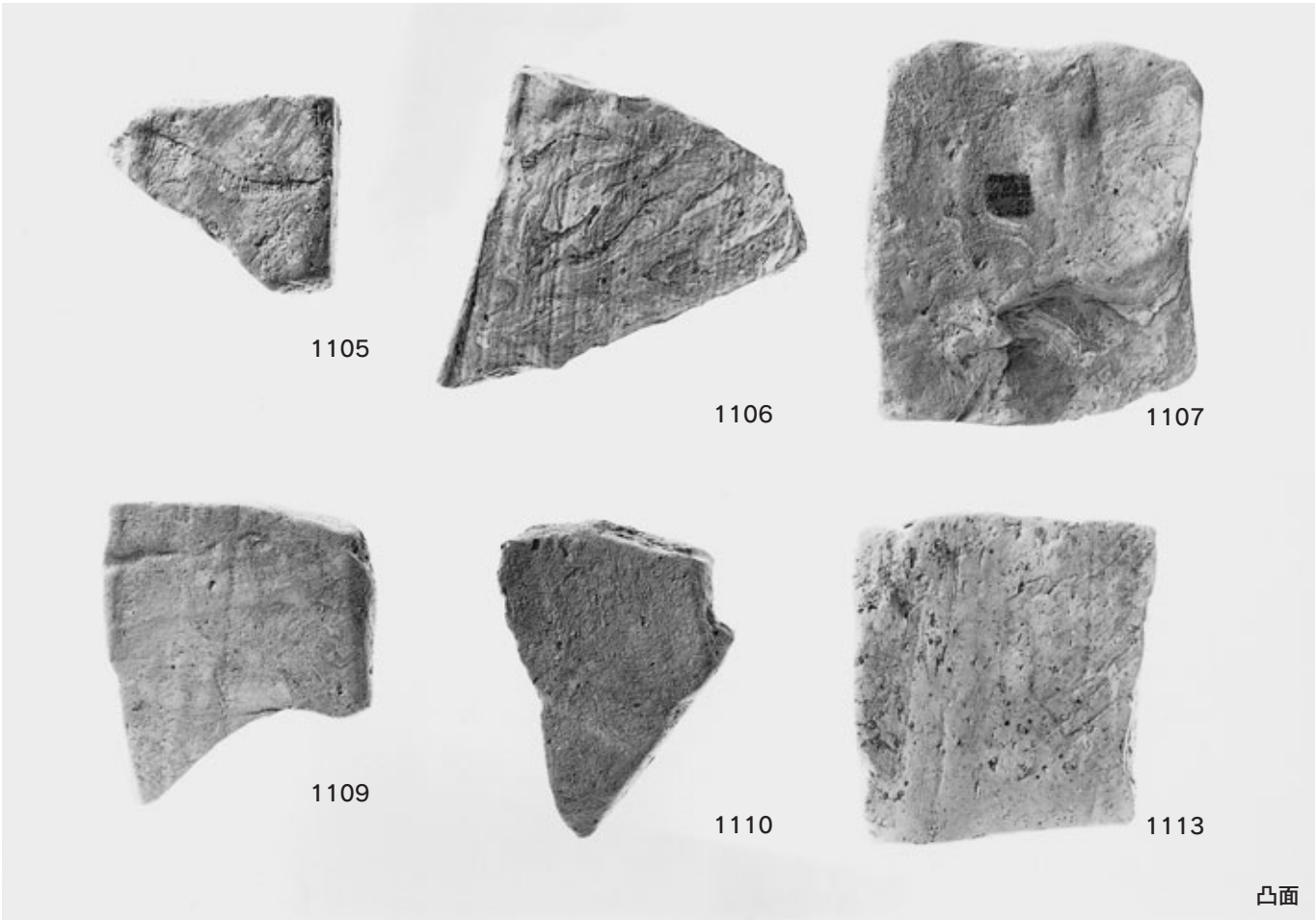
1089

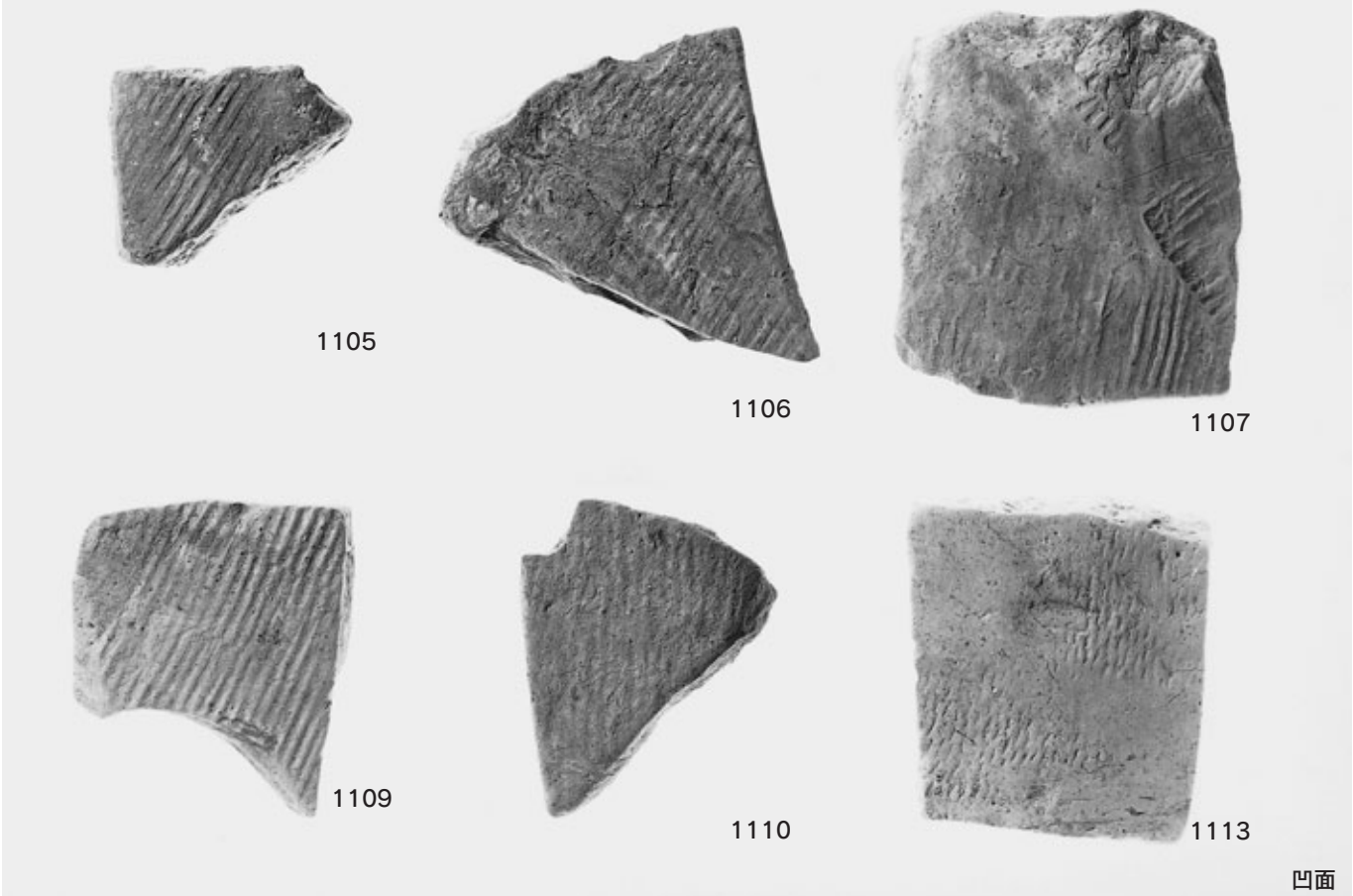
1091

1092

1093

1098


1105
1106
1107
1109
1110
1113
凸面


1105
1106
1107
1109
1110
1113
凹面

12次調査出土遺物⑮

図版92

1115

1114

1129

1116

1133

1134

1135

1136

1117 1118

1137

1124

1141凸面 1141凹面

1127

1142

12次調査出土遺物⑯

1146

1155

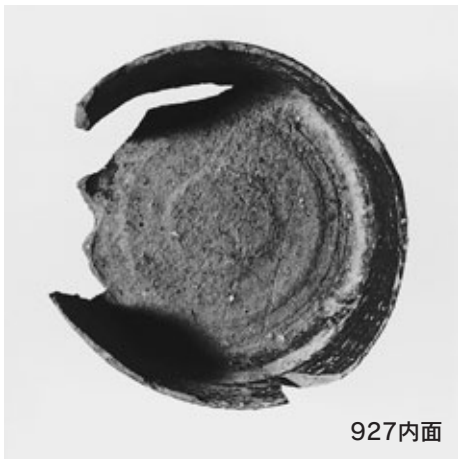
1159

698

740

799

804


927内面

927外面

959

962

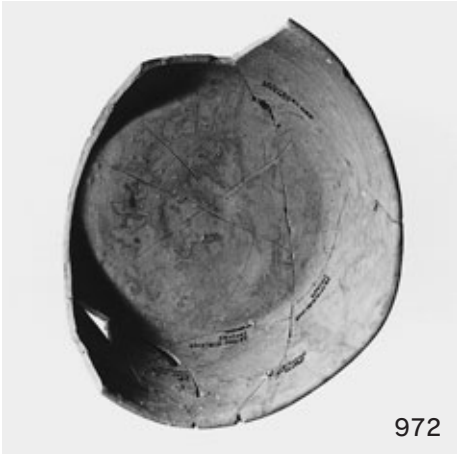
963

12次調査出土遺物⑰・12次調査出土遺物ヘラ記号①

図版94

965

966


972

995

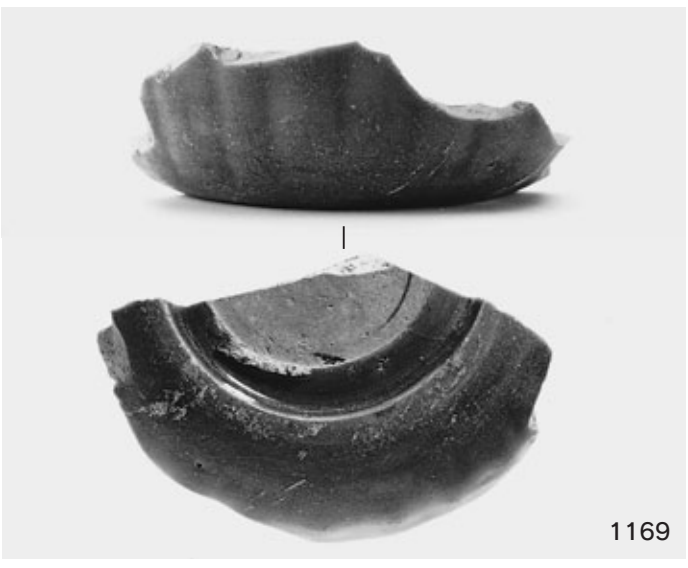
1042

1062

1127

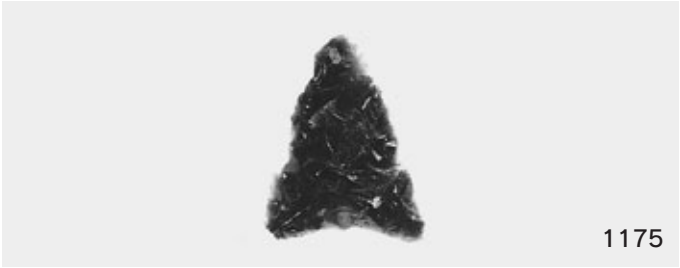
1137

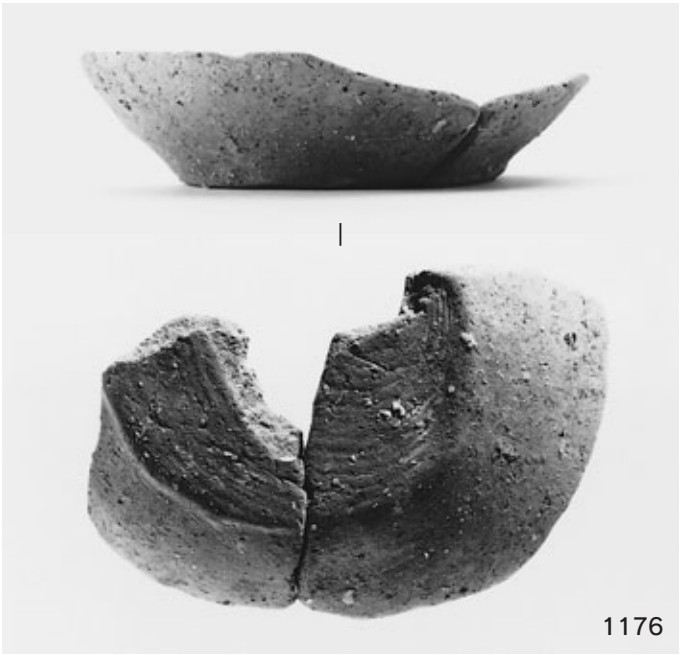
1165


1169

1170

12次調査出土遺物ヘラ記号②・16次調査出土遺物①


1175


1176

1185

1188

1199

1229

1210

1249

1248凹面

1248凸面

16次調査出土遺物②・17次調査出土遺物①

1252

1263

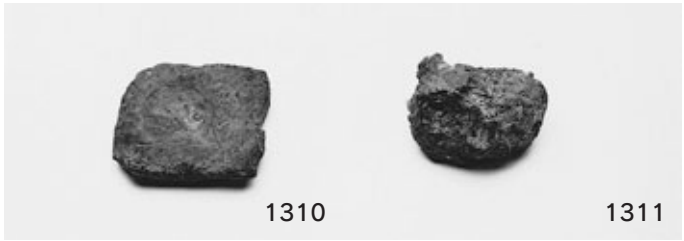
1267

1270

1284

1299

1301


1310 1311

1323

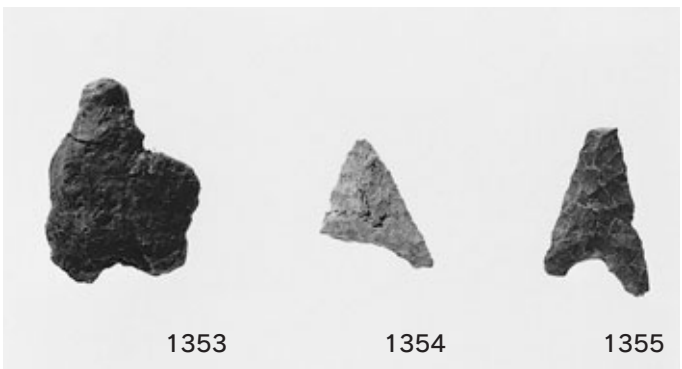
1333

1336

1338

1339

1340


1353 1354 1355

1358

1363

1364

1367

1369

1373

1375

1377

1378

17次調査出土遺物③

1379

1380

1381

1382

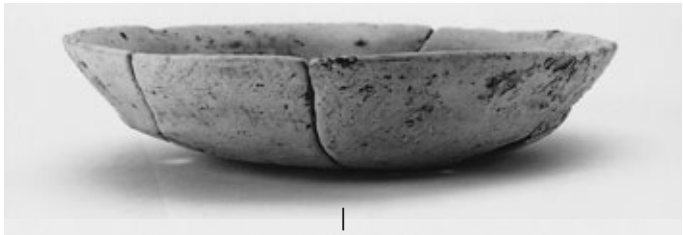
1383

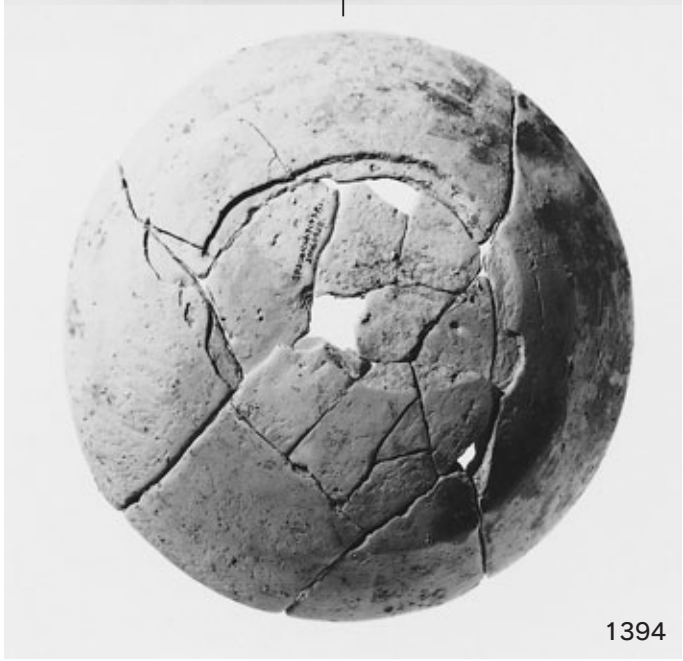
1384

1387

1388

1391




1394

1395

1396

1400

1405

1410

1414

1428

1429

1430

1432

1433

1436

1441

1443

1444

1454

1455

1456

1457

1467

1465

1466

1467

1475

1478

1496

1497

1499

1505

1512

1514

1516

1517

1522

1527

1535

1545
1544

1543
1546

17次調査出土遺物⑦

1556

1562

1566

1569

1574

1580

1582

1575

1594

1592

1607

1610

1622

1611

1611把手

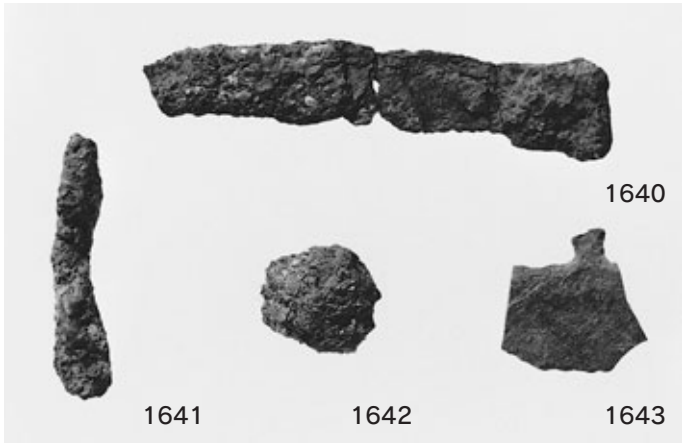
1617

1633

17次調査出土遺物⑨

図版104

1637

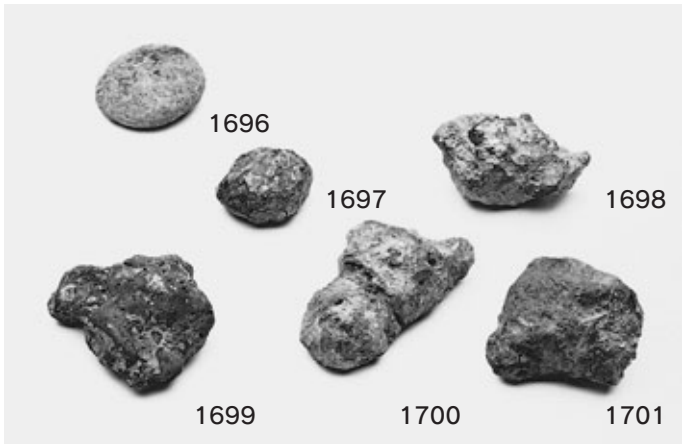

1640
1641
1642
1643

1647

1651

1662
1663
1664
1665
1666

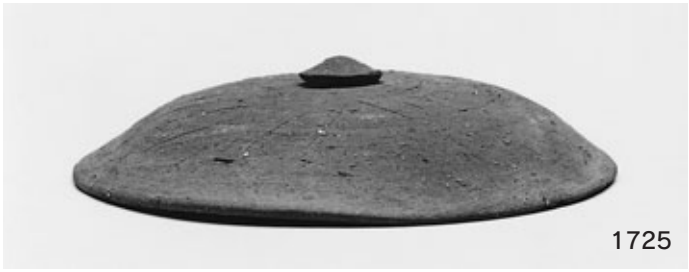
1667
1668
1670


1696
1697
1698
1699
1700
1701

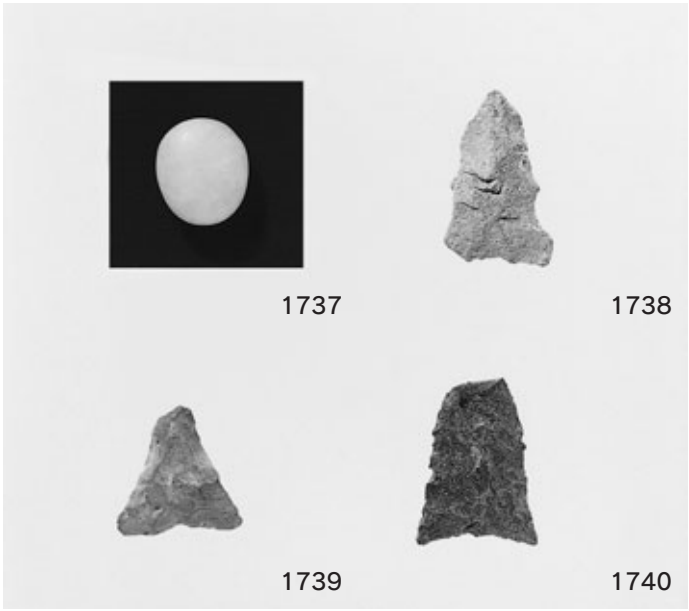
1714
1715
1717

1723

1724


1725

1734 1735 1736


1737 1738 1739 1740

1284

1323

1338

1454

1455

1456

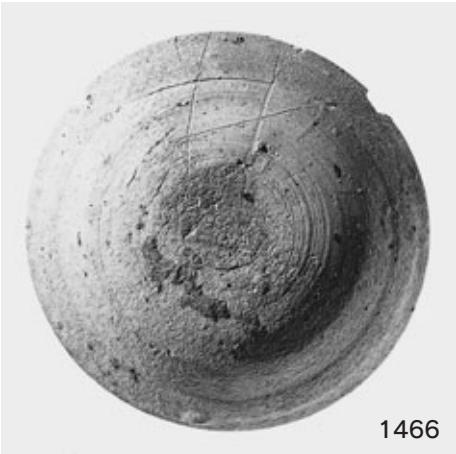
17次調査出土遺物⑪・17次調査出土遺物ヘラ記号①

図版106

1457

1464

1465


1466

1467

1514

1522

1562

1566

1574

1580

1582

17次調査出土遺物ヘラ記号②

1647

1592

1723

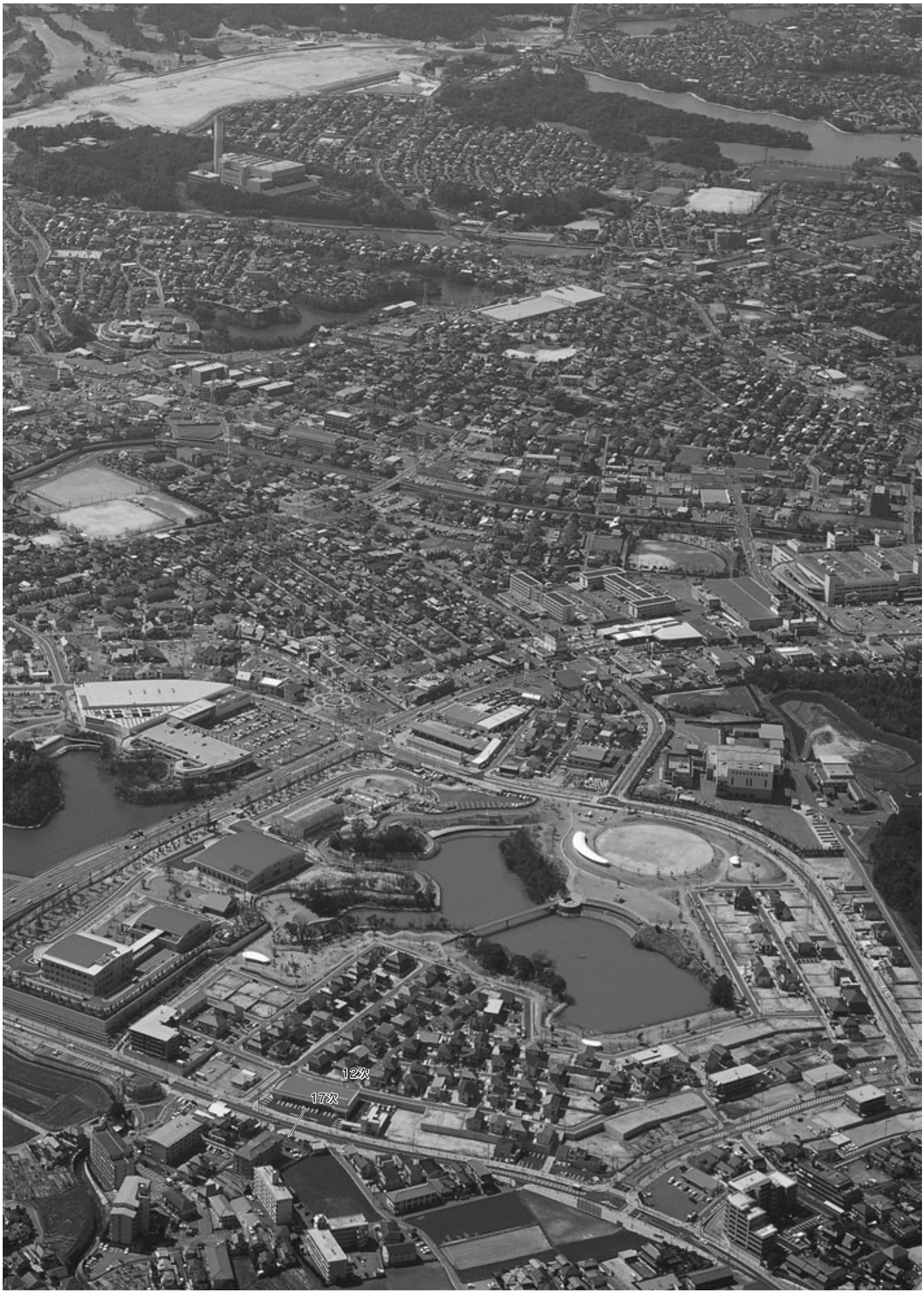
1724

1725

17次調査出土遺物ヘラ記号③

現在の12・17次調査地（北東から）

図版108



区画整理後の本堂遺跡12・17次調査地周辺（北東から）

付図　本堂遺跡1・9・12・17次調査遺構配置図（1／200）（赤は1・9・12次調査第1面検出遺構、青は17次調査第2面検出遺構）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	うしくびほんどういせきぐん　ろく
書　　名	牛頸本堂遺跡群Ⅵ
副 書 名	上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	Ⅵ
シ リ ー ズ 名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第80集
編 著 者 名	石木秀啓・久住愛子・北川貴博・上田龍児・大里弥生
編 集 機 関	大野城市教育委員会
所　在　地	〒816-8510　福岡県大野城市曙町二丁目２番１号　　電話092（501）2211
発 行 年 月 日	2008年8月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第１次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利662番地他			33° 30′ 52″	130° 29′ 52″	2001.4.26 ～ 2002.3.25	2,641㎡ (2面)	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第１次調査	集落遺跡	古墳～平安		須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・陶磁器・石器・鉄滓	墨書土器「識」

要約

調査地は南北方向にのび、中央部を谷が横断する。旧石器時代から中近世にいたるまでの遺物が出土しているが、中でも遺構・遺物ともに増加するのは古墳時代後期・奈良時代・平安時代である。古墳時代の集落は、須恵器窯の操業とともに丘陵部への開発が本格的におこなわれた結果と考えられるが、遺構は散在的な在り方を示す。奈良時代に入ると、竪穴住居跡内や土坑内からの粘土の出土から須恵器工人集落の存在が伺える。その一方で、仏鉢をともなう土坑や「識」と墨書された須恵器杯蓋から、仏教的な性格もうかがえる。平安時代に入ると、９世紀代の遺構は確認できず、10世紀中頃以降に遺構の展開が認められる。この時期までに２面包含層が形成される。11～12世紀には土坑が確認され、多くの土器が出土している。13世紀代になると谷部は埋没しており、遺物は散漫ながら出土するが明確な遺構は確認できなくなる。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第９次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利649－9他			33° 30′ 52″	130° 29′ 52″	2004.10.21 ～ 2004.12. 3	400㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第９次調査	集落跡	弥生～平安	竪穴住居跡・掘立柱建物・溝・土坑	須恵器・弥生土器・陶磁器・石器・鉄滓	

要約

調査地は１次調査地の東隣に隣接する。宅地化のため遺構面は大きく削平されていたが、竪穴住居跡・掘立柱建物などが確認された。弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡があり、完形の石包丁が出土している。出土した遺物から、弥生時代前期の遺構と考えられる。古墳時代の遺構は確認できなかったが、遺物の出土から、本来は何らかの遺構が存在したものと考えられる。奈良時代後半になると、掘立柱建物が出現する。うち１棟は主軸を南北方向にとり、１×７間の大型建物である。柱掘方は大きく、うち２つからは径３㎝前後の土師質の円盤状土製品が出土しており、柱の建て方の際に何らかの祭祀がおこなわれた可能性がある。平安時代は、粘土を盛り上げたような土坑が確認され、焼け歪んだ瓦器が出土していることから、土器焼成遺構が近くにあった可能性がある。

報告書抄録

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第12次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利649−4の一部			33° 30′ 54″	130° 28′ 52″	2005.3. 2 ～ 2005.6.23	500㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第12次調査	集落遺跡	弥生～平安	掘立柱建物・溝・土坑	須恵器・土師器・弥生土器・鉄滓	

要約

調査地は、東側へ下る丘陵斜面が緩やかになる所に位置する。掘立柱建物や溝・土坑などが確認された。古墳時代以前は遺物が少量確認できるだけであるが、後期になると遺構の存在がうかがえる。中でも、瓦は牛頸窯跡群で生産される初期瓦で、生産された窯跡が近くにあるため、製品の集荷場である可能性と瓦葺建物が存在した可能性の２者が考えられる。中空硯は春日市において事例があるが、牛頸窯跡群の製品と考えられ、形態は鳥形に近いものである。奈良時代に入ると、主軸をやや東へふる建物があり、後半になると溝に囲まれて東西方向に主軸をとる掘立柱建物が出現する。溝の近くからは、赤色顔料のついた須恵器杯蓋が出土しており、何らかの公的施設と考えられる。また、周辺から鞴羽口や鉄滓が出土しており、鉄生産にかかわる遺構の存在が想定されるが、確認できなかった。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第16次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利632−1			33° 30′ 57″	130° 28′ 52″	2006.4.18 ～ 2006.8. 1	548㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第16次調査	集落跡	鎌倉～室町	土坑・ピット・溝	瓦質土器・土師質土器・陶磁器・石器・鉄器	

要約

削平のため、時期の明らかになる遺構が非常に少ないが、14～15世紀の遺物が出土する土坑・溝が確認される。隣接する調査区は、同時期の遺構は少なく、集落の縁辺部と考えられる。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどういせき 本堂遺跡 第17次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利621番地他			33° 30′ 54″	130° 28′ 52″	2006.4.18 ～ 2006.8. 1	1,100㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本堂遺跡 第17次調査	集落跡	弥生～奈良・鎌倉	掘立柱建物・溝・井戸・土坑	須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・陶磁器・弥生土器・石器	

要約

調査地は12次調査地の東隣に位置する。６世紀代は遺構に伴わないが、ⅢＡ期にあたる須恵器が出土している。北側に隣接する14次調査地では、牛頸窯跡群最古と考えられる灰原が確認されており、該期の遺構が存在した可能性がある。６世紀末になると、土坑が確認され、東側へむかう落ち込みからは須恵質の権状製品が出土しており、７世紀中頃のものと考えられる。また、７世紀前半代の瓦も出土しており、製品の集荷場である可能性と建物の存在の可能性が考えられる。８世紀になると、主軸をやや東側へふる建物が前半～中頃の間に確認され、後半になると主軸方向を東西方向にとる掘立柱建物が出現する。建物は双堂形式と考えられ、１・12次調査出土遺物から、村落内寺院の仏堂である可能性が高い。仏堂は８世紀末には廃絶するようであり、短期間の存続が考えられる。その後９世紀に入ると遺構・遺物はまったくなくなり、11～12世紀になると井戸・溝が確認され、井戸からは祭祀にともなう土器の一括投棄が確認される。土器は土師器を中心とするが、東海系の山茶碗を含み、特殊な様相がうかがえる。

大野城市文化財調査報告書　第80集

牛頸本堂遺跡群Ⅵ

平成20年 8月29日

発 行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2－2－1

印 刷　井上紙工印刷株式会社
福岡県朝倉市持丸625－1